

## VI章 上幌内4遺跡 V層の遺構・包含層の出土遺物

### 1. 概要

本遺跡のV層の遺構・包含層出土の遺物をまとめて記載する。包含層から土器5,001点、石器等10,169点、合計15,170点出土した。

#### 包含層出土点数表(表33~35)

Ⅲ層出土の土器は、Ⅳ層が薄い地点でV層と誤認したものである。V層出土はⅣ群が約74%を占め、次いでⅠ群約14%、Ⅲ群約8%、Ⅱ群約1%である。各群で残存状態は良好が多く、ついで小破片が多いが、Ⅳ群は小破片と剥離が多い。剥片石器は約94%がフレイクで黒曜石が多い。器種を多い順に記すと、石鏃70点、U・Rフレイク69点、スクレイパー42点、石槍・ナイフ38点、石核22点、つまみ付きナイフ15点、原石12点、石錐4点である。礫石器・石製品・レキは約88%がレキで、多い順に台石・石皿177点、たたき石146点、砥石131点、すり石86点、磨製石斧71点、北海道式石冠13点、石製品は10点である。これらの出土層位はⅢ層が235点、V層が4,862点で、後者が約93%を占める。

#### 出土分布図(図49~55)

Ⅰ群土器はN-22区とR-23区、Ⅱ群土器はN-22区、Ⅲ群土器はL-21区に多い。Ⅳ群土器が多いグリッドは、J-24区、N-21区、O-20区、R-23・24・26区、S-24区で調査区北東と南西側部分に多く、調査区中央付近が少ない。石鏃はO-22区が最多で、その北側のグリッドからも出土している。石槍・ナイフはO-21・22区、P-23・24区が多く、石錐はL-23区、P・R-26区から出土している。つまみ付きナイフは散在的で調査区南西側にやや多い。スクレイパーは全体から出土し、L-24区、M-21区、R-25区に多い。U・RフレイクはL-23区に多い。石核は調査区東側、北側、南西側から出土している。原石は散在的な出土である。フレイクはL-24区、M-23区に特に多い。磨製石斧はL・M-22・23区に多く、たたき石は調査区全体から均一的な出土である。すり石は斜面の北側から多く出土している。北海道式石冠は散在的である。砥石は調査区北東側に多く、台石・石皿は北側に多い。

### 2. 土器

#### (1) 復原土器

##### 遺構出土復原土器(図56~58 表36~50 図版17~19)

##### H-1

1はN-25区出土のものに、H-1覆土出土の破片が1点接合した。直立気味の口縁部からゆるやかにすぼまる器形で、3条の貼付帯とRL原体による施文がみられ、Ⅳ群a類の余市式である。

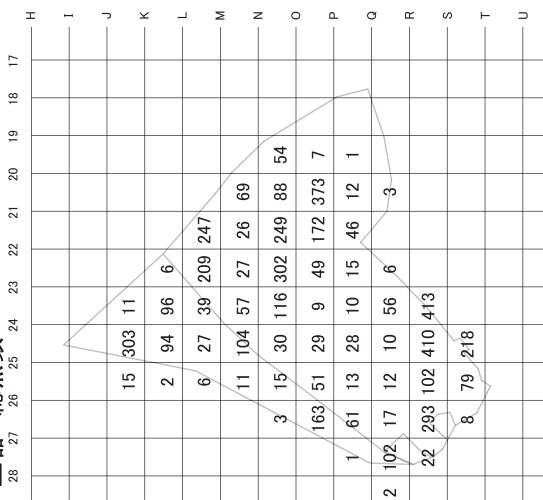
##### H-1・PS-5

2はH-1床面直上出土の土器とPS-5出土の破片が接合した。両遺構の直線距離は15mである。若干膨らむ胴部中位から下位へとすぼまり、底部付近は直立気味である。貼付帯が2条あり、撚りの異なる原体による羽状縄文が施される。Ⅳ群a類の余市式である。

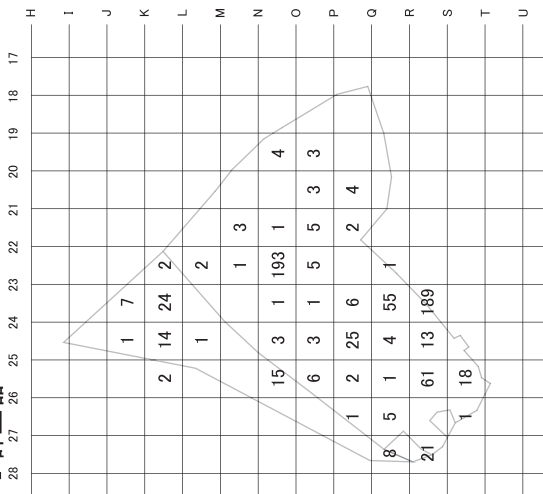
##### TP-21

3はわずかに開口する口縁部から胴部中位を経て、底部へと直線的にすぼまる器形を呈する。口唇部直下に貼付帯があり、その下位に無文部分がある。幅広い貼付帯が4条みられ、別原体による羽状

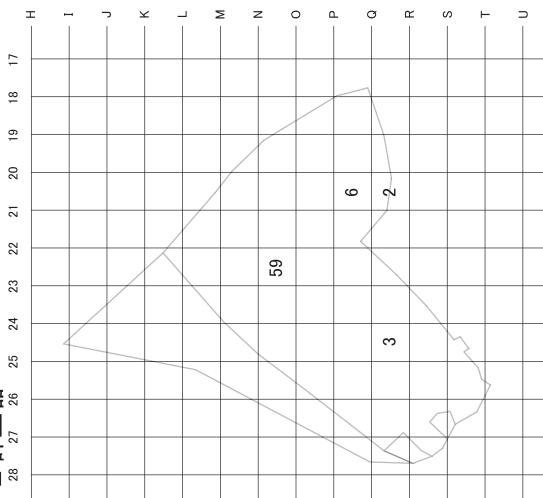
土器 総点数



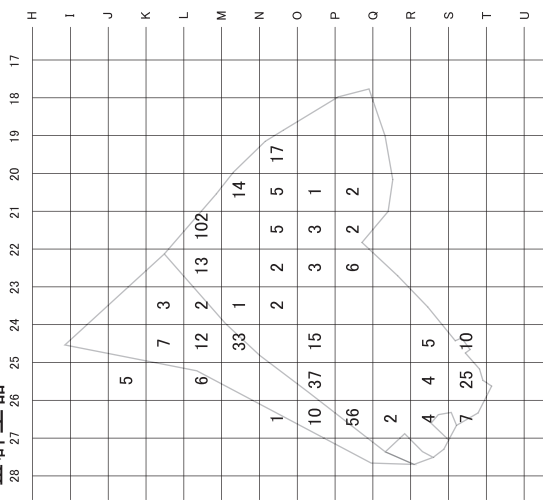
I 群土器



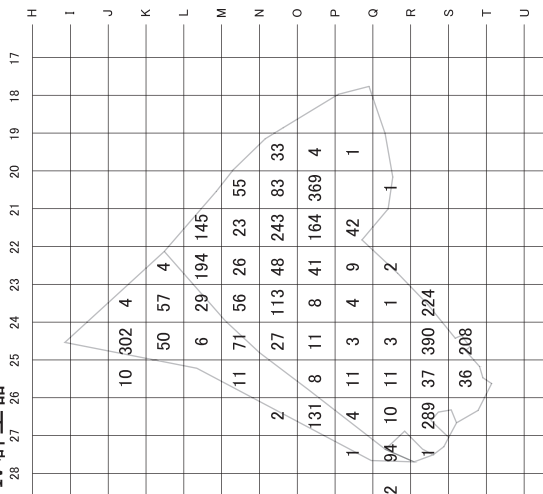
II 群土器



III 群土器



IV 群土器



土器 群不明

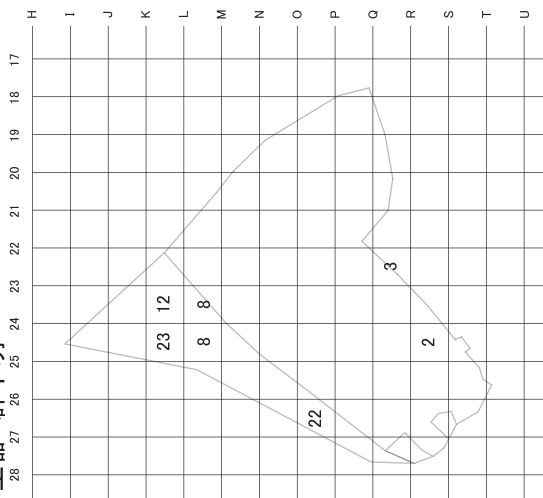


図49 上幌内4遺跡 遺物出土分布図(1)

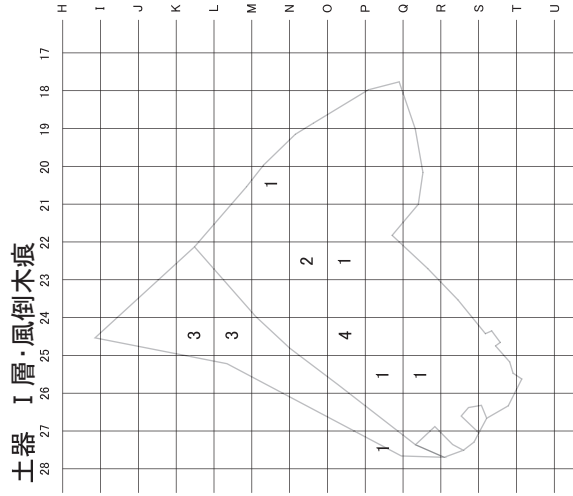
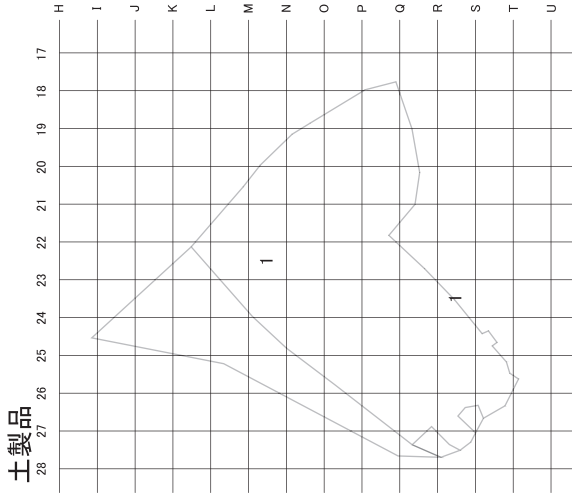
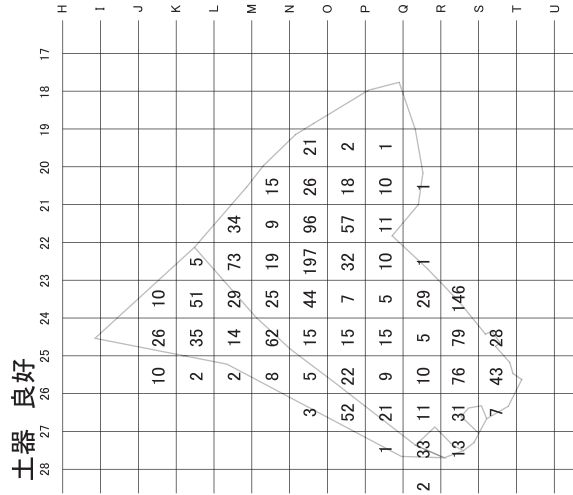
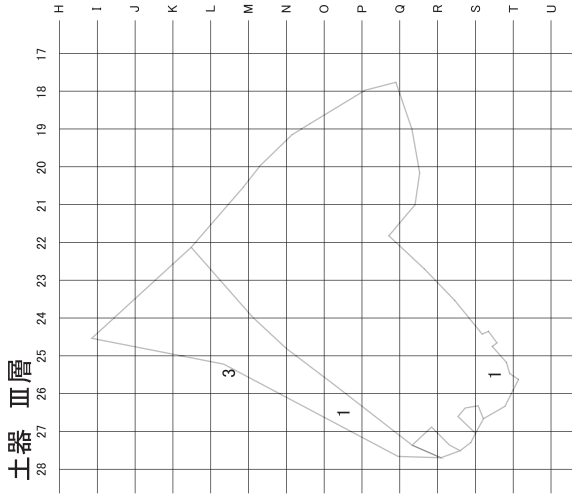
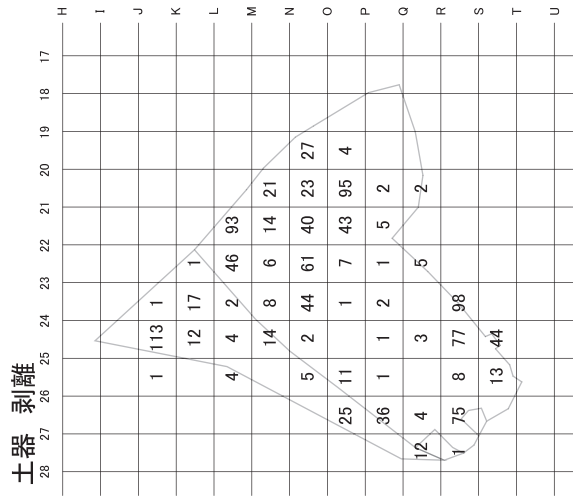
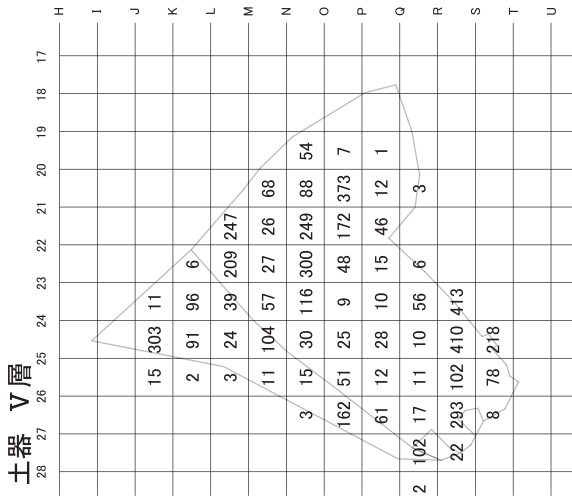


図50 上幌内4遺跡 遺物出土分布図(2)

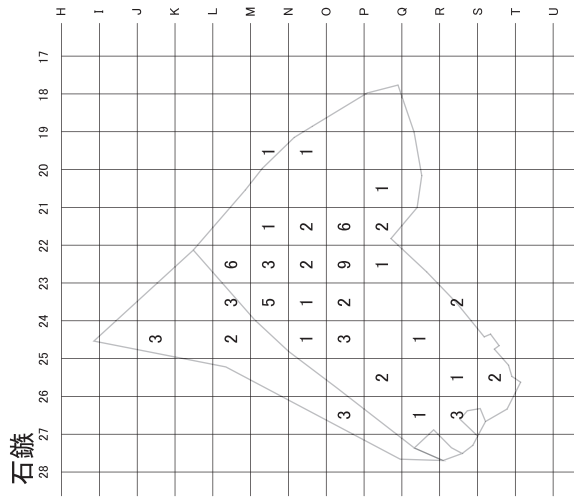
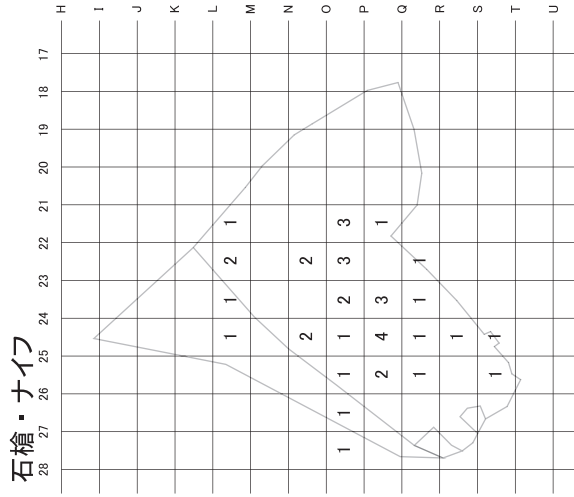
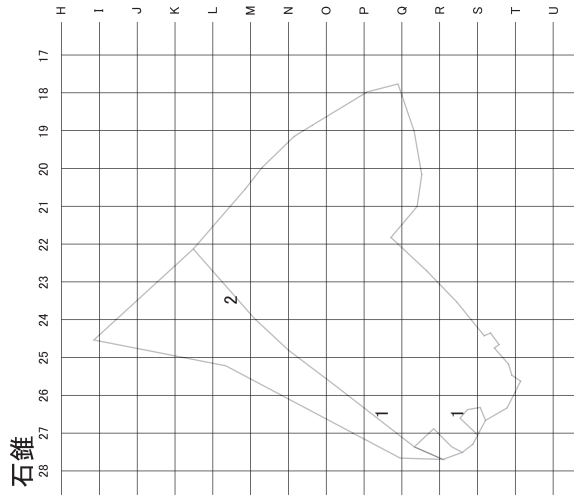
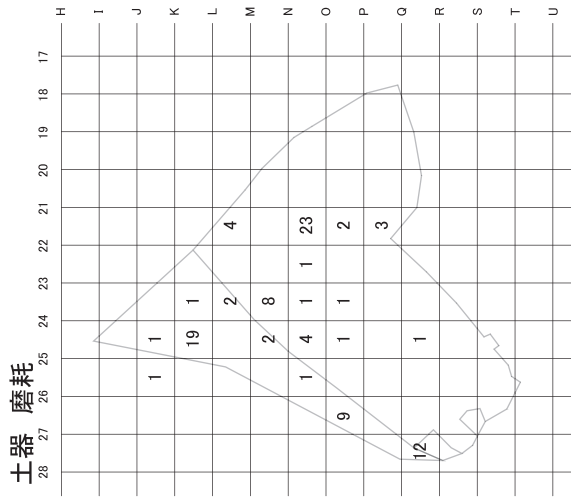
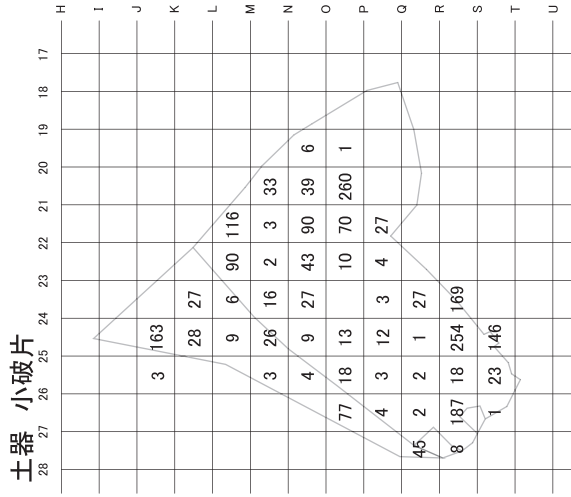
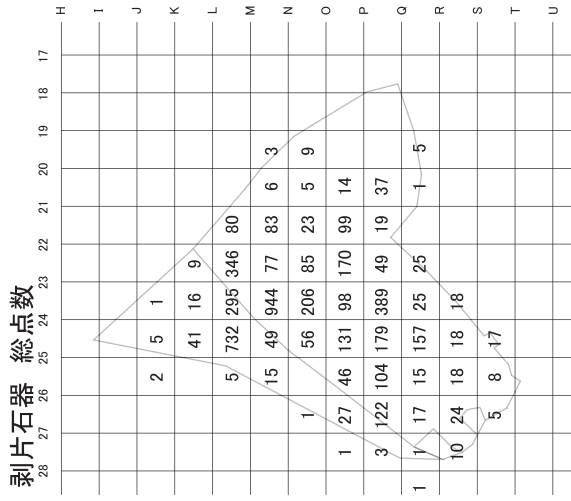


図51 上幌内4遺跡 遺物出土分布図(3)

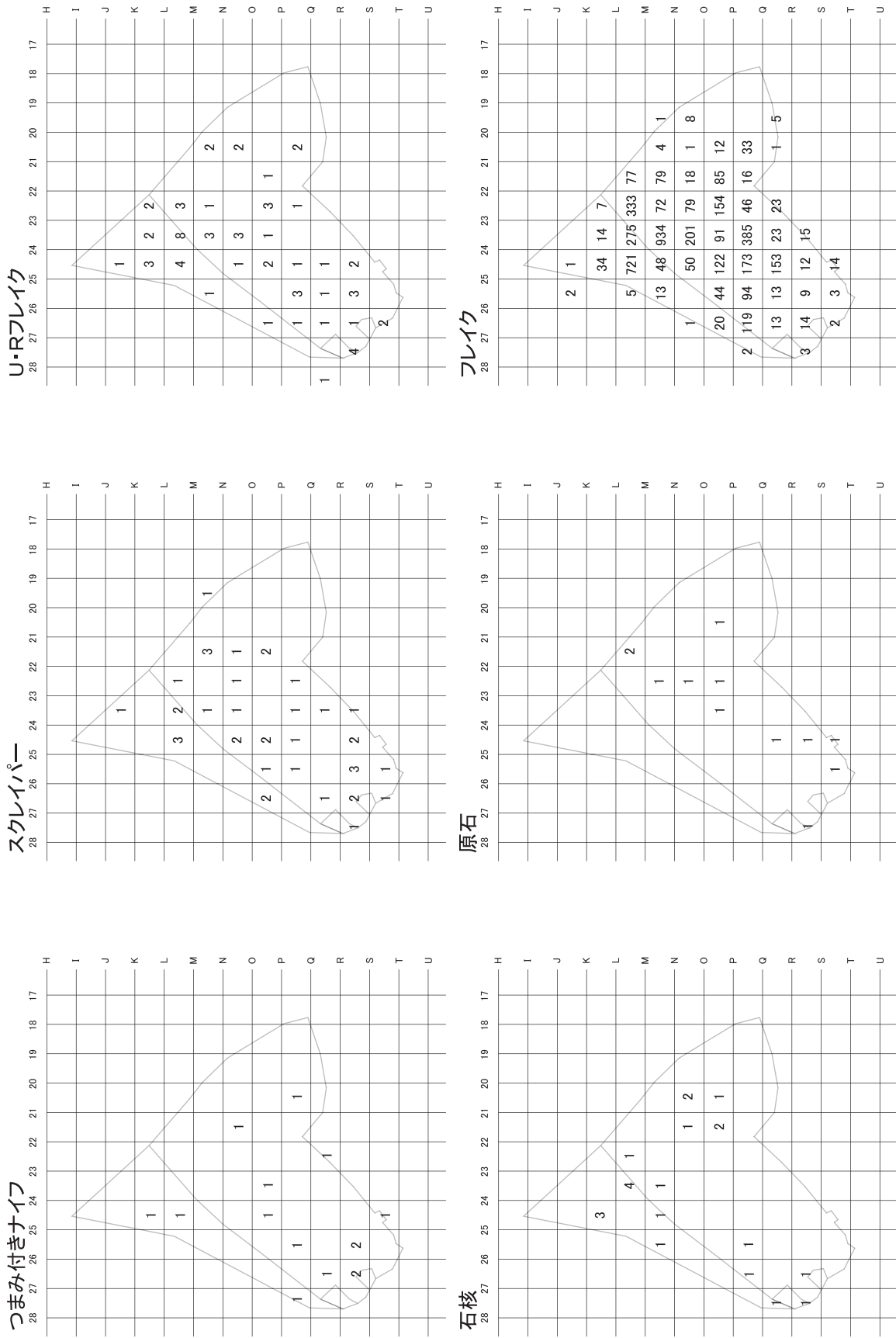


図52 上幌内4遺跡 遺物出土分布図(4)

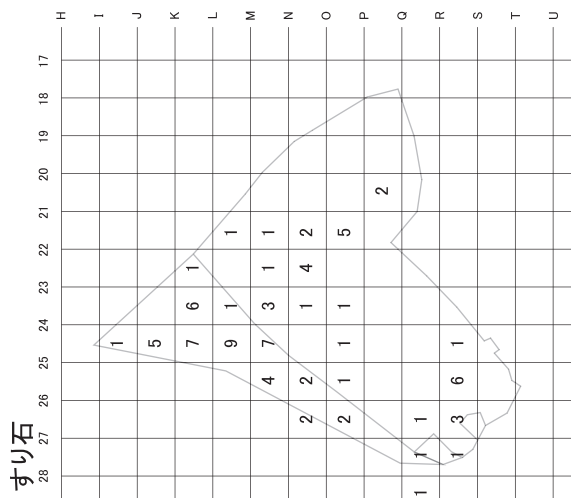
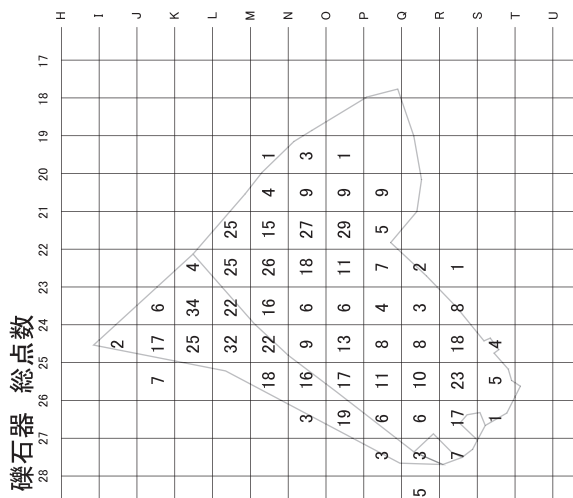
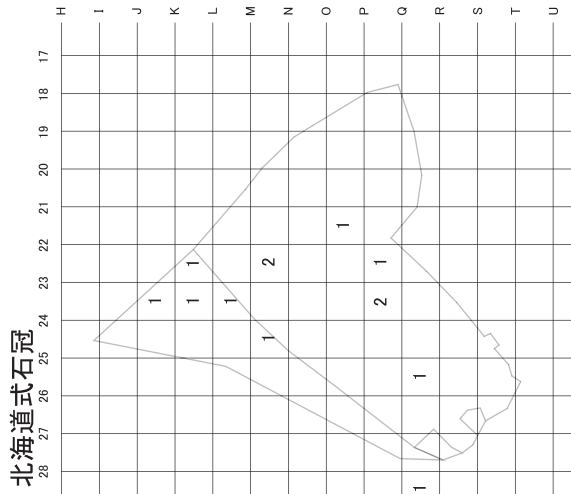
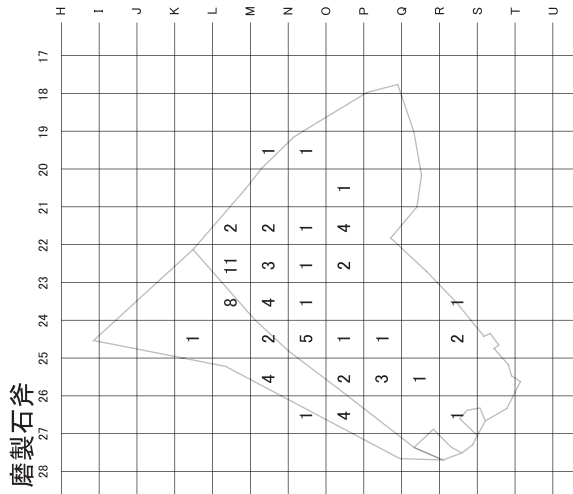
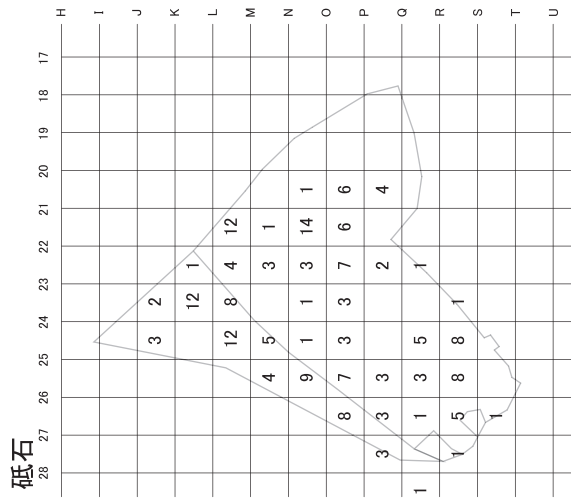
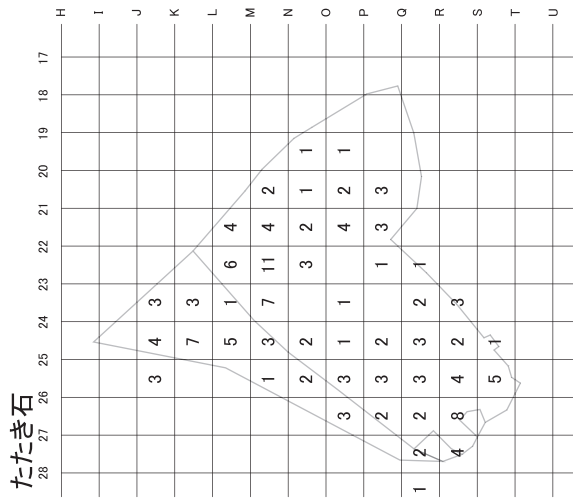


図53 上幌内4遺跡 遺物出土分布図(5)

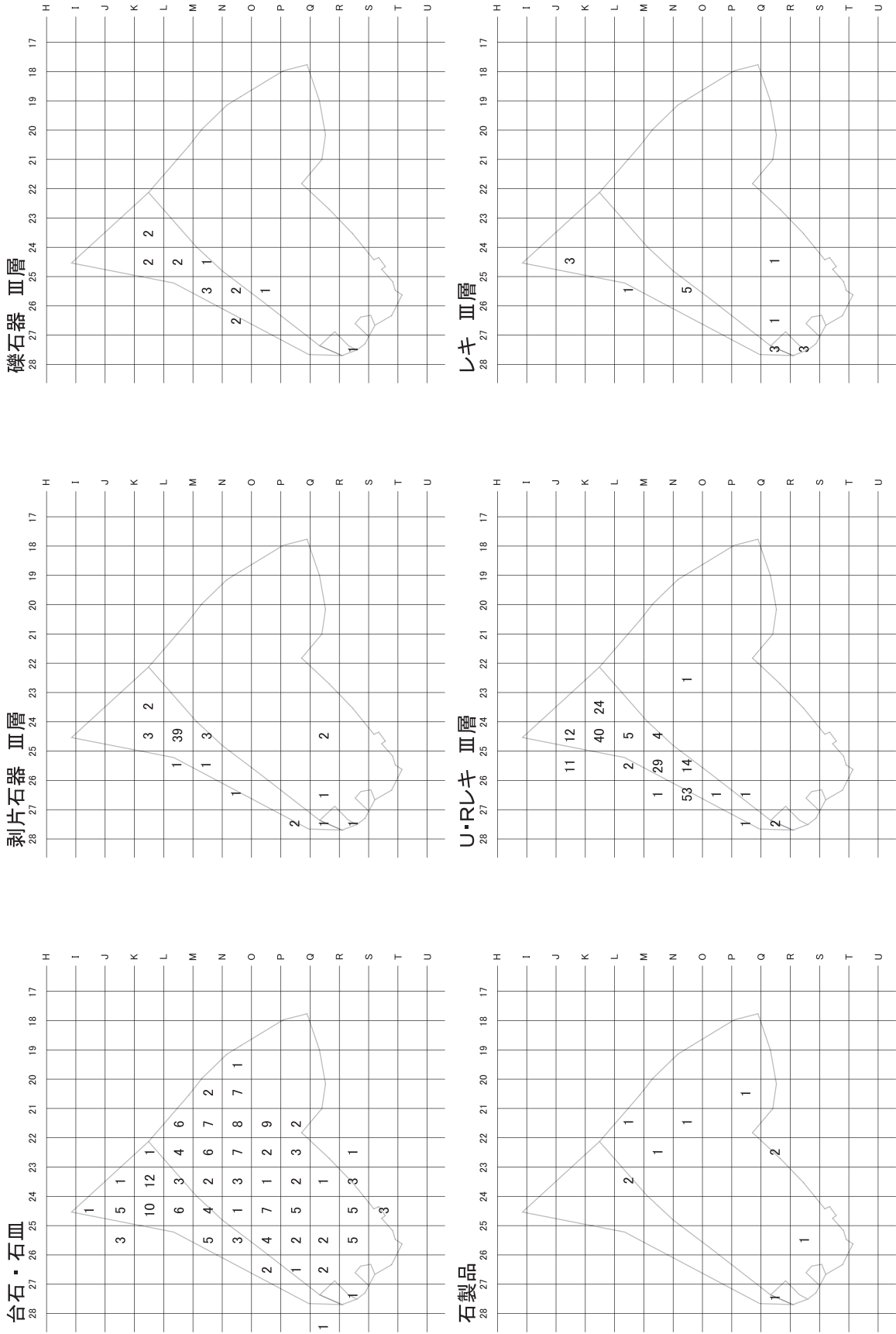


図54 上幌内4遺跡 遺物出土分布図(6)

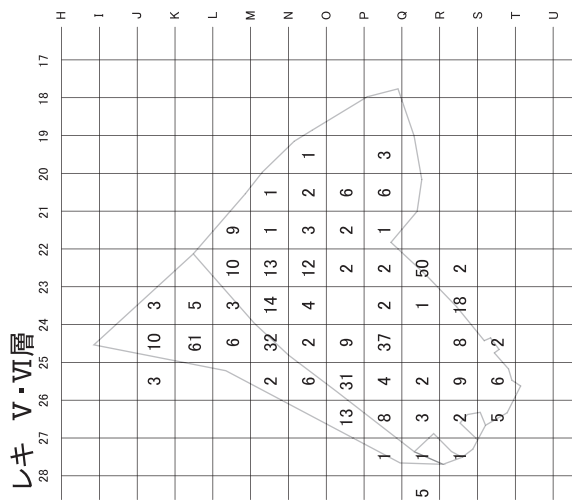
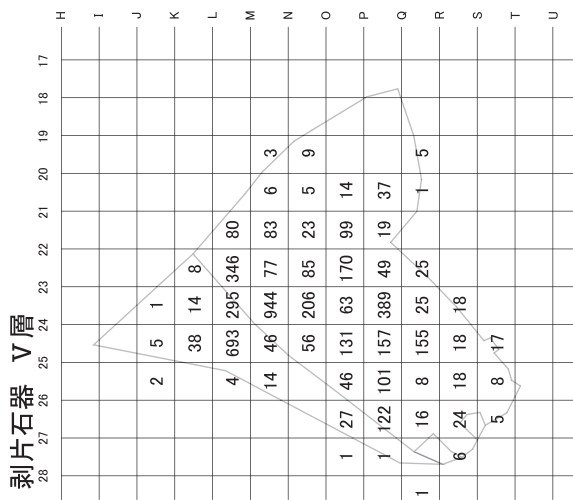
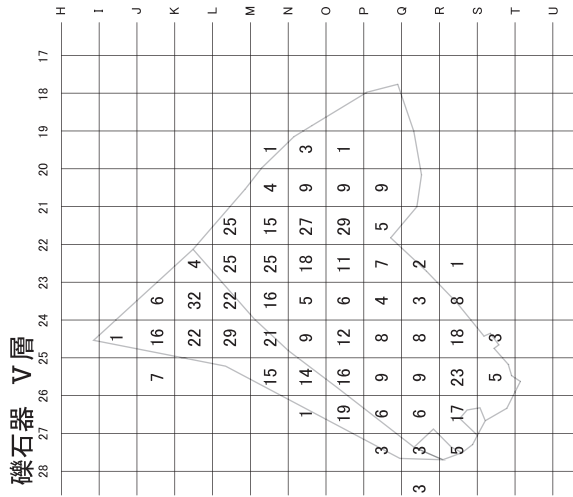
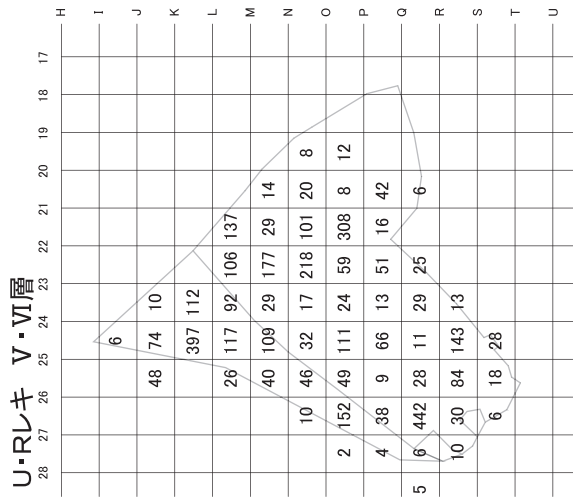


図55 上幌内4遺跡 遺物出土分布図(7)



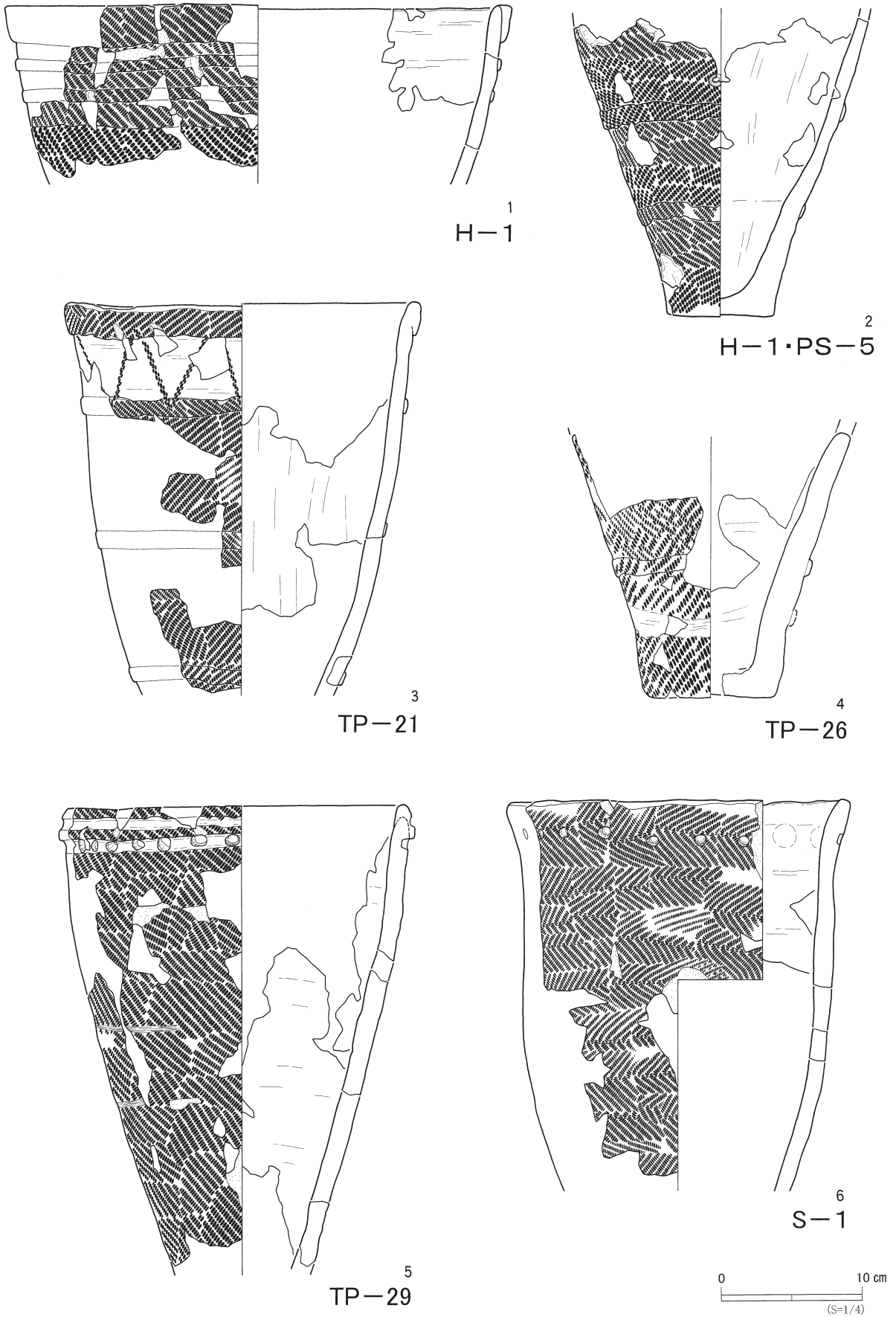


図56 上幌内4遺跡 遺構出土の復原土器(1)

縄文が施される。無文地にはRL縄線文、原体端部の回転圧痕と条が観察され、縄文を施した後、ナデ調整されたと判断される。RL縄線文は斜めに施され、端部は貼付上にみられる。IV群a類の余市式である。

#### TP-26

4は幅広い胴部から下位へとすぼまり、底部は直立気味である。器形の変化点の外面は粘土のつなぎ目が観察され、ヨコナデである。地文は撚りの異なる原体で施され、重複する部分がみられる。IV群a類の余市式である。

#### TP-29

5はL-22区出土のものに、TP-29出土の破片が1点接合した。口縁部から胴部上位まで直立気味で、そこから直線的にすぼまる器形を呈する。RL縄文を施した後、口唇部直下の器面には、ナデによる幅広い沈線文状の文様(凹線文)が施され、円形刺突文が横環する。凹線文の間は貼付帯様に見える。胎土には石英を多く含む。IV群a類のタプコプ式と考えられる。

#### S-1

6はわずかに開口する口縁部から頸部へと曲線的にすぼまり、さらに胴部上位が膨らみ、底部へとすぼまる器形である。LR・RL結束第1種羽状縄文と円形刺突文が施され、III群b類の北筒式と考えられる。

#### PS-1 (カラー図版3)

7はわずかに広がる口縁部から頸部ですぼまり、若干胴部の上位が膨らみ、その中位から底部へ直線的にすぼまる器形である。突起部が4か所の波状口縁である。突起部の先端は「M」字状に二股で、粘土の貼付により肥厚し、この部分に撚紐刻みが施される。器形の変化点である頸部には貼付帯が横環する。これより上位が口縁部文様帯で、突起下は粘土が菱形様に貼り付けられ、撚紐刻みや、円形や曲線的な縄線文が複数施される。これ以外では、3本1組の縄線文が水平、鋸歯状にみられる。撚紐刻みや縄線文の原体は、場所により撚りの異なるものが観察される。頸部の貼付帯より下位は結束第1種羽状縄文が整然と施され、内面は平滑でミガキ調整と判断される。III群a類の円筒土器上層a式と判断される。

#### PS-2 (カラー図版3)

8は注口土器である。外反する口縁は「く」の字状にくびれ、上部分は直線的、下は曲線的である。胴部の形状も曲線的で、上位に最大幅となるふくらみがあり、ゆるやかに底部へ至る。外面は全体に平滑で、ミガキ調整と考えられる。胴部には曲線的な沈線文で描かれた菱形がみられ、文様内の器面は一段低い。この沈線文の上面観は四つ葉にみえ、胴部下位には水平に横環する沈線文が施される。曲線的な注口部分は約55°の角度で立ち上がる。先端部はミガキにより明瞭な段差が作出され、付け根の下部には横長の楕円形の粘土が貼り付けられる。内面は丹念なナデ調整で、IV群b類の手稲式と判断される。

#### PS-3A

9はわずかに開く直線的な口縁部から胴部中位へすぼまり、そこから急角度で底部へ至る器形である。3本1組の直線的な条が水平に横環する部分が4か所みられ、縄線文と推測される。その間は撚糸文で、上半はRを用いた横走～斜行、下半は羽状である。内面はヨコナデと判断される。I群b類の東釧路IV式である。

#### PS-3B

10は直立する口縁部から緩やかに平底の底部へとすぼまる器形を呈する。4か所の突起を有し、緩

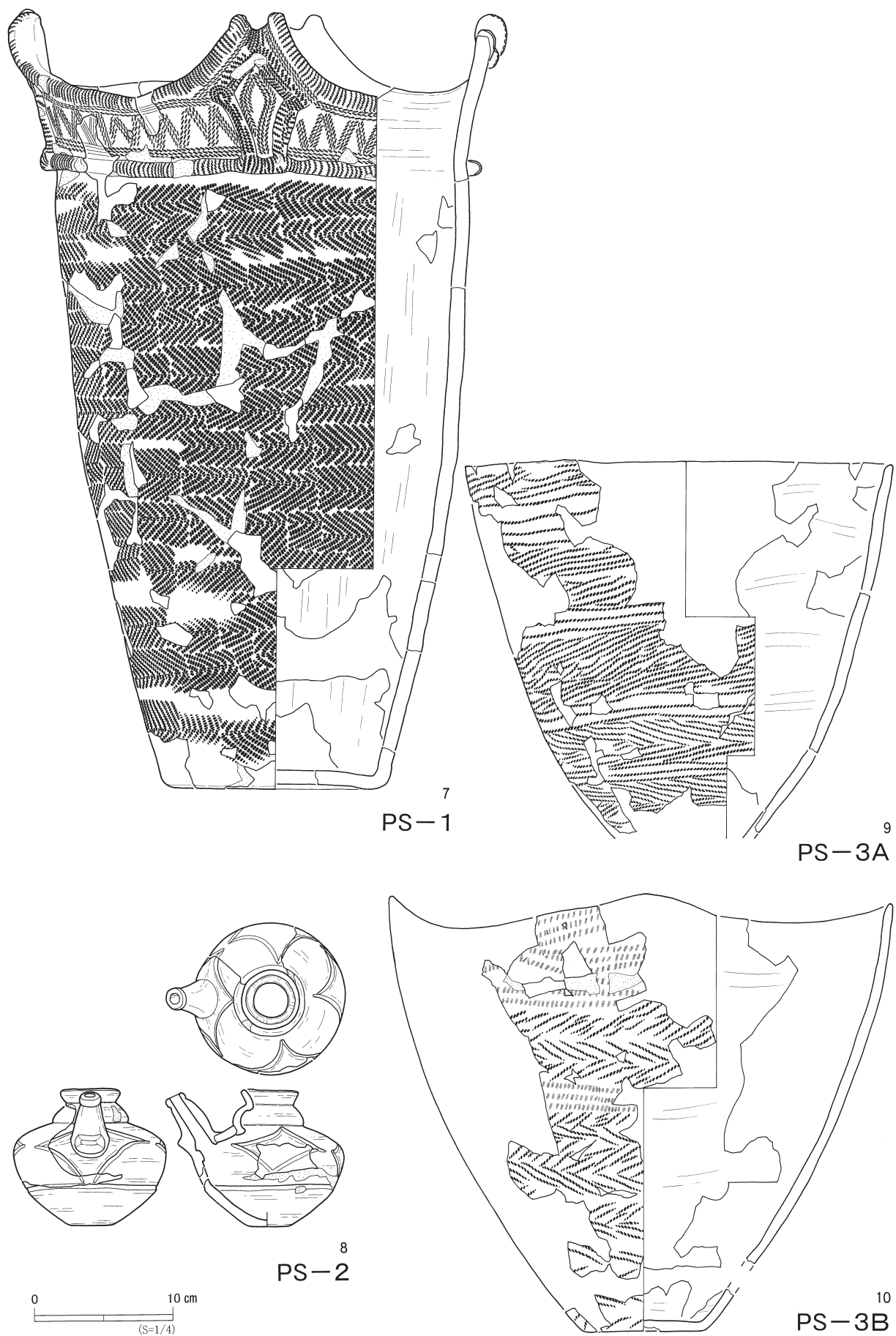


図57 上幌内4遺跡 遺構出土の復原土器(2)

やかな波状である。口縁部と胴部上位には右巻きの絡条体を用いた圧痕文が横位にみられ、その間は羽状撚糸文が施される。内面はヨコナデで、胴部下位は工具を用いた調整痕が観察される。I群b類の東釧路IV式である。

#### PS-5

11は外反する口縁部がすぼまり、さらに胴部上位が若干曲線的に膨らみ、下位へ至る器形である。4か所の波状突起を有し、口唇部直下の器面は剥落痕が観察され、粘土が貼り付けられていたと推定される。口唇部に半截竹管状工具による施文が観察され、地文はLR縄文である。III群b類の柏木川式と考えられる。

#### PS-5A

12は口縁部から胴部中位まで直立気味で、そこからすぼまり、底部付近はやや直立する器形である。別原体による羽状縄文を施し、原体端部の回転圧痕が残る。口縁部には貼付帯が3条みられ、1条目の下位の器面は条が不明瞭で、無文帯と考えられる。縦位方向の貼付と考えられる剥落痕がある。IV群a類の余市式である。

#### PS-5B

13は若干開く胴部上位から直線的に下位へすぼまる器形である。貼付帯は4条みられ、別原体による羽状縄文が施される。IV群a類の余市式である。

#### PS-6

14は口縁部から胴部上位まで直立気味で、そこから底部へと直線的にすぼまる器形である。緩やかな波状の突起を4か所所有し、Lの撚紐を左右にそれぞれ巻いた絡条体による羽状撚糸文が施される。I群b類の東釧路IV式である。

#### PS-7

15は直立する口縁部から胴部中位に続き、そこから底部へとすぼまる器形である。上面観は楕円形を呈し、底部は残存していないが尖底と考えられる。地文はLR斜行縄文で、胎土には繊維を多く含み、胴部下半から底部は赤色化し、内外の器面は剥落が著しい。II群a類の静内中野式である。

#### 包含層出土復原土器(図59 表51~53 図版19)

16・17は波状口縁で平底の鉢形土器である。16は大小の突起が合計4か所あり、地文はLR・RLの羽状縄文である。17はRの撚紐を用いた別の絡条体と考えられる不整な撚糸文が施される。これらはI群b類の東釧路IV式と考えられる。

18は直立する口縁部からそのまま底部へ至る筒形である。地文はLR斜行縄文で、口唇部、底外面、口縁部の内面にも施される。口唇部断面は切り出し形で、胎土に繊維を多く含み、外面は剥落が著しい。II群b類の植苗式と考えられる。

#### (2) 破片土器

##### 遺構出土(図60 表54 図版20)

#### TP出土

1はTP-8出土でRL縄文が施される。2はTP-13出土で磨耗する。3はTP-16出土で、地文はRL、貼付帯上はLR縄文が施される。4・5はTP-20出土である。4はL左巻きの撚糸文が施される。5は胴部下位から底部で無文である。6はTP-21出土でLR縄文である。7はTP-22出土で、綾絡文が観察される。8はTP-24出土で、貼付帯が剥落し、地文はRLである。9はTP-25出土、10はTP-26出土、11はTP-27出土で、地文はLRである。12・13はTP-30出土で、12は絡条体による施文である。13は底部で胎土に石英が目立つ。1~3・6~9はIV群a類、4・5・

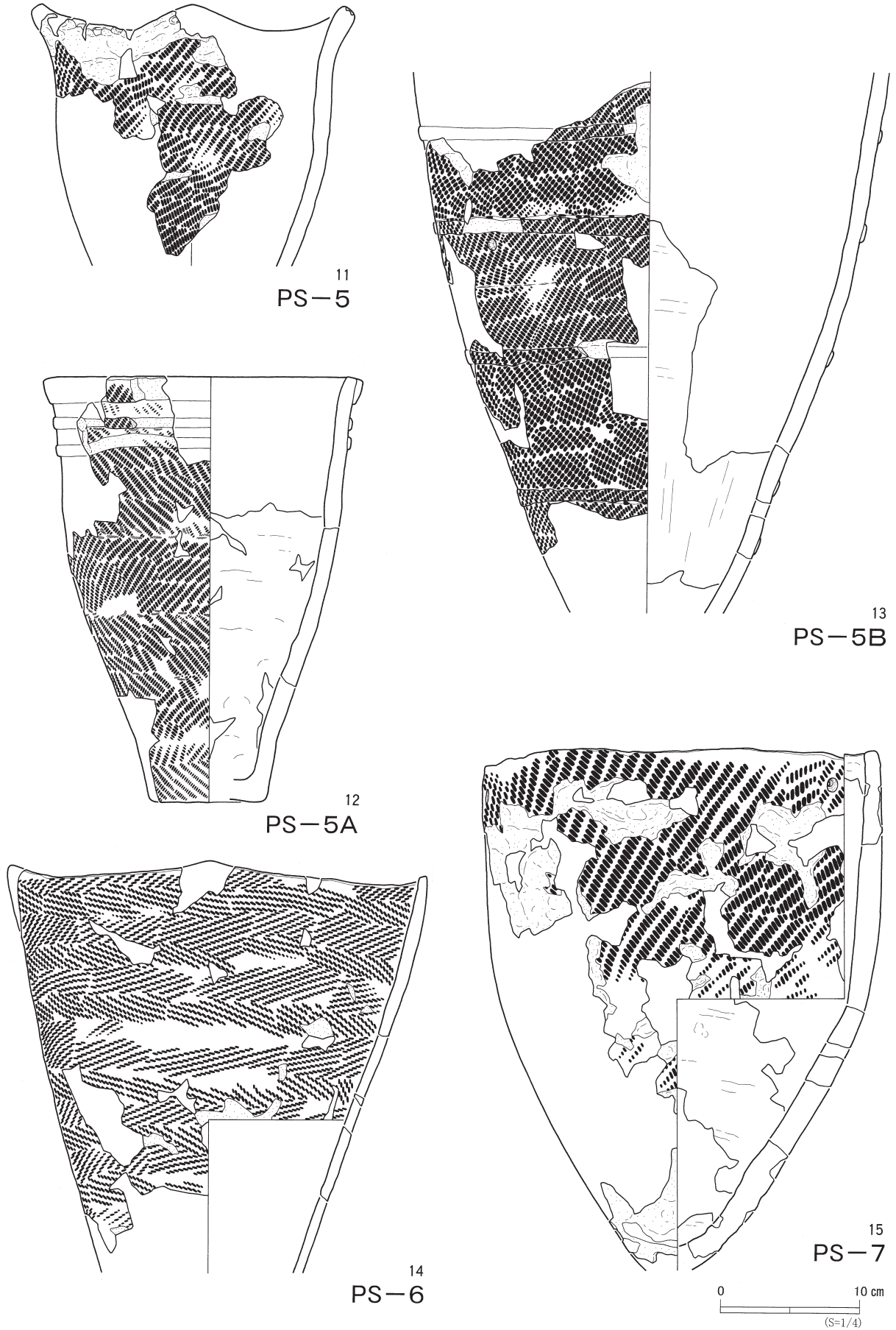


図58 上幌内4遺跡 遺構出土の復原土器(3)

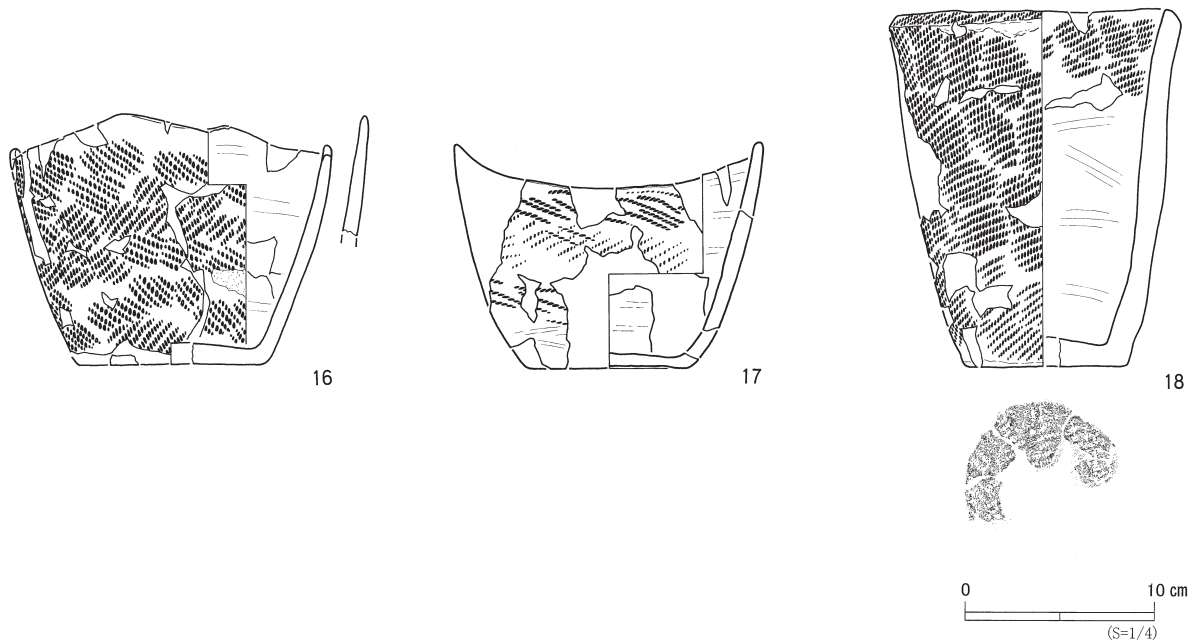


図59 上幌内4遺跡 包含層出土の復原土器

12はI群b類、10・11はIII群b類、13はIII群あるいはIV群と考えられる。

#### P S 出土

14～17はP S - 4 出土で、14は撚りと巻き付け方向が同じ原体による羽状撚糸文が施される。15・16は同一個体で、15は矢羽根状撚糸文、16は羽状撚糸文がみられる。17は胴部下位から底部である。18～20はP S - 6 出土で、18は口縁部で不整な羽状撚糸文が施される。19・20は同一個体で、横走する条が観察される。14～20はI群b類の東釧路IV式である。

#### 包含層出土(図61～63 表54 図版20・21)

##### I 群

21は口縁部に微隆起線文と絡条体圧痕文が施され、胴部上位は自縄自巻のLR縄文、下位は羽状撚糸文である。22は横走する撚糸文と斜めの条が観察される。23の羽状撚糸文はL左巻きとR右巻きである。24の撚糸文は整然としている。25・26は底部で外面は無文である。21～26はI群b類の東釧路IV式である。

##### II 群

27は条らしきものが観察される。28・29は胎土に繊維を含み、撚りの異なる原体を用いた縄線文と地文が施され、29の内面にも施文される。30・31は異なる原体による縄線文が施され、地文は30が羽状縄文、31はLRである。32は外面の施文がLR・RL原体で、口唇部に縄線文が施される。33は口唇部断面が尖り気味で、羽状縄文がみられる。34は磨耗するが、羽状の条が観察される。35は縦走するLR縄文が施され、内面はミガキである。27はIII群であるかもしれない。28～32は大麻V式と考えられ、35は円筒土器下層式の可能性がある。

##### III 群

36は先端が二又の突起部で、円形と曲線的な粘土が貼り付けられ、頸部には水平横環する貼付帯が施される。貼付上や口唇部には撚紐刻みや縄線文がみられる。口縁部は「C」字形状の刺突文と4本

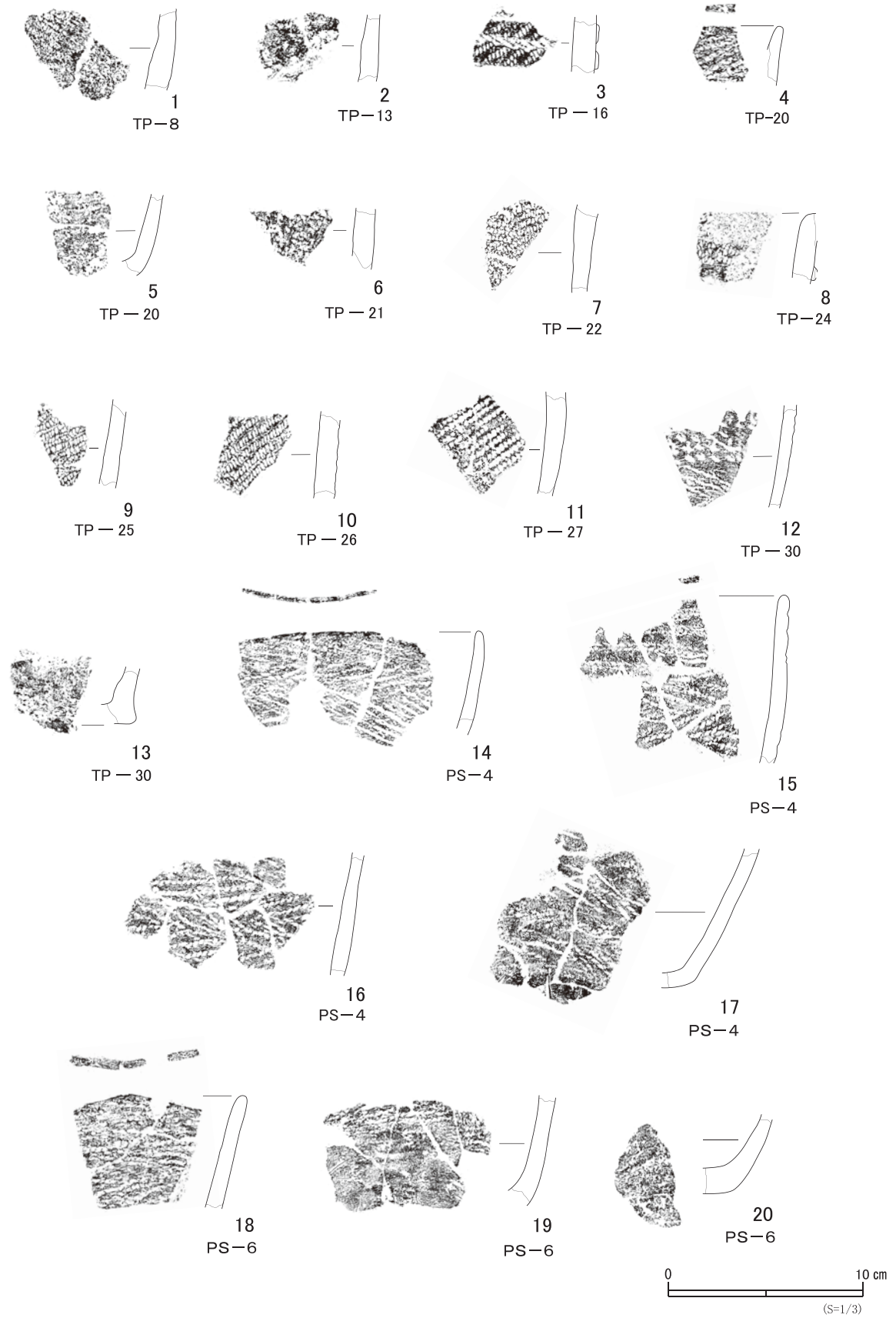


図60 上幌内4遺跡 遺構出土の破片土器

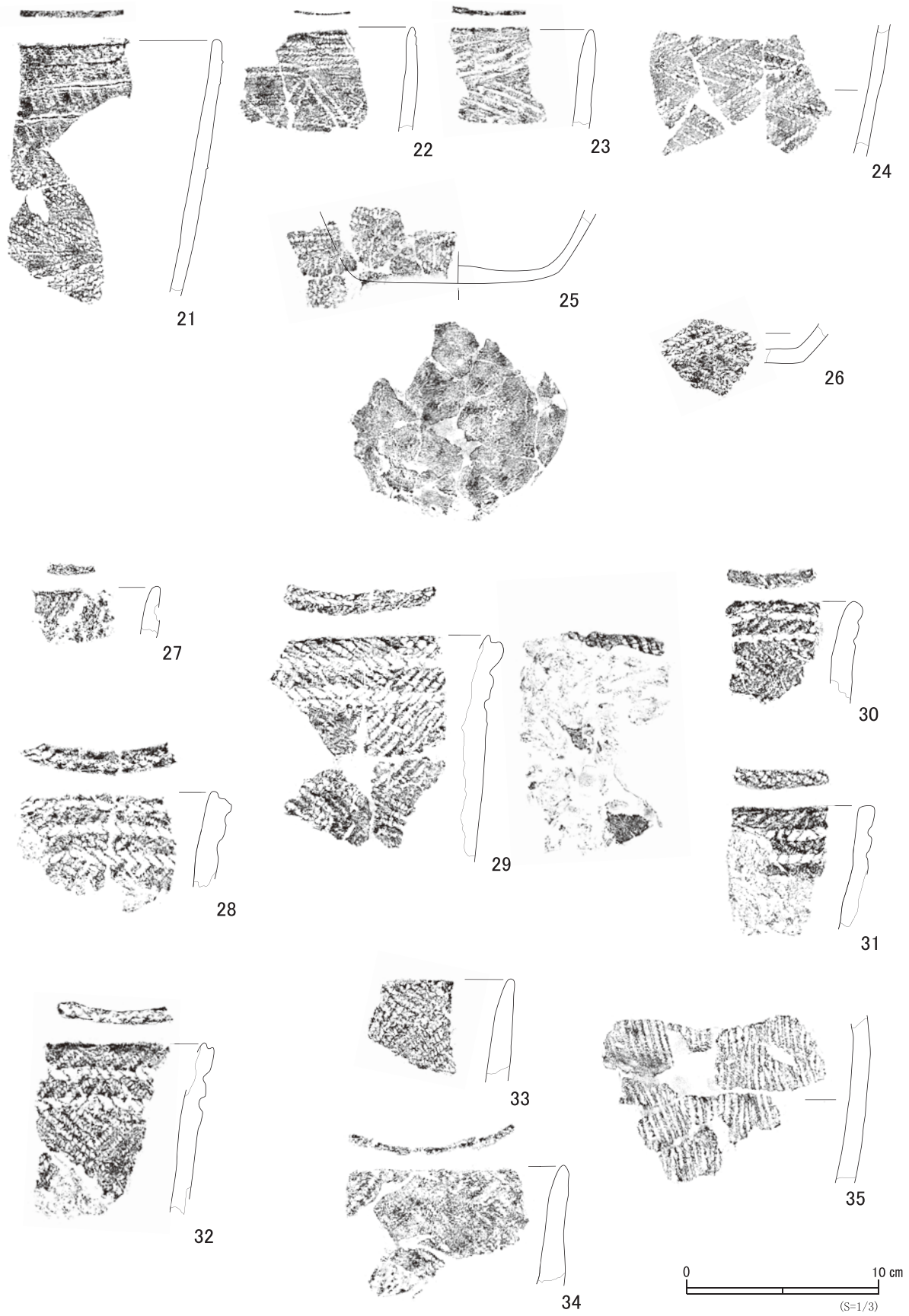


図61 上幌内4遺跡 包含層出土の破片土器(1)



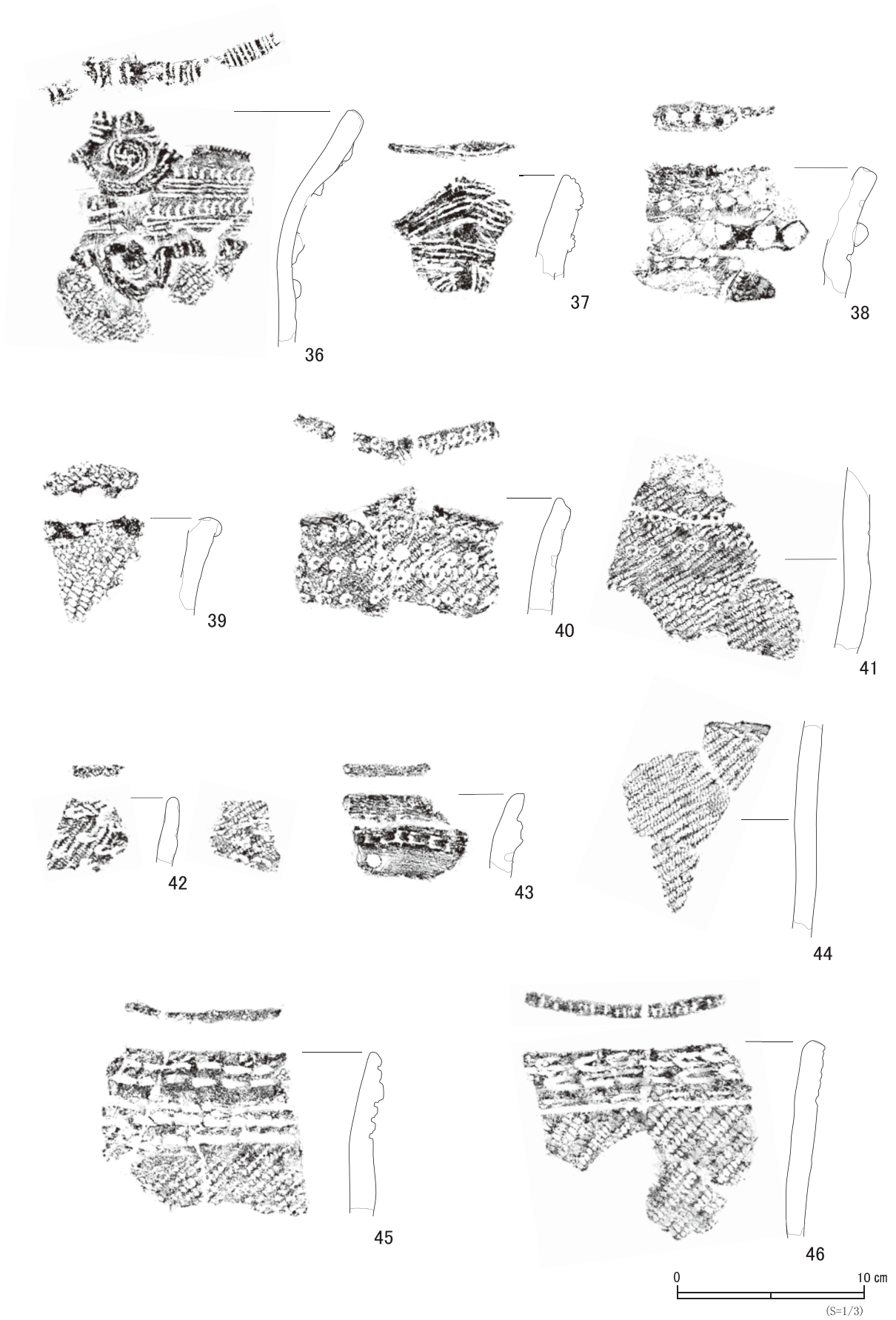


図62 上幌内4遺跡 包含層出土の破片土器(2)

並びの縄線文で、地文は結束第1種斜行縄文である。内面は丹念に調整され平滑である。37は突起部で貼付と半截竹管状工具による平行沈線文が施される。38は口唇部と器面に刺突文が施され、貼付上は指頭による施文である。39は口唇部直下の器面に貼付があり、刺突文が施される。40・41は同一個体と考えられ、地文はLR結束第1種斜行縄文で、円形を呈する刺突文が施される。この刺突文の施文工具は半截竹管状工具で、円形を呈する様に組み合わせて施したと観察される。42は内外面にLR縄文と刺突文が施され、内面には綾絡文らしきものがみられる。43・44は同一個体と考えられ、口縁部はナデ調整の無文地に貼付帯があり、その上に刺突文、器面には円形刺突文が施される。44は無文地と縄文地の境にLR縄線文がみられる。45は口唇部直下の器面に粘土が貼り付けられ、刺突文が施される。46は半截竹管状工具による施文で、最下段の押引文は深く施され、沈線文のようである。36はa類の円筒土器上層c式、37はb類の萩ヶ岡式、38～42・45・46は柏木川式、43・44は北筒式である。

#### IV群

47は器面にRL原体による施文の後、貼付帯が施される。48の地文はLRで、貼付帯上は撚りの異なる原体で施文される。49は器面が羽状縄文で、貼付帯上はLRである。50はLR縄文と縄線文が施される。51は磨耗のため地文が不明で、RL縄線文が2条観察される。52はLR縄文で、内外面が黒色化する。53～55は底部でいずれも直立気味に胴部へと立ち上がる。54はLR、55はRL縄文が施される。47～49は余市式、50・51はタップコプ式である。

### 3. 石器等

#### (1) 遺構出土の石器(図64～70 表55 図版22～25)

##### 剥片石器

##### H出土

1・2はH-1出土である。1は石槍・ナイフで基部は破損し、背面中央付近の剥離の稜が一部磨滅する。2は両面加工の大型のつまみ付きナイフで、つまみ部付近には背腹両面に原礫面が残る。

##### TP出土

3はTP-4出土の石鏃で先端部を破損し、形状は柳葉形と考えられる。4・5・6はTP-16出土である。4は左右非対称の石鏃である。5は両面加工のつまみ付きナイフ、つまみ部上端は折れ面で、右側縁に急角度の刃部を有する。6はスクレイパーで、背面を主として二次加工される。両側縁はやや鋸歯状で、下端部には急角度の刃部がある。7・8はTP-25出土である。7はつまみ付きナイフで両面加工である。右側縁の刃部は急角度で、下端部の左側縁には槌状剥離がみられる。8はスクレイパーで、縦長剥片の両側縁と下端部に刃部がある。

##### FC出土

9・10はFC-1出土である。9は両面加工のスクレイパーで上部を破損し、10は石核である。背面には上下端部からの縦長の剥離がみられ、原礫面が残る。腹面は右側縁からの剥離がある。

##### 礫石器

##### H出土

11～17はH-1出土で、13～15・17は黒色化する。11は磨製石斧で刃部を破損する。下端の割れ面や両側面にたたき痕があり、転用品と考える。12・14はすり石である。12は片岩製で表裏両面に平滑なすり面がある。14は床面直上出土で、表裏両面と下端部にすり痕を有する。下端部は剥離調整後に使用されている。13はたたき石で覆土B層と床面直上出土のものが接合した。割れ口付近の側縁は完全に一致しないので、割れた後も個々で使用された可能性がある。15・16は砥石である。15は床面出

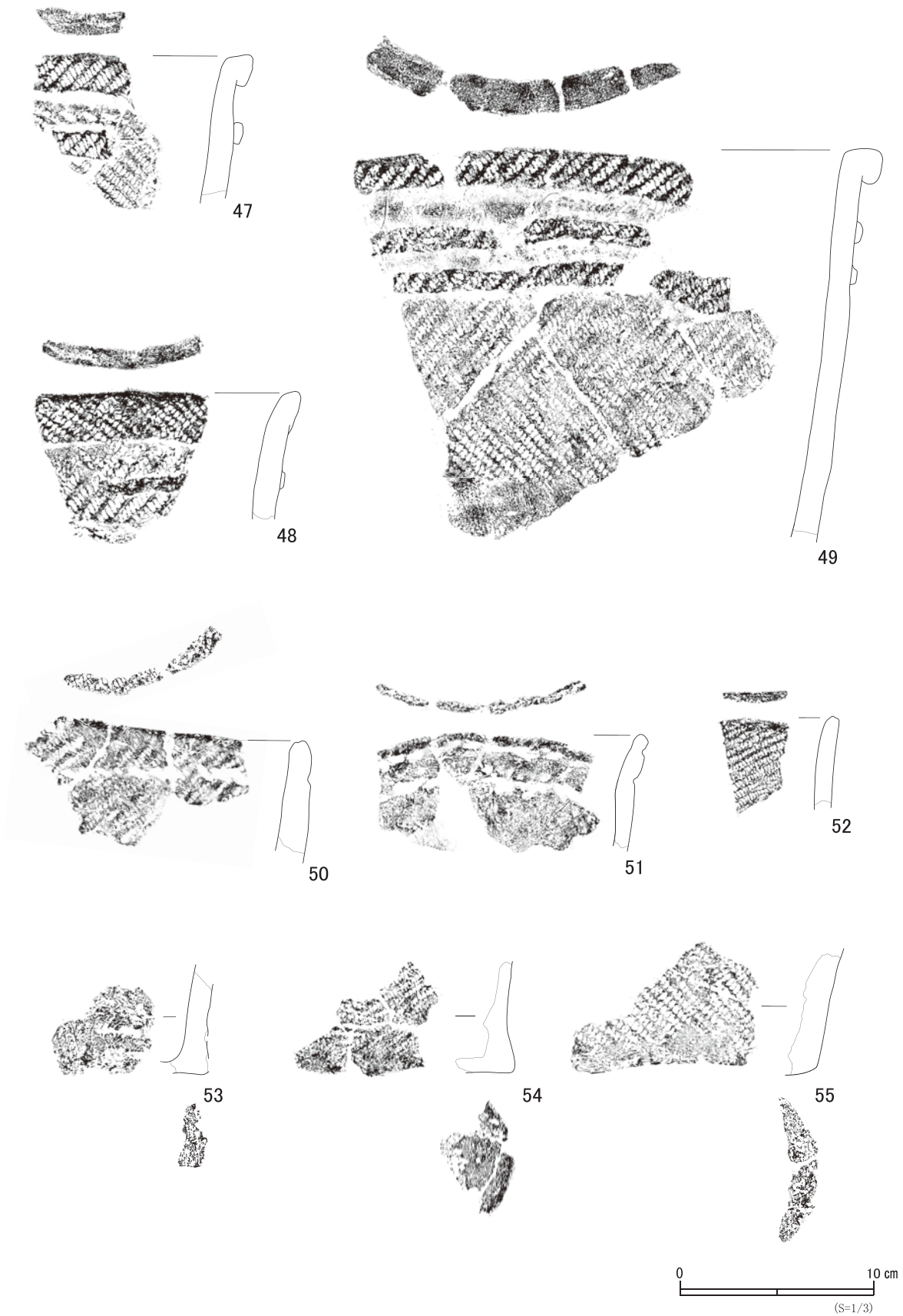


図63 上幌内4遺跡 包含層出土の破片土器(3)

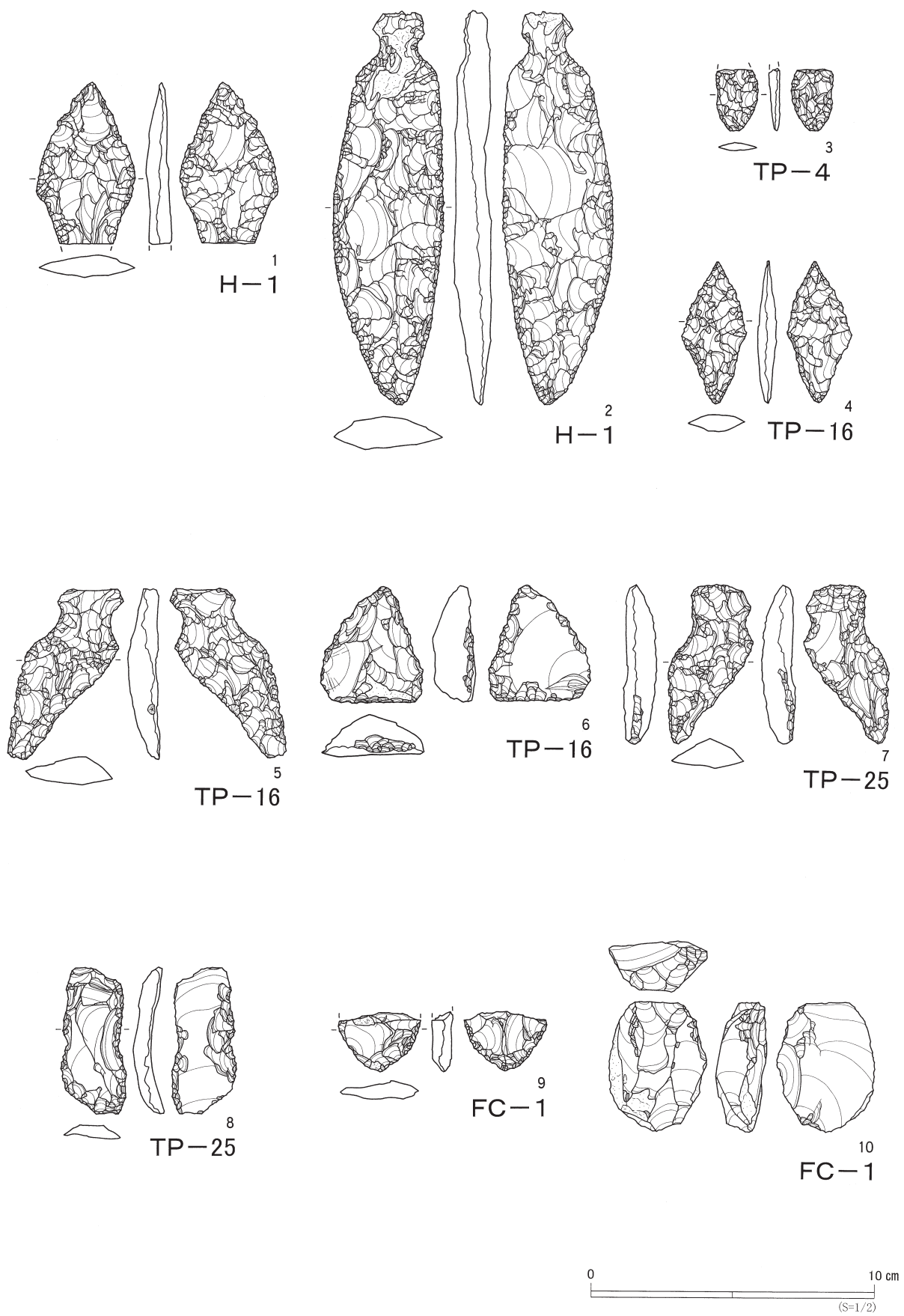


図64 上幌内4遺跡 遺構出土の剥片石器

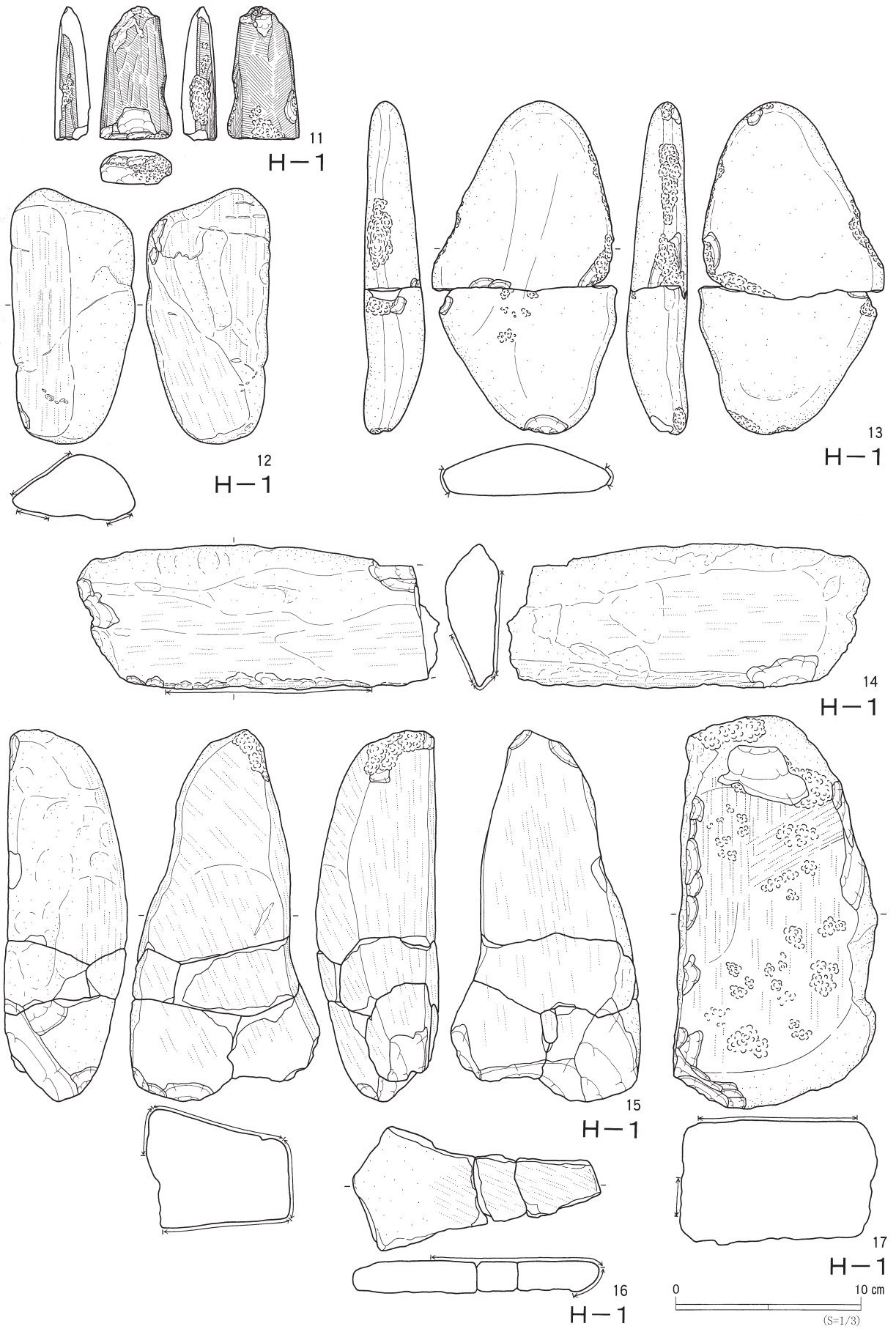


図65 上幌内4遺跡 遺構出土の礫石器(1)

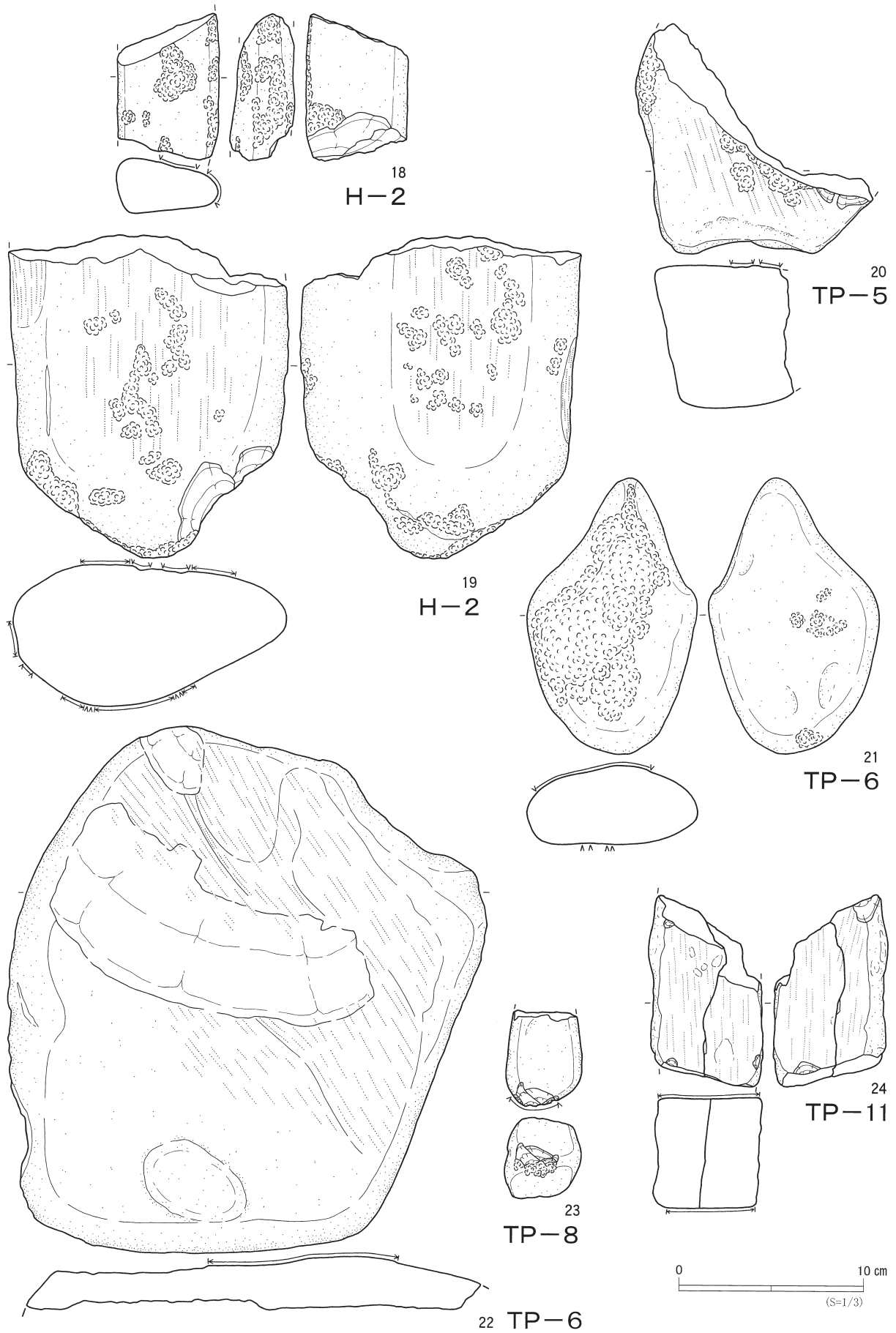


図66 上幌内4遺跡 遺構出土の礫石器(2)

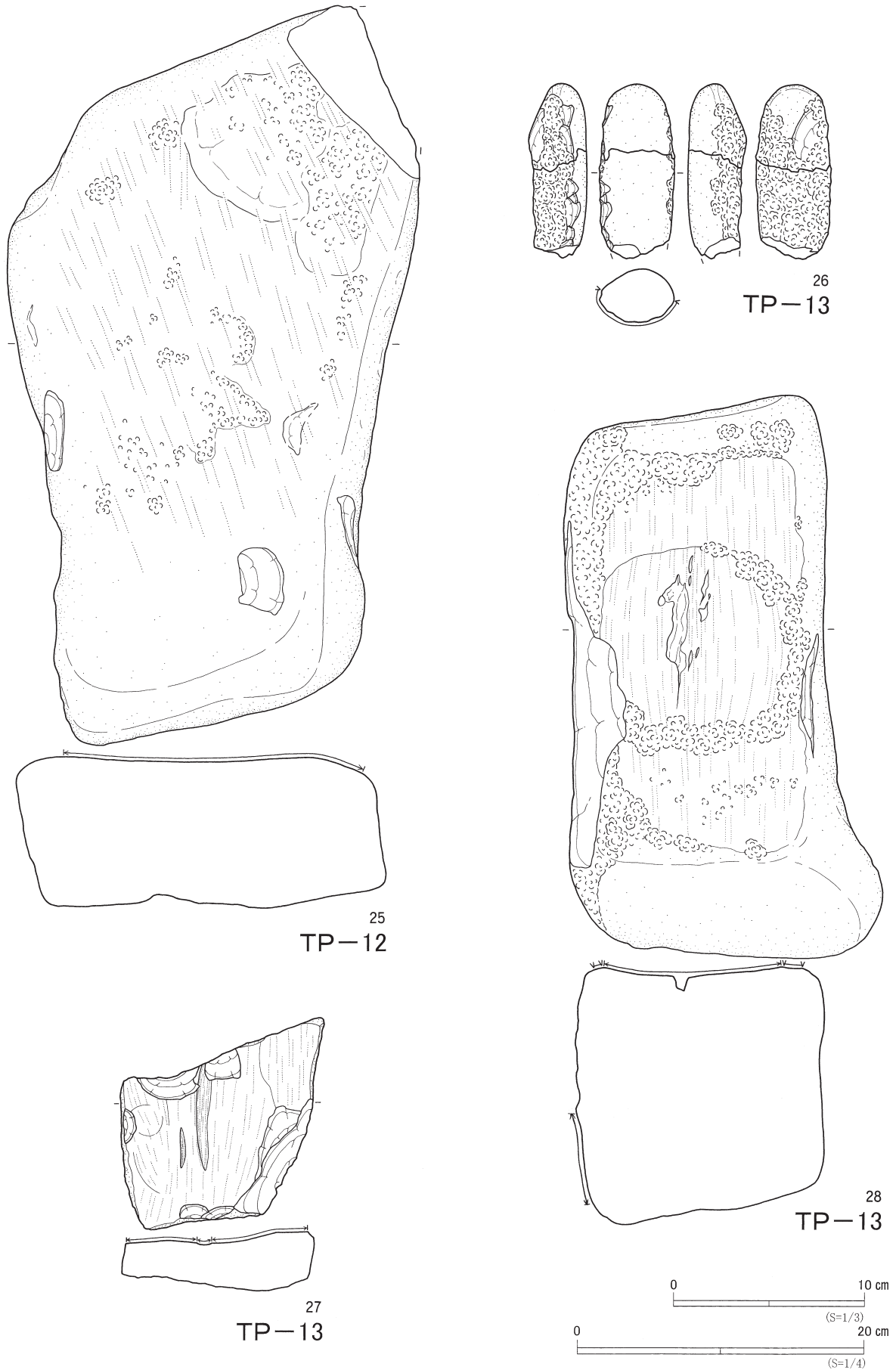
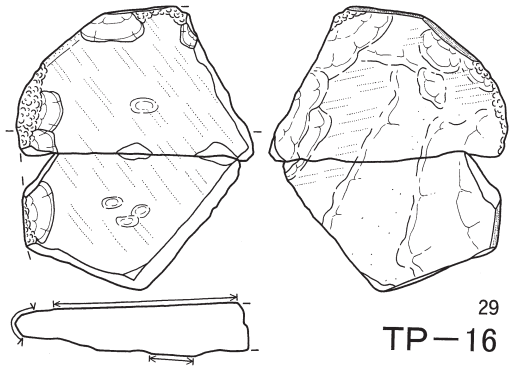
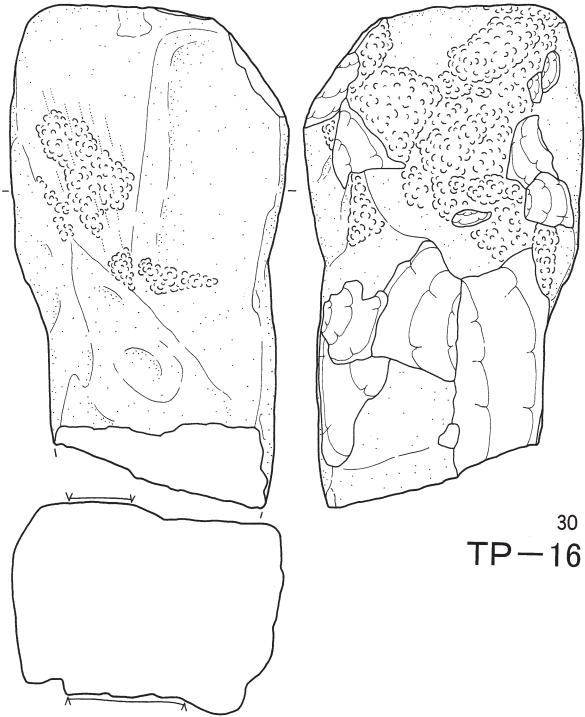


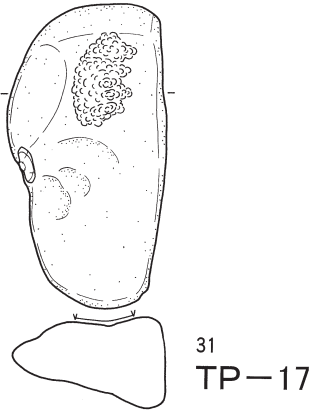
図67 上幌内4遺跡 遺構出土の礫石器(3)



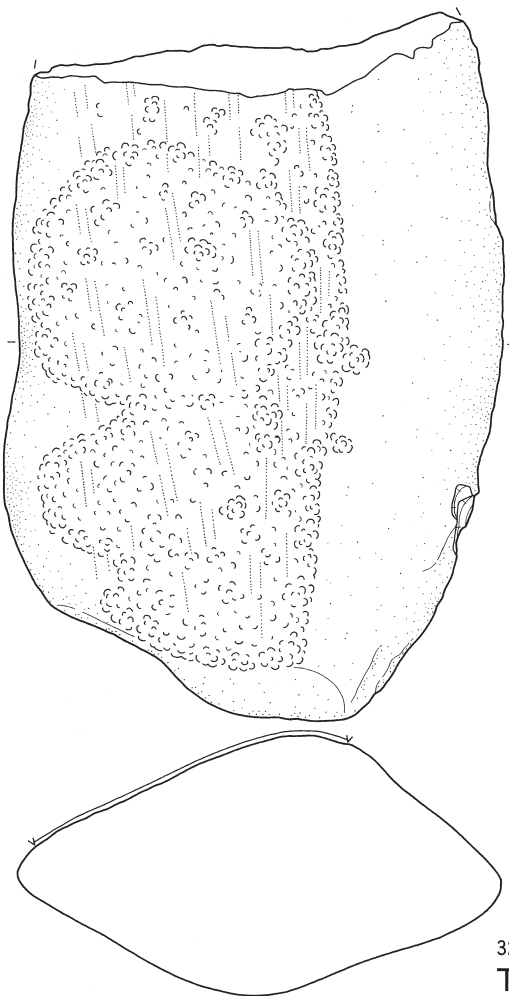
29  
TP-16



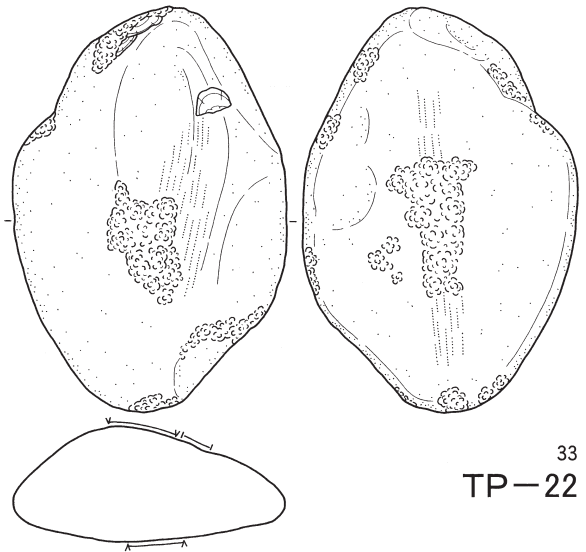
30  
TP-16



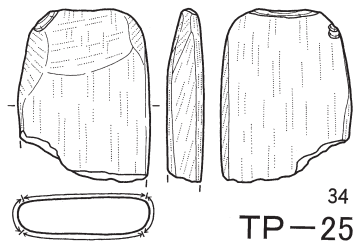
31  
TP-17



32  
TP-17



33  
TP-22



34  
TP-25

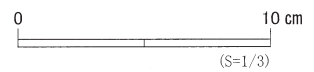


図68 上幌内4遺跡 遺構出土の礫石器(4)



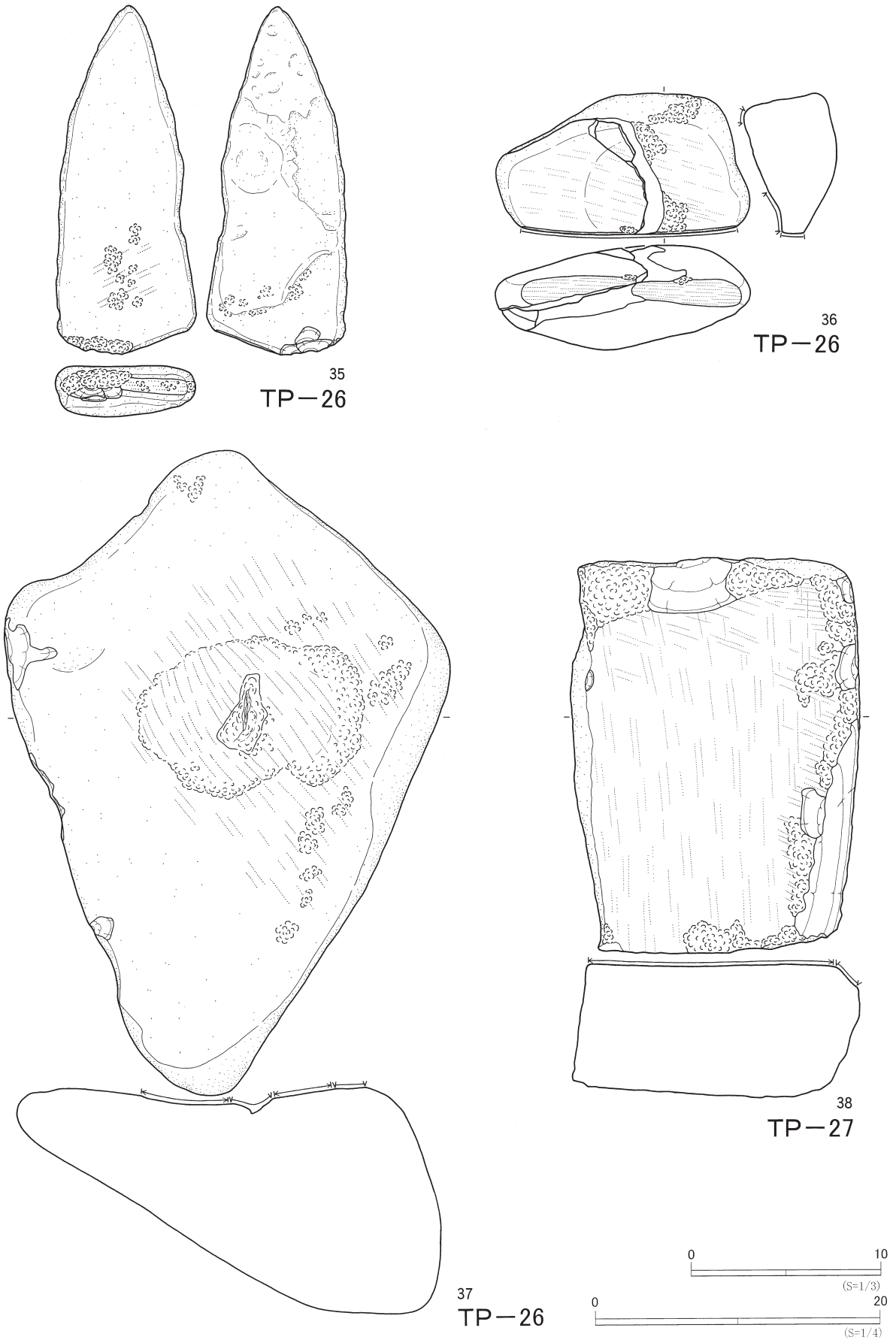


図69 上幌内4遺跡 遺構出土の礫石器(5)

土で、表裏両面と右側面に明瞭な砥面がみられる。左側面の一部にもすり痕があり、いわゆる四面砥石である。16は板状の砂岩製で、表面と右側縁面に使用痕がある。17は台石・石皿で表面に平坦なすり面が残る。左側面の割れ面にも使用痕がみられる。

18・19はH-2出土である。18はたたき石で上下両端を破損する。たたき痕は、表裏両面のものは若干くぼみ、側面は細かいものが密集する。19は台石・石皿である。表裏両面にすり痕、たたき痕がみられ、表面のたたき痕は深く、凹状にくぼむ。

#### TP出土

20はTP-5出土の台石・石皿で上部が破損する。表面に平坦なすり面とたたき痕がある。一部に黒色化と赤色化がみられる。21・22はTP-6出土である。21はたたき石で、表面にたたき痕が広範囲にみられる。22は台石・石皿で裏面が破損する。表面上部の大きな剥離の周辺にすり面があり、剥離面は黒色化する。23はTP-8出土のたたき石で、上部が破損する。尖った形状の下端部に剥落痕、たたき痕がみられる。24はTP-11出土の砥石である。表裏両面に平坦な砥面がある。25はTP-12出土の台石・石皿である。剥離痕や微細なたたき痕、すり面がみられる。26～28はTP-13出土である。26はたたき石で下端部を破損する。側面から裏面にかけてたたき痕があり、表面は黒色化する。27は砥石で、表面にくぼみ状の砥面があり、一部溝状の使用痕がみられる。28は台石・石皿で、表面と右側面に使用痕がある。表面の中央部分には曲線的にくぼむすり面と溝状の使用痕が数か所みられる。29・30はTP-16出土である。29は砥石で、表裏両面に平坦な使用痕がある。30は台石・石皿で、表裏両面に微細なたたき痕があり、表面にはすり痕もみられる。31・32はTP-17出土である。31はたたき石で、表面に凹状のたたき痕が1か所みられる。32は台石・石皿で、表面にすり痕と細かなたたき痕がある。33はTP-22出土のたたき石で、表裏両面の中央や側縁にたたき痕がみられる。34はTP-25出土のすり石で下側部分を破損する。全体にすり面がある。35～37はTP-27出土である。35はたたき石で、表裏両面に使用痕が部分的にみられ、下端部にはたたき痕とすり痕がみられる。36は断面が三角形のすり石で、表面と下端部にすり面がある。37は台石・石皿である。表面の中央は敲打後に、使用されたと考えられ、曲線的にくぼむすり面がある。38はTP-27出土の砥石で、表面の全部と裏面上部の一部に平坦な砥面がある。39・40はTP-31出土の台石・石皿である。39は全体の約3分の1が残存し、平坦面に使用痕が確認できる。割れ面以外は赤色化、黒色化する。40は3点が接合し、およそ半分が残存する。表面は部分的にたたき痕、全体的にすり痕がみられる。

#### F出土

41はF-1出土のたたき石で下端部が破損する。表裏両面に剥離痕とたたき痕があり、表面にはすり痕がある。

#### S出土

42～46はS-1出土で、いずれも全体が赤色化し一部黒色化もみられる。42・43はすり石で、平坦面にすり痕があり、43には下端部にも使用痕がみられる。44～46は台石・石皿で、44は表裏両面にすり面、表面はたたき痕が部分的にみられる。45は4点が接合し、表面全体にすり痕がある。46は表面にたたき痕とすり痕がある。

### (2) 包含層出土の石器

#### 剥片石器(図71・72 表56 図版26)

1～15は石鏃である。1・2は三角形で、基部形状は1が直線的、2はやや内湾する。3～11は菱形である。3は小型で腹面に主要剥離面を広く残す。4は左側縁の先端部が破損する。5は左右非対称で、背面に原礫面を残し、全体に厚みがある。6は側縁部がやや鋸歯状である。7は先端部左側の

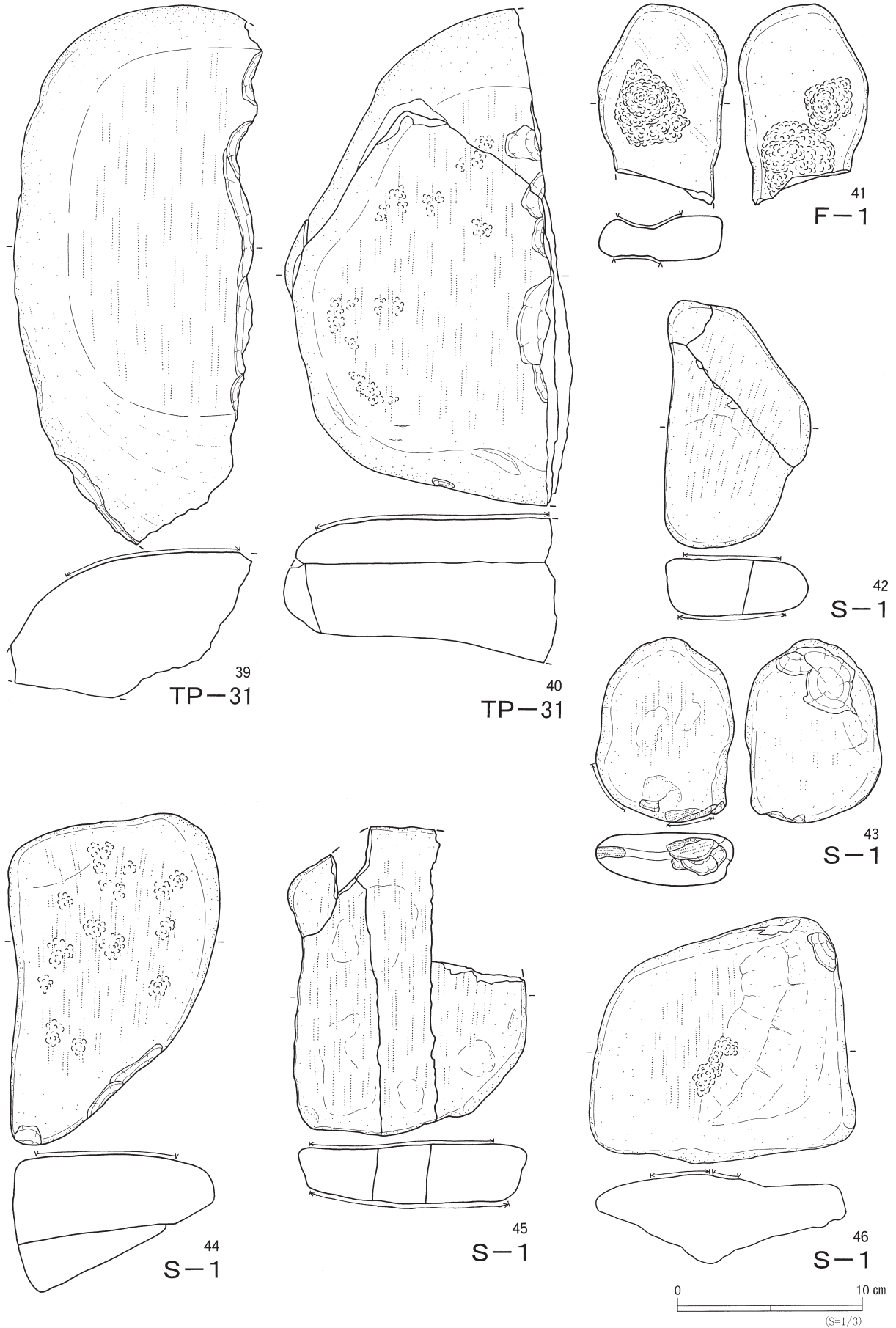


図70 上幌内4遺跡 遺構出土の礫石器(6)

折れ面を再加工し、形状を整えている。8は厚みがあり、左右非対称である。9は両面に丹念な加工がみられる。10は粗い二次加工が施され、側縁部が鋸歯状である。腹面は基部や周縁のみが加工される。11は細身で薄い。12～15は有茎である。12は先端部の右側縁がやや内湾する。13は刃部の左側縁が直線的、右側縁が曲線的である。14は両側縁が曲線的である。15は基部が幅広で、左右非対称である。

16～21は石槍・ナイフである。16は頁岩製で長いものである。背面の下半部分は急角度の刃部で、中央部分は厚みが残る。17・18・19は側縁が鋸歯状である。18・19は厚みがあり、18は棒状に近い形状、19は比して粗い二次調整である。20は基部が直線的で、21は有茎で曲線的な刃部をもつ。

22～24は石錐である。22は棒状で、背面に原礫面を残す。腹面は広い剥離面があり、上下端部に二次加工が施される。23・24はつまみ付きナイフを転用したもので、背腹両面に広い剥離面が残る。23はつまみ部や下端部などの周縁に二次加工がみられる。被熱によるためか光沢がない。24は赤褐色を呈する黒曜石製である。側縁は急角度で、機能部は細い加工である。

25～29はつまみ付きナイフである。いずれも右側縁部に二次調整がみられ、下端部は尖る。25は上端部に原礫面を残す。26・27・28の右側縁の刃部は急角度である。26は背面と腹面右側縁に加工がみられ、27は刃部がやや内湾する。28は両面加工で、背面の右側縁の刃部は急角度で、腹面は平坦な剥離が施される。29は、ねじれのある剥片を素材とする。

30～39はスクレイパーである。30～34は縦長剥片の側縁に刃部をもつものである。30は背面に原礫面が広く残る。両側縁に刃部を有し、左側縁は鋸歯状である。31は右側縁が背面、左側縁は腹面に微細な剥離痕がある。32は左側縁にある刃部がやや内湾する。33は両側縁と下縁に刃部があり、後者は急角度である。34は背面の右側縁から下縁に原礫面が残り、左側縁に内湾する刃部がみられる。35は背面下部の両側縁と下縁に刃部がみられる。36は背腹両面に原礫面が残り、左側縁に外湾する刃部がある。37・38の刃部は外湾するものである。37は両側縁と下縁の一部に刃部があり、被熱によるためか光沢がない。38は円形で、上縁部を除く部分に曲線的な刃部がある。39は縦長の剥片の両側縁に挟まれる部分があり、背面に微細な剥離痕がある。

40～44は石核で、40・41が黒曜石、42～44がチャートである。40は主に表面に剥離面があり、裏面と下端部は原礫面である。41は上部の原礫面を打面とする複数の剥離面がある。42は上面の打面からの剥離が多いが、一部下面からの剥離もみられる。43は裏面下半と下端部に原礫面があり、打面を変えて複数の剥離がなされる。44は上面からの複数の剥離痕が表面にみられ、裏面は原礫面である。

#### 礫石器(図73～77 表56 図版27～30)

45～47は磨製石斧である。45は裏面中央に溝状のすり面が斜めにみられ、その部分が黒色化する。46は細長い形状で両側面も研磨される。47は刃部に多くの剥離痕がみられる。

48～54はたたき石である。48は緑色泥岩製で全周縁に細かなたたき痕がみられる。49～51は広く平坦な面に複数の凹状のたたき痕がみられる。49は表面の中央付近に凹状のたたき痕が2か所あり、裏面にはすり痕と浅いたたき痕がある。50・51は表両裏面に2か所ずつ凹状のたたき痕がある。50は左側縁にすり痕とたたき痕がある。52は断面三角形の稜部に部分的なたたき痕があり、一部黒色化する。53は下端部と側縁部にたたき痕があり、表裏の平坦面にすり痕と部分的に浅いたたき痕がみられる。54は両側縁の上部にたたき痕がみられる。

55～60はすり石である。55はほぼ全面にすり痕がある。右側面には線状の深い使用痕がみられ、表面には凹状のたたき痕がある。56～58は扁平な礫の表裏両面にすり痕がある。56は上端部にたたき痕があり、57・58は全面に平滑な面がみられる。59は断面三角形の素材を用い、一つの稜に平坦なすり面、上端部に剥離痕とたたき痕がみられる。60は扁平な礫の下端部に平坦なすり面がある。上部は剥

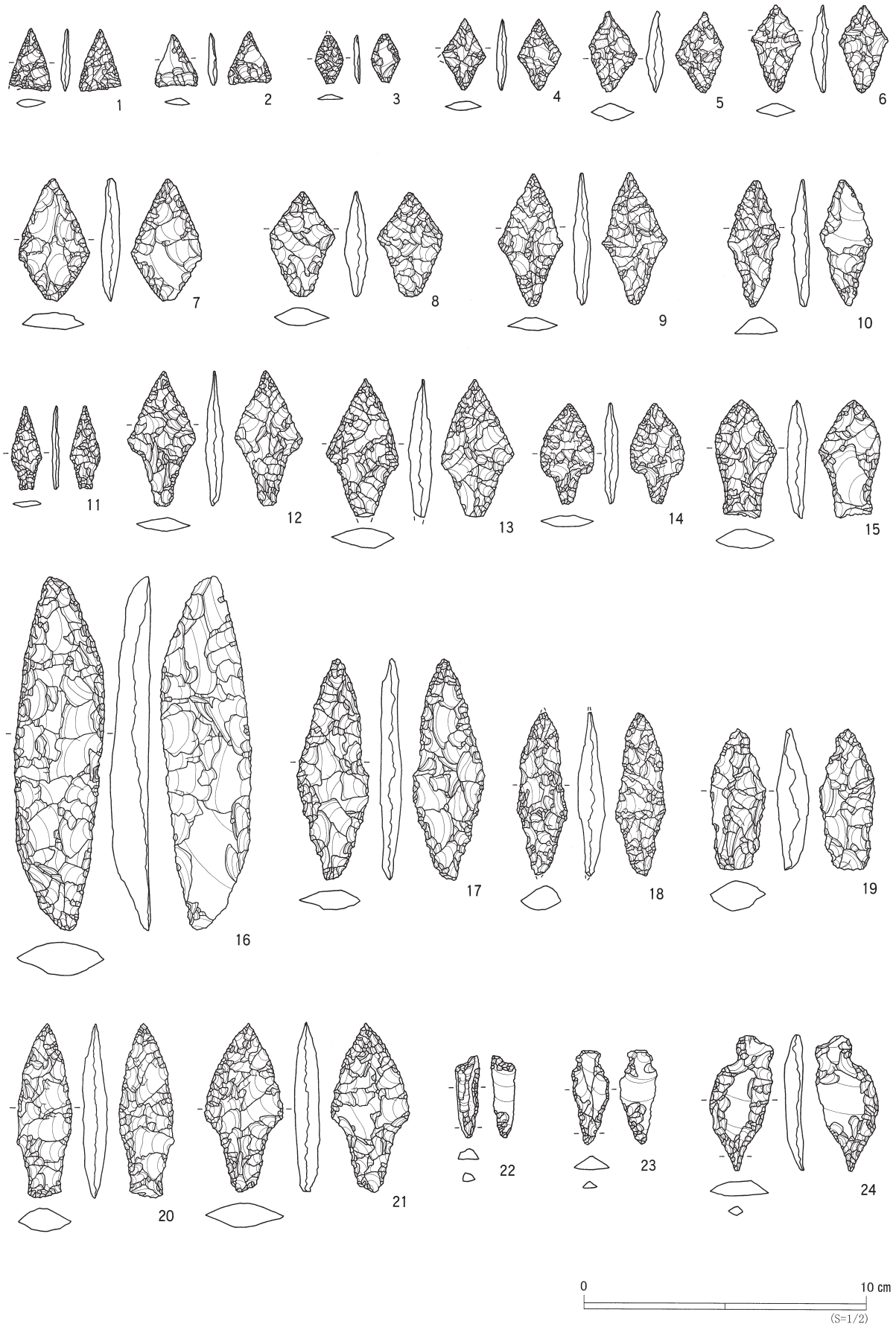


図71 上幌内4遺跡 包含層出土の剥片石器(1)



図72 上幌内4遺跡 包含層出土の剥片石器(2)

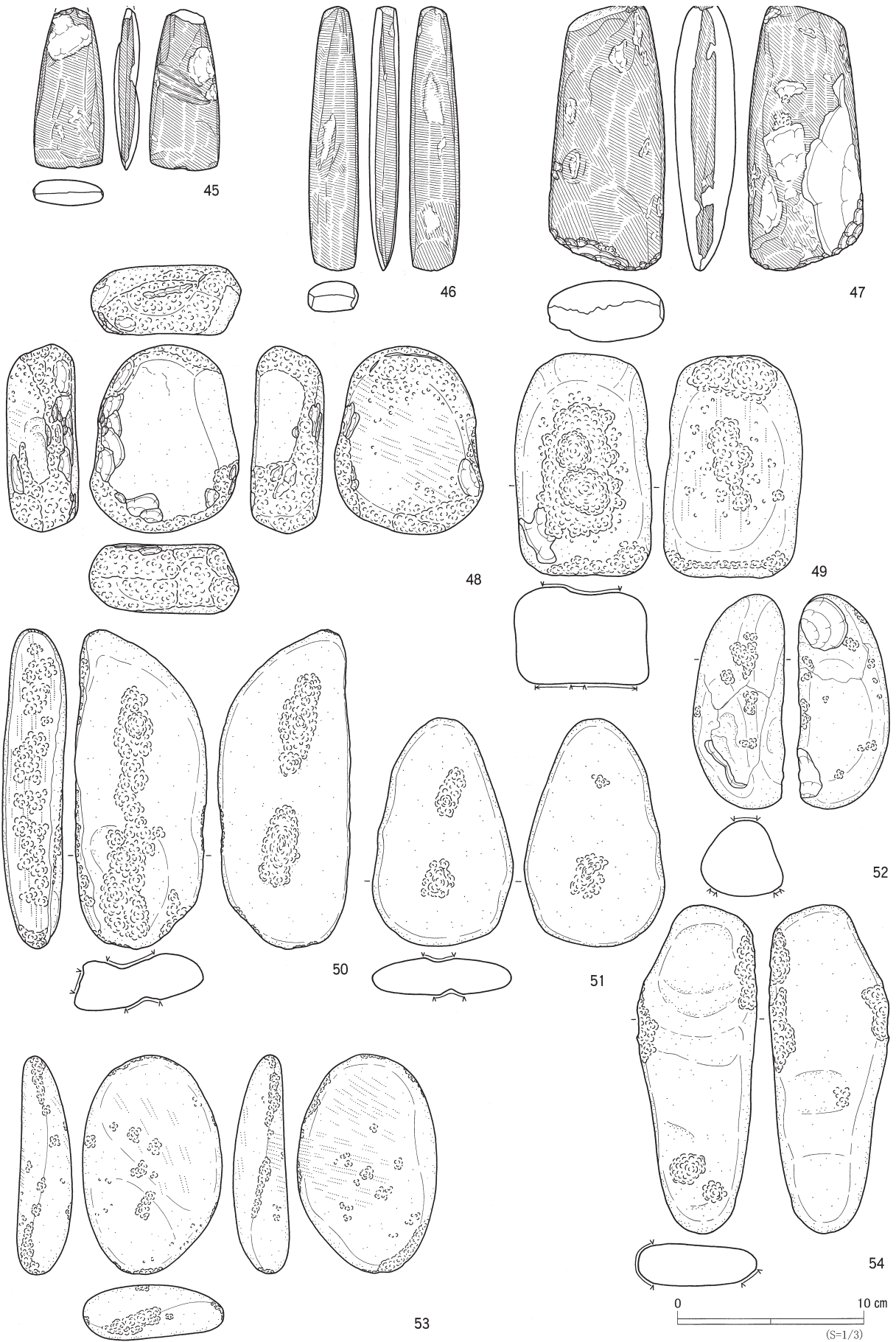


図73 上幌内4遺跡 包含層出土の礫石器(1)

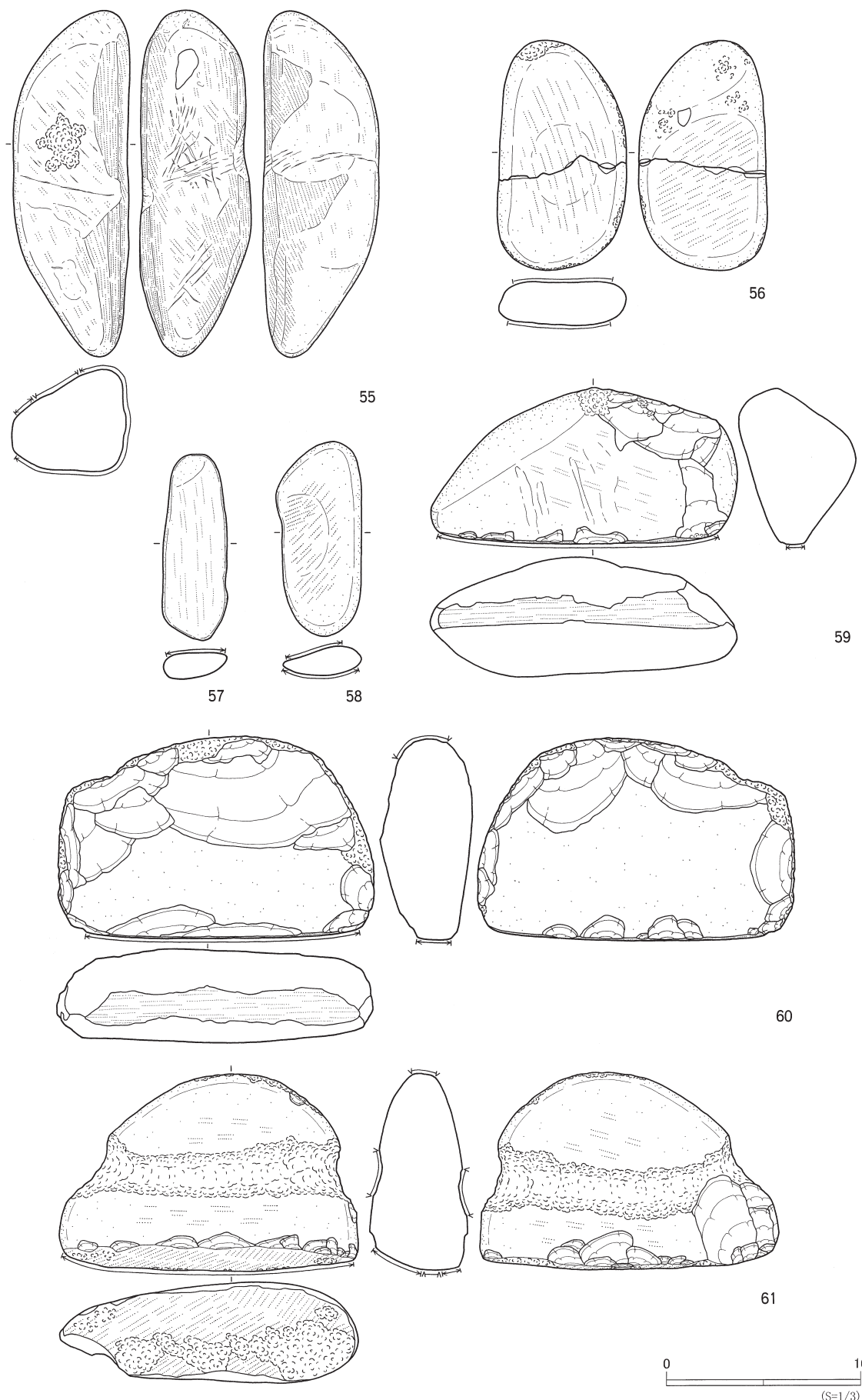


図74 上幌内4遺跡 包含層出土の礫石器(2)



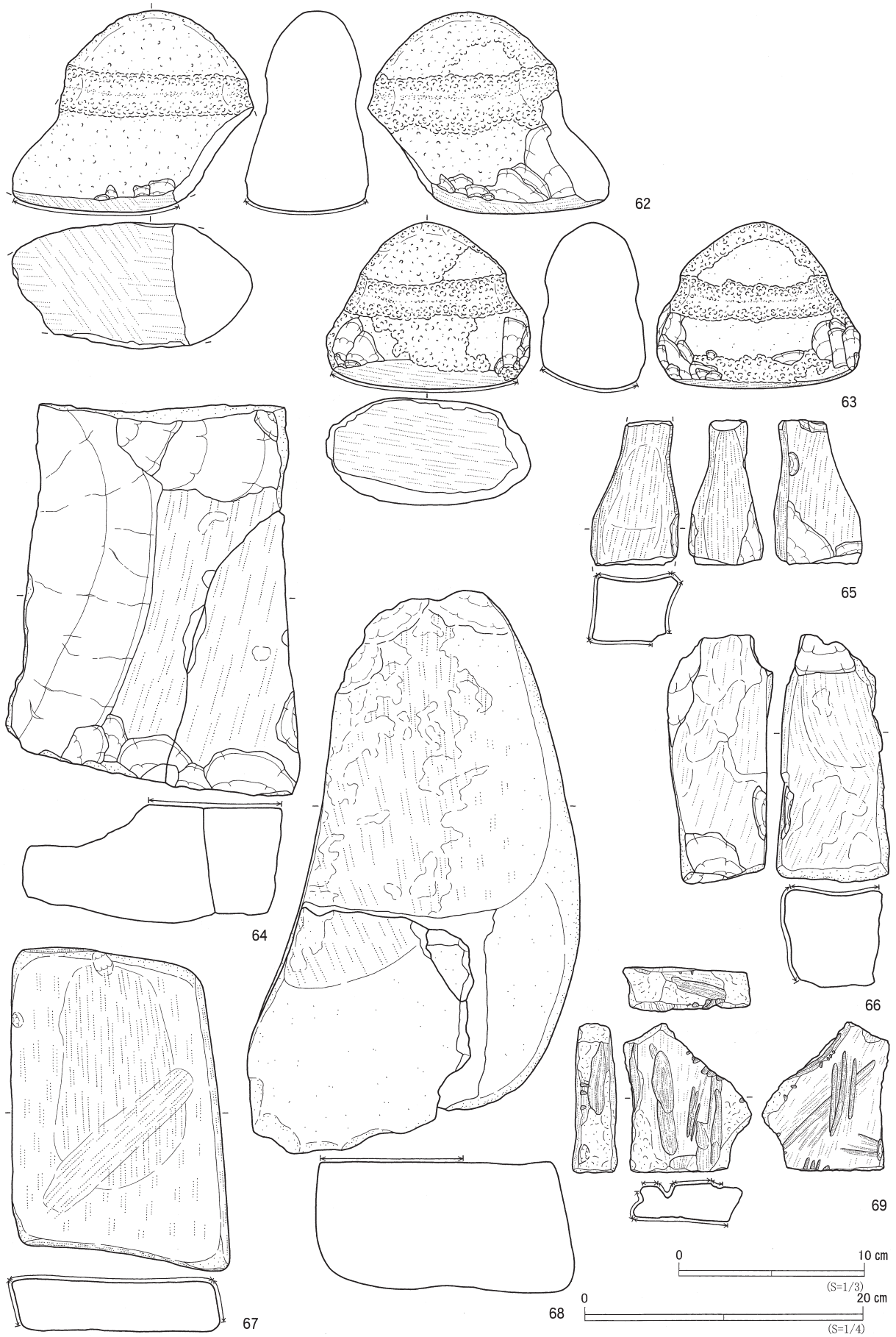


図75 上幌内4遺跡 包含層出土の礫石器(3)

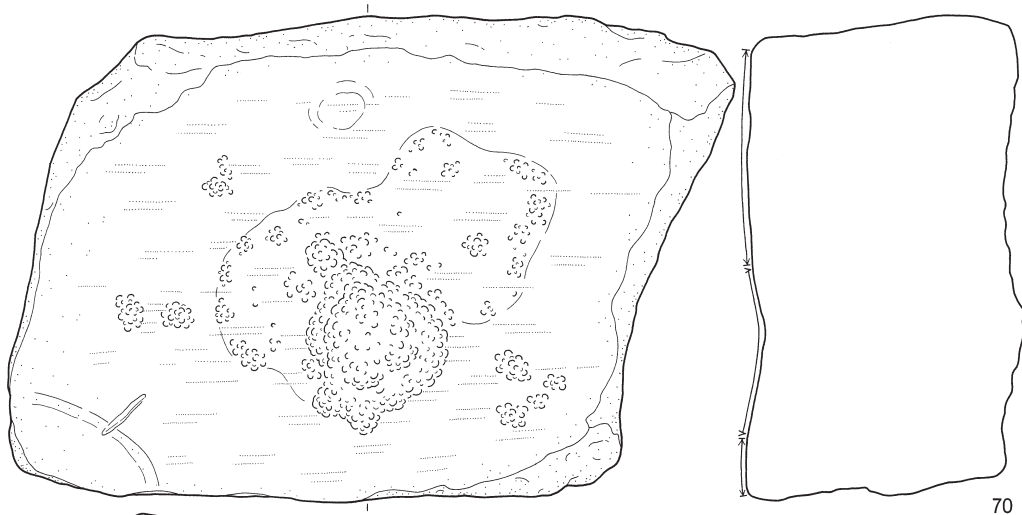


図76 上幌内4遺跡 包含層出土の礫石器(4)

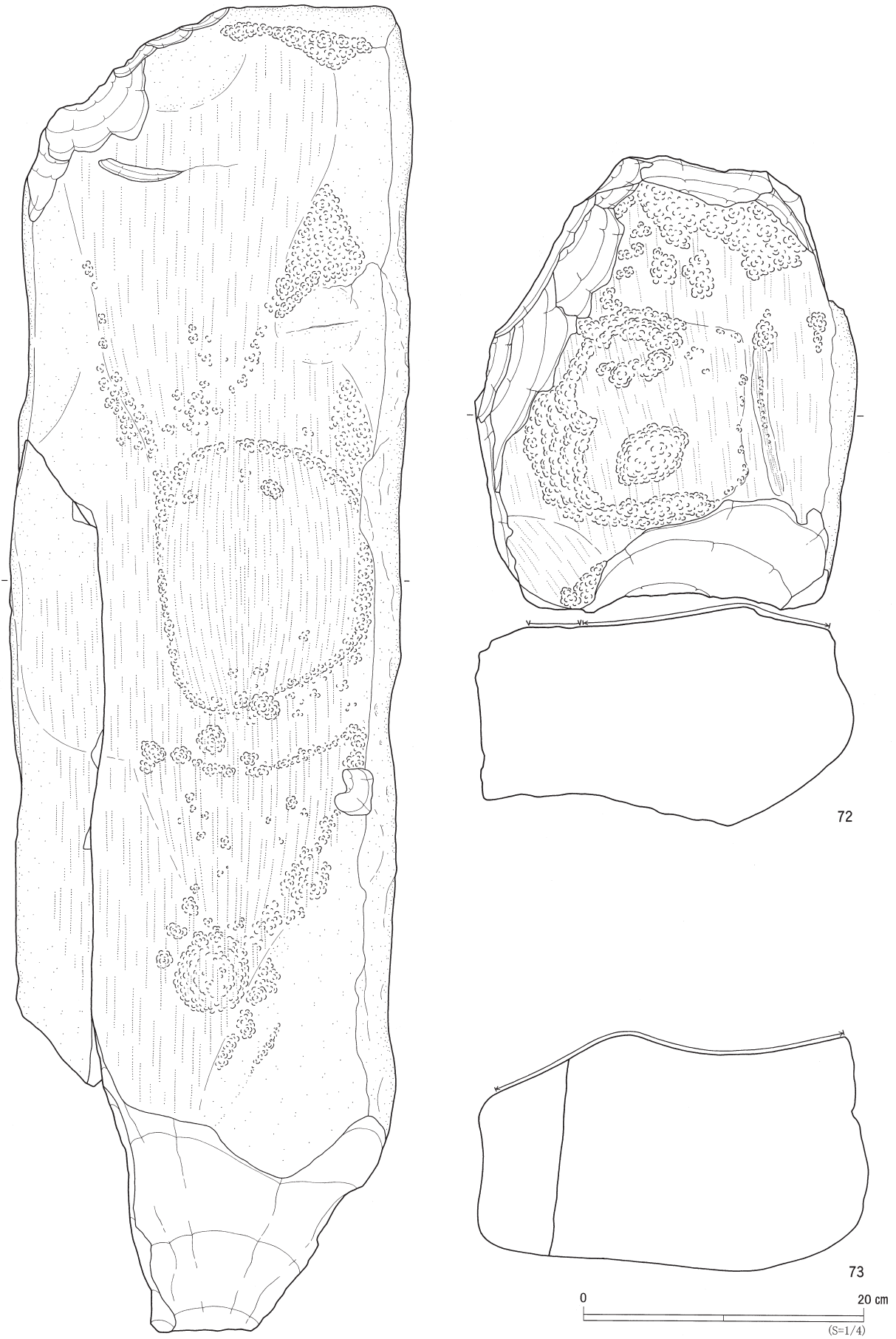


図77 上幌内4遺跡 包含層出土の礫石器(5)

離痕と敲打痕が残り、全体が赤色化する。

61～63は北海道式石冠である。扁平な礫を素材とし、下縁の形状は曲線的、下端面に幅広なすり面を有する。また、敲打による全周する溝状の加工がみられ、持ち手部分を作り出している。61は上端部とすり面にたたき痕がみられる。62は左右の側縁部が破損する。63は表裏両面の左右の下方に剥離痕がみられる。また、62・63の持ち手部分の敲打痕は磨滅し不明瞭である。

64～69は砥石である。64は板状の素材で表面に平坦な砥面と大きな剥離痕がある。65は表裏と側面に湾曲する砥面がみられる。66は角柱状の素材で表面と左側面に使用痕がある。67は扁平な礫を素材とし、表面に砥面、側面に使用痕がある。68は平たい礫の割れ面に使用痕がみられる。69は右側面以外に、平坦もしくは溝状の使用痕がある。

70～72は台石・石皿である。70はたたき痕が多いが、すり痕も確認できる。71はQ-26区のV層上面でみつき、図化した面を上にした状態で出土した大型のものである(図版30)。表面に広くすり面がみられ、剥離痕やたたき痕もみられる。72は表面にすり面があり、中央付近は皿状にくぼむ。剥離痕やたたき痕も観察される。73はQ-25区のV層上面でみつかった大型の角柱状のもので、図化した面を上にした状態で出土した(図版30)。表面にはすり面とたたき痕があり、中央付近に明瞭なくぼみの使用面がある。上下端には剥離痕がみられ、下端部は尖る形状である。

#### 石製品(図78 表56 図版30)

74は深緑色を呈する橄欖岩製の玉で、円形かつ扁平である。上部に位置する孔は表裏両面から穿たれて、下端一部が破損する。75は砂岩製で、表裏両面の周縁に多数の線刻がみられる。全体が黒色化する。76は砂岩製で全面に研磨痕がみられ、上端部が尖り、下端部が丸い形状で、意図して作出したものか、使用の結果なのか判断できない。表裏両面の中央付近はややくぼみ、その周囲には溝状のすり痕がみられる。77・78は小型の北海道式石冠で、敲打による溝状の加工が全周し丹念に作られている。上端部にも敲打痕がみられ、下端面は、77はすり痕、78は割れ面である。

(末光)

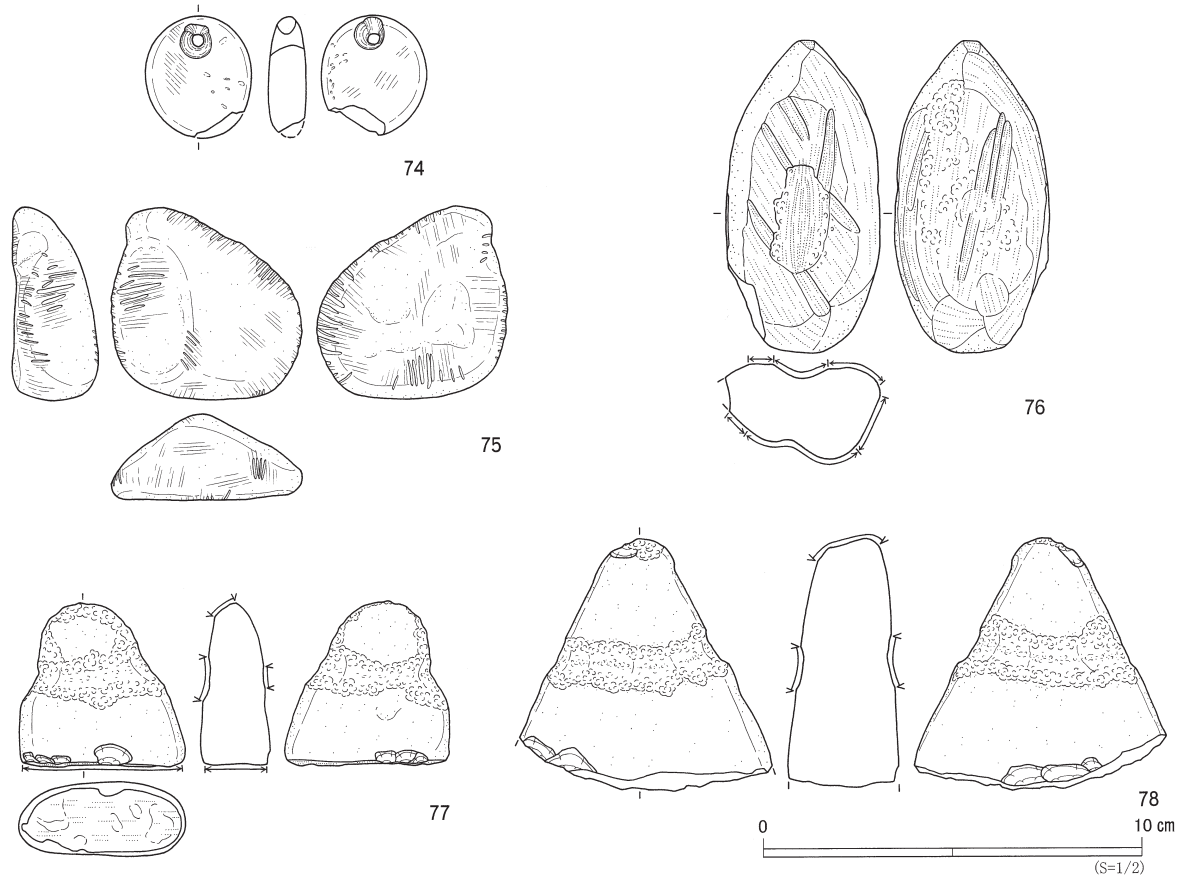


図78 上幌内4遺跡 包含層出土の石製品



表31 上幌内4遺跡 遺構出土剥片石器点数表

遺構名	US-2				H-1		H-2		TP-2		TP-4		TP-7		TP-9		TP-10		TP-11		TP-12		TP-13		TP-14		小計																												
	遺物名・分類 / 層位	残存状態			床面	付属遺構	覆土B層		覆土B層		覆土B層		覆土B層		覆土B層		覆土B層		覆土B層		覆土B層		覆土B層		覆土B層			小計																											
		器種	形状	破砕等			小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計			小計																										
石鏡	壳形	—	—	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
	準壳形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
	半形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
石槍・ナイフ	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3																											
	壳形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
	準壳形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
つまみ付きナイフ	半形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
	壳形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1																											
スクレイパー	壳形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
	準壳形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
	半形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
U・Rフレイク	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
	壳形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
	準壳形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
フレイク	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
	壳形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
	準壳形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
原石	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
	壳形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
	準壳形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0																											
合計				7			7			1		1			2		1			2			1				23	66																											
合計																												5	14	5	14	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	2	2	1	2	2	2,899





表33 上幌内4遺跡 包含層出土土器点数表

遺物種別 / 層位		III層		V層		その他 (I層・F層)		合計		
時期	土器	部位	残存状態							
I群	複数部位							0		
	口縁部	良好			63	65			63	65
		剥離		0	1			0	1	
		磨耗							0	
		小破片			1				1	
	底部	良好			18	19			18	19
		剥離		0				0	0	
		磨耗							0	
		小破片			1				1	
	胴部	良好			377	631	3		380	634
		剥離		0	88			3	88	
		磨耗			1				1	
		小破片			165				165	
小計			0	715		3		718		
II群	複数部位							0		
	口縁部	良好				0			0	0
		剥離		0				0	0	
		磨耗							0	
		小破片							0	
	底部	良好				0			0	0
		剥離		0				0	0	
		磨耗							0	
		小破片							0	
	胴部	良好			63	70			63	70
		剥離		0	7			0	7	
		磨耗							0	
		小破片							0	
小計			0	70		0		70		
III群	複数部位							0		
	口縁部	良好	1		21	27			22	28
		剥離		1	3			0	3	
		磨耗			1				1	
		小破片			2				2	
	底部	良好			15	21	3		18	24
		剥離		0	3			3	3	
		磨耗							0	
		小破片			3				3	
	胴部	良好	1		159	365	2		162	370
		剥離	2	3	97			2	99	
		磨耗			6				6	
		小破片			103				103	
小計			4	413		5		422		
IV群	複数部位							0		
	口縁部	良好			106	135	2		108	137
		剥離		0	21			2	21	
		磨耗							0	
		小破片			8				8	
	底部	良好			43	55			43	55
		剥離		0	9			0	9	
		磨耗							0	
		小破片			3				3	
	胴部	良好	1		743	3,512	3		747	3,521
		剥離		1	897			8	899	
		磨耗			80				81	
		小破片			1,792			2	1,794	
小計			1	3,702		10		3,713		
不明	複数部位							0		
	口縁部	良好			1	1			1	1
		剥離		0				0	0	
		磨耗							0	
		小破片							0	
	底部	良好			1	1			1	1
		剥離		0				0	0	
		磨耗							0	
		小破片							0	
	胴部	良好			15	76			15	76
		剥離		0	5			0	5	
		磨耗			8				8	
		小破片			48				48	
小計			0	78		0		78		
合計			5	4,978		18		5,001		

表34 上幌内4遺跡 包含層出土剥片石器点数表

器種名・分類 / 層位				Ⅲ層		Ⅴ層		その他 (Ⅰ層・Ⅱ層)		合計					
器種	残存状態	岩石	被熱等												
石鏃	完形	黒曜石	—	1		46	69	0		47	47	70			
	準完形	黒曜石	—			8					8		8		
	半形	黒曜石	—			3					3		3		
	片	黒曜石	—			12					12		12		
石槍・ナイフ	完形	黒曜石	—	0	0	10	36	2		10	11	38			
		頁岩	—			1				1	4		4		
	準完形	黒曜石	—							3	1			4	4
			—							9	1			10	11
	半形	黒曜石	—							1				1	1
			被熱							10				10	12
片	黒曜石	—			1			1	1						
	頁岩	—			1			1	1						
石錐	完形	黒曜石	—	0	0	3	4	0		3	4	4			
	片	黒曜石	—						1		1		4		
つまみ付きナイフ	完形	黒曜石	—	0	0	8	15	0		8	11	15			
		頁岩	—							3			3		
	準完形	黒曜石	—							1				1	2
		頁岩	—							1				1	1
	半形	黒曜石	—							1				1	1
片	黒曜石	—			1			1	1						
スクレイパー	完形	黒曜石	—	0	0	26	40	2	1	27	28	42			
			被熱							1			1		
	半形	黒曜石	—							3				3	4
			被熱							1				1	4
片	黒曜石	—			9			1	10	10					
U・Rフレイク		黒曜石	—	1	1	59	63	5	4	64	68	69			
			被熱						4		4				
石核		黒曜石	—	2	2	8	20	0		8	8	22			
		チャート	—							12			14	14	
フレイク		黒曜石	—	52	52	3,319	4,562	77		3,448	4,661	4,691			
			被熱						1,213		1,213				
	凝灰岩	—				1					1		1		
	頁岩	—				1					1		1		
	チャート	—				27					27		27		
	蛇紋岩	—				1					1		1		
原石	完形	チャート	—	1	1	3	10	1	1	5	8	12			
		蛇紋岩	—						2		2				
		花崗岩	—						1		1				
	半形	花崗岩	—						1				1	1	
		片	チャート	—						3				3	3
合計				57		4,819		87	4,963						

表35 上幌内4遺跡 包含層出土礫石器・石製品・レキ点数表

遺構名				III層	V層	VI層	H層	その他 (I層・F層)	合計	
器種	残存状態	層位	被熱等						合計	合計
磨製石斧	完形	緑色泥岩	被熱		2				2	
		片岩	—		1				1	4
	準完形	緑色泥岩	—		1				1	1
		片岩	—		3				3	4
	片	緑色泥岩	被熱	1	47			1	49	
		泥岩	—		1				1	62
片岩		—		2				2		
片岩		—		10				10		
たたき石	完形	安山岩	—		1				1	
		花崗岩	—		1				1	
		凝灰岩	—		9				9	
		礫岩	—		3				3	
		砂岩	—		40				40	
		砂岩	被熱		6				6	
		泥岩	—		1				1	
	準完形	緑色泥岩	—		1				1	
		片岩	—		1				1	
		花崗岩	—	1	6				6	
		凝灰岩	—		1				1	10
	半形	砂岩	—		3				3	
		凝灰岩	—		15				15	
		砂岩	被熱		2				2	20
	片	凝灰岩	—	2	4				4	
礫岩		—		1				1		
砂岩		—	1	32			2	35	52	
砂岩		被熱		10				10		
すり石	完形	凝灰岩	被熱		7				7	
		接合	—		3				3	
		礫岩	—		1				1	
		砂岩	—	4	8				8	
		片麻岩	被熱		2				2	
	準完形	砂岩	—		1				1	
		砂岩	—		3				3	
	片	凝灰岩	被熱	2	2				2	
		砂岩	—	3	1				1	
		砂岩	被熱		29				29	46
北海道式石冠	完形	砂岩	—		2			2		
	準完形	砂岩	—		2			2		
	半形	砂岩	—		4			4		
	片	閃緑岩	—		1			1		
砥石	完形	凝灰岩	被熱		1				1	
		砂岩	—		13				13	
		砂岩	被熱		2				2	
	準完形	砂岩	—		3				3	
		砂岩	—		2				2	
	片	凝灰岩	—		1				1	
		砂岩	—		102			1	103	109
		砂岩	被熱		5				5	
	台石・石皿	完形	凝灰岩	—		2			2	
			礫岩	—		2			2	
砂岩			—		39			4	43	
準完形		砂岩	—		10				10	11
		砂岩	被熱		5			1	6	6
片		凝灰岩	—		1				1	
		礫岩	—		2			2	4	
	砂岩	—		3			1	4		
	砂岩	被熱		95			1	96	111	
石製品	完形	砂岩	刻み		2				2	
		砂岩	穿孔	1	1				1	5
	片	礫岩	—		1				1	
		チャート	石英結晶		4				4	5
合計			17	597	0	0	20	1	634	
U・Rレキ	完形	花崗岩	—		2				2	
		凝灰岩	被熱		29			7	56	
		礫岩	—		1			1	4	
		砂岩	被熱		3				3	
		砂岩	—		19			6	81	164
		チャート	—		2				7	
	(半形)	片麻岩	—		2				2	
		片麻岩	—	1	1				1	
		砂岩	—		3				3	3
	片	安山岩	—		1				1	
		花崗岩	—		1				1	
		凝灰岩	—		91			7	279	
		凝灰岩	被熱		10			3	68	
		泥岩	—		3				3	
		礫岩	被熱		1				1	
砂岩		—		3				3		
砂岩		被熱		37			49	3,203	3,934	
チャート	—		1			3	313			
レキ	完形	花崗岩	—		1				1	
		凝灰岩	被熱		4			1	6	
		礫岩	—		3				3	
		砂岩	—		11			3	27	
		砂岩	被熱		8				11	114
		砂岩	—		50				61	
	片	泥岩	—		1				1	
		泥岩	被熱		1				1	
		流紋岩	—		1				1	
		花崗岩	—	1	3				4	
		閃緑岩	—		1				1	
		凝灰岩	—	1	41			2	45	
		凝灰岩	被熱		28				28	
		礫岩	被熱		4				4	
		砂岩	被熱		4				4	
砂岩	—	2	222			1	225	357		
泥岩	—		40			1	41			
泥岩	被熱		3				3			
チャート	—		1				1			
片岩	—		1				1			
片麻岩	—		1				1			
合計			218	4,265	3	1	85	4,572		
合計			235	4,862	3	1	105	5,206		

表36 上幌内4遺跡 H-1 出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
56	1	17	H-1	覆土B層	—	1	(12.4)	36.0	—	1,360	口縁～胴部上位	深鉢	IV群a類 余市式					
接合破片総点数		63	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号 (点数)			N-21区・V層・(58)、P-25区・V層・(4)												
胎土 (混和材)		繊維	無		粒径	細～中粒		種類	岩石・鉱物ともにあり		量	中～多量		備考	—			
外 面	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	ナデ		灰黄褐色 (10YR6/2)		—		—		口唇部 (25%)									
	貼付帯 RL縄文		灰黄褐色 (10YR6/2)		黒色化		—		口縁部 (25%)		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		—		—	
	貼付帯 RL縄文		灰黄褐色 (10YR6/2)		黒色化		—		胴部上半 (30%)		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		—		—	

表37 上幌内4遺跡 H-1・P S-5 出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
56	2	17	H-1	床面直上	6	6	(21.3)	—	7.6	1,010	胴部中位～底部	深鉢	IV群a類 余市式					
接合破片総点数		16	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号 (点数)			H-1・床面直上・12(4)、P S-5・V層・11(3)、M-23区・V層・(1)、M-24区・V層・(2)												
胎土 (混和材)		繊維	少量		粒径	中～粗粒		種類	岩石主体		量	多量		備考	—			
外 面	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	貼付帯 RL・LR羽状縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		黒色化 炭化物付着		補修孔 1か所		胴部上半 (40%)		ナデ		(黒褐色)		黒色化		—	
	貼付帯 RL・LR羽状縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		炭化物付着		—		胴部下半～底部 (40%)		—		(黒褐色)		黒色化		—	
	—		にぶい黄褐色 (10YR5/3)		—		—		底面 (80%)		—		にぶい黄褐色 (10YR5/3)		—		—	

表38 上幌内4遺跡 TP-21 出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
56	3	17	TP-21	覆土B層	—	22	(27.8)	25.4	—	2,200	口縁～胴部下位	深鉢	IV群a類 余市式					
接合破片総点数		68	接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号 (点数)			N-23区・V層・(46)												
胎土 (混和材)		繊維	無		粒径	細～中粒		種類	岩石主体		量	多量		備考	—			
外 面	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		黒色化		—		口唇部 (40%)									
	貼付帯 LR・RL羽状縄文 ナデ (無文帯) RL縄文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		黒色化 炭化物付着		原体端部の回転圧痕 無文帯の一部 糸が残る		口縁部 (40%)		ナデ (沈線文状の調整痕)		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		—		—	
	貼付帯 LR・RL羽状縄文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		赤色化? 橙色 (7.5YR7/6)		—		胴部上半 (30%)		ナデ (沈線文状の調整痕)		(黒褐色)		黒色化		—	
	貼付帯 RL・LR羽状縄文		にぶい橙色 (7.5YR6/4)		—		—		胴部下半 (40%)		ナデ		(黒褐色)		黒色化		—	

表39 上幌内4遺跡 TP-26出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
56	4	17	TP-26	覆土B層	—	8	(18.8)	—	9.0	1,430	胴部中位～底部	深鉢	IV群a類 余市式					
接合破片総点数		24		接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号 (点数)			M-22区・V層・(1)、N-20区・V層・(1)、N-21区・V層・(11)、N-22区・V層・(3)											
胎土 (混和材)		繊維		無		粒径	細～中粒		種類	鉱物主体		量	中～多量		備考	—		
外 面	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	LR・RL羽状縄文		浅黄橙色 (10YR8/4)		—		—		胴部上半 (20%)		ナデ?		にぶい黄橙色 (10YR7/4)		—		磨耗	
	貼付帯 LR縄文 ヨコナデ		明黄褐色 (10YR7/6)		—		粘土のつなぎ目		胴部下半～底部 (70%)		ナデ?		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		黒色化炭化物付着		磨耗	
	ナデ		明黄褐色 (10YR7/6)		—		—		底面 (70%)		ナデ?		—		—		—	

表40 上幌内4遺跡 TP-29出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)						
							器高	口径	底径										
56	5	17	TP-29	覆土B層	—	1	(32.8)	24.3	—	3,200	口縁～胴部下位	深鉢	IV群a類 タブコブ式						
接合破片総点数		96		接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号 (点数)			L-22区・V層・(81)、M-22区・V層・(12)、N-21区・V層・(1)、O-23区・V層・(1)												
胎土 (混和材)		繊維		無		粒径	中～粗粒		種類	鉱物主体		量	多量		備考	石英			
外 面	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		
	ナデ		明赤褐色 (5YR5/6)		黒色化		—		口唇部 (50%)										
	貼付帯状の文様 凹線状の文様 RL縄文 円形刺突文		黒褐色 (7.5YR3/1)		黒色化		原体端部の回転圧痕		口縁部 (50%)		ナデ 指頭圧痕		明赤褐色 (5YR5/6)		—		—		
	RL縄文		にぶい褐色 (7.5YR5/4)		黒色化		原体端部の回転圧痕		胴部上半 (60%)		ナデ 指頭圧痕		明赤褐色 (5YR5/6)		—		—		
RL縄文		にぶい褐色 (7.5YR5/4)		赤色化? にぶい橙色 (2.5YR6/4)		—		—		胴部下半 (70%)		ナデ		(黒褐色)		黒色化		—	

表41 上幌内4遺跡 S-1出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
56	6	17	S-1	V層	1	9	(26.7)	24.4	—	1,980	口縁～胴部下位	深鉢	Ⅲ群b類 北筒式					
接合破片総点数		35		接合・同一個体破片出土地点・層位・遺物番号 (点数)			I-24区・V層・(1)、J-24区・V層・(12)、J-25区・V層・(7)、K-24区・V層・(6)											
胎土 (混和材)		繊維		無		粒径	中～粗粒		種類	岩石・鉱物ともにあり		量	多量		備考	石英・白色岩片		
外 面	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	ナデ		(黒褐色)		黒色化		—		口唇部 (50%)									
	円形刺突文 LR・RL結束第1種 羽状縄文		(黒褐色)		黒色化		補修孔 1か所		口縁部 (50%)		ナデ		黒褐色 (10YR3/1)		黒色化		—	
	LR・RL結束第1種 羽状縄文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		—		—		胴部上半 (30%)		ナデ		黒褐色 (10YR3/1)		黒色化		—	
LR・RL結束第1種 羽状縄文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		—		—		—		—		黒褐色 (10YR3/1)		黒色化		—		

表42 上幌内4遺跡 PS-1出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
57	7	18	PS-1	V層	—	165	56.4	36.1	16.6	6,300	口縁～底部	深鉢	Ⅲ群a類 円筒土器上層a式
接合破片総点数		167	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)			S-24区・V層・(2)							
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	中～粗粒	種類	岩石主体	量	多量	備考	亜角礫状の岩片 (白色 チャート)		
外 面	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他			
	貼付帯 L・R撚紐圧痕文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	突起4か所 上端が「M」字状に二股の形状	突起部 (75%)							
	貼付 L・R撚紐圧痕文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	—	口唇部 (80%)							
	貼付 L・R撚紐圧痕文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	補修孔貫通：1か所 外面からの非貫通：1か所	口縁部 (80%)	ヨコミガキ	褐色 (7.5YR4/6)	黒色化	—			
	貼付帯 L・R撚紐圧痕文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	頸部 (80%)	ミガキ	褐色 (7.5YR4/6)	黒色化	—			
	LR・RL結束第1種羽状縄文		にぶい褐色 (7.5YR5/4)	黒色化	—	胸部上半 (80%)	タテミガキ	褐色 (7.5YR4/6)	—	—			
	LR・RL結束第1種羽状縄文		褐色 (7.5YR4/6)	赤色化 赤色 (10YR5/6)	—	胸部下半～底部 (70%)	ミガキ	褐色 (7.5YR4/6)	黒色化	—			
ナデ		褐色 (7.5YR4/6)	—	やや上げ底	底面 (80%)	ミガキ	褐色 (7.5YR4/6)	—	—				

表43 上幌内4遺跡 PS-2出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
57	8	18	PS-2	V層	—	19	10.0	4.4	3.1	286	口縁～底部	注口土器	IV群b類 手稲式
接合破片総点数		20	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)			R-24区・V層・(1)							
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	少量	備考	石英		
外 面	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他			
	ミガキ		にぶい褐色 (7.5YR5/4)	—	—	口唇部 (100%)							
	ミガキ		にぶい褐色 (7.5YR5/4)	—	—	口縁部 (80%)	ミガキ	灰褐色 (7.5YR4/2)	—	—			
	ミガキ		にぶい赤褐色 (5YR5/4)	—	—	頸部 (70%)	ナデ	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	—	—			
	粘土貼付ミガキ		にぶい赤褐色 (5YR5/4)	—	—	注口部 (100%)	—	—	—	—			
	沈線文ミガキ		にぶい赤褐色 (5YR5/4)	—	—	胸部上半 (70%)	ナデ	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	—			
	沈線文ミガキ		にぶい黄褐色 (10YR5/4)	—	—	胸部下半～底部 (70%)	ナデ	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	—			
ナデ		にぶい黄褐色 (10YR5/4)	—	—	底面 (100%)	ナデ	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	—				

表44 上幌内4遺跡 PS-3A出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
57	9	18	PS-3A	V層	—	111	(26.8)	30.8	—	1,678	口縁～胸部下位	鉢	I群b類 東銅路IV式
接合破片総点数		127	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)			PS-3B・V層・(1)、Q-23区・V層・(14)、Q-24区・V層・(1)							
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	細粒	種類	鉱物主体	量	中量	備考	有色鉱物		
外 面	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他			
	ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	口唇部 (10%)							
	横走気味のR撚糸文L縄文?		(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—	口縁部 (10%)	ヨコナデ 指頭圧痕	灰黄褐色 (10YR5/2)	黒色化	—			
	横走気味のR・L撚糸文L縄文?		(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—	胸部上半 (10%)	ヨコナデ 指頭圧痕	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—			
L右巻き・R左巻き羽状撚糸文L縄文?		灰白色 (10YR8/2)	炭化物付着	—	胸部下半 (70%)	ヨコナデ 指頭圧痕	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	—				

表45 上幌内4遺跡 PS-3B出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
57	10	18	PS-3B	V層	—	54	31.7	36.3	9.0	1,958	口縁～底部	鉢	I群b類 東銅路IV式
接合破片総点数		59	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)				P-23区・V層・(2)、Q-23区・V層・(2)、R-23区V層・(1)						
胎土 (混和材)		繊維	少量	粒径	細粒	種類	岩石・鉱物 ともにあり		量	少量	備考	—	
外 面	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調	使用の痕跡	その他
	ナデ		にぶい黄橙色 (10YR7/3)	—	突起部 4か所		口唇部 (5%)						
	R右巻き 絡条体圧痕文		にぶい黄橙色 (10YR7/3)	黒色化	—		口縁部 (15%)		ヨコ ナデ	(黒褐色)	黒色化	—	
	L右巻き・R左巻き 羽状撫糸文 R右巻き 絡条体圧痕文		にぶい黄橙色 (10YR7/3)	—	—		胴部上半 (10%)		ヨコ ナデ	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—	
	L右巻き・R左巻き 羽状撫糸文		(橙色) (7.5YR7/6)	赤色化? 橙色 (7.5YR7/6)	—		胴部下半 ～底部 (5%)		ヨコナデ (工具のアタリ)	(黒褐色)	黒色化	—	
ナデ		黒褐色 (10YR3/1)	炭化物付着	平底			底面 (70%)		ナデ	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	黒色化	—	

表46 上幌内4遺跡 PS-5出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
58	11	18	PS-5	V層	12	1	(17.6)	23.2	—	900	口縁～ 胴部中位	深鉢	III群b類 柏木川式	
接合破片総点数		17	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)				PS-5・V層・15(1)・16(1)・18(1)、L-24区・V層・(3)、M-24区・V層・(10)							
胎土 (混和材)		繊維	中量	粒径	中～粗粒		種類	岩石主体		量	少量	備考	—	
外 面	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	
	半截竹管状工具 押引文? 刺突文?		にぶい褐色 (7.5YR5/4)	—	突起部 4か所		口唇部 (50%)							
	貼付 (剥離) LR縄文		にぶい橙色 (7.5YR6/4)	黒色化 炭化物付着	—		口縁部 (50%)		ナデ	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	—	—		
	LR縄文		にぶい橙色 (7.5YR6/4)	—	—		胴部上半 (30%)		ナデ	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	—	—		
LR縄文		にぶい橙色 (7.5YR6/4)	—	—		胴部下半 (10%)		ヨコナデ (工具のアタリ)	灰黄褐色 (10YR4/2)	—	—			

表47 上幌内4遺跡 PS-5A出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
58	12	19	PS-5A	V層	1	56	30.5	23.0	8.5	1,700	口縁～底部	深鉢	IV群a類 余市式	
接合破片総点数		66	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)				PS-5A・V層・(2)、M-24区・V層・(1)、N-20区・V層・(5)、N-26区・V層・(1)、P-24区・V層・(1)							
胎土 (混和材)		繊維	無	粒径	中粒		種類	岩石・鉱物 ともにあり		量	中量	備考	—	
外 面	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	
	ナデ		浅黄橙色 (10YR8/4)	黒色化	—		口唇部 (5%)							
	貼付帯 無文帯 LR・RL縄文		褐灰色 (10YR4/1)	黒色化 炭化物付着	縦方向 貼付 剥落?		口縁部 (5%)		ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	磨耗		
	LR・RL 羽状縄文		にぶい橙色 (7.5YR7/4)	—	縄端の 回転圧痕		胴部上半 (70%)		—	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	磨耗		
	LR・RL 羽状縄文		(にぶい橙色) (7.5YR7/4)	赤色化? にぶい橙色 (7.5YR7/4)	縄端の 回転圧痕		胴部下半 ～底部 (80%)		—	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化?	磨耗		
ナデ		にぶい橙色 (7.5YR7/4)	—	—		底面 (10%)		—	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	—	—			

表48 上幌内4遺跡 PS-5B出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
58	13	19	PS-5B	V層	1	10	(36.4)	—	—	2,920	胴部 上位～下位	深鉢	IV群a類 余市式			
接合破片 総点数		44	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)			PS-5B・V層・2(6)、PS-5B・V層・(14)、M-23区・V層・(4)、M-24区・V層・(8)、M-25区・V層・(1)、N-24区・V層・(1)										
胎土 (混和材)		繊維	無		粒径	中粒		種類	岩石主体		量	多量	備考	(亜角礫状の岩片)		
外 面	文様・調整		色調		使用の痕跡	その他		部 位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡	その他	
	貼付帯 LR・RL羽状縄文		灰黄褐色 (10YR5/2)		黒色化 炭化物付着	補修孔 1か所		胴部上半 (30%)		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		—	—	
	貼付帯 LR・RL羽状縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		—	—		胴部下半 (40%)		ナデ		(黒褐色)		黒色化	—	

表49 上幌内4遺跡 PS-6出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
58	14	19	PS-6	V層	5	46	(27.8)	30.1	—	2,380	口縁～ 胴部下位	深鉢	I群b類 東銅路IV式			
接合破片 総点数		104	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)			PS-6・V層・1(2)・2(5)・3(3)・4(2)、PS-6・V層・(38)、J-23区・V層・(2)、K-23区・V層・(6)										
胎土 (混和材)		繊維	無		粒径	細粒		種類	鉱物主体		量	中量	備考	石英・白色岩片		
外 面	文様・調整		色調		使用の痕跡	その他		部 位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡	その他	
	ナデ		(黒褐色)		黒色化 炭化物付着	突起部 4か所		口唇部 (90%)								
	L左右巻き 羽状燃糸文		(黒褐色)		黒色化 炭化物付着	—		口縁部 (90%)								
	L左右巻き 羽状燃糸文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		炭化物付着	—		胴部上半 (80%)		ナデ		(黒褐色)		黒色化 炭化物付着	—	
L左右巻き 羽状燃糸文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		赤色化 橙色 (2.5YR7/8)	—		胴部下半 (70%)		ナデ		(黒褐色)		黒色化 炭化物付着	—		

表50 上幌内4遺跡 PS-7出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)			
							器高	口径	底径							
58	15	19	PS-7	V層	1~3	100	(37.0)	28.3	—	3,290	口縁～底部	深鉢	II群a類 静内中野式			
接合破片 総点数		102	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)			J-23区・V層・(2) *現場での一次分類はすべてIV群										
胎土 (混和材)		繊維	極多量		粒径	中粒		種類	岩石主体		量	少量	備考	白色凝灰岩		
外 面	文様・調整		色調		使用の痕跡	その他		部 位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡	その他	
	ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		黒色化	波状		口唇部 (80%)								
	LR縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		黒色化	補修孔 貫通：2か所 内面から 非貫通：1か所		口縁部 (80%)								
	LR縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		—	—		胴部上半 (25%)		ナデ		(黒褐色)		黒色化	—	
	LR縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		赤色化 橙色 (2.5YR7/8)	剥離		胴部下半 ～底部 (30%)		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)		—	—	
尖底							底 面 (90%)		—		—		—	剥離		



表51 上幌内4遺跡 R-25区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
59	16	19	R-25区	V層	—	54	13.2	17.0	10.0	524	口縁～底部	鉢	I群b類 東銅路IV式					
接合破片総点数		55		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)			R-24区・V層・(1)											
胎土 (混和材)		繊維		無		粒径	細粒		種類	鉱物主体	量	中～多量	備考	石英				
外 面	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	ナデ		(黒褐色)		黒色化		突起部：2か所 小突起：2か所		口唇部 (80%)									
	LR・RL 羽状縄文		にぶい褐色 (7.5YR5/4)		黒色化		—		口縁部 (80%)		ナデ		(黒褐色)		黒色化 炭化物付着		—	
	LR・RL 羽状縄文		にぶい褐色 (7.5YR5/4)		—		—		胴部上半 (70%)		ナデ		(黒褐色)		黒色化 炭化物付着		—	
	LR・RL 羽状縄文		にぶい褐色 (7.5YR5/4)		—		—		胴部下半 ～底部 (80%)		ナデ		(黒褐色)		黒色化		—	
ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)		—		平底		底面 (40%)		ナデ		にぶい黄褐色 (10YR4/3)		黒色化		—		

表52 上幌内4遺跡 K-23区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
59	17	19	K-23区	V層	—	15	11.1	16.4	8.4	410	口縁～底部	鉢	I群b類 東銅路IV式					
接合破片総点数		19		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)			J-23区・V層・(4)											
胎土 (混和材)		繊維		少量		粒径	細粒		種類	鉱物主体	量	中量	備考	—				
外 面	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	ナデ		橙色 (7.5YR7/6)		炭化物付着		突起部：2か所		口唇部 (30%)									
	Rの左右巻 不整な 羽状燃糸文		橙色 (7.5YR7/6)		黒色化?		—		口縁部 (30%)		ヨコ ナデ		(黒褐色)		黒色化		—	
	Rの左右巻 不整な 羽状燃糸文		橙色 (7.5YR7/6)		黒色化?		補修孔：1か所		胴部上半 (30%)		タテ ナデ		(黒褐色)		黒色化		—	
	—		橙色 (7.5YR7/6)		黒色化?		—		胴部下半 ～底部 (20%)		タテ ナデ		(黒褐色)		黒色化		—	
ナデ		にぶい橙色 (7.5YR7/4)		—		やや上げ底		底面 (80%)		ナデ		浅黄褐色 (10YR8/3)		—		—		

表53 上幌内4遺跡 R-24区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)					
							器高	口径	底径									
59	18	19	R-24区	V層	—	44	18.8	15.5	8.7	836	口縁～底部	深鉢 小型	II群b類 植苗式					
接合破片総点数		44		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)			—											
胎土 (混和材)		繊維		多量		粒径	細粒		種類	岩石主体	量	多量	備考	白色岩片				
外 面	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他	
	LR縄文		にぶい橙色 (7.5YR7/4)		黒色化 炭化物付着		—		口唇部 (50%)									
	LR縄文		にぶい橙色 (7.5YR7/4)		—		—		口縁部 (50%)		LR縄文		(黒褐色)		黒色化 炭化物付着		—	
	LR縄文		にぶい橙色 (7.5YR7/4)		赤色化? 橙色 (7.5YR7/6)		—		胴部上半 (40%)		ヨコナデ (工具の痕跡)		にぶい橙色 (7.5YR7/4)		黒色化		—	
	LR縄文		にぶい橙色 (7.5YR7/4)		赤色化? 橙色 (7.5YR7/6)		—		胴部下半 ～底部 (40%)		ヨコナデ (工具の痕跡)		灰黄褐色 (10YR5/2)		黒色化		—	
	LR縄文		にぶい褐色 (7.5YR5/3)		—		—		底面 (30%)		ナデ		にぶい褐色 (7.5YR7/4)		—		—	

表54 上幌内4遺跡 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(土器型式)							
						小計	合計												
胎土(混和材)					文様・調整				色調		使用の痕跡								
繊維		粒径		種類		外面		内面		(部位)		外面		内面					
60	1	20	TP-8 K-23区	覆土B層 V層	—	1	2	胴部	24.0	深鉢	IV群a類								
なし		中～粗粒		鉱物主体 (石英)		R L縄文		ナデ		—		にぶい赤褐色 (5YR4/4)		(黒褐色)		—		黒色化	
60	2	20	TP-13	覆土	—	2		胴部	9.0	深鉢	IV群a類?								
中量		細粒		鉱物主体		不明 (磨耗)		ナデ		—		橙色 (7.5YR7/6)		(黒褐色)		—		黒色化	
60	3	20	TP-16	覆土B層	—	1		胴部	23.0	深鉢	IV群a類			余市式					
少量		細～中粒		岩石・鉱物 ともにあり		R L縄文		—		(貼付帯) L R縄文		にぶい橙色 (7.5YR7/4)		にぶい褐色 (7.5YR6/4)		—		炭化物付着	
60	4	20	TP-20	覆土B層	—	1		口縁部	5.0	深鉢	I群b類			東銅路IV式					
中量		細～中粒		岩石・鉱物 ともにあり		L左巻き? 燃糸文		ナデ		(口唇部) ナデ		にぶい褐色 (7.5YR6/4)		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		—		炭化物付着	
60	5	20	TP-20	覆土B層	—	2		胴部～底部	12.0	不明	I群b類			東銅路IV式					
少量		細粒		鉱物主体		無文? 条?		ナデ		—		褐色 (7.5YR6/6)		浅黄色 (2.5Y7/4)		—		黒色化 炭化物付着	
60	6	20	TP-21	覆土B層	—	1		胴部	11.0	深鉢	IV群a類								
なし		中～粗粒		鉱物主体 (石英)		L R縄文		ナデ		—		黄褐色 (10YR5/8)		(黒褐色)		—		黒色化 炭化物付着	
60	7	20	TP-22	覆土B層	—	1		胴部	13.0	深鉢	IV群a類								
少量		細粒		岩石・鉱物 ともにあり		L R縄文 綾糸文		ナデ		—		にぶい黄褐色 (10YR5/4)		(黒褐色)		—		黒色化 炭化物付着	
60	8	20	TP-24	覆土B層	—	1		口縁部	15.0	深鉢	IV群a類			余市式					
なし		中粒		鉱物主体		貼付帯(剥落) R L縄文		ナデ		(貼付帯) —		黄褐色 (7.5YR7/8)		褐色 (7.5YR7/6)		炭化物付着		—	
60	9	20	TP-25	覆土B層	—	1		胴部	9.0	深鉢	IV群a類								
少量		細粒		岩石・鉱物 ともにあり		L R縄文		ナデ		—		褐色 (7.5YR6/6)		灰黄褐色 (10YR4/2)		—		黒色化	
60	10	20	TP-26	覆土B層	—	1		胴部	21.0	深鉢	Ⅲ群								
中量		細粒		岩石・鉱物 ともにあり		L R縄文		ミガキ		—		褐色 (7.5YR6/6)		にぶい黄褐色 (10YR6/3)		—		—	
60	11	20	TP-27	覆土B層	—	2		胴部	22.0	深鉢	Ⅲ群								
中量		細～中粒		鉱物主体 (石英)		L R縄文		ナデ (沈線文状の調整痕)		—		にぶい褐色 (7.5YR5/4)		(黒褐色)		—		黒色化 炭化物付着	
60	12	20	TP-30 M-21区	覆土B層 V層	—	1	2	胴部	12.0	深鉢	I群b類			東銅路IV式 補修孔					
微量		細粒		鉱物主体		R燃糸文 Rの右巻き 絡糸体圧痕文		ナデ		—		にぶい褐色 (7.5YR7/4)		にぶい褐色 (7.5YR7/4)		黒色化		—	
60	13	20	TP-30	覆土B層	—	1		底部	17.0	深鉢	Ⅲ群? IV群?								
少量		中粒		鉱物主体 (石英)		ナデ		ナデ		(底外面) ナデ		赤褐色 (5YR4/6)		(黒褐色)		—		黒色化 炭化物付着	
60	14	20	PS-4	V層	—	5		口縁部	38.0	深鉢	I群b類			東銅路IV式					
微量		中～粗粒		鉱物主体		L左巻き・R右巻き 羽状燃糸文		ナデ?		(口唇部) ナデ		褐色 (7.5YR7/6)		にぶい褐色 (7.5YR7/4)		黒色化		—	
60	15	20	PS-4	V層	—	8		口縁部	40.0	深鉢	I群b類			東銅路IV式 16と同一個体					
微量		細～中粒		鉱物主体		L左巻き・R右巻き 羽状燃糸文 L・R左巻き 矢羽根状燃糸文		ナデ		(口唇部) ナデ		にぶい褐色 (7.5YR7/4)		灰黄褐色 (10YR4/2)		—		黒色化 炭化物付着	
60	16	20	PS-4	V層	—	7		胴部	46.0	深鉢	I群b類			東銅路IV式土器 15と同一個体					
微量		細～中粒		鉱物主体		L左巻き・R右巻き 羽状燃糸文		ナデ		—		にぶい褐色 (7.5YR7/4)		にぶい褐色 (7.5YR7/4)		—		黒色化	
60	17	20	PS-4	V層	—	8		胴部～底部	49.0	深鉢	I群b類			東銅路IV式					
微量		細～中粒		鉱物主体		R右巻き 燃糸文 横走～斜行		ナデ		(底外面) ナデ		褐色 (7.5YR6/6)		にぶい黄褐色 (10Y7/3)		—		黒色化 炭化物付着	
60	18	20	PS-6	V層	5	3		口縁部 (突起部)	34.0	深鉢	I群b類			東銅路IV式					
少量		中粒		鉱物主体		L左巻き・R右巻き 羽状燃糸文		ナデ		(口唇部) ナデ		にぶい黄褐色 (10YR6/4)		灰黄褐色 (10YR4/2)		黒色化 炭化物付着		黒色化 炭化物付着	
60	19	20	PS-6	V層	—	5		胴部	44.0	深鉢	I群b類			東銅路IV式					
少量		細粒		鉱物主体		R燃糸文		ナデ		—		明黄褐色 (10YR7/6)		(黒褐色)		—		黒色化 炭化物付着	
60	20	20	PS-6	V層	—	1		胴部～底部	16.0	深鉢	I群b類			東銅路IV式					
少量		細粒		鉱物主体		ナデ?		ナデ		—		明黄褐色 (10YR7/6)		(黒褐色)		—		黒色化 炭化物付着	

表54 上幌内4遺跡 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(土器型式)			
						小計	合計								
胎土(混和材)					文様・調整				色調		使用の痕跡				
繊維		粒径		種類		外面		内面		(部位)		外面		内面	
61	21	20	N-22区	V層	—	4	口縁部	63.0	深鉢	I群b類	東銅路IV式				
なし		中粒		鉤物主体		微隆起線文 R左巻き 絡糸体圧痕文 LR自縄自巻 R左巻き・L右巻き 羽状燃糸文		ナデ		(口唇部) ナデ		(黒褐色)		(黒褐色) 黒色化炭化物付着	
61	22	20	L-22区 N-22区	V層	—	1	口縁部	25.0	深鉢	I群b類	東銅路IV式				
なし		細粒		鉤物主体		R燃糸文 R縄線文		ナデ		—		にぶい黄褐色(10YR7/3)		にぶい黄褐色(10YR7/3) — 黒色化炭化物付着	
61	23	20	O-19区	V層	—	1	口縁部	23.0	深鉢	I群b類	東銅路IV式				
少量		細粒		鉤物主体		L左巻き・R右巻き 羽状燃糸文		ナデ		—		にぶい橙色(7.5YR6/4)		(黒褐色) 炭化物付着 黒色化炭化物付着	
61	24	20	N-22区	V層	—	5	胴部	53.0	深鉢	I群b類	東銅路IV式				
なし		中粒		鉤物主体		L右巻き・R左巻き 羽状燃糸文		ナデ		—		にぶい黄色(2.5Y6/3)		黒色(10YR2/1) 赤色化にぶい橙色(7.5YR6/4) 黒色化炭化物付着	
61	25	20	N-22区	V層	—	18	底部	101.0	深鉢	I群b類	東銅路IV式				
なし		中粒		鉤物主体		L右巻き・R左巻き 羽状燃糸文		ナデ		(底外面) ナデ		にぶい橙色(7.5YR7/4)		にぶい橙色(7.5YR7/4) 黒色化 炭化物付着	
61	26	20	R-27区	V層	—	1	底部	15.0	鉢?	I群b類	東銅路IV式				
少量		細~中粒		鉤物主体		L左巻き・R右巻き 燃糸文		ナデ		(底外面) R燃糸文		明黄褐色(10YR6/6)		灰黄褐色(10YR6/2) — 黒色化炭化物付着	
61	27	20	N-22区	V層	—	1	口縁部	8.0	深鉢	II群?	東銅路IV式				
多量		粗粒		岩石主体		LR?縄文		ナデ		—		(黒褐色)		(黒褐色) 黒色化 炭化物付着	
61	28	20	O-26区	V層	—	2	口縁部	49.0	深鉢	II群b類	大麻V式				
多量		細粒		鉤物主体		LR・RL 縄線文 羽状縄文		ナデ		(口唇部) LR・RL 縄線文・縄文		にぶい黄褐色(10YR7/4)		灰黄褐色(10YR5/2) 炭化物付着 —	
61	29	20	R-24区	V層	—	4	口縁部	109.0	深鉢	II群b類	大麻V式				
多量		細~中粒		鉤物主体		LR・RL 縄線文 羽状縄文		RL縄文		(口唇部) LR・RL 縄線文・縄文		灰白色(10YR8/2)		にぶい黄褐色(10YR5/4) 黒色化赤色化 橙色(2.5YR7/8) —	
61	30	20	M-22区	V層	—	1	口縁部	27.0	深鉢	II群b類?	東銅路IV式				
中~多量		細~中粒		岩石・鉤物 ともにあり		LR・RL 縄線文 羽状縄文		ナデ		(口唇部) RL縄文 ナデ		にぶい黄褐色(10YR7/3)		にぶい橙色(7.5YR7/4) — —	
61	31	20	L-21区	V層	—	1	口縁部	37.0	深鉢	II群b類	大麻V式				
多量		細~中粒		鉤物主体		LR・RL 縄線文 LR縄文		ナデ		(口唇部) RL縄文		(黒褐色)		灰黄褐色(10YR6/2) 炭化物付着 黒色化炭化物付着	
61	32	20	M-25区 M-26区	V層	—	1	口縁部	67.0	深鉢	II群b類	大麻V式				
多量		細~中粒		鉤物主体		LR・RL 縄線文 羽状縄文		ナデ		(口唇部) LR・RL 縄線文		にぶい黄褐色(10YR6/4)		褐色(10YR4/1) — 黒色化炭化物付着	
61	33	20	O-22区	V層	—	1	口縁部	26.0	深鉢	II群?	東銅路IV式				
中量		細~中粒		鉤物主体		LR・RL 羽状縄文		ナデ		—		灰白色(10YR8/2)		(黒褐色) 炭化物付着 黒色化炭化物付着	
61	34	20	O-21区 O-22区	V層	—	1	口縁部	64.0	深鉢	II群b類	大麻V式				
中量		細~中粒		鉤物主体		磨耗 羽状縄文?		ナデ		—		にぶい黄褐色(10Y7/4)		(黒褐色) — 黒色化炭化物付着	
61	35	20	L-22区	V層	—	8	胴部	81.0	深鉢	II群b類?	東銅路IV式				
少量		細粒		鉤物主体		LR縄文 (縦走)		ナデ・ミガキ		—		褐色(7.5YR4/6)		(黒褐色) 赤色化にぶい赤褐色(2.5YR5/4) 黒色化炭化物付着	
62	36	21	R-24区 S-24区	V層	—	3	口縁部 (突起部)	143.0	深鉢	III群a類	円筒土器上層c式				
中~多量		中~粗粒		鉤物主体		LR結束第1種 斜行縄文 貼付 LR・R縄線文 半截竹管刺突文		ミガキ		(口唇部) R燃糸刻み (貼付) L・R 縄の圧痕文		褐色(7.5YR4/6)		(黒褐色) — 黒色化	
62	37	21	L-21区	V層	—	1	口縁部	36.0	深鉢	III群b類	萩ケ岡2または3式				
中量		中粒		鉤物主体		貼付文 半截竹管沈線文		磨耗 ナデ?		(口唇部)磨耗 (貼付) 半截竹管沈線文		褐色(7.5YR7/6)		にぶい黄褐色(10YR7/4) — 黒色化	
62	38	21	J-24区	V層	—	3	口縁部	77.0	深鉢	III群b類	柏木川式				
中量		粗粒		岩石主体		貼付 刺突文 LR縄文		剥落 磨耗		(口唇部) 刺突文 (貼付) 指頭圧痕文		褐色(7.5YR7/6)		褐色(7.5YR6/6) — —	

表54 上幌内4遺跡 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(土器型式)			
						小計	合計								
胎土(混和材)					文様・調整				色調		使用の痕跡				
繊維		粒径		種類		外面		内面		(部位)		外面		内面	
62	39	21	K-23区	V層	—	1		口縁部	31.0	深鉢	Ⅲ群b類	柏木川式			
少量	粗粒		岩石主体		LR縄文貼付文		ナデ		(口唇部) LR縄文 刺突文 (貼付帯) 刺突文		黒褐色 (10YR3/1)	赤褐色 (5YR4/8)	黒色化	—	
62	40	21	L-24区 Q-26区 S-25区	V層	—	1 1 1	3	口縁部	109.0	深鉢	Ⅲ群b類	柏木川式 41と同一個体			
少量	中~粗粒		岩石・鉱物 ともにあり		LR結束第1種 斜行縄文 円形の刺突文		ナデ ミガキ		(口唇部) LR縄文 刺突文		にぶい褐色 (7.5YR6/4)	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	黒色化 炭化物付着	—	
62	41	21	N-21区 N-22区 N-26区	V層	—	1 1 1	3	胴部	141.0	深鉢	Ⅲ群b類	柏木川式土器 40と同一個体			
少量	中~粗粒		岩石・鉱物 ともにあり		LR結束第1種 斜行縄文 円形の刺突文		ナデ ミガキ		—		にぶい褐色 (7.5YR6/4)	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	黒色化 炭化物付着	—	
62	42	21	S-25層	V層	—	1		口縁部	16.0	深鉢	Ⅲ群b類				
微~少量	細粒		鉱物主体		LR縄文 半截竹管刺突文		LR縄文 絨絡文 半截竹管刺突文		(口唇部) 縄文 キザミ?		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	炭化物付着	—	
62	43	21	K-24層	V層	—	1		口縁部	35.0	深鉢	Ⅲ群b類	北筒式 44と同一個体			
微量	細~中粒		鉱物主体		押引文 円形刺突文 ナデ		ナデ		(口唇部) ナデ		にぶい褐色 (7.5YR6/4)	褐色 (7.5YR6/6)	黒色化	—	
62	44	21	K-24層 L-24層	V層	—	2 1	3	胴部	62.0	深鉢	Ⅲ群b類	北筒式? 43と同一個体			
少量	細~中粒		鉱物主体		LR縄文 縄線文 無文帯		ナデ		—		にぶい褐色 (7.5YR5/4)	褐色 (7.5YR6/6)	黒色化	—	
62	45	21	N-19区 L-22区	V層	—	3 1	4	口縁部	156.0	深鉢	Ⅲ群b類	柏木川式			
中~多量	細粒		鉱物主体		肥厚帯 押引文 刺突文 LR縄文		ナデ (工具のアタリ)		(口唇部) ナデ		褐色 (7.5YR6/6)	褐色 (7.5YR6/6)	炭化物付着	—	
62	46	21	L-23区 L-24区	V層	—	1 2	3	口縁部	126.0	深鉢	Ⅲ群b類	柏木川式			
中量	細~中粒		鉱物主体		LR縄文 半截竹管押引文 (沈線文状)		ナデ		(口唇部) ナデ 刻み		にぶい褐色 (7.5YR7/4)	にぶい褐色 (7.5YR7/4)	黒色化	—	
63	47	21	N-20区 N-22区	V層	—	1 2	3	口縁部	61.0	深鉢	IV群a類	余市式			
無	細~中粒		鉱物主体		R.L縄文 貼付帯 ナデ		ナデ		(口唇部) ナデ (貼付帯) LR縄文		灰黄褐色 (10YR5/2)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	—	
63	48	21	L-21区	V層	—	1		口縁部	99.0	深鉢	IV群a類	余市式			
無	中~粗粒		岩石・鉱物 ともにあり		LR縄文 貼付帯		ナデ		(口唇部) ナデ (貼付帯) LR・R・L 縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	赤色化 褐色 (5YR7/6)	—	
63	49	21	Q-27区 Q-28区	I層 V層 V層	—	7 3 1	11	口縁部	491.0	深鉢	IV群a類	余市式			
無	細~中粒		鉱物主体		L.R・R.L 羽状縄文 貼付帯 ナデ		ナデ		(口唇部) ナデ (貼付帯) LR縄文		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	黒色化	
63	50	21	S-24区	V層	—	4		口縁部	95.0	深鉢	IV群a類	タブコブ式			
無	粗粒		岩石主体		LR縄文 縄線文		ナデ (工具のアタリ)		(口唇部) LR縄文		褐色 (7.5YR7/6)	褐色 (7.5YR6/6)	—	—	
63	51	21	K-24区	V層	—	3		口縁部	59.0	深鉢	IV群a類	タブコブ式			
少量	中粒		鉱物主体		(磨耗) R.L縄線文?		ナデ		(口唇部) (磨耗)		褐色 (7.5YR6/6)	灰黄褐色 (10YR4/2)	—	—	
63	52	21	L-22区	V層	—	1		口縁部	16.0	深鉢	IV群a類				
少量	細粒		岩石・鉱物 ともにあり		LR縄文		ナデ		(口唇部) ナデ		にぶい褐色 (7.5YR6/4)	(黒褐色)	黒色化	黒色化	
63	53	21	L-21区	V層	—	1		底部	36.0	深鉢	IV群a類				
少量	中粒		鉱物主体 (石英)		ナデ		ナデ		(底外面) ナデ		赤褐色 (5YR4/6)	(黒褐色)	—	黒色化	
63	54	21	P-26区	V層	—	5		底部	35.0	深鉢	IV群a類				
少~中量	細粒		岩石主体		LR縄文		剥離		(底外面) ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	—	—	
63	55	21	Q-26区	V層	—	3		底部	68.0	深鉢	IV群a類				
少量	中粒		岩石・鉱物 ともにあり		R.L縄文		剥離		(底外面) ナデ		浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	赤色化 褐色 (2.5YR7/6)	—	

表55 上幌内4遺跡 V層 遺構出土石器等観察表(1)

図	掲載		出土地点	層位	遺物番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存状態	特徴観察事項	備考
	番号	図版					長さ	幅	厚さ		岩石名	特徴			
64	1	22	H-1	覆土B層	—	石槍・ナイフ	(5.7)	3.5	0.9	14.2	黒曜石	—	準完形	稜磨減基部破損	被熱
	2	22	H-1	床面	1	つまみ付きナイフ	13.9	4.0	1.3	59.9	黒曜石	原礫面残る	完形	大型 両面加工原礫面	
	3	22	TP-4	覆土B層	—	石鏃	(2.2)	1.5	0.4	1.2	黒曜石	—	半形	先端部破損	
	4	22	TP-16	覆土B層	—	石鏃	5.0	2.3	0.7	4.8	黒曜石	小球果	完形	左右非対称	
	5	22	TP-16	覆土B層	—	つまみ付きナイフ	6.0	4.1	1.0	15.3	黒曜石	球果	完形	両面加工	
	6	22	TP-16	覆土B層	—	スクレイパー	4.1	3.6	1.5	16.9	黒曜石	原礫面残る	完形	両側縁鋸歯状	
	7	22	TP-25	覆土B層	—	つまみ付きナイフ	5.6	3.0	1.2	14.4	黒曜石	—	完形	両面加工	
	8	22	TP-25	覆土B層	—	スクレイパー	5.2	2.3	1.1	8.8	黒曜石	—	完形	背面両側縁下部に刃部	
	9	22	FC-1	V層	—	スクレイパー	(2.1)	2.9	0.7	3.5	黒曜石	—	半形	両面加工	
	10	22	FC-1	V層	—	石核	4.6	3.5	1.8	27.2	黒曜石	小球果筋状	—	原礫面剥離面	
65	11	22	H-1	覆土B層	—	磨製石斧	7.2	3.9	1.9	80	緑色泥岩	暗緑灰色7.5G14/1	半形	刃部破損 下端面と両側面に敲打痕	
	12	22	H-1	覆土B層	—	すり石	13.8	6.7	3.5	440	片岩	緑灰色10G16/1	完形	表裏面にすり痕	
	13	22	H-1	床面直上覆土B層	5	たたき石	17.9	10.0	3.3	572	砂岩	中粒 灰オリーブ色 5Y5/2	完形	両側面にたたき痕	接合被熱
	14	22	H-1	床面直上	7	すり石	(19.4)	7.8	3.1	555	砂岩	細粒 黄灰色 2.5Y6/1	準完形	表裏面下半部と下部にすり痕	被熱
	15	22	H-1	床面	18	砥石	20.0	10.2	6.6	1,155	砂岩	粗粒 灰色 5Y5/1	片	四面に使用痕	被熱
	16	22	H-1	床面直上	10	砥石	13.4	6.8	1.7	148.9	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	片	表面と右側縁にすり痕	接合
	17	22	H-1	床面	19	台石・石皿	21.2	10.9	7.0	2,200	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	片	表面と左側面にすり痕	
66	18	22	H-2	覆土B層	—	たたき石	(7.9)	5.5	3.5	166.2	砂岩	粗粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	片	表裏面と右側縁にたたき痕 上下端部破損	
	19	22	H-2	床面	2	台石・石皿	(17.4)	15.1	7.6	2,460	砂岩	粗粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	半形	表裏面にたたき痕とすり痕 上部破損	
	20	23	TP-5	覆土B層	—	台石・石皿	(12.4)	(12.8)	7.7	950	砂岩	中粒 灰黄色 2.5Y6/2	片	表面にすり痕とたたき痕	被熱
	21	23	TP-6	覆土B層	—	たたき石	14.9	9.2	4.8	560	凝灰岩	微粒 浅黄色 2.5Y7/3	完形	表面にたたき痕	
	22	23	TP-6	覆土B層	—	台石・石皿	28.4	25.8	5.0	3,400	砂岩	粗粒 灰黄色 2.5Y6/2	片	表面すり痕 裏面破損	被熱
	23	23	TP-8	覆土B層	—	たたき石	(5.2)	4.1	4.3	83.0	凝灰岩	微粒 灰黄色 2.5Y7/2	片	下部にたたき痕と剥落痕 上部破損	
	24	23	TP-11	覆土B層	—	砥石	(10.3)	6.2	5.9	500	砂岩	細粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	片	表裏面にすり痕	
67	25	23	TP-12	覆土B層	—	台石・石皿	38.6	21.5	7.9	9,770	砂岩	細粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	表面にすり痕とたたき痕	
	26	23	TP-13	覆土B層	—	たたき石	(9.1)	4.0	3.1	124.8	砂岩	細粒 に、ふい黄色 2.5Y6/3	準完形	側縁から裏面にたたき痕 下部破損	被熱
	27	23	TP-13	覆土B層	—	砥石	11.0	10.6	3.1	360	砂岩	細粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	片	表面に砥面 一部溝状	
	28	23	TP-13	覆土B層	—	台石・石皿	39.4	22.2	17.9	24,200	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	表面と左側面にすり痕 表面に溝状のくぼみ	被熱
68	29	24	TP-16	覆土B層	—	砥石	(11.2)	(9.4)	2.2	202	砂岩	細粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	片	表裏面にすり痕	被熱
	30	24	TP-16	覆土B層	—	台石・石皿	(19.8)	11.0	10.0	2,530	砂岩	細粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	片	表裏面たたき痕 表面すり痕	
	31	24	TP-17	覆土	—	たたき石	12.0	6.3	3.6	300	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	表面に凹状のたたき痕	
	32	24	TP-17	覆土B層	—	台石・石皿	(28.0)	19.7	10.3	6,350	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	表面にたたき痕とすり痕	
	33	24	TP-22	覆土B層	—	たたき石	15.9	10.8	4.5	850	砂岩	粗粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	表裏面の中央と側縁部にたたき痕	
	34	24	TP-25	覆土B層	—	すり石	(6.8)	5.2	1.5	69.5	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	片	全面にすり痕 下部破損	

表55 上幌内4遺跡 V層 遺構出土石器等観察表(2)

掲載 図 番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存 状態	特徴 観察事項	備考	
						長さ	幅	厚さ		岩石名	特徴				
69	35	24	TP-26	覆土B層	—	たたき石	18.3	7.3	2.7	450	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	表裏面と下端面に たたき痕 下端面すり痕	
	36	24	TP-26	覆土B層	—	すり石	7.4	13.3	5.5	450	砂岩	中粒 灰黄色 2.5Y6/2	準完形	表面と一側縁部に すり面	
	37	24	TP-26	覆土B層	—	台石・石皿	45.3	31.3	15.9	20,600	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	表面にすり痕 溝状のくぼみ	
	38	25	TP-27	覆土B層	—	砥石	20.8	15.1	7.0	3,720	砂岩	細粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	片	両面に砥面	
70	39	25	TP-31	覆土B層	—	台石・石皿	(29.0)	(13.3)	7.9	3,600	砂岩	粗粒 にぶい赤褐色 5YR5/3	片	表面にすり痕	被熱
	40	25	TP-31	覆土B層	—	台石・石皿	26.7	(15.5)	7.9	3,650	砂岩	粗粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	片	表面に すり痕とたたき痕	
	41	25	F-1	R層	—	たたき石	(10.8)	7.0	2.4	242.5	砂岩	微粒 にぶい黄褐色 10YR6/3	片	表裏面にたたき痕 下部破損	被熱
	42	25	S-1	V層	5	すり石	13.3	7.8	3.4	470	砂岩	微粒 にぶい黄褐色 10YR5/3	完形	表裏面にすり痕	被熱 接合
	43	25	S-1	V層	13	すり石	9.9	7.4	2.9	262	砂岩	微粒 にぶい褐色 7.5YR5/3	完形	表裏面にすり痕 下端部にたたき痕	被熱
	44	25	S-1	V層	2・4	台石・石皿	17.9	11.4	7.8	1,266	砂岩	中粒 にぶい赤褐色 5YR5/3	完形	表面にたたき痕	被熱 接合
	45	25	S-1	V層	7・8・9	台石・石皿	16.7	12.8	3.6	839	砂岩	細粒 にぶい褐色 7.5YR5/3	準完形	表裏面にすり痕	被熱 接合
	46	25	S-1	V層	12	台石・石皿	13.2	14.3	5.8	1,047	砂岩	中粒 にぶい赤褐色 5YR5/3	完形	表面に すり痕とたたき痕	被熱

表57 上幌内4遺跡 フローテーション法回収遺物一覧表

年度	試料 番号	採取 年月日	目的物	遺構名	採取地点 (付属遺構名)	層位	土壌試料		水洗 年月日	水洗後 乾燥状態			自然遺物			人工遺物			備考	
							乾燥状態			名称	篩の目	重量 %	植物 遺存体	動物 遺存体	炭化材 炭化物	石器等				
							重量 %	体積 %								土器	フリック	レキ片		鉄片
																黒曜石	石片			
平成27 (2015)年度	—	2015/8/26	放射性炭素 年代測定用試料	H-2	hf-1	焼土	350	0.5	2015/10/14	残渣	1.41mm	37.0	—	—	○	—	1	—	—	
										浮遊物	2.0mm	1.2								0.425mm
	—	2015/8/26	放射性炭素 年代測定用試料	H-2	hc-1	—	60	0.1	2015/10/14	残渣	1.41mm	16.0	—	—	○	—	—	—	—	KH4-2
										浮遊物	2.0mm	3.7								
平成28 (2016)年度	—	2016/6/6	炭化種子 同定用試料	UF-1	—	焼土	1,220	1.5	2016/9/5	残渣	1.41mm	13.0	—	—	—	—	—	—	—	植物遺存体は すべて未炭化 である
										浮遊物	2.0mm	2.0								

表56 上幌内4遺跡 V層 包含層出土石器等観察表(1)

掲載 図	掲載 番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存 状態	特徴 観察事項	備考
							長さ	幅	厚さ		岩石名	特徴			
71	1	26	O-22区	V層	—	石鏃	2.2	1.5	0.3	0.7	黒曜石	—	完形	基部直線的	
	2	26	O-22区	V層	—	石鏃	1.9	1.5	0.3	0.6	黒曜石	—	完形	基部やや内湾	
	3	26	R-25区	V層	—	石鏃	(1.7)	1.0	0.2	0.3	黒曜石	—	準完形	小型腹面に剥離面	
	4	26	M-23区	V層	—	石鏃	2.5	1.5	0.4	0.9	黒曜石	小球果	完形	左側縁一部破損	
	5	26	O-22区	V層	—	石鏃	2.9	1.7	0.6	1.6	黒曜石	小球果筋状	完形	左右非対称背面に原礫面	
	6	26	O-22区	V層	—	石鏃	3.1	1.8	0.6	1.9	黒曜石	小球果筋状	完形	側縁部鋸歯状	
	7	26	N-21区	V層	—	石鏃	4.4	2.5	0.6	5.5	黒曜石	—	完形	先端部折れ面再加工	
	8	26	O-21区	V層	—	石鏃	3.7	2.3	0.8	4.4	黒曜石	—	完形	左右非対称	
	9	26	M-19区	V層	—	石鏃	4.7	2.3	0.6	3.7	黒曜石	—	完形	槌状剥離	
	10	26	S-25区	V層	—	石鏃	4.5	1.9	0.6	3.3	黒曜石	—	完形	側縁部鋸歯状腹面に剥離面	
	11	26	N-24区	V層	—	石鏃	3.0	1.1	0.2	0.6	黒曜石	—	完形	薄い	
	12	26	P-22区	V層	—	石鏃	4.8	2.4	0.6	3.9	黒曜石	—	完形	右側縁部内湾	
	13	26	O-22区	V層	—	石鏃	(4.9)	2.6	0.9	6.6	黒曜石	—	完形	左側縁部直線的右側縁部曲線的	
	14	26	L-23区	V層	—	石鏃	3.6	1.9	0.5	2.4	黒曜石	—	完形	側縁部曲線的	
	15	26	M-23区	V層	—	石鏃	4.2	2.2	0.7	5.2	黒曜石	—	完形	左右非対称基部が幅広	
	16	26	R-24区	V層	—	石槍・ナイフ	12.6	3.2	1.4	48.0	頁岩	—	完形	背面微細な剥離痕	
	17	26	O-21区	V層	—	石槍・ナイフ	7.9	2.6	0.8	12.0	黒曜石	—	完形	側縁部鋸歯状	
	18	26	O-27区	V層	—	石槍・ナイフ	(5.8)	1.8	0.9	6.3	黒曜石	小球果	完形	側縁部鋸歯状	
	19	26	L-22区	V層	—	石槍・ナイフ	(5.0)	2.0	1.1	9.2	黒曜石	梨肌状	完形	両側縁に微細な剥離痕	
	20	26	P-24区	V層	—	石槍・ナイフ	6.2	2.0	0.9	8.0	黒曜石	—	完形	基部直線的	
	21	26	Q-24区	V層	—	石槍・ナイフ	6.0	2.8	0.9	11.0	黒曜石	—	完形	有茎両側縁部曲線的	
	22	26	P-26区	V層	—	石錐	2.9	0.9	0.4	1.0	黒曜石	—	完形	棒状腹面に剥離面	
	23	26	Q-23区	V層	—	石錐	3.3	1.3	0.5	1.8	黒曜石	—	完形	つまみ付きナイフ転用品?	被熱
	24	26	R-26区	V層	—	石錐	4.8	2.2	0.7	5.8	黒曜石	赤褐色部分あり	完形	つまみ付きナイフ転用品?	
72	25	26	O-24区	V層	—	つまみ付きナイフ	(4.8)	2.6	0.9	8.5	黒曜石	—	完形	上端面に原礫面	
	26	26	R-25区	V層	—	つまみ付きナイフ	6.6	4.0	1.3	16.9	黒曜石	—	完形	右側縁に微細な剥離痕	
	27	26	P-20区	V層	—	つまみ付きナイフ	5.0	2.6	1.0	7.0	頁岩	褐灰色10YR4/1	完形	腹面に剥離面	
	28	26	N-21区	V層	—	つまみ付きナイフ	5.9	3.7	1.2	13.6	黒曜石	—	完形	両面加工	
	29	26	L-24区	V層	—	つまみ付きナイフ	5.8	3.4	1.7	15.6	頁岩	灰黄色2.5Y6/2	完形	腹面に剥離面	
	30	26	O-25区	V層	—	スクレイパー	5.1	1.8	1.2	6.6	黒曜石	—	完形	背面に原礫面	
	31	26	O-21区	V層	—	スクレイパー	6.3	2.7	1.0	13.0	黒曜石	にぶい赤褐色7.5YR4/4部分が混じる	完形	背腹面右側縁に微細な剥離痕	
	32	26	R-26区	V層	—	スクレイパー	5.0	2.2	0.8	7.2	黒曜石	—	完形	背面加工左側縁内湾	
	33	26	O-24区	V層	—	スクレイパー	3.7	2.0	0.9	3.6	黒曜石	—	完形	背面加工側面に原礫面	
	34	26	L-24区	V層	—	スクレイパー	5.3	3.3	1.4	10.5	黒曜石	小球果筋状	完形	背面に原礫面背面左側縁に刃部	
	35	26	N-23区	V層	—	スクレイパー	3.7	2.8	1.2	8.6	黒曜石	—	完形	背面と側面に原礫面	
	36	26	R-26区	V層	—	スクレイパー	2.9	3.7	1.2	10.2	黒曜石	—	完形	背腹面上部に原礫面左側縁に刃部	
	37	26	O-21区	V層	—	スクレイパー	2.2	1.8	0.8	2.6	黒曜石	光沢なし	完形	背面加工	被熱
	38	26	S-25区	V層	—	スクレイパー	3.0	3.3	1.0	8.6	黒曜石	—	完形	ラウンドスクレイパー	
	39	26	M-23区	V層	—	スクレイパー	(3.5)	1.4	0.5	1.1	黒曜石	—	完形	両側縁に抉り形状微細な剥離痕	
	40	26	N-20区	V層	—	石核	2.1	2.7	1.2	7.7	黒曜石	—	—	複数の剥離面裏面に原礫面	
	41	26	L-23区	V層	—	石核	2.2	3.3	3.3	21.1	黒曜石	小球果筋状	—	複数の剥離面上端面に原礫面	
	42	26	O-21区	V層	—	石核	3.9	4.5	3.7	60.5	チャート	灰白色5Y8/1	—	複数の剥離面上端面に原礫面	
	43	26	M-25区	V層	—	石核	6.2	6.1	4.1	134.4	チャート	灰白色5Y8/1	—	複数の剥離面裏面に原礫面	
	44	26	O-20区	V層	—	石核	2.8	6.3	2.9	39.7	チャート	灰白色5Y7/2	—	複数の剥離面	
73	45	27	O-21区	V層	—	磨製石斧	(8.6)	3.8	1.4	68.1	緑色泥岩	緑灰色10GY5/1	完形	全面研磨上部欠損	
	46	27	N-19区	V層	—	磨製石斧	14.1	2.6	1.6	111	片岩	暗緑灰色10G13/1	完形	全面に研磨痕	

表56 上幌内4遺跡 V層 包含層出土石器等観察表(2)

図	掲載		出土地点	層位	遺物番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存状態	特徴観察事項	備考
	番号	図版					長さ	幅	厚さ		岩石名	特徴			
73	47	27	N-23区	V層	—	磨製石斧	14.3	6.2	3.3	460	緑色泥岩	緑灰色 10G15/1	完形	全面に研磨痕 刃部に剥落痕	
	48	27	Q-26区	V層	—	たたき石	10.1	8.0	3.9	550	緑色泥岩	緑灰色 7.5G16/1	完形	側面にたたき痕 裏面にすり痕	
	49	27	Q-25区	V層	—	たたき石	11.9	7.4	5.2	800	砂岩	粗粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	表面に 凹状のたたき痕 裏面に すり痕とたたき痕	
	50	27	P-20区	V層	—	たたき石	17.1	7.0	3.4	500	砂岩	粗粒 黄灰色 2.5Y4/1	完形	表裏面に 凹状のたたき痕	
	51	27	M-23区	V層	—	たたき石	12.2	7.5	2.0	245	凝灰岩	細粒 硬質 灰白色 2.5Y8/1	完形	表裏面に 凹状のたたき痕	
	52	27	K-23区	V層	—	たたき石	12.0	5.0	4.1	218	砂岩	細粒 にぶい黄橙色 10YR6/3	完形	側縁部に たたき痕	被熱
	53	27	K-23区	V層	—	たたき石	11.7	7.5	3.0	273	凝灰岩	微粒 にぶい黄色 2.5Y6/3	完形	側縁部たたき痕 表裏面すり痕	
	54	27	R-25区	V層	—	たたき石	17.6	6.4	2.3	345	砂岩	細粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	両側面の上部側に たたき痕	
74	55	27	L-24区	V層	—	すり石	17.8	6.0	5.7	533	片麻岩	微粒 にぶい黄橙色 10YR6/4	完形	全面にすり痕 表面にたたき痕	
	56	27	N-25区	V層	—	すり石	11.8	6.6	2.9	270	凝灰岩	細粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	表裏面に すり痕・たたき痕 側面にたたき痕	接合
	57	27	P-20区	V層	—	すり石	9.6	3.4	1.4	53.7	凝灰岩	微粒 灰黄色 2.5Y7/2	完形	全面にすり痕	
	58	27	L-24区	V層	—	すり石	10.0	4.4	1.5	86	凝灰岩	微粒 浅黄色 2.5Y7/3	完形	表裏面にすり痕	
	59	27	O-21区	V層	—	すり石	8.0	15.7	6.1	850	砂岩	細粒 黄灰色 2.5Y5/1	完形	下端面にすり痕	
	60	27	R-26区	V層	—	すり石	10.4	16.2	4.8	1,160	砂岩	粗粒 にぶい赤褐色 5YR5/3	完形	側面に 剥離痕と敲打痕 下端面にすり痕	被熱
	61	27	Q-28区	V層	—	北海道式石冠	10.1	15.3	5.3	988	砂岩	細粒 灰黄色 2.5Y6/2	準完形	下端部にすり面 表裏面に敲打痕	炭化物 付着
75	62	28	M-22区	V層	—	北海道式石冠	10.8	(12.9)	6.8	1,000	砂岩	粗粒 灰黄色 2.5Y7/2	準完形	下端部にすり面 表裏面に敲打痕	
	63	28	O-21区	V層	—	北海道式石冠	8.9	10.9	5.7	725	砂岩	細粒 黄灰色 2.5Y5/1	完形	下端部にすり面 表裏面に敲打痕	
	64	28	L-21区	V層	—	砥石	20.9	15.8	6.4	2,850	砂岩	細粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	片	表裏面に砥面	接合
	65	28	L-23区	V層	—	砥石	(7.8)	4.7	4.0	137	凝灰岩	細粒 灰黄色 2.5Y6/2	完形	四面に砥面	
	66	28	R-24区	V層	—	砥石	13.3	6.0	5.7	550	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	片	表面と右側面に 砥面	
	67	28	P-27区	VI層	—	砥石	17.4	11.8	2.8	1,120	砂岩	細粒 灰黄色 2.5Y6/2	完形	表面と側面に 砥面	
	68	28	Q-25区	V層	—	砥石	40.5	23.9	11.6	9,700	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	準完形	表面に砥面	
	69	28	O-24区	I層	—	砥石	8.0	6.8	2.4	123	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	片	表裏面と側面に 溝状の砥面	
76	70	29	S-24区	V層	—	台石・石皿	38.3	25.8	14.6	23,800	砂岩	中粒 にぶい黄色 2.5Y6/3	完形	たたき痕 すり痕	
	71	29	Q-26区	V層	—	台石・石皿	59.1	41.4	11.0	3,680	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	大型 たたき痕とすり痕	
77	72	30	R-25区	V層	—	台石・石皿	32.7	27.3	15.7	17,000	砂岩	細粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	準完形	表面に すり痕とたたき痕	
	73	30	Q-25区	V層	—	台石・石皿	94.9	28.5	20.5	51,000	砂岩	細粒 灰黄色 2.5Y6/2	準完形	表面に すり痕とたたき痕 下端部は加工痕?	
78	74	30	M-22区	V層	—	玉	3.2	2.8	1.0	12.9	橄欖岩	オリープ黒色 10Y3/1	完形	上部に穿孔	
	75	30	Q-22区	V層	—	石製品	5.1	5.1	2.3	52.9	砂岩	細粒 灰黄色 2.5Y6/2	完形	表裏面に 多数の線状の刻み	
	76	30	P-20区	V層	—	石製品	8.3	4.1	2.5	87.0	砂岩	粗粒 灰黄色 2.5Y7/2	完形	紡錘形に作出? 研磨痕?	
	77	30	L-23区	V層	—	石製品	4.3	4.4	2.0	43.9	砂岩	細粒 暗灰黄色 2.5Y5/2	完形	小型の 北海道式石冠	
	78	30	N-21区	V層	—	石製品	(6.7)	6.7	2.9	134.5	砂岩	中粒 黄灰色 2.5Y4/1	片	小型の 北海道式石冠	



## VII章 上幌内5遺跡 遺構

### 1. 概要(図79)

調査した遺構は竪穴住居跡(H)1軒、土坑(P)8基、小土坑(SP)1基で、すべて無名の沢(イタルイカ)の左岸L地区でみつかった。竪穴住居跡はL-3地区で楕円形のH-1を調査し、縄文時代早期または中期と推測している。土坑はL-1地区でP-1、L-3地区の東側でP-8、西側ではP-2~7を調査した。P-1は楕円形、P-8は細長い。西側のものは円形または楕円形で、礫石器やレキがまとまって出土した。小土坑はL-3地区西側で1か所みつかった。多くみつかったTピット(TP)は第4節で述べる。また、図79でR-3地区の中央付近にのみV層上面の等高線を図示したが、この部分は包含層調査の予定範囲であったが、遺構確認調査に切り換えた(III章3節参照)。また、この沢への崖が左岸のL-1・4地区、右岸のR-2地区にみられ、これより沢に近い低位部に遺構はみられなかった。

### 2. 竪穴住居跡

H-1 (図80 表58・59 図版32)

位置 b・c・d-44・45・46区 規模 7.60×5.16 / 7.30×4.40 / 0.54m

平面形態 楕円形

**確認・調査** 建設機械による表土除去作業中、VII層が傾斜し黒色土がみられた。調査区無名の沢へ傾斜する地形と考え、この黒色土を掘削するように指示した。しかし、北西から北側、そして北東側でVII層が再びみられ、楕円形の広い黒色土の堆積で遺構と考えられた。その後、人力で調査を開始した。黒色土が残る北東側部分で土層を観察したところ、平坦な面と壁の立ち上がりが見られたので、遺構と判断した。規模から竪穴住居跡と考えられ、段や土坑、柱穴・杭穴を確認した。

**覆土** 北東側部分で覆土最下層を確認し、炭化物が微量に混じる。

**床面・壁** 壁はゆるやかに立ち上がり、坑底面は曲線的で中央がくぼむ。

**付属遺構** 土坑hp-1を1基、柱穴・杭穴hp-2~4を3か所、そして段を確認した。

土坑 hp-1 規模 0.76×0.46 / 0.64×0.36 / 0.06m 平面形態 楕円形

柱穴・杭穴 hp-2 規模 0.28 / 0.20 / 0.20m 平面形態 円形

hp-3 規模 0.14 / — / 0.08m 平面形態 円形

hp-4 規模 0.24 / 0.08・0.10 / 0.06m 平面形態 円形

段 規模 2.80×1.54 / 2.52×1.18 / (0.12)m 平面形態 不整な楕円形

土坑hp-1は楕円形で住居跡の北西側に位置し、軸方向は一致しない。柱穴・杭穴は、hp-2は径が大きく、hp-3は小さい。hp-4は底面を2か所確認した。段は北東側に位置し底面は平坦である。

**重複** 南西側部分の壁際で、TP-17・18と重なるが、覆土を調査できなかったため、新旧関係は不明である。

**遺物出土状況** 床面出土の遺物はI群土器、石鏃、フレイク、台石・石皿、レキがあり、覆土からは石鏃、石槍・ナイフ、磨製石斧、砥石等が出土した。

**時期** 出土土器から縄文時代早期の可能性があるが、放射性炭素年代測定の結果は5292calBP-

5044c1BP(95.4%) (2σ 暦年代) で、縄文時代中期中葉と考えられる。

### 3. 土坑・小土坑 (図81～85 表60・61 図版33・34)

P-1 (図81 表60 図版33)

**位置** a-37区 **規模** 1.23×0.76 / 0.76×0.45 / 0.24m **平面形態** 楕円形  
**確認・調査** 遺構確認調査中、楕円形の黒色土がみられた。半截し平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。  
**覆土** 黒色土主体で、上位のくぼみにはI層の盛土が堆積していた。  
**坑底面・壁** 坑底は短軸方向が平坦で、長軸方向が曲線的である。壁は大きく開いて立ち上がる。  
**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。

P-2 (図81 表60 図版33)

**位置** k-54区 **規模** 1.23×0.67 / 0.63×0.22 / 0.52m **平面形態** 楕円形  
**確認・調査** 遺構確認調査中、楕円形の黒色土がみられた。半截したところ平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。  
**覆土** 上～中位は黒色土主体で、下位の第3層は褐色を呈する。  
**坑底面・壁** 坑底は概ね平坦で、壁は大きく開いて立ち上がり、南側では曲線的である。  
**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。

P-3 (図82 表60 図版33)

**位置** j・k-53区 **規模** 1.84×1.53 / 1.00×0.42 / 0.84m **平面形態** 楕円形  
**確認・調査** 遺構確認調査中、楕円形の土がみられた。半截したところ平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。  
**覆土** 最上位のくぼみにIV層T a-cが厚く堆積しており、第1層は褐色土主体である。  
**坑底面・壁** 坑底は概して平坦で、壁は大きく開口気味に立ち上がる。  
**遺物出土状況** 覆土からIV群土器の胴部と底部破片、台石・石皿、U・Rレキが出土した。  
**時期** 出土土器から縄文時代後期初頭と判断される。

P-4 (図82 表60 図版33)

**位置** i-53区 **規模** 1.11×0.95 / 0.90×0.56 / 0.28m **平面形態** 楕円形  
**確認・調査** 遺構確認調査中、レキと楕円形の土がみられたので、半截したところ平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。  
**覆土** 第2層の上位の層界は、中央がくぼむ形状で堆積する。  
**坑底面・壁** 坑底は、長軸方向は中央が低く、短軸方向は北側へ傾斜する。  
**遺物出土状況** 覆土から台石・石皿・レキがまとまって出土した。  
**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。

P-5 (図83 表60 図版34)

**位置** i-53区 **規模** 1.06×0.66 / 0.70×0.15 / 0.32m **平面形態** 楕円形  
**確認・調査** 遺構確認調査中、楕円形の黒色土がみられた。半截したところ平坦な面と壁の立ち上が

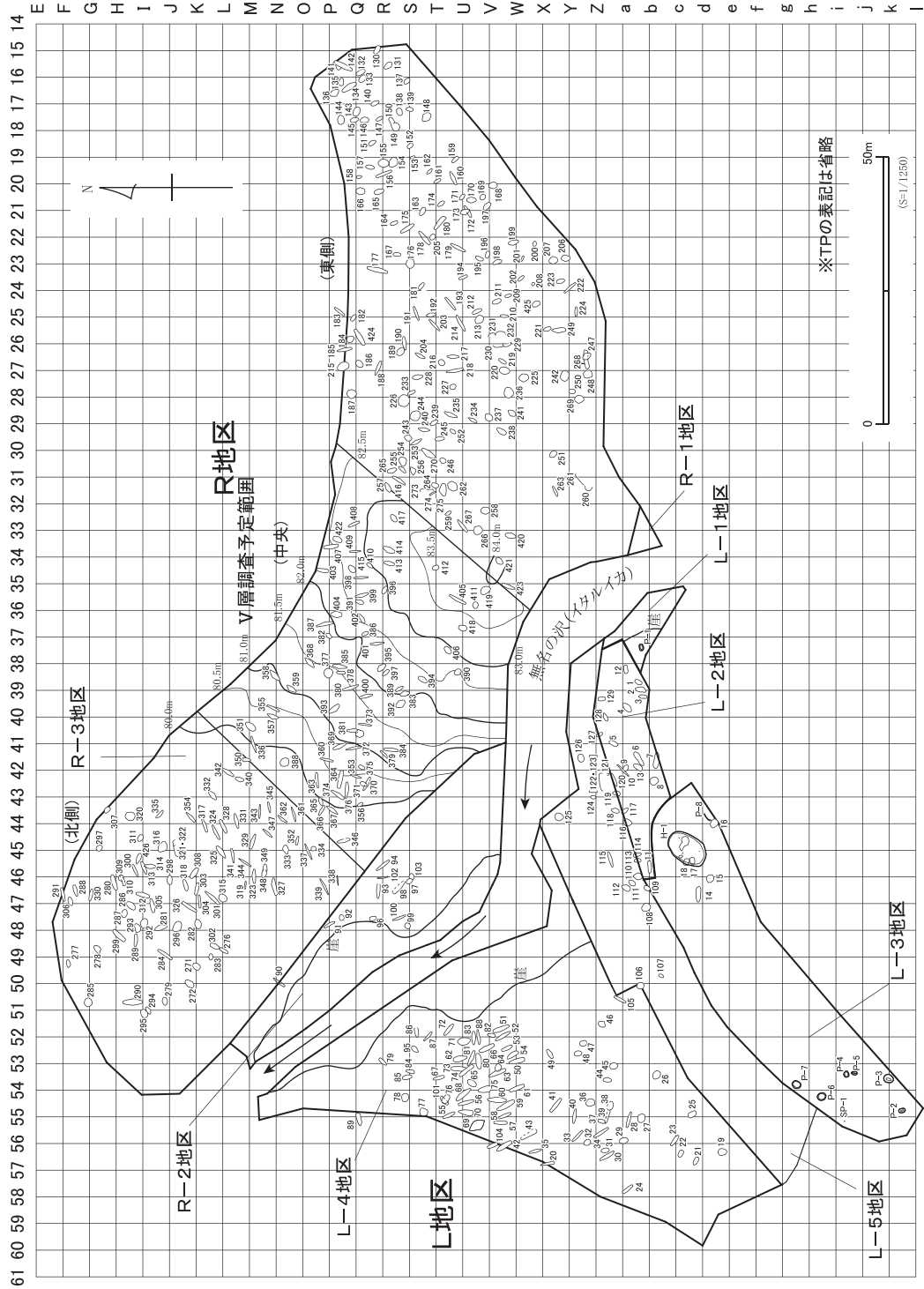
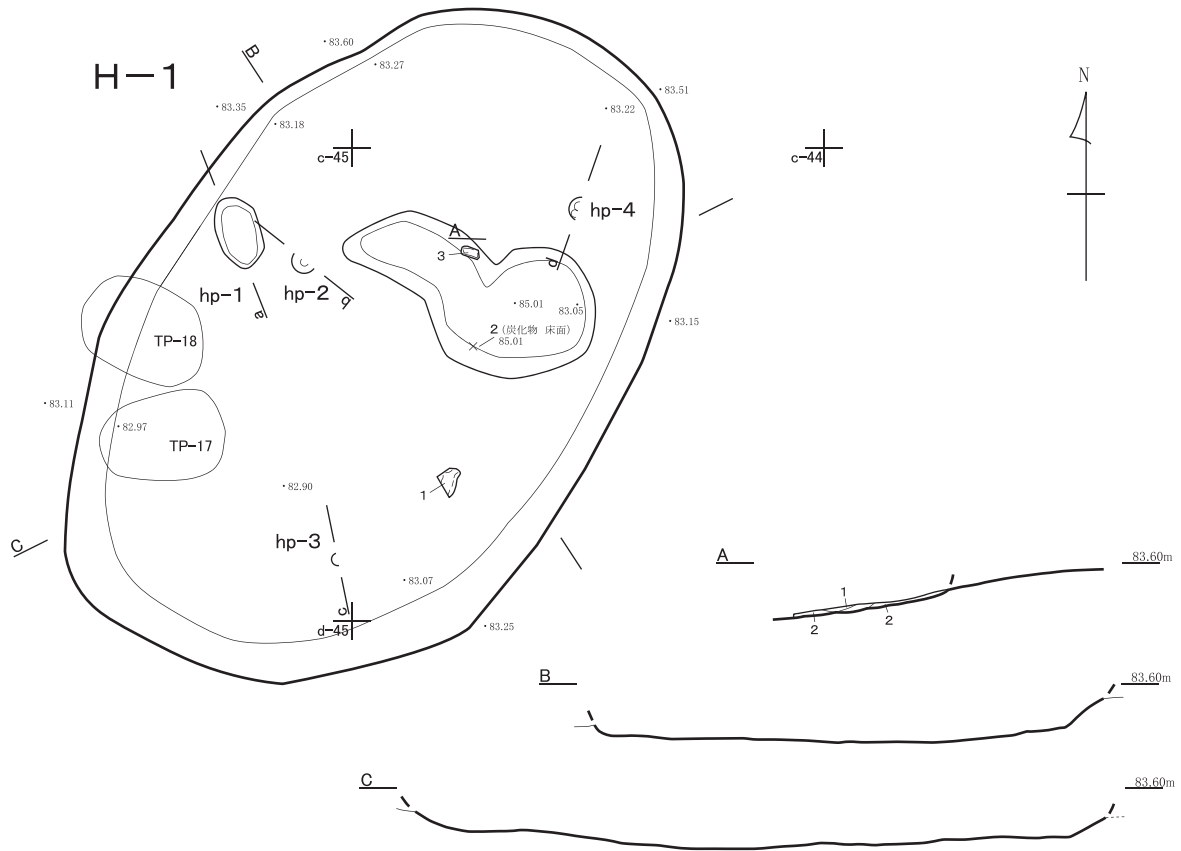
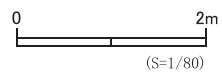
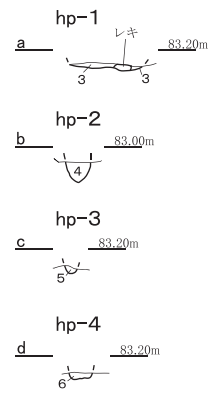


図79 上幌内5遺跡 V層上面地形測量図・遺構位置図

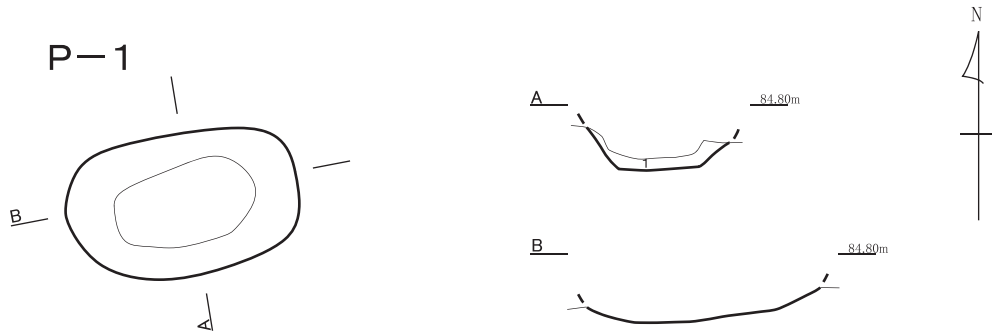


H-1									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	フリック	—	黒曜石	—	40	層上B層	—	—	—
—	フリック	—	黒曜石	—	41	層上B層	—	—	—
—	石鏃	—	黒曜石	半形	2	層上B層	—	—	—
—	石鏃・ナイフ	—	黒曜石	片	1	層上B層	—	—	—
—	フリック	—	黒曜石	—	46	層上B層	—	—	—
—	磨製石斧	—	片岩	片	1	層上B層	—	—	—
—	砥石	—	砂岩	片	1	層上B層	—	—	現場で観察
—	U・Rレキ	—	凝灰岩	片	1	層上B層	—	—	現場で観察
—	U・Rレキ	—	砂岩	片	1	層上B層	—	—	現場で観察
—	レキ	—	凝灰岩	片	1	層上B層	—	—	現場で観察
—	フリック	—	黒曜石	—	9	層上B層	—	—	—
—	磨製石斧	—	緑色泥岩	片	1	層上B層	—	—	—
—	石鏃・石鏃	—	砂岩	半形	1	床面	83.18	—	—
—	石鏃	—	黒曜石	宗形	3	層上B層	—	—	—
—	フリック	—	黒曜石	—	1	層上B層	—	—	—
—	フリック	—	黒曜石	—	9	床面	—	—	—
—	フリック	—	黒曜石	—	1	床面B層	—	—	—
—	台石・石皿	—	砂岩	片	1	床面	85.01	—	—
—	フリック	—	黒曜石	—	54	床面	—	—	—
—	石鏃	—	黒曜石	宗形	1	床面	—	—	—
—	土器   1 群	—	胴部	良好	1	床面	—	—	—
—	U・Rレキ	—	砂岩	片	1	層上B層	—	—	現場で観察
—	レキ	—	砂岩	片	2	床面	—	—	現場で観察
—	レキ	—	砂岩	片	5	床面	—	—	現場で観察
H-1・hp-1									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
—	砥石	—	凝灰岩	片	1	層上B層	—	—	—
—	U・Rレキ	—	砂岩	片	5	層上B層	—	—	—



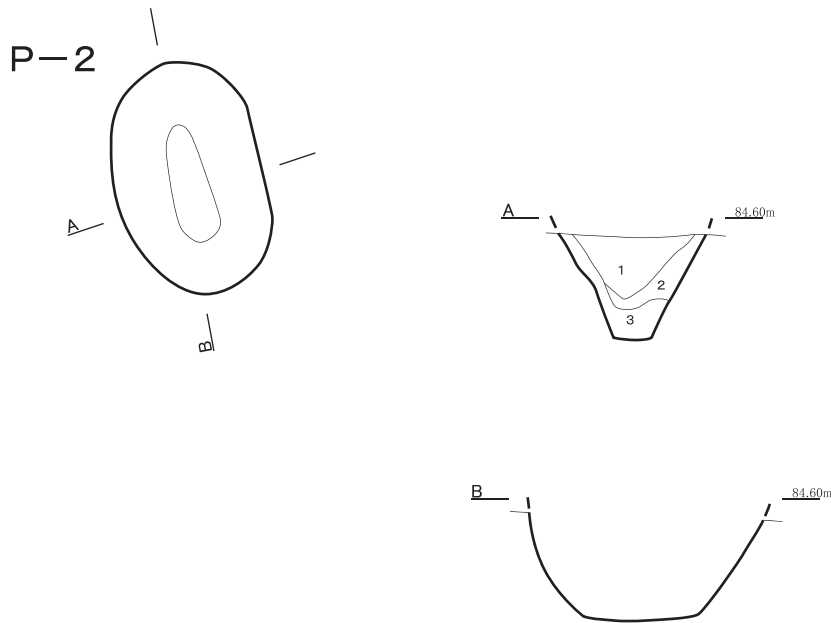
遺構名	付属 遺構名	断面図 番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
			層名	細分層		野外 土性	色調		粘着性	堅密度	種類	面積 割合(%)				形状	風化の 程度
							色名	マンセル 表色系				平均	最大				
H-1		1	B層	画然	植壤土	黒褐色	10YR3/2	強	堅	T a - d 2	7	2	11	亜円礫	腐朽	炭化物 微量	
			BY層	画然	植壤土	灰黄褐色	10YR4/2	強	堅	T a - d 2	20	2~3	5	亜円礫	腐朽	炭化物 微量	
H-1		3	BY層	画然	植壤土	灰黄褐色	10YR4/2	強	堅	T a - d 2	15	2~3	8	亜円礫	腐朽	炭化物 少量	
			B層	画然	植壤土	黒色	10YR2/1	強	堅	T a - d 2	10	2~3	8	亜円礫	腐朽	—	
			B層	画然	植壤土	黒褐色	10YR3/2	強	すこぶる堅	T a - d 2	1	—	2	亜円礫	腐朽	—	
			BY層	画然	植壤土	黒褐色	10YR3/2	強	堅	T a - d 2	50	6~8	—	亜円礫	腐朽	炭化物 少量	

図80 上幌内5遺跡 H-1



b-37

遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)					混入物	備考		
		層名	細分層		色調		野外土性	粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)				形状	風化の程度
					色名	マンセル表色系						平均	最大				
P-1	1	B層		面然	埴壤土	黒色	10YR2/1	強	すこぶる堅	凝灰岩	1	20	亜円礫	腐朽	—		



I-55

遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)					混入物	備考		
		層名	細分層		色調		野外土性	粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)				形状	風化の程度
					色名	マンセル表色系						平均	最大				
P-2	1	B層	B1層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR2/1	強	すこぶる堅	VI層礫	10	2~3	10	亜円礫	半風化	—	
	2		B2層	面然	埴壤土	黒褐色	10YR3/1	強	堅	T a - d 2	15	2~3	10	亜円礫	腐朽	—	
	3	Y層	面然	砂壤土~砂土	褐色	7.5YR4/3	なし	軟~しろう	T a - d 2	30~40	10	25	亜円礫	腐朽	—		

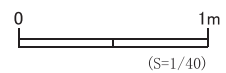


図81 上幌内5遺跡 P-1・P-2

りを確認し、遺構と判断した。

**覆土** 主たる覆土は黒色土主体で、上位の中央に褐色土が一部堆積する。

**坑底面・壁** 長軸方向の坑底は曲線的で、壁の立ち上がりは大きく開く。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。

P-6 (図83 表60 図版34)

**位置** h-54区 **規模** 1.63×1.38 / 1.23×1.07 / 0.34m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 遺構確認調査中、円形の黒色土がみられた。半截したところ平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。

**覆土** 覆土第3層が黄褐色土主体で、各層は概して水平な堆積である。

**坑底面・壁** 坑底は概して平坦で、壁は大きく開いて立ち上がる。

**遺物出土状況** 中央よりやや北側で頁岩製のつまみ付きナイフ、南側の壁際で礫石器やレキがまとまってみられた。覆土から黒曜石のフレイクが100点以上、残存状態が「片」の磨製石斧が50点弱出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。

P-7 (図84 表60 図版34)

**位置** g-53区 **規模** 1.63×1.41 / 1.34×1.06 / 0.34m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 遺構確認調査中、楕円形の黒色土がみられた。半截したところ平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。

**覆土** 主たる覆土は褐色土で、上位は部分的な層が多くみられる。

**坑底面・壁** 坑底は凹凸があり、壁の立ち上がりは開口気味である。

**遺物出土状況** 覆土からフレイク、台石・石皿、レキが中心付近からまとまって出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。

P-8 (図84 表60 図版34)

**位置** d-43区 **規模** 1.80×(0.37) / 1.56×(0.28) / 0.36m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 遺構確認調査中、細長い黒色土がみられた。形状からTピットと予想し半截した。平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、土坑と判断した。

**覆土** すべて黒色土主体で、第1層は最上位の中央付近に部分的に堆積する。

**坑底面・壁** 坑底は段差があるが平坦で、壁は長軸方向で大きく開き、短軸方向ではやや直立気味な立ち上がりである。

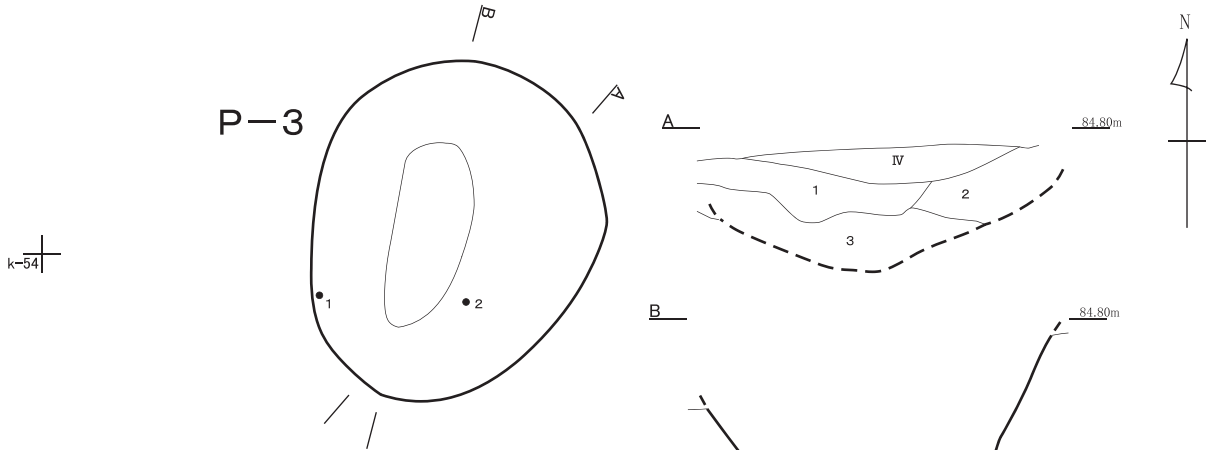
**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。

SP-1 (図85 表61 図版34)

**位置** i-55区 **規模** 0.12 / 0.04 / 0.20m **平面形態** 円形

**確認・調査** 遺構確認調査中、円形の黒色土がみられた。半截して断面形態や覆土から遺構と判断した。周辺も精査し同様な遺構の発見に努めたが、みられなかった。覆土は黒色土主体で、断面形態は斜めである。

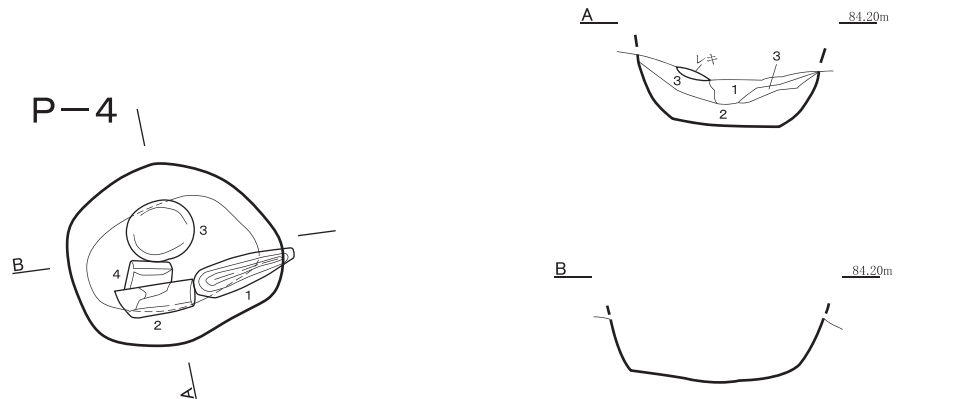
**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。



P-3									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	土器	IV群	胴部	良好	1	覆土B層	84.45		
2	台石・石皿		砂岩	片	1	覆土B層	84.35		
—	土器	IV群	胴部	剥離	1	覆土B層	—		
—	土器	IV群	底部	良好	1	覆土B層	—		
—	土器	IV群	胴部	良好	4	覆土B層	—		
—	土器	IV群	胴部	良好	18	覆土B層	—		
—	U・Rレキ		砂岩	片	1	覆土B層	—		
—	土器	IV群	胴部	良好	1	覆土B層	—		

遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		層名	細分層			色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合 (%)		粒径(mm)			形状	風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系				平均	最大	平均					最大
P-3	1	BY層		画然	壤土	にぶい褐色	10YR3/4	強	軟~堅	VI層 礫	10	2~3	亜円礫	半風化	炭化物 微量			
	2	B層	B1層	判然	壤土~ 砂壤土	黒褐色	10YR3/1	強	堅~軟	T a - d 2 凝灰岩	1~2 1~2	2~3 2~3	亜円礫	腐朽	炭化物 微量			
	3	B層	B2層	画然	垣壤土	黒褐色	10YR3/1	強	軟~堅	T a - d 2 凝灰岩	1~2 1~2	2~3 2~3	亜円礫	腐朽	—			

i-53



P-4									
遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	—	—	—	—	1	覆土B層	83.94		
2	台石・石皿		砂岩	完形	1	覆土B層	83.96		
3	台石・石皿		砂岩	完形	1	覆土B層	83.75		
4	台石・石皿		砂岩	準完形	2	覆土B層	83.79		
—	レキ		砂岩	片	2	覆土B層	—		
—	U・Rレキ		砂岩	片	1	覆土B層	—		
—	レキ		凝灰岩	完形	1	覆土B層	—		
—	U・Rレキ		砂岩	片	4	覆土B層	—		
—	U・Rレキ		砂岩	片	12	覆土B層	—		

遺構名	断面図 番号	層位名		層界	野外 土性	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考			
		層名	細分層			色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合 (%)		粒径(mm)			形状	風化の 程度	
						色名	マンセル 表色系				平均	最大	平均					最大
P-4	1	B層	B1層	画然~判然	垣壤土	黒色	10YR2/1	強	軟~しろう	T a - d 2	1~2	2~3	亜円礫	腐朽	—			
	2	B層	B2層	画然	砂壤土	黒褐色	10YR3/3	弱	堅	VI層 礫	90以上	2~3	5	亜円~ 亜角礫	半風化	—		
	3	BY層		画然	垣壤土	にぶい褐色	7.5YR3/4	強~中	堅	T a - d 2	20	2~3	10	亜円礫	腐朽	—		

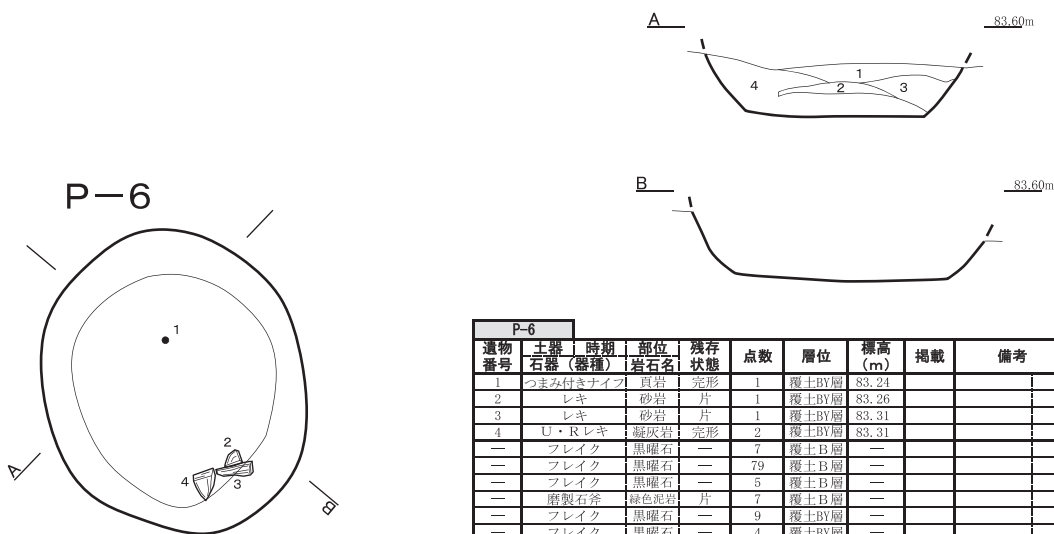
図82 上幌内5遺跡 P-3・P-4



j-53

遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		層名	細分層		色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)				形状	風化の程度
					色名	マンセル表色系					平均	最大				
P-5	1	B層	画然	砂壤土 ～ 壤土	黒色	10YR2/1	強	堅	凝灰岩	5~7	2~3	亜円礫	風化	—		
	2	BY層	明瞭	壤土 ～ 砂壤土	にぶい褐色	10YR3/3	中～強	堅	凝灰岩	3~5	2~3	亜円礫	風化	—		

h-54



遺物番号	土器 石器(器種)	時期	部位 岩石名	残存 状態	点数	層位	標高 (m)	掲載	備考
1	つまみ付きナイフ	貝岩	片	完形	1	覆土BY層	83.24		
2	レキ	砂岩	片	—	1	覆土BY層	83.26		
3	レキ	砂岩	片	—	1	覆土BY層	83.31		
4	U・Rレキ	凝灰岩	片	完形	2	覆土BY層	83.31		
—	フレイク	黒曜石	—	—	7	覆土B層	—		
—	フレイク	黒曜石	—	—	79	覆土B層	—		
—	フレイク	黒曜石	—	—	5	覆土B層	—		
—	磨製石斧	緑色泥岩	片	—	7	覆土B層	—		
—	フレイク	黒曜石	—	—	9	覆土BY層	—		
—	フレイク	黒曜石	—	—	4	覆土BY層	—		
—	磨製石斧	緑色泥岩	片	—	41	覆土BY層	—		
—	フレイク	黒曜石	—	—	7	覆土BY層	—		
—	レキ	凝灰岩	片	完形	1	覆土B層	—		
—	U・Rレキ	砂岩	片	—	2	覆土BY層	—		
—	レキ	砂岩	片	—	5	覆土BY層	—		
—	レキ	凝灰岩	片	—	2	覆土BY層	—		
—	レキ	凝灰岩	片	—	1	覆土BY層	—		

遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		層名	細分層		色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)	粒径(mm)				形状	風化の程度
					色名	マンセル表色系					平均	最大				
P-6	1	B層	B1層	画然 ～ 明瞭	埴壤土	黒色	10YR3/1	強	軟	T a - d 2	5	3~5	15	亜円礫	腐朽	フレイク
	2	B層	B2層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/3	強	軟	T a - d 2	7	7	15	亜円礫	腐朽	—
	3	BY層	BY1層	画然	埴壤土	にぶい 黄褐色	10YR4/3	強	軟	T a - d 2	20	3~5	12	亜円礫	腐朽	—
	4	BY層	BY2層	判然	埴壤土	黒色	7.5YR4/3	強	軟	T a - d 2	15	10	10	亜円礫	腐朽	フレイク

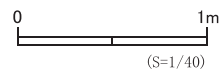
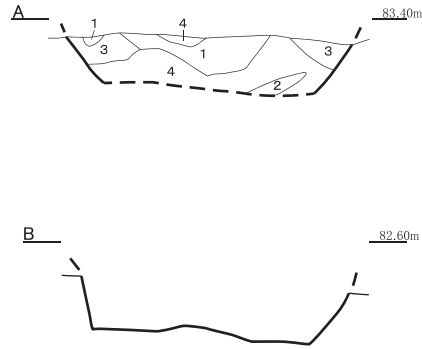
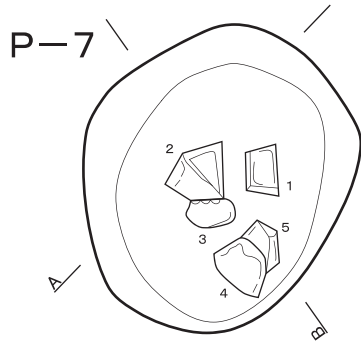


図83 上幌内5遺跡 P-5・P-6



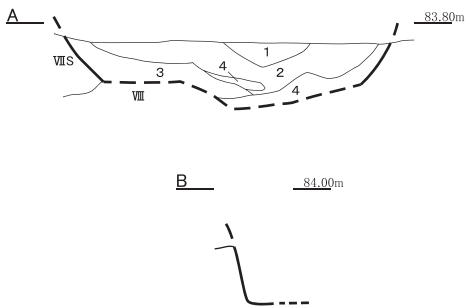
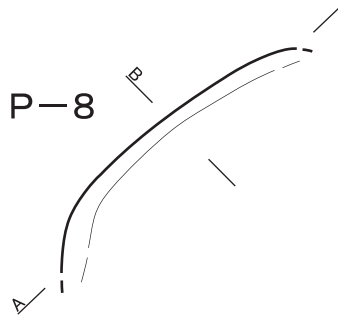


P-7									
遺物番号	石器(器種)	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高(m)	掲載	備考
1	台石・石皿		砂岩	完形	1	覆土BY層	83.27 ~83.31		
2	台石・石皿		砂岩	完形	1	覆土BY層	83.05 ~83.11		
3	レキ		砂岩	片	1	覆土BY層	83.16		
4	台石・石皿		砂岩	完形	1	覆土BY層	83.07 ~83.15		
5	台石・石皿		砂岩	完形	1	覆土BY層	83.13 ~83.64		
—	フレイク		黒曜石	—	1	覆土BY層	—		
—	レキ		砂岩	片	2	覆土BY層	—		
—	レキ		砂岩	片	5	覆土BY層	—		

h=53

遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		層名	細分層		野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	粒径(mm)				形状	風化の程度
						色名	マンセル表色系				面積割合(%)	平均				
P-7	1	B層	B1層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR3/2	強	軟	T a - d 2	7	5	10	亜円礫	腐朽	炭化物 少量
			B2層	画然	埴壤土	黒色	10YR2/1	強	堅~軟	T a - d 2	5	2~3	5	亜円礫	腐朽	—
		BY層	明瞭	埴壤土	黒褐色	10YR2/1	強	堅~軟	T a - d 2	7	8~10	亜円礫	腐朽	—		
		Y層	画然	埴壤土	褐色	7.5YR4/4	強	堅	T a - d 2	30	5~8	亜円礫	腐朽	—		

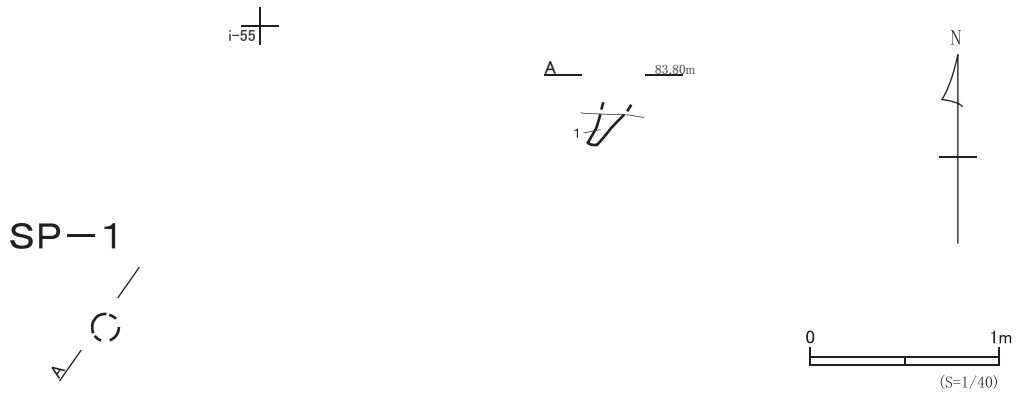
d-44



遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		層名	細分層		野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	粒径(mm)				形状	風化の程度
						色名	マンセル表色系				面積割合(%)	平均				
P-8	1	B層	B1層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR1.7/1	強	堅							
			B2層	明瞭	埴壤土	黒色	10YR1.7/1	強	堅	T a - d 2	7~10	3~5	亜円礫	腐朽	—	
			B3層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR2/1	強	堅	T a - d 2	1	2~5	亜円礫	腐朽	—	
			BY層	画然	埴壤土	黒褐色	10YR3/1	強	堅	T a - d 2	20	2~3	10	亜円礫	腐朽	—

0 1m  
(S=1/40)

図84 上幌内5遺跡 P-7・P-8



遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				混入物	備考		
		層名	細分層		色調		粘着性	堅密度	種類	面積割合(%)		形状			風化の程度	
					野外土性	色名				マンセル表色系	平均					最大
SP-1	1	B層		偶然	埋填土	黒色	10YR1.7/1	強	軟~しろう	VI層 礫	5	2~3	亞円礫	半風化	—	

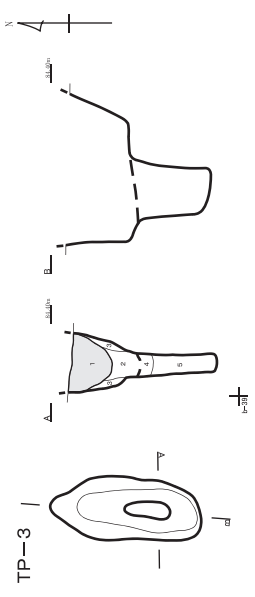
図85 上幌内5遺跡 SP-1

#### 4. Tピット(図79・86~193 表62・63 図版35~104)

Tピットは遺跡の全体から多くみつき、426番までを付した。これには、同じ番号を複数の遺構付しさらに記号を追加して分けたもの、複数と想定したものが単独であったもの、土坑と判断したもの、遺構でないものがある。これらを整理した総数は421基で、左岸L地区が116基、右岸R地区が305基である(詳細はIX章3節参照)。

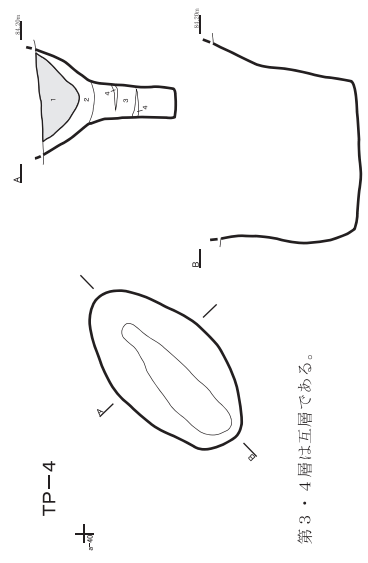
Tピットは形態で円形、楕円形、長楕円形、溝状に分けられる。L地区の南側では楕円形のものが多く、散在的な分布で、調査区中央を流れる無名の沢(イタレイカ)から離れたL-3・5地区の南西側ではみられない。L-4地区では中央付近から南側が散在的で、西側に楕円形、東側に溝状が多い。特にU~W-52~55区付近は大型の溝状が集中する。これより北側へは散在的で、さらにみられなくなる。右岸はこの沢近くに、凝灰岩由来と考えられる粘土層(Lgc1層・Lgtf層)を地山とするR-2地区で散在的にみられ、上流側は存在しない。R-3地区の東側は概ね散在的で、概して楕円形が多い。中央付近~北側部分は溝状のものが多く、厚真川の崖に近い北東側とこの沢近くではみられなかった。

多くのTピットを限られた期間で調査するため、方法を工夫した。図化作業は、土層断面図は、平成27(2015)年度の調査開始時、作業員の中で実測できる人材を数名育成し、当初は二人一組での図化、熟練するにつれ単独で行った。平成28(2016)年度は、現場の普通作業員として雇用した高知大学考古学専攻の学生中原朋美に、基本土層とTピット覆土のモデル(表74)に基づいた分層作業に携わせた。平面図とエレベーション図は、平成27(2015)年度の調査からトータルステーションを導入し、測点は平面直角座標(世界測地系)で測り、CADソフトを用いて作図した。



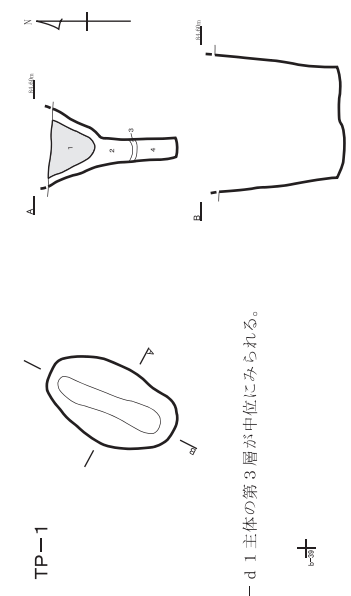
第5層は砂と粘土の互層で遺構の覆土ではなく、南側の深い部分は掘り過ぎで、エレベーション図の破線で示した位置が坑底面と考えられる。

遺構名	掘削区番号	土層	相長事項	層序	層外	砂・粘土・シルト(単位2mm未満)			層 (検出部分以上)の出入
						砂色	粘土色	粘着性	
TP-3	1	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	1	1	0.00	0.00	0.00	上・下不明
	2	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	2	2	0.00	0.00	0.00	上・下不明
	3	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	3	3	0.00	0.00	0.00	上・下不明
	4	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	4	4	0.00	0.00	0.00	上・下不明
	5	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	5	5	0.00	0.00	0.00	上・下不明



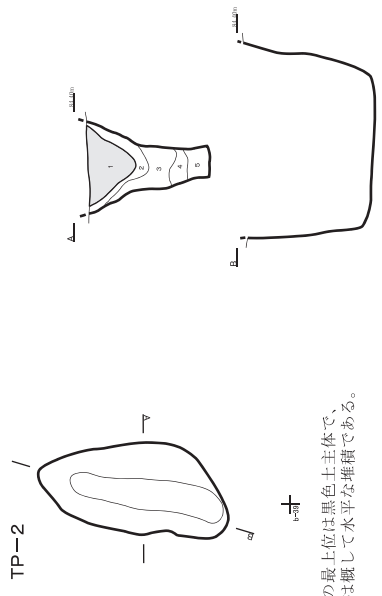
第3・4層は互層である。

遺構名	掘削区番号	土層	相長事項	層序	層外	砂・粘土・シルト(単位2mm未満)			層 (検出部分以上)の出入
						砂色	粘土色	粘着性	
TP-4	1	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	1	1	0.00	0.00	0.00	上・下不明
	2	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	2	2	0.00	0.00	0.00	上・下不明
	3	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	3	3	0.00	0.00	0.00	上・下不明
	4	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	4	4	0.00	0.00	0.00	上・下不明



T a - d 1 主体の第3層が中位にみられる。

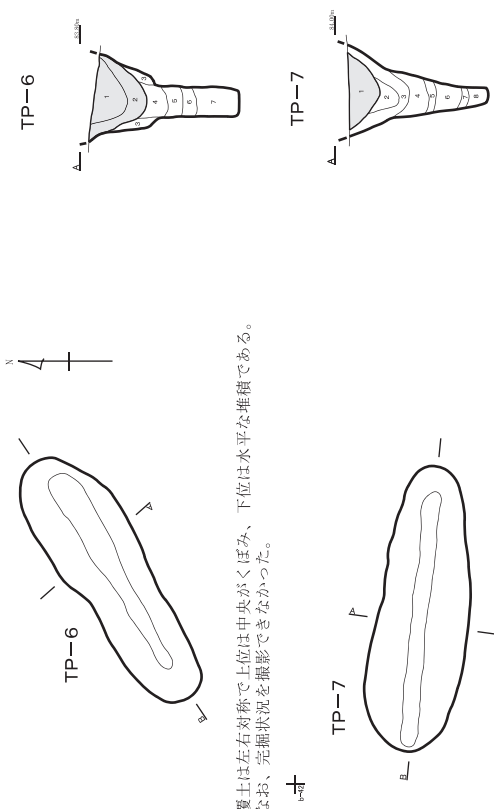
遺構名	掘削区番号	土層	相長事項	層序	層外	砂・粘土・シルト(単位2mm未満)			層 (検出部分以上)の出入
						砂色	粘土色	粘着性	
TP-1	1	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	1	1	0.00	0.00	0.00	上・下不明
	2	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	2	2	0.00	0.00	0.00	上・下不明
	3	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	3	3	0.00	0.00	0.00	上・下不明



覆土の最上位は黒色土主体で、下位は概して水平な堆積である。

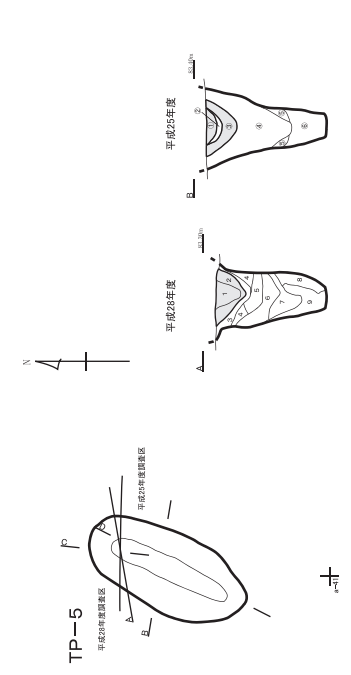
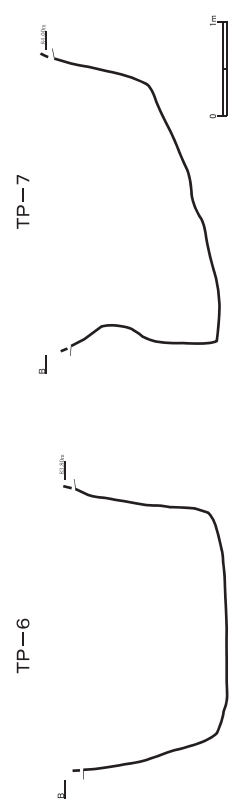
遺構名	掘削区番号	土層	相長事項	層序	層外	砂・粘土・シルト(単位2mm未満)			層 (検出部分以上)の出入
						砂色	粘土色	粘着性	
TP-2	1	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	1	1	0.00	0.00	0.00	上・下不明
	2	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	2	2	0.00	0.00	0.00	上・下不明
	3	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	3	3	0.00	0.00	0.00	上・下不明
	4	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	4	4	0.00	0.00	0.00	上・下不明
	5	(D)層主体	(D)層の厚さ不明	5	5	0.00	0.00	0.00	上・下不明

図86 上幌内5遺跡 TP-1・TP-2・TP-3・TP-4

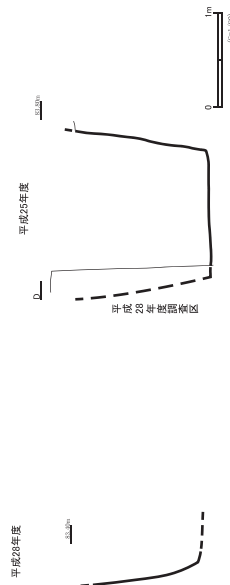


覆土は左右対称で上位は中央がくぼみ、下位は水平な堆積である。なお、完掘状況を撮影できなかった。

長軸方向の西側へと傾斜するのは、坑底面を誤認し掘り下げてしまったためである。



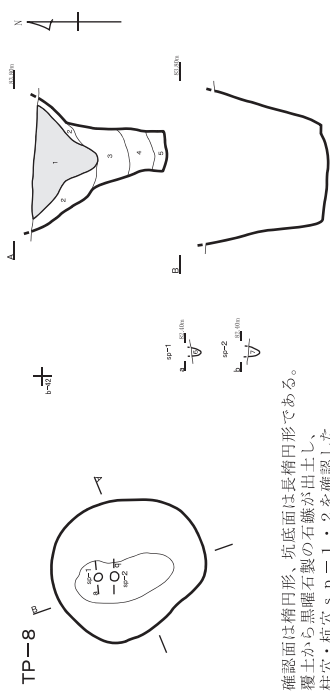
平成25(2013)年度に、調査区外に続く北側の一帯を除いて調査し、土層断面は概ね左右対称である。平成28(2016)年度には、道道の下に位置する北側部分を調査した。土の中で養生せず埋め戻したので形状を掘り出すことは困難で、トレンチを設けて調査した。



平成23(2016)年度 TP-5		平成25(2013)年度 TP-5		平成28(2016)年度 TP-5	
断面図番号	土層	断面図番号	土層	断面図番号	土層
1	D1層主体	1	D1層主体	1	D1層主体
2	D2・L・S層・B層	2	D2層主体	2	D2層主体
3	D2・L・S層・B層	3	D2層主体	3	D2層主体
4	D2・L層	4	D2層主体	4	D2層主体
5	D2・S層主体	5	D2層主体	5	D2層主体
6	D2・S層主体	6	D2・S層とD1層の境界部分	6	D2・S層とD1層の境界部分
7	D2・S層主体	7	D2・S層とD1層の境界部分	7	D2・S層とD1層の境界部分
8	D2・S層主体	8	D2・S層とD1層の境界部分	8	D2・S層とD1層の境界部分
9	D2・S層主体	9	D2・S層とD1層の境界部分	9	D2・S層とD1層の境界部分

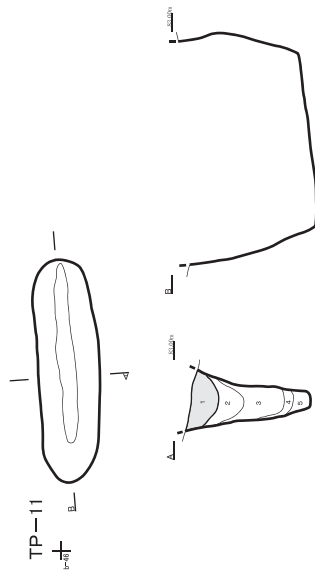
断面図番号		土層		補足事項		調査区		調査区		調査区	
断面図番号	土層	補足事項	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	
1	D1層主体										
2	D2層主体										
3	D2層主体										
4	D2層主体										
5	D2層主体										
6	D2層主体										
7	D2層主体										
8	D2層主体										
9	D2層主体										

図87 上幌内5遺跡 TP-5・TP-6・TP-7



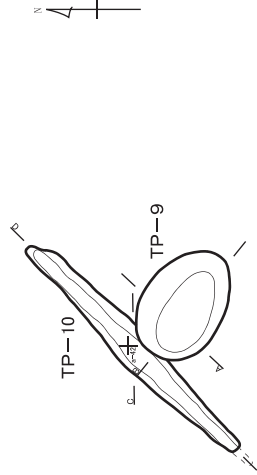
確認面は楕円形、坑底面は長楕円形である。覆土から黒曜石製の石鏝が出土し、柱穴・杭穴sp-1・2を確認した。

遺構番号	遺構名称	遺構形状	遺構位置	遺構規模	遺構時期	土層		砂・砂主・シルト		遺構名付地層		層
						層外	層内	色	組成	砂質性	粘着性	
TP-8	1	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-8	2	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-8	3	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-8	4	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-8	5	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-8	6	白砂主層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-8	7	白砂主層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

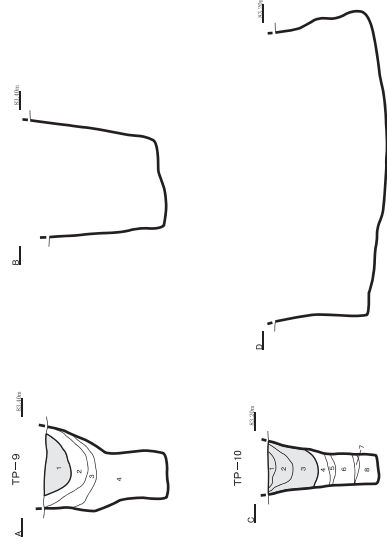


覆土は上位が黒土主体で、層界は下位部分でも中央がくぼむ。

遺構番号	遺構名称	遺構形状	遺構位置	遺構規模	遺構時期	土層		砂・砂主・シルト		遺構名付地層		層
						層外	層内	色	組成	砂質性	粘着性	
TP-11	1	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-11	2	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-11	3	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-11	4	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-11	5	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

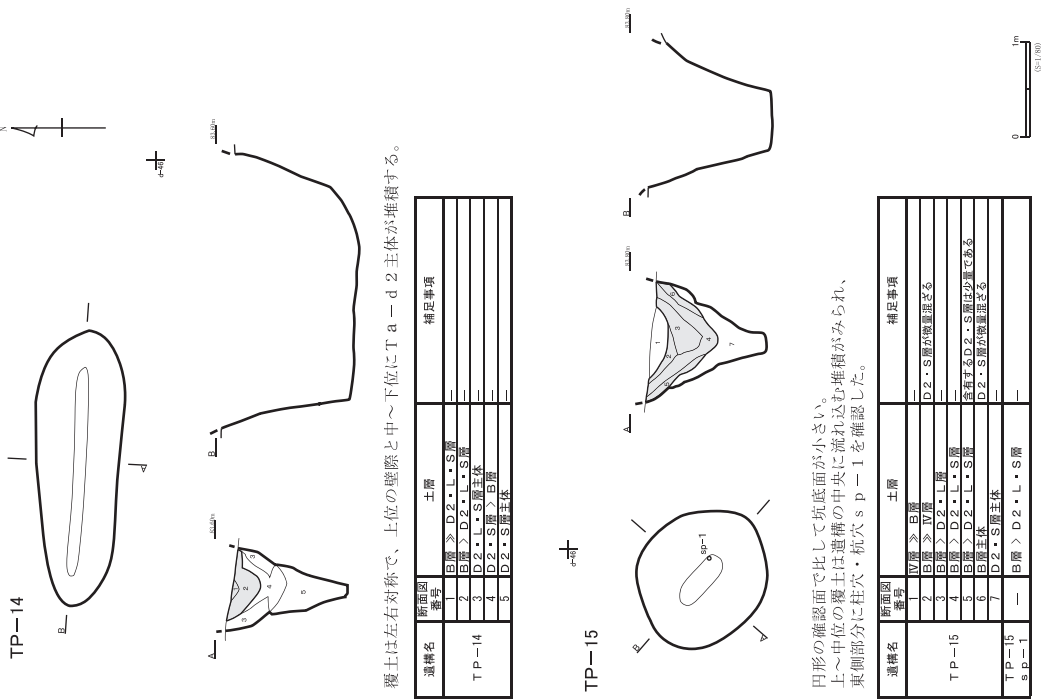


重複し、連続する土層断面やエレベーション図を作成していないが、確認状況から楕円形のTP-9が楕円のTP-10を切っていると判断した。ともに下位はT a-r-d 1とT a-r-d 2が混ざる覆土である。



遺構番号	遺構名称	遺構形状	遺構位置	遺構規模	遺構時期	土層		砂・砂主・シルト		遺構名付地層		層
						層外	層内	色	組成	砂質性	粘着性	
TP-9	1	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-9	2	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-9	3	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-9	4	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-10	1	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-10	2	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-10	3	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-10	4	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-10	5	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-10	6	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-10	7	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
TP-10	8	OD層	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

図88 上幌内5遺跡 TP-8・TP-11・TP-9・TP-10



上位の覆土は中央へと傾斜する堆積で、少し掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項	南界		北界		東西方向の長さ		幅 (残存m以上)	階の出入
				野方	土層	野方	土層	長さ	幅		
TP-12	1	IV層 > B層		10.00	IV層	10.00	IV層	10.00	10.00	1.00	
	2	IV層 > D2層		10.00	D2層	10.00	D2層	10.00	10.00	1.00	
	3	D2層 > D1層		10.00	D1層	10.00	D1層	10.00	10.00	1.00	
	4	D1層 > D2層		10.00	D2層	10.00	D2層	10.00	10.00	1.00	
	5	D2層 > D1層		10.00	D1層	10.00	D1層	10.00	10.00	1.00	
	6	D1層 > D2層		10.00	D2層	10.00	D2層	10.00	10.00	1.00	

TP-13  
 覆土は上位部分と中位の第5層は黒土主体で、これら以外はⅧ層主体である。長軸方向の南西側の壁に段がある。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
	2	B層 > D2・L・S層	
	3	D2・L・S層主体	
	4	D2・S層 > B層	
	5	D2・S層主体	

覆土は左右対称で、上位の壁際と中～下位にT a - d 2主体が堆積する。

TP-15  
 円形の確認面として坑底面が小さい。上～中位の覆土は遺構の中央に流れ込む堆積がみられ、東側部分に柱穴・杭穴sp-1を確認した。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
	2	B層 > IV層	D2・S層が検出される
	3	B層 > D2・L・S層	
	4	B層 > D2・L・S層	
	5	B層 > D2・L・S層	残存するD2・S層は少量である
	6	D2・L・S層主体	
	7	D2・L・S層主体	
	8	B層 > D2・L・S層	

図89 上幌内5遺跡 TP-12・TP-13・TP-14・TP-15

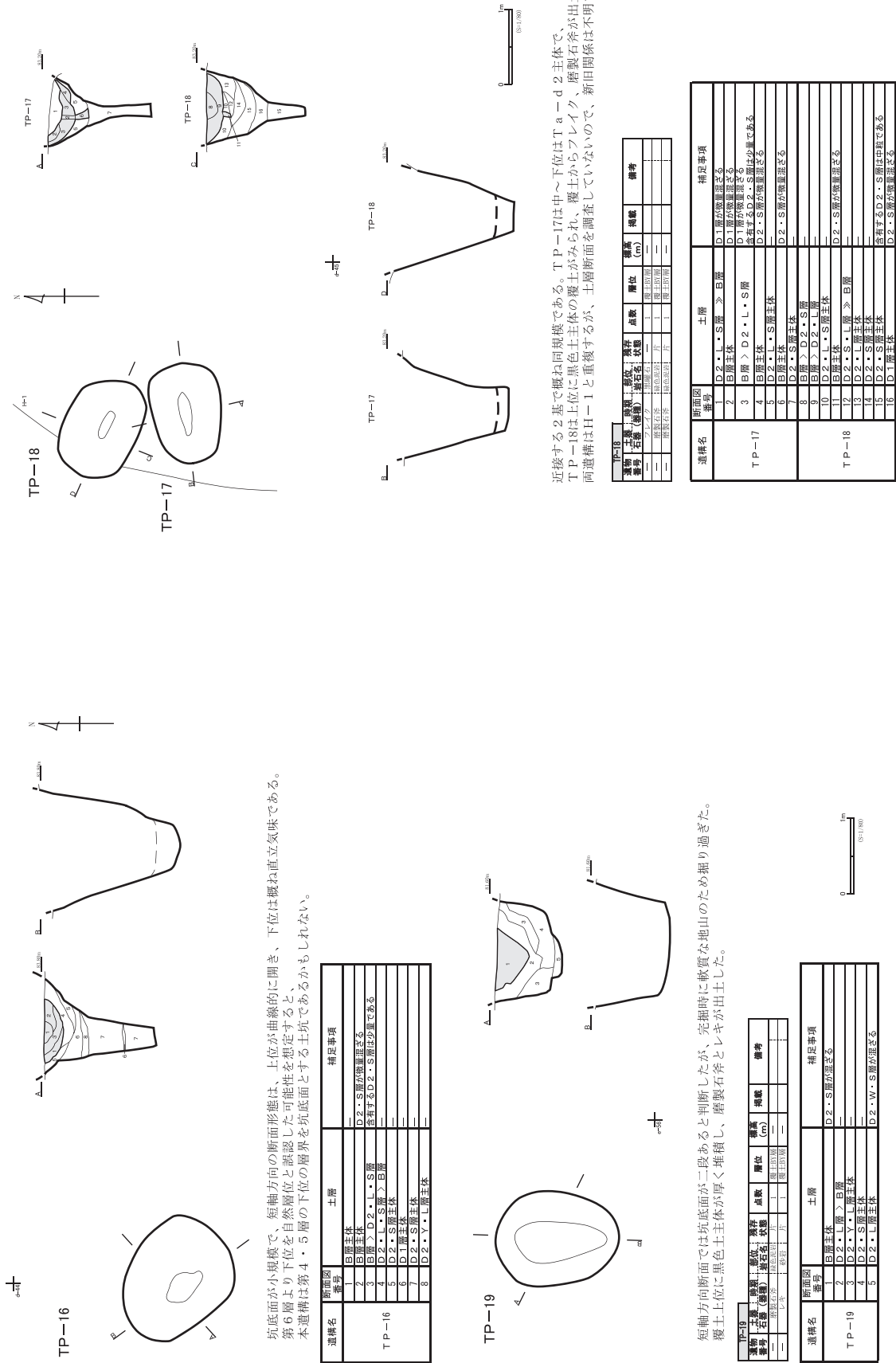
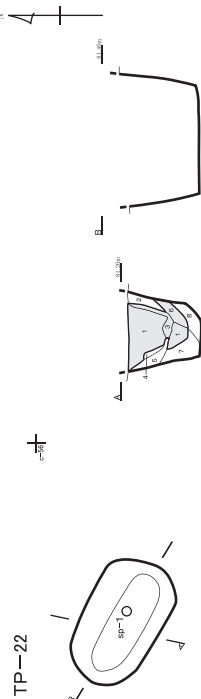


図90 上幌内5遺跡 TP-16・TP-17・TP-18

近接する2基で概ね同規模である。TP-17は中～下位はT a-d 2主体で、TP-18は上位に黒色土主体の覆土がみられ、覆土からフレイク、磨製石斧が出土した。向遺構はH-1と重複するが、土層断面を調査していないので、新旧関係は不明である。

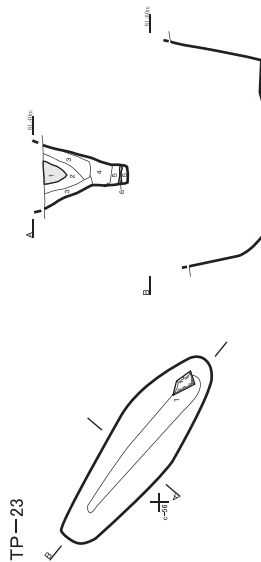
短軸方向断面では坑底面が二段あると判断したが、発掘時に軟質な地山のため掘り過ぎた。覆土上位に黒色土主体が厚く堆積し、磨製石斧とレキが出土した。



土層断面は中～下位部分の覆土は斜めに堆積し、上位は縦長の覆土がみられ、やや不規則な感じである。  
坑底面で柱穴・杭穴 s p - 1 を確認し、覆土からIV群土器とU・Rレキが出土した。

TP-22			
遺構番号	土層	高さ (m)	備考
一	U・Rレキ	一	一
二	IV群土器	一	一

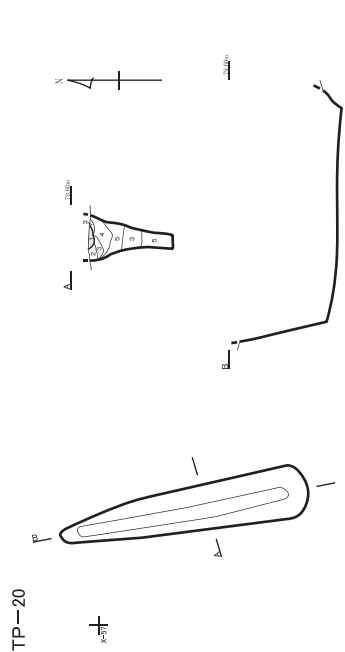
遺構名	断面図		補足事項
	番号	土層	
TP-22	1	白腐主体	—
	2	D2・L・S腐主体	
	3	白腐 > D2・L腐	
	4	IV群主体	
	5	U・Rレキ	
	6	白腐 > D2・L・S腐主体	
	7	D2・S腐主体	
	8	D2・Y・S腐主体	



上位の覆土は縦長で、下位は細ね水平堆積である。  
黒耀石のフレイクとU・Rレキが出土した。

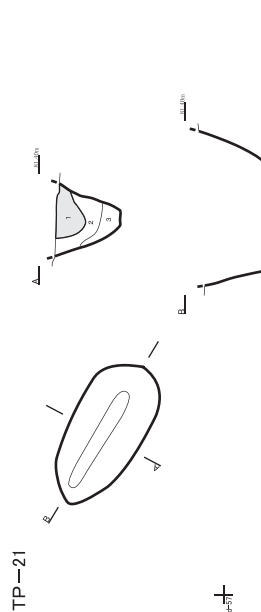
TP-23			
遺構番号	土層	高さ (m)	備考
一	フレイク	一	一
二	U・Rレキ	一	一
三	U・Rレキ	一	一

遺構名	断面図		補足事項
	番号	土層	
TP-23	1	白腐主体	—
	2	IV群主体	
	3	D2・L・S腐主体	
	4	白腐 > D2・L・S腐 > 白腐	
	5	D2・S腐主体	
	6	白腐主体	



北側は崖であるが、壁の立ち上がりを検出できた。

遺構名	断面図		補足事項
	番号	土層	
TP-20	1	白腐 > D2・L腐	—
	2	IV群主体	
	3	D2・Y・L腐主体	
	4	IV群主体	
	5	D2・S腐主体	

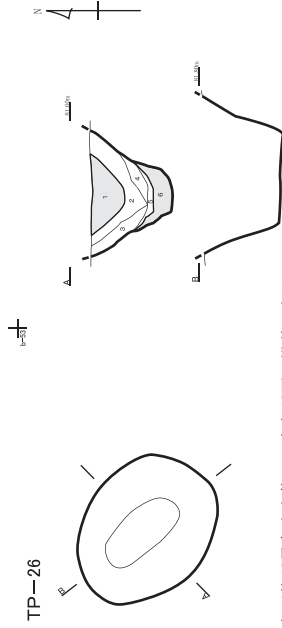


比して深く、黒色土主体が上位に堆積する。

遺構名	断面図		補足事項
	番号	土層	
TP-21	1	白腐主体	—
	2	D2・L・L腐主体	
	3	D2・L・S腐主体	

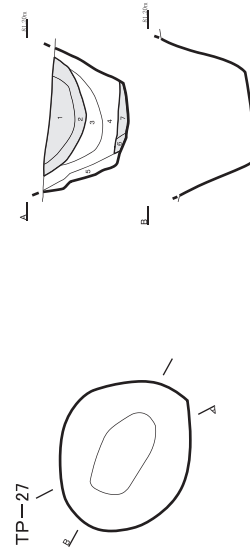
図91 上幌内5遺跡 TP-20・TP-21・TP-22・TP-23





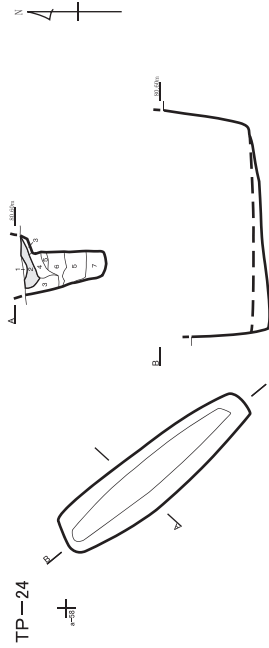
覆土は最上・下位が黒色土主体で、中央が厚い堆積である。壁はすべて開いて立ち上がり、黒曜石のフレイクが出土した。

遺構番号	遺構名称	遺構位置	遺構形状	遺構規模 (m)	遺構構造	遺構備考
TP-26	土層					
遺構名						
階層別 番号						
1 B層 > D2・L層						
2 D2・L層 > B層						
3 D2・Y・L層主体						
4 D2・L・S層主体						
5 D2・L・S層主体 > B層						
6 B層 > D2・L・S層						
補足事項						
TP-26						



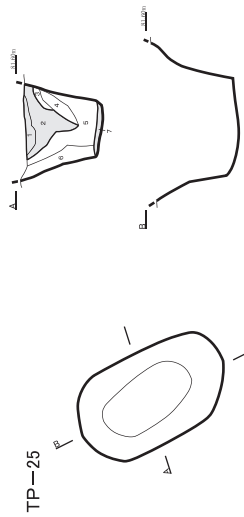
上〜中位は曲線的に中央がくぼむ覆土の層界がみられ、第5層はT a - d 2 主体で縦長の堆積である。I 群土器、U・Rレキ、レキが出土した。

遺構番号	遺構名称	遺構位置	遺構形状	遺構規模 (m)	遺構構造	遺構備考
TP-27	土層					
遺構名						
階層別 番号						
1 B層 > D2・L層						
2 B層主体						
3 D2・L層 > B層						
4 D2・Y・L層主体						
5 D2・L・S層主体						
6 D2・L・S層主体						
7 B層 > D2・L・S層						
補足事項						
TP-27						



黒色土主体は上位の第2層のみで、灰白色粘土主体の覆土が自立つ。長軸方向の坑底面は、北側へと傾斜するが掘り過ぎである。

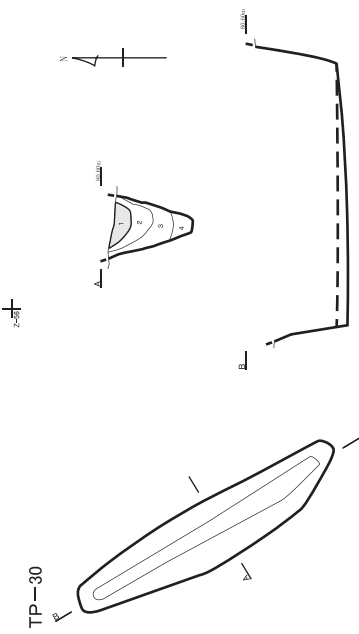
遺構番号	遺構名称	遺構位置	遺構形状	遺構規模 (m)	遺構構造	遺構備考
TP-24	土層					
遺構名						
階層別 番号						
1 D2・S層主体						
2 D2・S層が少量重なる						
3 IV層主体						
4 B層とD2・S層が重なる						
5 D2・Y・L層主体						
6 IV層主体						
7 D2・S層主体						
補足事項						
TP-24						



覆土は西側にT a - d 2 主体の層が縦長にみられ、第3・4層は東側からの流れ込みの様相である。壁は短軸方向で開くように立ち上がり、長軸方向では曲線的である。

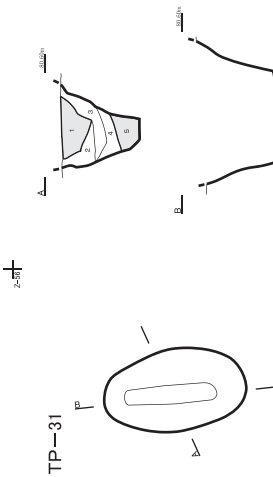
遺構番号	遺構名称	遺構位置	遺構形状	遺構規模 (m)	遺構構造	遺構備考
TP-25	土層					
遺構名						
階層別 番号						
1 B層 > D2・L層						
2 IV層主体						
3 D2・Y・L層主体						
4 D2・S層主体						
5 D2・S層主体						
6 D2・S層主体						
7 B層主体						
補足事項						
TP-25						

図92 上幌内5遺跡 TP-24・TP-25・TP-26・TP-27



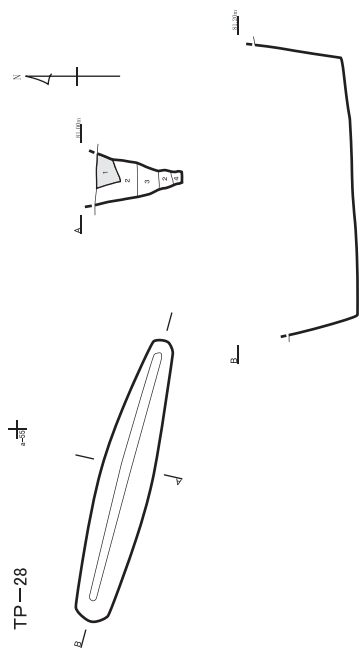
各層士の層界は上位では曲線的に中央がくぼみ、下位へいくにつれ水平に近くなる。坑底は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	層名	補足事項
TP-30	1	B層主体	B層が掘り過ぎ
	2	IV層主体	
	3	D2・S層主体	
	4	D2・L・S層主体	



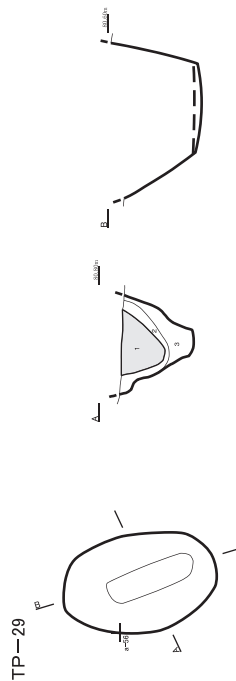
緩土は最上・下位が黒色土主体で、第2層は西から、第3層は東から堆積した様相である。

遺構番号	土層	断面図番号	層名	補足事項
TP-31	緩土	1	B層主体	補足事項
		2	D2・L・S層主体	
		3	D2・S層主体	
		4	D2・L・S層主体	
		5	B層 > D2・L・S層	



比して浅く、最上位に黒色土主体の層が部分的にみられる。長軸方向の坑底面は東側へ傾斜し、IV層土器とフレイクが出土した。

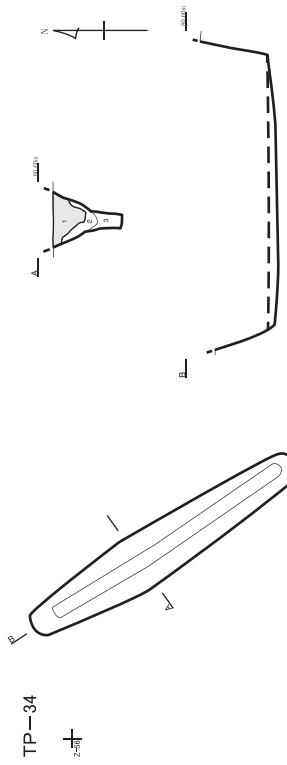
遺構名	断面図番号	層名	補足事項
TP-28	1	B層 > D2・L層	補足事項
	2	D2・L・S層 > B層	
	3	D2・S層主体	
	4	D2・L・S層主体	



緩土は大きく三つに分けられ、すべて北西側から流れ込んだ様相である。坑底面は掘り過ぎで、黒曜石のフレイクが出土した。

遺構番号	土層	断面図番号	層名	補足事項
TP-29	緩土	1	B層主体	補足事項
		2	D2・L層主体	
		3	D2・S層主体	

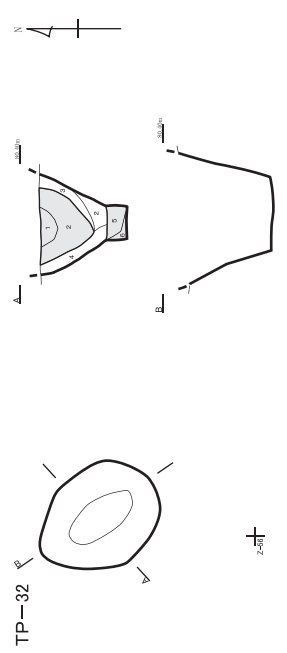
図93 上幌内5遺跡 TP-28・TP-29・TP-30・TP-31



TP-34

上位が黒色土主体でやや厚く堆積し、短軸方向の壁の立ち上がりは下位付近では直立気味で、上位は開口する。

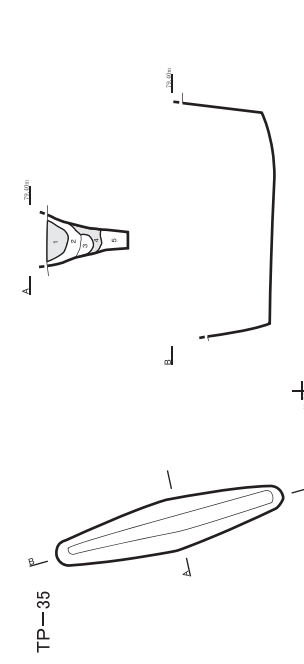
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-34	1	B層主体	
	2	D2・Y・L層主体	
	3	D2・S層主体	



TP-32

両壁際の上位から下位近くまで、縦長に堆積する第3・4層がT a - d 2主体で、これら以外は黒色土主体である。坑底面近くの壁の立ち上がりは直立気味で、覆土からU・Rレキが出土した。

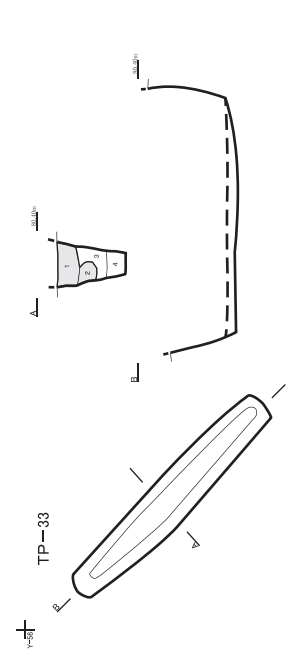
TP-32	遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-32	1	B層主体		
	2	B層 > D2・L層		
	3	D2・L・S層 > B層		
	4	D2・S層主体		
	5	B層 > D2・L層		
	6	B層主体		



TP-35

中位の黒色土主体の第4層は東側の壁際に厚く、西側はT a - d 2主体が部分的にみられる。長軸方向の坑底面は、南側に一部低い部分がある。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-35	1	B層主体	
	2	B層が厚積する	
	3	W層主体	
	4	B層主体	
	5	D2・L・S層 > B層	

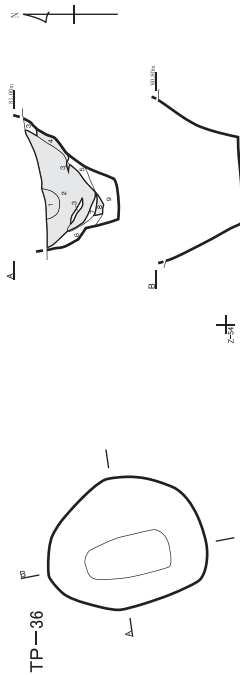


TP-33

覆土の層界は概して水平で、第2層は部分的である。坑底面は掘り過ぎで、南東側の壁は曲線的である。

TP-33	遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-33	1	B層主体		
	2	B層 > D2・L・S層		
	3	D2・S層主体		
	4	D2・Y・L層主体		

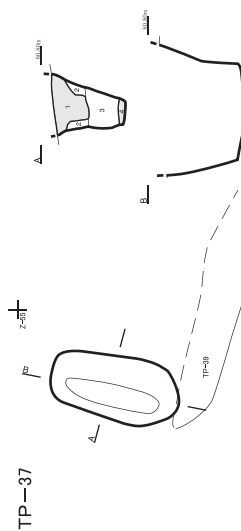
図94 上幌内5遺跡 TP-32・TP-33・TP-34・TP-35



覆土は最下位に T a - d の主体がみられ、上位は黒色土主体である。短軸方向の壁の立ち上がりは東側が広く開口し、I 群土器、石核、フレイク、すり石、U・R・レキが出土した。なお、土層断面を撮影できなかつた。

遺物番号	遺物名	層位	出土位置	数量	備考
1	すり石	4	片	1	
2	フレイク	1	片	1	
3	黒土器	1	片	1	
4	黒土器	1	片	1	
5	黒土器	1	片	1	
6	黒土器	1	片	1	
7	黒土器	1	片	1	
8	黒土器	1	片	1	
9	黒土器	1	片	1	

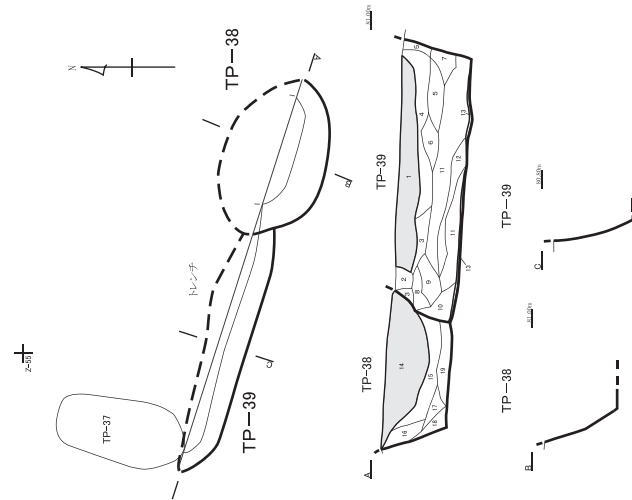
遺構名	断面図		補足事項
	番号	土層	
TP-36	1	白層 > D2・S層	
	2	白層主体	
	3	W層主体	
	4	白層 > D2・L層	
	5	W層主体	白層が少量混ざる
	6	D2・Y・L層 > 白層	
	7	D2・L・S層 > 白層	
	8	D2・S層	
	9	D2・S層主体	



覆土は概ね左右対称で、黒色土主体層が上下位にみられる。本遺構は TP-38・39 の連続する土層断面を観察するためのトレンチの位置にあたり、調査を先行させたので、重複する TP-39 との新旧関係は不明である。

遺物番号	遺物名	層位	出土位置	数量	備考
1	黒土器	1	片	1	
2	黒土器	1	片	1	
3	黒土器	1	片	1	
4	黒土器	1	片	1	

遺構名	断面図		補足事項
	番号	土層	
TP-37	1	白層 > D2・L層	
	2	D2・L層主体	
	3	D2・L・S層 > 白層	
	4	白層主体	

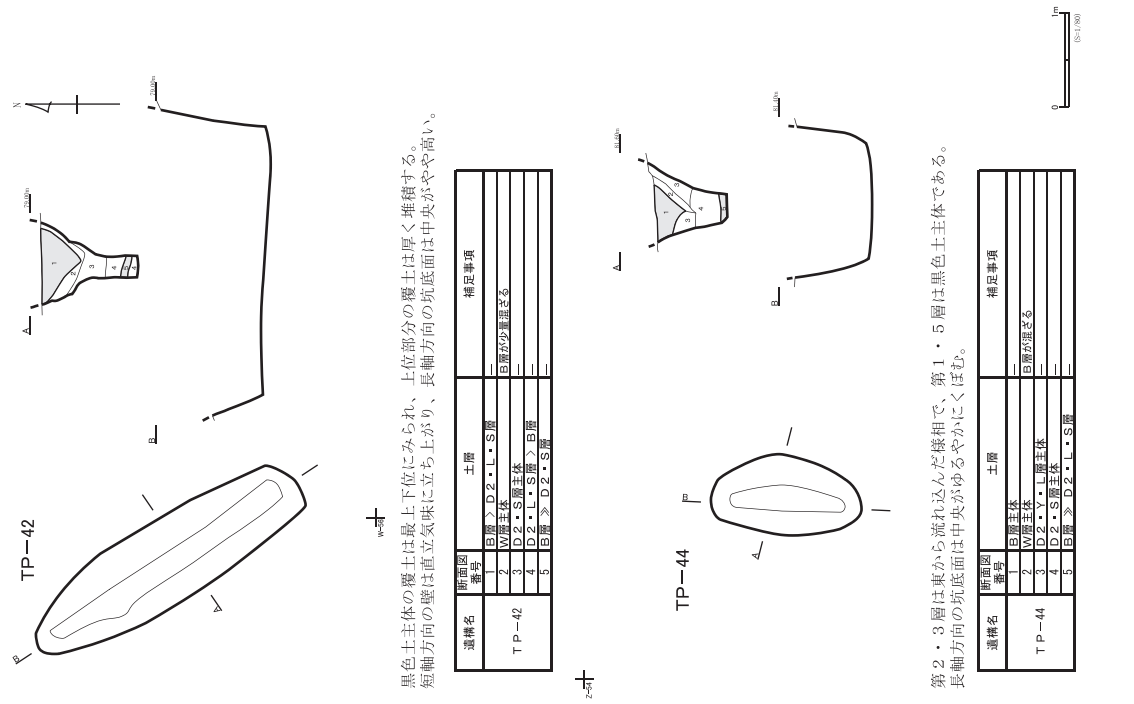


楕円形の TP-38 と細長い TP-39 が重複し、連続する土層断面の観察のため、トレンチで断ち割りした。切り合いから楕円形の TP-38 が新しく、覆土は斜面土位である東側壁際に部分的な覆土がみられる。TP-39 は古く、黒色土主体の層が最上位に厚く、最下層に薄くみられる。

遺物番号		遺物名	層位	出土位置	数量	備考
1	黒土器	1	片	1		
2	黒土器	1	片	1		
3	黒土器	1	片	1		
4	黒土器	1	片	1		
5	黒土器	1	片	1		
6	黒土器	1	片	1		
7	黒土器	1	片	1		
8	黒土器	1	片	1		
9	黒土器	1	片	1		
10	黒土器	1	片	1		
11	黒土器	1	片	1		
12	黒土器	1	片	1		
13	黒土器	1	片	1		
14	黒土器	1	片	1		
15	黒土器	1	片	1		
16	黒土器	1	片	1		
17	黒土器	1	片	1		
18	黒土器	1	片	1		
19	黒土器	1	片	1		

遺構名	断面図		補足事項
	番号	土層	
TP-38	1	白層主体	
	2	白層主体	
	3	W層主体	白層とD2・L層が少量に混ざる
	4	W層主体	白層が混ざる
	5	D2・L層主体	
	6	D2・L層主体	
	7	D2・L層 > 白層	
	8	D2・S層 > 白層	
	9	D2・Y・L層主体	
	10	D2・S層主体	
	11	D2・S層主体	
	12	白層主体	
	13	白層主体	
	14	白層 > D2・L・S層	
	15	D2・L層 > 白層	
	16	D2・Y・L層主体	
	17	D2・S層主体	
	18	D2・S層主体	
	19	D2・L・S層 > 白層	

図95 上幌内5遺跡 TP-36・TP-37・TP-38・TP-39



遺構の中央がくぼむ覆土で、長軸方向の坑底面は西側が低い。  
 皿群土器とレキが出土した。

TP-40			
遺構番号	遺構名称	層位	備考
1	覆土B層	1	覆土B層
2	覆土C層	1	覆土C層

断面図		補足事項	
断面図番号	土層	断面図番号	補足事項
1	B層 > D2・L・S層	1	B層が少埋没する
2	IV層主体	2	
3	D2・L・S層 > B層	3	
4	D2・Y・L層主体	4	
5	B層 > D2・S層	5	

覆土の堆積は概して三段階が推測される。最下位に第5・6層が水平に堆積し、次に第2・3層が北東側から流れ込み、最後に第1・2・4層が南西側のくぼみに堆積する。長軸方向の壁は坑底面近くが直立気味で、長軸方向の坑底面は北西側へと傾斜する。砂岩のレキが出土した。

TP-41			
遺構番号	遺構名称	層位	備考
1	覆土B層	1	覆土B層
2	覆土C層	1	覆土C層
3	覆土D層	1	覆土D層
4	覆土E層	1	覆土E層
5	覆土F層	1	覆土F層
6	覆土G層	1	覆土G層

断面図		補足事項	
断面図番号	土層	断面図番号	補足事項
1	B層主体	1	B層が埋没する
2	IV層主体	2	
3	D2・L・S層主体	3	
4	D2・Y・L層主体	4	
5	B層 > D2・S層	5	
6	B層 > D2・S層	6	

図96 上幌内5遺跡 TP-40・TP-41・TP-42・TP-44

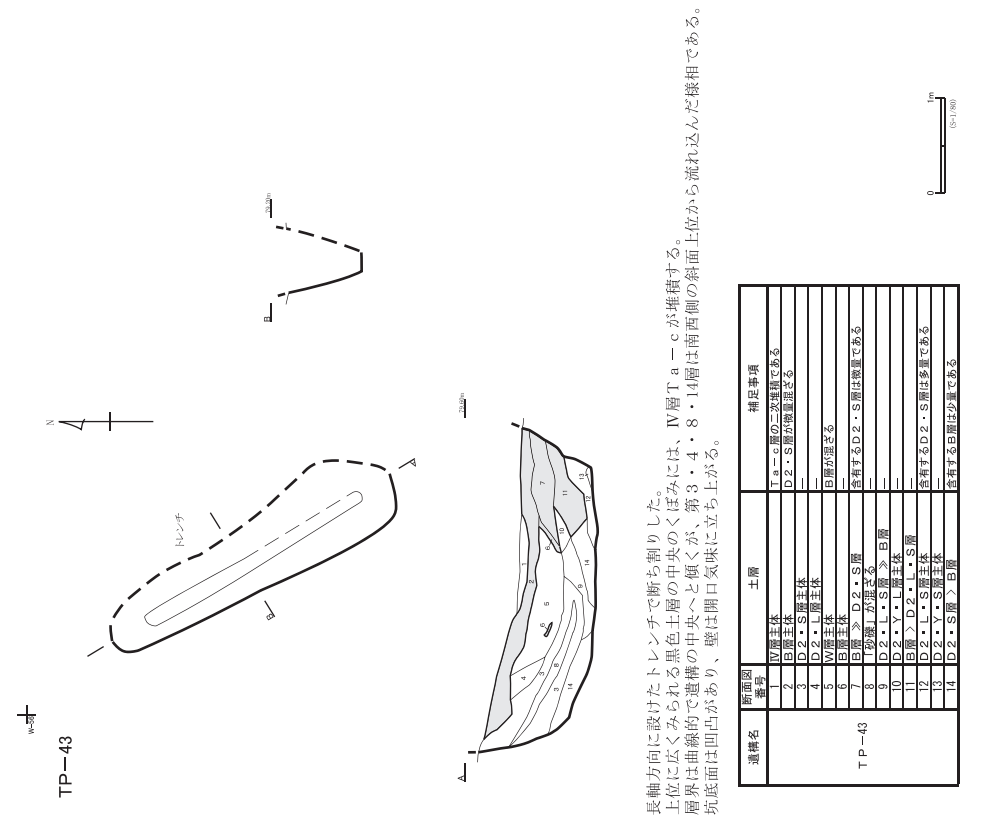
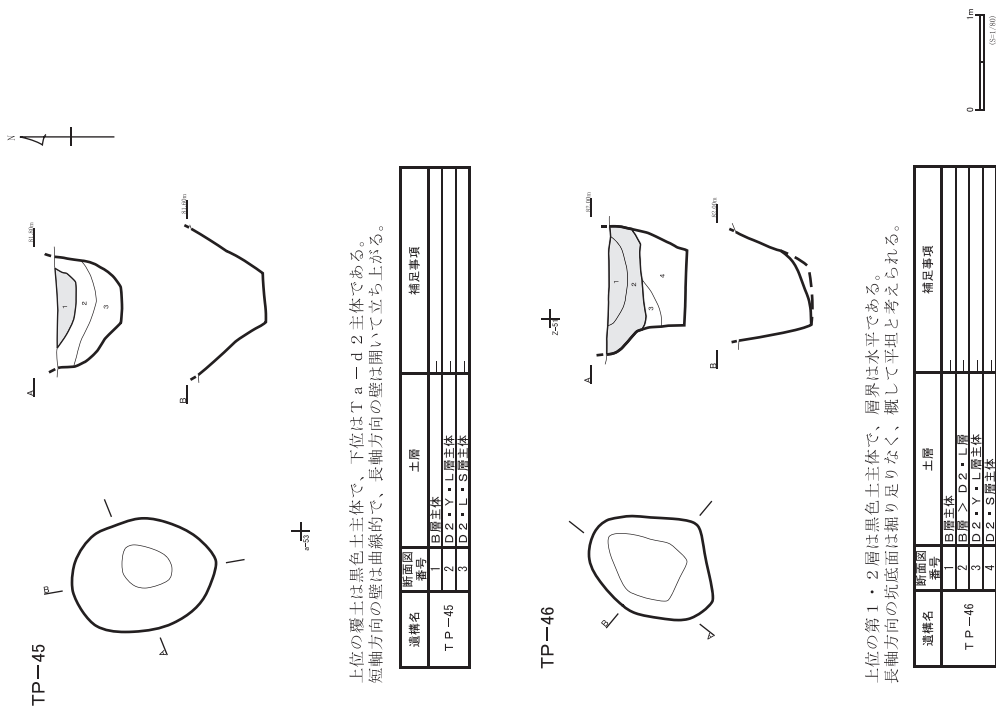
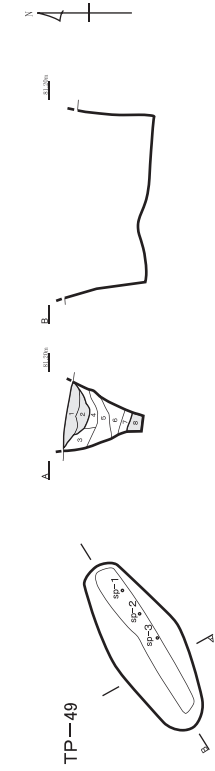
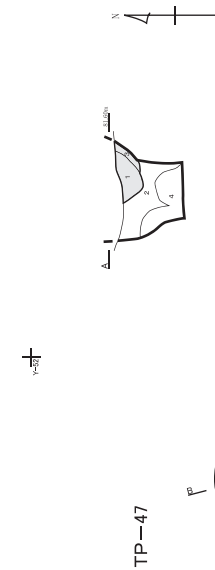


図97 上幌内5遺跡 TP-43・TP-45・TP-46



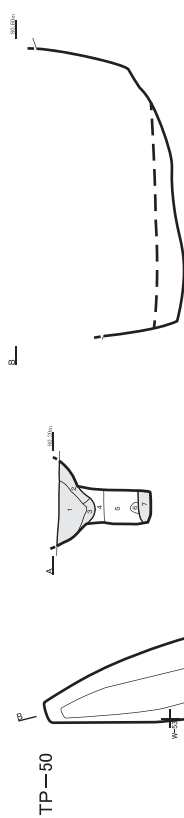
上位の覆土は中央へと傾斜し、下位は北あるいは南側へと斜めの堆積である。壁の立ち上がりはやや開き気味である。長軸方向の坑底面は一部高いが、ここは土層断面を観察した部分であり、低い部分が掘り過ぎの可能性がある。

遺跡番号		遺跡名		遺跡位置		遺跡規模		遺跡備考	
TP-49		土層		遺跡位置		遺跡規模		遺跡備考	
断面図番号	1	B層	D2・L層	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考			
断面図番号	2	B層	D2・L層	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考			
断面図番号	3	D2・Y・L層	主体	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考			
断面図番号	4	D2・L層	> B層	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考			
断面図番号	5	D2・L層	主体	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考			
断面図番号	6	D2・S層	主体	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考			
断面図番号	7	D2・Y・S層	主体	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考			
断面図番号	8	B層	主体	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考			



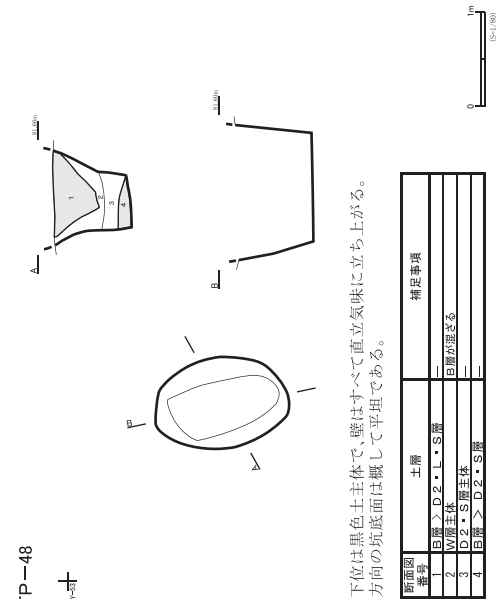
上位の黒色土主体の第1・2層は北東側からの流入と判断され、長軸方向の坑底面は北側へ傾斜する。

遺跡番号		遺跡名		遺跡位置		遺跡備考		
TP-47		土層		遺跡位置		遺跡備考		
断面図番号	1	B層	D2・L層	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考		
断面図番号	2	D2・Y・L層	主体	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考		
断面図番号	3	B層	> D2・L層	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考		
断面図番号	4	D2・S層	主体	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考		



上位と下位に黒色土主体の覆土があり、第2層は東側からの流れ込みで、第6層は部分的である。短軸方向で壁は直立気味に立ち上がり、坑底は掘り過ぎである。III群土器、フレイク、台石・石皿、U・Rレキが出土した。

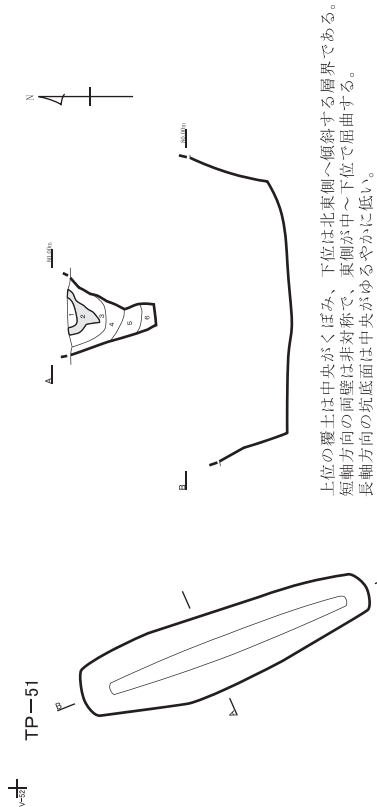
遺跡番号		遺跡名		遺跡位置		遺跡規模		遺跡備考	
TP-50		土層		遺跡位置		遺跡規模		遺跡備考	
断面図番号	1	B層	主体	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考			
断面図番号	2	B層	> D2・L層	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考			
断面図番号	3	B層	> D2・L層	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考			
断面図番号	4	D2・L層	> B層	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考			
断面図番号	5	D2・L層	主体	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考			
断面図番号	6	D2・S層	> B層	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考			
断面図番号	7	B層	主体	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考			



最上下位は黒色土主体で、壁はすべて直立気味に立ち上がる。長軸方向の坑底面は概して平坦である。

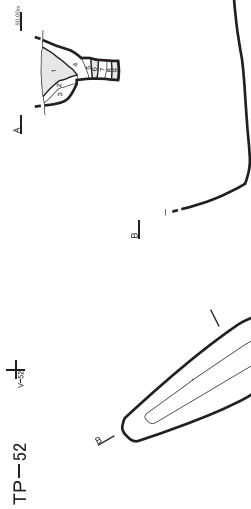
遺跡番号		遺跡名		遺跡位置		遺跡備考		
TP-48		土層		遺跡位置		遺跡備考		
断面図番号	1	B層	> D2・L・S層	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考		
断面図番号	2	W層	主体	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考	B層が埋まる。	
断面図番号	3	D2・S層	主体	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考		
断面図番号	4	B層	> D2・S層	遺跡位置	遺跡規模	遺跡備考		

図98 上幌内5遺跡 TP-47・TP-48・TP-49・TP-50



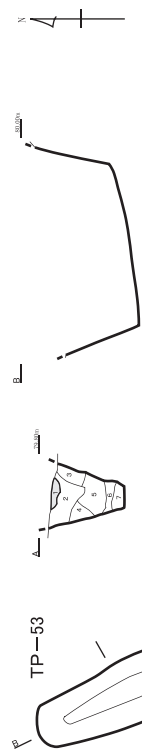
上位の覆土は中央がくぼみ、下位は北東側へ傾斜する層界である。  
短軸方向の高壁は非対称で、東側が中～下位で屈曲する。  
長軸方向の坑底面は中央がゆるやかに低い。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-51	1	D2・L・S層 > B層	
	2	B層主体	
	3	W層主体	B層が埋まる
	4	D2・L層主体	
	5	D2・S層主体	
	6	D2・S層 > B層	



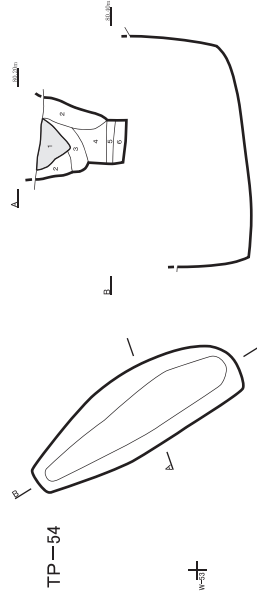
上位は南西側が曲線的に広がり、第2・3層が縦長に堆積し、反対側は第4層が流れ込んだ様相である。  
下位は水平な堆積がみられる。フレイク、砥石、台石・石皿が出土した。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-52	1	B層主体	
	2	W層主体	B層が埋まる
	3	W層主体	
	4	W層主体	
	5	D2・Y・L層主体	
	6	B層 > D2・L層	
	7	D2・L層 > B層	
	8	D2・S層主体	
	9	B層 > D2・S層	



黒色土主体の覆土は最上位の第1層のみで、左右非対称な堆積である。  
長軸方向の坑底面は北側へと傾斜し、黒曜石のフレイクが出土した。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-53	1	B層主体	
	2	W層主体	
	3	D2・Y・L層主体	B層が埋まる
	4	D2・L層主体	
	5	D2・L層 > B層	
	6	D2・Y・L層 > B層	
	7	D2・S層主体	



東側壁際にT a-d 2主体の層が縦長に堆積し、下位は水平堆積である。  
短軸方向の面壁は直立して立ち上がり、若干開口する。  
最上位の覆土B層から皿群土器、黒曜石のフレイク、たまたき石、U・Rレキが出土した。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-54	1	B層主体	
	2	D2・Y・L層主体	
	3	W層主体	
	4	W層主体	
	5	D2・S層主体	B層が埋まる
	6	D2・S層 > B層	

図99 上幌内5遺跡 TP-51・TP-52・TP-53・TP-54



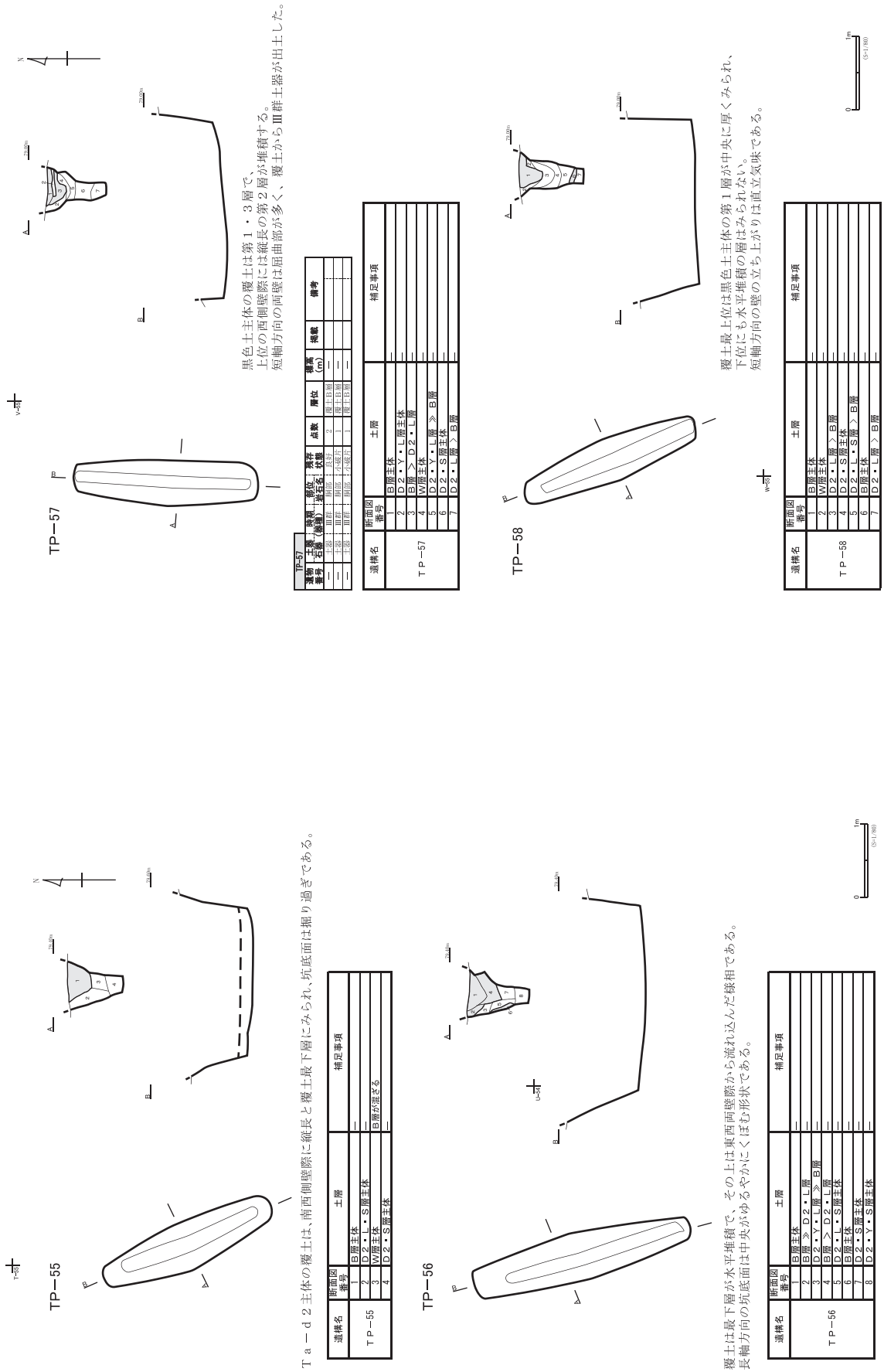


図100 上幌内5遺跡 TP-55・TP-56・TP-57・TP-58

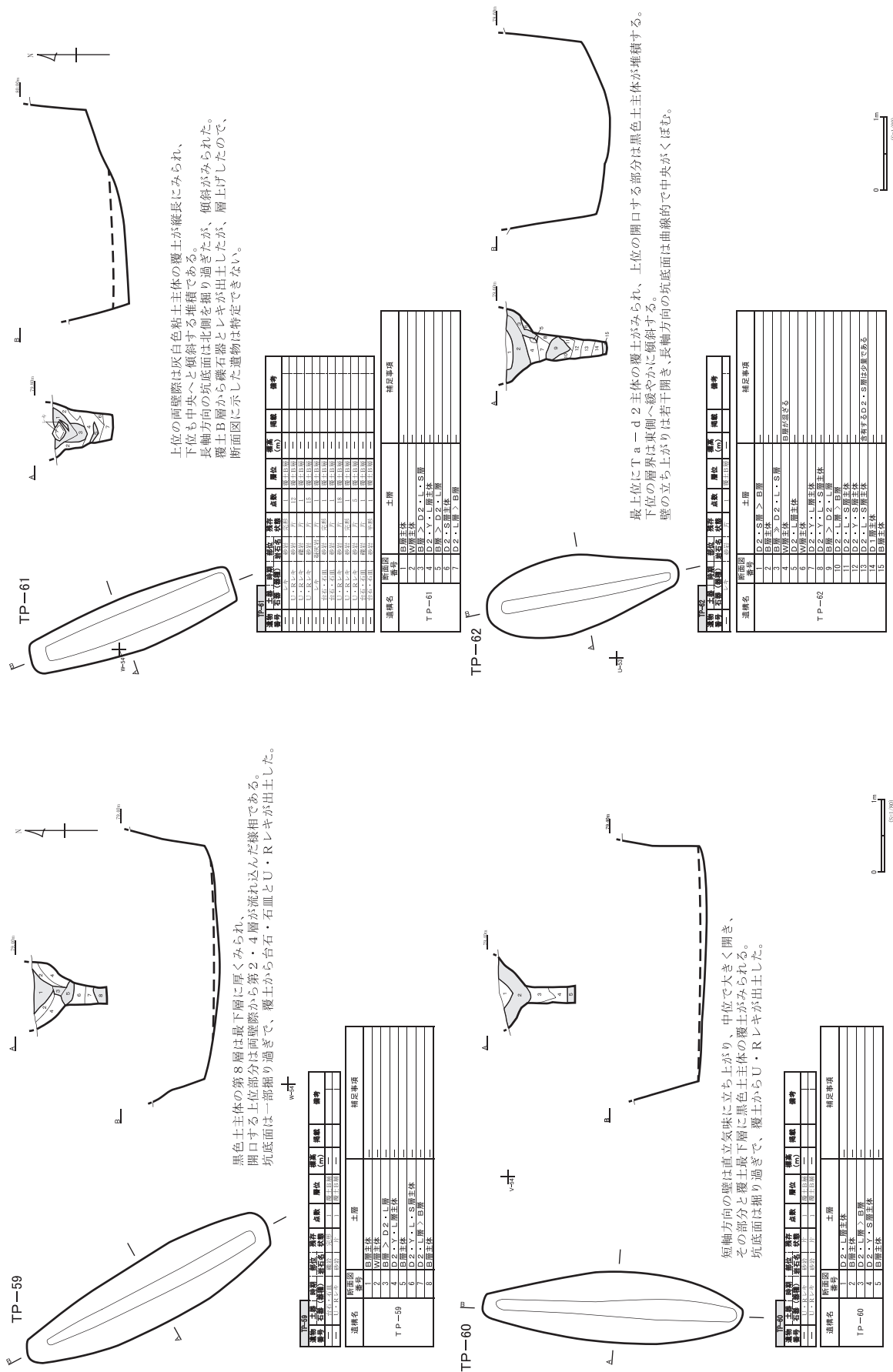


図101 上幌内5遺跡 TP-59・TP-60・TP-61・TP-62

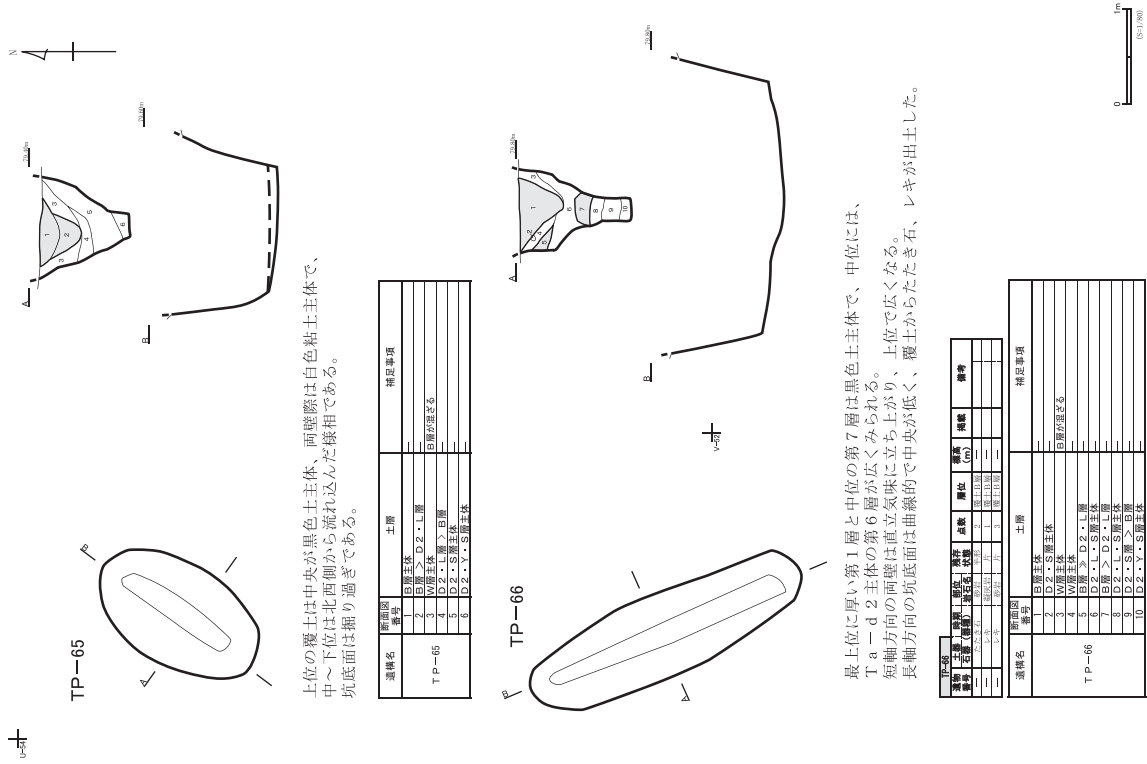
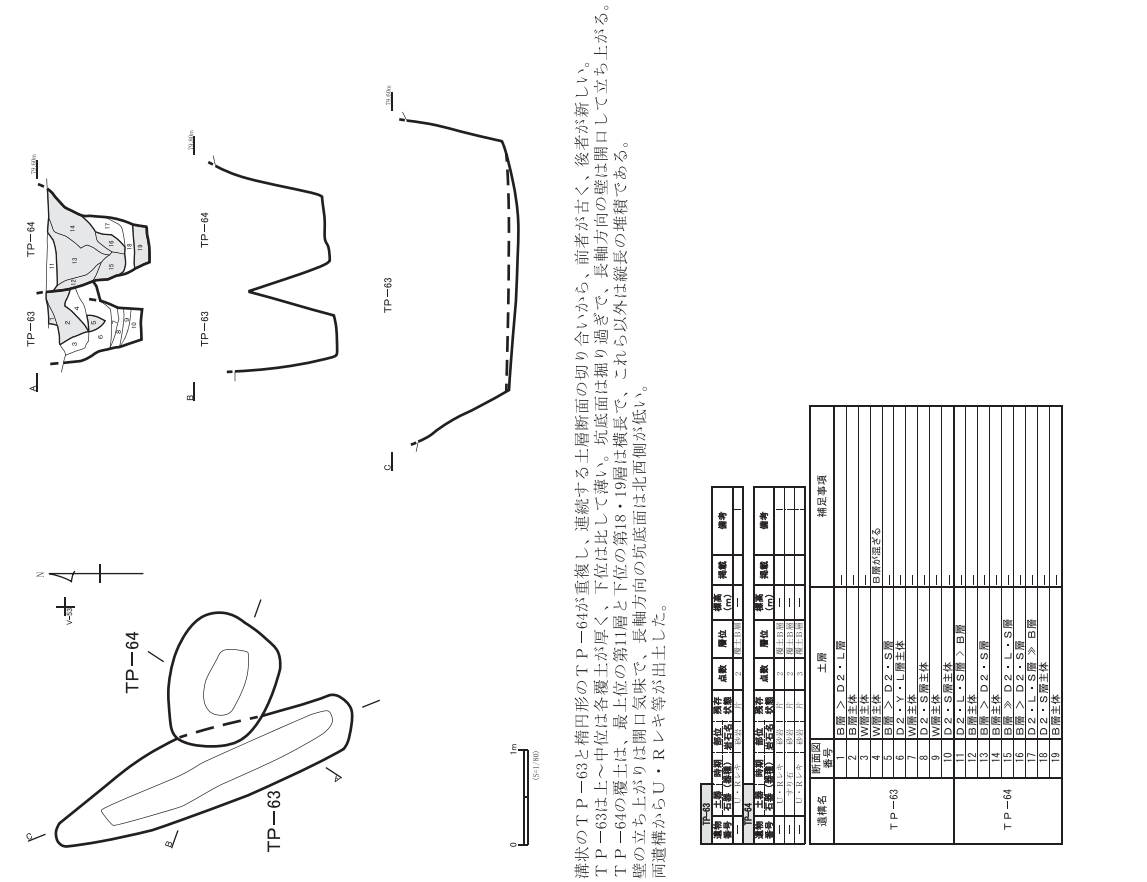


図102 上幌内5遺跡 TP-63・TP-64・TP-65・TP-66



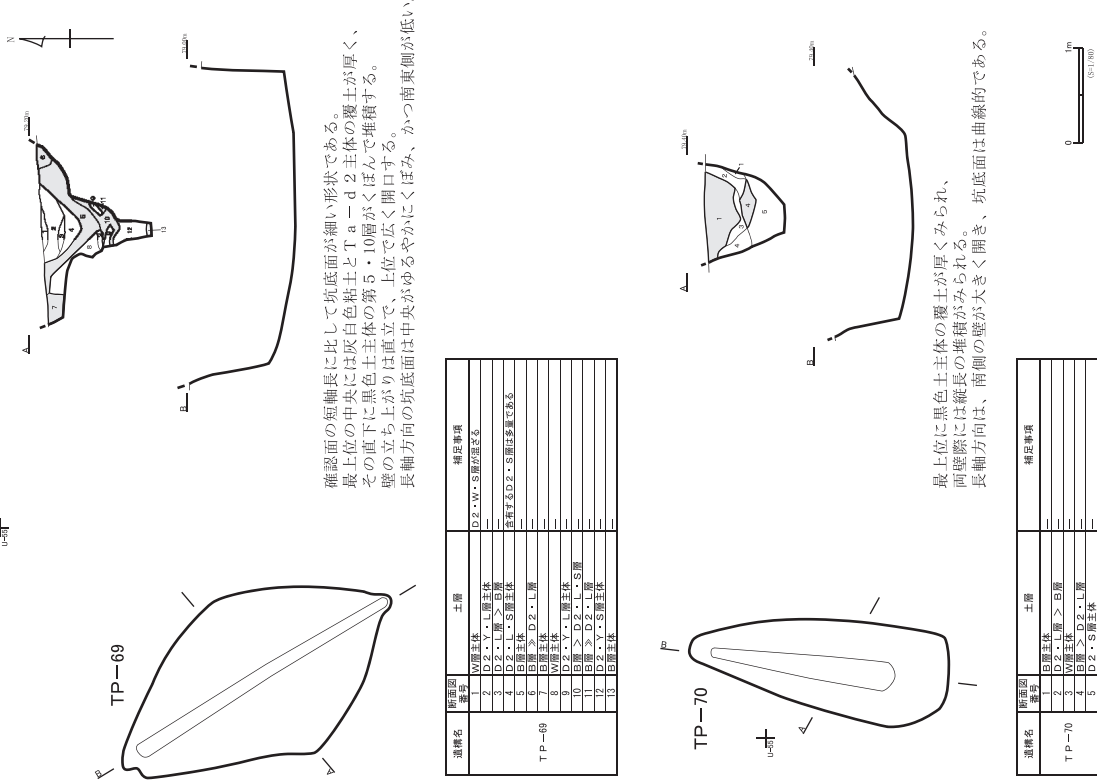
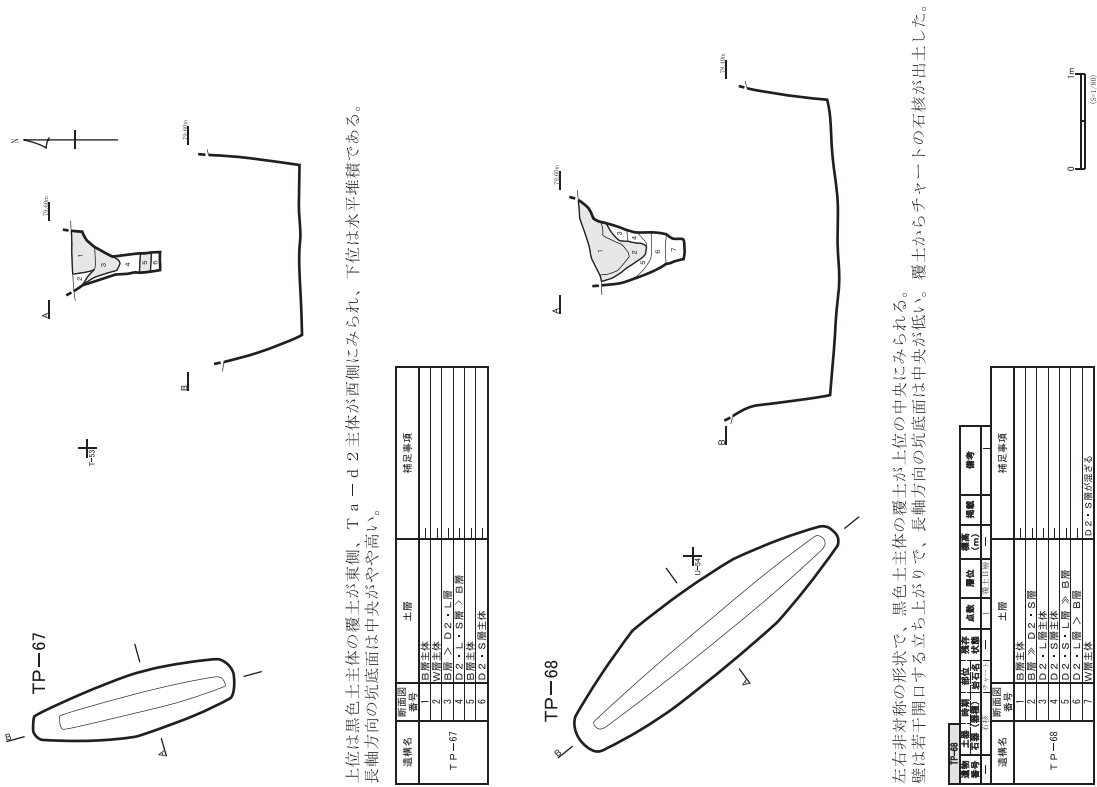
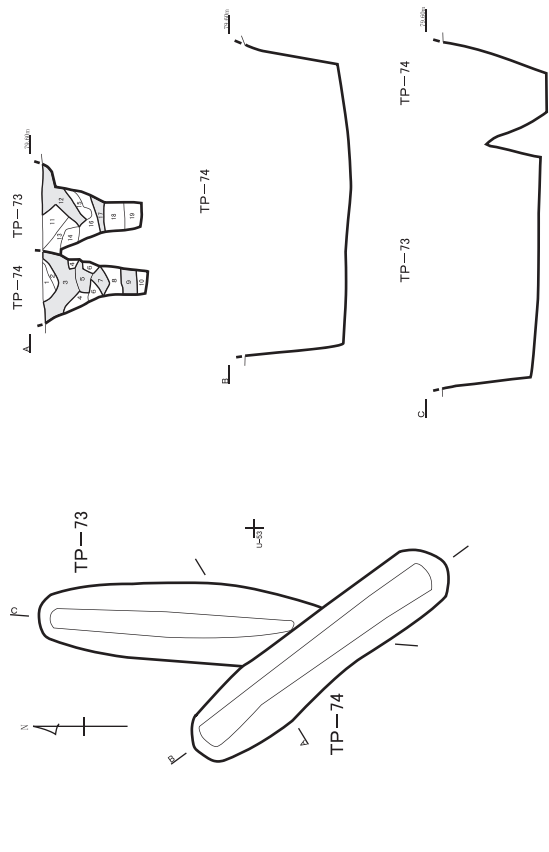


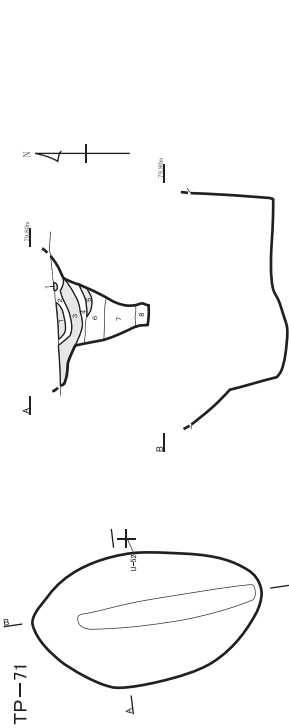
図103 上幌内5遺跡 TP-67・TP-68・TP-69・TP-70



同規模の細長い2基が重複する。連続する土層断面の観察から、TP-74がTP-73を切っており、前者が新しく後者が古い。  
 TP-73の上位は、南西側から灰白色粘土主体の第11層とT a - d 2主体の第13層、北東側から黒色土主体の第12層の層界が中央へと傾斜してみられ、中～下位は本平堆積である。  
 TP-74の覆土は、最上位の中央にT a - d 2主体の第1層と灰白色粘土主体の第2層が薄くみられ、その直下は黒色土主体の第3・5層が厚い。長軸方向の両壁は若干開口して立ち上がり、坑底面は中央がゆるやかにくぼむ。  
 覆土からチャートの石稜とU・Rレキが出土した。

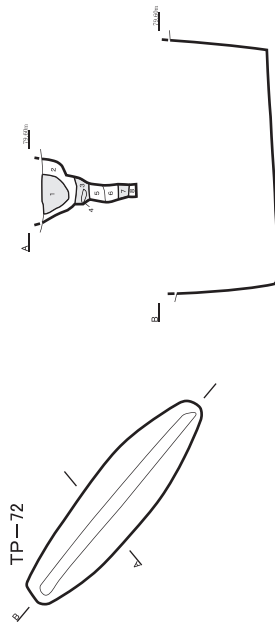
遺構番号	遺構名	層位	形状	規模	構造	備考
1	TP-73	1	長軸方向	約1.5m	開口	
2	TP-74	2	長軸方向	約2.5m	開口	

遺構名	土層				構造	備考
	層位	層厚 (cm)	傾斜 (°)	厚さ (cm)		
TP-74	1	D2・L層	—	—	開口	色が異なる
	2	D2・L層	—	—	開口	
	3	D2・L層	—	—	開口	
	4	D2・L層	—	—	開口	
	5	D2・L層	—	—	開口	
	6	D2・S層	—	—	開口	
	7	D2・S層	—	—	開口	
	8	D2・S層	—	—	開口	
	9	D2・S層	—	—	開口	
	10	D2・Y・S層	—	—	開口	
TP-73	11	D2・L層	—	—	開口	色が異なる
	12	D2・L層	—	—	開口	
	13	D2・L層	—	—	開口	
	14	D2・L層	—	—	開口	
	15	D2・L層	—	—	開口	
	16	D2・L層	—	—	開口	
	17	D2・L層	—	—	開口	
	18	D2・S層	—	—	開口	
	19	D2・Y・S層	—	—	開口	



黒色土主体の覆土は最上位の第1層は薄く、第3層は西側、第2層は東側に偏る。中～下位は概して水平堆積で、短軸方向の両壁は屈曲し上位が広く開く。  
 長軸方向の坑底面は北側が低い、掘り過ぎかもしれない。覆土からV群土器が出土した。

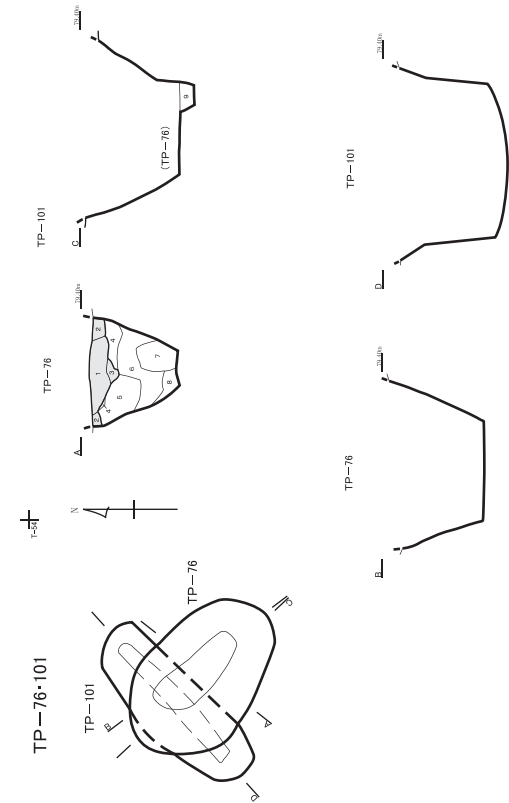
遺構番号	遺構名	土層				構造	備考
		層位	層厚 (cm)	傾斜 (°)	厚さ (cm)		
TP-71	1	D2・L層	—	—	開口		
	2	D2・L層	—	—	開口		
	3	D2・L層	—	—	開口		
	4	D2・L層	—	—	開口		
	5	D2・L層	—	—	開口		
	6	D2・Y・L層	—	—	開口		
	7	D2・Y・L層	—	—	開口		
	8	D2・Y・S層	—	—	開口		



黒色土主体の覆土は、第1層が上位、第3・4層が中位、第7層が下位にみられる。屈曲する短軸方向の両壁は上位で開口し、長軸方向の坑底面は北西側へと傾斜する。  
 黒曜石の石稜とフレイクが出土した。

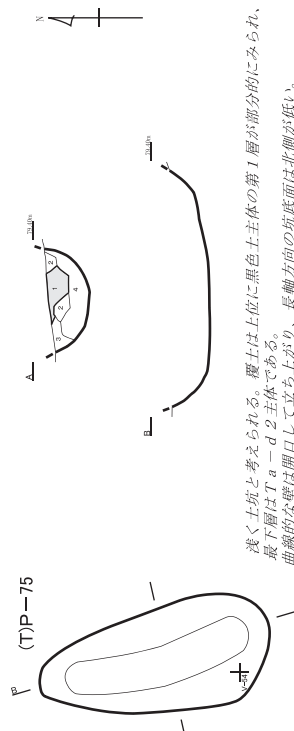
遺構番号	遺構名	土層				構造	備考
		層位	層厚 (cm)	傾斜 (°)	厚さ (cm)		
TP-72	1	D2・L層	—	—	開口		
	2	D2・L層	—	—	開口		
	3	D2・L層	—	—	開口		
	4	D2・L層	—	—	開口		
	5	D2・L層	—	—	開口		
	6	D2・L層	—	—	開口		
	7	D2・L層	—	—	開口		
	8	D2・Y・S層	—	—	開口		

図104 上幌内5遺跡 TP-71・TP-72・TP-73・TP-74



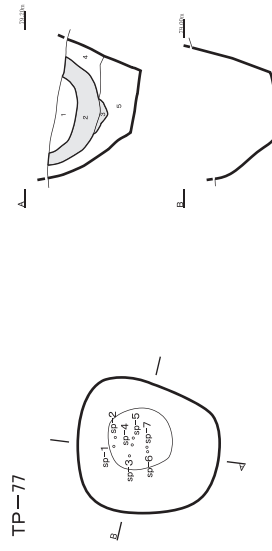
TP-76の北西側部分を掘り下げたところ、坑底面で溝状のTP-101の坑底がみつかかり、重複していたと判明した。  
 TP-76の覆土は最上位が黒色土主体で、最下層の北東側には黄色粘土主体の覆土が縦長にみられる。壁は開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は概して平坦である。  
 TP-101の最下層はT a-d 2主体で、長軸方向の壁は若干開口して立ち上がり、坑底面は曲線的に中央がくぼむ。  
 TP-76の調査中にTP-101の覆土や構造がみられなかったため、TP-76の調査中にTP-101の覆土や構造がみられなかったため、TP-76が切っており新しいと考えられる。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-76	1	白層主体	-
	2	白層 > D2・L層	-
	3	白層 > D2・L層	-
	4	D2・L層主体	-
	5	D2・L層主体	-
TP-101	6	D2・S層主体	-
	7	D2・Y・S層主体	-
	8	D2・Y・S層主体	-



浅く土坑と考えられる。覆土は上位に黒色土主体の第1層が部分的にみられ、最下層はT a-d 2主体である。  
 曲線的な壁は開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は北側が低い。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
(T)P-75	1	白層主体	坑底面傾斜
	2	白層主体	-
	3	白層主体	-
	4	D2・Y・L層主体	-



最上位はT a-d 2主体の第1層が厚く、直下の第2・3層は黒色土主体で曲線的な層界である。壁は開口して立ち上がり、坑底面は北と西側に傾斜する。柱穴・杭穴s p-1~7を確認し、s p-3以外は2か所が並んで長軸上に位置するとみられる。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-77	1	D2・L層 > 白層	-
	2	D2・L層 > 白層	-
	3	白層 > D2・L層	-
	4	D2・L・S層主体	-

図105 上幌内5遺跡 (T)P-75・TP-77・TP-76・TP-101

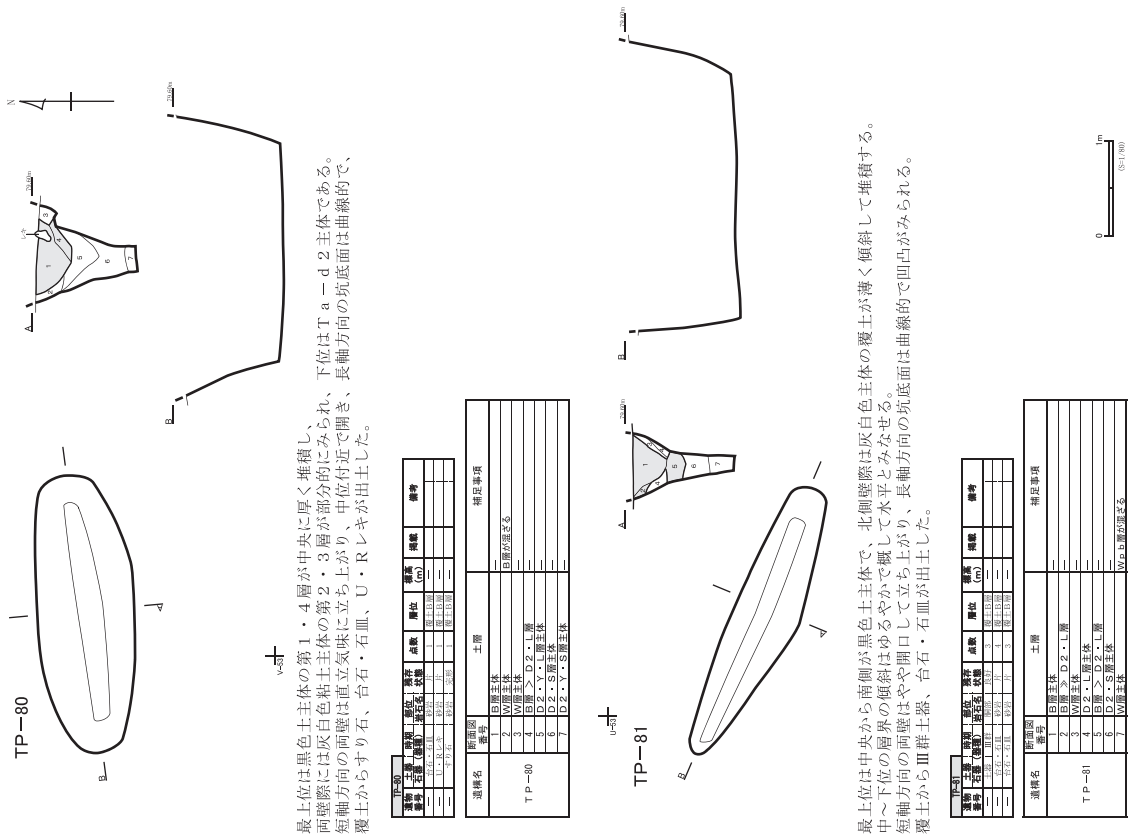


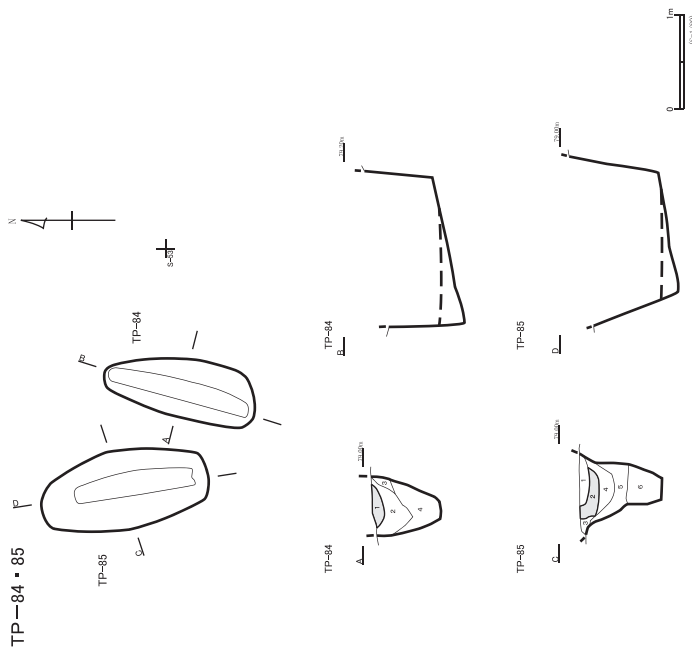
図106 上幌内5遺跡 TP-78・TP-79・TP-80・TP-81

最上位は黒色土主体の第1・4層が中央に厚く堆積し、両壁際には灰白色粘土主体の第2・3層が部分的にみられ、下位はT a-d 2主体である。短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、中位付近で開き、長軸方向の坑底面は曲線的で、覆土からすり石、台石・石皿、U・R・レギが出土した。

上位は黒色土主体の第2・3層が厚く広いが、最上位の中央にT a-d 2主体の第1層が縦長に堆積する。中位は灰白色粘土主体で第5層は両壁際に傾斜してみられ、下位はT a-d 2主体である。壁の立ち上がりは開口気味で、長軸方向の坑底面は西側へ傾斜する。

黒色土主体は最上位にみられる第1層と中位の中央に縦長の第3層で、下位はT a-d 2主体の覆土が厚い。短軸方向の両壁が直立気味で、長軸方向の坑底面は低い部分がある。

最上位は中央から両側が黒色土主体で、北側壁際は灰白色主体の覆土が薄く傾斜して堆積する。中～下位の層界はゆるやかにで概して水平とみなせる。短軸方向の両壁はやや開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は曲線的で凹凸がみられる。覆土からⅢ群土器、台石・石皿が出土した。

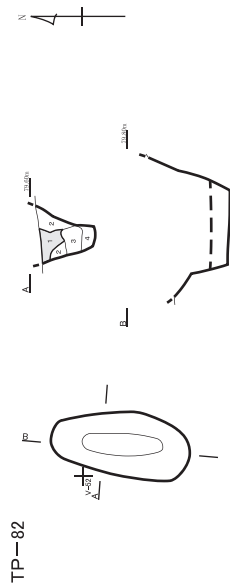


楕円形の2基で、東側のTP-84は最上位中央に黒色土主体の覆土が堆積し、層界はすべて傾斜する。短軸方向の両壁はやや曲線的で、坑底面は北側を掘り過ぎた。西側のTP-85の最上位の覆土はTa-d 2主体の第1層と灰白色粘土主体の第3層で、下位は水平堆積である。西側の壁は中位で屈曲し、坑底面の北側部分は掘り過ぎである。

断面図番号	土層	構造物事項
1	IV層主体	
2	D2・L層	
3	D2・L層 > 白層	
4	D2・L層 > 白層主体	
5	D2・S層主体	

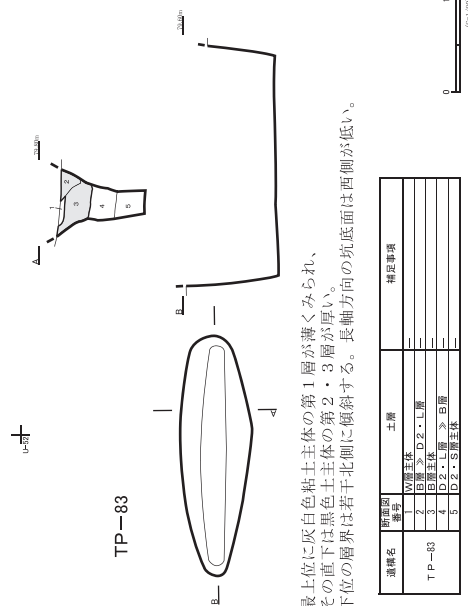
  

断面図番号	土層	構造物事項
1	D2・S層主体	
2	D2・L層 > D2・L層	
3	D2・L層 > 白層	
4	IV層主体	包層が定まる
5	D2・Y・L層主体	
6	D2・S層主体	



左右非対称で、広がる東側の上位は灰白色粘土主体の第2層が縦長にみられる。黒色土主体の第1層は最上位の中央にあり、下位は水平堆積である。東側以外の壁は開口して立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

断面図番号	土層	構造物事項
1	IV層主体	
2	D2・L層	
3	D2・L層 > 白層	
4	D2・S層主体	

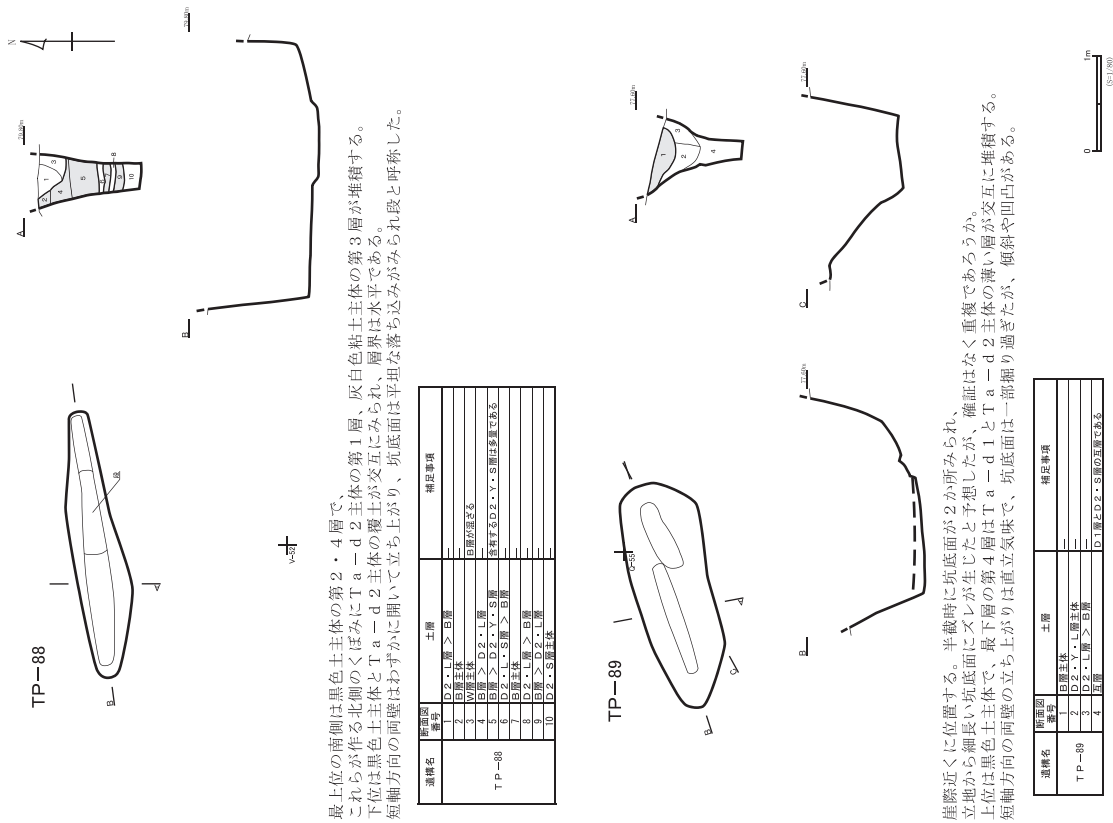


最上位に灰白色粘土主体の第1層が薄くみられ、その直下は黒色土主体の第2・3層が厚い。下位の層界は若干北側に傾斜する。長軸方向の坑底面は西側が低い。

断面図番号	土層	構造物事項
1	IV層主体	
2	D2・L層	
3	D2・L層 > 白層	
4	D2・L層 > 白層	
5	D2・S層主体	

図107 上幌内5遺跡 TP-82・TP-83・TP-84・TP-85





最上位の南側は黒色土主体の第2・4層で、これらが作る北側のくぼみにT a-d 2主体の第1層、灰白色粘土主体の第3層が堆積する。下位は黒色土主体とT a-d 2主体の覆土が交互にみられ、層界は水平である。短軸方向の両壁はわずかに開いて立ち上がり、坑底面は平坦な落ち込みがみられ段と呼称した。

黒色土主体の覆土は最上位南側の第1層と中位に部分的な第6層で、これら以外はT a-d 2主体で第2層以外は水平堆積である。短軸方向の両壁は閉き気味、長軸方向の坑底面は若干くぼみ、東側部分は擾乱がある。

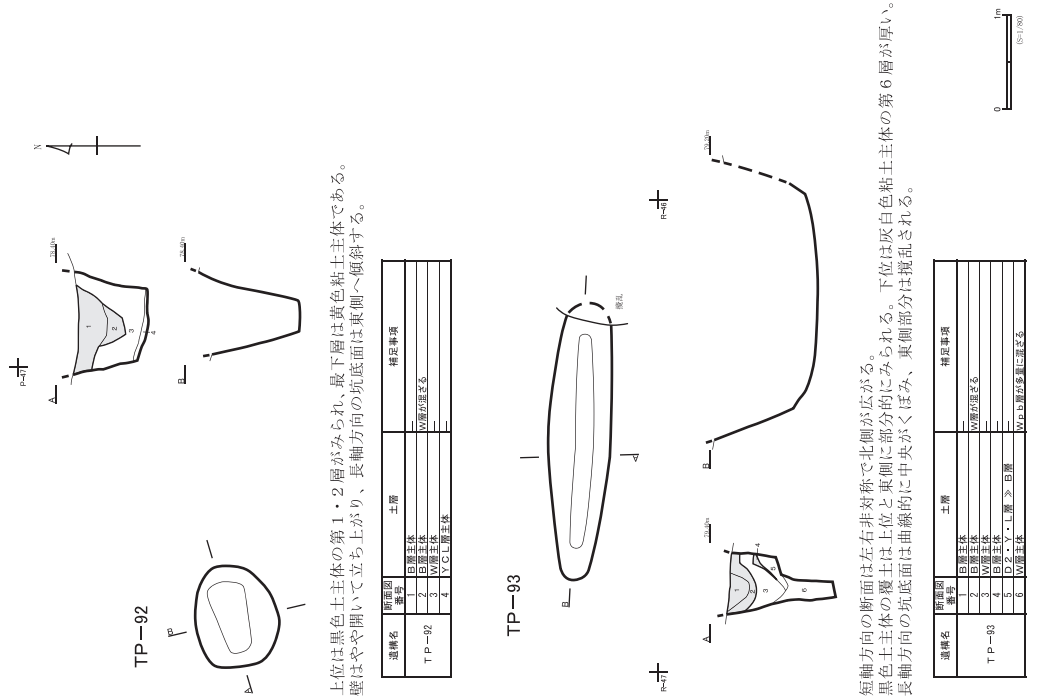
くぼんだ状況でみつかった。最上位は黒色土主体の第1層がくぼみ、中・下位の層界は北西側へ傾斜する。短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、長軸方向の坑底面は若干中央が低い。

層面別番号	土層	補記事項
1	白層 > D2・L層	
2	D2・S層主体	
3	D2・L層主体	白層が混入する
4	D2・L層主体	
5	D2・L層主体	土層がD2・Y・S層に重なりあがる
6	D2・L層主体	
7	D2・L層主体	
8	D2・L層主体	
9	D2・L層主体	
10	D2・S層主体	

層面別番号	土層	補記事項
1	白層 > D2・L層	
2	D2・S層主体	
3	D2・L層主体	
4	D2・Y・S層主体	

層面別番号	土層	補記事項
1	白層主体	
2	D2・Y・L層主体	
3	D2・L層 > 白層	
4	白層	D2・L層とD2・S層の両層で成る

図108 上幌内5遺跡 TP-86・TP-87・TP-88・TP-89



上位は黒色粘土主体の第1・2層がみられ、最下層は黄色粘土主体である。壁はやや開いて立ち上がり、長軸方向の坑底面は東側へ傾斜する。

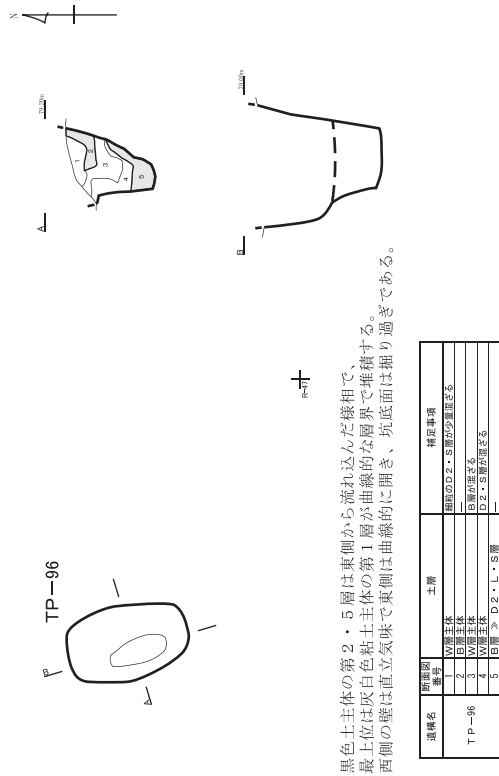
平成27(2015)年度に南西側、平成28(2016)年度に北東側の一部を調査した。最上位はV層と分層したい黒色粘土主体の第1層で、これ以外の覆土は地山の灰白色粘土との区別が困難であった。短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、坑底面は湧水し掘り過ぎた。

遺構名	層面図番号	土層	特記事項
TP-90 平成27年度	1	黒色粘土	全層とも灰白色粘土は多量である。短軸のW層とL層が多量に混ざる。短軸のW層とL層が混ざる。
	2	IV層主体	
	3	IV層主体	
	4	V・G・L層主体	

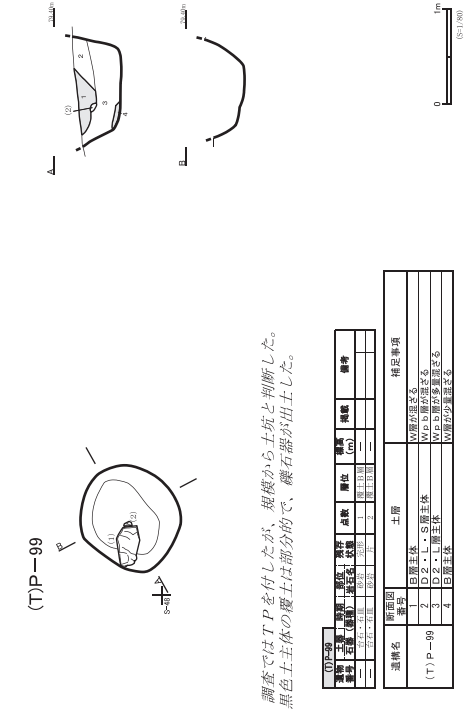
最上位に黒色粘土主体の層がくぼみ状に堆積し、これ以外は灰褐色粘土主体である。直立気味の短軸方向の両壁は屈曲があり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	層面図番号	土層	特記事項
TP-91	1	黒色粘土	W層とD2・L層が混ざる。
	2	IV層主体	
	3	IV層主体	

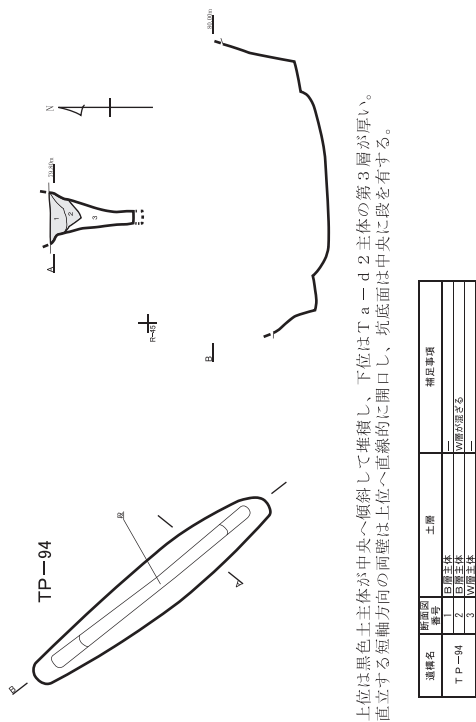
図109 上幌内5遺跡 TP-90・TP-91・TP-92・TP-93



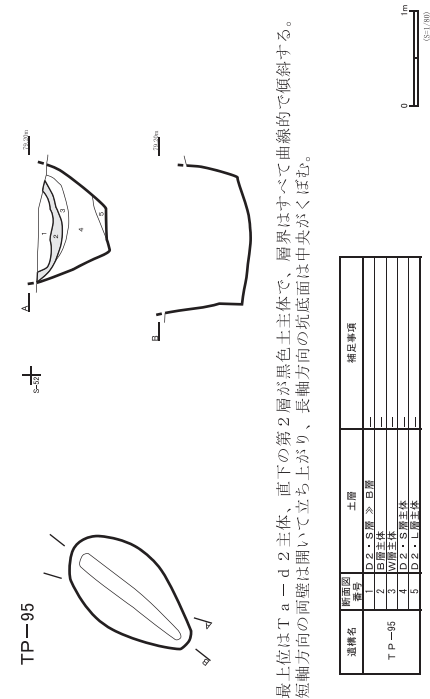
黒色土主体の第2・5層は東側から流れ込んだ様相で、最上位は灰白色粘土主体の第1層が曲線的な層界で堆積する。西側の壁は直立気味で東側は曲線的に開き、坑底面は掘り過ぎである。



調査ではTPを付したが、規模から土坑と判断した。黒色土主体の覆土は部分的で、礫石器が出土した。

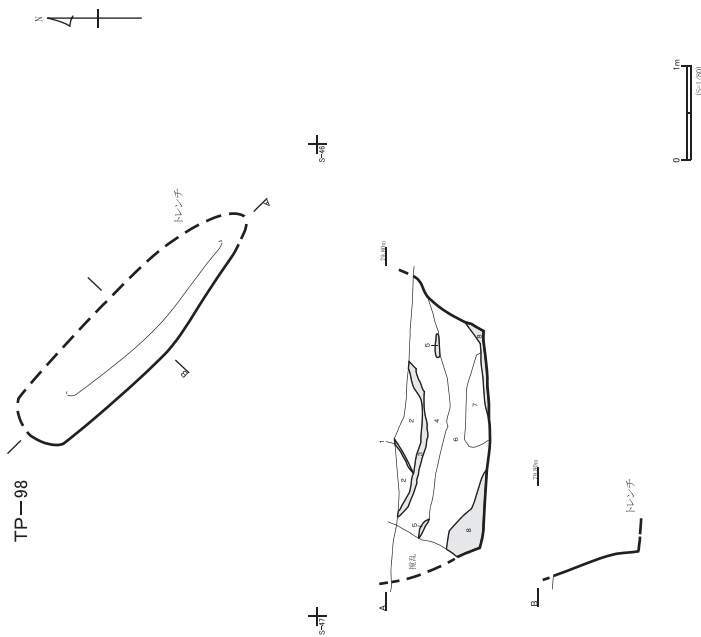


上位は黒色土主体が中央へ傾斜して堆積し、下位はT a - d 2 主体の第3層が厚い。直立する短軸方向の両壁は上位へ直線的に開口し、坑底面は中央に段を有する。



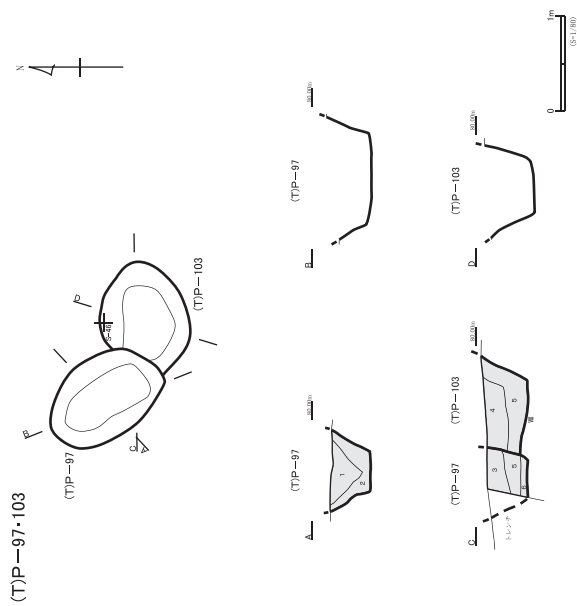
最上位はT a - d 2 主体、直下の第2層が黒色土主体で、層界はすべて曲線的で傾斜する。短軸方向の両壁は開いて立ち上がり、長軸方向の坑底面は中央がくぼむ。

図110 上幌内5遺跡 TP-94・TP-95・TP-96・(T)P-99



最上位の中央は灰褐色粘土主体の第2層で、黒色土主体の第1・3層がこの直下と間にみられる。中～下位の層は曲線的で、最下層の第8層は阿曇原から流れ込んだ様相である。南東側部分は攪乱され、長軸方向の坑底面は中央がゆるやかにくぼむ。

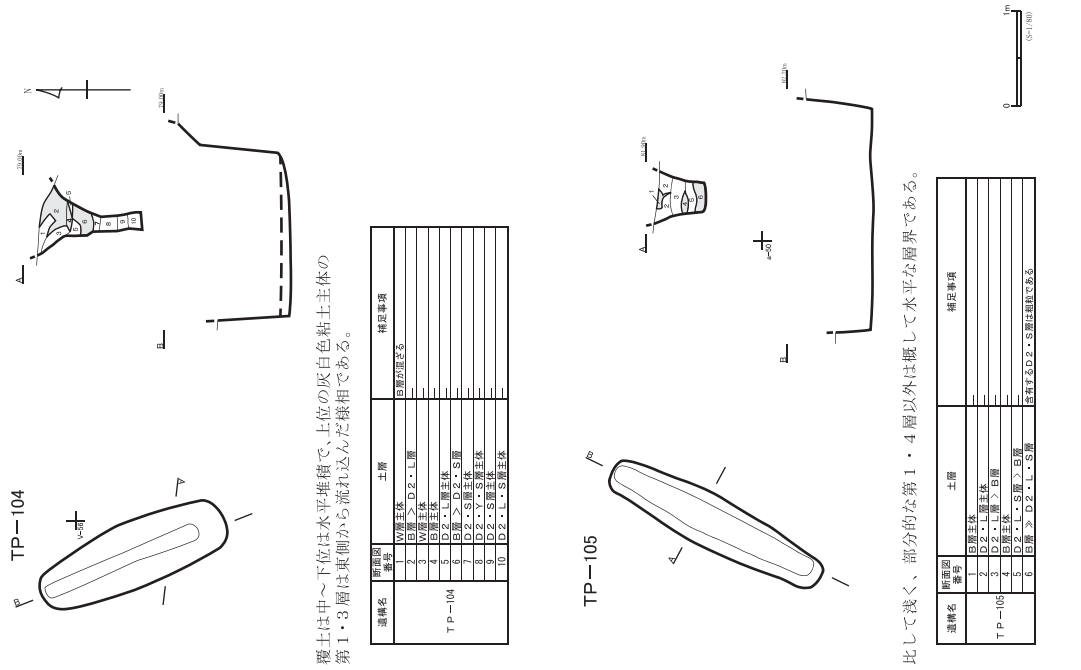
遺跡名	断面図番号	土層	補足事項
TP-98	1	白層主体	VI層が広がる
	2	IV層主体	D層・E層が広がる
	3	IV層主体	D層・E層が広がる
	4	IV層主体	IV層が主体となる
	5	IV層主体	IV層が主体となる
	6	IV層主体	IV層が主体となる
	7	IV層・白層	IV層と白層が重なる
	8	IV層主体	IV層が主体となる



調査ではTPを付したが、規模から土坑と判断した。楕円形の2基が重複してみられ、土層断面から(T)P-97が(T)P-103を切っている。覆土はすべて黒色土主体である。

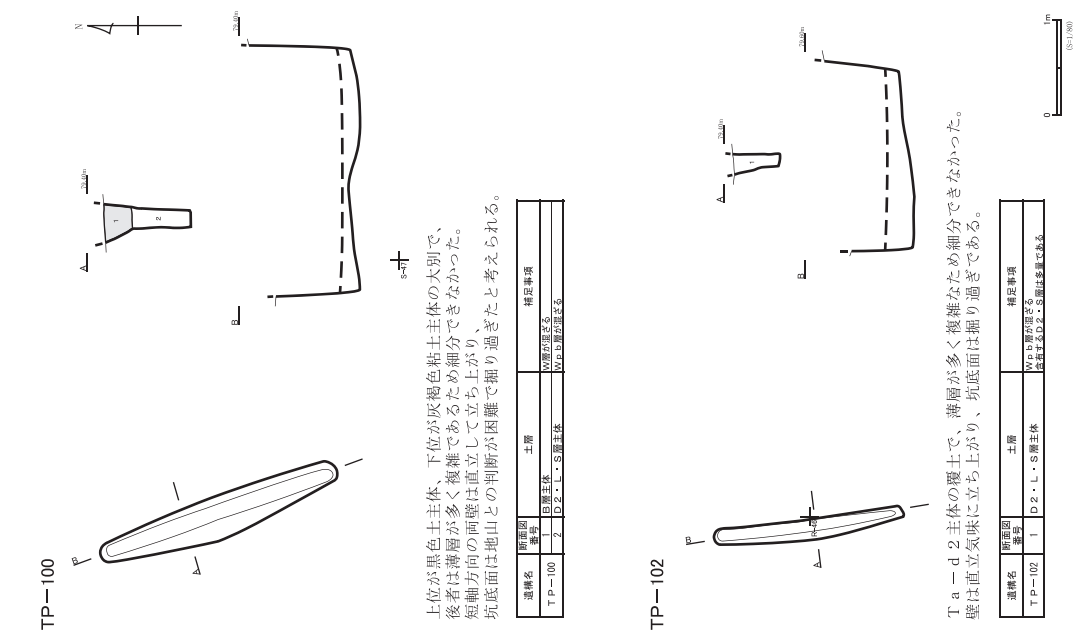
遺跡名	断面図番号	土層	補足事項
(T)P-97	1	白層主体	IV層とV層が重なる
	2	白層主体	IV層とV層が重なる
	3	白層主体	IV層とV層が重なる
	4	白層・土層	IV層とV層が重なる
	5	白層主体	IV層とV層が重なる

図111 上幌内5遺跡 (T)P-97・(T)P-103・TP-98



覆土は中～下位は水平堆積で、上位の灰白色粘土主体の第1・3層は東側から流れ込んだ様相である。

比して浅く、部分的な第1・4層以外は概して水平な層界である。

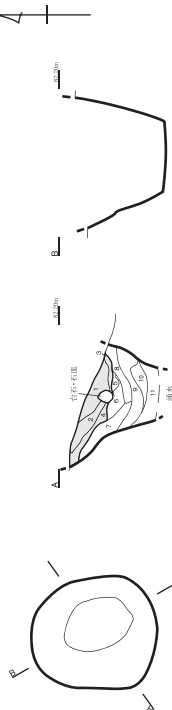


上位が黒色土主体、下位が灰褐色粘土主体の大別で、後者は薄層が多く複雑であるため細分できなかつた。短軸方向の向壁は直立して立ち上がり、坑底面は掘り過ぎた。坑底面は地山との判断が困難で掘り過ぎたと考えられる。

T a - d 2 主体の覆土で、薄層が多く複雑なため細分できなかつた。壁は直立気味に立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

図112 上幌内5遺跡 TP-100・TP-102・TP-104・TP-105

TP-106



b-27

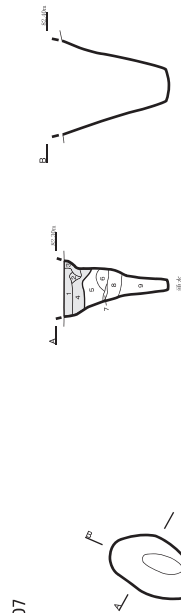
崖際の斜面に立地し、坑底面は絶えず湧水していた。上位の第1～4層は黒色土主体で、その中央のくぼみから礫石器が出土した。

遺跡番号	遺跡名	遺跡の位置	遺跡の形状	面積	高さ	構造	備考
TP-106	遺跡名	遺跡の位置	遺跡の形状	面積	高さ	構造	備考
1	白層主体						
2	D2・L層主体						
3	D2・L層主体						
4	D2・L層主体						
5	D2・L層主体						
6	D2・L層主体						
7	D2・L層主体						
8	D2・L層主体						
9	D2・L層主体						
10	D2・L層主体						
11	D2・L層主体						

遺跡名	断面別番号	土層	特定事項
TP-106	1	白層主体	
	2	D2・L層主体	D2・L層が少量混在する
	3	D2・L層主体	D2・L層が少量混在する
	4	D2・L層主体	D2・L層が少量混在する
	5	D2・L層主体	D2・L層が少量混在する
	6	D2・L層主体	D2・L層が少量混在する
	7	D2・L層主体	D2・L層が少量混在する
	8	D2・L層主体	D2・L層が少量混在する
	9	D2・L層主体	D2・L層が少量混在する
	10	D2・L層主体	D2・L層が少量混在する
	11	D2・L層主体	D2・L層が少量混在する

b-28

TP-107

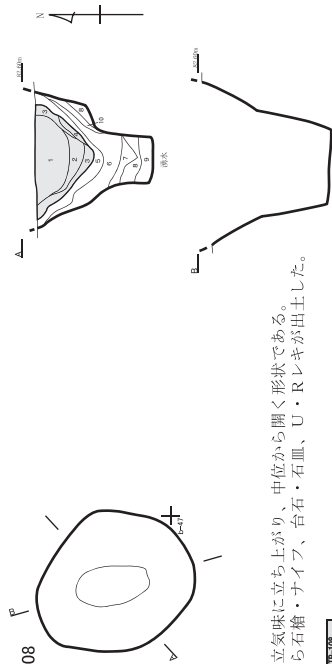


比較的小さく、中～下位の覆土はT a～d 2主体で、一部T a～d 1主体の第8層がみられる。覆土から黒曜石のU・Rフレイクが出土した。

遺跡番号	遺跡名	遺跡の位置	遺跡の形状	面積	高さ	構造	備考
TP-107	遺跡名	遺跡の位置	遺跡の形状	面積	高さ	構造	備考
1	白層主体						
2	D2・L層主体						
3	D2・L層主体						
4	D2・L層主体						
5	D2・L層主体						
6	D2・L層主体						
7	D2・L層主体						
8	D2・L層主体						
9	D2・L層主体						

遺跡名	断面別番号	土層	特定事項
TP-107	1	白層主体	
	2	D2・L層主体	
	3	D2・L層主体	
	4	D2・L層主体	
	5	D2・L層主体	
	6	D2・L層主体	
	7	D2・L層主体	
	8	D2・L層主体	
	9	D2・L層主体	

TP-108

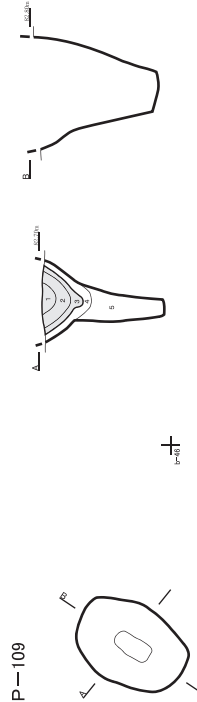


壁は直立気味に立ち上がり、中位から開く形状である。覆土から石倉・ナイズ・台石・石皿、U・Rフレイクが出土した。

遺跡番号	遺跡名	遺跡の位置	遺跡の形状	面積	高さ	構造	備考
TP-108	遺跡名	遺跡の位置	遺跡の形状	面積	高さ	構造	備考
1	白層主体						
2	D2・L層主体						
3	D2・L層主体						
4	D2・L層主体						
5	D2・L層主体						
6	D2・L層主体						
7	D2・L層主体						
8	D2・L層主体						
9	D2・L層主体						
10	D2・L層主体						

遺跡名	断面別番号	土層	特定事項
TP-108	1	白層主体	
	2	D2・L層主体	
	3	D2・L層主体	
	4	D2・L層主体	
	5	D2・L層主体	
	6	D2・L層主体	
	7	D2・L層主体	
	8	D2・L層主体	
	9	D2・L層主体	
	10	D2・L層主体	

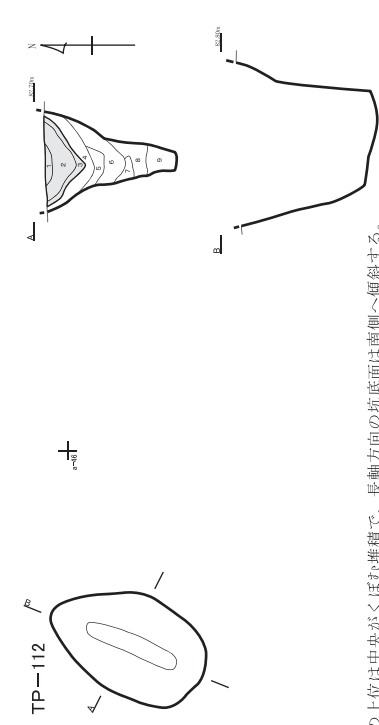
TP-109



小規模で、上位の覆土の層界は規則的な曲線である。

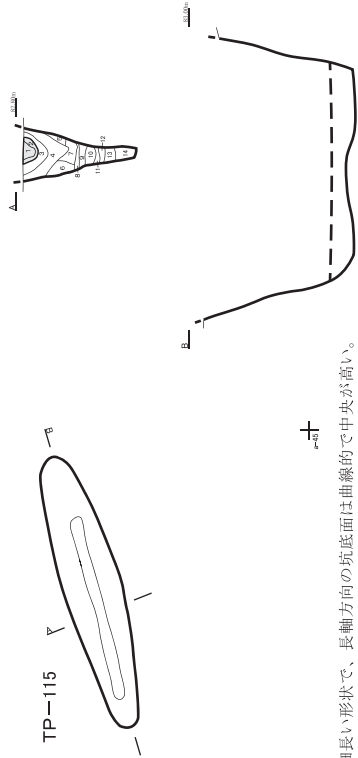
遺跡名	断面別番号	土層	特定事項
TP-109	1	白層主体	
	2	D2・L層主体	
	3	D2・L層主体	
	4	D2・L層主体	
	5	D2・L層主体	

図113 上幌内5遺跡 TP-106・TP-107・TP-108・TP-109



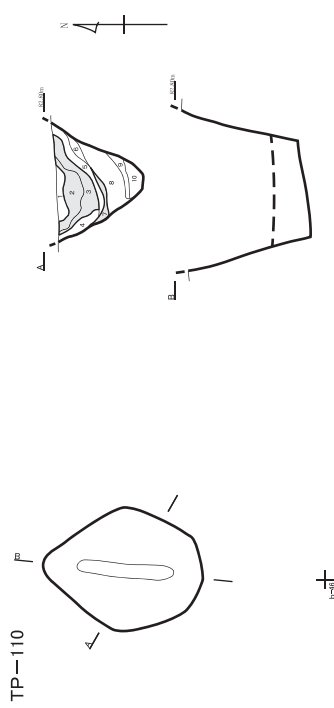
覆土の上位は中央がくぼむ堆積で、長軸方向の坑底面は南側へ傾斜する。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-112	1	B層主体	D2・Y・L層が混ざる
	2	B層主体	
	3	D2・L層	
	4	D2・L・S層	
	5	D2・L・S層主体	
	6	D2・L・S層主体	
	7	D2・L・S層主体	
	8	D2・S層主体	
	9	D2・S層主体	



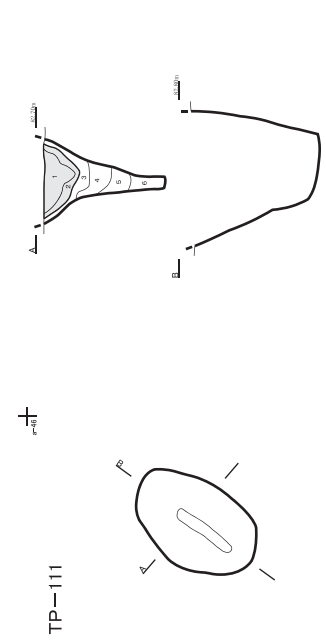
細長い形状で、長軸方向の坑底面は曲線的で中央が高い。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-115	1	B層主体	D2・Y・L層が混ざる
	2	D2・L層	
	3	D2・L・S層	
	4	D2・L・S層主体	
	5	D2・L・S層主体	
	6	D2・L・S層主体	
	7	D2・L・S層主体	
	8	D2・L層主体	
	9	D2・L層主体	
	10	D2・L層主体	
	11	D2・L層主体	
	12	D2・L層主体	
	13	D2・L層主体	
	14	D2・S層主体	



覆土は水平に堆積するものがみられず、第5層の形状から南東側からの流れ込みが想定される。完備時に坑底面を掘り過ぎた。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-110	1	B層主体	D2・S層が少量混ざる
	2	D2・S層	
	3	D2・S層	
	4	D2・S層	
	5	D2・S層	
	6	D2・S層	
	7	D2・S層	
	8	D2・S層	
	9	D2・S層	
	10	D2・S層	



水平堆積の覆土はなく、長軸方向の壁の立ち上がりは北東側が大きく開く。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-111	1	B層主体	D2・S層が少量混ざる
	2	D2・S層	
	3	D2・S層	
	4	D2・S層	
	5	D2・S層	

図114 上幌内5遺跡 TP-110・TP-111・TP-112・TP-115

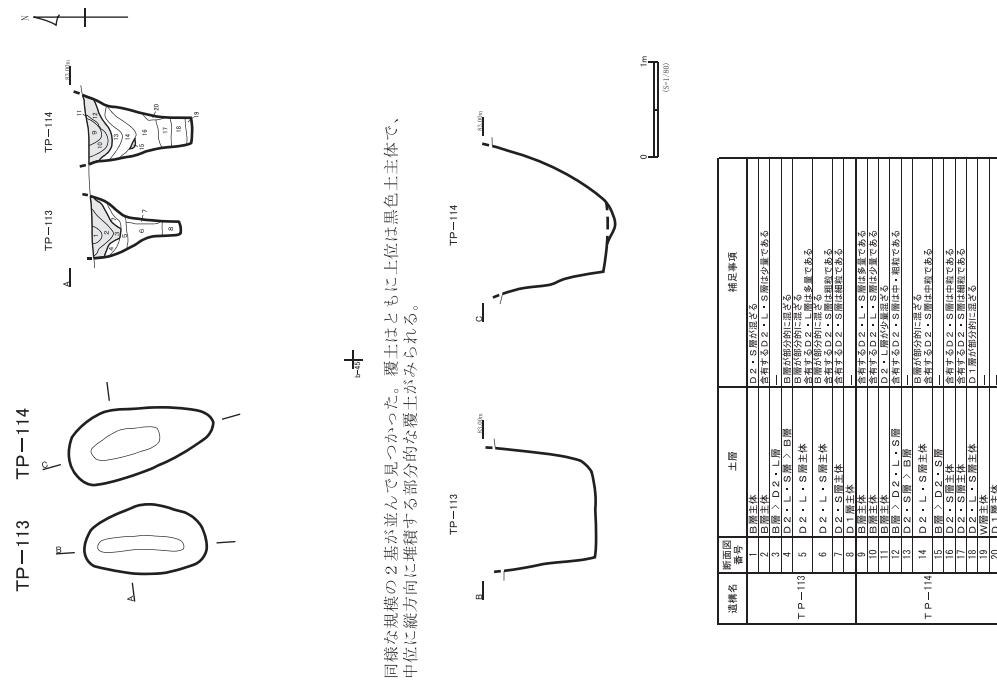
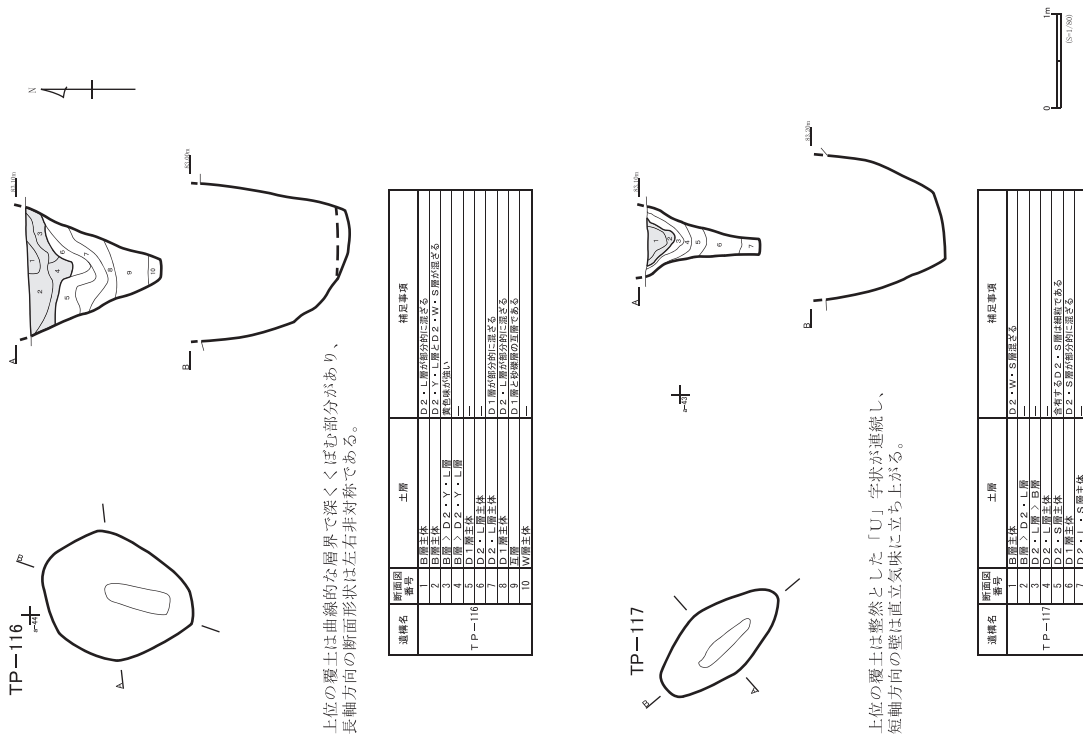
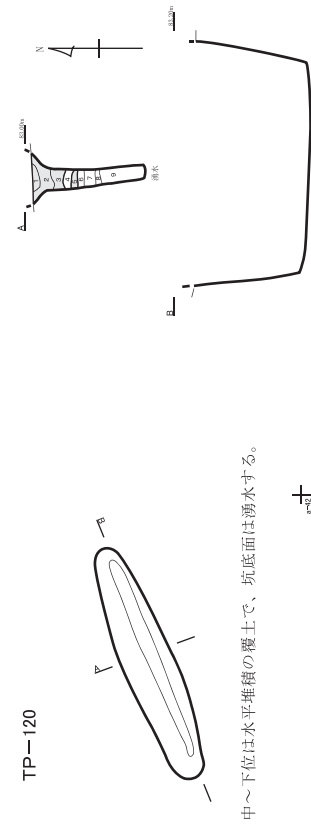


図115 上幌内5遺跡 TP-113・TP-114・TP-116・TP-117





TP-120

中～下位は水平堆積の覆土で、坑底面は湧水する。

遺構名	断面図番号	土層	特記事項
TP-120	1	白層主体	
	2	白層 > D2・L層	灰白色の「砂塊」が混ざる
	3	白層主体	黒色のD2・S層が混ざる
	4	D2・L層 > 白層	
	5	白層主体	
	6	D2・S層主体	
	7	D1層主体	D2・S層が少量混ざる
	8	D2・L層主体	
	9	D2・S層主体	

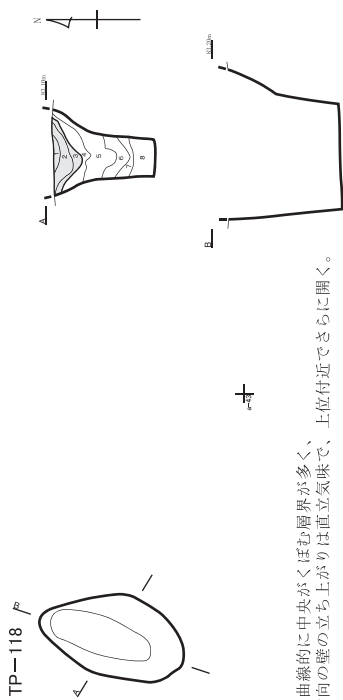
+



TP-121

TP-121は長軸方向断面を割りトレンチ調査の壁に土層断面がみられ、南側部分がみられ、南側部分を調査した。坑底面や壁は曲線的で、覆土はすべてT a - d 2 または T a - d 1 主体で、黒色土主体のみはみられない。

遺構名	断面図番号	土層	特記事項
TP-121	1	D2・Y・S層主体	
	2	D2・L・S層主体	
	3	D1層主体	D2・S層が混ざる
	4	D2・L層主体	
	5	D2・S層主体	
	6	D2・S層主体	D1層が混ざる
	7	D2・S層主体	黒色土がD2・S層に混ざっている
	8	D2・Y層主体	混ざるD2・Y・S層は確認できる

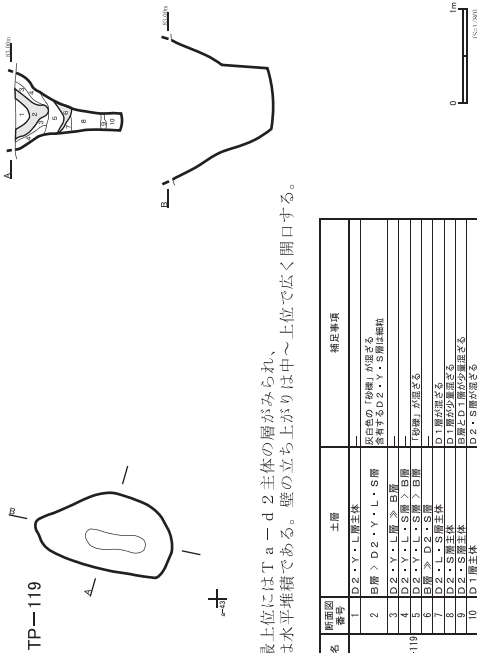


TP-118

覆土は曲線的に中央がくぼむ層が多く、短軸方向の壁の立ち上がりは直立気味で、上位付近でさらに開く。

遺構名	断面図番号	土層	特記事項
TP-118	1	白層主体	
	2	白層主体	D2・Y・L層が混ざる
	3	D2・L層	混ざり混ざる
	4	D2・L層 > 白層	D2・W・S層が混ざる
	5	D2・S層主体	
	6	D1層主体	D2・Y・L層が混ざる
	7	D2・S層主体	
	8	D2・S層主体	混ざるD2・S層は確認できる

+



TP-119

覆土最上位にはT a - d 2 主体の層がみられ、下位は水平堆積である。壁の立ち上がりは中～上位で広く開口する。

遺構名	断面図番号	土層	特記事項
TP-119	1	D2・Y・L層主体	
	2	白層 > D2・Y・L・S層	灰白色の「砂塊」が混ざる
	3	D2・Y・L層 > 白層	混ざるD2・Y・S層が混ざり
	4	D2・Y・L層 > 白層	
	5	D2・Y・L・S層 > 白層	
	6	D2・Y・L・S層 > 白層	「砂塊」が混ざる
	7	D2・L・S層主体	D1層が混ざる
	8	D2・S層主体	D1層が少量混ざる
	9	D2・S層主体	白層との層が少量混ざる
	10	D1層主体	D2・S層が混ざる

図116 上幌内5遺跡 TP-118・TP-119・TP-120・TP-121



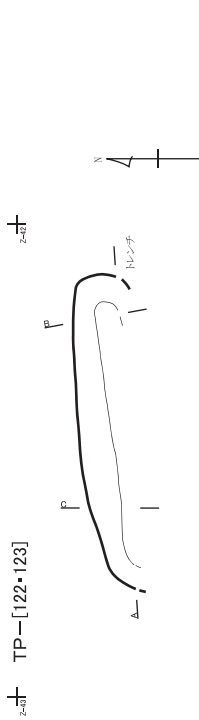
遺構名/断面図番号	土層	補注事項
TP-124	1 土層主体	
	2 土層主体	
	3 D2・L層	
	4 D2・L層主体	
	5 D1層主体	
	6 D2・L層主体	D2・L層が厚くなる

小規模で、覆土は中位にT a - d 1 主体の第4・5層がみられる。坑底面は掘り過ぎである。



遺構名/断面図番号	土層	補注事項
TP-125	1 土層主体	
	2 土層主体	
	3 D2・L層	
	4 D2・L層主体	
	5 D2・L層主体	
	6 D2・L層主体	
	7 D2・L層主体	
	8 D2・L層主体	
	9 D2・L層主体	
	10 D2・L層主体	土層が厚くなる

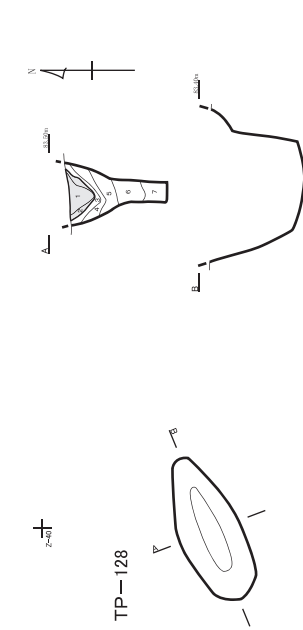
覆土は上位に黒色土主体の層が厚く、南東側壁の中位に灰白色粘土が部分的にみられる。長軸方向の坑底面は南西側へと傾斜し、柱穴・杭穴sp-1を確認した。



遺構名/断面図番号	土層	補注事項
TP-[122・123]	1 土層主体	D2・S層が厚くなる
	2 土層主体	
	3 土層主体	
	4 土層主体	
	5 土層主体	
	6 土層主体	
	7 土層主体	
	8 土層主体	
	9 土層主体	
	10 土層主体	
	11 土層主体	
	12 土層主体	
	13 土層主体	
	14 土層主体	
	15 土層主体	
	16 土層主体	
	17 土層主体	
	18 土層主体	
	19 土層主体	
	20 土層主体	
	21 土層主体	
	22 土層主体	
	23 土層主体	
	24 土層主体	
	25 土層主体	
	26 土層主体	
	27 土層主体	

細長い2基が長軸方向で重複していると考え、調査前に複数の遺構番号を付した。同方向にトレンチを設け断ち割りしたところ、断面からは1基と判断された。混乱を避けるため遺構番号の再整理はせず、このTピット1基をTP-[122・123]と表記する。最上位の覆土は黒色土主体で、中央付近が最も厚いが、東側に多くみられる。下位は東には黒色土主体の第24層、西側にはT a - d 1 主体の第25・26層がある。壁は少し開き気味に立ち上がる。

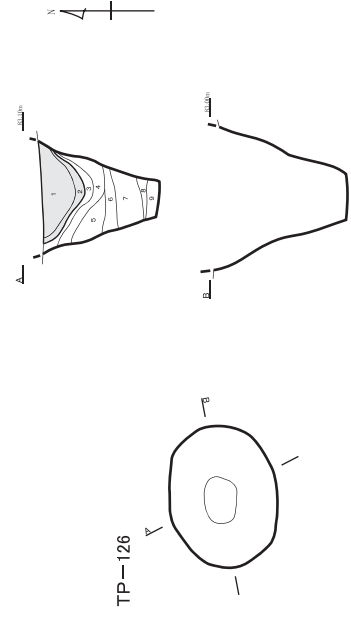
図117 上幌内5遺跡 TP-[122・123]・TP-124・TP-125



TP-128

遺構名	断面図番号	土層	特定事項
TP-128	1	B層主体	D2・S層、中位の1段壁が定まる。
	2	D2・L・S層	
	3	D2・L・S層	各層するD2・S層は曲線的である。
	4	D2・L・S層主体	
	5	D2・L・S層主体	各層するD2・S層は曲線的である。
	6	D2・L・S層主体	D1層が定まる。
	7	D2・S層主体	D1層が定まる。

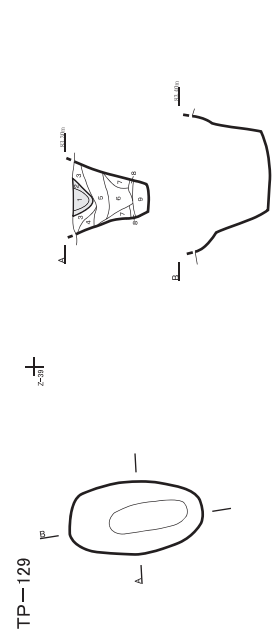
第1・2層は黒色土主体で中央よりやや北側寄りがくぼみ、第5層は五層である。短軸方向の壁は直立気味に立ち上がり、長軸方向の坑底面は曲線的で中央が深い。



TP-126

遺構名	断面図番号	土層	特定事項
TP-126	1	B層 > D2・L・S層	各層するD2・S層は(砂)である。
	2	D2・L・S層	
	3	D2・L・S層	
	4	D2・L・S層主体	
	5	D2・L・S層主体	各層するD2・S層は(砂)である。
	6	D2・L・S層主体	D1層が定まる。
	7	D2・L・S層主体	D1層が定まる。

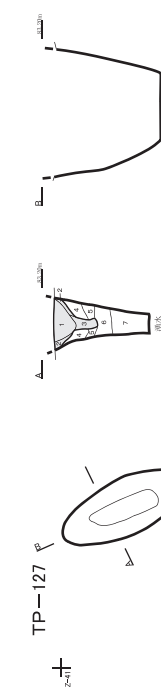
中位の第5層が北側のみには堆積し、これより上位の各層がくぼむ部分は、遺構の中央ではなく、南側へずれる。すべての壁は内側に立ち上がる。



TP-129

遺構名	断面図番号	土層	特定事項
TP-129	1	B層 > D2・L・S層	上部が崩れに定まる。
	2	D2・L・S層	中位の1段壁が定まる。
	3	D2・L・S層	
	4	D2・L・S層主体	
	5	D2・L・S層主体	D2・S層が定まる。
	6	D2・L・S層主体	D1層が定まる。
	7	D2・L・S層主体	D1層が定まる。

上位は中央へと傾斜する層界で、中～下位は左右対称の堆積である。壁は開き気味に立ち上がり、坑底面は曲線的である。

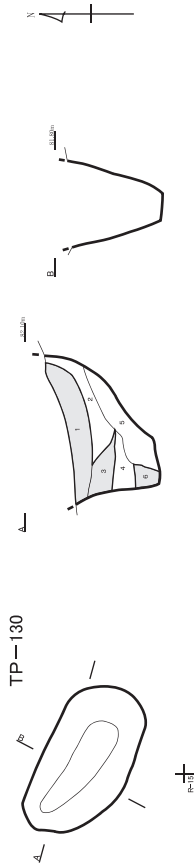


TP-127

遺構名	断面図番号	土層	特定事項
TP-127	1	B層主体	壁→中位の1段壁が定まる。
	2	D2・L・S層	
	3	B層 > D2・S層	中位の1段壁が定まる。
	4	D2・L・S層	各層するD2・S層は曲線的である。
	5	D1層主体	D1層が定まる。
	6	D2・S層主体	D1層が定まる。
	7	D2・S層主体	各層するD2・S層は曲線的である。

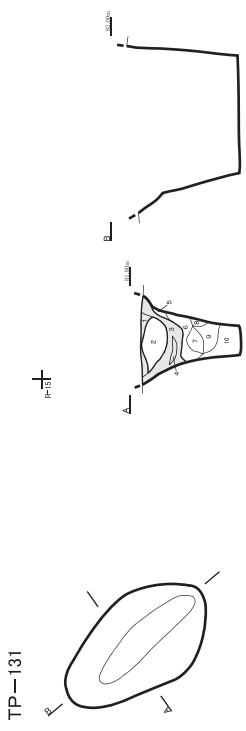
壁土は傾して左右対称で、中央に縦長の第3層は柱穴・杭穴を想定させる。坑底面は平坦で湧水する。

図118 上幌内5遺跡 TP-126・TP-127・TP-128・TP-129



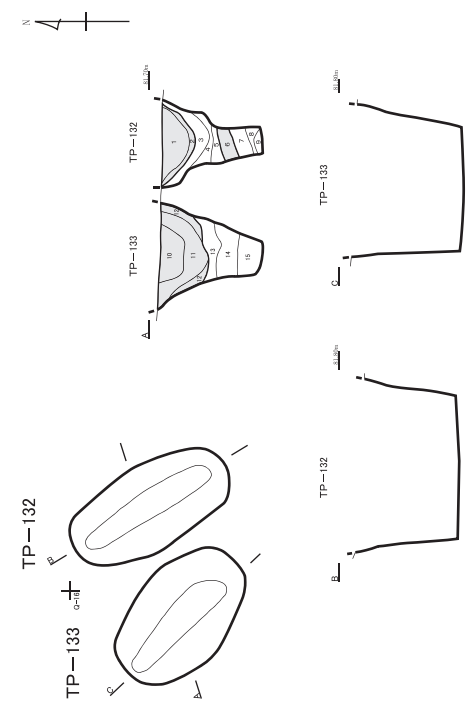
長軸方向で半載したが、黒色土主体の覆土は第1・3・6層で北西側にみられる。短軸方向の壁はやや開口して立ち上がる。

遺構名	断面図番号	土層	構造物事項
TP-130	1	白層主体	白層が少量存在する
	2	D2・S層主体	D2・L層が少量存在する
	3	D2・Y・L層	含有するD2・S層は微量である
	4	D2・S層主体	白層が少量存在する
	5	D2・S層主体	白層が少量存在する
	6	白層 > D2・L・S層	白層が少量存在する



第2・7層の上位の覆土は中央が上に広い形状で、部分的な第4層以外は傾斜する堆積である。すべて壁は直立気味で、坑底面は概して平坦である。

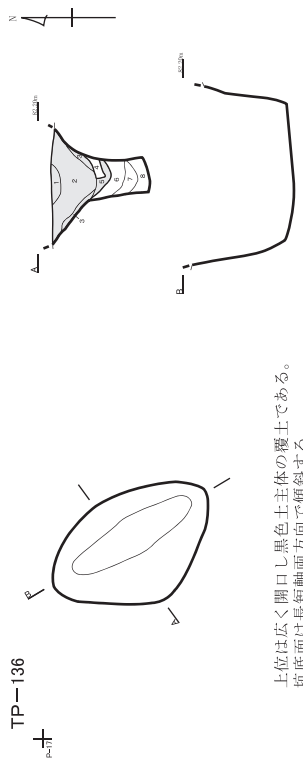
遺構名	断面図番号	土層	構造物事項
TP-131	1	白層主体	白層が少量存在する
	2	D2・L・S層 > 白層	含有するD2・S層は多量である
	3	白層 > D2・Y・L層	含有するD2・S層は微量である
	4	D2・Y・L層	含有するD2・S層は微量である
	5	D2・L・S層主体	白層が少量存在する
	6	D2・L・S層主体	白層が少量存在する
TP-132	7	白層 > D2・L・S層	白層が少量存在する
	8	D2・S層主体	白層が少量存在する
	9	D2・S層主体	白層が少量存在する
	10	D2・S層主体	白層が少量存在する



2基が近接してみられた。TP-132の上位の覆土は中央がくぼみ、下位は西方向へ傾斜する。TP-133の覆土は概ね左右対称で、上位は黒色土主体である。ともに長軸方向の坑底面は中央が若干低い。

遺構名	断面図番号	土層	構造物事項
TP-132	1	白層主体	白層が少量存在する
	2	白層 > D2・Y・L層	含有するD2・Y・L層は微量である
	3	D2・Y・L・S層 > 白層	含有するD2・Y・L・S層は微量である
	4	D2・L・S層 > 白層	含有するD2・S層は微量である
	5	D2・S層主体	白層が少量存在する
	6	白層 > D2・L・S層	白層が少量存在する
	7	D2・S層主体	白層が少量存在する
	8	D2・S層主体	白層が少量存在する
	9	D2・S層主体	白層が少量存在する
	10	白層主体	白層が少量存在する
TP-133	11	白層 > D2・S層	含有するD2・S層は少量である
	12	白層 > D2・S層	含有するD2・S層は少量である
	13	D2・S層主体	白層が少量存在する
	14	D2・S層主体	白層が少量存在する
	15	D2・S層主体	白層が少量存在する

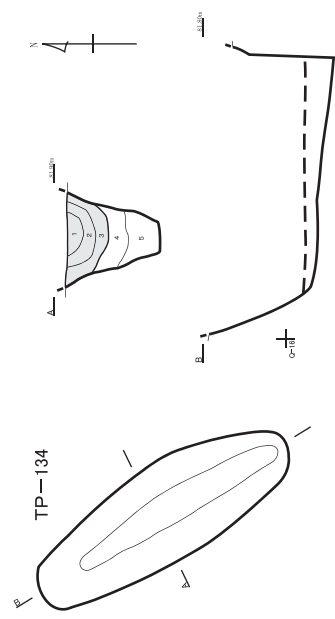
図119 上幌内5遺跡 TP-130・TP-131・TP-132・TP-133



TP-136

上位は広く開口し黒色土主体の覆土である。  
坑底面は長短軸方向で傾斜する。

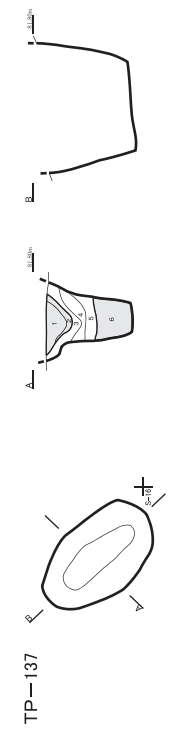
断面図番号	遺構名	土層	補足事項
1	1 内部土層	D2・S層が連なる	
2	2 内部土層	D2・S層が連なる	
3	3 内部土層	D2・S層が連なる	
4	4 D2・L・S層	存在するD2・S層は連続してある	
5	5 D2・L・S層	存在するD2・S層は連続してある	
6	6 D2・L・S層	存在するD2・S層は連続してある	
7	7 D2・L・S層	存在するD2・S層は連続してある	
8	8 D2・L・S層	存在するD2・S層は連続してある	



TP-134

覆土の層界は中央がくぼみ形状で、上位は曲線的である。坑底面は掘り過ぎである。

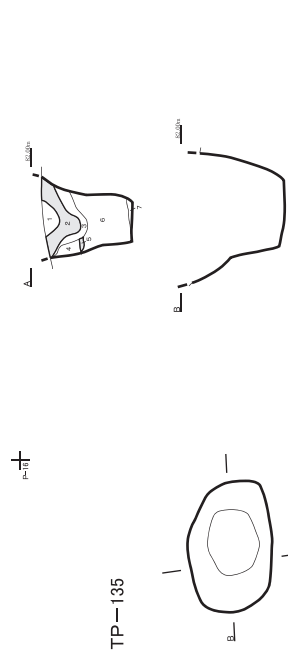
断面図番号	遺構名	土層	補足事項
1	1 内部土層	D2・S層が連なる	
2	2 内部土層	D2・W・S層が連なる	
3	3 D2・L・S層	存在するD2・S層は「1」である	
4	4 D2・L・S層	存在するD2・S層は「1」である	
5	5 D2・L・S層	存在するD2・S層は「1」である	



TP-137

上位の覆土の層界は明瞭に中央がくぼみ、壁はすべてやや開いて立ち上がる。

断面図番号	遺構名	土層	補足事項
1	1 内部土層	D2・S層が連なる	
2	2 内部土層	D2・S層が連なる	
3	3 D2・L・S層	存在するD2・S層は連続してある	
4	4 D2・L・S層	存在するD2・S層は連続してある	
5	5 D2・L・S層	存在するD2・S層は連続してある	
6	6 D2・L・S層	存在するD2・S層は連続してある	

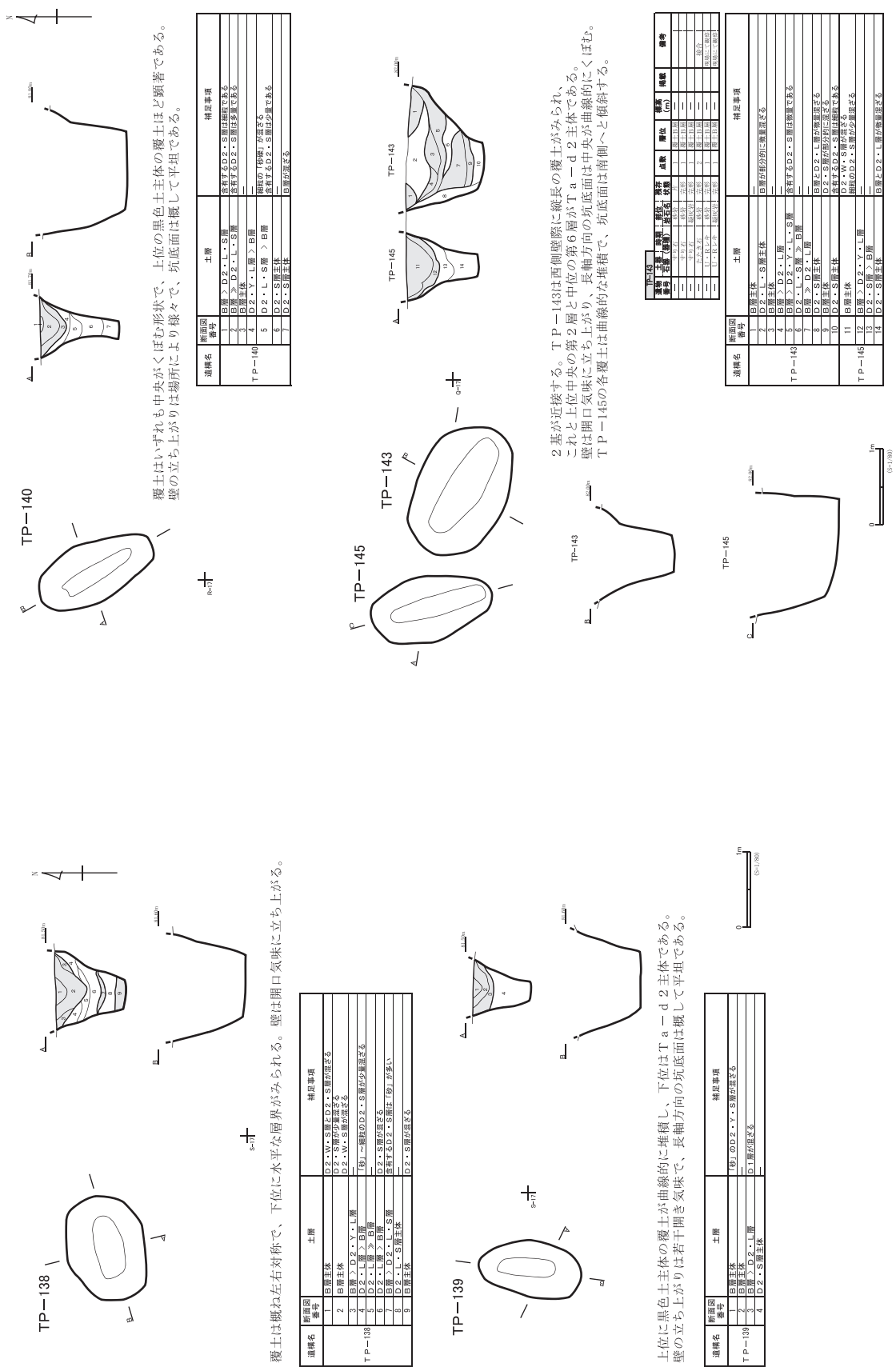


TP-135

覆土の最上位はT a - d 2 主体で、南側の壁には第4・5層がみられる。長軸方向の壁は東側が曲線的で、西側は直立気味に立ち上がる。

断面図番号	遺構名	土層	補足事項
1	1 内部土層	D2・S層が連なる	
2	2 内部土層	D2・S層が連なる	
3	3 D2・L・S層	存在するD2・S層は連続してある	
4	4 D2・L・S層	存在するD2・S層は連続してある	
5	5 D2・L・S層	存在するD2・S層は連続してある	
6	6 D2・L・S層	存在するD2・S層は連続してある	
7	7 D2・L・S層	存在するD2・S層は連続してある	

図120 上幌内5遺跡 TP-134・TP-135・TP-136・TP-137



覆土は概ね左右対称で、下位に水平な層界がみられる。壁は開口気味に立ち上がる。

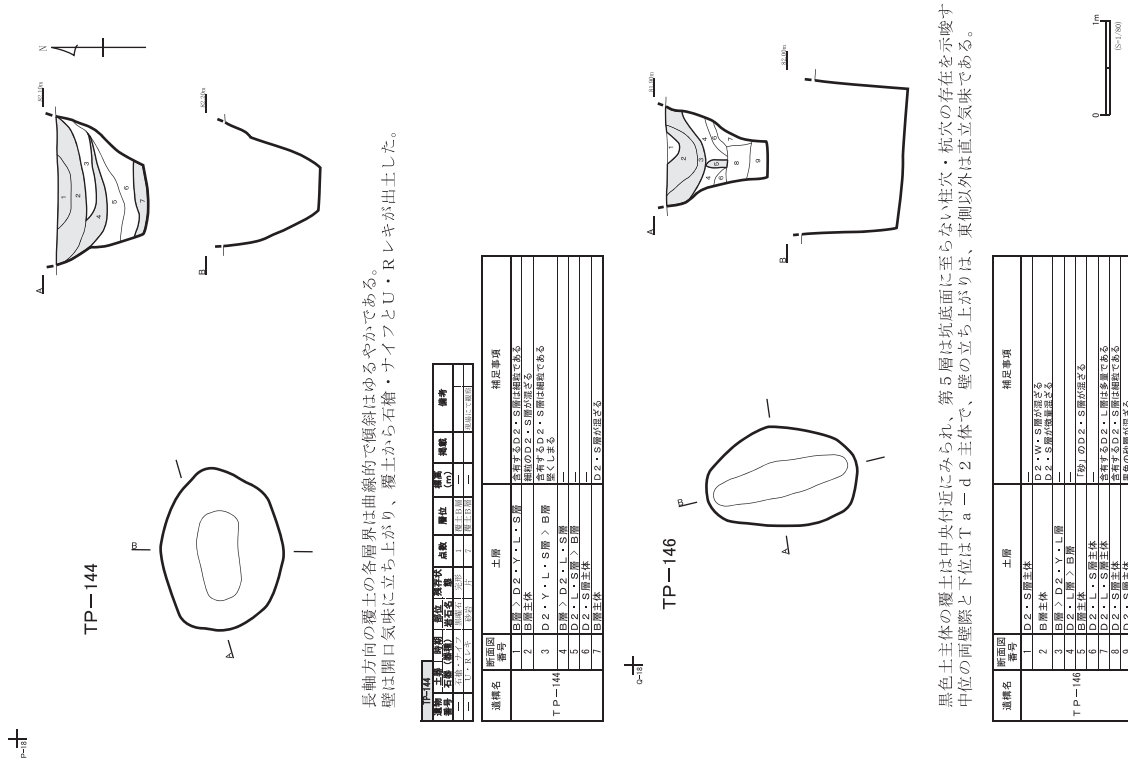
上位に黒色土主体の覆土が曲線的に堆積し、下位はT a - d 2 主体である。壁の立ち上がりは若干開き気味で、長軸方向の坑底面は概して平坦である。

2 基が近接する。T P - 143 は西側壁際に縦長の覆土がみられ、これと上位中央の第 6 層と中位の第 6 層が T a - d 2 主体である。壁は開口気味に立ち上がり、長軸方向の坑底面は中央が曲線的にくぼむ。T P - 145 の各覆土は曲線的な堆積で、坑底面は南側へと傾斜する。

上位に黒色土主体の覆土が曲線的に堆積し、下位は T a - d 2 主体である。壁の立ち上がりは若干開き気味で、長軸方向の坑底面は概して平坦である。

2 基が近接する。T P - 143 は西側壁際に縦長の覆土がみられ、これと上位中央の第 6 層と中位の第 6 層が T a - d 2 主体である。壁は開口気味に立ち上がり、長軸方向の坑底面は中央が曲線的にくぼむ。T P - 145 の各覆土は曲線的な堆積で、坑底面は南側へと傾斜する。

図121 上幌内5遺跡 T P - 138 ・ T P - 139 ・ T P - 140 ・ T P - 143 ・ T P - 145



長軸方向の覆土の各層界は曲線的で傾斜はゆるやかである。壁は開口気味に立ち上がり、覆土から右輪・ナイフとU・Rレキが出土した。

遺構番号	遺構名称	層位	層厚 (cm)	備考
TP-141	土層			
断面図番号	1	D2・L層		
2	D2・V層			
3	D2・W層			
4	D2・L層			
5	D2・L層			
6	D2・L層			
7	D2・L層			

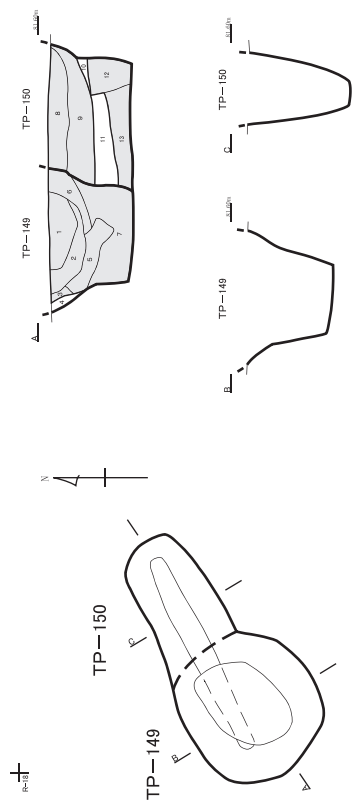
確認状況では溝状のTP-142が土坑(TP-141)を切っていると予想した。Bラインの土層断面観察用のベルトは調査中に崩壊したので、新田関係は断定できない。(TP-141)の土層断面では第5層まで分層したが、確認したよう、完掘時には第4・5層は柳山と考えられ、本遺構は浅い土坑と結論つけた。TP-142は中位の覆土は両壁際からの流れ込みの様相である。長軸方向の壁は開口気味に立ち上がり、坑底面は中央付近がやや低い。

遺構番号	遺構名称	層位	層厚 (cm)	備考
TP-141	土層			
断面図番号	1	D2・L層		
2	D2・V層			
3	D2・W層			
4	D2・L層			
5	D2・L層			
6	D2・L層			
7	D2・L層			
8	D2・L層			

黒色土主体の覆土は中央付近にみられ、第5層は坑底面に至らない柱穴・杭穴の存在を示唆する。中位の両壁際と下位はT a - r d 2 主体で、壁の立ち上がりは、東側以外は直立気味である。

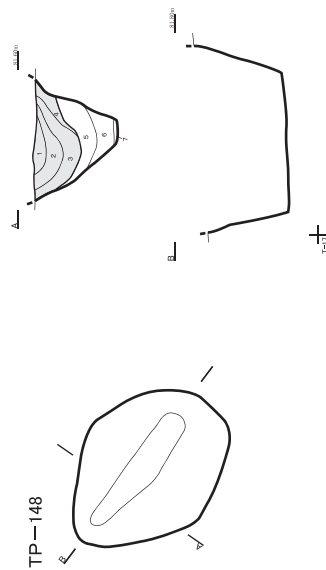
遺構番号	遺構名称	層位	層厚 (cm)	備考
TP-142	土層			
断面図番号	1	D2・L層		
2	D2・V層			
3	D2・W層			
4	D2・L層			
5	D2・L層			
6	D2・L層			
7	D2・L層			
8	D2・L層			

図122 上幌内5遺跡 (T)P-141・TP-142・TP-144・TP-146



土層断面は概ね左右対称で、上位と最下層は黒色土主体である。長軸方向の坑底面は曲線的で中央が低い。

遺跡名	断面図番号	土層	補足事項
TP-147	1	黒層主体	D2・S層が混在する
	2	黒層主体	
	3	D2・L層・V・L層	
	4	D2・L層・黒層	
	5	D2・L・S層・黒層	
	6	D2・L・S層	
	7	黒層・D2・S層	



上位は黒色土層主体で、第4層は南西側からの流れ込みの様相である。壁は開口気味に立ち上がり、長軸方向は凹凸がみられる。

遺跡名	断面図番号	土層	補足事項
TP-148	1	黒層主体	D2・S層が部分的に混在する
	2	黒層主体	
	3	D2・L層・D2・V・L層	
	4	D2・L層・黒層	
	5	D2・L・S層	
	6	D2・L・S層主体	
	7	D2・V・L層・黒層	

楕円形のTP-149と細長いTP-150が重複し、連続する土層断面で前者が後者を切っているのを確認した。TP-149は層界が曲線的で、第4層のみT a-d 2主体である。長軸方向の坑底面は南東側へ傾斜する。TP-150は上下位に黒色土主体の覆土があり、短軸方向の両壁は開いて立ち上がる。

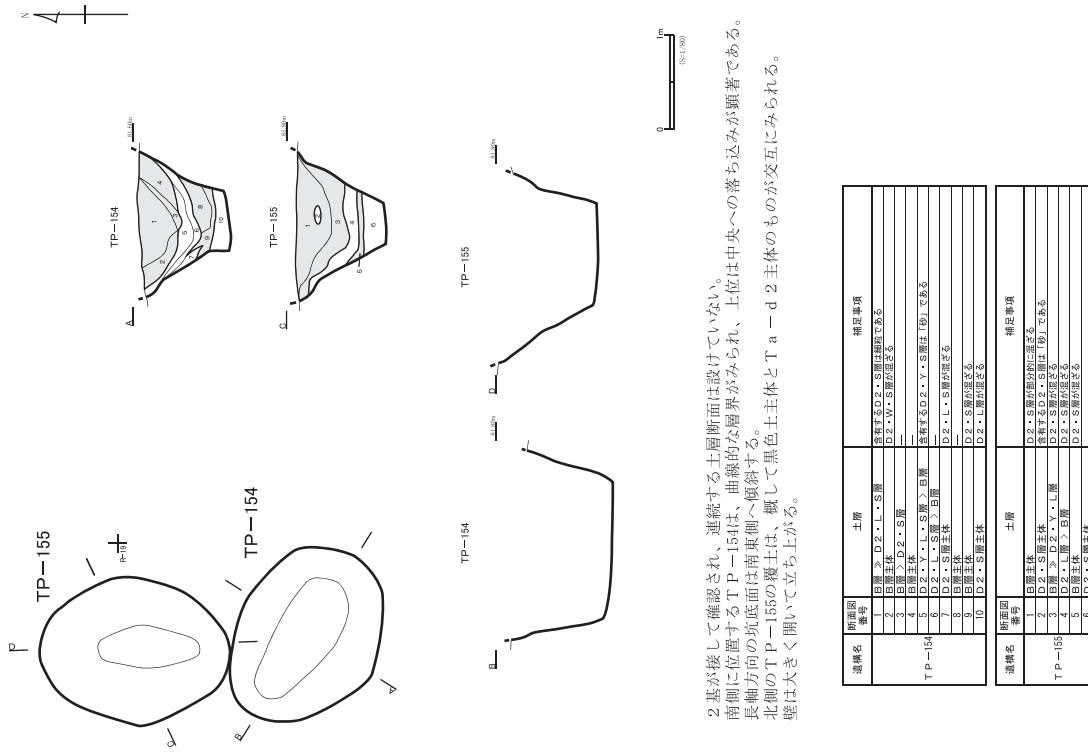
遺跡名	断面図番号	土層	補足事項
TP-149	1	黒層 > D2・L・S層	各層よりD2・S層が混在している
	2	黒層 > D2・L・S層	
	3	D2・V・L層主体	
	4	D2・V・L層主体	
	5	黒層 > D2・L・S層	
	6	黒層 > D2・L・S層	
	7	黒層主体	
	8	D2・V・L層主体	
	9	黒層 > D2・L・S層	
TP-150	10	D2・L・S層	各層よりD2・S層が混在している
	11	D2・L・S層主体	
	12	D2・L・S層主体	
	13	黒層 > D2・S層	
	14	D2・S層が混在する	

上位は黒色土主体、下位はT a-d 2主体の覆土である。短軸方向の壁は直立して立ち上がり、長軸方向の坑底面は南東側へ傾斜する。

遺跡名	断面図番号	土層	補足事項
TP-151	1	黒層主体	D2・L・S層とD2・V・L層が混在する
	2	黒層 > D2・V・L層	
	3	D2・V・L層主体	
	4	D2・L・S層主体	

図123 上幌内5遺跡 TP-147・TP-148・TP-149・TP-150・TP-151





遺構は左右対称で、上位は黒色土主体、下位の層界は線やかにくぼむ。長軸方向の壁は開口して立ち上がり、坑底面は概して平坦である。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-152	1	白層	D2・S層が混在する
	2	白層主体	
	3	白層 > D2・L層	
	4	白層主体	
	5	白層主体・S層 > 白層	
	6	D2・L・S層主体	

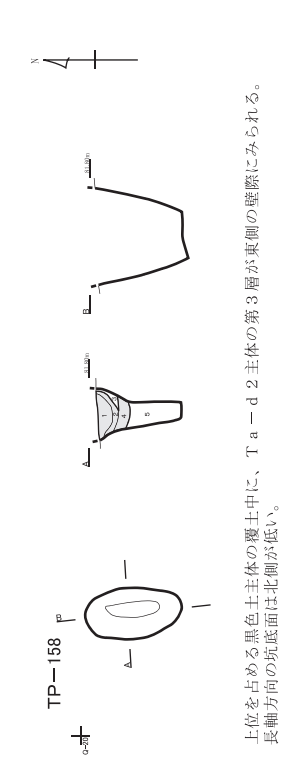
小規模なもので、覆土は上位の第2層が黒色土主体である。長軸方向の坑底面は曲線的で中央がくぼむ。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-153	1	D2・L層主体	D2・V・S層が混在する D2・S層が混在する
	2	白層主体	
	3	D2・L・S層主体	
	4	D2・L・S層主体	

2基が接して確認され、連続する土層断面は設けていない。南側に位置するTP-154は、曲線的な層界がみられ、上位は中央への落ち込みが顕著である。長軸方向の坑底面は南東側へ傾斜する。北側のTP-155の覆土は、概して黒色土主体とTa-d2主体のものが交互にみられる。壁は大きく開いて立ち上がる。

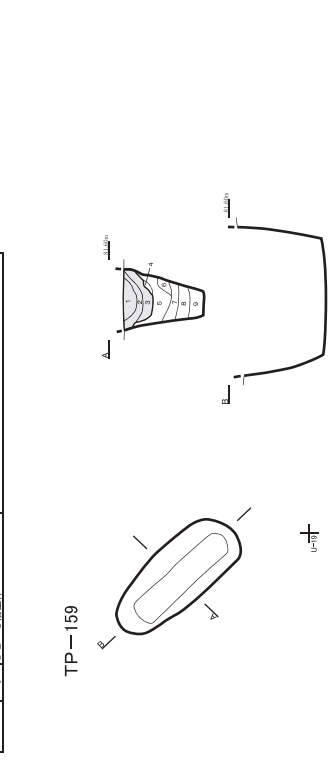
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-154	1	白層 > D2・L・S層	D2・V・S層が混在する D2・W・S層が混在する
	2	白層主体	
	3	白層主体	
	4	白層主体	
	5	D2・Y・L・S層 > 白層	
	6	D2・L・S層 > 白層	
	7	白層主体	
	8	白層主体	
	9	白層主体	
	10	D2・S層が混在する D2・L層が混在する	
TP-155	1	白層主体	D2・S層が混在する D2・L層が混在する
	2	白層主体	
	3	白層 > D2・Y・L層	
	4	D2・L層 > 白層	
	5	白層主体	

図124 上幌内5遺跡 TP-152・TP-153・TP-154・TP-155



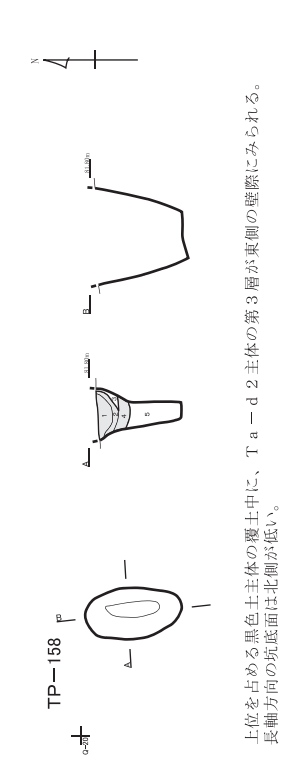
上位は黒色土主体の覆土が中央に厚くみられ、  
 中位の第4・6・7層の最大厚は東側に偏る。  
 壁はやや開いて立ち上がりは若干開口し、長軸方向の坑底面は南側が低い。

遺跡名	断面図番号	土層	補記事項
TP-156	1	白層主体	D2・W・S層が厚くなる
	2	白層 > D2・L層	(1層)のD2・V・S層、曲線のD2・S層が厚くなる
	3	白層 > D2・L層	(1層)のD2・V・S層、曲線のD2・S層が厚くなる
	4	白層 > D2・L層	D2・S層が厚くなる
	5	D2・S層主体	-
	6	D2・S層が厚くなる	-
	7	白層主体・S層 > 白層	一部のD2・S層が厚くなる
	8	D2・S層主体	-



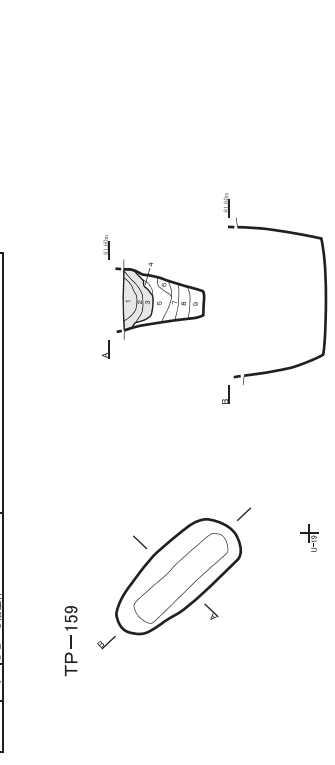
T a - d 2 主体の第3・5層は壁際に部分的と最下層に厚くみられる。  
 壁はやや開いて立ち上がり、長軸方向の坑底面は南側へ傾斜する。

遺跡名	断面図番号	土層	補記事項
TP-157	1	白層主体	D2・V・L・S層が厚くなる
	2	白層主体	D2・W・S層が厚くなる
	3	白層主体	各層のD2・S層が厚くなる
	4	白層 > D2・V・L層	-
	5	D2・L・S層主体	D2・V・S層が少なくなる
	6	白層 > D2・V・S層	-
	7	D2・S層主体	-



上位を占める黒色土主体の覆土中に、T a - d 2 主体の第3層が東側の壁際にみられる。  
 長軸方向の坑底面は北側が低い。

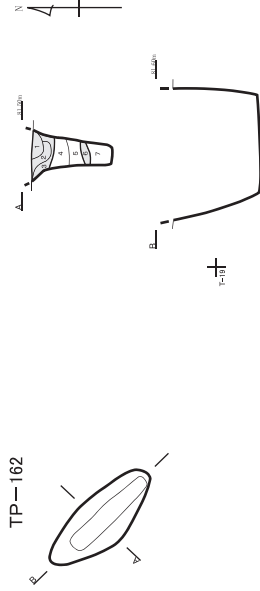
遺跡名	断面図番号	土層	補記事項
TP-158	1	白層主体 > L層	D2・W・S層が厚くなる
	2	白層主体	D2・S層が少なくなる
	3	D2・L層主体	(1層)のD2・S層が少なくなる
	4	白層 > D2・L層	(1層)のD2・S層が少なくなる
	5	D2・S層主体	-



覆土は上位が黒色土主体、中～下位はT a - d 2 主体で、層界は上位が曲線的にくぼみ、  
 下位に行くにつれ水平堆積である。  
 壁は開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は曲線的で中央が低い。

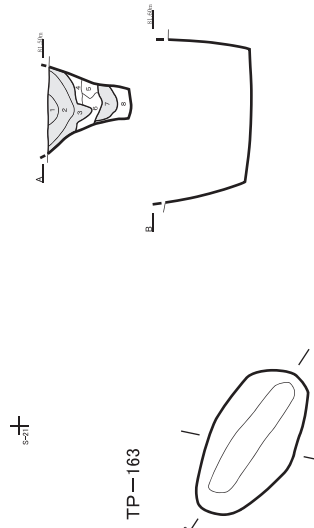
遺跡名	断面図番号	土層	補記事項
TP-159	1	白層主体	-
	2	白層 > D2・L層	D2・W・S層が厚くなる
	3	白層 > D2・L・S層	-
	4	D2・L層主体	-
	5	D2・L・S層 > 白層	各層のD2・S層は(1層)である
	6	D2・L・S層主体	-
	7	D2・S層主体	-
	8	D2・S層主体	(1層)のD2・S層が少なくなる
	9	D2・S層主体	白層が部分的に厚くなる

図125 上幌内5遺跡 TP-156・TP-157・TP-158・TP-159



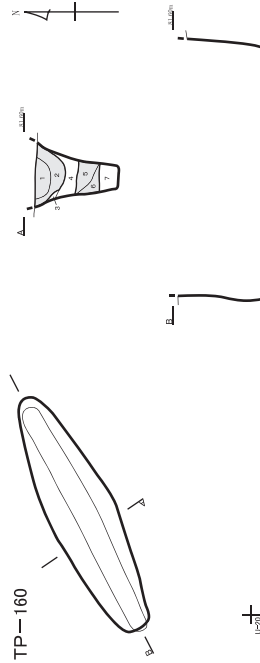
覆土は、最上位と下位に黒色土主体、中位はT a - d 2 主体、最下層は灰白色粘土主体で、長軸方向の坑底面は直線的で北東側へ傾斜する。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-162	1	白層主体	D2・S層が少量存在する
	2	白層 > D2・Y・L層	
	3	D2・L層 > 白層	D2・S層が少量存在する
	4	D2・L層 > 白層	
	5	白層 > D2・Y・L・S層	D2・S層が少量存在する
	6	D2・L層 > 白層	
	7	白層主体	D2・S層が少量存在する



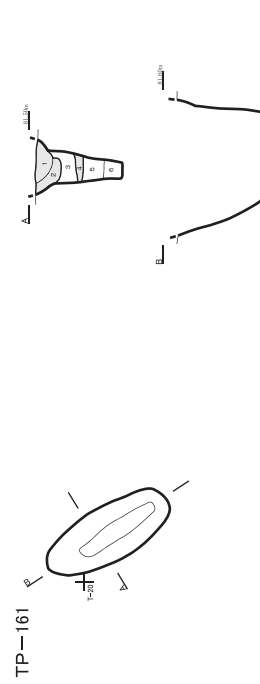
上位から中位まで黒色土主体の層が厚く、第3層の形状から柱穴・杭穴の存在が考えられる。最下位の第8層は南側の壁際沿いは縦長である。短軸方向の両壁は直立気味で立ち上がり、上位へと開口する。長軸方向の坑底面は曲線的で中央がくぼむ。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-163	1	白層主体	L部のD2・Y・S層が少量存在する
	2	白層主体	
	3	白層 > D2・L層	D2・Y・S層が少量存在する
	4	D2・L・S層主体	
	5	D2・L・S層主体	壁は傾斜している
	6	D2・L・S層 > 白層	
	7	白層主体	南側のD2・S層が少量存在する
	8	D2・L・S層主体	



覆土は黒色土主体と、T a - d 2 主体の層が交互に堆積する。長軸方向は、南西側の壁が若干オーバーストリングし、坑底面は凹凸がみられる。

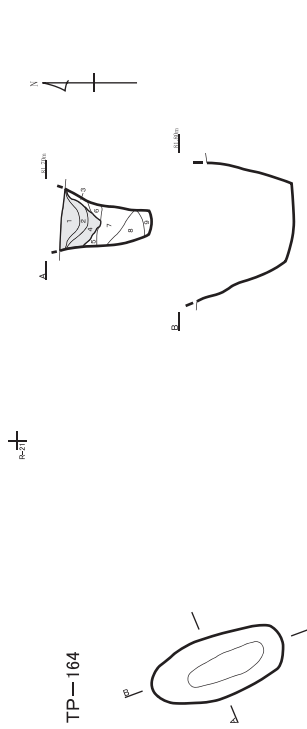
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-160	1	白層主体	D2・S層が少量存在する
	2	白層 > D2・Y・L層	
	3	D2・L層 > 白層	D2・S層が少量存在する
	4	白層 > D2・Y・L・S層	
	5	白層 > D2・Y・L・S層	D2・S層が少量存在する
	6	白層主体	
	7	D2・L・S層 > 白層	



最上位に堆積する第1・2層は黒色土主体で曲線的な層界で、下位は水平堆積である。短軸方向の壁の立ち上がりは直立気味で、長軸方向の坑底面はゆるやかにくぼむ。

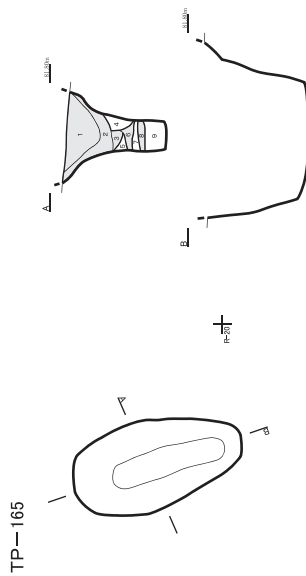
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-161	1	白層主体	D2・S層が少量存在する
	2	D2・Y・L・S層	
	3	D2・L層 > 白層	D2・S層が少量存在する
	4	D2・L・S層	
	5	D2・S層主体	D2・S層が少量存在する
	6	D2・L・S層主体	

図126 上幌内5遺跡 TP-160・TP-161・TP-162・TP-163



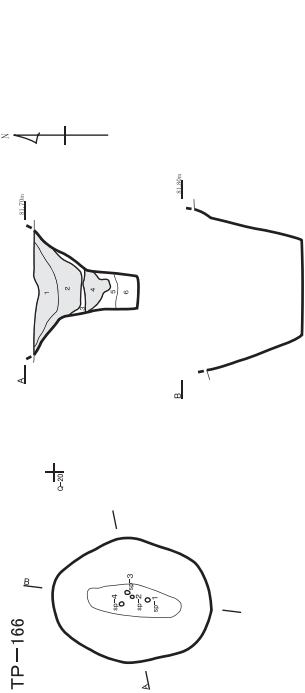
上位は黒色土主体の覆土がくぼんでみられ、両壁沿いにはT a - d 2 主体の部分的な層がみられる。中～下位の層界は傾斜する。長軸方向は、両壁は開口して立ち上がり、坑底面は曲線的に中央が低い。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-164	1	白層主体	
	2	D2・V・L層	D2・W・S層が混ざる
	3	D2・L・S層	D2・W・S層が混ざる
	4	白層	D2・L・S層と白層
	5	D2・L・S層主体	
	6	D2・L・S層主体	傾いた砂層が混ざる
	7	D2・S層	D2・V・L層が混ざる
	8	D2・S層主体	白層が混ざる
	9	D2・S層主体	白層が混ざる



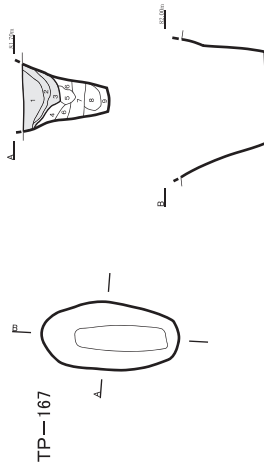
開口する上位には黒色土主体の第1層が厚く、中位はT a - d 2 主体の第4層が縦長に堆積し、下位は水平堆積である。短軸方向の両壁の立ち上がりは直立気味で、長軸方向の坑底面は曲線的にくぼむ。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-165	1	白層主体	
	2	白層	D2・W・S層とD2・S層が混ざる
	3	白層	D2・L・S層とD2・L層
	4	D2・L・S層	強くL層
	5	D2・L・S層	
	6	白層	D2・L・S層
	7	D2・S層	
	8	D2・S層主体	
	9	D2・L・S層主体	白層が少量混ざる



上～中位は黒色土主体の覆土が厚く、第4層の層界は一部明瞭に落ち込んでいる。短軸方向の両壁は直立気味で、長軸方向の坑底面は平坦である。柱穴・杭穴 s p - 1 ~ 4 を確認した。

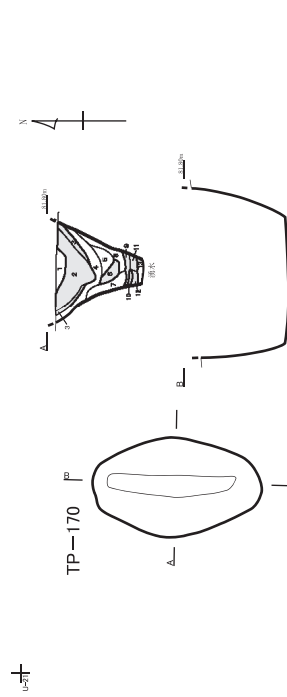
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-166	1	白層主体	
	2	D2・V・L層	D2・W・S層が混ざる
	3	D2・L・S層	D2・W・S層が混ざる
	4	白層	D2・L・S層と白層
	5	D2・L・S層主体	
	6	D2・S層	D2・V・L層が混ざる
	7	D2・S層主体	白層が混ざる
	8	D2・L・S層	D2・L層が混ざる
	9	D2・L・S層	D2・L層が混ざる



黒色土主体の覆土は上位の東側寄りにみられ、水平堆積するのはT a - d 2 主体の第7層である。壁は開口して立ち上がり、坑底面は概して平坦である。

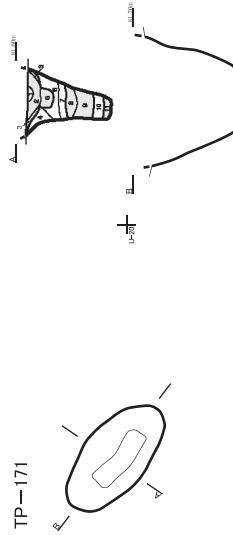
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-167	1	白層主体	
	2	白層	D2・W・S層が混ざる
	3	白層	D2・V・L層
	4	D2・L・S層	D2・W・S層と白層
	5	D2・L・S層主体	
	6	D2・L・S層主体	若干あるD2・S層が混ざる
	7	D2・S層	若干の混ざり
	8	D2・S層主体	若干あるD2・S層が混ざる
	9	D2・L・S層主体	若干あるD2・S層が混ざる

図127 上幌内5遺跡 TP-164・TP-165・TP-166・TP-167



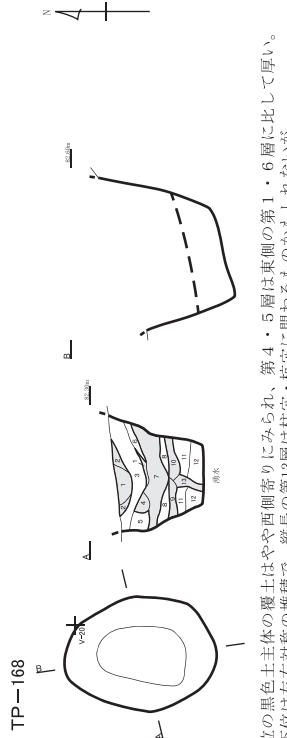
黒色土主体の第2・3層は上位に広く厚く、最上位中央にはT a-d 2主体がみられる。  
 中位の第7・8層は両壁際からの流れ込みで、これによる中央のくぼみに第4・5・6層が堆積する。  
 短軸方向の壁はやや開口気味の立ち上がりで、西側の上位はさらに開き、  
 長軸方向の坑底面は中央がゆるやかにくぼむ。

遺構名	断面図 番号	土層	補足事項
TP-170	1	D2・L・S層主体	残存するD2・S層は多量である
	2	白層主体	D2・V・S層が埋まる
	3	白層主体	D2・V・S層が埋まる
	4	D2・V・L・S層	D2・V・S層が埋まる
	5	D2・V・L・S層	D2・V・S層が埋まる
	6	D2・V・L・S層	残存する白層部分である
	7	D2・S層主体	—
	8	D2・L・S層主体	—
	9	D2・L・S層主体	—
	10	D2・L・S層主体	—
	11	白層主体	黒色のD2・S層が埋まる
	12	D2・L・S層主体	—
	13	D2・V・L・S層主体	白層とD2・L層が埋まる



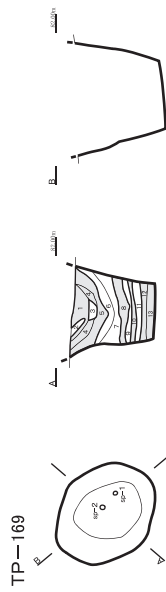
最上位と中位、最下層に黒色土主体の覆土が目立ち、  
 最上位の中央の第1層と両壁の第3層はT a-d 2が混ざる。  
 南東側以外の壁は開口する立ち上がりで、長軸方向の坑底面は曲線的で中央がくぼむ。

遺構名	断面図 番号	土層	補足事項
TP-171	1	白層主体	D2・S層が埋まる
	2	白層主体	—
	3	白層主体	D2・V・L層
	4	D2・L・S層主体	—
	5	白層主体	D2・V・S層が埋まる
	6	D2・V・L・S層	D2・V・S層が埋まる
	7	D2・L・S層主体	残存する白層部分である
	8	白層主体	—
	9	D2・L・S層主体	—
	10	D2・L・S層主体	—
	11	白層主体	黒色のD2・S層が埋まる



最上位の黒色土主体の覆土はやや西側寄りになり、第4・5層は東側の第1・3層に比して厚い。  
 中～下位は左右対称の堆積で、縦長の第13層は柱穴・杭穴に開くものかもしれないが、  
 掘り過ぎたため確認できなかった。  
 長軸方向の坑底面は北側へ傾斜すると考えられる。

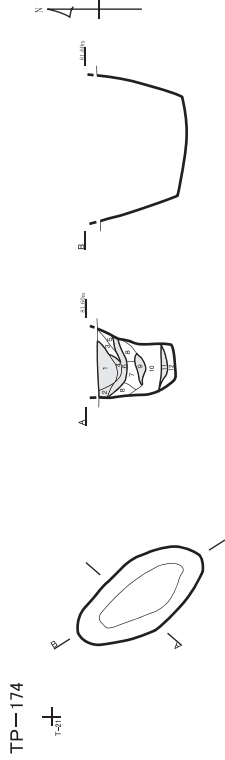
遺構名	断面図 番号	土層	補足事項
TP-168	1	白層主体	D2・S層が埋まる
	2	D2・V・L・S層	—
	3	D2・V・L・S層	残存するD2・S層は1層である
	4	白層主体	—
	5	D2・L・S層主体	黒色のD2・V・L層が埋まる
	6	D2・L・S層主体	黒色のD2・V・L層が埋まる
	7	白層主体	残存するD2・V・L・S層
	8	D2・L・S層主体	—
	9	D2・L・S層主体	D2・S層が埋まる
	10	白層主体	—
	11	D2・V・L・S層	残存するD2・V・S層は1層である
	12	D2・L・S層主体	—
	13	白層主体	砂状である



黒色土主体の覆土は、上・中・下位にあり、上位はT a-d 2主体の第2・3層が部分的にみられる。  
 中位は第8層でこれより下位は水平な層界が連続し、最下層の第12・13層は黒色土主体である。  
 壁は全開口して立ち上がり、柱穴・杭穴sp-1・2を確認した。

遺構名	断面図 番号	土層	補足事項
TP-169	1	白層主体	D2・S層が埋まる
	2	D2・V・L・S層	—
	3	白層主体	D2・V・S層が埋まる
	4	白層主体	—
	5	白層主体	D2・V・L・S層
	6	白層主体	残存するD2・S層は短軸側である
	7	D2・L・S層主体	—
	8	白層主体	—
	9	D2・L・S層主体	—
	10	白層主体	—
	11	D2・L・S層主体	D2・S層が埋まる
	12	白層主体	黒色のD2・S層が埋まる
	13	白層主体	D2・L・S層

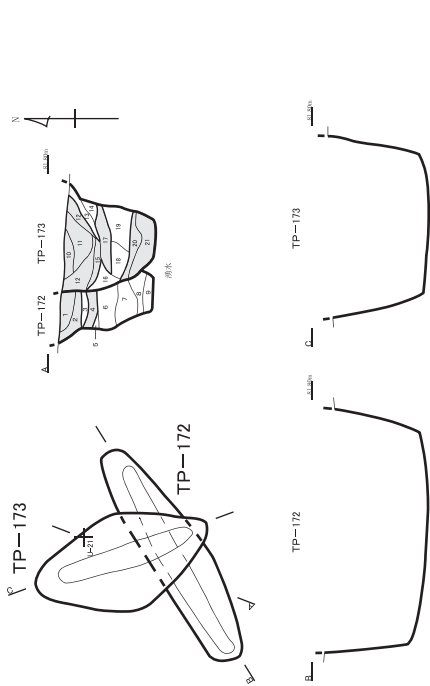
図128 上幌内5遺跡 TP-168・TP-169・TP-170・TP-171



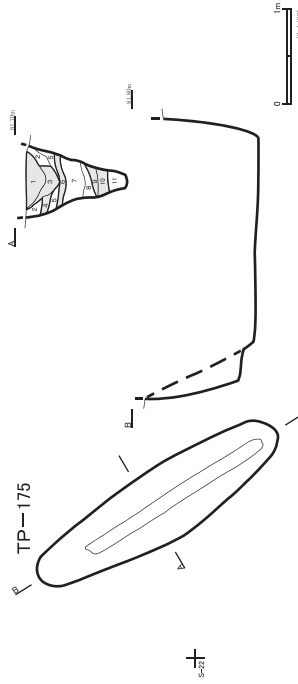
上位は北東側の壁際の第3・5層以外は黒色土主体で広く厚く堆積し、中・下位の同主体の覆土は中央にくぼんでみられる。北西側以外の壁はやや開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は中央が明瞭にくぼむ。

遺構名	断面回 番号	土層	補足事項
TP-174	1	白層主体	D2・W・S層が埋まる D2・S層が埋まる
	2	D2・Y・L層	
	3	D2・Y・L層	
	4	D2・Y・L層	
	5	D2・L・S層主体	
	6	D2・L・S層	
	7	D2・L・S層	
	8	D2・L・S層	
	9	D2・L・S層	
	10	D2・L・S層	
	11	D2・L・S層	
	12	D2・L・S層	

溝状のTP-172と楕円形のTP-173が重複し、連続する土層断面から前者は後者に切られ、TP-172が古くTP-173が新しい。TP-172の覆土は、上位が黒色土主体で下位はT a-d 主体である。南西側の壁は開口して立ち上がり屈曲が多く、長軸方向の坑底面は曲線的で中央がくぼむ。TP-173は黒色土主体の覆土が多く、最上位は概して中央へとくぼむ堆積で、中位と下位の層界は傾斜がゆるやかである。壁の立ち上がりは開口気味で、坑底面は曲線的で中央が低い。



遺構名	断面回 番号	土層	補足事項
TP-172	1	白層主体	D2・S層が埋まる
	2	D2・Y・L層	
	3	D2・Y・L層	
	4	D2・Y・L層	
	5	D2・Y・L層	
	6	D2・Y・L層	
	7	D2・S層主体	
	8	D2・S層主体	
	9	D2・S層主体	
	10	D2・S層主体	
	11	D2・S層主体	
	12	D2・S層主体	
TP-173	13	D2・Y・L層	白層が部分的に埋まる
	14	D2・Y・L層	
	15	D2・Y・L層	
	16	D2・S層主体	
	17	D2・S層主体	
	18	D2・S層主体	
	19	D2・S層主体	
	20	D2・S層主体	
	21	D2・S層	



黒色土主体の覆土は、上位は中央に厚い第1・3層と南西側に第4層が部分的にみられ、中位は薄く中央がわずかにくぼむ第6層、下位は水平堆積の第9・10層である。短軸方向の両壁は開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は凹凸がある。覆土から黒曜石の石織が出土した。

遺構名	断面回 番号	土層	補足事項
TP-175	1	白層主体	D2・W・S層が埋まる
	2	D2・Y・L層	
	3	D2・Y・L層	
	4	D2・Y・L層	
	5	D2・L・S層主体	
	6	D2・L・S層	
	7	D2・L・S層	
	8	D2・L・S層	
	9	D2・L・S層	
	10	D2・L・S層	
	11	D2・L・S層	

図129 上幌内5遺跡 TP-172・TP-173・TP-174・TP-175

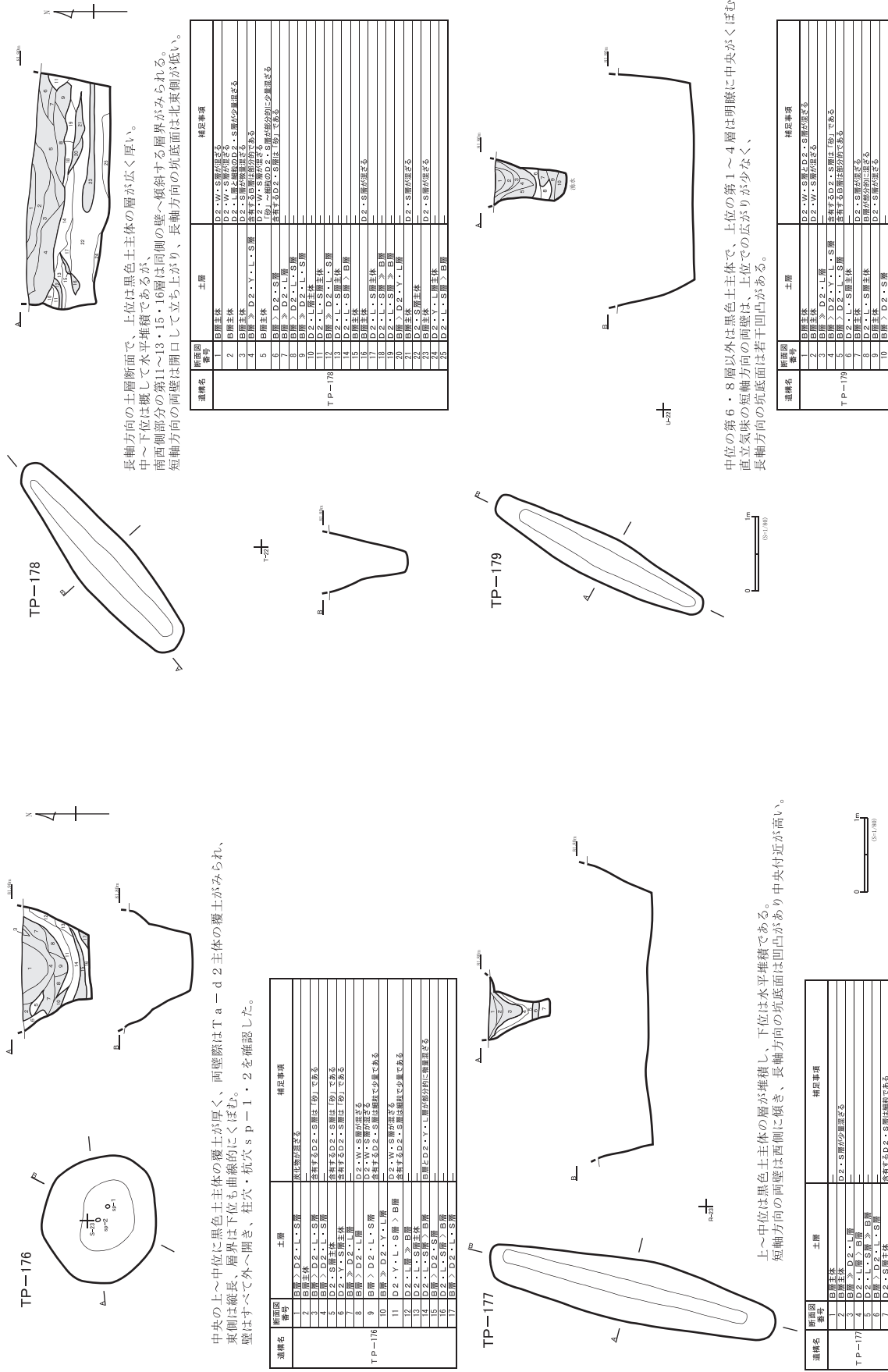
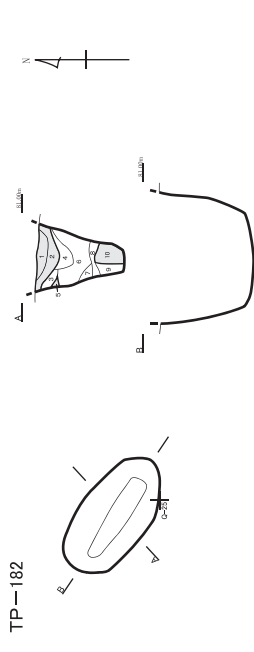


図130 上幌内5遺跡 T P - 176 ・ T P - 177 ・ T P - 178 ・ T P - 179



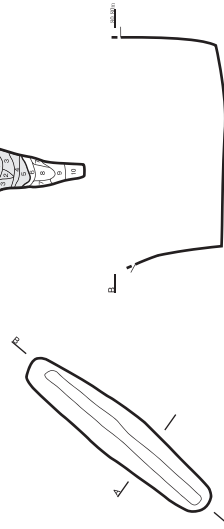
TP-182

上位は黒色土主体の第1・2層がくぼんでみられ、最下層の第9・10層は縦長にみられ、直上のT a-d 2主体の第8層の層界は中央が高い。  
短軸方向の両壁は開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は曲線的である。

階層番号	土層	補記事項
2	白層 > D2・V・L・S層	D2・V・L・S層が厚くなる
3	D2・V・L・S層主体	D2・V・L・S層が厚くなる
4	D2・V・L・S層主体	D2・V・L・S層が厚くなる
5	D2・V・L・S層 > 白層	D2・V・L・S層が厚くなる
6	D2・L・L・S層主体	白層が少量混入する
7	D2・L・L・S層主体	白層が少量混入する
8	D2・L・L・S層主体	白層が少量混入する
9	D2・S層主体	白層が少量混入する
10	D2・V・L・S層主体	白層が少量混入する

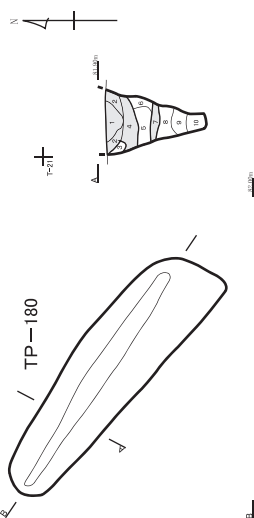


TP-183



上位の第1～5層は黒色土主体で、各層とも中央へ傾斜する。  
中～下位のT a-d 2主体の第7～10層は左右対称に堆積する。  
短軸方向の両壁の立ち上がりは直立気味で、長軸方向の坑底面はくぼみがある。

階層番号	土層	補記事項
2	白層主体	
3	白層 > D2・V・L・S層	
4	白層 > D2・V・L・S層	
5	白層 > D2・V・L・S層	
6	D2・L・L・S層主体	黒色土のD2・V・L・S層が混入する
7	D2・L・L・S層主体	黒色土のD2・V・L・S層が混入する
8	D2・L・L・S層主体	白層が混入する
9	D2・S層主体	
10	D2・V・L・S層主体	

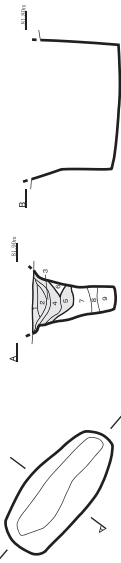


TP-180

上位は黒色土主体の第1～4層で、南西側の壁際にT a-d 2主体の第3層が部分的にみられる。  
中位の第7層は水平堆積で、これより下位の第8・9層の層界は両端が低い形状である。  
壁は開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は中央が曲線的にくぼむ。

階層番号	土層	補記事項
2	白層主体	D2・V・L・S層が厚くなる
3	白層 > D2・V・L・S層	
4	D2・L・L・S層主体	
5	D2・L・L・S層 > 白層	
6	D2・L・L・S層主体	白層が少量混入する
7	D2・L・L・S層主体	白層が少量混入する
8	D2・L・L・S層主体	白層が少量混入する
9	D2・S層主体	
10	D2・V・L・S層主体	

TP-181



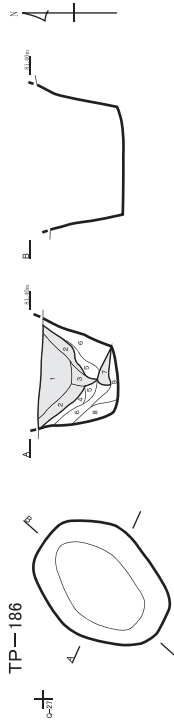
上位を占める第1～5層は黒色土、第6～9層はT a-d 2主体である。  
最下層の第9層上に第8層が水平堆積し、その上に南西側から第7層と黒色土主体の第5層が流れ込み、反対側からT a-d 2主体の第6層が流れ込んだ様子である。  
この段階で中央がくぼむ形状で第4・3・2層が堆積し、最上位の第1層は層界が水平である。

階層番号	土層	補記事項
2	白層主体	
3	白層 > D2・V・L・S層	D2・V・L・S層が厚くなる
4	白層 > D2・V・L・S層	
5	白層 > D2・V・L・S層	
6	D2・L・L・S層主体	黒色土のD2・V・L・S層が混入する
7	D2・L・L・S層主体	白層が部分的に混入する
8	D2・S層主体	
9	D2・L・L・S層 > 白層	



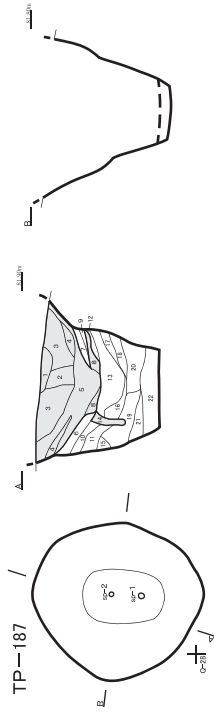
図131 上幌内5遺跡 TP-180・TP-181・TP-182・TP-183





TP-186  
 遺構は第8・9層が北西側から堆積し、次に黒色土主体の第7層、その後両側から第6層が斜めに堆積する。これより上位はこのくぼみに埋まるように堆積し、第3層は柱穴・杭穴の覆土と考えられる。壁は開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は南側以外平坦である。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-186	1	白層	D2・W・S層がD2・S層が埋まる
	2	白層	D2・W・S層が埋まる
	3	白層	D2・W・S層が埋まる
	4	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	5	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	6	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	7	白層	D2・L・S層が埋まる
	8	D2・S層	D2・S層が埋まる
	9	D2・S層	D2・S層が埋まる
	10	D2・S層	D2・S層が埋まる



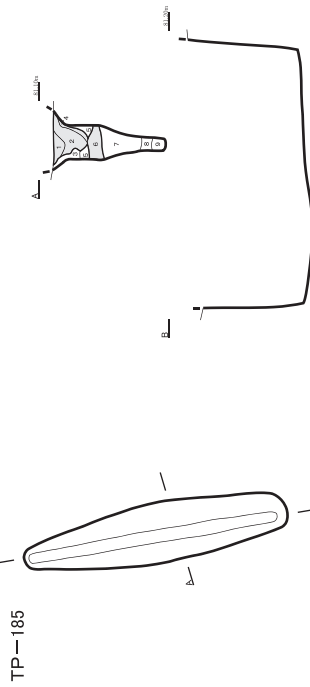
TP-187  
 上位は黒色土主体の第1～5・8層が広く厚く、縦に細い第14層が柱穴・杭穴と考えられる。中～下位は両壁側からT a - d 1とT a - d 2主体の層が交互に堆積した縦相で、最下層は水平堆積である。壁は開口気味の立ち上がりで短軸方向は中位が曲線的に膨らむ形状で、坑底面は掘り過ぎで、柱穴・杭穴 s p - 1・2 を確認した。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-187	1	白層	D2・W・S層が埋まる
	2	白層	D2・W・S層が埋まる
	3	白層	D2・W・S層が埋まる
	4	白層	D2・W・S層が埋まる
	5	白層	D2・W・S層が埋まる
	6	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	7	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	8	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	9	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	10	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	11	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	12	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	13	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	14	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	15	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	16	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	17	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	18	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	19	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	20	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	21	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	22	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる



TP-184  
 上～中位は黒色土主体の覆土が広く厚く、中央の第7層は柱穴・杭穴に関連すると考えられる。最下層の第13層は北東側にくぼみを形成し、そこに第12層が堆積する。短軸方向の両壁は開き気味で、長軸方向の坑底面は中央が低い。

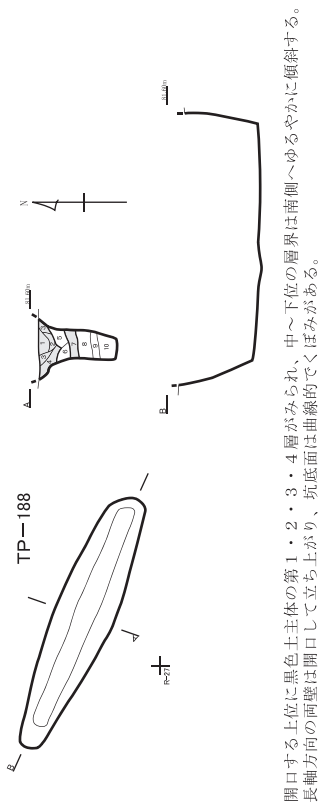
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-184	1	白層	D1層が埋まる
	2	白層	D2・W・S層が埋まる
	3	白層	D2・W・S層が埋まる
	4	白層	D2・W・S層が埋まる
	5	白層	D2・W・S層が埋まる
	6	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	7	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	8	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	9	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	10	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	11	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	12	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	13	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる



TP-185  
 上位の中央に黒色土主体の層が厚く、両壁側はT a - d 2主体である。中～下位は掘り過ぎで、短軸方向の両壁は直立する立ち上がりで、中位で曲線的に膨らむ。長軸方向の坑底面は北側がくぼむ。

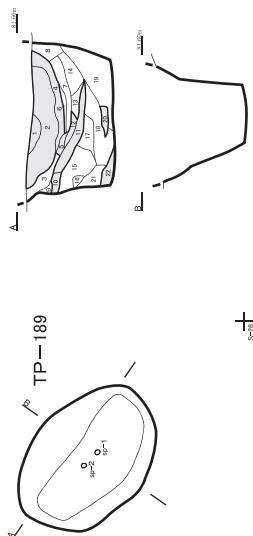
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-185	1	白層	D2・W・S層が埋まる
	2	白層	D2・W・S層が埋まる
	3	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	4	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	5	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	6	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	7	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	8	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる

図132 上幌内5遺跡 TP-184・TP-185・TP-186・TP-187



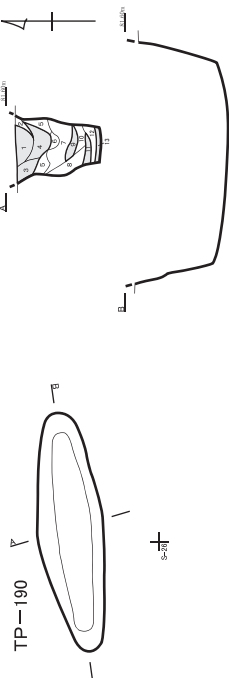
開口する上位に黒色土主体の第1・2・3・4層がみられ、中～下位の層界は南側へゆるやかに傾斜する。長軸方向の両壁は開口して立ち上がり、坑底面は曲線的でくぼみがある。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-188	1	白層主体	
	2	白層 > D2・V・L層	
	3	白層 > D2・V・L層	
	4	白層 > D2・V・L層	D2・W・S層が少量混入する
	5	D2・L・S層 > 白層	D1層が混入する
	6	D2・L・S層主体	D1層が混入する
	7	白層 > D2・L・S層	互化するD2・S層は少量である
	8	D2・S層主体	D1層が少量混入する
	9	D2・S層主体	粗粒のD2・S層が混入する
	10	D2・S層主体	



黒色土主体の覆土は最上位の中央と、中位は北西側から第10・11層が流れ込んだ様相でみられ、下位は第20・22層が部分的である。層界は概して曲線的ですべて傾斜する。壁は北西側と南西側が直立気味の立ち上がりで、長軸方向の坑底面はわずかに傾斜する。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-189	1	白層 > D2・L・S層	D2・W・S層とD2・S層が少量混入する
	2	白層主体	D2・W・S層とD2・S層が混入する
	3	白層 > D2・V・L層	
	4	白層 > D2・V・L層	互化するD2・S層は「粉」である
	5	白層主体	D1層が混入する
	6	D2・L・S層 > 白層	D1層が混入する
	7	D2・L・S層主体	互化するD2・S層は「粉」である
	8	D2・L・S層主体	D1層が少量混入する
	9	D2・L・S層主体	D1層が少量混入する
	10	D2・L・S層主体	D1層が少量混入する
	11	D2・L・S層主体	D1層が少量混入する
	12	白層 > D2・V・L層	
	13	D2・L・S層主体	互化するD2・S層は少量である
	14	D2・L・S層主体	互化するD2・S層は少量である
	15	D2・L・S層 > 白層	D1層が混入する
	16	D1層主体	互化するD2・S層は少量である
	17	D2・L・S層主体	互化するD2・S層は少量である
	18	D2・L・S層主体	D1層が少量混入する
	19	D2・L・S層主体	D1層が少量混入する
	20	白層 > S層主体	D1層が少量混入する
	21	白層 > S層主体	D1層が少量混入する
	22	白層 > D2・S層	



黒色土主体は最上位のくぼみの第1・3・4層と中～下位の第9・11・13層である。T a - d 1 主体は第2・6層と部分的で、T a - d 2 主体の第8層は北側から流れ込んだ様相である。短軸方向の両壁は屈曲があり、長軸方向の坑底面は曲線的で中央がくぼむ。

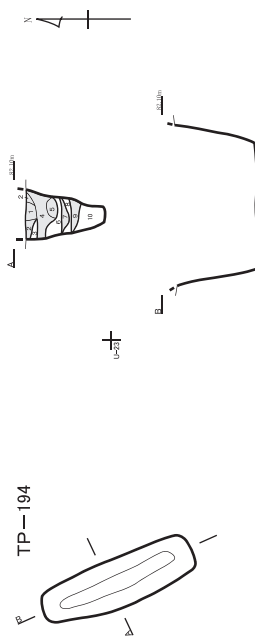
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-190	1	白層主体	
	2	D1層主体	D2・W・S層が混入する
	3	白層 > D2・V・L層	
	4	白層 > D2・V・L層	D1層が混入する
	5	D2・L・S層 > 白層	
	6	D2・L・S層主体	
	7	D2・L・S層主体	
	8	D2・L・S層主体	
	9	白層 > D2・L・S層	互化するD2・S層は少量である
	10	D2・L・S層 > 白層	互化するD2・S層は少量である
	11	D2・L・S層 > 白層	
	12	D2・L・S層 > 白層	D2・S層が混入する
	13	白層主体	



黒色土主体の覆土は最上位の第1層で、これ以外はすべてT a - d 2 主体である。第3・4・5層は遺構の中央が低く、第6層は縦長の堆積である。壁はいずれも直立気味の立ち上がりで、長軸方向の坑底面は平坦である。

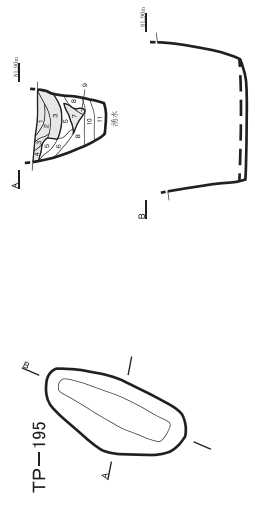
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-191	1	白層 > D2・L・S層	D1層が混入する
	2	D2・L・S層	
	3	D2・L・S層	互化するD2・S層は少量である
	4	D2・L・S層 > 白層	白層が混入する
	5	D2・L・S層主体	
	6	D2・L・S層主体	互化するD2・S層は少量である
	7	D2・L・S層 > 白層	互化するD2・S層は少量である
	8	D2・L・S層 > 白層	
	9	D2・L・S層 > 白層	

図133 上幌内5遺跡 TP-188・TP-189・TP-190・TP-191



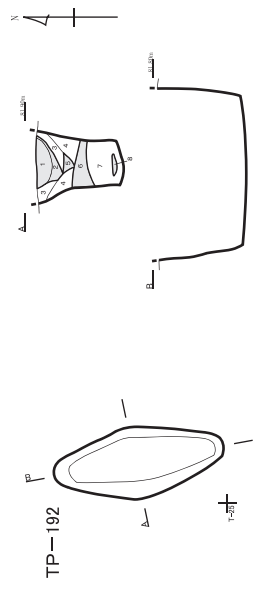
黒土主体は上位と中位にみられ、層界はいずれも曲線的である。壁は開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は凹凸がある。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-194	1	白層主体	
	2	D2・S層が埋まる	
	3	D2・Y・L層	
	4	D2・L・S層主体	
	5	D2・L・S層	
	6	D2・L・S層が埋まる	
	7	D2・S層主体	
	8	D2・S層が埋まる	
	9	D2・S層主体	
	10	D2・S層が埋まる	



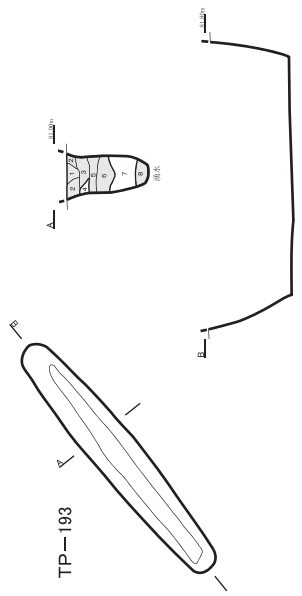
下位は水平堆積で、T a d 2 主体は両壁際から流れ込んだ様相で、上位の覆土はこれに傾斜して堆積する。坑底面は湧水し掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-195	1	白層主体	
	2	D2・S層が埋まる	
	3	D2・Y・L・S層	
	4	D2・L・S層	
	5	D2・L・S層主体	
	6	D2・L・S層が埋まる	
	7	D2・L・S層	
	8	D2・S層主体	
	9	D2・S層が埋まる	
	10	D2・S層主体	
	11	D2・S層が埋まる	



黒土主体は上位の中央にくぼんで中位に広く、下位は部分的にみられる。短軸方向の両壁は直立気味で立ち上がり、長軸方向の坑底面は曲線的で中央が低い。

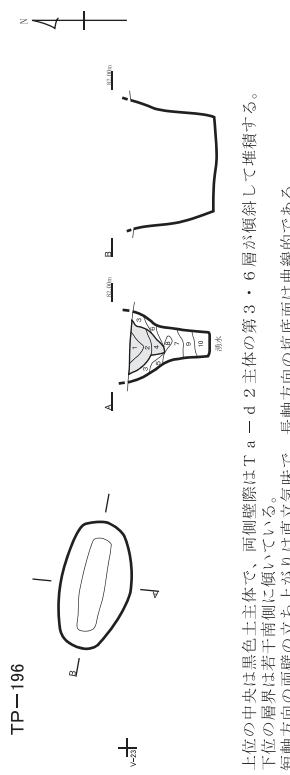
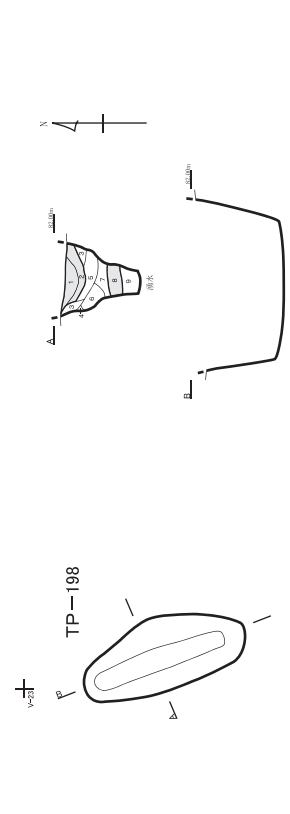
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-192	1	白層主体	
	2	D2・Y・L層	
	3	D2・Y・L層	
	4	D2・L・S層	
	5	D2・L・S層主体	
	6	D2・Y・L層	
	7	D2・S層主体	
	8	D2・S層が埋まる	



第4・7層以外はすべて黒土主体で、上位は水平な層界で下位は曲線的である。長軸方向の坑底面は北東側に傾斜し、湧水する。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-193	1	白層主体	
	2	D2・Y・L層	
	3	D2・Y・L・S層	
	4	D2・Y・L・S層	
	5	D2・Y・L・S層	
	6	D2・Y・L・S層	
	7	D2・S層主体	
	8	D2・S層が埋まる	

図134 上幌内5遺跡 TP-192・TP-193・TP-194・TP-195



TP-196

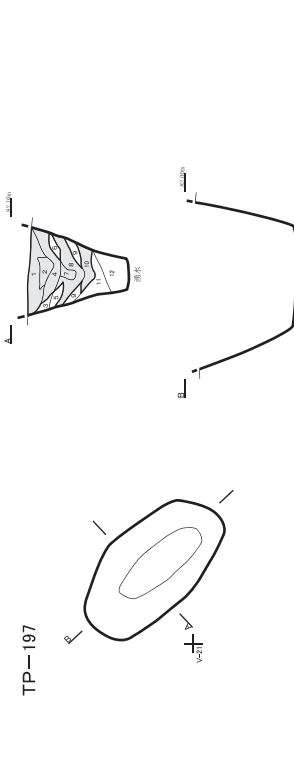
TP-197

上位の中央は黒色土主体で、両側壁はT a - d 2 主体の第3・6層が傾斜して堆積する。  
 下位の層果は若干南側に傾いている。  
 短軸方向の両壁の立ち上がりは直立気味で、長軸方向の坑底面は曲線的である。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-196	1	白層主体	D2・W・S層が堆積する
	2	白層主体	D2・W・S層が堆積する
	3	D2・L・S層 > 白層	—
	4	白層 > D2・L・S層	—
	5	D2・Y・L・S層主体	白層が少量堆積する
	6	D2・L・S層主体	白層が少量堆積する
	7	D2・L・S層主体	—
	8	D2・L・S層主体	白層が少量堆積する
	9	D2・L・S層主体	—
	10	D2・L・S層主体	—

黒色土主体は最上位のくぼみと下位の水平堆積で、中位にみられるT a - d 2 主体の覆土の層界は傾斜する。  
 短軸方向の両壁は中位で広がり、長軸方向の坑底面は曲線的で中央がくぼむ。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-198	1	白層主体	D2・W・S層が堆積する
	2	白層 > D2・Y・L・S層	—
	3	D2・Y・L・S層 > 白層	—
	4	D2・Y・L・S層 > 白層	—
	5	D2・Y・L・S層 > 白層	—
	6	D2・Y・L・S層主体	白層が部分的に堆積する
	7	D2・Y・L・S層主体	—
	8	D2・Y・L・S層主体	白層が少量堆積する
	9	D2・Y・L・S層主体	—
	10	D2・Y・L・S層主体	白層が少量堆積する



TP-199

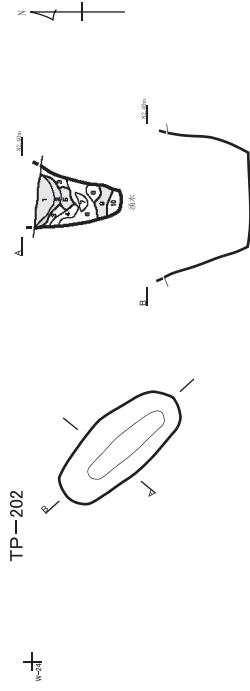
上～中位まで黒色土主体は広く厚く、南西側壁際にT a - d 2 主体の第3・5層が部分的にみられ、  
 下位の層果も傾斜する。長軸方向の坑底面は中央がゆるやかにくぼむ。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-199	1	白層主体	D2・W・S層が堆積する
	2	白層主体	D2・W・S層が堆積する
	3	D2・Y・L・S層 > 白層	—
	4	白層 > D2・L・S層	—
	5	D2・L・S層 > 白層	—
	6	D2・L・S層 > 白層	—
	7	白層主体	—
	8	D2・Y・L・S層	白層が部分的に堆積する
	9	D2・Y・L・S層主体	—
	10	白層主体	D2・S層が堆積する
	11	D2・L・S層主体	—
	12	D2・S層主体	白層が部分的に堆積する

上～中位は黒色土主体が目立つが、中央のくぼみと両壁際にT a - d 2 主体の覆土もみられる。  
 短軸方向の両壁は開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は凹凸がみられるが、掘り過ぎの可能性がある。

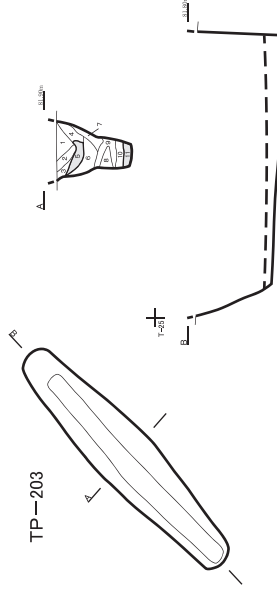
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-198	1	白層主体	D2・W・S層が堆積する
	2	D2・L・S層 > 白層	—
	3	D2・Y・L・S層 > 白層	—
	4	D2・Y・L・S層 > 白層	—
	5	白層 > D2・Y・L・S層	—
	6	D2・Y・L・S層 > 白層	—
	7	D2・Y・L・S層 > 白層	—
	8	白層 > D2・L・S層	—
	9	D2・S層主体	—
	10	D2・S層主体	白層が少量堆積する

図135 上幌内5遺跡 TP-196・TP-197・TP-198・TP-199



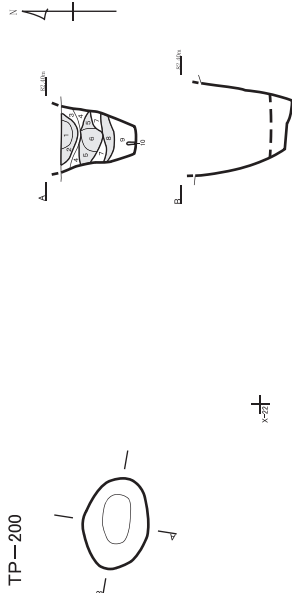
最上位は黒色土主体で、層界はすべて曲線で水平堆積はみられない。

遺構名	層別番号	土層	特記事項
TP-202	1	白層主体	D2・W・S層が埋まる
	2	白層 ≧ D2・Y・L層	
	3	D2・S層 ≧ 白層	
	4	D2・L層 ≧ 白層	
	5	白層主体	
	6	D2・L・S層 ≧ 白層	
	7	D2・L・S層主体	
	8	D2・S層主体	
	9	白層 ≧ D2・L・S層	
	10	D2・L・S層 ≧ 白層	



細長で比較的浅く、最上位はT a - d 2 主体の覆土で、最下層は黒色土主体である。

遺構名	層別番号	土層	特記事項
TP-203	1	白層主体	D1層が埋まる
	2	D2・Y・L層主体	
	3	D2・S層主体	
	4	D2・L層主体	
	5	白層 ≧ D2・Y・L層	
	6	D2・L・S層主体	
	7	D2・L層 ≧ 白層	
	8	D2・S層主体	
	9	D2・L・S層主体	
	10	白層が埋まる	
	11	D2・S層が埋まる	



多くの層界は曲線的で、上～中位の壁際はT a - d 2 主体である。下位の第10層は柱穴・杭穴と考えられるが、坑底面を掘り過ぎたため平面は確認できなかつた。壁はやや開口して立ち上がる。

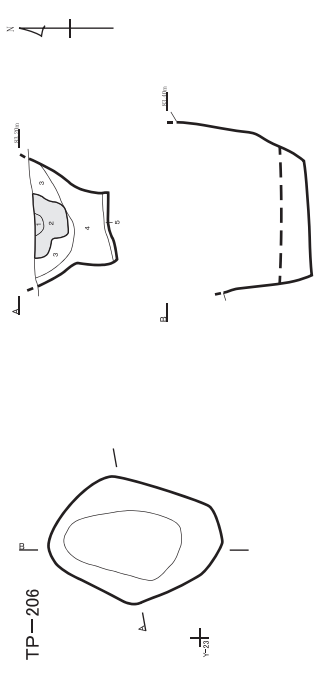
遺構名	層別番号	土層	特記事項
TP-200	1	白層主体	D2・S層が埋まる
	2	白層 ≧ D2・Y・L層	
	3	D2・S層 ≧ 白層	
	4	D2・L層 ≧ 白層	
	5	白層 ≧ D2・Y・L層	
	6	白層主体	
	7	白層 ≧ D2・L・S層	
	8	白層主体	
	9	D2・L・S層主体	
	10	白層主体	



黒色土主体の覆土は上位のくぼみと中～下位では南側に傾斜して堆積する。短軸方向の両壁の立ち上がりは直立気味で、長軸方向の坑底面は中央がくぼむ。

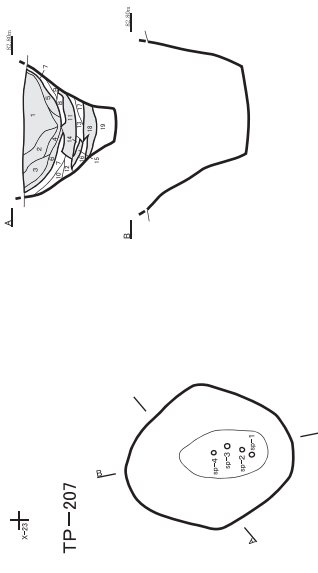
遺構名	層別番号	土層	特記事項
TP-201	1	白層主体	D2・S層が埋まる
	2	白層 ≧ D2・Y・L層	
	3	D2・S層 ≧ 白層	
	4	D2・L層 ≧ 白層	
	5	白層 ≧ D2・L・S層	
	6	D2・S層が埋まる	
	7	白層主体	

図136 上幌内5遺跡 TP-200・TP-201・TP-202・TP-203



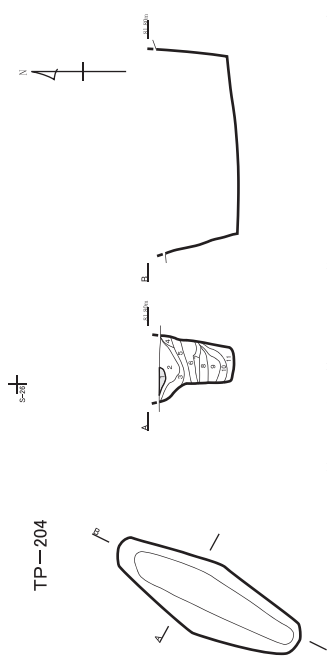
黒色土主体の覆土が最上位の中央に堆積し、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-206	1	自然主体	底層がD2・Y・L・S層が少なく、D2・Y・L・S層が少なくなる。D2・Y・L・S層が少なくなる。
	2	自然主体	
	3	D2・L・S層 > 自然主体	
	4	D2・S層主体	



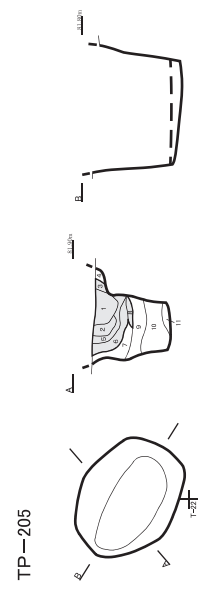
覆土は比較的多く分層でき、中央へと流れ込む堆積である。坑底面に柱穴・杭穴s p-1~4を確認した。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-207	1	自然主体	D2・Y・L・S層が少なく、D2・Y・L・S層が少なくなる。D2・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・W・S層が少なくなる。D2・Y・L・S層が少なくなる。D2・Y・L・S層が少なくなる。D2・Y・L・S層が少なくなる。D2・Y・L・S層が少なくなる。D2・Y・L・S層が少なくなる。D2・Y・L・S層が少なくなる。
	2	自然主体	
	3	自然主体	
	4	自然主体	
	5	自然主体	
	6	自然主体	
	7	自然主体	
	8	自然主体	
	9	自然主体	
	10	自然主体	



比して浅いもので、最上位に部分的にみられる第1層以外はすべてT a - d 2 主体である。下位の覆土は南東側から流れ込んだ様相である。

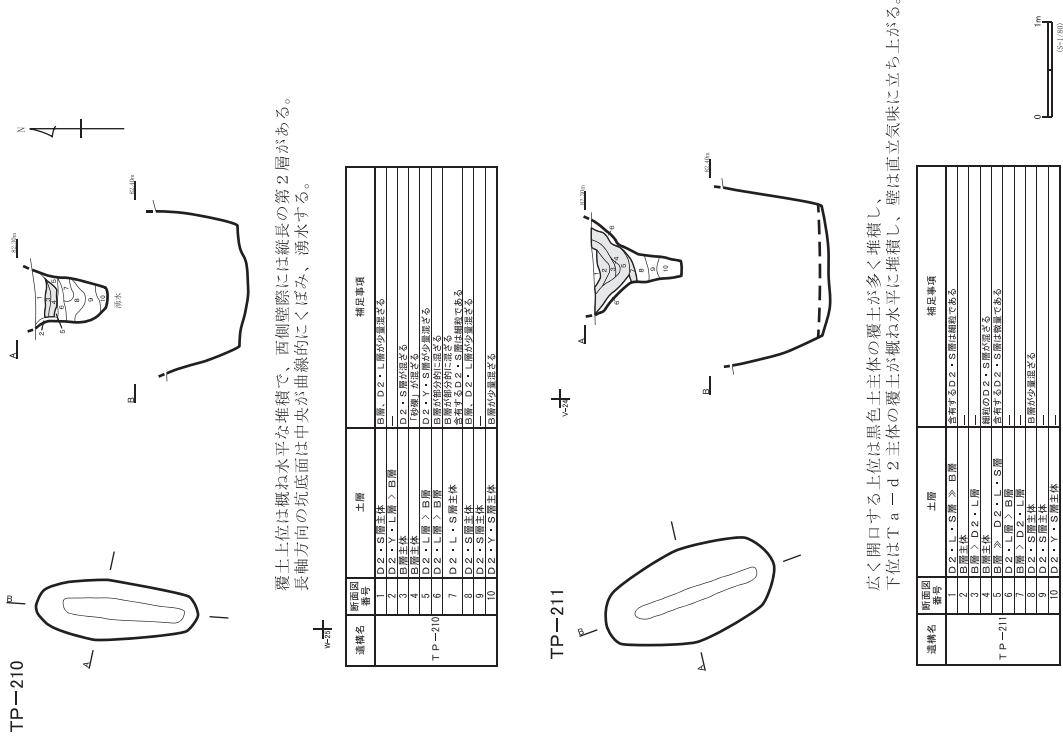
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-204	1	自然主体	D2・W・S層が少なくなる。D2・W・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。
	2	自然主体	
	3	自然主体	
	4	自然主体	
	5	自然主体	
	6	自然主体	
	7	自然主体	
	8	自然主体	
	9	自然主体	
	10	自然主体	
	11	自然主体	



短軸方向の断面は北東側の上位が広がり、左右非対称である。最下位の第11層の黄色粘土層は地山で、掘り過ぎた可能性がある。

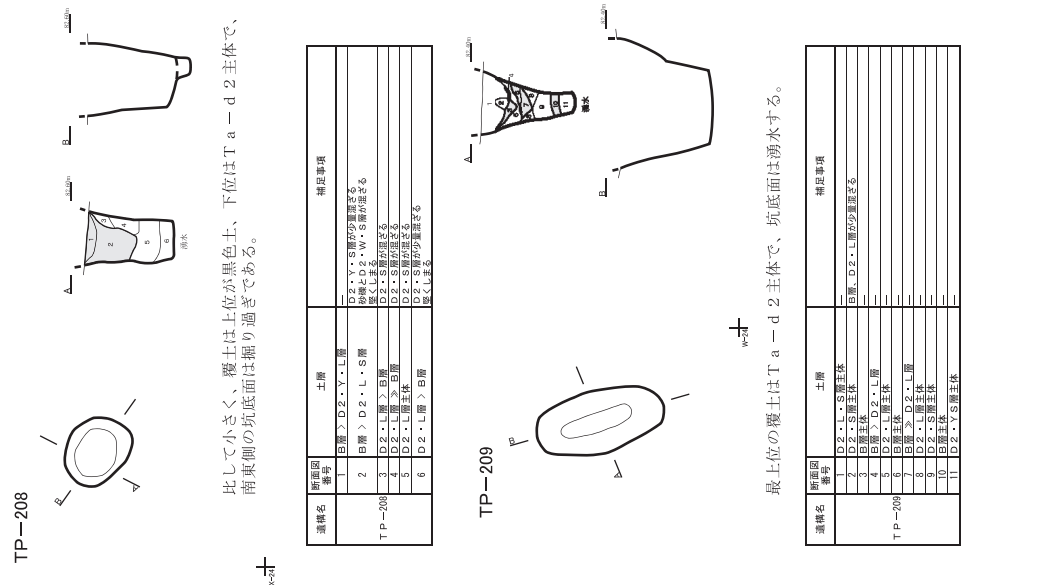
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-205	1	自然主体	D2・W・S層が少なくなる。D2・W・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。D2・L・S層が少なくなる。
	2	自然主体	
	3	自然主体	
	4	自然主体	
	5	自然主体	
	6	自然主体	
	7	自然主体	
	8	自然主体	
	9	自然主体	
	10	自然主体	
	11	自然主体	

図137 上幌内5遺跡 TP-204・TP-205・TP-206・TP-207



覆土上位は概ね水平な堆積で、西側壁際には縦長の第2層がある。  
長軸方向の坑底面は中央が曲線的にくぼみ、湧水する。

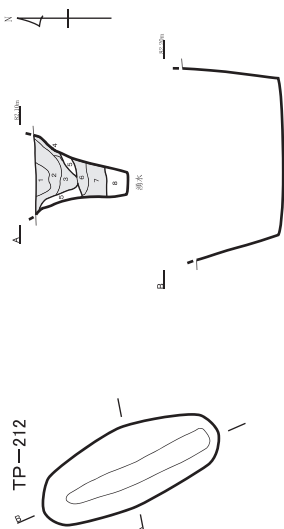
広く開口する上位は黒色土主体の覆土が多く堆積し、  
下位はT a-d 2 主体の覆土が概ね水平に堆積し、壁は直立気味に立ち上がる。



比して小さく、覆土は上位が黒色土、下位はT a-d 2 主体で、  
南東側の坑底面は掘り過ぎである。

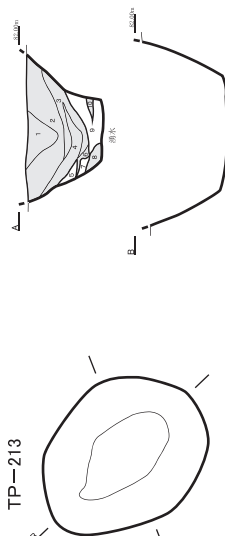
最上位の覆土はT a-d 2 主体で、坑底面は湧水する。

図138 上幌内5遺跡 TP-208・TP-209・TP-210・TP-211



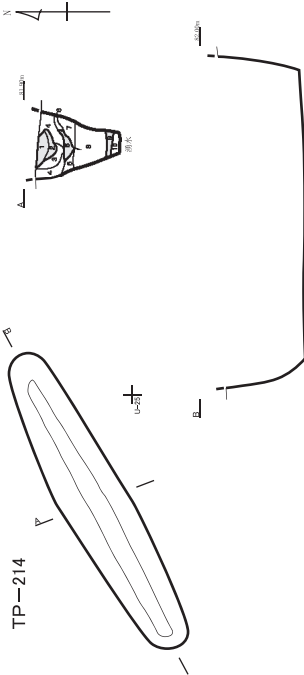
覆土は多くが黒色土主体で、上～中位に位置する T a - d 2 主体の第 4 層は、東側は縦長、西側は縦長の堆積である。坑底は中央がゆるやかに傾斜し湧水する。

遺跡名	断面図番号	土層	補記事項
TP-212	1	白層主体	D 2・S 層が厚くなる
	2	白層主体	
	3	白層 > D 2・Y・L 層	
	4	白層 > D 2・L 層	
	5	D 2・S 層が少量重なる	
	6	白層 > D 2・L・S 層	
	7	白層 > D 2・L・S 層	
	8	D 2・S 層が厚くなる	
	9	D 2・S 層が厚くなる	
	10	白層 > D 2・S 層	



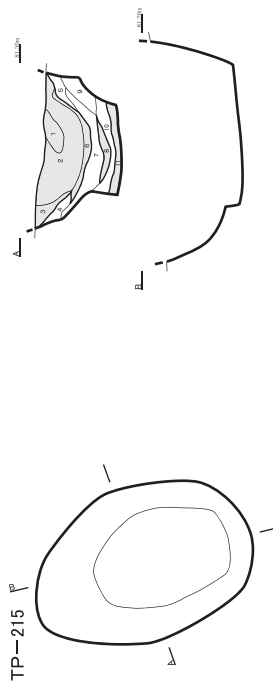
覆土は左右非対称で中位まで中央へと傾斜する堆積で、壁の立ち上がりは、東側の壁は直立気味で、これ以外の壁は大きく開く。

遺跡名	断面図番号	土層	補記事項
TP-213	1	白層主体	D 2・S 層が少量重なる
	2	白層主体	
	3	白層 > D 2・Y・L 層	
	4	白層 > D 2・S 層	
	5	D 2・L・S 層が厚くなる	
	6	白層 > D 2・L 層	
	7	白層主体	
	8	D 2・S 層が厚くなる	
	9	D 2・S 層が厚くなる	
	10	白層 > D 2・S 層	



覆土上位は曲線的な層界がみられ、中位は T a - d 2 主体の第 8 層が厚く、下位は水平堆積である。

遺跡名	断面図番号	土層	補記事項
TP-214	1	白層主体	D 2・S 層が厚くなる
	2	白層主体	
	3	D 2・Y・L・S 層主体	
	4	D 2・Y・L・S 層主体	
	5	白層主体	
	6	D 2 層が厚くなる	
	7	D 2・S 層主体	
	8	D 2・S 層主体	
	9	白層主体	
	10	D 2・S 層主体	

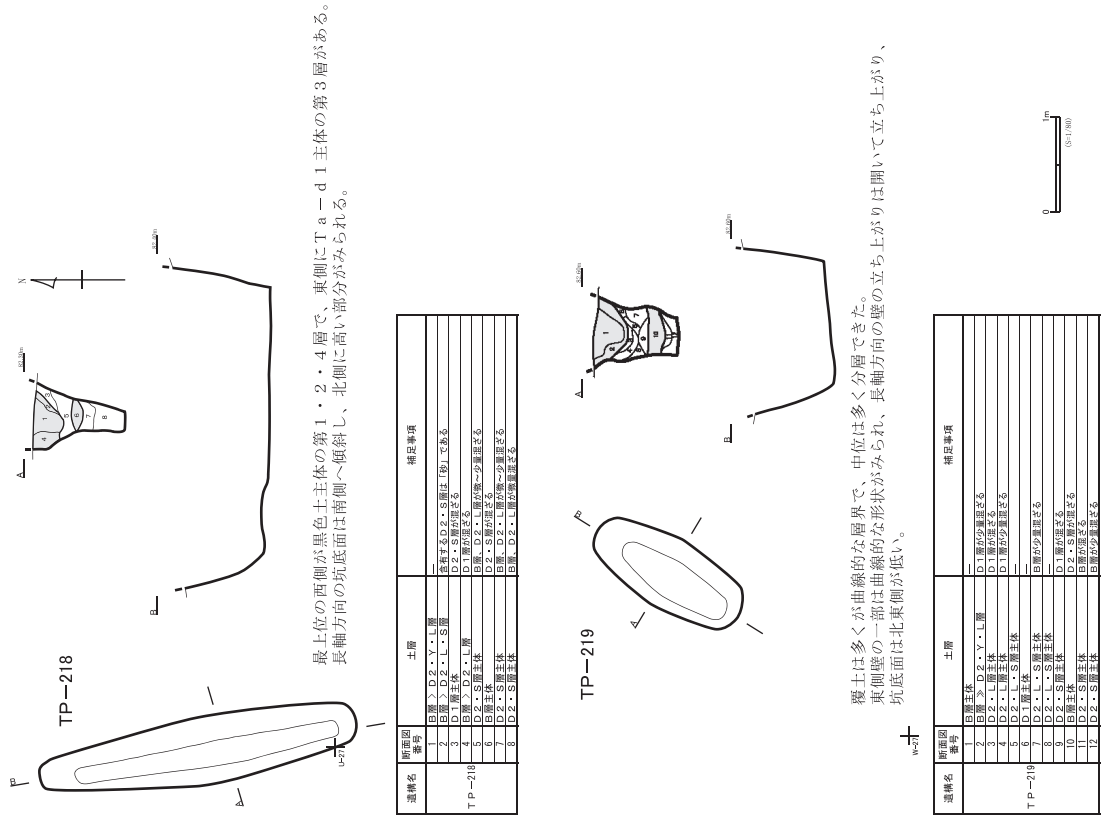


覆土は下位近くまで、中央がくぼむ堆積で、長短軸両方向の壁は左右対称で、大きく開く北と西側で、壁の崩落が著しいと考えられる。

遺跡名	断面図番号	土層	補記事項
TP-215	1	白層主体	D 2・S 層が厚くなる
	2	白層主体	
	3	白層 > D 2・L 層	
	4	D 2・L 層 > 白層	
	5	D 2・Y・L 層 > 白層	
	6	D 2・Y・L 層 > 白層	
	7	D 2・L・S 層主体	
	8	白層主体	
	9	D 2・L・S 層主体	
	10	D 2・S 層主体	
	11	白層 > D 2・L・S 層	

図139 上幌内 5 遺跡 TP-212・TP-213・TP-214・TP-215





覆土は最下層がT a - d 1 主体の第 8 層で、これ以外は各覆土ともに厚く堆積する。長軸方向の坑底面は南西側に傾斜する。

遺構名	断面図番号	土層	補定事項
TP-216	1	D2・L・S層主体	D1層が厚くなる D1層が厚くなる D1層が厚くなる
	2	D2・Y・S層、D層	D1層が厚くなる D1層が厚くなる
	3	D2・Y・S層、D層	底層はD2・S層は「砂」に中粒である
	4	D2・Y・L・S層、D層	D1層が厚くなる
	5	D2・S層主体	D1層が厚くなる
	6	D2・S層主体	D1層が厚くなる
	7	D2・S層主体	D1層が少量堆積する
	8	D2・S層主体	D2・S層が厚くなる

覆土は上位が左右非対称で、下位はT a - d 2 主体の覆土が厚い。長軸方向の坑底面は北側が低い。

遺構名	断面図番号	土層	補定事項
TP-217	2	D層、D2・Y・L層	D1層が厚くなる
	3	D層、D2・Y・L層	D1層が厚くなる
	4	D2・Y・L・S層、D層	D1層が厚くなる
	5	D層、D2・Y・L層	底層はD2・S層は少量である
	6	D層、D2・Y・L層	D1層が厚くなる
	7	D2・S層主体	D1層が厚くなる
	8	D層主体	D1層が少量堆積する D1層が厚くなる D1層が厚くなる
	10	D2・S層主体	D1層が少量堆積する

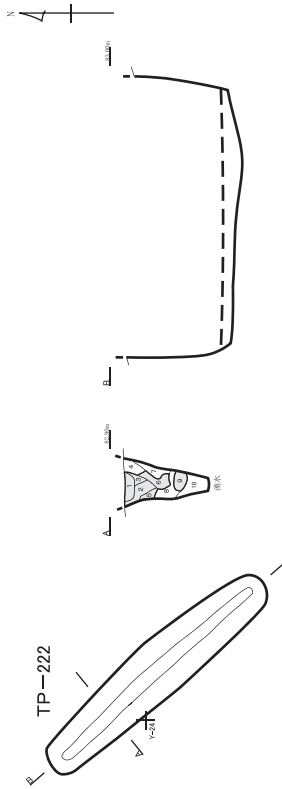
最上位の西側が黒色土主体の第 1・2・4 層で、東側にT a - d 1 主体の第 3 層がある。長軸方向の坑底面は南側へ傾斜し、北側に高い部分が見られる。

遺構名	断面図番号	土層	補定事項
TP-218	1	D層、D2・Y・L層	D1層が厚くなる D1層が厚くなる D1層が厚くなる
	2	D層、D2・Y・L層	D1層が厚くなる
	3	D層、D2・Y・L層	D1層が厚くなる
	4	D層、D2・L層	D1層が厚くなる
	5	D層、D2・L層	D1層が厚くなる
	6	D層、D2・L層	D1層が厚くなる
	7	D2・S層主体	D1層が厚くなる D1層が厚くなる
	8	D2・S層主体	D1層が厚くなる

覆土は多くが曲線的な層界で、中位は多く分層してきた。東側壁の一部は曲線的な形状が見られ、長軸方向の壁の立ち上がりは開いて立ち上がり、坑底面は北東側が低い。

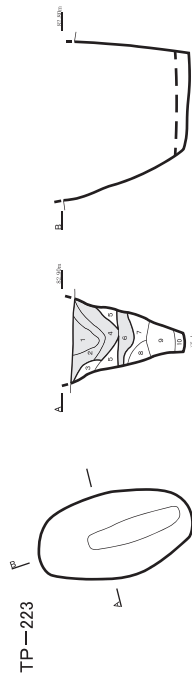
遺構名	断面図番号	土層	補定事項
TP-219	2	D層主体	D1層が厚くなる
	3	D層、D2・Y・L層	D1層が厚くなる
	4	D層、D2・Y・L層	D1層が厚くなる
	5	D層、D2・Y・L層	D1層が厚くなる
	6	D層、D2・Y・L層	D1層が厚くなる
	7	D2・L・S層主体	D1層が厚くなる
	8	D2・L・S層主体	D1層が厚くなる
	10	D層主体	D1層が厚くなる
	11	D2・S層主体	D1層が厚くなる
	12	D2・S層主体	D1層が厚くなる
	13	D2・S層主体	D1層が厚くなる

図140 上幌内5遺跡 TP-216・TP-217・TP-218・TP-219



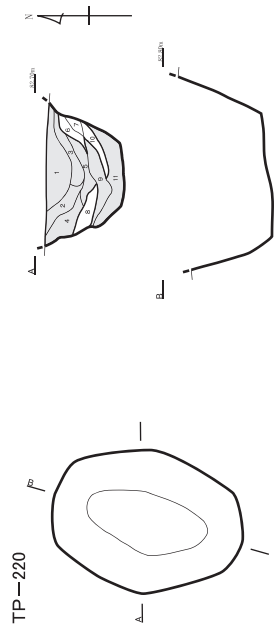
覆土は水平堆積のものがなく、T a - d 2層主体のものは北東側の壁際にみられる。坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-222	1	白層主体	D2・S層が少量存在
	2	白層 > D2・Y・L層	
	3	白層主体	
	4	D2・S層が少量存在	
	5	D2・Y・L・L・S層	含まれるD2・S層は(物)である
	6	白層 > D2・L・L・S層	
	7	D2・Y・L・S層 > 白層	D2・S層は(物)である
	8	D2・Y・L・S層 > 白層	
	9	白層 > D2・L・S層	
	10	D2・S層主体	



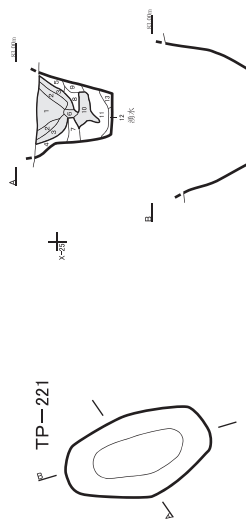
上位の覆土は斜めの堆積で、第6層の上位の層界は水平である。下位はT a - d 2主体で、坑底は掘り過ぎで湧水する。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-223	1	白層主体	D2・W・S層が少量存在
	2	D2・L・S層 > 白層	D2・S層が少量存在
	3	D2・L・S層 > 白層	
	4	白層 > D2・L・S層	含まれるD2・S層は(物)である
	5	D2・L・S層 > 白層	含まれるD2・S層は少量である
	6	白層 > D2・L・L・S層	含まれるD2・S層は(物)である
	7	D2・L・S層主体	
	8	D2・S層主体	
	9	D2・L・S層 > 白層	
	10	D2・L・S層 > 白層	



覆土は遺構の中央へくぼむ堆積で、曲線的な層界である。壁はすべて開き気味で立ち上がり、坑底面は北側が低い。

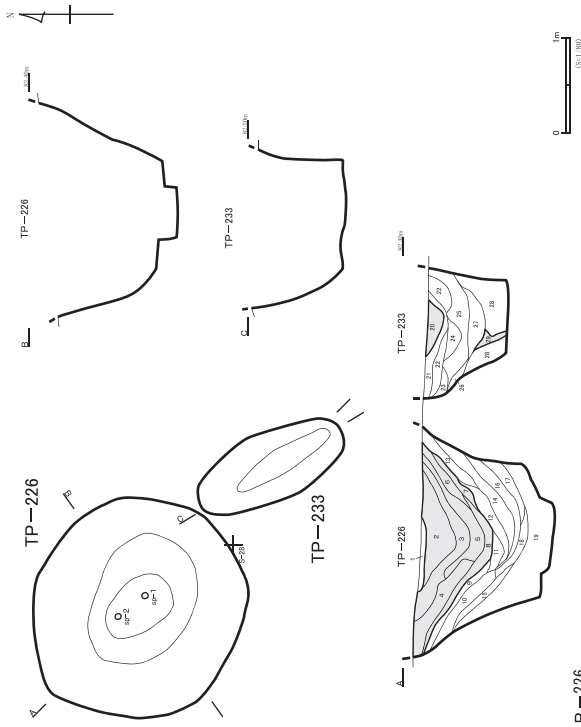
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-220	1	白層 > D2・L・S層	
	2	白層主体	
	3	D2・S層が少量存在	
	4	D2・Y・L・L・S層	含まれるD2・S層は少量である
	5	白層 > D2・L・L・S層	
	6	D2・L・S層 > 白層	
	7	D2・Y・L・S層主体	
	8	D2・Y・L・S層主体	
	9	白層主体	D2・S層が少量存在
	10	D2・S層主体	白層とD2・L層が混在する
	11	白層 > D2・S層	



上位の第1～5層は中央へと傾斜する堆積で、中位の第6層は黒色土主体で柱穴・杭穴を想定させる。坑底面は平坦である。

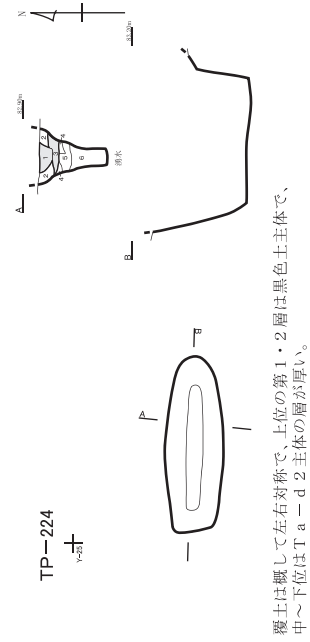
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-221	1	白層主体	D2・S層が少量存在
	2	D2・L・S層 > 白層	
	3	白層 > D2・L層	
	4	D2・L・S層 > 白層	含まれるD2・S層は少量である
	5	白層主体	
	6	D2・S層主体	
	7	白層 > D2・L層が少量存在	
	8	D2・L・S層 > 白層	
	9	D2・L・S層主体	
	10	白層主体	D2・S層が少量存在
	11	D2・S層主体	
12	D2・S層主体	柱穴・杭穴を想定	
13	D2・S層主体	D2・L層が少量存在	

図141 上幌内5遺跡 TP-220・TP-221・TP-222・TP-223



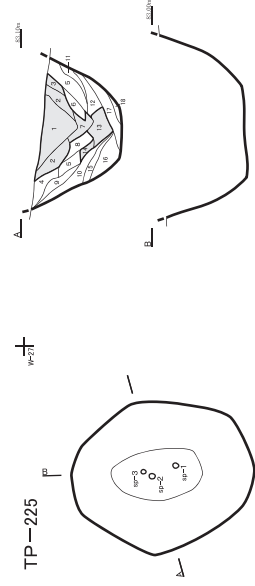
TP-226  
本遺跡で最大規模である。各層とも中央へ傾斜する堆積で、上位は黒色土主体、中位は両壁際に T a-d 1 主体が流れ込む。下位を占める互層は無数にある薄層をまとめたものである。壁の立ち上がりは開口気味で、坑底面には段があり、柱穴・杭穴 s p-1・2 を確認した。

TP-233  
覆土の層系は曲線的かつ中央へ傾斜せず、第23・24層の上位と第25層の下位が概して水平である。第29層は縦方向斜めに堆積し、長軸方向の坑底面は北西側が一部高い。



覆土は概して左右対称で、上位の第1・2層は黒色土主体で、中へ下位は T a-d 2 主体の層が厚い。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-224	1	白層 > D2・Y・L層	
	2	白層 > D2・S層	D2・S層が少量混在している
	3	白層 > D2・L・S層	D2・L・S層が少量混在している
	4	D2・S層主体	
	5	D2・L・S層 > 白層	

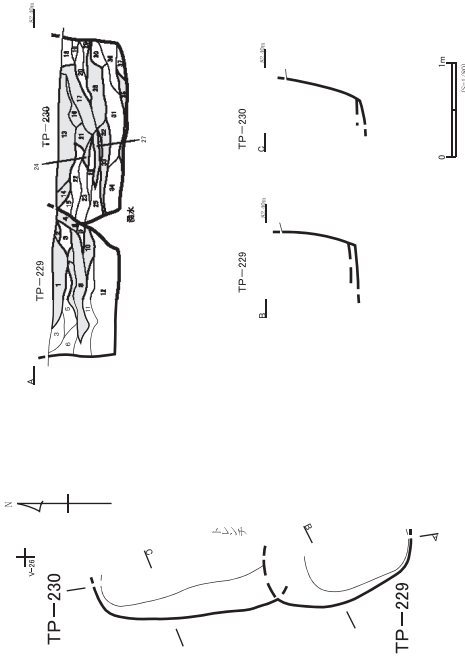


坑底面近くは最初に東側から第17・18層が堆積し、次に西側から第10・15・16層が流れ込んでいる。多くが遺構の中央へと傾斜する堆積で、最上位の第1層は断面が三角形を呈する。長軸方向の坑底面は中央が高い。

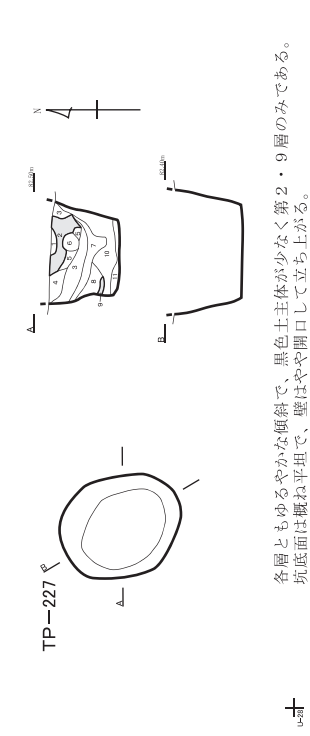
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-225	1	白層主体	
	2	白層主体	D2・S層が少量混在する
	3	白層主体	「砂層」が混在する
	4	D2・Y・L層 > 白層	
	5	D2・L・S層 > 白層	「砂層」が混在する
	6	D2・L・S層 > 白層	「砂層」が混在する
	7	D2・L・S層 > 白層	「砂層」が混在する
	8	D2・L・S層 > 白層	「砂層」と白層が混在する
	9	D2・L・S層 > 白層	「砂層」が混在する
	10	D2・L・S層 > 白層	「砂層」が混在する
TP-225	11	D2・L・S層主体	
	12	D2・L・S層 > 白層	「砂層」が混在する
	13	D2・L・S層 > D2・L・S層	混在するD2・S層は「砂」で少量である
	14	白層主体	D1層が混在する
	15	D1層主体	混在のD2・S層が混在する
	16	D2・S層主体	白層が少量混在する
	17	D2・S層主体	白層が少量混在する
	18	D2・L・S層 > 白層	混在するD2・S層は細粒で少量である

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-226	2	白層 > D2・L・S層	
	3	白層 > D2・S層	
	4	白層 > D2・L・S層	
	5	白層 > D2・L・S層	D2・S層が少量混在する
	6	白層主体	
	7	白層 > D2・L・S層	
	8	白層 > D2・L・S層	混在するD2・S層は少量である
	9	D2・L層 > 白層	
	10	D2・L層 > 白層	
	11	D2・L層 > 白層	
TP-226	12	D2・Y・L層 > 白層	「砂層」が混在する
	13	D2・Y・L層 > 白層	
	14	D2・Y・L層主体	
	15	D2・S層主体	「砂層」が混在する
	16	D2・S層主体	
	17	D2・S層主体	
	18	D2・S層主体	D1層が混在する
	19	互層	D1層、少量が混在するD2・L層とD2・S層が少量混在する
	20	白層 > D2・L層	D2・L層が混在する
	21	D2・Y・L層 > 白層	D2・L層が混在する
TP-233	22	D2・Y・L層 > 白層	混在するD2・L層が少量混在する
	23	D2・Y・L層 > 白層	
	24	D2・Y・L層 > 白層	D1層が混在する
	25	D2・S層主体	D1層が混在する
	26	D1層主体	D2・S層が混在する
	27	D2・S層主体	白層が少量混在する
	28	D2・S層主体	白層が少量混在する
	29	白層主体	D2・S層が混在する

図142 上幌内5遺跡 TP-224・TP-225・TP-226・TP-233

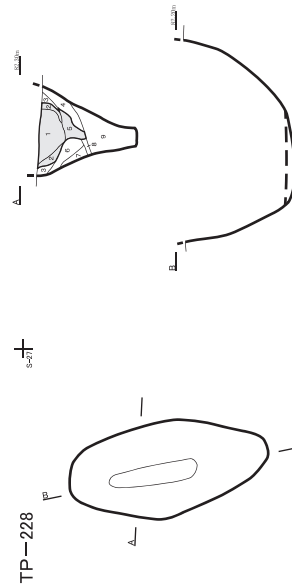


長軸方向で2基が重複してみられ、この方向で断ち割りし、土層断面での切り合いから、TP-229が新しくTP-230が古いと判断した。  
 TP-229は下にT a - d 2 主体が厚く、黒色土主体の覆土は北側にかたよってみられ、TP-230は第14~17・20層がゆるやかに傾斜し、これら以外は概ね水平な堆積である。



各層ともゆるやかな傾斜で、黒色土主体が少なく第2・9層のみである。  
 坑底面は概ね平坦で、壁はやや開口して立ち上がる。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-227	2	D2・Y・L層 ≧ 白層	D2・S層が厚くなる
	3	D2層主体	
	4	D2・Y・L層 ≧ 白層	
	5	D2・Y・L層主体	
	6	D2・Y・L・S層主体	含有するD2・S層は少量である
	7	D2・S層主体	
TP-228	8	D2・S層主体	D2・L層が厚くなる
	9	D2・S層主体	D2・S層が厚くなる
	10	D2・S層主体	
	11	D2・S層主体	白層が少量堆積する

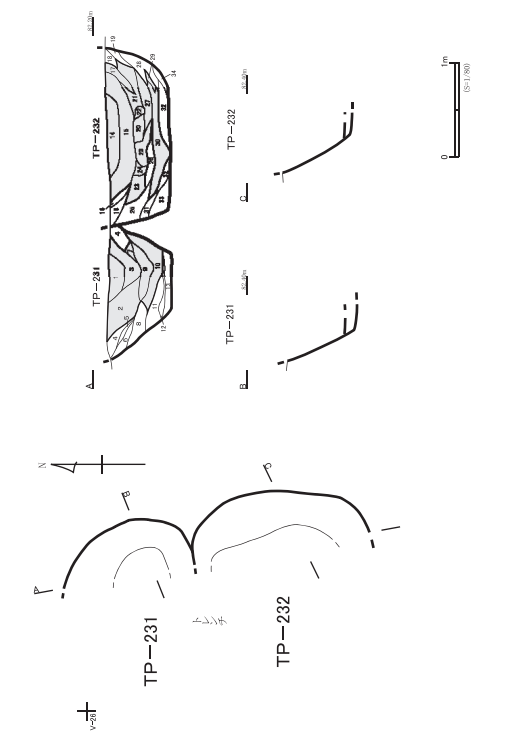
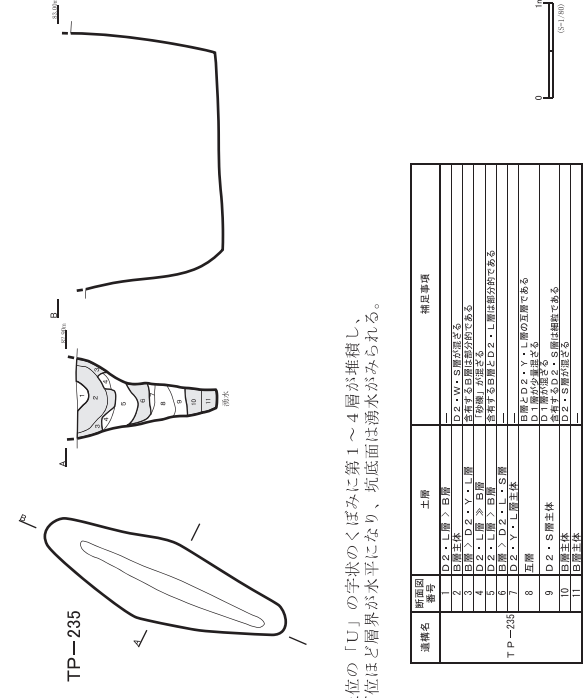
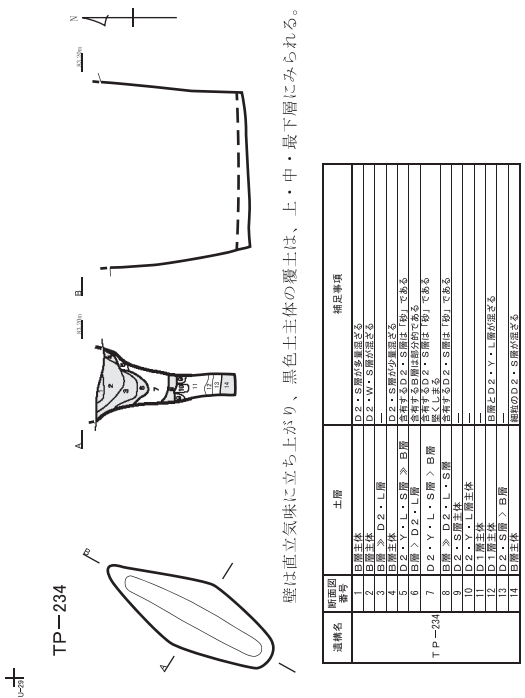


T a - d 2 主体の最下層は東側から流れ込んだ様相で、上~中位は中央へ傾斜する堆積である。  
 短軸方向の壁の立ち上がりは直立気味で中位で開口し、長軸方向の断面形状は曲線的で、一部掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-228	1	白層主体	D2・W・S層が厚くなる
	2	D2・Y・L層 ≧ 白層	D2・S層が厚くなる
	3	D2・Y・L層主体	白層が部分的に堆積する
	4	D2・L・S層主体	
	5	白層 ≧ D2・L・S層	含有するD2・S層は極少量である
	6	D2・L・S層主体	
TP-229	7	D2・L・S層主体	
	8	D2・S層主体	
	9	D2・S層主体	白層が厚くなる

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-229	2	白層主体	相対的D2・S層が少量堆積する
	3	D2・Y・L層 ≧ 白層	D2・Y・L層が部分的に堆積する
	4	D2・Y・L層主体	
	5	D2・Y・L層 ≧ 白層	
	6	D2・Y・L・S層 ≧ 白層	
	7	白層 ≧ D2・Y・L層	
	8	D2・L・S層主体	白層が厚くなる
	9	D2・L・S層主体	含有するD2・S層は極少量である
	10	白層 ≧ D2・Y・L・S層	白層が厚くなる
	11	D2・L・S層主体	白層が厚くなる
	12	D2・S層主体	D2・W・S層が厚くなる
	13	白層 ≧ D2・Y・L層	
	14	D2・Y・L・S層主体	
	15	D2・Y・L・S層主体	含有するD2・Y・L・S層は「砂」である
TP-230	16	D2・S層主体	D2・L層が厚くなる
	17	D2・S層主体	含有するD2・Y・L・S層は「砂」である
	18	D2・Y・L・S層主体	
	19	D2・S層主体	
	20	白層 ≧ D2・L・S層	
	21	白層 ≧ D2・L・S層	含有するD2・S層は少量である
	22	白層主体	
	23	D2・S層主体	白層が厚くなる
	24	D2・S層主体	相対的D2・S層が厚くなる
	25	D2・S層主体	
	26	D2・S層主体	白層とD2・L層が厚くなる
	27	D2・S層主体	D2・S層が厚くなる
	28	白層主体	
	29	D2・S層主体	D2・S層が厚くなる
30	D2・S層主体	白層が厚くなる	
31	D2・S層主体	白層が少量堆積する	

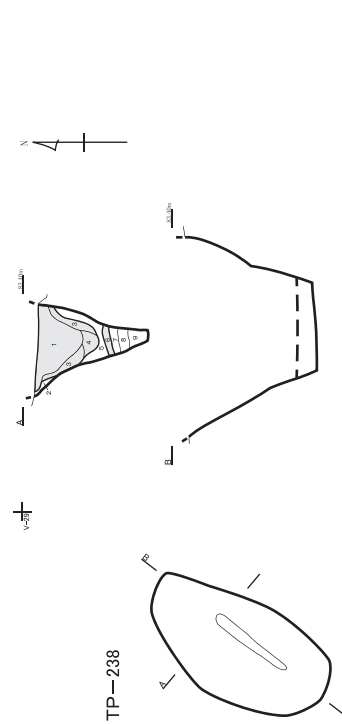
図143 上幌内5遺跡 TP-227・TP-228・TP-229・TP-230



長軸方向にトレンチを設け断ち割りし、連続する土層断面を観察した。ともに楕円形であるが、上位部分でTP-232がTP-231を切っていると判断された。黒色土主体の覆土は、TP-231は南側に多く、TP-232では概ね遺構の中心に堆積している。

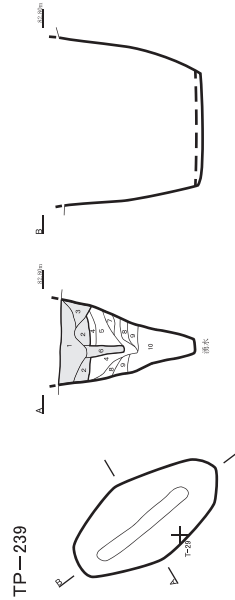
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-231	1	白層 > D2・Y・L・S層	連続するD2・S層は「U」である
	2	白層主体	
	3	D2・Y・L層	
	4	D2・Y・L層主体	
	5	D2・S層	
	6	D2・S層主体	
	7	白層 > D2・Y・L層	
	8	D2・Y・L・S層 > 白層	
	9	D2・Y・L・S層	
	10	白層 > D2・S層	
	11	D2・Y・L・S層は少量である	
	12	D2・Y・L・S層	
	13	D2・S層主体	
	14	D2・S層が混在する	
TP-232	15	白層 > D2・Y・L層	白層とD2・Y・L層が混在する
	16	D2・Y・L層主体	
	17	白層 > D2・Y・L層	
	18	D2・Y・L層主体	
	19	白層 > D2・Y・L層	
	20	白層 > D2・Y・L層	
	21	白層主体	
	22	白層主体	
	23	白層主体	
	24	白層主体	
	25	D2・L・S層主体	
	26	D2・L・S層が混在する	
	27	白層 > D2・L・S層	
	28	D2・L・S層	
29	白層主体		
30	白層主体		
31	D2・S層 > 白層		
32	D2・S層が混在する		
33	D2・Y・L・S層 > 白層		
34	白層主体		

図144 上幌内5遺跡 TP-231・TP-232・TP-233・TP-234・TP-235



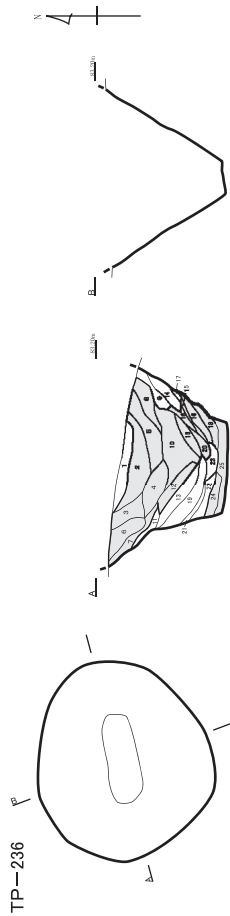
短軸・長軸方向ともに左右非対称の形状で坑底面が小さい。覆土から黒曜石の石鏡が出土した。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-238	1	白層主体	
	2	D2・L層	
	3	D2・L層	
	4	D2・L層	
	5	D2・L層	
	6	D2・L層	
	7	D2・L層	
	8	D2・L層	
	9	D2・L層	
	10	D2・L層	



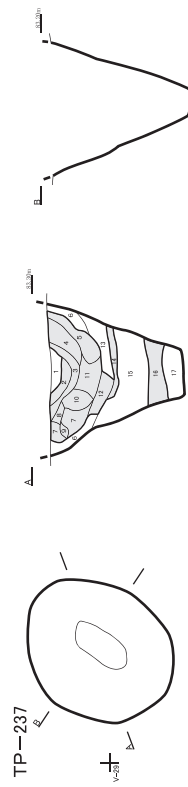
第6層は黒色土主体で、形状から柱穴・杭穴の存在を示唆するが、坑底面にはみられなかった。長軸方向の壁は開き気味で立ち上がる。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-239	1	白層主体	
	2	D2・L層	
	3	D2・L層	
	4	D2・L層	
	5	D2・L層	
	6	D2・L層	
	7	D2・L層	
	8	D2・L層	
	9	D2・L層	
	10	D2・L層	



長軸方向に半截した。土層断面では覆土最下層以外は中央へと流れ込む堆積がみられ、壁は大きく開口して立ち上がる。

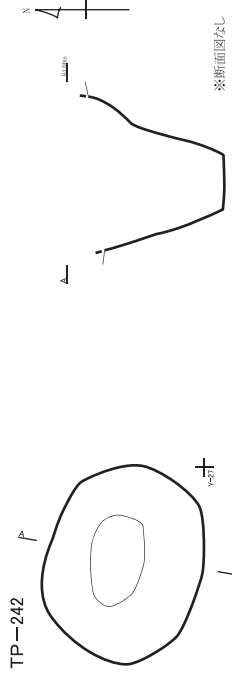
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-236	1	白層主体	
	2	D2・L層	
	3	D2・L層	
	4	D2・L層	
	5	D2・L層	
	6	D2・L層	
	7	D2・L層	
	8	D2・L層	
	9	D2・L層	
	10	D2・L層	
	11	D2・L層	
	12	D2・L層	
	13	D2・L層	
	14	D2・L層	
	15	D2・L層	
	16	D2・L層	
	17	D2・L層	
	18	D2・L層	
	19	D2・L層	
	20	D2・L層	
	21	D2・L層	
	22	D2・L層	
	23	D2・L層	
	24	D2・L層	
	25	D2・L層	



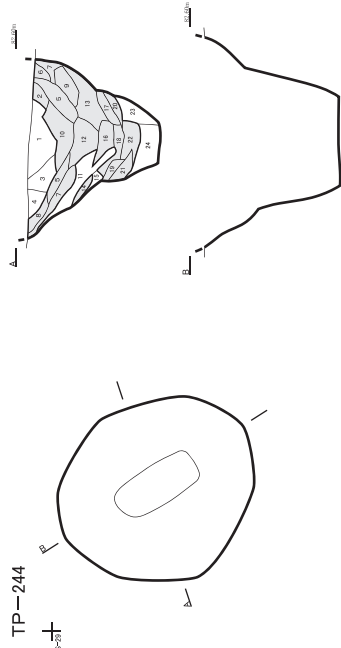
覆土の上位は最上位の中央と両壁にT a-d 2主体層がみられる。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-237	1	白層主体	
	2	D2・L層	
	3	D2・L層	
	4	D2・L層	
	5	D2・L層	
	6	D2・L層	
	7	D2・L層	
	8	D2・L層	
	9	D2・L層	
	10	D2・L層	
	11	D2・L層	
	12	D2・L層	
	13	D2・L層	
	14	D2・L層	
	15	D2・L層	
	16	D2・L層	
	17	D2・L層	

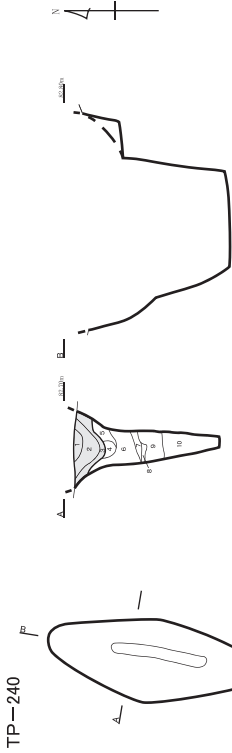
図145 上幌内5遺跡 TP-236・TP-237・TP-238・TP-239



土層断面図は作成し忘れた。壁は開口して立ち上がり、坑底面は概して平坦である。

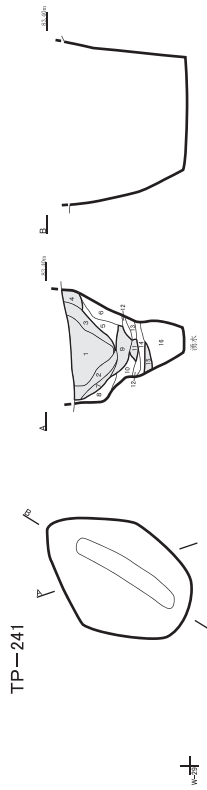


覆土は中央部分が概して水平で、両壁際は傾斜して堆積し、黒色土主体の覆土は中位に多い。壁はすべて中位からさらに開く形状で、長軸方向の坑底面は中央が若干高い。



上位は黒色土主体の覆土がくぼみ形状で堆積し、中位にはT a-d 1主体の層がみられる。壁はやや開いて立ち上がり、長軸方向の坑底面は北側へ傾斜する。

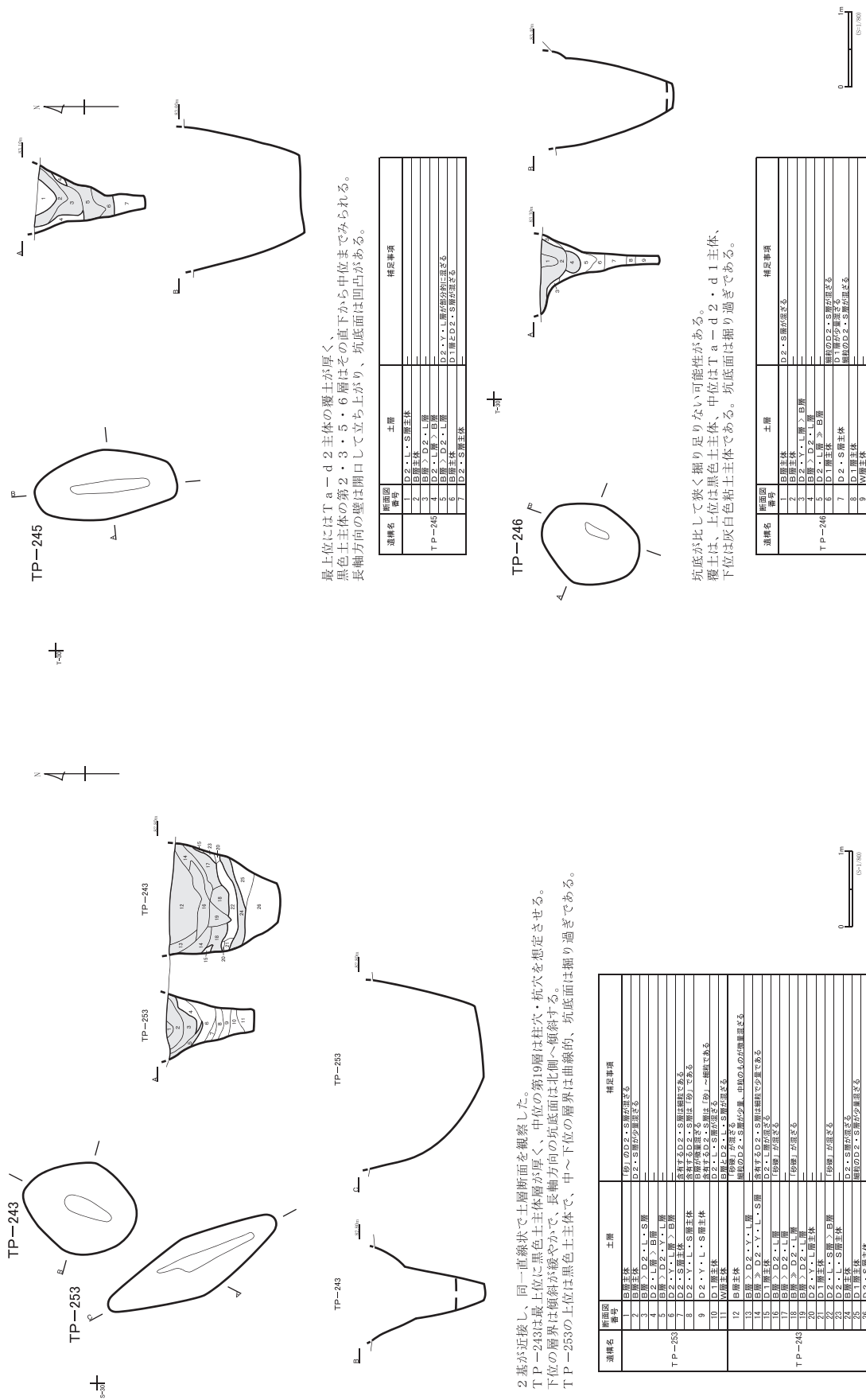
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-240	1	白層主体	D2・S層が少量である
	2	白層主体	D2・S層が少量である
	3	黒層主体	D2・S層が少量である
	4	D2・L層主体	D2・S層が少量である
	5	D2・Y・L層主体	D2・S層が少量である
	6	D2・L層主体	D2・S層が少量である
	7	D2・L層主体	D2・S層が少量である
	8	D2・L層主体	D2・S層が少量である
	9	D2・L層主体	D2・S層が少量である
	10	D2・S層主体	D2・S層が少量である



上位から中位は黒色土主体の層が多く、最下層はT a-d 2主体の覆土が厚い。短軸方向の両壁は、中位から上位へと広く開口し、長軸方向の坑底面はやや中央が低い。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-241	1	白層主体	D2・S層が少量である
	2	白層主体	D2・S層が少量である
	3	D2・L層主体	D2・S層が少量である
	4	D2・L層主体	D2・S層が少量である
	5	D2・L層主体	D2・S層が少量である
	6	D2・L層主体	D2・S層が少量である
	7	D2・L層主体	D2・S層が少量である
	8	D2・Y・L層主体	D2・S層が少量である
	9	D2・L層主体	D2・S層が少量である
	10	D2・L層主体	D2・S層が少量である
	11	D2・L層主体	D2・S層が少量である
	12	D2・L層主体	D2・S層が少量である
	13	D2・L層主体	D2・S層が少量である
	14	D2・S層主体	D2・S層が少量である
	15	D2・L・S層主体	D2・S層が少量である
	16	D2・L・S層主体	D2・S層が少量である

図146 上幌内5遺跡 TP-240・TP-241・TP-242・TP-244



2基が近接し、同一直線状で土層断面を観察した。  
 TP-243は最上位に黒色土主体層が厚く、中位の第19層は柱穴・杭穴を想定させる。  
 下位の層界は傾斜が緩やかで、長軸方向の坑底面は北側へ傾斜する。  
 TP-253の上位は黒色土主体で、中～下位の層界は曲線的、坑底面は掘り過ぎである。

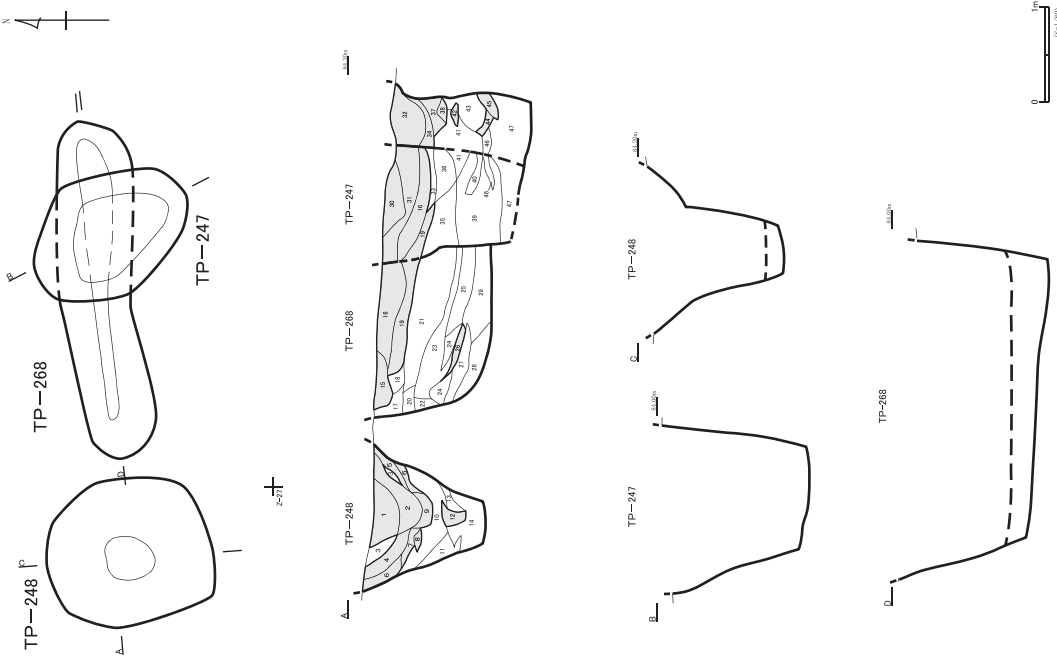
最上位にはT a - d 2 主体の覆土が厚く、  
 黒色土主体の第 2 ・ 3 ・ 5 ・ 6 層はその直下から中位までみられる。  
 長軸方向の壁は開口して立ち上がり、坑底面は凹凸がある。

坑底が比して狭く掘り足りない可能性がある。  
 覆土は、上位は黒色土主体、中位はT a - d 2 ・ d 1 主体、  
 下位は灰白色粘土主体である。坑底面は掘り過ぎである。

図147 上幌内 5 遺跡 TP-243・TP-244・TP-245・TP-246

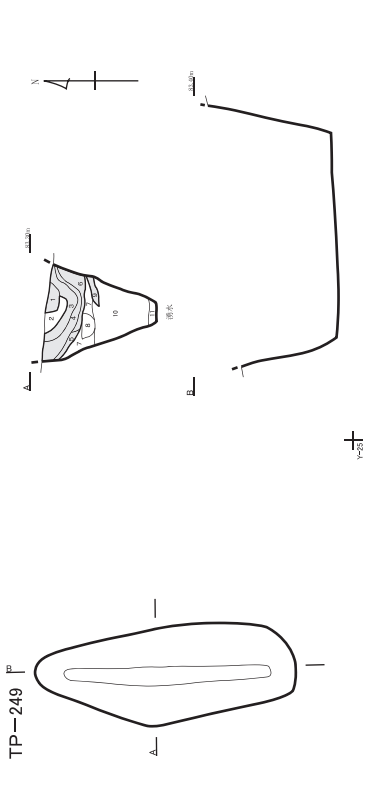


西側のTP-248は、上位に黒色土主体の覆土が多く、T a - d 2 主体の第3層が部分的である。下位の第12層は柱穴・杭穴の存在を示唆する。壁は開口して立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。楕円形のTP-247と細長いTP-268は重複してみられ、土層断面では、TP-247の最上位の中央には黒色土主体の第30層がくぼんで堆積し、第16・19層と下位の第41・46・47層は分層できず、TP-268と連続する様に見られた。長軸方向の坑底面は南側へと傾斜する。TP-268の黒色土主体の覆土は、上位に第15・16・19・32・34層と、東側部分の中～下位に第38・42・44・45層が部分的にみられ、坑底面は掘り過ぎである。



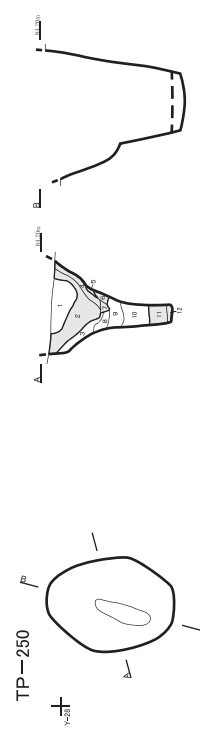
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-248	1	各層 ≧ D2・S層	各層ともD2・S層は傾斜である。
	2	D2 ≧ D2・L層	D2・S層が埋まる。
	3	D2・V・L・S層 > 白層	傾斜のD2・S層が埋まる。
	4	白層	砂層よりD2・S層が埋まる。
	5	白層	砂層が埋まる。
	6	白層 ≧ D2・L層	砂層が埋まる。
	7	白層	砂層が埋まる。
	8	白層	砂層が埋まる。
	9	白層 ≧ D2・S層	中位の砂層が埋まる。
	10	D2・L層主体	中位の砂層が埋まる。傾斜である。
TP-247	11	D2・L層主体	中位の砂層が埋まる。傾斜がある。
	12	D2・L層	傾斜がある。
	13	D2・V・L層 ≧ 白層	傾斜がある。
	14	D2・L層主体	傾斜がある。
	15	白層主体	傾斜がある。
	16	D2・L層主体	傾斜がある。
	17	D2・L層主体	傾斜がある。
	18	D2・L層主体	傾斜がある。
	19	D2・L層主体	傾斜がある。
	20	D2・L層主体	傾斜がある。
TP-268	21	D2・L・S層主体	白層部分が埋まる。
	22	D2・L・S層主体	D2・L・S層が埋まる。
	23	D2・L層主体	D2・L層が埋まる。
	24	D2・L層主体	D2・L層が埋まる。
	25	D2・L層主体	D2・L層が埋まる。
	26	白層主体	D2・L層が埋まる。
	27	D2・L層主体	D2・L層が埋まる。
	28	D2・L層主体	D2・L層が埋まる。
	29	D2・S層主体	各層ともD2・S層は傾斜である。
	30	D2・L層主体	D2・L層が埋まる。
TP-247	31	白層主体	傾斜のD2・S層が埋まる。
	32	D2・L層 > 白層	傾斜のD2・S層が埋まる。
	33	D2・L層 > 白層	傾斜のD2・S層が埋まる。
	34	D2・L層 > 白層	傾斜のD2・S層が埋まる。
	35	D2・L層 > 白層	傾斜のD2・S層が埋まる。
	36	D2・L層 > 白層	傾斜のD2・S層が埋まる。
	37	D2・L層 > 白層	傾斜のD2・S層が埋まる。
	38	D2・L層 > 白層	傾斜のD2・S層が埋まる。
	39	D2・L層 > 白層	傾斜のD2・S層が埋まる。
	40	D2・L層主体	傾斜のD2・S層が埋まる。
TP-247	41	D2・L層主体	傾斜のD2・S層が埋まる。
	42	D2・L層主体	傾斜のD2・S層が埋まる。
	43	D2・L層主体	傾斜のD2・S層が埋まる。
	44	D2・L層主体	傾斜のD2・S層が埋まる。
TP-268	45	白層主体	傾斜のD2・S層が埋まる。
	46	D2・L層主体	傾斜のD2・S層が埋まる。
	47	D2・L層主体	傾斜のD2・S層が埋まる。
	48	D2・L層主体	傾斜のD2・S層が埋まる。

図148 上幌内5遺跡 TP-247・TP-248・TP-268



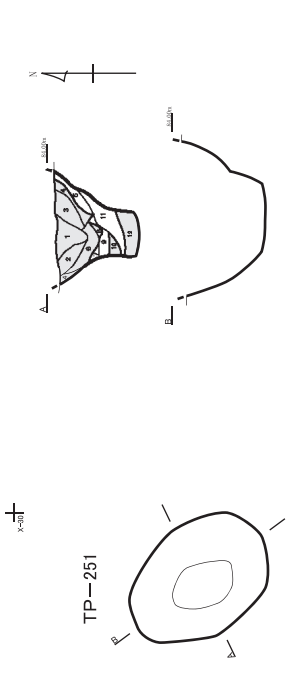
開口する上位に黒色土主体の覆土がみられ、T a - d 1 主体の第7層は西側から流れ込んだ様相である。  
中へ下位はT a - d 2 主体の第10層が厚く、湧水する。  
壁は開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は北側へ傾斜する。

断面図番号	土層	補足事項
1	D 2・S 層	D 2・W・S 層が混ざる
2	D 2・Y・L 層 > 白層	含有するD 2・S 層は 10 層である
3	白層主体	D 2・W・S 層が混ざる
4	白層主体	10 層のD 2・S 層が混ざる
5	白層 > D 2・Y・L 層	
6	白層 > D 2・L 層	
7	D 2・L 層主体	
8	D 2・L 層主体	
9	白層主体	白層が少混ざる
10	D 2・S 層主体	D 1 層が混ざる
11	D 2・S 層主体	白層が混ざる
12	白層主体	



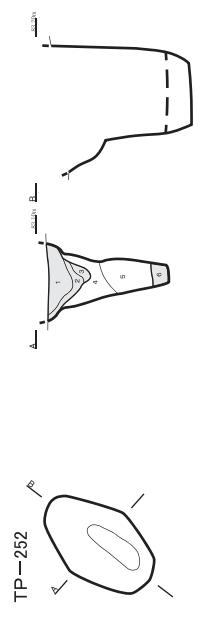
上位は中央へと傾斜する堆積で、最上位はT a - d 2 主体の第1層である。  
黒色土主体の覆土は東側壁際に第4・6層、最下位に第11・12層がみられる。  
短軸方向の両壁は直立ちして立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

断面図番号	土層	補足事項
1	D 2・L 層 > S 層 > 白層	10 層が混ざる
2	白層	10 層が混ざる
3	D 2・S 層 > 白層	10 層が混ざる
4	白層 > D 2・L 層	含有するD 2・S 層は 10 層である
5	白層 > D 2・L 層	10 層が混ざる
6	白層 > D 2・L 層	10 層が混ざる
7	白層 > D 2・L 層	
8	D 2・Y・L 層 > 白層	10 層が混ざる
9	D 2・Y・L 層 > 白層	10 層が混ざる
10	D 2・L 層主体	含有するD 2・Y・L 層は部分混ざる
11	D 2・L 層主体	白層 > D 2・Y・L 層の部分混ざる
12	白層主体	



覆土の堆積は、最下位の第12層の上に東側から第11層が流れ込み、西側のくぼみに第9・10層が堆積した様相である。  
上位は両方向からの流入とみられ、第5層以外は黒色土主体である。  
壁は曲線的で屈曲がみられる形状で、長軸方向の坑底面は中央が低い。

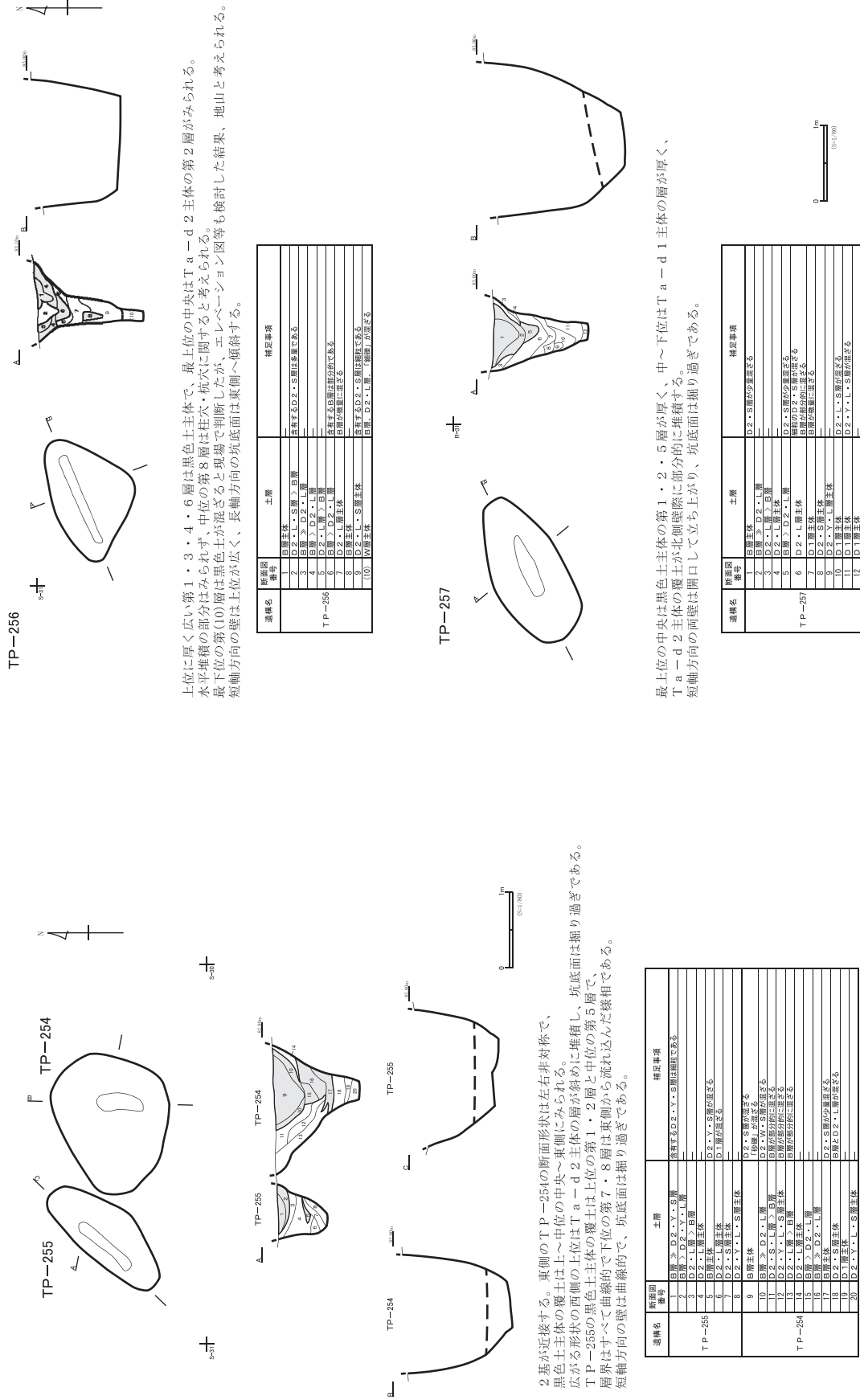
断面図番号	土層	補足事項
1	白層主体	D 2・S 層が混ざる
2	白層主体	10 層のD 2・S 層が混ざる
3	白層主体	
4	白層 > D 2・L 層	
5	D 2・L 層 > 白層	
6	白層 > D 2・L 層	
7	白層 > D 2・L 層	
8	白層主体	
9	D 2・L 層 > 白層	
10	D 2・L 層	
11	D 2・L 層	含有するD 2・S 層は部分混ざる
12	白層 > D 2・L 層	含有するD 2・S 層は部分混ざる



上位は黒色土主体の層が中央に傾斜するよう堆積し、中位はT a - d 2 主体である。  
壁は開口して立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

断面図番号	土層	補足事項
1	白層	
2	白層	
3	白層 > D 2・Y・L 層	
4	白層 > D 2・Y・L 層	D 2・S 層が混ざる
5	D 2・Y・L 層 > 白層	D 2・S 層が混ざる
6	D 2・S 層主体	含有するD 2・S 層は部分混ざる
7	白層主体	

図149 上幌内5遺跡 TP-249・TP-250・TP-251・TP-252



上位に厚く広い第1・3・4・6層は黒色土主体で、最上位の中央はT a - d 2主体の第2層がみられる。水平堆積の部分はみられず、中位の第8層は柱穴・杭穴に因すると考えられる。最下位の第(10)層は黒色土が混ざると現場で判断したが、エレベーション図等も検討した結果、地山と考えられる。短軸方向の壁は上位が広く、長軸方向の坑底面は東側へ傾斜する。

遺構名	断面図番号	土層	特記事項
TP-256	1	白層主体	
	2	D2・L・S層 > 白層	含有するD2・S層は多量である
	3	白層 > D2・L層	
	4	D2・L層 > 白層	
	5	D2・L層 > 白層	
	6	白層 > D2・L層	含有する白層は部分的である
	7	白層主体	白層が少量に混ざる
	8	L層主体	
	9	D2・L・S層主体	含有するD2・S層は少量である
	(10)	D2・L層	傾斜が異なる

TP-257

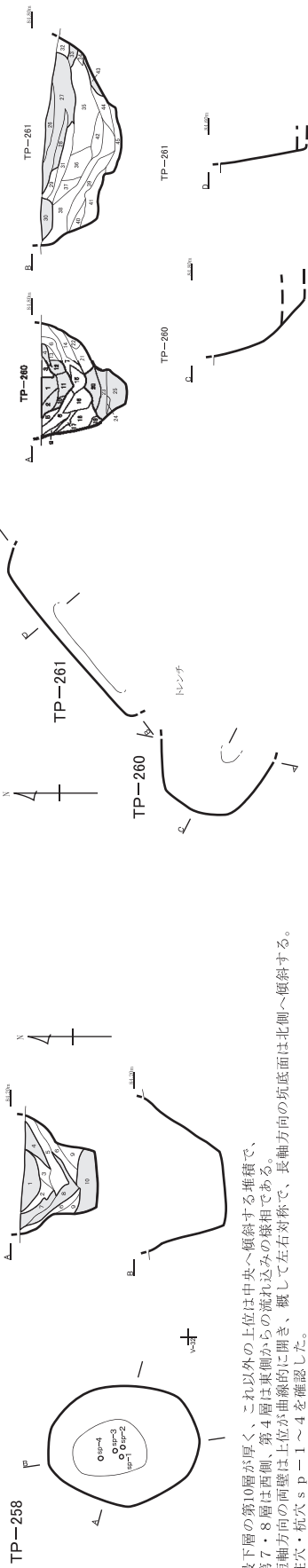
2基が近接する。東側のTP-254の断面形状は左右非対称で、黒色土主体の覆土は上～中位の中央～東側にみられる。広がる形状の西側の上位はT a - d 2主体の層が斜めに堆積し、坑底面は掘り過ぎである。TP-255の黒色土主体の覆土は上位の第1・2層と中位の第5層で層界はすべて曲線的で下位の第7・8層は東側から流れ込んだ様相である。短軸方向の壁は曲線的で、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	特記事項
TP-255	1	白層 > D2・Y・L・S層	含有するD2・Y・S層は少量である
	2	D2・L層 > 白層	
	3	D2・L層 > 白層	
	4	D2・L層 > 白層	
	5	D2・L層 > 白層	
	6	白層主体	D2・Y・S層が混ざる
	7	D2・S層主体	D2・Y・S層が混ざる
	8	D2・Y・L・S層主体	D2・S層が混ざる
	9	白層主体	D2・S層が混ざる
	10	白層 > D2・L層	D2・Y・S層が混ざる
TP-254	11	D2・L層 > 白層	白層が少量に混ざる
	12	D2・Y・L・S層主体	白層が部分的に混ざる
	13	D2・L層 > 白層	白層が部分的に混ざる
	14	白層 > D2・L層	白層が部分的に混ざる
	15	白層 > D2・L層	
	16	白層 > D2・L層	
	17	白層主体	D2・S層が少量混ざる
	18	D1層主体	白層がD2・L層が混ざる
	19	D1層主体	
	20	D2・Y・L・S層主体	

最上位の中央は黒色土主体の第1・2・5層が厚く、中～下位はT a - d 1主体の層が厚く、T a - d 2主体の覆土が北側壁際に部分的に堆積する。短軸方向の両壁は開口して立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	特記事項
TP-257	1	白層主体	D2・S層が少量混ざる
	2	D2・L層 > 白層	
	3	D2・L層 > 白層	
	4	D2・L層 > 白層	
	5	白層 > D2・L層	含有する白層は少量である
	6	D2・L層主体	白層が部分的に混ざる
	7	D2・L層主体	白層が少量に混ざる
	8	D2・Y・L層主体	
	9	D2・Y・L層主体	
	10	D1層主体	D2・L・S層が混ざる
	11	D1層主体	
	12	D1層主体	D2・Y・L・S層が混ざる

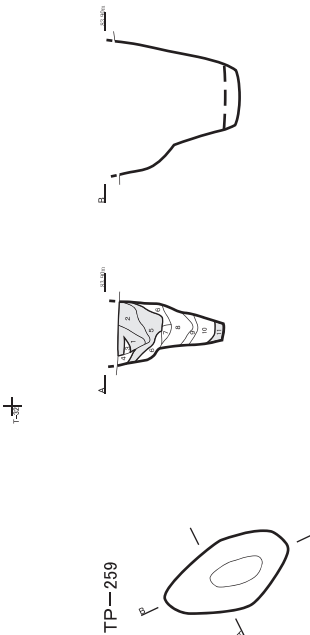
図150 上幌内5遺跡 TP-254・TP-255・TP-256・TP-257



楕円形の TP-260 と溝状の TP-261 が近く見つかった。  
 南西側の TP-260 の上位の中央は黒色土主体の覆土が多いが、T a - d 2 主体の第 3 層が部分的にみられ、  
 中位は傾斜する層界が目立ち、下位の第 23・25 層は水平堆積である。  
 壁は北側が曲線的に大きく開き左右非対称の形状である。  
 TP-261 は上位に黒色土主体の覆土が広くみられ、北東側の壁際に第 33・43 層が部分的に、  
 南西側には T a - d 1 主体の第 38 層が上位から下位まで堆積する。  
 長軸方向の坑底面には段がある。

最下層の第 10 層が厚く、これ以外の上位は中央へ傾斜する堆積で、  
 第 7・8 層は西側、第 4 層は東側からの流れ込みの様相である。  
 短軸方向の回壁は上位が曲線的に開き、概して左右対称で、長軸方向の坑底面は北側へ傾斜する。  
 柱穴・杭穴 s.p-1 ~ 4 を確認した。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-258	1	D2・S層が埋まる	
	2	D2・L層 > D2・L層	
	3	D2・L層 > 白層	
	4	D2・L層 > 白層	
	5	D2・L層 > 白層	
	6	D2・L層 > 白層	
	7	D2・L層 > 白層	
	8	D2・L層 > 白層	
	9	D2・L層 > 白層	
	10	D2・L層 > 白層	
	11	D2・L層 > 白層	

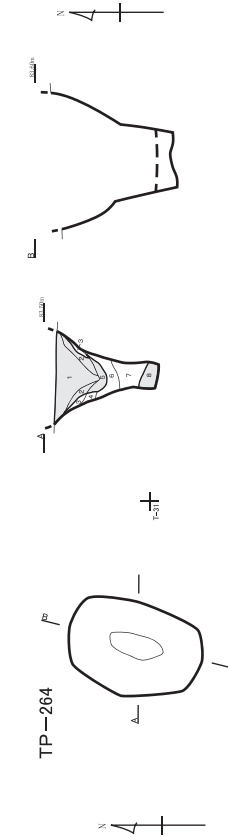


上位の南西側の壁際に T a - d 2 主体の第 3・4 層が部分的にみられるが、黒色土主体が多く堆積する。  
 中～下位の層界は中央がゆるやかにくぼむ形状である。壁の立ち上がりは開口気味で、坑底面は掘り過ぎである。  
 覆土から黒曜石のフレイクが出土した。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-259	1	D2・S層が埋まる	
	2	D2・L層 > D2・L層	
	3	D2・L層 > 白層	
	4	D2・L層 > 白層	
	5	D2・L層 > 白層	
	6	D2・L層 > 白層	
	7	D2・L層 > 白層	
	8	D2・L層 > 白層	
	9	D2・L層 > 白層	
	10	D2・L層 > 白層	
	11	D2・L層 > 白層	

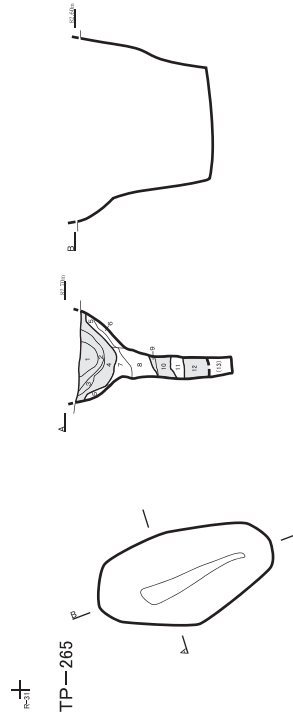
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-260	1	D2・L層 > D2・L層	
	2	D2・L層 > D2・L層	
	3	D2・L層 > 白層	
	4	D2・L層 > 白層	
	5	D2・L層 > 白層	
	6	D2・L層 > 白層	
	7	D2・L層 > 白層	
	8	D2・L層 > 白層	
	9	D2・L層 > 白層	
	10	D2・L層 > 白層	
	11	D2・L層 > 白層	
	12	D2・L層 > 白層	
	13	D2・L層 > 白層	
	14	D2・L層 > 白層	
	15	D2・L層 > 白層	
	16	D2・L層 > 白層	
	17	D2・L層 > 白層	
	18	D2・L層 > 白層	
	19	D2・L層 > 白層	
	20	D2・L層 > 白層	
	21	D2・L層 > 白層	
	22	D2・L層 > 白層	
	23	D2・L層 > 白層	
	24	D2・L層 > 白層	
	25	D2・L層 > 白層	
	26	D2・L層 > 白層	
	27	D2・L層 > 白層	
	28	D2・L層 > 白層	
	29	D2・L層 > 白層	
	30	D2・L層 > 白層	
	31	D2・L層 > 白層	
	32	D2・L層 > 白層	
	33	D2・L層 > 白層	
	34	D2・L層 > 白層	
	35	D2・L層 > 白層	
	36	D2・L層 > 白層	
	37	D2・L層 > 白層	
	38	D2・L層 > 白層	
	39	D2・L層 > 白層	
	40	D2・L層 > 白層	
	41	D2・L層 > 白層	
	42	D2・L層 > 白層	
	43	D2・L層 > 白層	
	44	D2・L層 > 白層	
	45	D2・L層 > 白層	

図151 上幌内 5 遺跡 TP-258・TP-259・TP-260・TP-261



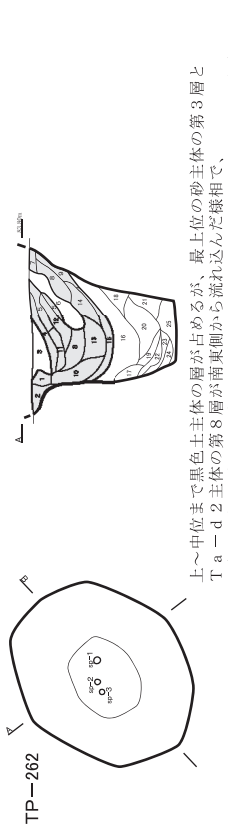
上位は黒色土主体の覆土が広く厚く、両壁際にはT a-d 2主体の第3・4層が部分的にみられる。  
 中位の層界は傾斜し、最下位は黒色土主体である。  
 短軸方向の両壁は下位で屈曲がみられ、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-264	1	白層 > D2・L・S層	D2・S層が少量存在。
	2	白層主体	
	3	白層 > D2・Y・L層	
	4	白層 > Y・L層	
	5	D2・Y層 > 白層	
	6	白層 > D2・L・S層	
	7	D2・L・S層主体	
	8	白層主体	



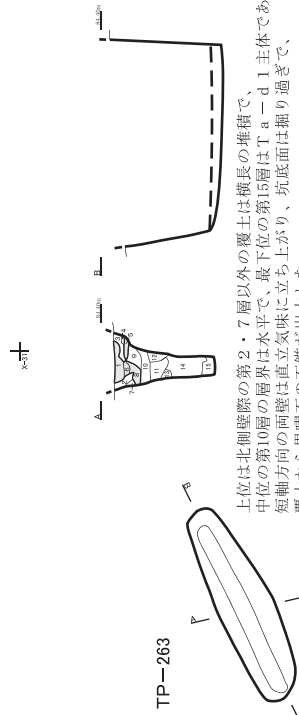
曲線的に開口する上位は黒色土主体が中央に厚くみられ、中位の層界は西側へ傾斜し、下位は水平である。  
 第13層は判断に悩んだが、坑底面の高さから地山と結論付けた。  
 短軸方向の両壁の立ち上がりは直立気味で、長軸方向の坑底面は北側へ傾斜する。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-265	1	白層 > D2・L・S層	D2・S層が少量存在。 D2・L・S層が少量存在。 D2・L・S層が少量存在。 D2・L・S層が少量存在。 D2・L・S層が少量存在。 D2・L・S層が少量存在。 D2・L・S層が少量存在。 D2・L・S層が少量存在。 D2・L・S層が少量存在。 D2・L・S層が少量存在。 D2・L・S層が少量存在。 D2・L・S層が少量存在。 D2・L・S層が少量存在。
	2	白層主体	
	3	白層 > D2・L・S層	
	4	白層 > D2・L・S層	
	5	D2・L層 > 白層	
	6	白層 > D2・L・S層	
	7	D2・L・S層 > 白層	
	8	D2・S層主体	
	9	白層主体	
	10	白層主体	
	11	白層主体	
	12	白層主体	
	13	D2・L層が少量存在。	



上～中位まで黒色土主体の層が占めるが、最上位の砂主体の第3層とT a-d 2主体の第8層が南東側から流れ込んだ様相で、黒色土主体の覆土も同方向から自立つ。中～下位もすべて層界が傾斜する。すべての壁の立ち上がりは開口気味で、坑底面は掘り過ぎである。

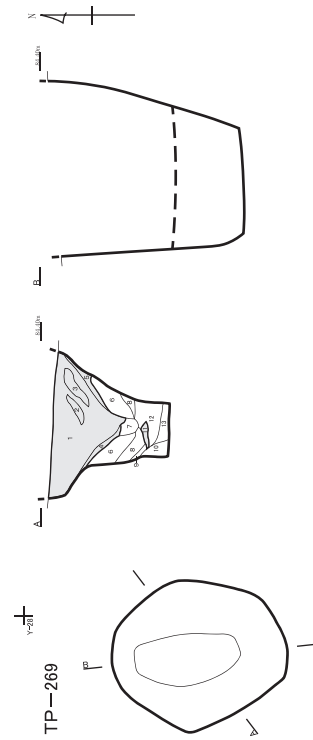
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-262	1	白層 > D2・L・S層	D2・L層が少量存在。 D2・L層が少量存在。
	2	白層主体	
	3	白層 > D2・Y・L層	
	4	白層 > Y・L層	
	5	D2・Y層 > 白層	
	6	白層 > D2・L・S層	
	7	白層主体	
	8	白層 > D2・L・S層	
	9	白層 > D2・L・S層	
	10	白層 > D2・L・S層	
	11	白層 > D2・L・S層	
	12	白層 > D2・L・S層	
	13	白層 > D2・L・S層	
	14	白層 > D2・L・S層	
	15	白層 > D2・L・S層	
	16	白層 > D2・L・S層	
	17	白層 > D2・L・S層	
	18	白層 > D2・L・S層	
	19	白層 > D2・L・S層	
	20	白層 > D2・L・S層	
	21	白層 > D2・L・S層	
	22	白層 > D2・L・S層	
	23	白層 > D2・L・S層	
	24	白層 > D2・L・S層	
	25	白層 > D2・L・S層	



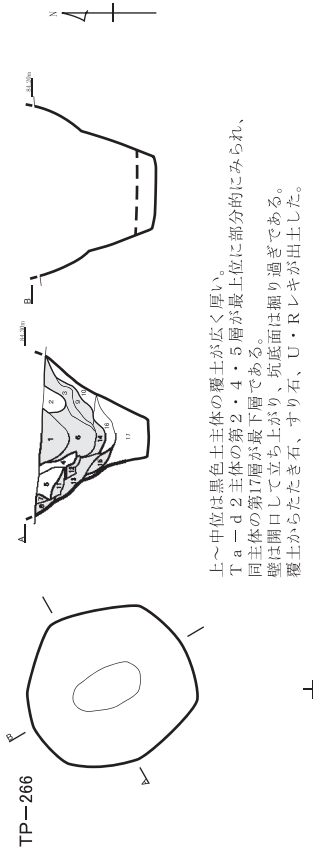
上位は北側壁際の第2・7層以外の覆土は縦長の堆積で、中位の第10層の層界は水平で、最下位の第15層はT a-d 1主体である。  
 短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、坑底面は掘り過ぎで、覆土から黒曜石の石鏃が出土した。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-263	1	白層 > D2・L・S層	D2・L層が少量存在。 D2・L層が少量存在。 D2・L層が少量存在。 D2・L層が少量存在。 D2・L層が少量存在。 D2・L層が少量存在。 D2・L層が少量存在。 D2・L層が少量存在。 D2・L層が少量存在。 D2・L層が少量存在。 D2・L層が少量存在。 D2・L層が少量存在。 D2・L層が少量存在。 D2・L層が少量存在。 D2・L層が少量存在。
	2	白層主体	
	3	D2・L層 > 白層	
	4	D2・L層主体	
	5	白層 > D2・L層	
	6	白層 > D2・L層	
	7	白層 > D2・L層	
	8	白層主体	
	9	D2・L層 > 白層	
	10	D2・L・S層主体	
	11	D2・L・S層主体	
	12	白層主体	
	13	白層主体	
	14	白層主体	
	15	D2・Y・L層が少量存在。	

図152 上幌内5遺跡 TP-262・TP-263・TP-264・TP-265



TP-269

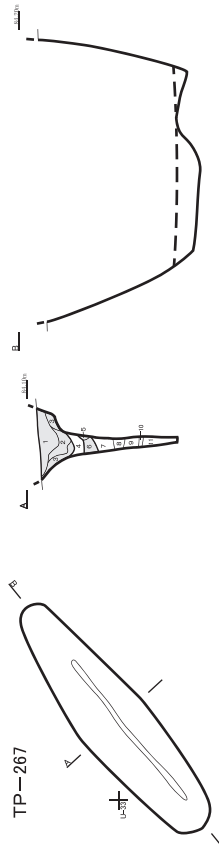


TP-266

上～中位までは黒色土主体の覆土が広く厚い。  
T a - d 2 主体の第 2・4・5 層が最上位に部分的にみられ、  
同主体の第 17 層が最下層である。  
壁は開口して立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。  
覆土からたたき石、すり石、U・R レキが出土した。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-266	1	白層主体	1 傾斜が浅くなる
	2	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	3	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	4	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	5	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	6	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	7	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	8	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	9	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	10	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	11	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-266	1	白層主体	1 傾斜が浅くなる
	2	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	3	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	4	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	5	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	6	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	7	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	8	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	9	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	10	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	11	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる



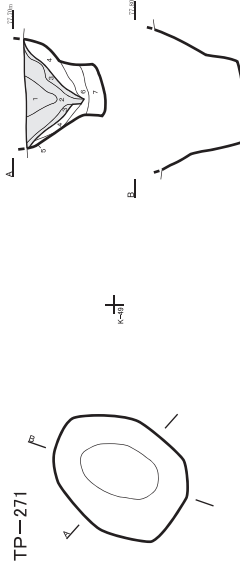
TP-267

広がる上位は黒色土主体の第 1・2・3 層が曲線的な層界でみられ、  
下位は水平堆積で第 7・11 層は砂主体である。  
短軸方向の両壁は直立気味で立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-267	1	白層主体	1 傾斜が浅くなる
	2	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	3	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	4	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	5	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	6	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	7	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	8	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	9	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	10	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	11	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる

上～中位まで黒色土主体の第 1・2・3・4・5 層が広く厚く、中位の層界は傾斜し、  
T a - d 1 主体の第 9・13 層は南西側から流れ込んだ縁相である。  
直立して立ち上がる短軸方向の両壁は上位で開き、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-269	1	白層主体	1 傾斜が浅くなる
	2	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	3	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	4	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	5	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	6	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	7	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	8	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	9	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	10	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	11	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる

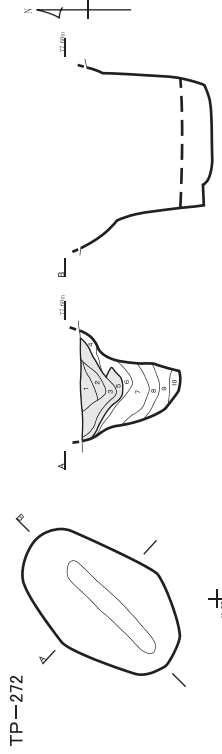


TP-271

上位の黒色土主体の第 1・2・3 層は顕著に遺構の中央へ傾斜し、  
両壁際から下位は T a - d 2 主体である。  
短軸方向の両壁は上位で曲線的に開き、長軸方向の坑底面はわずかに凹凸がある。

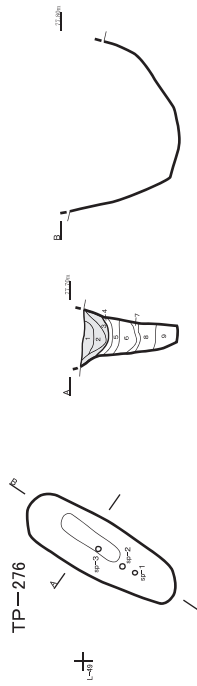
遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-271	1	白層主体	1 傾斜が浅くなる
	2	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	3	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	4	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	5	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	6	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる
	7	D2・L 層	1 傾斜が浅くなる

図153 上幌内 5 遺跡 TP-266・TP-267・TP-269・TP-271



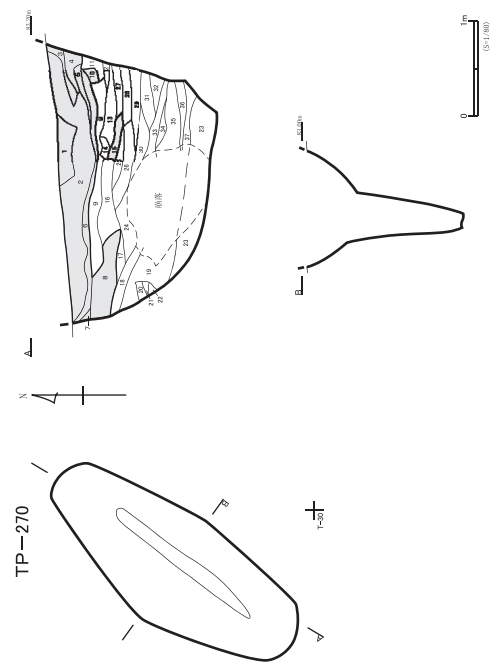
黒色土主体は上位にくぼんでみられ、下位の層界も曲線的に傾斜するものが多い。南東側の壁は上位が曲線的に広がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-272	1	白層主体	D2・W・S層が厚くなる
	2	白層主体	D2・W・S層が少なくなる
	3	白層 > D2・L層	D2・W・S層が少なくなる
	4	D2・L・S層 > 白層	—
	5	白層 > D2・L・S層	含有するD2・S層が少なくなる
	6	D2・L・S層 > 白層	含有するD2・S層が少なくなる
	7	D2・L層主体	白層を1層のD2・S層が厚くなる
	8	D2・S層主体	白層が厚くなる
	9	D2・S層主体	D1層が厚くなる
	10	D2・Y・L層主体	D2・S層が厚くなる



上位は黒色土主体の第1・2・3層で、中位にT a-d 1主体の第7層が曲線的な層界でみられ、最下層は黄色粘土主体である。南側壁の立ち上がりは不明瞭であるが、柱穴・杭穴 s p-1・2 を確認した時点で坑底面と判断した。しかし、覆土中に下端部がある可能性もあるので、掘り足りない可能性がある。また、遺構のほぼ中央には s p-3 がある。

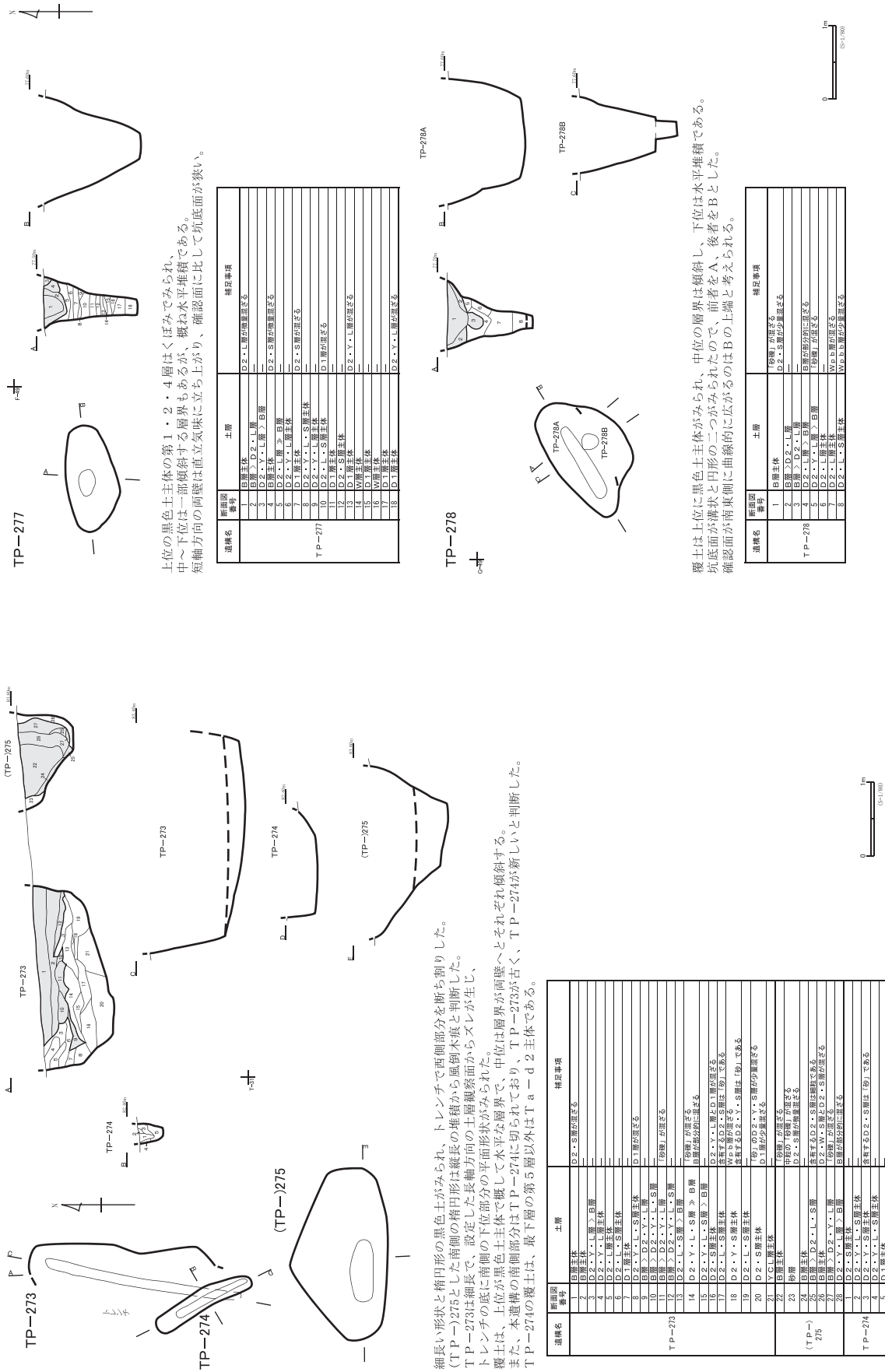
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-276	1	白層主体	D2・W・S層が厚くなる
	2	白層主体	D2・W・S層が少なくなる
	3	白層 > D2・L層	—
	4	D2・L層 > 白層	—
	5	D2・L層 > 白層	—
	6	D2・L・S層主体	Wp層が厚くなる
	7	D1層主体	含有するD2・S層は「例」である
	8	D2・Y・L・S層 > 白層	D1層が厚くなる
	9	Y・G・L層主体	含有するD2・S層は傾斜である



上位は黒色土主体が多く、中～下位はT a-d 2や灰白色粘土等の地山が主体の覆土である。多くの層界は曲線的でゆるやかな傾斜が目立つが、北東側は掘り過ぎで水平堆積の様相である。「崩落」と記した部分は土層断面実測前に崩れた部分で、長軸方向の坑底面は北東側が低い。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-270	1	白層主体	D2・W・S層が厚くなる
	2	白層主体	D2・W・S層が少なくなる
	3	白層 > D2・L層	D2・S層が厚くなる
	4	白層 > D2・L層	D2・W・S層が厚くなる
	5	白層 > D2・L層	含有するD2・S層が少なくなる
	6	白層 > D2・Y・L・S層	含有するD2・S層が少なくなる
	7	白層 > D2・L層	含有するD2・S層が少なくなる
	8	白層 > D2・L層	含有するD2・S層が少なくなる
	9	白層 > D2・Y・L・S層	含有するD2・S層が少なくなる
	10	白層 > D2・Y・L・S層	含有するD2・S層が少なくなる
	11	砂層	白層が部分的に厚くなる
	12	D2・S層主体	含有するD2・S層が少なくなる
	13	砂層・L・S層 > 白層	含有するD2・S層が少なくなる
	14	砂層・L・S層 > 白層	含有するD2・S層が少なくなる
	15	砂層主体	含有するD2・S層が少なくなる
	16	D2・Y・L・S層主体	含有するD2・S層が少なくなる
	17	D2・L層 > 白層	含有するD2・S層が少なくなる
	18	砂層	D2・Y・L層が厚くなる
	19	砂層	含有するD2・S層が少なくなる
	20	D2・Y・L層主体	含有するD2・S層が少なくなる
	21	D2・Y・L層主体	含有するD2・S層が少なくなる
	22	砂層・S層主体	含有するD2・S層が少なくなる
	23	砂層・S層主体	含有するD2・S層が少なくなる
	24	D2・L層主体	含有するD2・S層が少なくなる
	25	砂層	含有するD2・S層が少なくなる
	26	D2・L層主体	含有するD2・S層が少なくなる
	27	D2・S層主体	含有するD2・S層が少なくなる
	28	砂層	含有するD2・S層が少なくなる
	29	D2・S層主体	含有するD2・S層が少なくなる
	30	砂層	含有するD2・S層が少なくなる
	31	W層主体	含有するD2・S層が少なくなる
	32	砂層	含有するD2・S層が少なくなる
	33	D2・S層主体	含有するD2・S層が少なくなる
	34	砂層	含有するD2・S層が少なくなる
	35	D2・S層主体	含有するD2・S層が少なくなる
	36	D2・S層主体	含有するD2・S層が少なくなる
	37	砂層	含有するD2・S層が少なくなる

図154 上幌内5遺跡 TP-270・TP-272・TP-276



上位の黒色土主体の第1・2・4層はくぼみでみられ、中～下位は一部傾斜する層もあるが、概ね水平堆積である。短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、確認面に比して坑底面が狭い。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-277	1	白層主体	D2・L層が少量混在する
	2	白層 > D2・L層	
	3	D2・Y・L層 > 白層	
	4	D2・Y・L層主体	D2・S層が少量混在する
	5	D2・L層 > 白層	
	6	D2・Y・L層主体	
	7	D2・Y・L層主体	D2・S層が混在する
	8	D2・Y・L・S層主体	
	9	D2・Y・L・S層主体	
	10	D2・L・S層主体	D1層が混在する
	11	D2・L・S層主体	
	12	D2・L・S層主体	
	13	D1層主体	
	14	D1層主体	
	15	D1層主体	
	16	W層主体	
	17	D1層主体	
	18	D1層主体	D2・Y・L層が混在する

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
(TP-273)	1	白層主体	D2・S層が混在する
	2	白層主体	
	3	D2・Y・L層 > 白層	
	4	D2・Y・L層主体	
	5	D2・L層主体	
	6	D2・L層主体	
	7	D1層主体	D1層が混在する
	8	D2・Y・L・S層主体	
	9	D2・Y・L・S層主体	
	10	D2・Y・L・S層主体	
	11	D2・Y・L・S層主体	
	12	白層 > D2・Y・L層 > S層	砂層が混在する
	13	D2・L・S層 > 白層	砂層が混在する
	14	D2・Y・L・S層 > 白層	砂層が混在する
	15	D2・Y・L・S層主体	
	16	D2・L・S層主体	D2・Y・L層とD1層が混在する
	17	D2・L・S層主体	含有するD2・S層は「砂」である
	18	D2・Y・S層主体	含有するD2・S層は「砂」である
	19	D2・L・S層主体	含有するD2・S層は「砂」である
	20	D2・S層主体	D1層が混在する
	21	YCL層主体	
	22	白層主体	中位の傾斜が混在する
	23	砂層	中位の傾斜が混在する
	24	白層 > D2・L・S層	D2・S層が少量混在する
	25	白層 > D2・L・S層	含有するD2・S層は傾斜である
	26	白層主体	D2・W・S層とD2・S層が混在する
	27	D2・Y・L層	砂層が混在する
28	D2・Y・L層 > 白層	傾斜が混在する	
29	D2・S層主体	傾斜が混在する	
TP-274	1	D2・Y・L・S層主体	含有するD2・S層は「砂」である
	2	D2・Y・L・S層主体	
	3	D2・Y・L・S層主体	
	4	D2・Y・L・S層主体	
	5	D1層主体	

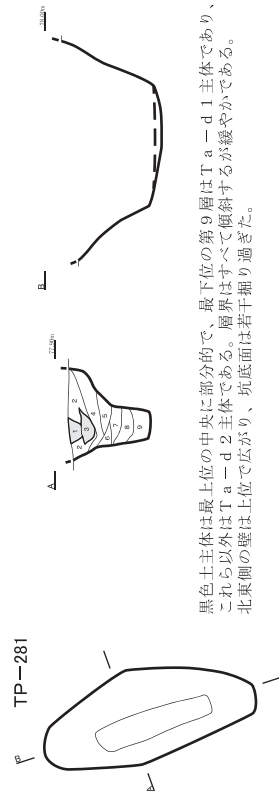
細長い形状と楕円形の黒色土がみられ、トレンチで西側部分を断ち切りした。(TP-273)275とした南側の楕円形の堆積から風倒木痕と判断した。TP-273は細長で、設定した長軸方向の土層観察面からズレが生じ、トレンチの底に南側の下位部分の平面形状がみられた。覆土は、上位が黒色土主体で概して水平な層累で、中位は層界が傾斜し、下位は傾斜が古く、TP-273が古く、TP-274が新しいと判断した。TP-274の覆土は、最下層の第5層以外はT a-d 2主体である。

覆土は上位に黒色土主体がみられ、中位の層界は傾斜し、下位は水平堆積である。坑底面が溝状と円形の二つがみられたので、前者をA、後者をBとした。確認面が南東側に曲線的に広がるのはBの上端と考えられる。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-278	1	白層主体	砂層が混在する
	2	白層 > D2・L層	D2・S層が少量混在する
	3	白層 > D2・L層	
	4	D2・L層 > 白層	白層が部分的に混在する
	5	D2・Y・L層 > 白層	傾斜が混在する
	6	D2・L層主体	
	7	D2・L層主体	W a b層が混在する
	8	D2・L・S層主体	W a b層が少量混在する

図155 上幌内5遺跡 TP-273・TP-274・(TP-)275・TP-277・TP-278

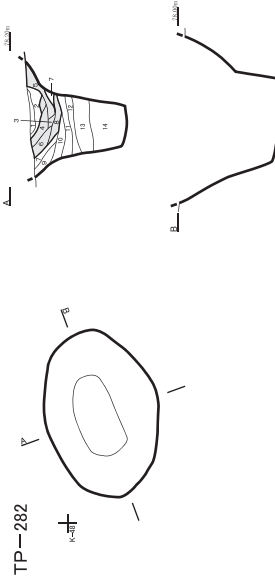




黒色土主体は最上位の中央に部分的で、最下位の第9層はT a - d 1主体であり、これら以外はT a - d 2主体である。層界はすべて傾斜するが緩やかである。北東側の壁は上位で広がり、坑底面は若干掘り過ぎた。

遺構番号	土層	補足事項
TP-281	1	白層 > D2・Y・L層
	2	D2・Y・L層 > 白層
	3	白層主体
	4	D2・L層 > 白層
	5	D2・L・S層主体
	6	D2・L・S層
	7	D2・Y・L層主体
	8	D2・Y・L・S層主体
	9	D1層主体

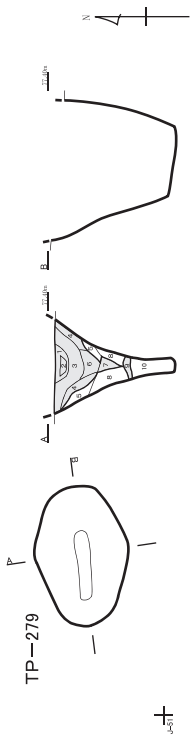
坑底が部分的に深まる



上位の第1・2層は黒色土主体の覆土の上に、第7・9層は北側壁際に傾斜してみられる。層界は下位ほど緩して水平になり、最下位は白色と黄色土の互層である。壁の立ち上がりは東側以外が直立気味で、長軸方向の坑底面は西側に傾斜する。

遺構番号	土層	補足事項
TP-282	1	砂層
	2	D2・Y・L層 > 白層
	3	白層主体
	4	D2・Y・L層 > 白層
	5	白層 > D2・L層
	6	白層主体
	7	D2・L・S層 > 白層
	8	白層 > D2・L・S層
	9	D2・L・S層 > 白層
	10	D2・L・S層主体
	11	D2・L・S層
	12	砂層・Y・L層主体
	13	砂層・D2・Y・L層が部分的に深まる
	14	砂層

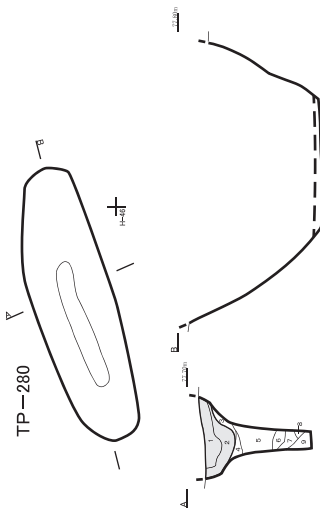
坑底が部分的に深まる



黒色土主体は上位から中位にみられ、T a - d 2主体の覆土は、中位の両壁際は中央へ傾斜し、最下位の第10層は厚い。短軸方向の両壁は中位で大きく開き、長軸方向の坑底面は西側に傾斜する。

遺構番号	土層	補足事項
TP-279	1	白層主体
	2	白層 > D2・L・L・S層
	3	D2・W・S層が深まる
	4	D2・W・S層が浅まる
	5	D2・L層 > 白層
	6	白層 > D2・L・S層
	7	D2・L・S層
	8	D2・L層主体
	9	白層 > D2・L・L・S層
	10	D2・L・S層主体

坑底が部分的に深まる

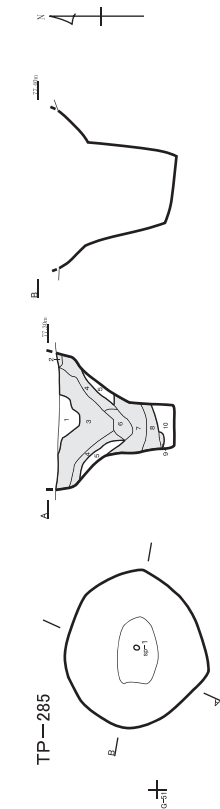


曲線的に広がる上位に黒色土主体の第1・2層がみられ、中～下位の層界は傾斜する。短軸方向の両壁の立ち上がりは直立気味で、坑底面は掘り過ぎである。

遺構番号	土層	補足事項
TP-280	1	白層主体
	2	白層 > D2・L・L・S層
	3	D2・W・S層が深まる
	4	D2・W・S層が浅まる
	5	D2・Y・L層 > 白層
	6	D2・Y・L層
	7	D2・Y・L・S層主体
	8	D2・S層主体

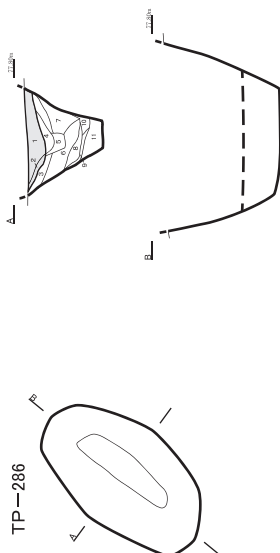
坑底が部分的に深まる

図156 上幌内5遺跡 TP-279・TP-280・TP-281・TP-282



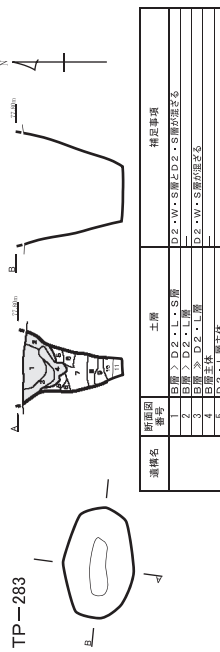
最上位のくぼみの第1層と中位の面壁際の第5層はT a-d 2主体、最下層の第10層は灰白色粘土主体で、これら以外はすべて黒色土主体である。壁は上～中位で開口し、坑底面は東側へ傾斜し、柱穴・杭穴1か所 s p-1を確認した。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-285	1	D 2・Y・L層主体	壁が崩壊する
	2	D 2・L層	
	3	D 2・W・S層が厚くなる	
	4	D 2・S層が崩壊する	
	5	D 2・L・S層	東側は中位で重なる
	6	D 2・L層	
	7	D 2・L層	壁～中位の「砂層」が厚くなる
	8	D 2・L層	壁の「砂層」が厚くなる
	9	D 2・L・S層	
	10	D 2・L層主体	D 2層とD 2・Y・L層、W層が重なる



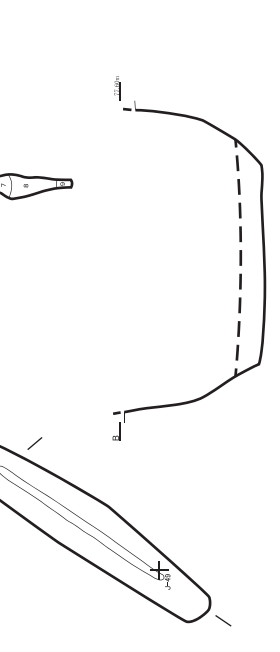
最上位に黒色土主体の第1・2層がゆるやかな層界で、中位は中央へ傾斜してみられる。下位は第10層の堆積後、南側にてきたくぼみに第10層があり、第8・9層は北西側から流れ込んだ様相である。壁はすべて開口して立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-286	1	D 2・L層主体	D 2・W・S層が厚くなる
	2	D 2・L・S層	D 2・S層が少量重なる
	3	D 2・L・S層	
	4	D 2・L・S層	D 2・L・S層 > D 2・L層
	5	D 2・L・S層 > D 2・L層	「砂層」が厚くなる
	6	D 2・L・S層 > D 2・L層	「砂層」が厚くなる
	7	D 2・L・S層主体	D 2・L・S層が少量重なる
	8	D 2・L・S層主体	D 2・L・S層が少量重なる
	9	D 2・L・S層主体	D 2・L・S層が少量重なる
	10	D 2・L・S層主体	D 2・L・S層が少量重なる
	11	D 2・L・S層主体	D 2・L・S層が少量重なる



上位は黒色土主体、中位はT a-d 1主体の第6・8層で、最下位は黄色粘土である。南側の壁は曲線的にふくらむ形状で、長軸方向の坑底面は概ね平坦である。

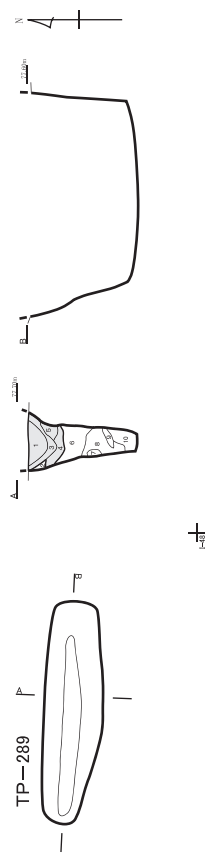
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-283	1	D 2・L・S層	D 2・W・S層が厚くなる
	2	D 2・L層	
	3	D 2・L層	D 2・W・S層が厚くなる
	4	D 2・L層主体	
	5	D 2・L層主体	
	6	D 2・L層主体	
	7	D 2・S層主体	「砂層」が厚くなる
	8	D 2・S層主体	「砂層」が厚くなる
	9	D 2・L層主体	D 2・S層が少量重なる
	10	D 2・L層主体	D 2・S層が厚くなる
	11	D 2・L層主体	D 2・S層が厚くなる



上位に黒色土主体の第1・2層がくぼみでみられ、中位の層界は曲線的にくぼむ。短軸方向の両側の阿壁の形状は中位で屈曲し、坑底面は掘り過ぎである。

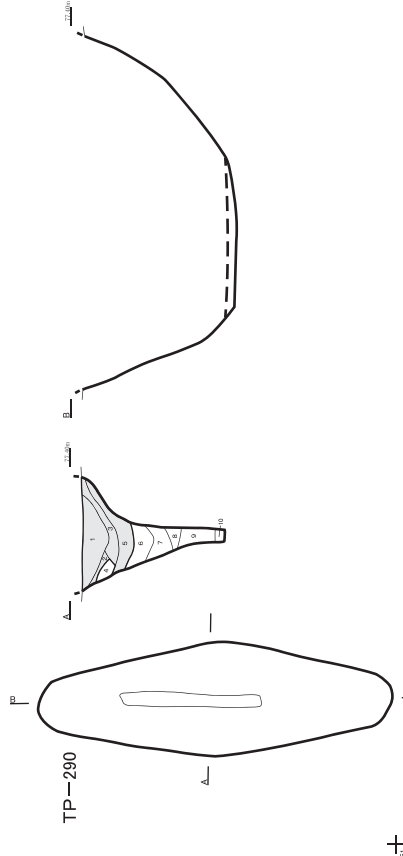
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-284	1	D 2・L層主体	
	2	D 2・L層	
	3	D 2・L層主体	
	4	D 2・L層主体	
	5	D 2・L・S層 > D 2・L層	東側は中位で重なる
	6	D 2・L・S層 > D 2・L層	東側は中位で重なる
	7	D 2・L・S層 > D 2・L層	D 2層が少量重なる
	8	D 2・L層主体	D 2層が少量重なる
	9	D 2・L層	D 2層が少量重なる

図157 上幌内5遺跡 TP-283・TP-284・TP-285・TP-286



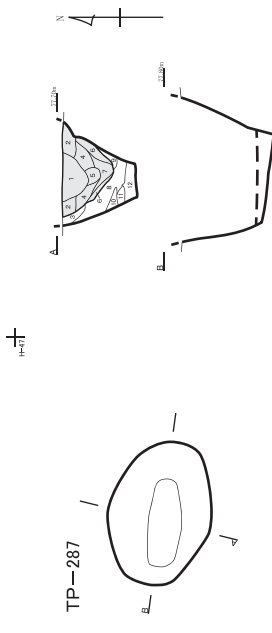
上位は黒色土で、中位はT a-d 2、下位は灰白色粘土主体で、層界はいずれも曲線的で傾斜する。壁の立ち上がりは東側以外が直立気味で、長軸方向の坑底面は曲線的で中央が低い。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-289	1	白層	—
	2	白層主体	—
	3	D2・L層 > 白層	傾斜が少量である
	4	白層主体	D2・S層が少量である
	5	白層 > D2・L層	—
	6	D2・L層主体	傾斜が少量である
	7	D2・Y・L層主体	傾斜が少量である
	8	D2・L・S層主体	傾斜が少量である
	9	白層主体	—
	10	D2・L層主体	傾斜が少量である



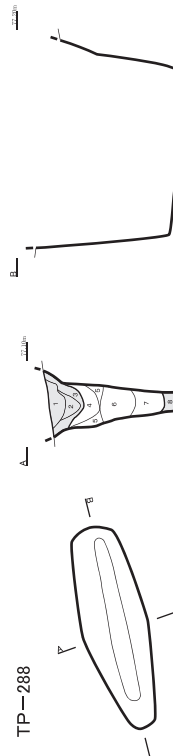
上位は黒色土主体が厚く広く、中位は層界が傾斜し、最下位の第10層は水平である。短軸方向の断面は左右非対称で東側の上位が広がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-290	1	白層主体	—
	2	白層 > D2・L層	D2・S層が少量である
	3	D2・L層 > 白層	—
	4	D2・Y・L層 > 白層	D2・W・S層が少量である
	5	白層 > D2・L層	傾斜が少量である
	6	D2・L・S層主体	傾斜が少量である
	7	D2・L・S層主体	傾斜が少量である
	8	D2・L・S層主体	傾斜が少量である
	9	D2・L層主体	傾斜が少量である
	10	D2・L層主体	傾斜が少量である



南側の第3・8・10層は同方向から流れ込んだ様相で、これが作るくぼみに黒色土主体が上位までみられる。すべての底は掘り過ぎて立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

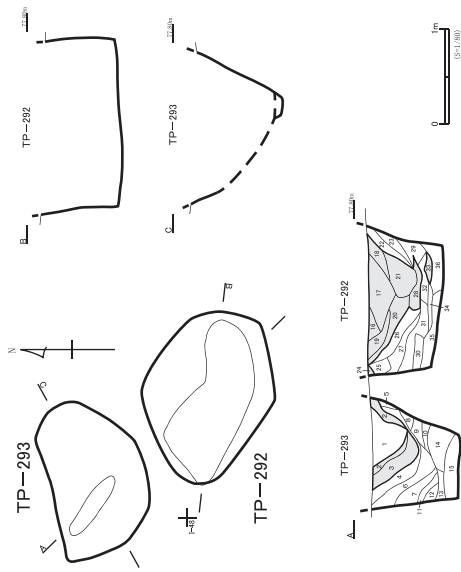
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-287	1	白層 > D2・L・S層	D2・W・S層が少量である
	2	白層主体	傾斜が少量である
	3	D2・L・S層主体	D2・S層が少量である
	4	白層主体	傾斜が少量である
	5	白層主体	傾斜が少量である
	6	白層 > D2・L・S層	傾斜が少量である
	7	白層主体	傾斜が少量である
	8	D2・L・S層 > 白層	傾斜が少量である
	9	D2・L・S層主体	傾斜が少量である
	10	D2・L・S層主体	傾斜が少量である
	11	D2・Y・L層主体	—
	12	D2・L・S層主体	傾斜が少量である



最上位と最下位は黒色土主体で、中～下位の層界は曲線的にくぼむ。壁はやや開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は西側へ傾斜する。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-288	1	白層主体	—
	2	白層 > D2・L層	—
	3	D2・L層 > 白層	—
	4	D2・L層主体	—
	5	D2・L層主体	傾斜が少量である
	6	D2・L層主体	傾斜が少量である
	7	砂層	傾斜が少量である
	8	白層主体	傾斜が少量である

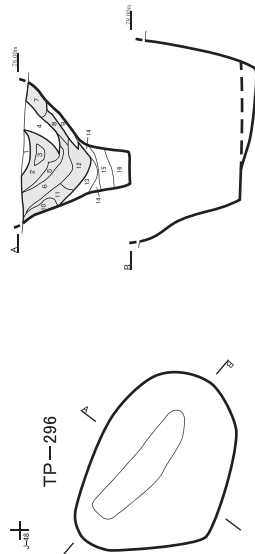
図158 上幌内5遺跡 TP-287・TP-288・TP-289・TP-290



2 基が近くでみられた。南東側のTP-292は上～中位に黒色土主体が中央付近にくぼみでみられ、西壁際のT a-d 2 主体の覆土の層界は傾斜する。最下層の第35・36層は薄層が交互にみられ、長軸方向の坑底面は凹凸がある。  
 北西側のTP-293の黒色土主体は第2・3層で、直上のくぼみにT a-d 2 主体の第1層が堆積する。  
 中～下位は北西側がT a-d 2、南東側は灰白色粘土主体の覆土がみられる。  
 北東側の中～下位の壁は掘り過ぎた。

最上位はT a-d 2 主体の第1層で、直下に黒色土主体が厚く、中～下位の層界は曲線的で傾斜する。短軸方向の両壁はやや閉口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は曲線的で中央がくぼむ。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-291	1	D2・L・S層主体	1層が傾斜する
	2	白層主体	D2・W・S層が埋まる
	3	白層主体	D2・W・S層が埋まる
	4	D2・L・S層	傾斜が急になる
	5	D2・Y・L層	傾斜が急になる
	6	D2・Y・L層	傾斜が急になる
	7	D2・Y・L層	傾斜が急になる
	8	D2・L・S層主体	傾斜が急になる
	9	D2・L・S層主体	傾斜が急になる

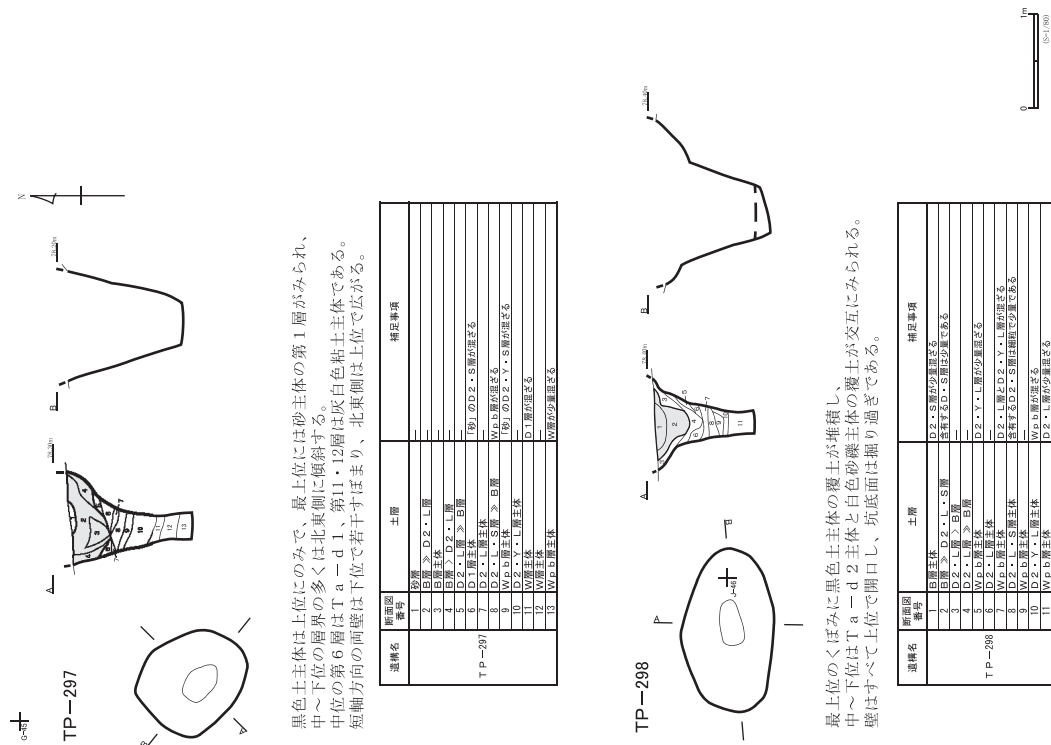


上～中位は黒色土主体が広く厚いが、砂層主体の第1層とT a-d 2 主体の第4・9層が部分的にみられる。下位の層界は北側に傾斜し、第15層はT a-d 1 主体である。壁はすべて閉いて立ち上がり、坑底面は北西側を掘り過ぎた。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-296	1	D2・L・S層	D2・W・S層が埋まる
	2	白層	D2・W・S層が埋まる
	3	白層	D2・W・S層が埋まる
	4	D2・L・S層	傾斜が急になる
	5	D2・L・S層	傾斜が急になる
	6	白層	D2・L・S層が埋まる
	7	白層	D2・L・S層が埋まる
	8	白層	D2・L・S層が埋まる
	9	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	10	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	11	白層	D2・L・S層が埋まる
	12	白層	D2・L・S層が埋まる
	13	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	14	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	15	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる

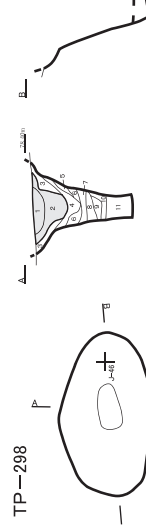
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-283	1	D2・Y・L層	D2・L・S層が埋まる
	2	白層	D2・Y・L層が埋まる
	3	白層	D2・Y・L層が埋まる
	4	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	5	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	6	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	7	D2・L・S層	D2・L・S層が埋まる
	8	D2・Y・L層	D2・Y・L層が埋まる
	9	D2・Y・L層	D2・Y・L層が埋まる
	10	白層	D2・Y・L層が埋まる
	11	D2・Y・L層	D2・Y・L層が埋まる
	12	白層	D2・Y・L層が埋まる
	13	白層	D2・Y・L層が埋まる
	14	白層	D2・Y・L層が埋まる
	TP-292	16	白層
17		白層	D2・L・S層が埋まる
18		白層	D2・L・S層が埋まる
19		白層	D2・L・S層が埋まる
20		白層	D2・L・S層が埋まる
21		白層	D2・L・S層が埋まる
22		白層	D2・L・S層が埋まる
23		白層	D2・L・S層が埋まる
24		白層	D2・L・S層が埋まる
25		白層	D2・L・S層が埋まる
26		白層	D2・L・S層が埋まる
27		白層	D2・L・S層が埋まる
28		白層	D2・L・S層が埋まる
29		白層	D2・L・S層が埋まる
30		白層	D2・L・S層が埋まる
31	白層	D2・L・S層が埋まる	
32	白層	D2・L・S層が埋まる	
33	白層	D2・L・S層が埋まる	
34	白層	D2・L・S層が埋まる	
35	白層	D2・L・S層が埋まる	
36	白層	D2・L・S層が埋まる	

図159 上幌内5遺跡 TP-291・TP-296・TP-292・TP-293



黒色土主体は上位にのみで、最上位には砂主体の第1層がみられ、中～下位の層界の多くは北東側に傾斜する。TP-297は灰白色粘土主体である。中位の第6層はT a-d 1、第11・12層は灰白色粘土主体である。短軸方向の両壁は下位で若干すぼまり、北東側は上位で広がる。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-297	1	砂層	
	2	D2・L層	
	3	D2・L層	
	4	D2・L層	
	5	D2・L層	
	6	D2・L層	
	7	D2・L層	
	8	D2・L層	
	9	D2・L層	
	10	D2・L層	
	11	D2・L層	
	12	D2・L層	
	13	D2・L層	



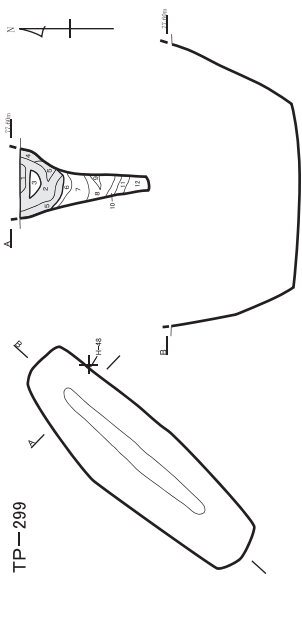
最上位のくぼみに黒色土主体の覆土が堆積し、中～下位はT a-d 2主体と白色砂礫主体の覆土が交互にみられる。壁はすべて上位で開口し、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-298	1	砂層	
	2	D2・L層	
	3	D2・L層	
	4	D2・L層	
	5	D2・L層	
	6	D2・L層	
	7	D2・L層	
	8	D2・L層	
	9	D2・L層	
	10	D2・L層	
	11	D2・L層	

2基が近接してみられた。連続する土層断面では南側のTP-294が北側のTP-295を切っており、前者が新しく後者が古い。TP-294は中位の第15層が黒色土、第21層が白色の砂礫主体で、これら以外はT a-d 2主体である。層界はいずれも曲線的で、坑底面は西側に傾斜する。中～下位の層界は北西側に傾斜する。壁の立ち上がりは開口気味で、長軸方向の坑底面は曲線的に中央がくぼむ。

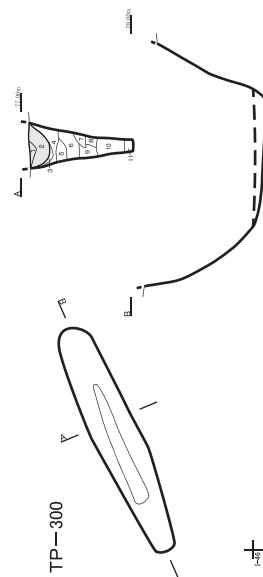
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-294	1	砂層	
	2	D2・L層	
	3	D2・L層	
	4	D2・L層	
	5	D2・L層	
	6	D2・L層	
	7	D2・L層	
	8	D2・L層	
	9	D2・L層	
	10	D2・L層	
	11	D2・L層	
	12	D2・L層	
	13	D2・L層	
	14	D2・L層	
	15	D2・L層	
	16	D2・L層	
	17	D2・L層	
	18	D2・L層	
	19	D2・L層	
	20	D2・L層	
	21	D2・L層	

図160 上幌内5遺跡 TP-294・TP-295・TP-297・TP-298



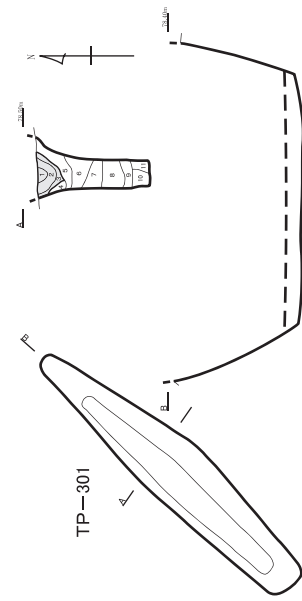
最上位の黒色土主体層の中にT a-d 2主体の第3層がみられ、層界は、中位で中央がくぼみ、下位は南東側に傾斜する。長軸方向の両壁は開口して立ち上がり、坑底面は曲線的に中央がくぼむ。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-299	1	白層 > D2・L・S層	D2・W・S層が混ざる
	2	白層主体	D2・L層が外側に傾斜する
	3	D2・Y・L・S層主体	D1層が混ざる
	4	白層 > D2・L・S層	混ざるD2・S層は1段である
	5	白層 > D2・L・S層	混ざるD2・S層は2層である
	6	D2・L層 > 白層	混ざるD2・S層が混ざる
	7	D2・L層主体	混ざるD2・S層は多量である
	8	D2・L層主体	混ざるD2・S層は多量である
	9	D2・Y・L・S層主体	混ざるD2・S層は多量である
	10	D2・Y・L・S層主体	混ざるD2・S層は多量である
	11	D2・Y・L・S層主体	混ざるD2・S層は多量である
	12	D1層主体	D2・Y・L層とD2・L層が混ざる



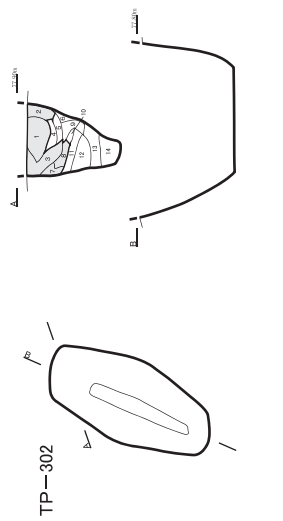
上位は曲線的な層界で黒色土主体がみられ、中位はT a-d 2主体、下位の覆土は水平堆積である。短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-300	1	白層主体	D2・W・S層が混ざる
	2	D2・Y・L・S層	D2・L層が外側に傾斜する
	3	D2・Y・L・S層	混ざるD2・S層は少量である
	4	D2・Y・L層 > 白層	混ざるD2・S層は少量である
	5	D2・Y・L層 > 白層	混ざるD2・S層は少量である
	6	D2・Y・L層主体	混ざるD2・S層が混ざる
	7	D2・L層主体	混ざるD2・S層は多量である
	8	D2・Y・L層主体	混ざるD2・S層は多量である
	9	D2・Y・L層主体	混ざるD2・S層は多量である
	10	D2・Y・L層主体	混ざるD2・S層は多量である
	11	Y・L層主体	混ざるD2・S層が混ざる



覆土は、上位は黒色土主体、中位はT a-d 2主体で、下位は灰白色粘土主体層等がみられ、掘り過ぎの可能性はある。

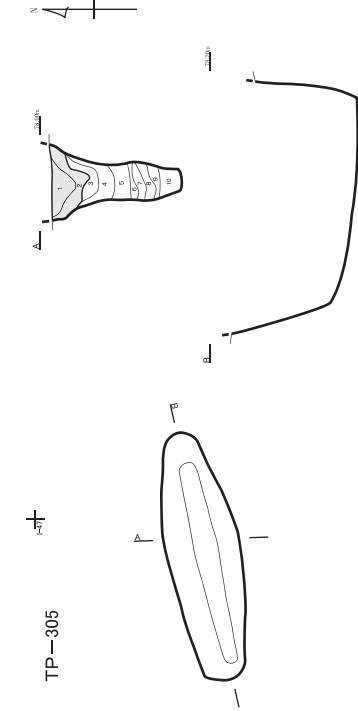
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-301	1	白層主体	灰白色で掘り過ぎが混ざる
	2	白層 > D2・L・S層	混ざるD2・S層は混ざる
	3	D2・L層 > 白層	混ざるD2・S層は混ざる
	4	D2・L層 > 白層	混ざるD2・S層は混ざる
	5	D2・L・S層 > 白層	混ざるD2・S層は混ざる
	6	D2・L層 > 白層	混ざるD2・S層は混ざる
	7	D2・L層主体	混ざるD2・S層は混ざる
	8	白層主体	混ざるD2・S層は混ざる
	9	W層主体	混ざるD2・S層は混ざる
	10	W層主体	混ざるD2・S層は混ざる
	11	W層主体	混ざるD2・S層は混ざる



覆土は中位で西側のものは横方向に長く、東側の第6・9層は縦方向に長い堆積状況である。

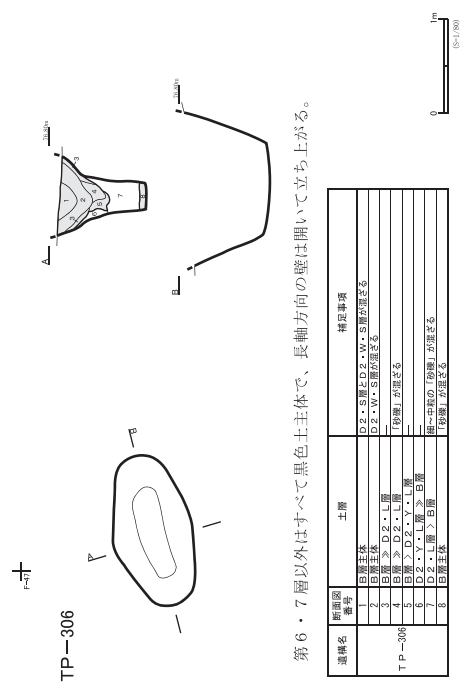
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-302	1	白層 > D2・L・S層	D2・W・S層が混ざる
	2	白層 > D2・L・S層	D2・W・S層が混ざる
	3	白層 > D2・L・S層	D2・W・S層が混ざる
	4	D2・Y・L層 > 白層	混ざるD2・S層は少量である
	5	D2・Y・L層 > 白層	混ざるD2・S層は少量である
	6	D2・Y・L層 > 白層	混ざるD2・S層は少量である
	7	白層 > D2・L・S層	混ざるD2・S層が混ざる
	8	白層主体	混ざるD2・S層が混ざる
	9	白層主体	混ざるD2・S層が混ざる
	10	D2・Y・L層主体	混ざるD2・S層が混ざる
	11	D2・L・S層主体	D1層が少量混ざる
	12	D2・L・S層主体	D1層が少量混ざる
	13	W層	D1層が少量混ざる
	14	D2・Y・L・S層主体	D1層が少量混ざる

図161 上幌内5遺跡 TP-299・TP-300・TP-301・TP-302



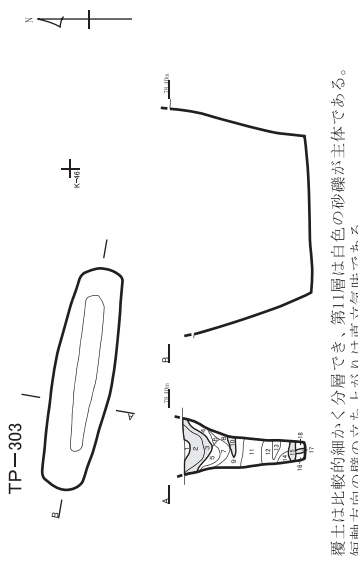
上位の覆土は中央がくぼむ黒色土主体で、下位は白色の砂礫が主体である。  
短軸方向の壁は中位付近で若干細くなる。

遺構番号	土層	補注事項
1	白層主体	
2	D2・L・S層	3層以下のD2・L・S層は細粒である
3	D2・L層	D2・L・S層が混在する
4	D2・L層	D2・L・S層が混在する
5	D2・L層	D2・L・S層が混在する
6	D2・L層	D2・L・S層が混在する
7	D2・L層	D2・L・S層が混在する
8	D2・L層	D2・L・S層が混在する
9	D2・L層	D2・L・S層が混在する
10	D2・L層	D2・L・S層が混在する



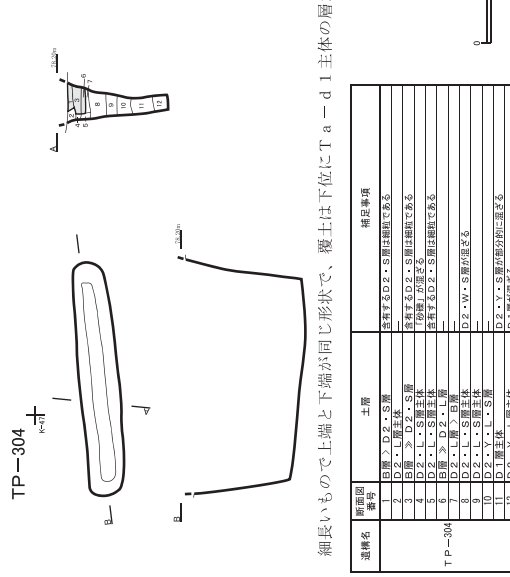
第6・7層以外はすべて黒色土主体で、長軸方向の壁は開いて立ち上がる。

遺構番号	土層	補注事項
1	白層主体	
2	D2・L・S層	D2・L・S層が混在する
3	D2・L層	D2・L・S層が混在する
4	D2・L層	D2・L・S層が混在する
5	D2・L層	D2・L・S層が混在する
6	D2・L層	D2・L・S層が混在する
7	D2・L層	D2・L・S層が混在する
8	D2・L層	D2・L・S層が混在する



覆土は比較的細かく分層でき、第11層は白色の砂礫が主体である。  
短軸方向の壁の立ち上がりは直立気味である。

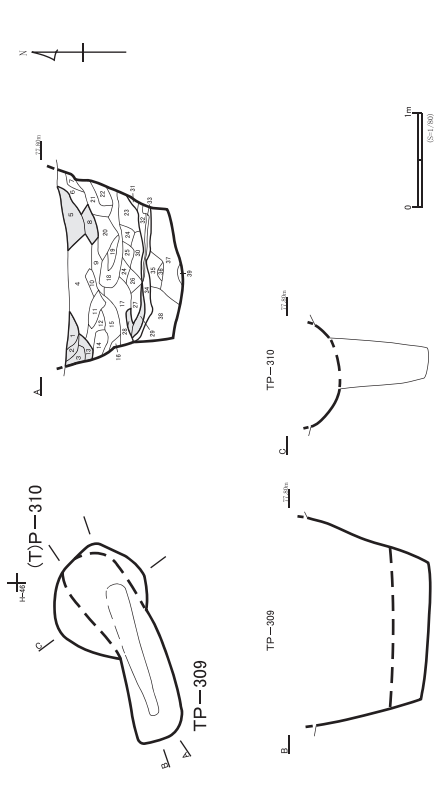
遺構番号	土層	補注事項
1	D2・L・S層	3層以下のD2・L・S層は細粒である
2	D2・L層	D2・L・S層が混在する
3	D2・L層	D2・L・S層が混在する
4	D2・L層	D2・L・S層が混在する
5	D2・L層	D2・L・S層が混在する
6	D2・L層	D2・L・S層が混在する
7	D2・L層	D2・L・S層が混在する
8	D2・L層	D2・L・S層が混在する
9	D2・L層	D2・L・S層が混在する
10	D2・L層	D2・L・S層が混在する
11	D2・L層	D2・L・S層が混在する
12	D2・L層	D2・L・S層が混在する



細長いもので上端と下端が同じ形状で、覆土は下位にT a - d 1 主体の層がみられる。

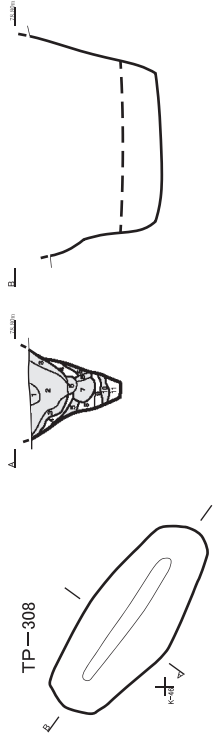
遺構番号	土層	補注事項
1	白層	
2	D2・L層	3層以下のD2・L層は細粒である
3	D2・L層	D2・L・S層が混在する
4	D2・L層	D2・L・S層が混在する
5	D2・L層	D2・L・S層が混在する
6	D2・L層	D2・L・S層が混在する
7	D2・L層	D2・L・S層が混在する
8	D2・L層	D2・L・S層が混在する
9	D2・L層	D2・L・S層が混在する
10	D2・L層	D2・L・S層が混在する
11	D2・L層	D2・L・S層が混在する
12	D2・L層	D2・L・S層が混在する

図162 上幌内5遺跡 TP-303・TP-304・TP-305・TP-306



覆土は上位に凹状に凹状に黒色土主体層が堆積する。壁は短軸方向で直立気味で、長軸方向は開き気味である。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-307	1	白腐主体	埋積のD2・S層が混ざる
	2	白腐主体	1砂層が混ざる
	3	白腐主体	D2・L層
	4	白腐主体	D2・L層 > D2・L・S層
	5	D2・L層 > 白腐	埋積が混ざる
	6	白腐主体	埋積が混ざる
	7	D2・L層主体	D2・L層が部分的に混ざる
	8	D2・Y・L層主体	埋積が混ざる
	9	D2・Y・L・S層主体	含有するD2・Y・L層とD2・Y・S層は部分的に混ざる
	10	D2・Y・L・S層主体	含有するD2・Y・L・S層は埋積である
	11	D2・L層主体	埋積が混ざる
	12	D2・S層主体	含有するD2・S層は埋積である
	13	W.a.b層主体	



上位は第1・2・3層と黒色土主体が厚く、下位は白色の砂礫主体で、軟質なため完掘時に掘り過ぎた。

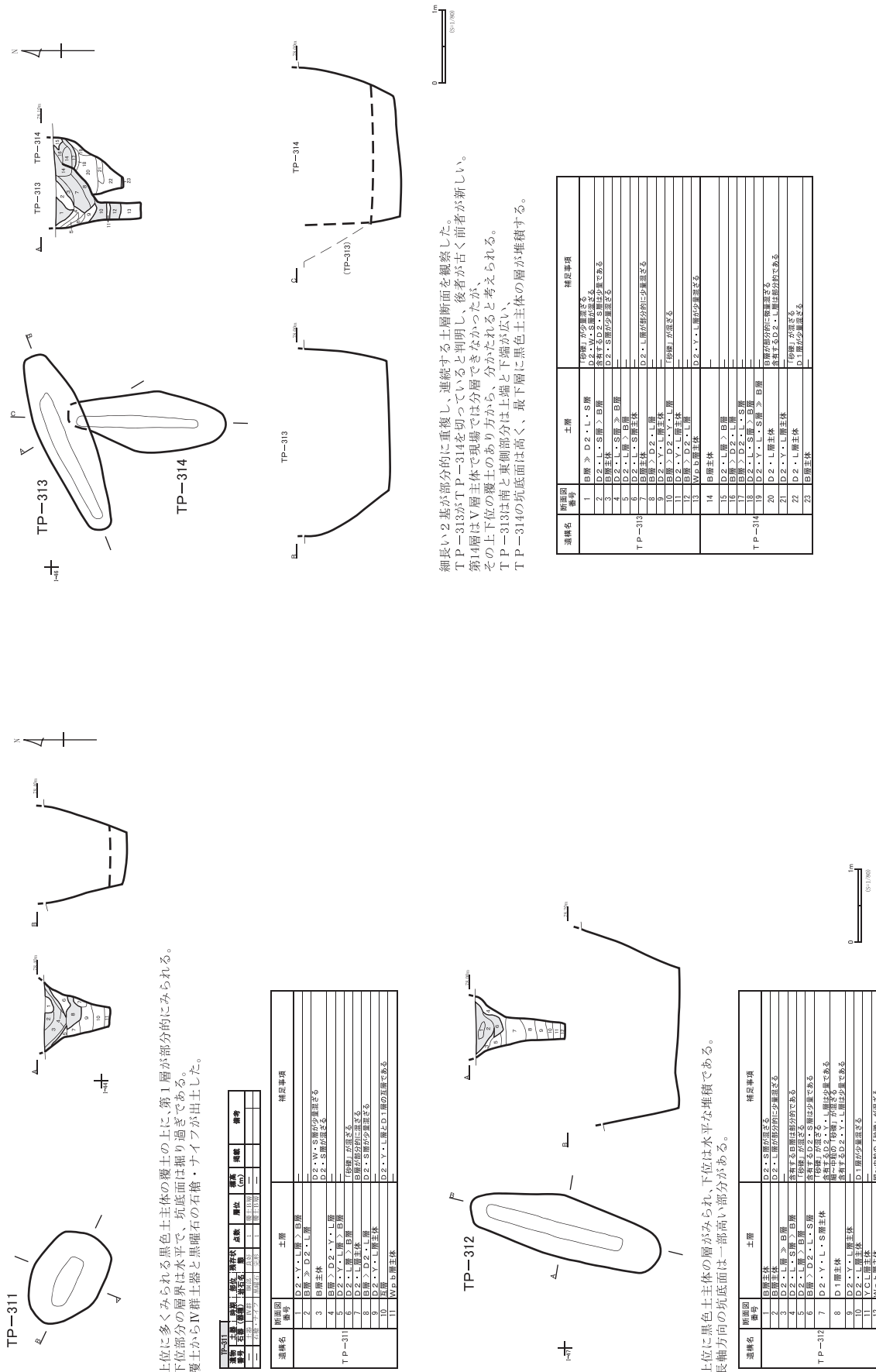
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-308	1	白腐主体	埋積のD2・S層が混ざる
	2	白腐主体	D2・S層が混ざる
	3	白腐主体	D2・W・S層が少量混ざる
	4	白腐主体	D2・L層
	5	白腐主体	D2・L層
	6	D2・L層主体	埋積が混ざる
	7	D2・L層主体	埋積が混ざる
	8	D2・L層主体	埋積が混ざる
	9	D2・L層主体	埋積が混ざる
	10	D2・L層主体	埋積が混ざる
	11	W.a.b層主体	埋積のD2・S層と埋積のD2・Y・L・S層が混ざる

確認時の形状から、楕円形と溝状が重複していると考えられた。これらを連続する土層断面で半截したところ、細長いTP-309の土層断面のみがみられ、(TP)P-310の覆土や壁は確認できなかった。  
 後者は浅い土坑で、これを切って細長いTP-309が構築されたと判断される。  
 TP-309は上位の中央にT a-d 2主体の層が堆積し、その高側に黒色土主体の層が部分的にみられる。  
 下位は横長の覆土がみられ、第29層あるいは第34層の下位の層界が坑底面の可能性がある。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-309 (TP)P-310	1	白腐主体	
	2	白腐主体	
	3	白腐主体	
	4	D2・Y・L・S層 > 白腐	埋積のD2・S層が混ざる
	5	白腐主体	埋積が混ざる
	6	D2・L層 > 白腐	埋積が混ざる
	7	D2・L層主体	埋積が混ざる
	8	D2・L層主体	埋積が混ざる
	9	D2・L層主体	埋積が混ざる
	10	D2・Y・L層主体	埋積が混ざる
	11	D2・Y・L層主体	埋積が混ざる
	12	D2・Y・L層主体	埋積が混ざる
	13	D2・Y・L層主体	埋積が混ざる
	14	D2・Y・L層 > 白腐	埋積が混ざる
	15	D2・L層主体	埋積が混ざる
	16	D2・Y・L層 > 白腐	埋積が混ざる
	17	D2・S層 > 白腐	埋積が混ざる
	18	D2・S層 > 白腐	含有するD2・S層は少量である
	19	D2・L・S層 > 白腐	含有するD2・S層は「物」である
	20	D2・Y・L・S層 > 白腐	含有するD2・S層は「物」である
	21	W.a.b層主体	埋積が混ざる
	22	D2・Y・L層主体	埋積が混ざる
	23	D2・Y・L・S層主体	埋積が混ざる
	24	D2・Y・L層主体	埋積が混ざる
	25	D2・Y・L層主体	埋積が混ざる
	26	D2・Y・L・S層 > 白腐	埋積が混ざる
	27	白腐主体	含有するD2・S層は少量である
	28	白腐主体	
	29	D2・L層主体	
	30	D2・L層主体	
	31	D2・L層主体	
	32	W.a.b層主体	埋積が混ざる
	33	W.a.b層主体	埋積が混ざる
	34	D2・Y・L・S層主体	埋積が混ざる
	35	D2・L・S層主体	埋積が混ざる
	36	D2・L層主体	埋積が混ざる
	37	W.a.b層主体	埋積が混ざる
	38	Y.G.L層主体	
	39	Y.G.L層主体	D2・S層が混ざる

図163 上幌内5遺跡 TP-307・TP-308・TP-309・(TP)P-310





細長い2基が部分的に重複し、連続する土層断面を観察した。  
 TP-313がTP-314を切っていることが判明し、後者が古く前者が新しい。  
 第14層はV層主体で現場では分層できなかったが、  
 その上下位はV層の覆土のあり方から、分かれたと考えられる。  
 TP-313は南と東側部分は上端と下端が広い、  
 TP-314の坑底面は高く、最下層に黒色土主体の層が堆積する。

上位に多くみられる黒色土主体の覆土の上に、第1層が部分的にみられる。  
 下位部分の境界は水平で、坑底面は掘り過ぎである。  
 覆土からIV群土器と黒曜石の石楯・ナイフが出土した。

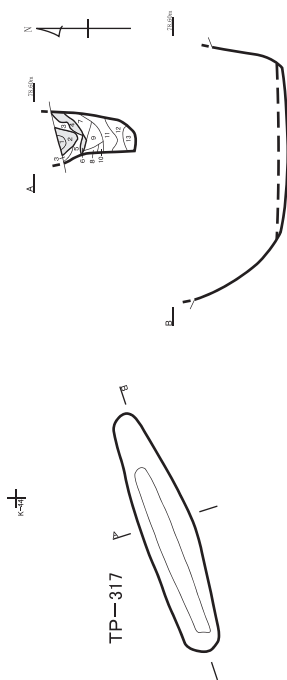
遺構名	断面別番号	土層	補足事項
TP-311	1	D2・V・L層 > 白層	
	2	白層 > D2・L・S層 > 白層	D2・W・S層が少量混入する
	3	白層主体	D2・S層が混入する
	4	D2・L・S層 > 白層	
	5	D2・V・L層 > 白層	
	6	D2・L層 > 白層	付録1が混入する
	7	D2・L・S層 > 白層	付録1が混入する
	8	D2・L・S層 > 白層	D2・L層が部分的に少量混入する
	9	D2・V・L層主体	D2・V・L層とD1層の互層である
	10	白層	
	11	IV群土器主体	

上位に黒色土主体の層がみられ、下位は水平な堆積である。  
 長軸方向の坑底面は一部高い部分がある。

遺構名	断面別番号	土層	補足事項
TP-312	1	白層主体	D2・S層が混入する
	2	D2・L・S層 > 白層	D2・L層が部分的に少量混入する
	3	D2・L・S層 > 白層	混入する白層は部分的である
	4	D2・L・S層 > 白層	付録1が混入する
	5	D2・L・S層 > 白層	付録1が混入する
	6	D2・L・S層 > 白層	付録1が混入する
	7	D2・V・L・S層主体	付録1が混入する
	8	D1層主体	付録1が混入する
	9	D2・L層主体	付録1が混入する
	10	D2・L層主体	D1層が少量混入する
	11	VCL層主体	
	12	IV群土器主体	層一中央の付録1が混入する

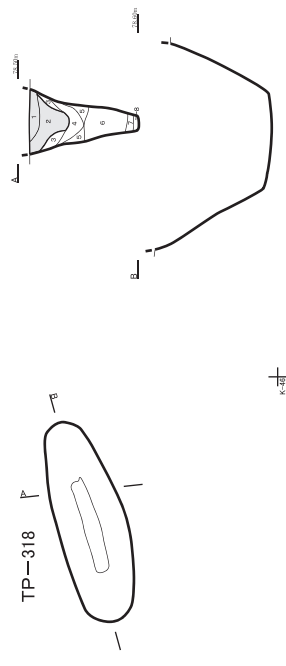
遺構名	断面別番号	土層	補足事項
TP-313	1	白層 > D2・L・S層	付録1が少量混入する
	2	D2・L・S層 > 白層	付録1が少量混入する
	3	白層主体	D2・S層が少量混入する
	4	D2・L・S層 > 白層	
	5	D2・L・S層 > 白層	
	6	D2・L・S層主体	
	7	白層主体	D2・L層が部分的に少量混入する
	8	D2・V・L層主体	
	9	D2・V・L層主体	
	10	白層 > D2・V・L層	付録1が混入する
	11	D2・V・L層主体	
	12	D2・V・L層主体	
	13	IV群土器主体	D2・V・L層が少量混入する
	14	白層主体	
TP-314	15	D2・L層 > 白層	
	16	白層 > D2・L層	
	17	白層 > D2・L・S層	
	18	D2・V・L層 > 白層	
	19	D2・V・L層 > 白層	白層が部分的に少量混入する
	20	D2・L層主体	付録1が混入する
	21	D2・V・L層主体	付録1が混入する
	22	D2・L層主体	D1層が少量混入する
	23	白層主体	

図164 上幌内5遺跡 TP-311・TP-312・TP-313・TP-314



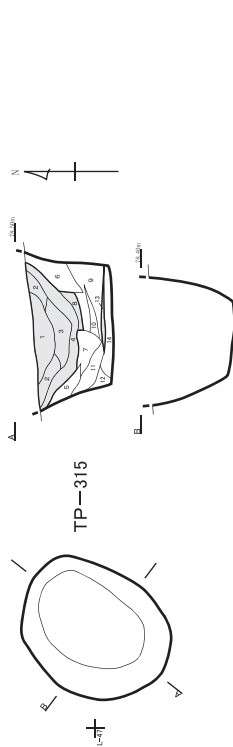
黒色土主体の覆土は上位の第1・4・6層で、中央に傾斜する堆積である。坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図 番号	土層	補注事項
TP-317	1	白層主体	色が異なる
	2	白層 > D2・L層	D2・W・S層が厚くなる
	3	白層主体	D2・W・S層が厚くなる
	4	白層 > D2・Y・L層	1層が少なくなる
	5	D2・L・S層主体	1層が少なくなる
	6	白層 > D2・L層	色が異なる
	7	D2・L・S層主体	色が異なる
	8	D2・L・S層主体	色が異なる
	9	D2・L・S層 > 白層	色が異なる
	10	D2・Y・L・S層主体	色が異なる
	11	D1層主体	D2・Y・L・S層が厚くなる
	12	D2・L・S層主体	D2・Y・L・S層が厚くなる
	13	W層主体	1層が少なくなる
	14	W層主体	1層が少なくなる



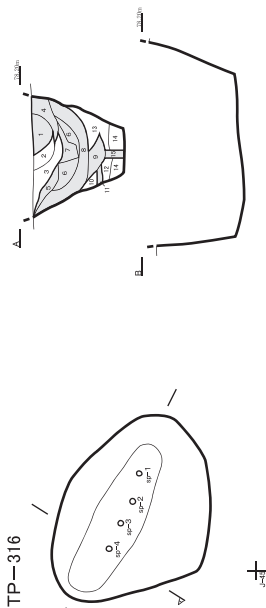
覆土は最上位の第1層以外は概ね左右対称で、長軸方向の壁は開口して立ち上がる。

遺構名	断面図 番号	土層	補注事項
TP-318	2	白層 > D2・L層	1層が少なくなる
	3	D2・L層 > 白層	1層が少なくなる
	4	D2・L・S層 > 白層	1層が少なくなる
	5	D2・L・S層主体	D1層が厚くなる
	6	D2・L・S層主体	D1層が厚くなる
	7	D2・L・S層主体	D1層が厚くなる
	8	D2・Y・L・S層主体	色が異なる
	9	D2・Y・L・S層主体	色が異なる



長軸方向で半截した。最下位の第13・14層は水平堆積で、これ以外の覆土の層累は曲線的である。短軸方向の坑底面は南東側へと低くなる。

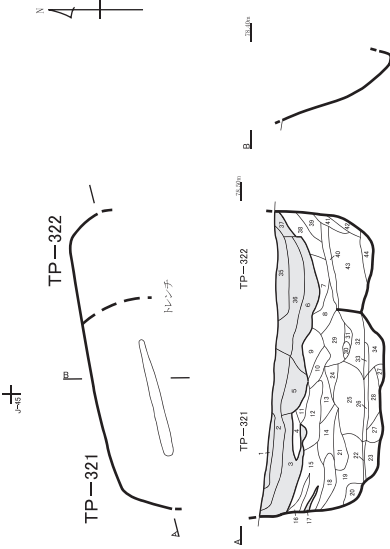
遺構名	断面図 番号	土層	補注事項
TP-315	1	白層主体	1層が少なくなる
	2	白層主体	1層が少なくなる
	3	白層主体	1層が少なくなる
	4	白層 > D2・L層 > 白層	D2・W・S層が厚くなる
	5	D2・L層 > 白層	D2・W・S層が厚くなる
	6	D2・L・S層 > 白層	1層が少なくなる
	7	D2・L・S層 > 白層	1層が少なくなる
	8	白層 > D2・L・S層	色が異なる
	9	D2・Y・L・S層主体	色が異なる
	10	D2・L・S層 > 白層	色が異なる
	11	D2・L・S層 > 白層	色が異なる
	12	D2・Y・L・S層主体	色が異なる
	13	白層主体	色が異なる
	14	D2・L・S層主体	色が異なる



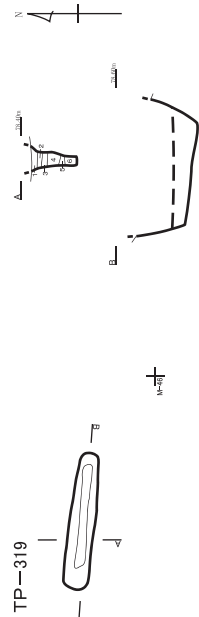
概して上位は曲線的な層累で、下位は水平堆積で、第15層は柱穴・杭穴s p-4の覆土である。長軸方向の坑底面は北側に低い部分がある。柱穴・杭穴s p-1~4を確認し、長軸方向に等間隔で並ぶ。

遺構名	断面図 番号	土層	補注事項
TP-316	1	白層 > D2・S層	1層が少なくなる
	2	D2・L・S層 > 白層	D2・W・S層が厚くなる
	3	D2・L・S層 > 白層	D2・W・S層が厚くなる
	4	白層 > D2・L・S層	1層が少なくなる
	5	白層 > D2・L層	色が異なる
	6	白層 > D2・L・S層	色が異なる
	7	白層 > D2・L・S層	色が異なる
	8	白層主体	D2・W・S層が厚くなる
	9	白層主体	D2・W・S層が厚くなる
	10	D2・Y・L層 > 白層	D2・L層が少なくなる
	11	白層主体	D2・L層が少なくなる
	12	D2・Y・L層 > 白層	D2・L層が少なくなる
	13	D2・Y・L層 > 白層	D2・L層が少なくなる
	14	D2・S層主体	色が異なる
	15	白層主体	色が異なる

図165 上幌内5遺跡 TP-315・TP-316・TP-317・TP-318

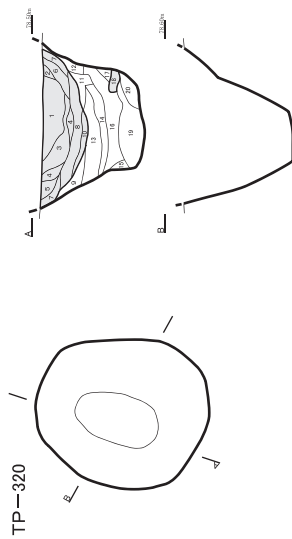


坑底面の高さと下位の覆土から2基が重複すると判断した。長軸方向で断ち割りトレンチを設け土層断面を記録した。切り合いからTP-321がTP-322を切っていると判断され、前者が新しく後者が古い。第6・7・8層は分層できず、面遺構に連続してみられる。TP-321の覆土上位は黒色土主体で、中位にみられる各層は傾斜する層界は少ない。下位は概して水平でT a-d 2主体である。坑底面は凹凸がみられる。壁は斜めに立ち上がり、坑底面は東側へ傾斜する。TP-322の覆土は東側壁際に斜めに堆積する層がみられる。



小規模の溝状で、上位にT a-d 1主体の第1・3層、凝灰岩の砂礫主体の第2層が堆積し、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-319	1	D 2・L 層主体	[砂]・D 2・S 層が混在する
	2	W 層主体	
	3	D 1 層主体	
	4	D 2・V 層主体	
	5	D 2・Y 層主体	
	6	D 2・Y・L 層主体	

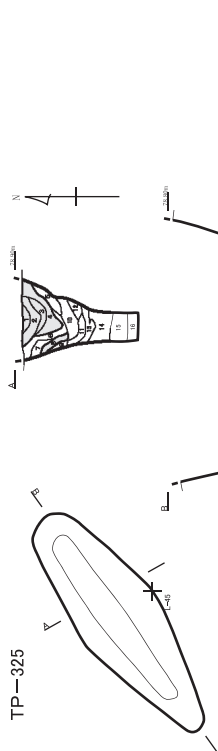


覆土の層界は曲線的であるが、遺構の中央付近は著しく傾斜する堆積のものはない。坑底面は南側と西側が低い。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-320	1	白層 > D 2・L・S 層	[砂]・D 2・S 層が混在する
	2	白層 > D 2・L 層	
	3	白層 > D 2・L・S 層	
	4	白層主体	
	5	白層主体	
	6	白層主体	
	7	白層 > D 2・Y・L 層	
	8	白層 > D 2・Y・L・S 層	
	9	D 2・Y・L 層主体	
	10	白層 > D 2・W・L 層	
	11	D 2・Y・L 層主体	
	12	D 2・Y・L 層主体	
	13	D 2・Y・L・S 層 > 白層	
	14	D 2・Y・L・S 層主体	
15	D 2・Y・L・S 層主体		
16	D 2・Y・L 層 > 白層		
17	D 1 層主体		
18	白層主体		
19	W 層主体		
20	D 2・L 層主体		

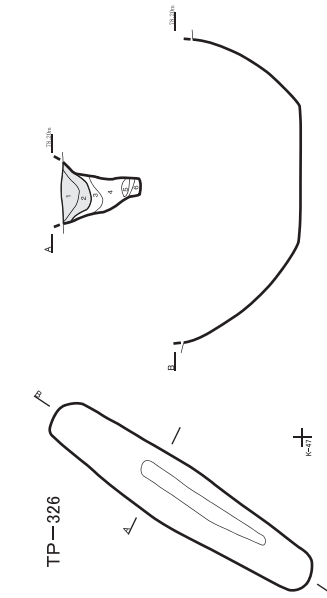
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-321	1	白層主体	D 2・L 層が部分的に少量混在する
	2	白層主体	
	3	白層 > D 2・L 層	
	4	白層 > D 2・L 層	
	5	白層 > D 2・Y・L 層	
	6	白層 > D 2・S 層主体	
	7	D 2・L 層 > S 層が混在する	
	8	白層主体	
	9	白層主体	
	10	白層主体	
	11	白層主体	
	12	D 2・S 層が少量混在する	
	13	D 2・L 層 > S 層主体	
	14	D 2・L 層 > S 層主体	
	15	D 2・L 層 > S 層主体	
	16	D 2・L 層 > S 層主体	
	17	D 2・L 層 > S 層主体	
	18	D 1 層主体	
	19	D 2・Y・L・S 層主体	
	20	W 層主体	
	21	W 層主体	
	22	W 層主体	
	23	W 層主体	
	24	D 2・S 層が混在する	
	25	D 2・S 層が混在する	
	26	D 2・Y・L・S 層 > 白層	
	27	D 2・S 層が混在する	
	28	D 2・S 層が混在する	
	29	D 2・Y・L 層 > 白層	
	30	D 2・Y・L 層 > 白層	
	31	D 2・Y・L 層 > 白層	
	32	D 2・Y・L・S 層主体	
	33	W 層主体	
	34	D 2・Y・L・S 層主体	
TP-322	35	白層 > D 2・L・S 層	条件するD 2・L 層は少量である
	36	白層主体	
	37	白層 > D 2・Y・L 層	
	38	D 2・Y・L 層主体	
TP-322	39	D 2・L 層主体	[砂]・L 層が混在する
	40	D 2・L 層主体	
	41	W 層主体	
	42	W 層主体	
TP-321・322	43	D 2・L 層主体	D 2・S 層が混在する
	44	D 2・L 層主体	
	45	D 2・L 層主体	
	46	D 2・Y・L 層 > 白層	

図166 上幌内5遺跡 TP-319・TP-320・TP-321・TP-322



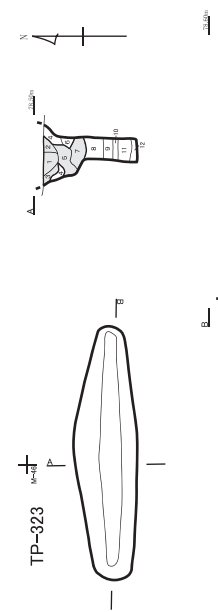
黒色土主体の覆土は上位の中央と壁際にみられ、中位はT a-d 2 主体、下位は灰白色土主体層の水平堆積である。短軸方向の壁は直立気味に立ち上がり、長軸方向の坑底面は若干凹凸がある。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-325	1	白層主体	D2・W・S層が混ざる
	2	白層主体	D2・S層が少量混ざる
	3	白層主体	D2・S層が少量混ざる
	4	白層 > D2・L層	D2・S層が少量混ざる
	5	白層 > D2・Y・L層	D2・S層が少量混ざる
	6	D2・L・S層主体	D2・S層が少量混ざる
	7	D2・Y・L層 > 白層	D2・S層が少量混ざる
	8	D2・L・S層主体	D2・S層が少量混ざる
	9	白層 > D2・L層	D2・S層が少量混ざる
	10	白層 > D2・L層	D2・S層が少量混ざる
	11	白層 > D2・L層	D2・S層が少量混ざる
	12	白層 > D2・L層	D2・S層が少量混ざる
	13	白層 > D2・L層	D2・S層が少量混ざる
	14	白層 > D2・L層	D2・S層が少量混ざる
	15	白層 > D2・L層	D2・S層が少量混ざる
	16	白層 > D2・L層	D2・S層が少量混ざる



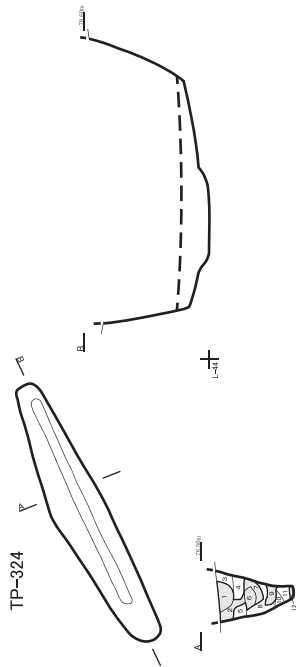
上位は黒色土主体で、下位にT a-d 1 主体の覆土が部分的にみられる。短軸方向の断面形状は左右非対称で、長軸方向の坑底面は概ね平坦である。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-326	1	白層主体	D2・S層が少量混ざる
	2	白層主体	D2・S層が少量混ざる
	3	白層主体	D2・S層が少量混ざる
	4	白層主体	D2・S層が少量混ざる
	5	白層主体	D2・S層が少量混ざる
	6	白層主体	D2・S層が少量混ざる



上位は概ね中央に黒色土主体の覆土があり、下位は水平堆積である。壁の立ち上がりはいずれも直立気味で、長軸方向の坑底面は西側へ傾斜する。

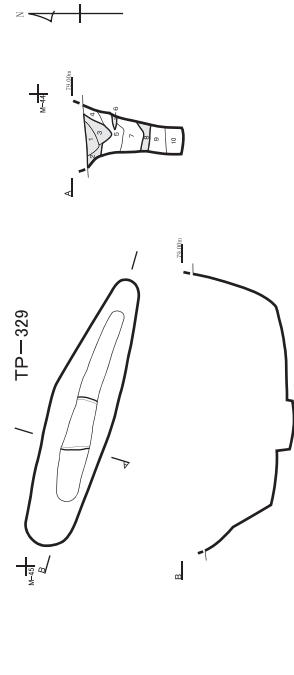
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-323	1	白層主体	D2・W・S層が混ざる
	2	白層 > D2・L層	D2・W・S層が混ざる
	3	白層 > D2・Y・L層	D2・W・S層が混ざる
	4	D2・Y・L層 > 白層	D2・W・S層が混ざる
	5	D2・L・S層主体	D2・W・S層が混ざる
	6	D2・L・S層主体	D2・W・S層が混ざる
	7	白層 > D2・L層	D2・W・S層が混ざる
	8	D2・L・S層主体	D2・W・S層が混ざる
	9	D2・L・S層主体	D2・W・S層が混ざる
	10	D2・L・S層主体	D2・W・S層が混ざる
	11	D2・L・S層主体	D2・W・S層が混ざる
	12	D2・L・S層主体	D2・W・S層が混ざる



黒色土主体の覆土が上位から下位まで中央から下位以外は概ね水平な堆積である。短軸方向の断面形状は左右非対称で、長軸方向の坑底面は段があると判断したが、掘り過ぎてある。

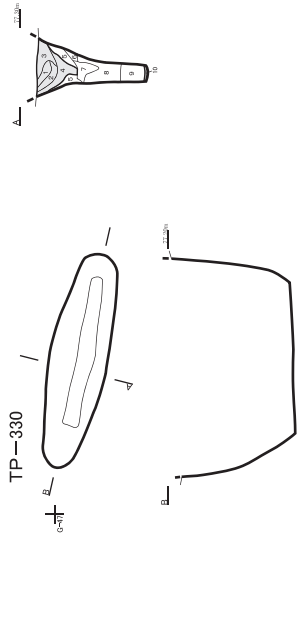
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-324	1	白層主体	D2・W・S層が混ざる
	2	白層主体	D2・W・S層が混ざる
	3	白層主体	D2・W・S層が混ざる
	4	白層主体	D2・W・S層が混ざる
	5	白層主体	D2・W・S層が混ざる
	6	白層主体	D2・W・S層が混ざる
	7	白層 > D2・L層	D2・W・S層が混ざる
	8	白層 > D2・L層	D2・W・S層が混ざる
	9	白層 > D2・L層	D2・W・S層が混ざる
	10	白層 > D2・L層	D2・W・S層が混ざる
	11	白層 > D2・L層	D2・W・S層が混ざる
	12	白層 > D2・L層	D2・W・S層が混ざる

図167 上幌内5遺跡 TP-323・TP-324・TP-325・TP-326



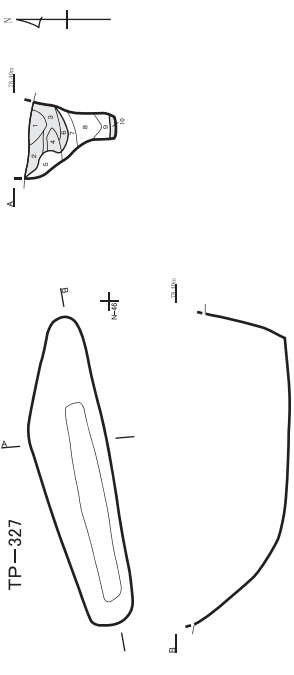
黒色土主体の層は、上位は中央が厚い堆積で、中～下位は水平堆積である。最下層は黄色粘土主体である。長軸方向の壁は開口して立ち上がり、坑底面には段がみられた。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-329	1	白層主体	補記事項 D2・W・S層が少量堆積する D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる
	2	白層主体	
	3	白層主体	
	4	白層主体	
	5	白層主体	
	6	白層主体	
	7	白層主体	
	8	白層主体	
	9	白層主体	
	10	白層主体	



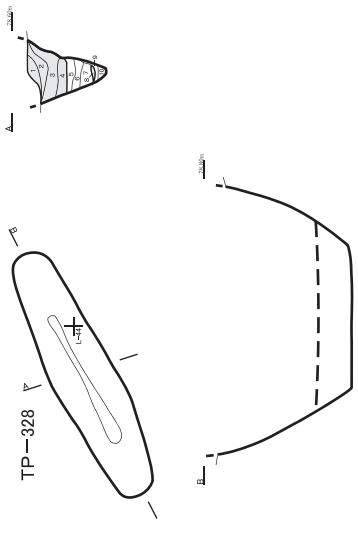
黒色土主体の覆土は上位と最下層にみられ、第4層は中央に厚みがある。短軸方向の壁は直立気味に立ち上がり、坑底面は西側に傾斜する。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-330	1	白層主体	補記事項 D2・W・S層が少量堆積する D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる
	2	白層主体	
	3	白層主体	
	4	白層主体	
	5	白層主体	
	6	白層主体	
	7	白層主体	
	8	白層主体	
	9	白層主体	
	10	白層主体	



黒色土主体の覆土は南側の上～中位と最下層にみられ、短軸断面の形状は、北側壁の上位が開口し、坑底面の上位が掘り過ぎである。

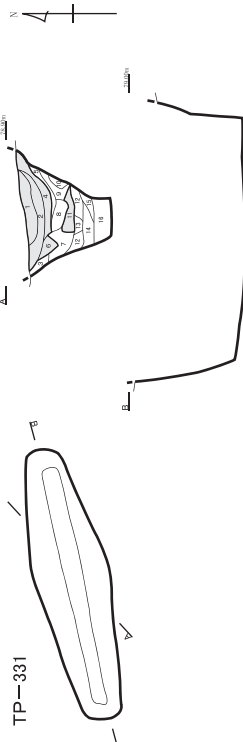
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-327	1	白層主体	補記事項 D2・W・S層が少量堆積する D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる
	2	白層主体	
	3	白層主体	
	4	白層主体	
	5	白層主体	
	6	白層主体	
	7	白層主体	
	8	白層主体	
	9	白層主体	
	10	白層主体	



覆土は上位の層界は傾斜がゆるやかで、中～下位は水平堆積である。壁はすべて開口気味な立ち上がりで、坑底面は掘り過ぎである。

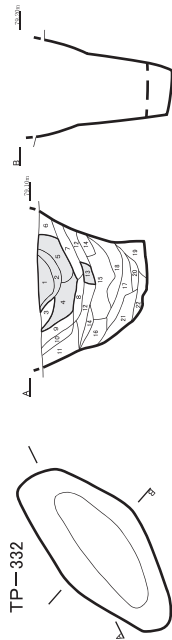
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-328	1	白層主体	補記事項 D2・W・S層が少量堆積する D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる D2・S層が厚くなる
	2	白層主体	
	3	白層主体	
	4	白層主体	
	5	白層主体	
	6	白層主体	
	7	白層主体	
	8	白層主体	
	9	白層主体	
	10	白層主体	

図168 上幌内5遺跡 TP-327・TP-328・TP-329・TP-330



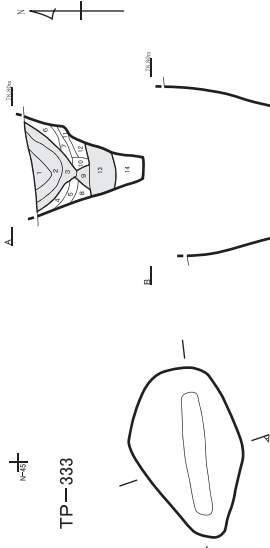
層界は上位が曲線的、下位は概ね水平で、T a - d 1 主体の覆土が下位の北東側にみられる。長軸方向の坑底面は中央付近が低い。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-331	1	白層主体	D2・W・S層が部分的に混ざる
	2	白層主体	D2・L・S層が少量混ざる
	3	白層主体・L層 > 白層	D2・L・S層が少量混ざる
	4	白層主体	D2・L層が部分的に混ざる
	5	D2・L層 > 白層	砂層が混ざる
	6	D2・Y・L層 > 白層	
	7	D2・Y・L層 > 白層	
	8	D2・Y・L層 > 白層	
	9	D2・L層主体	砂層が混ざる
	10	D2・L層主体	砂層が混ざる
	11	白層 > D2・L層	
	12	D2・Y・L層主体	
	13	D2・L・S層主体	
	14	D2・L・S層主体	
	15	D2・L層主体	砂層が混ざる
	16	D2・L・S層 > 白層	残存するD2・S層は少量である



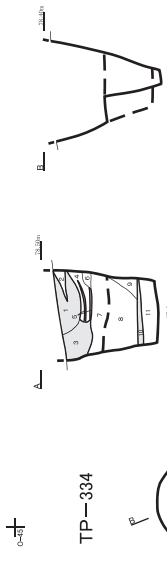
黒色土主体の覆土は上～中位の中央にみられ、層界は下位も曲線的である。坑底面は掘り過ぎて、短軸方向の壁は若干開口して立ち上がる。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-332	1	白層主体	D2・W・S層が混ざる
	2	白層主体	砂層が少量混ざる
	3	D2・Y・L層 > 白層	砂層が混ざる
	4	白層 > D2・L・S層	砂層が少量混ざる
	5	白層 > D2・L・S層	砂層が混ざる
	6	D2・L・S層 > 白層	砂層が混ざる
	7	D2・L・S層 > 白層	砂層が混ざる
	8	D2・L層 > 白層	砂層が混ざる
	9	D2・L層 > 白層	砂層が混ざる
	10	D2・L層主体	砂層が混ざる
	11	D2・Y・L層主体	砂層が混ざる
	12	D2・Y・L層主体	
	13	D2・Y・L層主体	
	14	D2・Y・L層主体	
	15	D2・L層主体	砂層が混ざる
	16	D2・L層主体	砂層が混ざる
	17	W層主体	
	18	D2・L・S層主体	砂層が混ざる
	19	W層主体	
	20	D2・L層主体	D2・S層が混ざる
	21	D2・L・S層主体	
	22	W層主体	D・L層が少量混ざる



上位の黒色土主体の覆土は曲線的で中央が明瞭にくぼみ、壁際にはT a - d 2 主体の層が流れ込んだ様相である。坑底面は掘り過ぎて、壁は開口して立ち上がる。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-333	1	白層 > D2・S層	砂層が混ざる
	2	白層主体	砂層が混ざる
	3	D2・S層が少量混ざる	
	4	D2・Y・L層 > 白層	砂層が混ざる
	5	D2・L・S層 > 白層	砂層が混ざる
	6	D2・Y・L層主体	砂層が混ざる
	7	D2・Y・L層主体	砂層が混ざる
	8	D2・Y・L層主体	砂層が混ざる
	9	白層主体	D2・Y・L層が混ざる
	10	D2・Y・L層主体	D2・Y・L層が混ざる
	11	D2・L層主体	砂層が混ざる
	12	D2・L層主体	砂層が混ざる
	13	D2・L層主体	砂層が混ざる
	14	D2・Y・L・S層主体	砂層と白層が混ざる



上位の層界は曲線的で、黒色土主体の覆土は東西側にみられる。下位に水平にみられる第10層は東方向へと薄くなる。発掘時にこの第20層が北東側部分でみられなくなり、掘り過ぎたと考え、第7層の下位の層界付近が坑底面と判断した。第8・9・11層は地山にもみられ、混在する他の層がみられない場合、遺構の層位が判断が困難であった。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-334	1	白層主体	砂層が混ざる
	2	D2・L層 > 白層	砂層が混ざる
	3	白層 > D2・L層	D層が混ざる
	4	白層主体・L層主体	
	5	D2・Y・L層主体	
	6	D2・Y・L層主体	壁が混ざる
	7	D2・Y・L層主体	
	8	W層主体	
	9	W層主体	
	10	白層主体	D2・L層が混ざる
	11	D2・L層主体	



図169 上幌内5遺跡 TP-331・TP-332・TP-333・TP-334

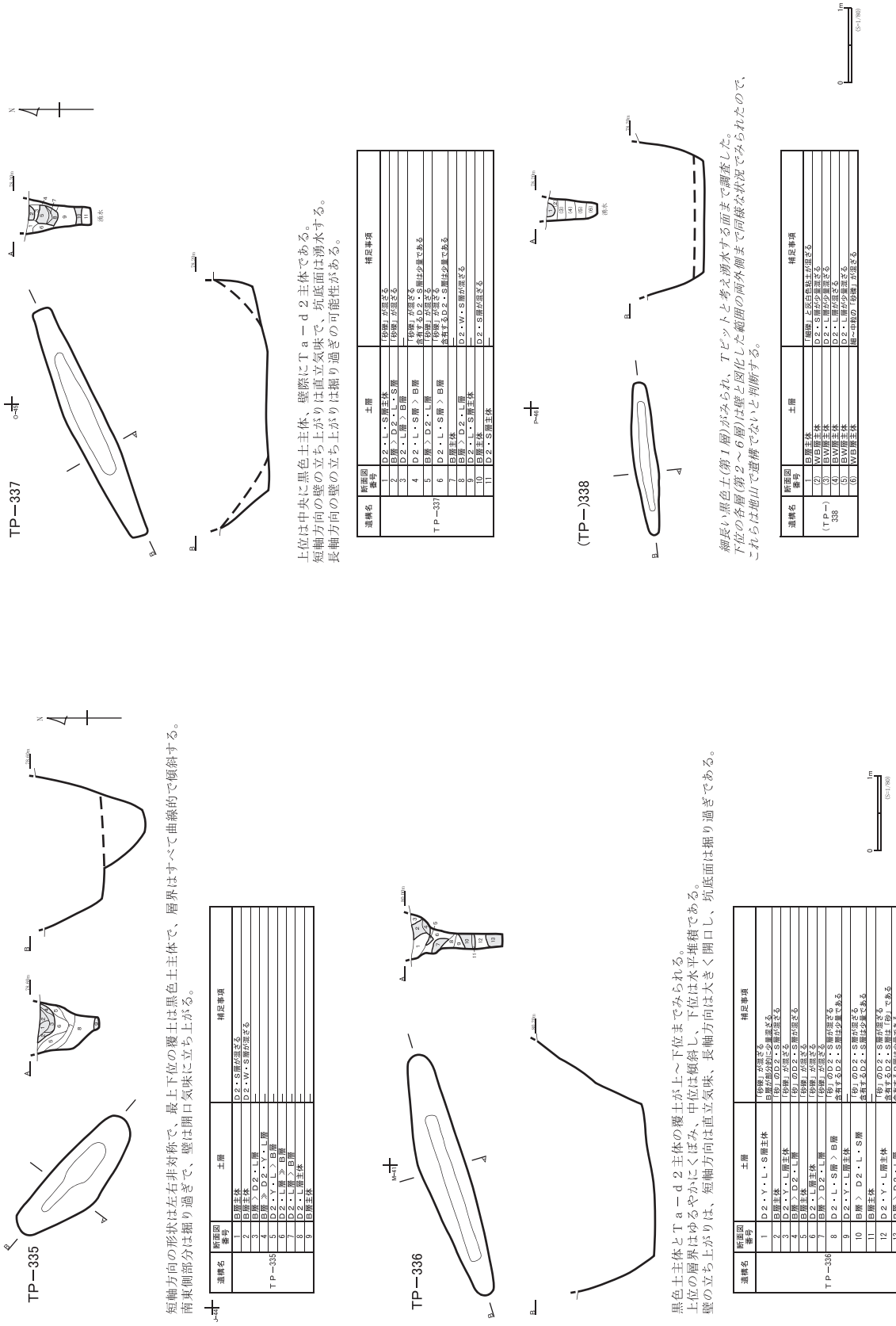


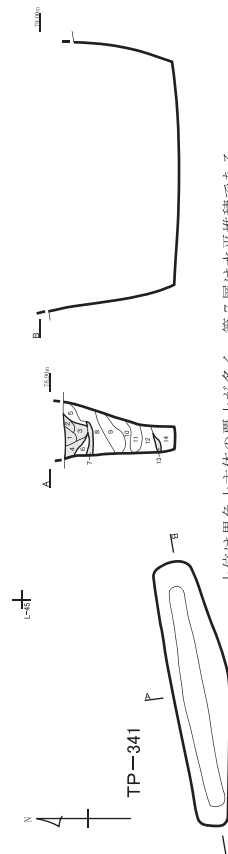
図170 上幌内5遺跡 TP-335・TP-336・TP-337・(TP-)338

短軸方向の形状は左右非対称で、最上下位の覆土は黒色土主体で、層界はすべて曲線的で傾斜する。南東側部分は掘り過ぎて、壁は開口気味に立ち上がる。

上位は中央に黒色土主体、壁際にT a-d 2主体である。短軸方向の壁の立ち上がりは直立気味で、坑底面は湧水する。長軸方向の壁の立ち上がりは掘り過ぎの可能性がある。

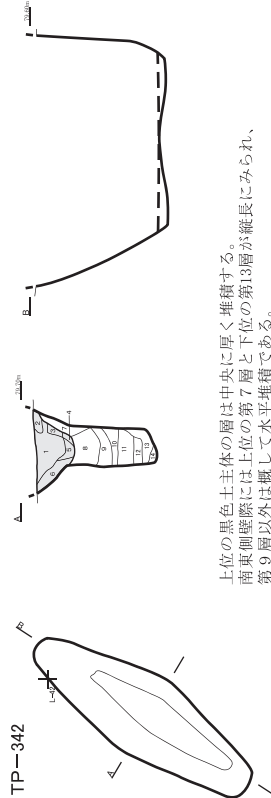
黒色土主体とT a-d 2主体の覆土が上～下位までみられる。上位の層界はゆるやかにくぼみ、中位は傾斜し、下位は水平堆積である。壁の立ち上がりは、短軸方向は直立気味、長軸方向は大きく開口し、坑底面は掘り過ぎである。

細長い黒色土(第1層)がみられ、Tピットと考え湧水する面まで調査した。下位の各層(第2～6層)は壁と固化した範囲の両外側まで同様な状況でみられたので、これらは地山で遺構ではないと判断する。



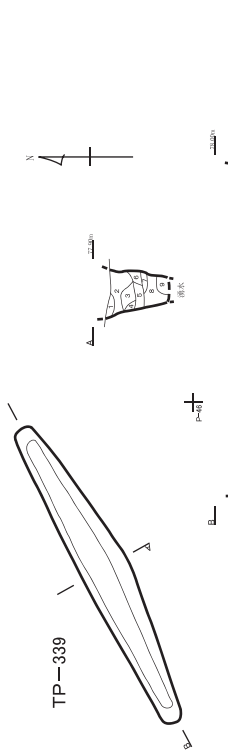
上位は黒色土主体の覆土が多く、第7層は水平堆積である。これより下位は主に南側からの流れ込みを示すよう層界が傾斜する。長軸方向の坑底面は中央が曲線的にくぼむ。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-341	1	土層	
	2	1層 > D2・L層	1層が傾斜する
	3	2層 > D2・L層	D2・W・S層が傾斜する
	4	3層 > D2・L層	1層壁が傾斜する
	5	4層 > D2・L層	
	6	D2・L層 > 5層	
	7	D2・L層 > 6層	1層壁が傾斜する
	8	D2・V・L・S層 > 7層	1層壁が傾斜する
	9	D2・L層 > 8層	1層壁が傾斜する
	10	D2・L層 > 9層	1層壁が傾斜する
	11	D2・L層 > 10層	1層壁が傾斜する
	12	D2・L層 > 11層	1層壁が傾斜する
	13	D2・L層 > 12層	1層壁が傾斜する
	14	D2・L層 > 13層	1層壁が傾斜する



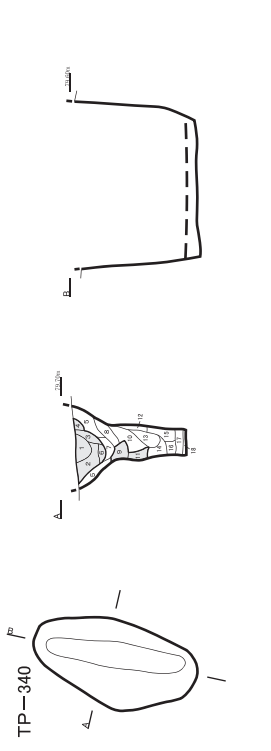
上位の黒色土主体の層は中央に厚く堆積する。南東側壁際には上位の第7層と下位の第13層が縦長にみられ、第9層以外は概して水平堆積である。短軸方向の坑底面は直立して立ち上がり、坑底面は南北両側が掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-342	1	土層	
	2	1層 > D2・L層	1層壁が傾斜する
	3	2層 > D2・L層	D2・W・S層が傾斜する
	4	3層 > D2・L層	D2・W・S層が傾斜する
	5	4層 > D2・L層	D2・W・S層が傾斜する
	6	5層 > D2・L層	D2・W・S層が傾斜する
	7	D2・L層 > 6層	1層壁が傾斜する
	8	D2・L層 > 7層	1層壁が傾斜する
	9	D2・L層 > 8層	1層壁が傾斜する
	10	D2・L層 > 9層	1層壁が傾斜する
	11	D2・L層 > 10層	1層壁が傾斜する
	12	D2・L層 > 11層	1層壁が傾斜する
	13	D2・L層 > 12層	1層壁が傾斜する
	14	D2・L層 > 13層	1層壁が傾斜する



調査区無名の沢付近で、淡い黒色が細長い形状でみられた。Tピットと予想し半載したが、覆土は地山と同じ灰白色粘土が主で、かつ湧水も多くみられたので、坑底面と確証を得るところまで、発掘することができなかった。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-339	1	BW層主体	
	2	IV層主体	
	3	IV層主体	
	4	IV層主体	
	5	IV層主体	
	6	IV層主体	
	7	IV層主体	
	8	IV層主体	
	9	IV層主体	



黒色土主体の覆土は、上位の中央に第1～4層、中位の西側壁際に第9・11層である。上から中位までの各層界は傾斜し、第12・15層は縦長の堆積、下位は灰白色粘土主体層が水平堆積する。壁の立ち上がりは概して直立気味で、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-340	1	土層	
	2	1層 > D2・L層	1層壁が傾斜する
	3	2層 > D2・L層	1層壁が傾斜する
	4	3層 > D2・L層	1層壁が傾斜する
	5	4層 > D2・L層	1層壁が傾斜する
	6	5層 > D2・L層	1層壁が傾斜する
	7	D2・L層 > 6層	1層壁が傾斜する
	8	D2・L層 > 7層	1層壁が傾斜する
	9	D2・L層 > 8層	1層壁が傾斜する
	10	D2・L層 > 9層	1層壁が傾斜する
	11	D2・L層 > 10層	1層壁が傾斜する
	12	D2・L層 > 11層	1層壁が傾斜する
	13	D2・L層 > 12層	1層壁が傾斜する
	14	D2・L層 > 13層	1層壁が傾斜する
	15	D2・L層 > 14層	1層壁が傾斜する
	16	D2・L層 > 15層	1層壁が傾斜する
	17	D2・L層 > 16層	1層壁が傾斜する
	18	D2・L層 > 17層	1層壁が傾斜する

図171 上幌内5遺跡 TP-339・TP-340・TP-341・TP-342



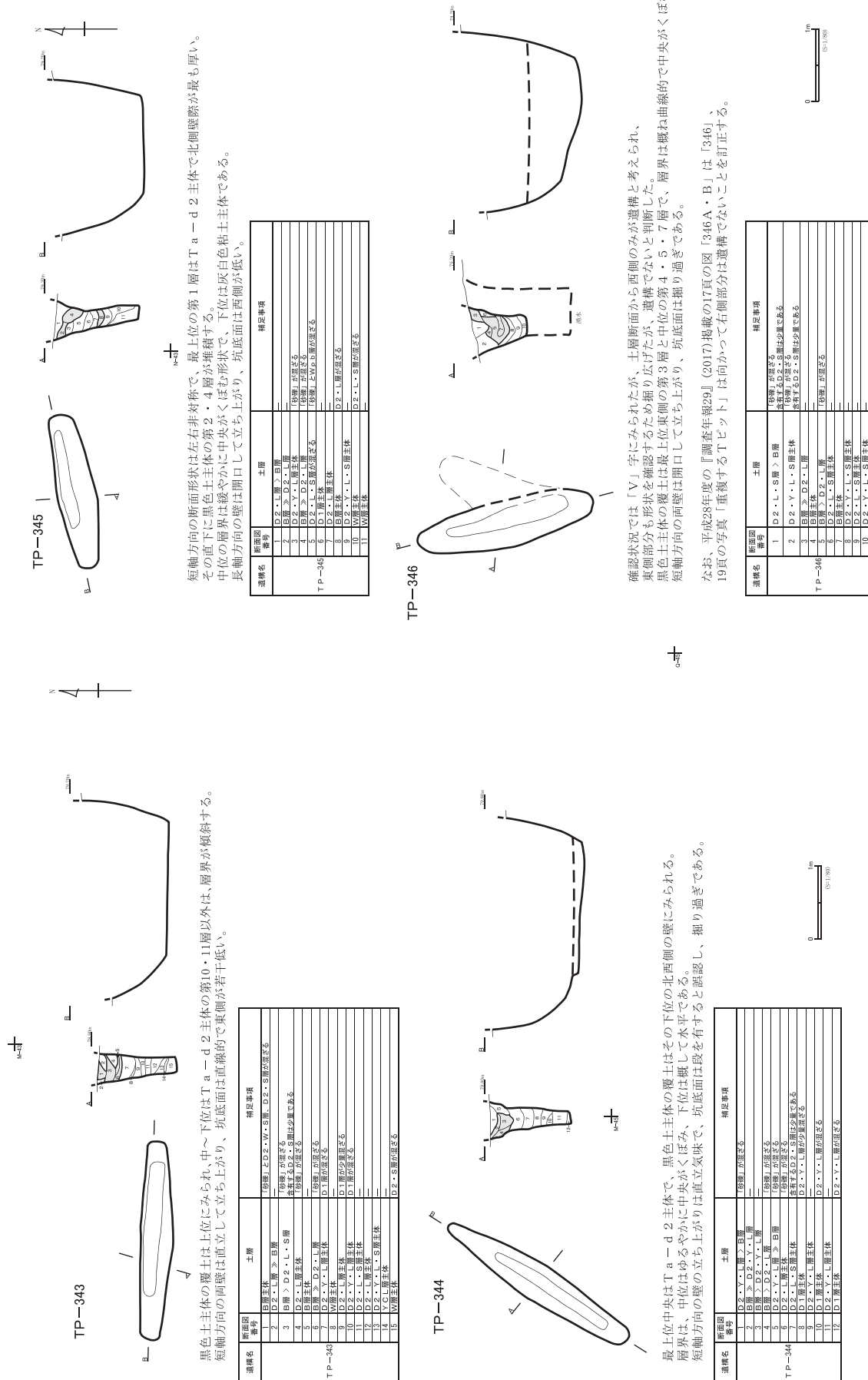


図172 上幌内5遺跡 TP-343・TP-344・TP-345・TP-346

短軸方向の断面形状は左右非対称で、最上位の第1層はT a-d 2主体で北側壁際が最も厚い。その直下に黒色土主体の第2・4層が堆積する。中位の層界は緩やかに中央がくぼみ形状で、下位は灰白色粘土主体である。長軸方向の壁は開口して立ち上がり、坑底面は西側が低い。

黒色土主体の覆土は上位にみられ、中～下位はT a-d 2主体の第10・11層以外は、層界が傾斜する。短軸方向の両壁は直立して立ち上がり、坑底面は直線的で東側が若干低い。

確認状況では「V」字にみられたが、土層断面から西側のみが遺構と考えられ、東側部分も形状を確認するため掘り広げられたが、遺構でないかと判断した。黒色土主体の覆土は最上位東側の第3層と中位の第4・5・7層で、層界は概ね曲線的で中央がくぼむ。短軸方向の両壁は開口して立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

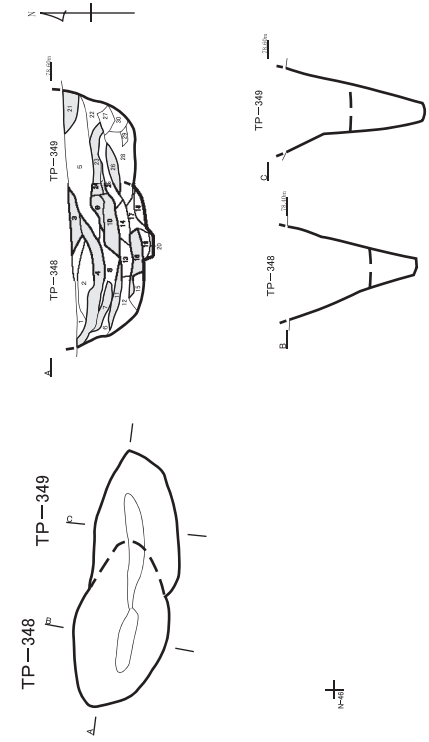
最上位中央はT a-d 2主体で、黒色土主体の覆土はその下位の北西側の壁にみられる。層界は、中位はゆるやかに中央がくぼみ、下位は概して水平である。短軸方向の壁の立ち上がりは直立気味で、坑底面は段を有すると誤認し、掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-345	1	D2・L層 > B層	
	2	B層 > D2・L層	
	3	D2・L層 > B層	砂層が埋まる
	4	B層 > D2・L層	砂層が埋まる
	5	D2・L・S層が埋まる	砂層が埋まる
	6	D2・L・S層が埋まる	砂層が埋まる
	7	D2・L層主体	砂層が埋まる
	8	B層主体	D2・L層が埋まる
	9	D2・Y・L・S層主体	D2・L・S層が埋まる
	10	D2・Y・L・S層主体	D2・L・S層が埋まる
	11	IV層主体	

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-343	1	B層主体	
	2	D2・L層 > B層	
	3	B層 > D2・L・S層	砂層が埋まる
	4	D2・L層主体	砂層が埋まる
	5	D2・L層主体	砂層が埋まる
	6	B層 > D2・L層	砂層が埋まる
	7	D2・Y・L層主体	D1層が埋まる
	8	D1層主体	D1層が埋まる
	9	D2・Y・L層主体	D1層が埋まる
	10	D2・Y・L層主体	D1層が埋まる
	11	D2・L・S層主体	
	12	D2・Y・L・S層主体	
	13	D2・Y・L・S層主体	
	14	YGL層主体	
	15	IV層主体	D2・S層が埋まる

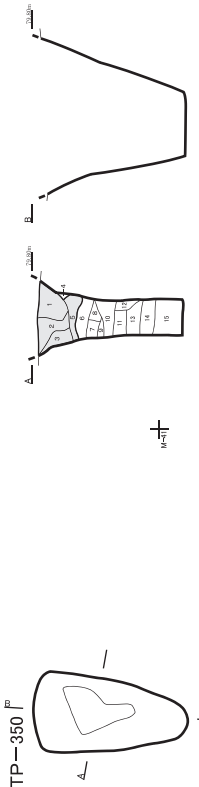
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-344	1	D2・Y・L層 > B層	砂層が埋まる
	2	B層 > D2・Y・L層	
	3	D2・L層 > B層	
	4	B層 > D2・L層	
	5	D2・Y・L層 > B層	砂層が埋まる
	6	B層 > D2・L層	砂層が埋まる
	7	D2・L層主体	砂層が埋まる
	8	D1層主体	砂層が埋まる
	9	D2・L層主体	砂層が埋まる
	10	D2・Y・L層主体	D2・Y・L層が埋まる
	11	D2・Y・L層主体	D2・Y・L層が埋まる
	12	D1層主体	D2・Y・L層が埋まる

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-346	1	D2・L・S層 > B層	砂層が埋まる
	2	D2・Y・L・S層主体	砂層が埋まる
	3	B層 > D2・L層	砂層が埋まる
	4	B層主体	砂層が埋まる
	5	D2・L層主体	砂層が埋まる
	6	B層 > D2・L層	砂層が埋まる
	7	B層主体	砂層が埋まる
	8	D2・Y・L・S層主体	
	9	D2・Y・L・S層主体	
	10	D2・Y・L・S層主体	



上位のくぼみは第1～7層に分けられ、黒色土主体の第2・3・4層は南東側にみられる。中～下位は黒色土主体の第10・12・14層が中央にくぼむ堆積である。短軸方向の両壁は直立気味の立ち上がりで、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-347	1	D2・L層 > 白層	
	2	白層主体	(B) D2・S層が混ざる
	3	白層主体	(砂層) が見える
	4	白層 > D2・L層	D2・S層が少量混ざる
	5	D2・L層主体	(砂層) が見える
	6	D2・S層 > 白層	混ざる D2・S層 (砂層) がある
	7	D2・L・S層 > 白層	混ざる D2・S層 (砂層) がある
	8	D2・L層主体	白層が少量混ざる
	9	W層主体	
	10	D2・L層主体	白層が少量混ざる
	11	D2・L層主体	白層が少量混ざる
	12	W層主体	
	13	W層主体	
	14	D2・L層主体	白層が少量混ざる
	15	D2・L層主体	D2・L層が混ざる



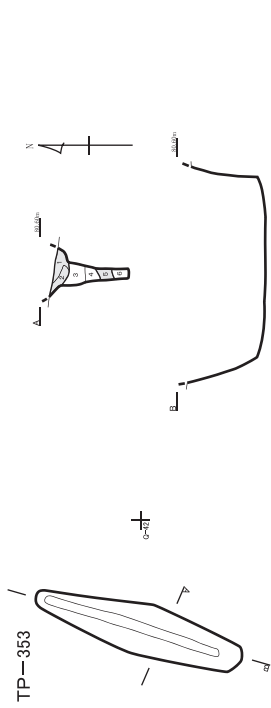
黒色土主体の層は上位のみみられ、下位は概して水平堆積である。短軸方向の両壁の立ち上がりは直立気味で、長軸方向の坑底面は平坦である。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-350	1	白層主体	
	2	白層主体	W層が少量混ざる
	3	白層主体	黒色土が少量混ざる
	4	D2・L層主体	白層が少量混ざる
	5	白層 > D2・L層	白層が少量混ざる
	6	D2・L・S層主体	黒色土が少量混ざる
	7	D2・Y・L層主体	D2・S層が少量混ざる
	8	D2・L層主体	黒色土が少量混ざる
	9	D1層主体	砂層が見える
	10	D2・Y・L・S層主体	黒色土が少量混ざる
	11	D1層主体	砂層が見える
	12	D2・L層主体	黒色土が少量混ざる
	13	W層主体	
	14	D2・Y・L層主体	黒色土が少量混ざる
	15	W層主体	D2・S層が混ざる

2基が長軸方向で重複してみられ、この軸上で連続する土層断面を観察した。覆土は第5・23・24・25・26・28層が分層できず連続してみられたが、坑底面の高さから、TP-348がTP-349を切り、前者が新しく後者が古いと判断した。TP-348の最上位はT a-d 2主体の覆土があり、直下に第4層がくぼんで堆積し、中位は東西両側、下位は中央の第16層が黒色土主体である。TP-349は上位に灰白色粘土主体層が厚くみられ、下位はT a-d 2主体と黒色土主体の覆土が交互に堆積する。両遺構とも短軸方向の両壁は開口して立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

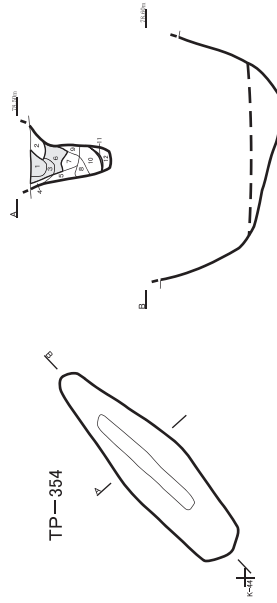
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-348	1	D2・L・S層主体	
	2	D2・Y・L層主体	D1層が混ざる
	3	白層 > D2・Y・L・S層	(砂層) が見える
	4	白層主体	(砂層) が見える
	5	白層 > D2・L層	D2・L層が少量混ざる
	6	D2・L・S層 > 白層	(砂層) が見える
	7	白層主体	(砂層) が見える
	8	D2・L・S層 > 白層	(砂層) が見える
	9	白層主体	(砂層) が見える
	10	白層 > D2・L・S層	白層が少量混ざる
	11	白層 > D2・L層主体	白層が少量混ざる
	12	D2・Y・L・S層主体	(砂層) が見える
	13	D2・Y・L・S層主体	(砂層) が見える
	14	D2・Y・L・S層主体	混ざる D2・S層が少量混ざる
	15	白層主体	白層が混ざる
	16	白層主体	D2・L層が少量混ざる
	17	D2・Y・L・S層主体	D1層が少量混ざる
	18	D1層主体	D2・L層が少量混ざる
	19	D2・L層主体	D2・L層が混ざる
	TP-349	20	D2・Y・L・S層主体
21		D2・L層 > 白層	(砂層) が見える
22		D2・L層 > 白層	(砂層) が見える
23		D2・L層 > 白層	(砂層) が見える
24		W層主体	
25		白層主体	(砂層) が見える
26		白層 > D2・L層	(砂層) が見える
27		D2・L・S層主体	(砂層) が見える
TP-348・349	28	D2・L・S層主体	(砂層) が見える
	29	D2・L・S層主体	(砂層) が見える
	30	D2・L・S層主体	(砂層) が見える
	31	D2・L・S層主体	(砂層) が見える

図173 上幌内5遺跡 TP-347・TP-350・TP-348・TP-349



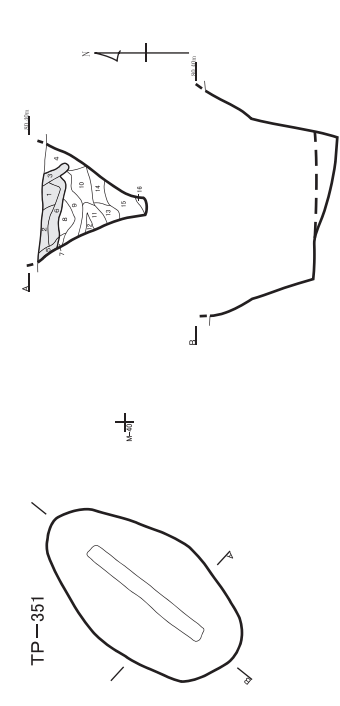
開口する上位に黒色土主体の第1・2層が堆積し、下位の層果は南東側へゆるやかに傾斜する。短軸方向の両壁の立ち上がりは直立し、長軸方向の坑底面は中央が低い。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-353	1	1 白層 > D2・L・S層	D2・W・S層が埋まる
	2	2 白層 > D2・L層	-
	3	D2・Y・L・S層主体	1枚壁と2層が埋まる
	4	D2・S層主体	D1層が埋まる
	5	D2・L・S層	D1層が埋まる
	6	W層主体	D1層が埋まる



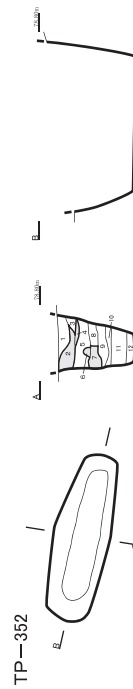
覆土の層果は曲線的で、北東側の壁際にT a - d 2主体の第4・5層が縦長に堆積する。黒色土主体は上位の第1・3・6層と下位の薄い第11層がみられる。短軸方向の南東側壁は上位で広がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-354	1	1 白層 > D2・Y・L層	-
	2	2 白層 > D2・L層	-
	3	3 白層 > D2・Y・L層	-
	4	4 D2・Y・L・S層 > 白層	-
	5	5 白層 > D2・L層 > 白層	-
	6	6 白層 > D2・L層 > 白層	D2・W・S層が埋まる
	7	7 D2・L層 > 白層	D2・W・S層が埋まる
	8	8 D2・S層主体	D2・W・S層が埋まる
	9	9 W層主体	D1層が埋まる
	10	10 D2・L・S層主体	D1層が埋まる
	11	11 白層主体	-
	12	12 D2・L層主体	-



黒色土主体は上位の南東側にみられ、直下の第8・9層はT a - d 2主体である。これより下位は層果の傾斜から、北西側から流れ込んだ様相と解される。短軸方向の両壁は広く開口して立ち上がり、坑底面は北東側部分を掘り過ぎた。

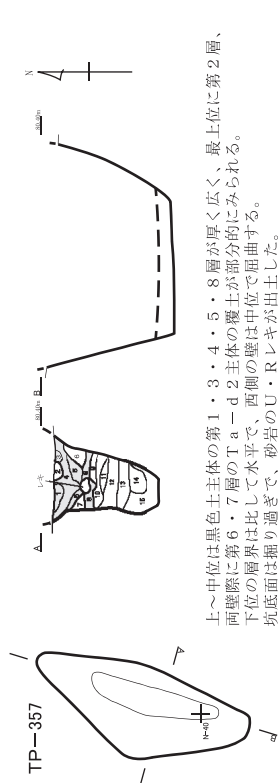
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-351	1	1 白層 > D2・L・S層	灰白色で傾斜の緩弱が埋まる
	2	2 白層 > D2・L層	灰白色で傾斜の緩弱が埋まる
	3	3 白層主体	白層が部分的に埋まる
	4	4 白層主体	白層が部分的に埋まる
	5	5 白層 > D2・Y・L層	埋まる
	6	6 白層 > D2・L・S層	埋まる
	7	7 D2・L・S層主体	埋まる
	8	8 D2・L・S層 > 白層	埋まる
	9	9 D2・S層 > 白層	埋まる
	10	10 D2・Y・L・S層主体	埋まる
	11	11 D2・L・S層主体	埋まる
	12	12 D2・S層主体	埋まる
	13	13 D2・Y・L・S層主体	D1層が埋まる
	14	14 D2・Y・L・S層主体	D2・Y・L・S層が埋まる
	15	15 D1層主体	D2・S層が埋まる
	16	16 W層主体	D2・S層が埋まる



部分的な第3・4・6層と最上位の第1層以外は、概して水平堆積である。黒色土主体の覆土は部分的な第2・4・6・7層で、中～下位は灰白～黄色粘土主体である。壁はやや開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は平坦である。

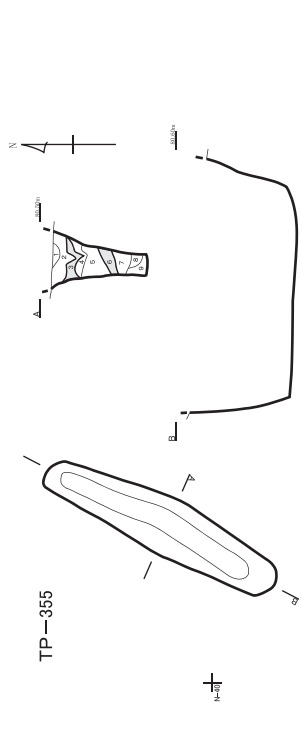
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-352	1	1 D2・L・S層 > 白層	白層が少量埋まる
	2	2 白層主体	白層が少量埋まる
	3	3 白層主体	D2・L・S層が少量埋まる
	4	4 白層主体	D2・L・S層が少量埋まる
	5	5 D2・S層主体	-
	6	6 D2・L・S層主体	-
	7	7 白層 > D2・L・S層	埋まる
	8	8 W層主体	埋まる
	9	9 W層主体	埋まる
	10	10 W層主体	埋まる
	11	11 W層主体	埋まる
	12	12 VCL層主体	D2・S層が埋まる

図174 上幌内5遺跡 TP-351・TP-352・TP-353・TP-354



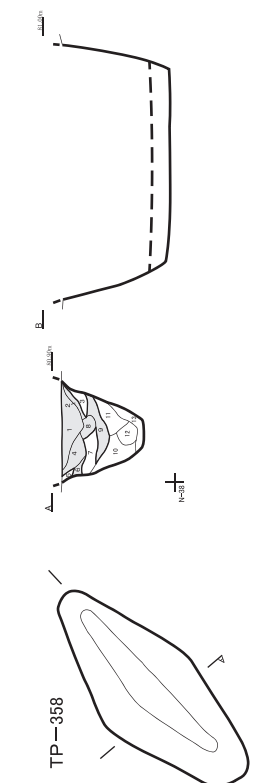
上へ中位は黒色土主体の第1・3・4・5・8層が厚く広く、最上位に第2層、  
両壁際に第6・7層のT a-d 2主体の覆土が部分的にみられる。  
下位の層界は比して水平で、西側の壁は中位で屈曲する。  
坑底面は掘り過ぎて、砂岩のU・Rレギが出土した。

遺構名	断面図 番号	土層	補記事項
TP-357	1	白層主体	D2・W・S層とS層が埋まる
	2	D2・L・S層 > 白層	D2・W・S層が埋まる
	3	白層主体	D2・W・S層が埋まる
	4	白層 > Y・L層	S層が埋まる
	5	白層 > D2・Y・L層	S層が埋まる
	6	D2・Y・L層主体	D2・W・S層が埋まる
	7	D2・Y・L層主体	埋まる
	8	D2・Y・L・S層主体	D2・W・S層とS層が埋まる
	9	D2・L・S層主体	埋まる
	10	D2・L・S層主体	埋まる
	11	D2・L・S層主体	埋まる
	12	D2・L・S層主体	埋まる
	13	D2・L・S層主体	埋まる



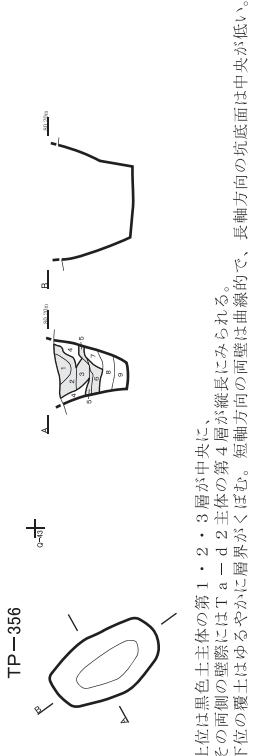
最上位はT a-d 2主体の第1・2層で、直下に黒色土主体の第3層が堆積する。  
同主体の第6層の層界は南東側へ傾斜し、下位にはT a-d 1主体の第8層が部分的にみられる。  
短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、坑底面は凹凸がみられる。

遺構名	断面図 番号	土層	補記事項
TP-355	1	D2・L・S層 > 白層	埋まる
	2	D2・L・S層 > 白層	埋まる
	3	白層主体	埋まる
	4	D2・L層主体	埋まる
	5	D2・L・S層主体	埋まる
	6	D2・L・S層主体	埋まる
	7	D2・L・S層主体	埋まる
	8	D2・L・S層主体	埋まる
	9	D2・L・S層主体	埋まる



上へ中位の黒色土主体の覆土は、中央が低い堆積で多くみられ、  
下位は南東側から第10層、反対側から第11・12・13層が流れ込んだ様相である。  
壁は開いて立ち上がり、坑底面は掘り過ぎてある。

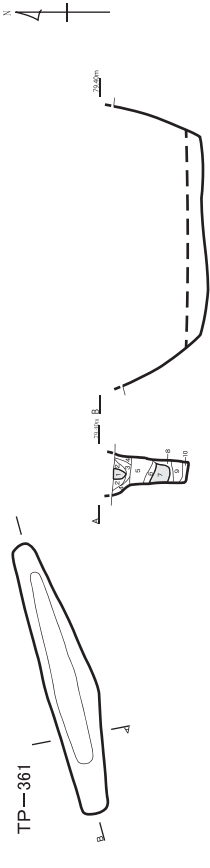
遺構名	断面図 番号	土層	補記事項
TP-358	1	白層主体	埋まる
	2	D2・L・S層 > 白層	D2・S層が埋まる
	3	D2・L・S層 > 白層	D2・S層が埋まる
	4	D2・L・S層 > 白層	D2・S層が埋まる
	5	D2・L・S層 > 白層	D2・S層が埋まる
	6	D2・L・S層 > 白層	D2・S層が埋まる
	7	D2・L・S層 > 白層	D2・S層が埋まる
	8	D2・L・S層 > 白層	D2・S層が埋まる
	9	D2・L・S層 > 白層	D2・S層が埋まる
	10	D2・L・S層主体	埋まる
	11	D2・L・S層 > 白層	埋まる
	12	D2・L・S層主体	埋まる
	13	D2・L・S層主体	埋まる



上位は黒色土主体の第1・2・3層が中央に、  
その両側の壁際にはT a-d 2主体の第4層が縦長にみられる。  
下位の覆土はゆるやかに層界がくぼむ。短軸方向の両壁は曲線的で、長軸方向の坑底面は中央が低い。

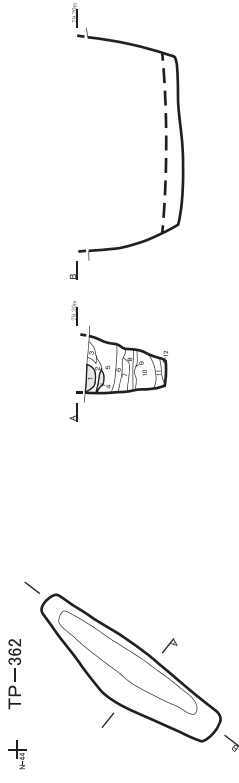
遺構名	断面図 番号	土層	補記事項
TP-356	1	白層 > D2・L層	埋まる
	2	白層主体	埋まる
	3	D2・L層 > 白層	埋まる
	4	D2・L層 > 白層	埋まる
	5	白層主体	埋まる
	6	D2・L層 > 白層	埋まる
	7	D2・L層 > 白層	埋まる
	8	D2・L層 > 白層	埋まる
	9	D2・L層 > 白層	埋まる

図175 上幌内5遺跡 TP-355・TP-356・TP-357・TP-358



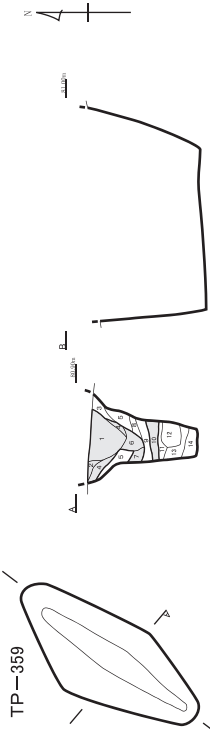
上位には各主体の覆土がみられ、第1層は黒色土、第2・4層はT a - d 2、第3層はT a - d 1主体である。  
 下位の灰白色粘土主体の第8層は北側からの流れ込みで、このくぼみに第6・7層が堆積する様相である。  
 短軸方向の両壁は直立して立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-361	1	B層 > D2・L層	D2・S層が少量混入する
	2	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	3	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	4	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	5	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	6	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	7	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	8	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	9	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	10	D2・L層	D2・S層が少量混入する



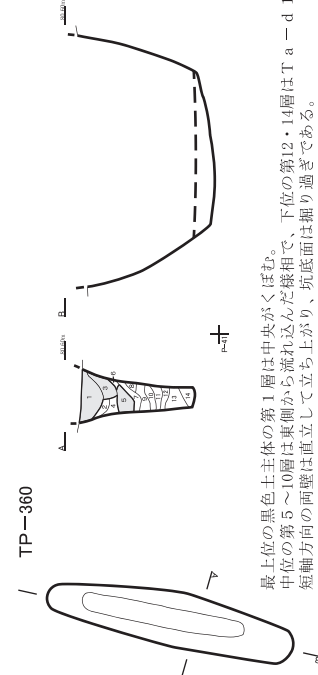
上位に厚いT a - d 2主体の第5層は北東側から流れ込んだ様相で、このくぼみに第1～4層が堆積する。  
 中位は水平堆積で第9・10層は白色砂礫主体である。  
 短軸方向の両壁はやや開口して立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-362	1	B層 > D2・L層	D2・S層が少量混入する
	2	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	3	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	4	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	5	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	6	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	7	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	8	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	9	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	10	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	11	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	12	D2・L層	D2・S層が少量混入する



上位は黒色土主体の覆土が主で、T a - d 2主体の第3・5層が壁際のみみられる。  
 直下にはT a - d 1主体の第8・9層が北西側から流れ込んだ様相である。  
 短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、長軸方向の坑底面は凹凸がある。

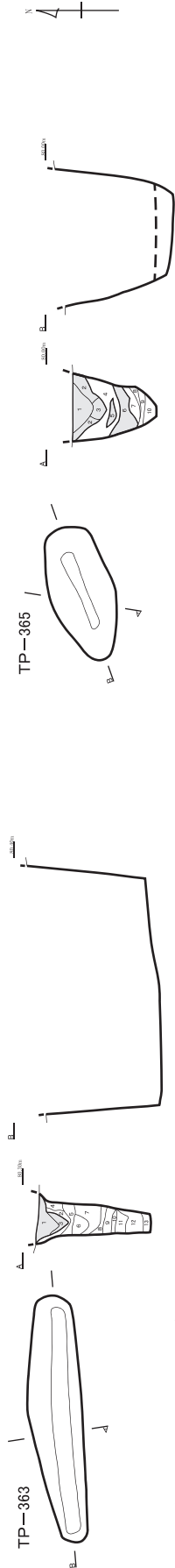
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-359	1	B層	D2・S層が少量混入する
	2	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	3	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	4	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	5	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	6	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	7	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	8	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	9	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	10	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	11	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	12	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	13	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	14	D2・L層	D2・S層が少量混入する



最上位の黒色土主体の第1層は中央がくぼむ。  
 中位の第5～10層は東側から流れ込んだ様相で、下位の第12・14層はT a - d 1主体である。  
 短軸方向の両壁は直立して立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

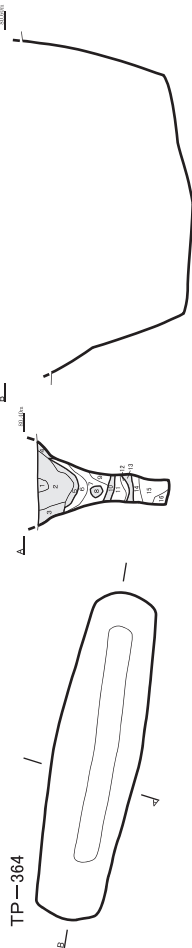
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-360	1	B層	D2・S層が少量混入する
	2	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	3	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	4	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	5	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	6	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	7	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	8	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	9	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	10	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	11	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	12	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	13	D2・L層	D2・S層が少量混入する
	14	D2・L層	D2・S層が少量混入する

図176 上幌内5遺跡 TP-359・TP-360・TP-361・TP-362



上位は黒色土主体の第1・3層がくぼんで堆積し、このくぼみは縦長の第4層、中位の第6・8層に影響されていると考えられる。下位は軋して水平堆積で最下層は灰白色粘土主体である。壁はいずれも直立気味で、長軸方向の坑底面は西側へ傾斜する。

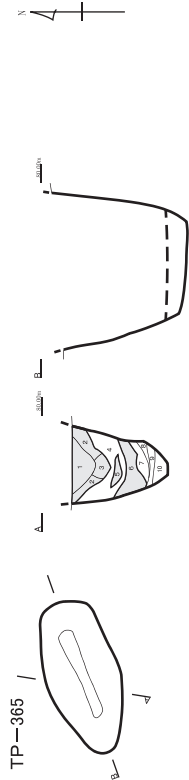
遺構名	断面図番号	土層	特長事項
TP-363	1	白層主体	D2・W・S層が混入する
	2	D2・L層	1層が混入する
	3	D2・Y・L層	1層が混入する
	4	D2・Y・L層	1層が混入する
	5	D2・Y・L層	1層が混入する
	6	D2・Y・L・S層主体	各層が混入する
	7	D2・Y・L・S層主体	各層が混入する
	8	D2・Y・L・S層主体	各層が混入する
	9	D2・L層主体	1層が混入する
	10	D2・L層主体	D1層が混入する
11	D2・L層主体	D1層が混入する	
12	W層主体	D2・S層が混入する	
13	W層主体	D2・S層が混入する	



黒色土主体は上位に集中するものと、中位に単独でみられる。阿壁際には第3・4・9・16層が縦長にみられる。短軸方向の阿壁は直立気味に立ち上がり、長軸方向の坑底面は西側に傾斜し中央が最も低い。

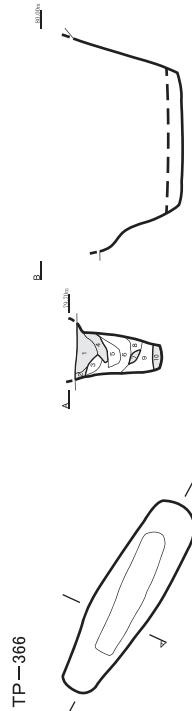
遺構名	断面図番号	土層	特長事項
TP-364	1	白層主体	1層の砂層が混入する
	2	白層主体	D2・S層が混入する
	3	D2・L層	D2・S層が混入する
	4	D2・L層	D2・S層が混入する
	5	D2・L層	D2・S層が混入する
	6	D2・L層	D2・S層が混入する
	7	W層主体	D2・S層が混入する
	8	W層主体	D2・S層が混入する
	9	W層主体	D2・S層が混入する
	10	W層主体	D2・S層が混入する
11	W層主体	D2・S層が混入する	
12	D2・Y・L・S層主体	D2・S層が混入する	
13	D2・Y・L・S層主体	D2・S層が混入する	
14	D2・Y・L・S層主体	D2・S層が混入する	
15	D2・Y・L・S層主体	D2・S層が混入する	
16	D2・Y・L・S層主体	D2・S層が混入する	

図177 上幌内5遺跡 TP-363・TP-364・TP-365・TP-366



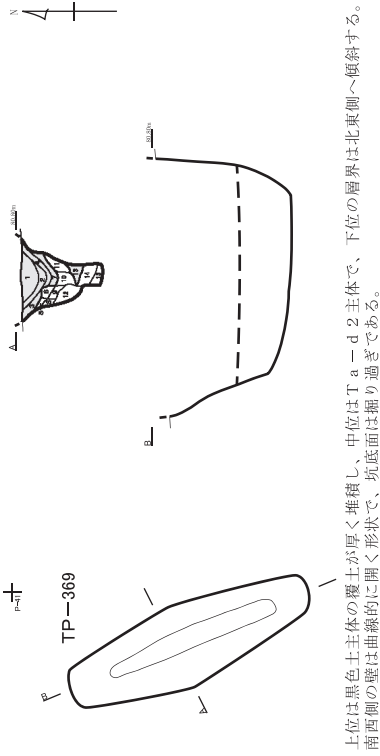
最上位は黒色土主体で中央が厚く、中位は層界が曲線的にみられ、下位の第9層は水平堆積である。壁はいずれも開口して立ち上がり、短軸方向の阿壁は中位付近から直線的で、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	特長事項
TP-365	1	白層主体	D2・L層が混入する
	2	D2・L層	1層が混入する
	3	D2・L層	1層が混入する
	4	D2・L・S層	各層が混入する
	5	D2・L・S層	各層が混入する
	6	D2・L・S層	各層が混入する
	7	D2・L・S層	各層が混入する
	8	W層主体	D2・S層が混入する
	9	D2・L・S層	D1層が混入する
	10	D1層主体	D1層が混入する



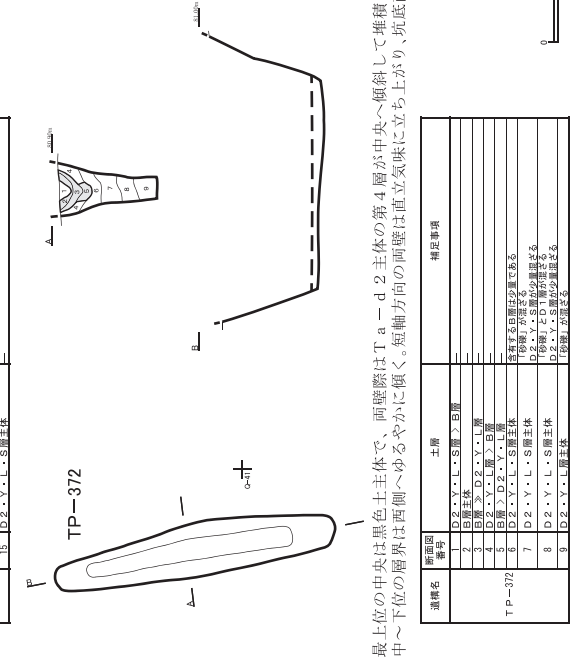
最上位の覆土の直下は第4・5層が阿壁から斜めに堆積する。中位は曲線的な層界で、最下層は黒色土主体の第10層である。長軸方向の壁は開口気味に立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	特長事項
TP-366	1	白層主体	D2・S層が混入する
	2	D2・Y・L層	D2・S層が混入する
	3	D2・Y・L層	D2・S層が混入する
	4	D2・Y・L層	D2・S層が混入する
	5	D2・L・S層	各層が混入する
	6	D2・L・S層	各層が混入する
	7	W層主体	D2・S層が混入する
	8	D2・L・S層	D1層が混入する
	9	D2・L・S層	D1層が混入する
	10	白層主体	D1層が混入する



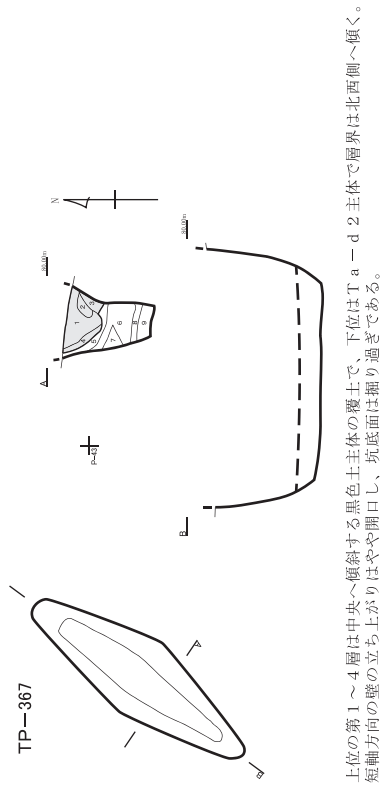
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-369	1	白層主体	D2・W・S層とD2・Y・S層が混在する
	2	白層主体	D2・W・S層とD2・Y・S層が混在する
	3	白層主体	D2・W・S層とD2・Y・S層が混在する
	4	白層主体	D2・W・S層とD2・Y・S層が混在する
	5	D2・L・S層主体	混在するD2・S層が少量である
	6	D2・L・S層主体	
	7	D2・L・S層主体	
	8	D2・Y・L・S層主体	「砂層」が混在する
	9	D2・S層主体	「砂層」が混在する
	10	D2・Y・L・S層主体	「砂層」が混在する
	11	D2・Y・L・S層主体	「砂層」が混在する

上位は黒色土主体の覆土が厚く堆積し、中位はT a-d 2主体で、下位の層界は北東側へ傾斜する。南西側の壁は曲線的に開く形状で、坑底面は掘り過ぎである。



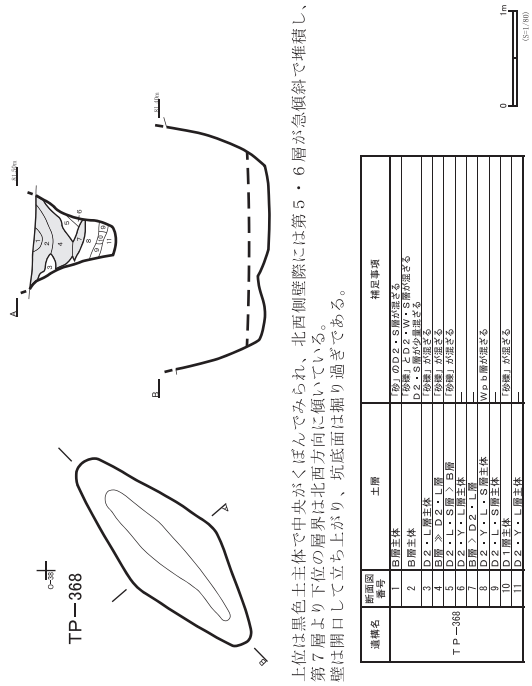
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-372	1	D2・Y・L・S層主体	
	2	D2・Y・L・S層主体	
	3	D2・Y・L・S層主体	
	4	D2・Y・L・S層主体	
	5	D2・Y・L・S層主体	
	6	D2・Y・L・S層主体	
	7	D2・Y・L・S層主体	
	8	D2・Y・L・S層主体	
	9	D2・Y・L・S層主体	
	10	D2・Y・L・S層主体	
	11	D2・Y・L・S層主体	

最上位の中央は黒色土主体で、両壁際はT a-d 2主体の第4層が中央へ傾斜して堆積し、中～下位の層界は西側へゆるやかに傾く。短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。



遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-367	1	白層主体	D2・S層が混在する
	2	白層主体	D2・S層が混在する
	3	白層主体	D2・S層が混在する
	4	D2・Y・L・S層主体	「砂層」が混在する
	5	D2・L・S層主体	「砂層」が混在する
	6	D2・L・S層主体	「砂層」が混在する
	7	D2・L・S層主体	「砂層」が混在する
	8	D2・Y・L・S層主体	「砂層」が混在する
	9	D2・Y・L・S層主体	「砂層」が混在する
	10	D2・Y・L・S層主体	「砂層」が混在する
	11	D2・Y・L・S層主体	「砂層」が混在する

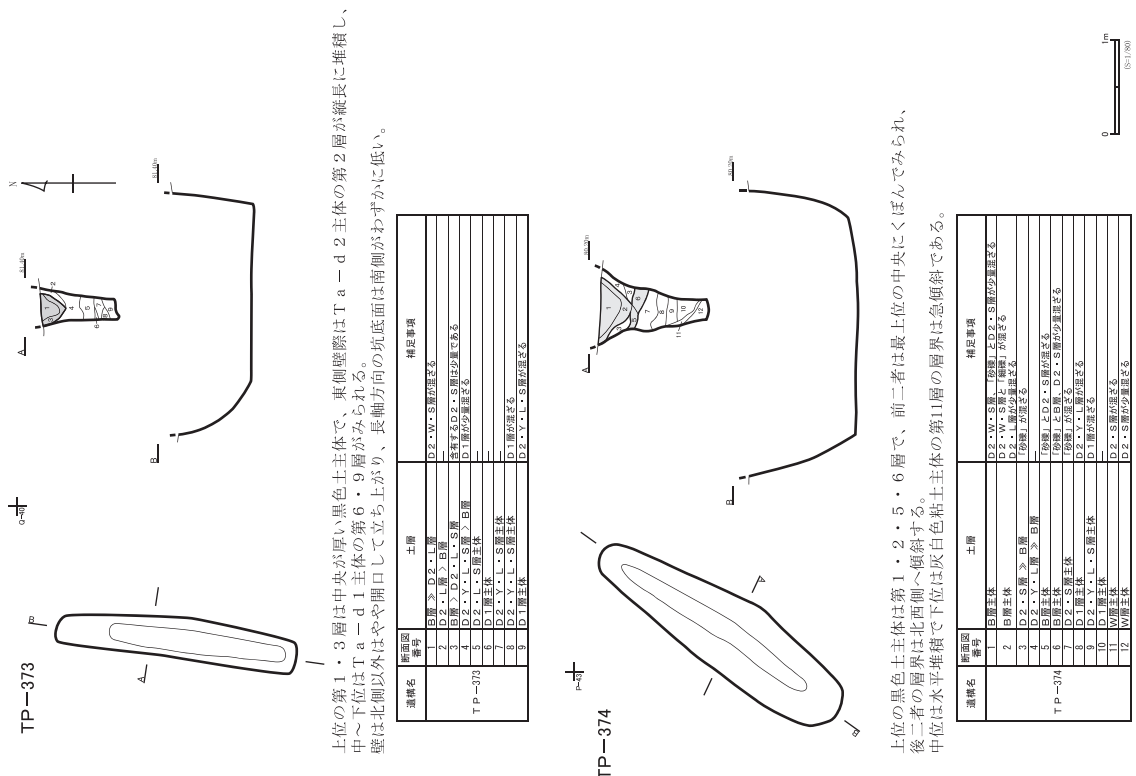
上位の第1～4層は中央へ傾斜する黒色土主体の覆土で、下位はT a-d 2主体で層界は北西側へ傾く。短軸方向の壁の立ち上がりはゆるやかで、坑底面は掘り過ぎである。



遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-368	1	白層主体	D2・S層が混在する
	2	白層主体	D2・S層が混在する
	3	D2・L・S層主体	「砂層」が混在する
	4	D2・L・S層主体	「砂層」が混在する
	5	D2・L・S層主体	「砂層」が混在する
	6	D2・Y・L・S層主体	「砂層」が混在する
	7	D2・Y・L・S層主体	「砂層」が混在する
	8	D2・Y・L・S層主体	「砂層」が混在する
	9	D2・Y・L・S層主体	「砂層」が混在する
	10	D2・Y・L・S層主体	「砂層」が混在する
	11	D2・Y・L・S層主体	「砂層」が混在する

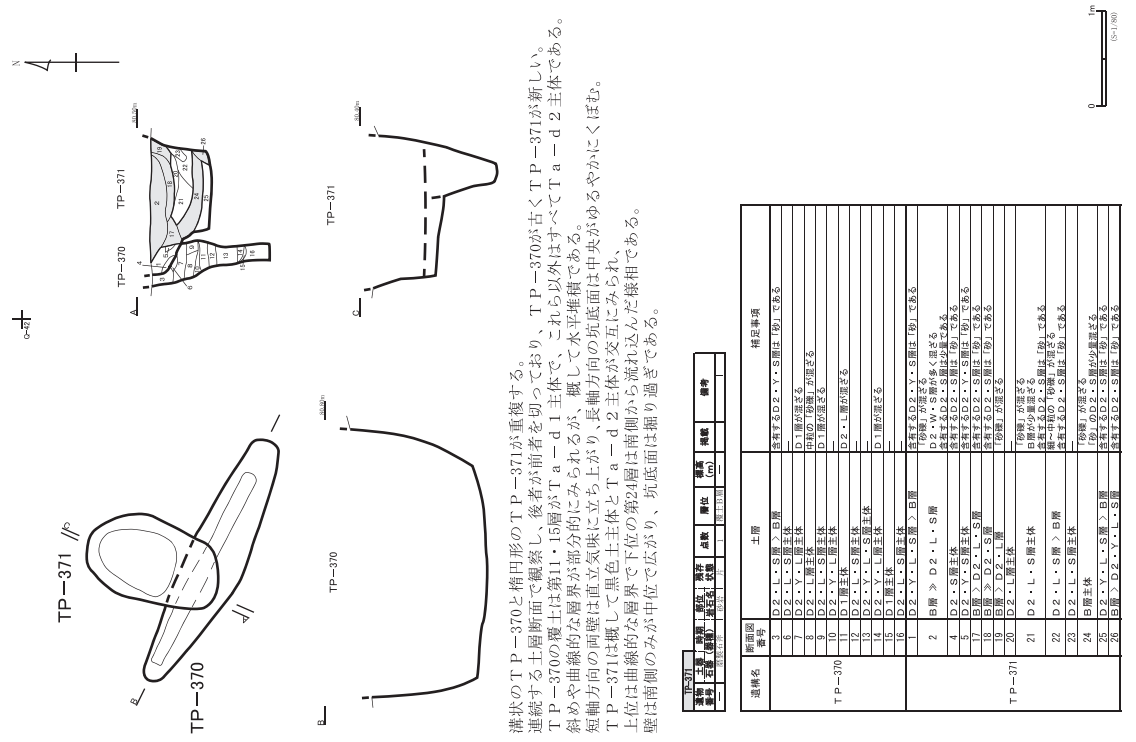
上位は黒色土主体で中央がくぼんでみられ、北西側壁際には第5・6層が急傾斜で堆積し、第7層より下位の層界は北西方向に傾いている。壁は開口して立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

図178 上幌内5遺跡 TP-367・TP-368・TP-369・TP-372



上位の第1・3層は中央が厚い黒色土主体で、東側壁際にはT a - d 2 主体の第2層が縦長に堆積し、中～下位はT a - d 1 主体の第6・9層がみられる。  
 壁は北側以外はやや開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は南側がわずかに低い。

上位の黒色土主体は第1・2・5・6層で、前二者は最上位の中央にくぼんでみられ、中位は水平堆積で下位は灰白色粘土主体の第10層の層界は急傾斜である。

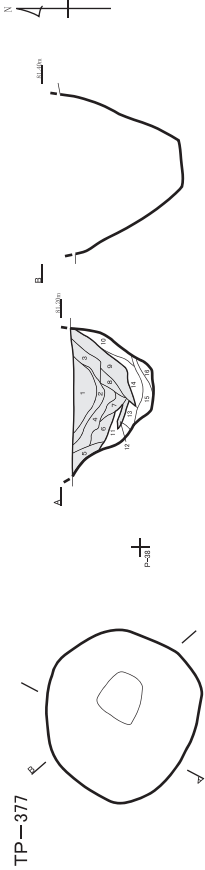


溝状のTP-370と楕円形のTP-371が重複する。  
 連続する土層断面で観察し、後者が前者を切っており、TP-370が古くTP-371が新しい。  
 TP-370の層上は第11・15層がT a - d 1 主体で、これら以外はすべてT a - d 2 主体である。  
 斜めや曲線的な層界が部分的にみられるが、概して水平堆積である。  
 短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、長軸方向の坑底面は中央がゆるやかにくぼむ。  
 TP-371は概して黒色土主体とT a - d 2 主体が交互にみられ、上位は曲線的な層界で下位の第24層は南側から流れ込んだ様相である。  
 壁は南側のみが中位で広がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	検定事項
TP-370	1	D2・L・S層 > 白層	含有するD2・V・S層は「砂」である
	2	D2・L・S層 > 白層	含有するD2・V・S層は「砂」である
	3	D2・L・S層 > 白層	含有するD2・V・S層は「砂」である
	4	D2・V・L・S層 > 白層	D1層が堆積する
	5	D2・V・L・S層 > 白層	D1層が堆積する
	6	D2・V・L・S層 > 白層	D1層が堆積する
	7	D2・V・L・S層 > 白層	D1層が堆積する
	8	D2・V・L・S層 > 白層	D1層が堆積する
	9	D2・V・L・S層 > 白層	D1層が堆積する
	10	D2・V・L・S層 > 白層	D1層が堆積する
TP-371	1	D2・L・S層 > 白層	含有するD2・V・S層は「砂」である
	2	D2・L・S層 > 白層	含有するD2・V・S層は「砂」である
	3	D2・L・S層 > 白層	含有するD2・V・S層は「砂」である
	4	D2・V・L・S層 > 白層	D1層が堆積する
	5	D2・V・L・S層 > 白層	D1層が堆積する
	6	D2・V・L・S層 > 白層	D1層が堆積する
	7	D2・V・L・S層 > 白層	D1層が堆積する
	8	D2・V・L・S層 > 白層	D1層が堆積する
	9	D2・V・L・S層 > 白層	D1層が堆積する
	10	D2・V・L・S層 > 白層	D1層が堆積する

図179 上幌内5遺跡 TP-370・TP-371・TP-372・TP-374



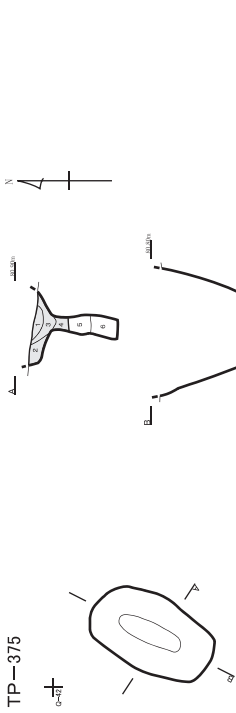


上～中位まで黒色土主体の覆土が中央へ流れ込む様相で広く厚く、  
壁際と下位はT a-d 2 主体で曲線的な層界である。  
壁は開いて立ち上がり、坑底面は傾斜する。

遺構名	層別	土層	特記事項
TP-377	1	白層 > D2・S層	D2・W・S層が厚くなる
	2	白層 > D2・L層	D2・S層が少量重なる
	3	白層主体	白層が厚くなる
	4	白層 > D2・V・L層	白層が厚くなる
	5	白層 > D2・L層	白層が厚くなる
	6	白層 > D2・L層	白層が厚くなる
	7	白層主体	D2・L層が厚くなる
	8	白層主体	白層が厚くなる
	9	D2・V・L層 > 白層	白層が厚くなる
	10	D2・V・L層 > 白層	白層が厚くなる
	11	D2・V・L層 > 白層	白層が厚くなる
	12	D2・V・L層 > 白層	白層が厚くなる
	13	D2・V・L層 > 白層	白層が厚くなる
	14	D2・V・L層 > 白層	白層が厚くなる
	15	D2・V・L層 > 白層	白層が厚くなる
	16	D2・V・L層 > 白層	白層が厚くなる

c-d

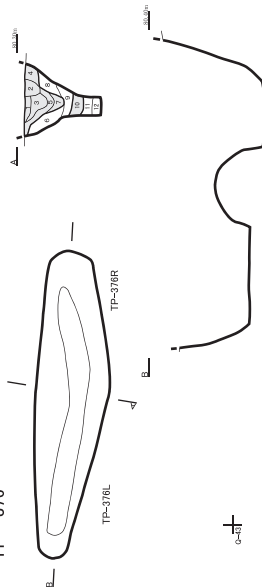
TP-377



上位は黒色土主体で中央へ傾斜する堆積で、中～下位はT a-d 2 主体の覆土が水平堆積する。  
短軸方向の両壁は上位で収束してから広がり、長軸方向の坑底面は南西側へ傾斜する。

遺構名	層別	土層	特記事項
TP-375	1	白層 > D2・L層	D2・W・S層が厚くなる
	2	白層主体	D2・L層
	3	白層 > D2・L層	D2・L層が厚くなる
	4	白層 > D2・L層	含有するD2・S層は少量である
	5	D2・L・S層主体	傾斜が厚くなる
	6	D2・L・S層主体	W.b.b層が厚くなる

TP-375

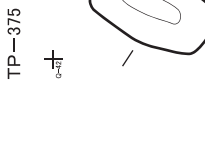


上位は黒色土主体の覆土が中央に厚く、両壁際はT a-d 2 主体の第6・8層が斜めに堆積する。  
中～下位の層界の傾斜はわずかで概ね平坦である。  
短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、坑底面の平面はゆるく「く」の字に屈曲し、  
長軸方向は一直線上にならない。

遺構名	層別	土層	特記事項
TP-376	1	白層主体	D2・W・S層が厚くなる
	2	白層主体	D2・S層が厚くなる
	3	白層主体	D2・W・S層が少量重なる
	4	白層主体	D2・V・S層が少量重なる
	5	白層 > D2・L層	D2・W・S層が厚くなる
	6	白層 > D2・L層	D2・W・S層が厚くなる
	7	白層 > D2・L層	傾斜が厚くなる
	8	D2・V・L・S層 > 白層	含有するD2・S層は「砂」である
	9	D2・L・S層主体	含有するD2・S層は少量である
	10	白層主体	D2・L層が厚くなる
	11	白層主体	—
	12	D2・S層主体	—

c-d

図180 上幌内5遺跡 TP-375・TP-376・TP-377・TP-378

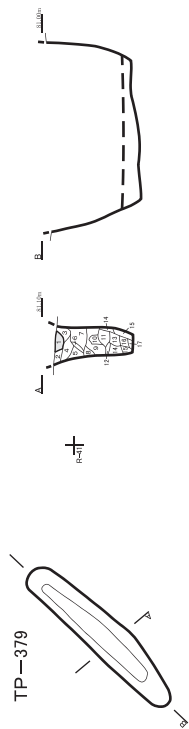


上位の中央は第1・2・6・7・10・12・13層がくぼみ状に堆積し、上位の両壁際から下位は、  
第15・16層以外は水平堆積である。直立する短軸方向の両壁は上位で若干広がり、坑底面は細り過ぎである。

遺構名	層別	土層	特記事項
TP-378	1	白層 > D2・V・L層	—
	2	D2・V・L層 > 白層	—
	3	D2・V・L層 > 白層	—
	4	D2・V・L層 > 白層	—
	5	D2・V・L層 > 白層	含有するD2・S層は「砂」である
	6	白層主体	—
	7	白層主体	含有するD2・S層は「砂」である
	8	D2・V・L層 > 白層	含有するD2・V・S層は少量である
	9	D2・L・S層主体	—
	10	D2・L・S層主体	D2・L層が厚くなる
	11	D2・L・S層主体	D2・L・L層が厚くなる
	12	白層主体	—
	13	D2・V・L・S層主体	含有するD2・S層は少量である
	14	D2・V・L・S層 > 白層	D2・L層が厚くなる
	15	D2・V・L・S層 > 白層	D2・L層が厚くなる
	16	D2・V・L・S層 > 白層	D2・L層が厚くなる
	17	D2・V・L・S層 > 白層	D2・L層が厚くなる
	18	D2・V・L・S層 > 白層	D2・L層が厚くなる
	19	D2・S層主体	D2・L層が厚くなる

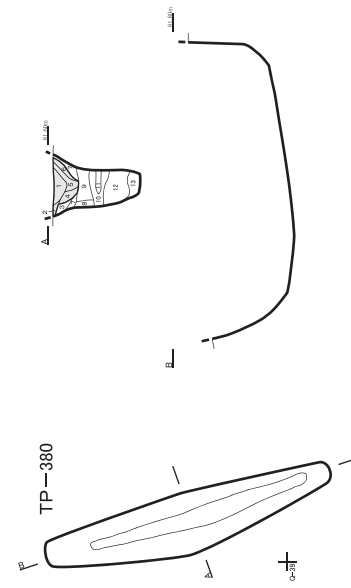
c-d

TP-378



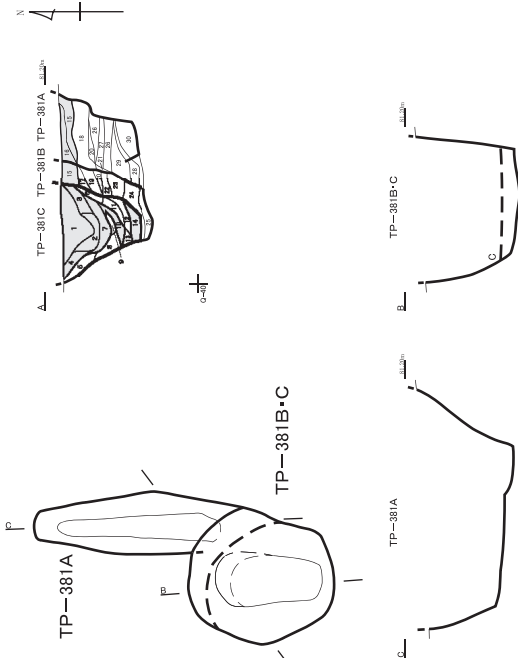
黒色土主体は最上位中央の第1層のみで、上～中位まではT a - d 2 主体の覆土が様々な形状と層界でみられ、下位は両壁際と最下層中央にT a - d 1 主体の第14・17層、北西側壁際に灰色土主体の第15層が縦長に堆積する。短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-379	1	B層 > D2・S層	砂礫 が見える
	2	D2・S層 > B層	砂礫 が見える
	3	D2・S層 > B層	含有するD2・S層は少量である
	4	D2・S層 > B層	砂礫 が見える
	5	D2・S層 > B層	砂礫 が見える
	6	D2・S層 > B層	砂礫 が見える
	7	D2・S層 > B層	砂礫 が見える
	8	D2・S層 > B層	砂礫 が見える
	9	D2・S層 > B層	砂礫 が見える
	10	D2・S層 > B層	砂礫 が見える
	11	D2・S層 > B層	砂礫 が見える
	12	D2・S層 > B層	砂礫 が見える
	13	D2・S層 > B層	砂礫 が見える
	14	D2・S層 > B層	砂礫 が見える
	15	D2・S層 > B層	砂礫 が見える
	16	D2・S層 > B層	砂礫 が見える
	17	D1層主体	



上位は黒色土主体の覆土が中央に厚くみられ、T a - d 2 主体の壁際に第8層が縦長に堆積し、最下層はT a - d 1 主体である。短軸方向の両壁は曲線的で上位が開口し、長軸方向の坑底面は北側に傾斜する。

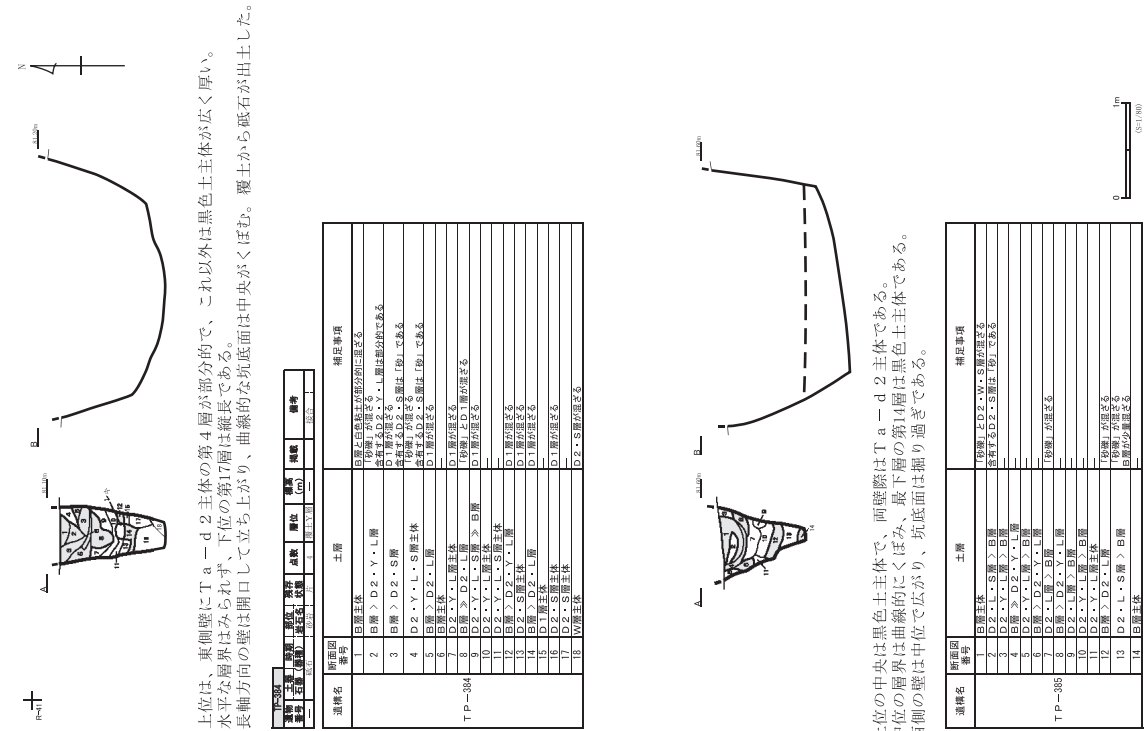
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-380	1	B層主体	砂礫 D2・W・S層が見える
	2	B層 > D2・L層	D2・W・S層が少量見える
	3	B層 > D2・L層	砂礫 が見える
	4	B層 > D2・L層	砂礫 が見える
	5	B層 > D2・L層	砂礫 が見える
	6	B層 > D2・L層	砂礫 が見える
	7	B層 > D2・L層	砂礫 が見える
	8	D2・V・L層 > B層	砂礫 が見える
	9	D2・V・L層 > B層	砂礫 が見える
	10	D2・V・L層 > B層	含有するD2・S層は少量である
	11	D2・V・L層 > B層	砂礫 D1層が見える
	12	D2・V・L層 > B層	砂礫 D1層が見える
	13	D1層主体	



溝状と楕円形が重複し、連続する土層断面を観察した。溝状のTP-381Aが楕円形に切れ、さらに後者は坑底面が2か所認められたので、B・Cに分けた。古い順にA、B、Cである。溝状のAは最上位が黒色土主体の第15・16層で、中位は水平の層界が多い。下層の第28・29層は地山との区別がでなかった。長軸方向の坑底面は南側へ傾斜する。楕円形で古いBは最上位が黒色土主体で、層界は中位が傾斜、下位は水平である。Cは黒色土主体の覆土が多く、上位はくぼみ、中位は北東側から流れ込んだ様相、そして最下層にみられる。B・Cの壁は開口して立ち上がり、坑底面はBは凹凸があり、Cは掘出できなかった。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-381	1	B層主体	D2・W・S層が見える
	2	B層主体	D2・S層が少量見える
	3	B層 > D2・L層	砂礫 が見える
	4	B層 > D2・L層	砂礫 が見える
	5	D2・V・L層 > B層	砂礫 D2・S層は少量である
	6	D2・L層 > B層	
	7	D2・L層 > B層	
	8	D2・L層 > B層	
	9	D2・V・L層主体	含有するD2・S層は少量である
	10	D2・V・L層主体	
	11	D2・V・L層主体	
	12	D2・V・L層主体	
	13	D2・V・L層主体	
	14	D2・V・L層主体	
	15	D2・V・L層主体	
	16	D2・V・L層主体	
	17	D2・V・L層主体	
	18	D2・V・L層主体	
	19	D2・V・L層主体	
	20	D2・V・L層主体	
	21	D2・V・L層主体	
	22	D2・V・L層主体	
	23	D1層主体	
	24	D2・V・L層主体	
	25	D2・V・L層主体	
	26	D2・V・L層主体	
	27	D2・V・L層主体	
	28	D2・V・L層主体	
	29	D2・V・L層主体	
	30	D2・L・S層主体	

図181 上幌内5遺跡 TP-379・TP-380・TP-381



上～中位は黒色土主体が厚く、層界はすべて傾斜する。南東側の壁は屈曲が多く、坑底面は掘り過ぎである。

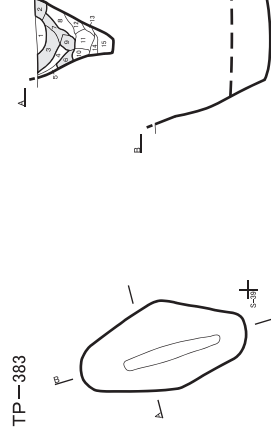
上～中位は黒色土主体が厚く、層界はすべて傾斜する。これ以外は黒色土主体が広く厚い。水平な層界はみられず、下位の第17層は縦長である。長軸方向の壁は開口して立ち上がり、曲線的な坑底面は中央がくぼむ。覆土から底石が出土した。

遺構名	坑底面番号	土層				補記事項
		1	2	3	4	
TP-384	1	白濁主体				白濁と白色粘土が部分的に混ざる
	2	白濁 > D2・Y・L層				含有するD2・Y・L層は部分分岐である
	3	白濁 > D2・S層				D1層が混ざる。壁は「物」である
	4	D2・Y・L・S層主体				付随物が混ざる
	5	白濁 > D2・L層				D1層が混ざる
	6	白濁主体				D1層が混ざる
	7	D2・Y・L層主体				D1層が混ざる
	8	D2・Y・L・S層 > 白濁				D1層が混ざる
	9	D2・Y・L層主体				D1層が混ざる
	10	D2・Y・L層主体				D1層が混ざる
	11	D2・S層主体				D1層が混ざる
	12	白濁 > D2・Y・L層				D1層が混ざる
	13	D2・S層主体				D1層が混ざる
	14	白濁 > D2・L層				D1層が混ざる
	15	D2・L・S層主体				D1層が混ざる
	16	D2・L・S層主体				D1層が混ざる
	17	D2・S層主体				D1層が混ざる
	18	白濁主体				D2・S層が混ざる

上位の中央は黒色土主体で、両壁際はT a - d 2主体である。中央の層界は曲線的にくぼみ、最下層の第14層は黒色土主体である。西側の壁は中央で広がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	坑底面番号	土層				補記事項
		1	2	3	4	
TP-385	1	白濁主体				付随物とD2・W・S層が混ざる
	2	D2・L・S層 > 白濁				含有するD2・S層は「物」である
	3	D2・Y・L層 > 白濁				
	4	白濁 > D2・Y・L層				
	5	D2・Y・L層 > 白濁				
	6	D2・Y・L層 > 白濁				
	7	D2・L層 > 白濁				付随物が混ざる
	8	白濁 > D2・Y・L層				
	9	D2・L層 > 白濁				
	10	D2・Y・L層主体				
	11	D2・Y・L層主体				付随物が混ざる
	12	白濁 > D2・L層				
	13	D2・L・S層 > 白濁				D2・L層が混ざる
	14	白濁主体				白濁が少量混ざる

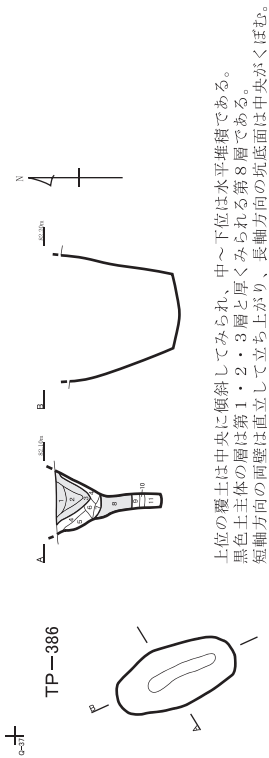
遺構名	坑底面番号	土層				補記事項
		1	2	3	4	
TP-382	1	白濁 > D2・L・S層				付随物が混ざる
	2	白濁主体				含有するD2・S層は少量である。S層が混ざる
	3	白濁 > D2・L・S層				付随物が混ざる
	4	D2・Y・L層 > 白濁				
	5	白濁 > D2・Y・L層				含有するD2・L層は少量である
	6	D2・Y・L・S層 > 白濁				含有するD2・L層は少量である
	7	D2・Y・L・S層 > 白濁				付随物が多量混ざる
	8	白濁 > D2・S層				付随物が多量混ざる
	9	D2・Y・L・S層 > 白濁				含有するD2・S層は少量である
	10	白濁 > D2・L層				
	11	白濁 > D2・L層				
	12	D2・Y・L層主体				
	13	D2・Y・L層主体				白濁とD2・S層が少量混ざる
	14	白濁 > D2・L層				D1層が混ざる



最上位はT a - d 2主体の第1層がくぼみにみられ、直下は黒色土主体である。層界はすべて曲線的に傾斜する。壁は上位へ開く形状で、坑底面は掘り過ぎである。

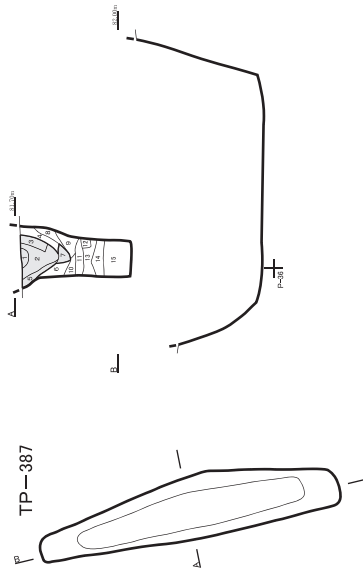
遺構名	坑底面番号	土層				補記事項
		1	2	3	4	
TP-383	1	D2・Y・L・S層 > 白濁				付随物が少量混ざる
	2	白濁主体				付随物が少量混ざる
	3	D2・Y・L層 > 白濁				付随物が少量混ざる
	4	D2・Y・L層 > 白濁				D2・W・S層と相間の「砂層」が混ざる
	5	白濁主体				含有するD2・Y・L層は部分分岐である
	6	白濁主体				相間の「砂層」が混ざる
	7	白濁 > D2・Y・L層				相間の「砂層」が混ざる
	8	白濁 > D2・Y・L層				相間の「砂層」が混ざる
	9	白濁 > D2・Y・L層				相間の「砂層」が混ざる
	10	D2・L層主体				相間の「砂層」が混ざる
	11	D2・Y・L層 > 白濁				D2・S層と相間の「砂層」が少量混ざる
	12	D2・L・S層主体				
	13	D2・L・S層 > 白濁				
	14	D2・L・S層 > 白濁				含有する白濁は少量である

図182 上幌内5遺跡 TP-382・TP-383・TP-384・TP-385



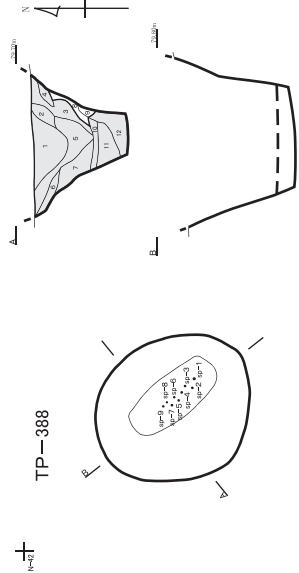
上位の覆土は中央に傾斜してみられ、中～下位は水平堆積である。  
 黒色土主体の層は第1・2・3層と厚くみられる第8層である。  
 短軸方向の両壁は直立して立ち上がり、長軸方向の坑底面は中央がくぼむ。

断面図番号	土層	補記事項
1	白層主体	傾斜が顕著である
2	白層 > D2・L層	傾斜が顕著である
3	白層 > D2・Y・L層	傾斜が顕著である
4	D2・Y・L層 > 白層	傾斜が顕著である
5	D2・Y・L層 > 白層	傾斜が顕著である
6	D2・Y・L層 > 白層	傾斜が顕著である
7	D2・Y・L層 > 白層	傾斜が顕著である
8	D2・Y・L層 > 白層	傾斜が顕著である
9	D2・Y・L層 > 白層	傾斜が顕著である
10	D2・L層 > 白層	傾斜が顕著である
11	D2・L層 > 白層	傾斜が顕著である



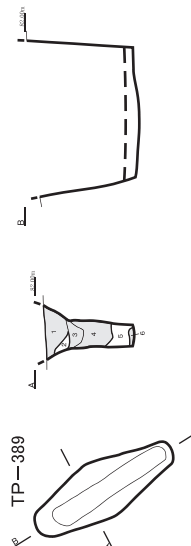
上位の中央は黒色土主体で、西側壁際にはT a - d 2主体の覆土が斜めに堆積する。  
 下位はT a - d 1主体が厚い。  
 短軸方向の両壁の立ち上がりは直立気味で、長軸方向の坑底面は凹凸がみられる。

断面図番号	土層	補記事項
1	白層主体	D2・L層が厚くなる
2	白層主体	D2・L層が厚くなる
3	白層主体	D2・L層が厚くなる
4	D2・Y・L層 > 白層	傾斜が顕著である
5	白層 > D2・Y・L層	傾斜が顕著である
6	白層 > D2・Y・L層	傾斜が顕著である
7	白層 > D2・Y・L層	傾斜が顕著である
8	D2・Y・L層主体	傾斜が顕著である
9	D2・Y・L層主体	傾斜が顕著である
10	D2・Y・L層主体	傾斜が顕著である
11	D2・S層主体	傾斜が顕著である
12	D2・Y・L層主体	傾斜が顕著である
13	D2・Y・L層主体	傾斜が顕著である
14	D2・Y・L層主体	傾斜が顕著である
15	D2・Y・L層主体	傾斜が顕著である



北東側壁際の第8・9層がT a - d 2主体で、これら以外は黒色土主体である。  
 層界は中位の第10層のみが水平堆積で、これ以外の層界は傾斜し、  
 最下層の第12層は南東側から流れ込んだ様相である。  
 壁は開口して立ち上がり、坑底面は細り過ぎである。  
 中央付近の長軸方向に柱穴・杭穴 s p - 1 ~ 9 が並んでみつかった。

断面図番号	土層	補記事項
1	白層主体	傾斜が顕著である
2	白層 > D2・L・S層	傾斜が顕著である
3	白層 > D2・L層	傾斜が顕著である
4	白層 > D2・L層	傾斜が顕著である
5	白層 > D2・L層	傾斜が顕著である
6	白層主体	D2・L層が厚くなる
7	D2・Y・L層 > 白層	傾斜が顕著である
8	D2・Y・L層主体	傾斜が顕著である
9	D2・Y・L層主体	傾斜が顕著である
10	白層 > D2・Y・L層	傾斜が顕著である
11	白層主体	傾斜が顕著である
12	白層 > D2・L・S層	傾斜が顕著である

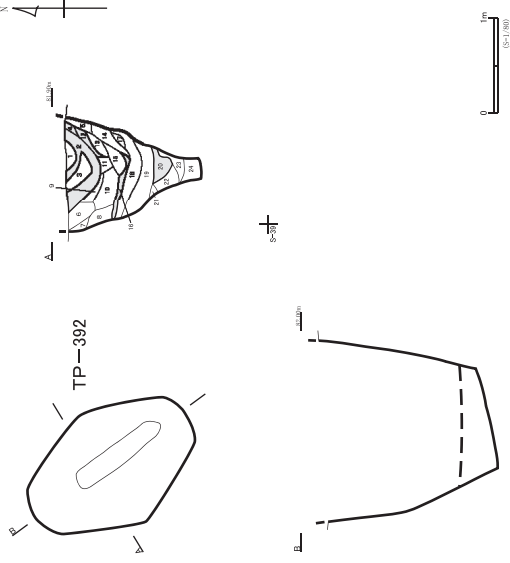


上位の南西側の第2層と下位の第5層がT a - d 2主体で、これら以外は黒色土主体である。  
 北西側の壁以外の立ち上がりは直立気味で、坑底面は細り過ぎである。

断面図番号	土層	補記事項
1	白層 > D2・L層	傾斜が顕著である
2	D2・Y・L層 > 白層	D2・W・S層が多くなる
3	白層主体	傾斜が顕著である
4	白層 > D2・L・S層	D2・L層が厚くなる
5	D2・L層 > 白層	傾斜が顕著である
6	白層主体	傾斜が顕著である

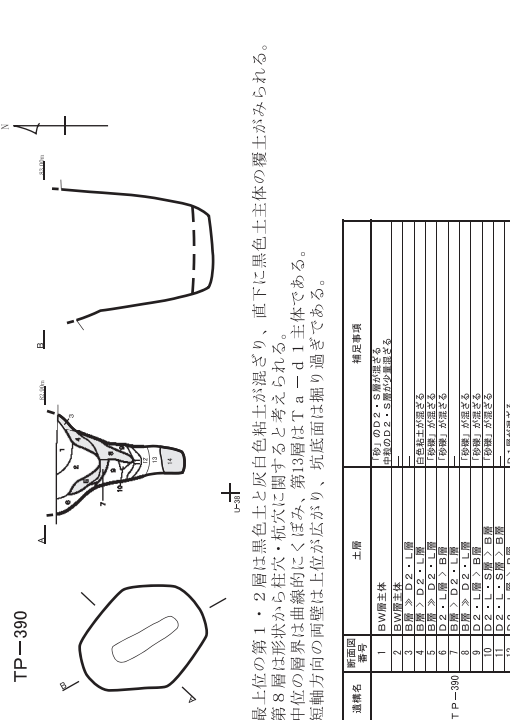


図183 上幌内5遺跡 TP-386・TP-387・TP-388・TP-389



最上位に黒色土主体が厚く、T a-d 2 主体の第 1・2 層が部分的にみられる。上へ中位の層系は、北東側は傾斜がきつくと、南西側は比して緩やかである。同主体の覆土は第16・20層と下位までみられ、最下層はT a-d 1 主体である。短軸方向の両壁は中位で開口し、坑底面は掘り過ぎた。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-392	1	D 2・L・S 層主体	
	2	D 2 土層	〔砂層〕が埋まる
	3	D 2 土層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	4	白層 > D 2・L 層	〔砂層〕が埋まる
	5	D 2・L 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	6	D 2・L 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	7	D 2・Y・L 層主体	〔砂層〕が埋まる
	8	D 2・L・S 層主体	〔砂層〕が埋まる
	9	D 2・Y・L 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	10	D 2・Y・L 層主体	〔砂層〕が埋まる
	11	D 2・Y・L 層主体	〔砂層〕が埋まる
	12	白層 > D 2・L 層	〔砂層〕が埋まる
	13	D 2・Y・L 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	14	D 2・Y・L 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	15	D 2・Y・L 層主体	〔砂層〕が埋まる
	16	白層主体・白層主体	D 2・S 層が少量埋まる
	17	D 2・L 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	18	D 2・Y・L・S 層主体	〔砂層〕が埋まる
	19	D 2・Y・L・S 層主体	〔砂層〕が埋まる
	20	D 2・Y・L・S 層主体	〔砂層〕が埋まる
	21	D 2・Y・L・S 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	22	W 層主体	白層が少量埋まる
	23	W 層主体	D 2・S 層が埋まる
	24	D 1 層主体	白層 > D 2・L 層が埋まる



最上位の第 1・2 層は黒色土と灰白色粘土が混ざり、直下に黒色土主体の覆土がみられる。第 8 層は形状から柱穴・杭穴に開すると考えられる。体である。中位の層系は曲線のたくほみ、第13層はT a-d 1 主体である。短軸方向の両壁は上位が広がり、坑底面は掘り過ぎである。

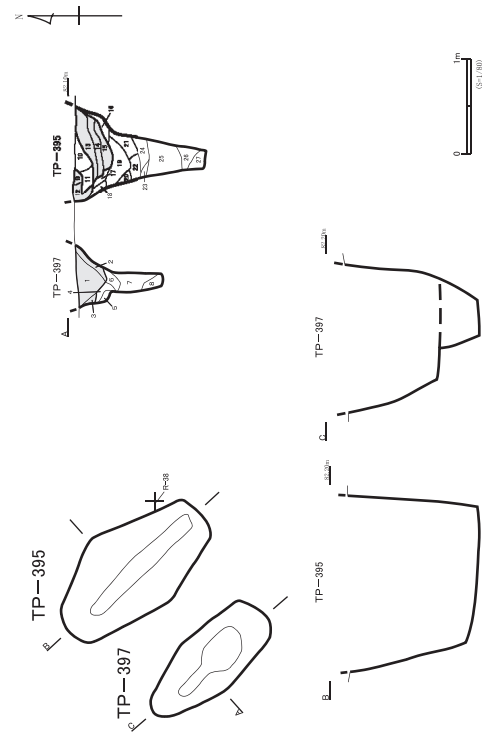
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-390	1	BW 層主体	
	2	BW 層主体	〔砂層〕が埋まる
	3	白層 > D 2・L 層	〔砂層〕が埋まる
	4	白層 > D 2・L 層	〔砂層〕が埋まる
	5	白層 > D 2・L 層	〔砂層〕が埋まる
	6	白層 > D 2・L 層	〔砂層〕が埋まる
	7	白層 > D 2・L 層	〔砂層〕が埋まる
	8	D 2・L 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	9	D 2・L 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	10	D 2・L 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	11	D 2・L 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	12	D 2・L 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	13	D 1 層主体	〔砂層〕が埋まる
	14	D 1 層 > D 2・L 層	D 1 層が埋まる



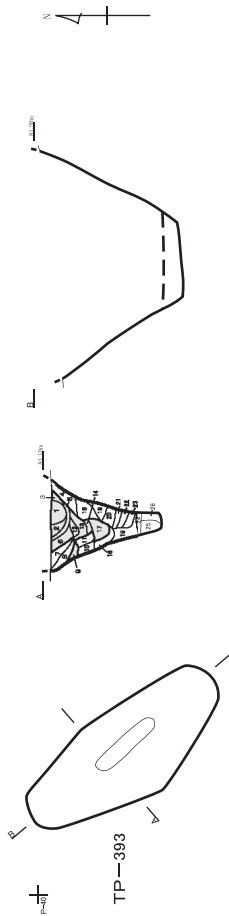
土位の中央から東側は黒色土主体がくぼみでみられ、反対側の層はT a-d 2 主体の第 3・5 層が傾斜して堆積する。中位の縦長の第 7 層と下位の第11層はT a-d 1 主体である。短軸方向の両壁の立ち上がりは直立気味で、長軸方向の坑底面は北側に傾斜する。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-391	1	BW 層主体	
	2	BW 層主体	〔砂層〕が埋まる
	3	D 2・L 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	4	D 2・L 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	5	D 2・L 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	6	D 2・Y・L 層主体	〔砂層〕が埋まる
	7	D 1 層主体	〔砂層〕が埋まる
	8	D 2・L・S 層 > 白層	〔砂層〕が埋まる
	9	D 2・Y・L 層主体	〔砂層〕が埋まる
	10	D 2・Y・L 層主体	〔砂層〕が埋まる
	11	D 1 層主体	〔砂層〕が埋まる
	12	D 2・Y・L・S 層主体	〔砂層〕が埋まる

図184 上幌内5遺跡 TP-390・TP-391・TP-392

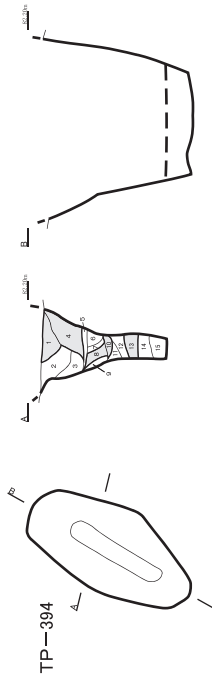


2基が近くでみられた。北東側のTP-395の覆土は上位に黒色土主体がみられ、第13・14・15層は北東側から流れ込んだ縁相である。  
 T a - d 2 主体の第17・18層は純長で、中～下位の第23・26層はT a - d 1 主体である。  
 壁はいずれも開口して立ち上がり、磨製石斧が出土した。南西側のTP-397は上位が黒色土、中位がT a - d 2、下位がT a - d 2 主体で、南東側の坑底面は掘り過ぎである。



上位の中央に黒色土主体の覆土が厚く、両壁際にはT a - d 2 主体が傾斜してみられる。  
 下位の北東側にT a - d 1 主体の第22・23層が斜めの層界で堆積し、最下層の覆土は縦長の第25・26層である。  
 壁はいずれも上位が広がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層		構造事項
		層番号	土層記号	
TP-393	1	1	白層 ≧ D2・L・S層	構造事項
	2	2	白層主体	傾斜・陥凹の有無、傾斜の向き、傾斜の長さ
	3	3	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	4	4	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	5	5	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	6	6	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	7	7	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	8	8	白層主体	傾斜の有無
	9	9	白層主体	傾斜の有無
	10	10	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	11	11	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	12	12	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	13	13	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	14	14	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	15	15	D2・L・S層主体	傾斜の有無
	16	16	D2・L・S層主体	傾斜の有無
	17	17	D2・L・S層主体	傾斜の有無
	18	18	D2・L・S層主体	傾斜の有無
	19	19	D2・L・S層主体	傾斜の有無
	20	20	D2・L・S層主体	傾斜の有無
	21	21	D2・L・S層主体	傾斜の有無
	22	22	D1層主体	傾斜の有無
	23	23	D1層主体	傾斜の有無
	24	24	D2・L・S層主体	傾斜の有無
	25	25	D2・L・S層主体	傾斜の有無
	26	26	D2・L・S層主体	傾斜の有無
	27	27	D2・L・S層主体	傾斜の有無

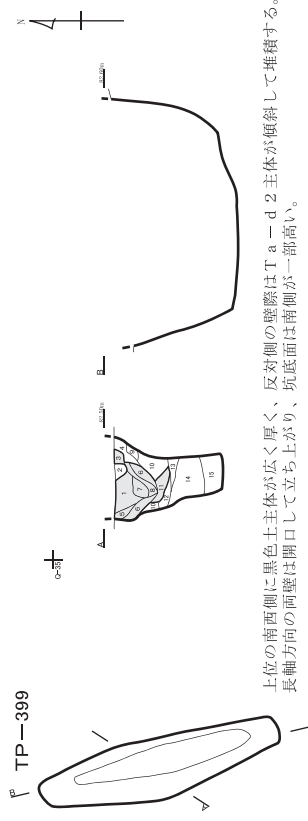


黒色土主体土は、水平堆積のT a - d 2 主体の第5層を挟んで、上位は東側、中位は西側に寄る。  
 中位は縦長の覆土が目立ち、下位の層界の傾斜は緩やかである。  
 長軸方向の壁は開口して立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層		構造事項
		層番号	土層記号	
TP-394	1	1	白層 ≧ D2・L・S層	構造事項
	2	2	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	3	3	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	4	4	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	5	5	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	6	6	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	7	7	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	8	8	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	9	9	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	10	10	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	11	11	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	12	12	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	13	13	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	14	14	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無

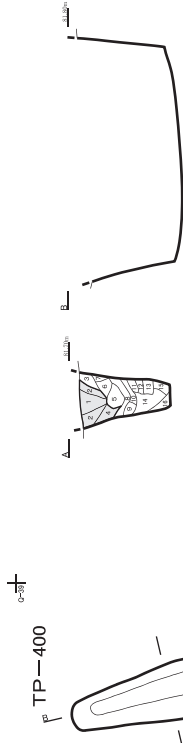
遺構名	断面図番号	土層		構造事項
		層番号	土層記号	
TP-397	1	1	白層主体	構造事項
	2	2	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	3	3	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	4	4	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	5	5	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	6	6	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	7	7	D2・L・S層 ≧ 白層	傾斜の有無
	8	8	D1層主体	傾斜の有無
	9	9	白層 ≧ D2・L層	傾斜の有無
	10	10	D2・L・S層主体	傾斜の有無
	11	11	D2・L・S層 ≧ 白層	傾斜の有無
	12	12	白層 ≧ D2・L・S層	傾斜の有無
	13	13	白層 ≧ D2・L・S層	傾斜の有無
	14	14	白層主体	傾斜の有無
TP-395	15	15	白層 ≧ D2・L層	傾斜の有無
	16	16	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	17	17	D2・L層 ≧ 白層	傾斜の有無
	18	18	D2・L・S層 ≧ 白層	傾斜の有無
	19	19	D2・L・S層 ≧ 白層	傾斜の有無
	20	20	D2・L・S層主体	傾斜の有無
	21	21	D2・L・S層主体	傾斜の有無
	22	22	D2・L・S層 ≧ 白層	傾斜の有無
	23	23	D2層主体	傾斜の有無
	24	24	D2・L・S層主体	傾斜の有無
	25	25	D2・L・S層主体	傾斜の有無
	26	26	D1層が混ざる	傾斜の有無
	27	27	D2・L・S層主体	傾斜の有無

図185 上幌内5遺跡 TP-393・TP-394・TP-395・TP-397



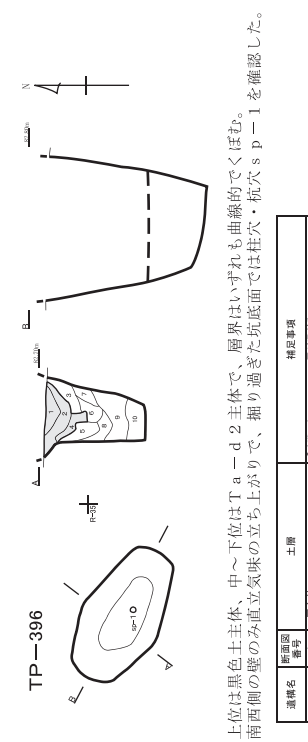
上位の南西側に黒色土主体が広く厚く、反対側の壁際はT a-d 2主体が傾斜して堆積する。長軸方向の両壁は開口して立ち上がり、坑底面は南側が一部高い。

遺構番号	断面図番号	土層	補注事項
TP-399	1	白層 > D2・L層	1. 傾斜し、D2・W・S層が混ざる
	2	D2・L層 > 白層	D2・W・S層が増える
	3	白層 > D2・L層	1. 傾斜が増える
	4	D2・L層 > 白層	1. 傾斜が増える
	5	白層 > D2・L層	1. 傾斜が増える
	6	白層 > D2・Y・L層	D2・W・A・S層が増える
	7	白層主体	
	8	D2・Y・L層主体	
	9	D2・L層 > 白層	1. 傾斜が増える
	10	D2・L層 > 白層	1. 傾斜が増える
	11	白層 > D2・L層	1. 傾斜が増える
	12	D2・L層 > 白層	1. 傾斜が増える
	13	D2・L層 > 白層	1. 傾斜が増える
	14	D2・L層 > 白層	1. 傾斜が増える
	15	D2・L・S層 > 白層	1. 傾斜が増える



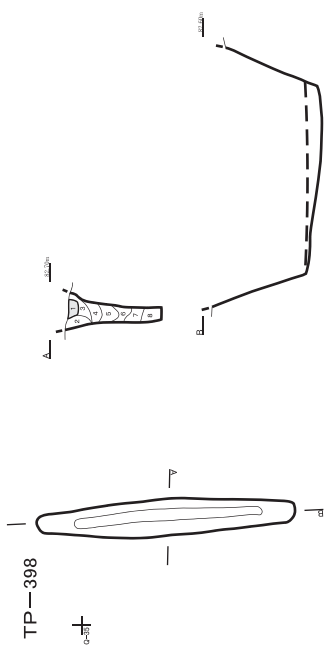
黒色土主体は第1・2・4層で、前二者は最上位のくぼみにみられる。中位は中央へ傾斜する層界で、下位の東側壁際は第11・12・13層が部分的に水平堆積する。壁はやや開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は曲線的にくぼむ。

遺構番号	断面図番号	土層	補注事項
TP-400	1	白層主体	1. 傾斜が増える
	2	白層 > D2・L・S層	D2・S層は曲線的である
	3	D2・L層 > 白層	D2・Y・L層主体
	4	D2・L層 > 白層	D2・Y・L層主体
	5	D2・Y・L層 > 白層	D2・Y・L層は曲線的である
	6	D2・Y・L層主体	1. 傾斜が増える
	7	D2・L層主体	1. 傾斜が増える
	8	D2・L層主体	1. 傾斜が増える
	9	D2・Y・L層主体	D2・Y・L層が増える
	10	D2・Y・L層主体	
	11	D2・Y・L層主体	
	12	D2・Y・L層主体	
	13	D2・Y・L層主体	
	14	D2・Y・L層主体	
	15	D2・Y・L層主体	



上位は黒色土主体、中～下位はT a-d 2主体で、層界はいずれも曲線的でくぼむ。南西側の壁のみ直立気味の立ち上がりで、掘り過ぎた坑底面では柱穴・杭穴 s p-1を確認した。

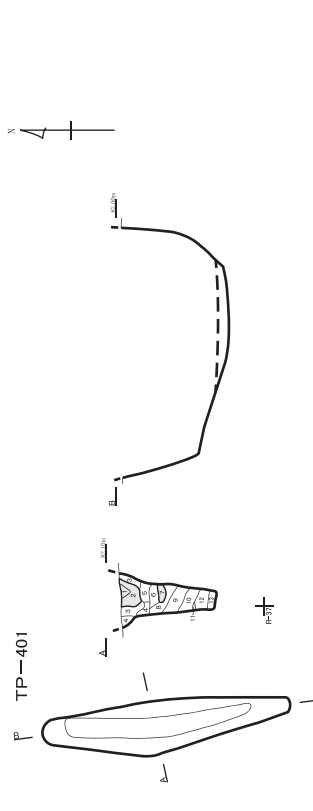
遺構番号	断面図番号	土層	補注事項
TP-396	1	白層主体	1. 傾斜が増える
	2	D2・L層 > 白層	D2・W・S層が増える
	3	D2・L層 > 白層	1. 傾斜が増える
	4	白層 > D2・L層	1. 傾斜が増える
	5	D2・L層 > 白層	1. 傾斜が増える
	6	D2・Y・L層主体	1. 傾斜が増える
	7	D2・Y・L層主体	1. 傾斜が増える
	8	D2・Y・L層主体	1. 傾斜が増える
	9	D2・Y・L層主体	1. 傾斜が増える
	10	D2・L・S層 > 白層	1. 傾斜が増える



最上位の中央のくぼみにのみ黒色土主体がみられ、層界はいずれもくぼみや傾斜がある。短軸方向の両壁の立ち上がりは直立気味で、坑底面は少し掘り過ぎた。

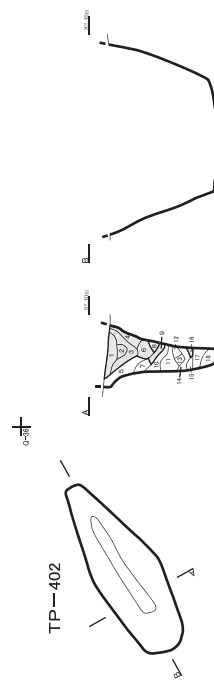
遺構番号	断面図番号	土層	補注事項
TP-398	1	白層 > D2・L層	1. 傾斜が増える
	2	D2・L層 > 白層	1. 傾斜が増える
	3	D2・L層 > 白層	1. 傾斜が増える
	4	D2・Y・L層主体	1. 傾斜が増える
	5	W層 > 白層	1. 傾斜が増える
	6	白層 > D2・Y・L層	1. 傾斜が増える
	7	D2・Y・L層主体	D2・Y・L層が増える
	8	D2・Y・L層主体	D2・Y・L層が増える

図186 上幌内5遺跡 TP-396・TP-398・TP-399・TP-400



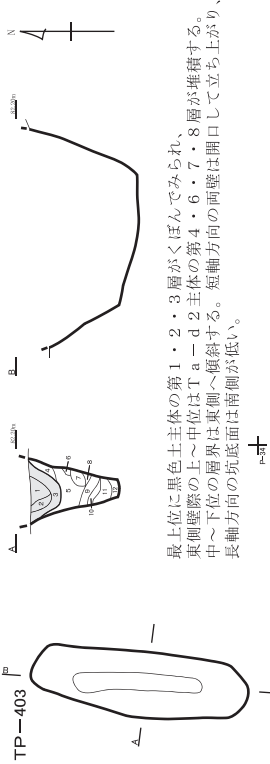
黒色土主体は第1・2・7層で、前二者は最上位の中央にくぼんで堆積し、後者は中位に部分的にみられる。T a-d 2 主体の第3層が縦長で、中位の第8・10層の層厚は東側へ傾斜し、中～下位の第9・11層はT a-d 1 主体である。短軸方向の壁は直立気味に立ち上がり、南側の坑底面は掘り過ぎた。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-401	1	B層主体	D 2・W・S層が埋まる
	2	B層 > D 2・S層	含有するD 2・S層は縦長である
	3	D 2・L・S層	
	4	D 2・L・S層 > B層	
	5	D 2・Y・L層 > B層	
	6	D 2・Y・L層 > B層	
	7	D 2・Y・L層 > B層	
	8	D 2・Y・L・S層主体	含有するD 2・Y・S層は縦長である
	9	D 1層主体	D 2・Y・L・S層が埋まる
	10	D 2・L層主体	D 1層が埋まる
	11	D 1層主体	D 1層が埋まる
	12	D 2・Y・L層主体	
	13	D 2・Y・L層主体	



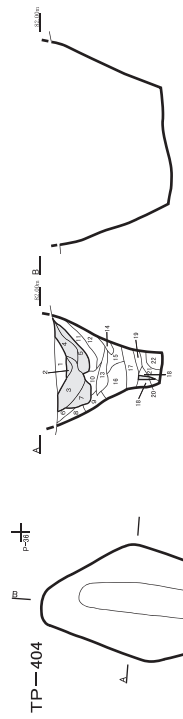
上～中位の北側寄りに黒色土主体の覆土が厚く、第5・7・9・10層はこの反対側から流れ込んだ様相である。中～下位は第12～16層が部分的にみられ、第8・10・13・18層はT a-d 1 主体である。短軸方向の壁は曲線的に屈曲し、長軸方向の坑底面は中央がゆるやかにくぼむ。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-402	1	B層主体	D 2・W・S層が埋まる
	2	B層 > D 2・S層	含有するD 2・S層は縦長である
	3	D 2・L・S層	
	4	B層 > D 2・L・S層	含有するD 2・S層は縦長である
	5	D 2・L・S層 > B層	
	6	D 2・L・S層 > B層	
	7	D 2・Y・L・S層 > B層	含有するD 2・S層は縦長である
	8	D 1層主体	D 2・L・S層 > D 2・Y・L・S層、B層が埋まる
	9	D 1層主体	
	10	D 1層主体	D 2・Y・L・S層が埋まる
	11	D 2・Y・L・S層主体	D 2・W・S層が埋まる
	12	D 2・L・S層主体	D 1層が埋まる
	13	D 2・Y・L・S層主体	
	14	D 2・Y・L・S層主体	
	15	D 1層主体	
	16	D 2・Y・L・S層	
	17	D 2・Y・L・S層主体	
	18	D 1層主体	D 2・Y・L層が埋まる



最上位に黒色土主体の第1・2・3層がくぼんでみられ、東側壁の上～中位はT a-d 2 主体の第4・6・7・8層が堆積する。中～下位の層厚は東側へ傾斜する。短軸方向の両壁は開口して立ち上がり、長軸方向の坑底面は南側が低い。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-403	1	B層主体	D 2・Y・L層が埋まる
	2	B層 > D 2・L層	
	3	D 2・L層 > B層	
	4	D 2・L層 > B層	
	5	D 2・L層 > B層	
	6	D 2・L層主体	含有するD 2・Y・S層は縦長で少量である
	7	D 2・L・S層主体	D 1層が埋まる
	8	D 2・Y・L層主体	
	9	D 2・Y・L層主体	
	10	D 1層主体	
	11	D 2・Y・L・S層主体	D 1層が埋まる
	12	D 2・S層主体	含有するD 2・Y・S層は少量である

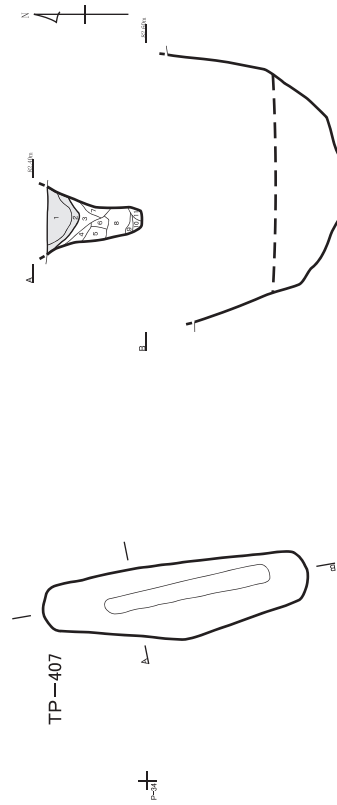


最上位中央はT a-d 2 主体で直下は黒色土主体の覆土が厚く、上～中位は掘り込んで中央へ傾斜する堆積である。下位は第18・19・22層がT a-d 1 主体で、第20層は柱穴・杭穴の可能性がある。短軸方向の両壁は中位付近でさらに開き、長軸方向の坑底面は北側がくぼむ。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-404	1	D 2・Y・L層 > B層	
	2	D 2・L層	
	3	B層主体	
	4	B層 > D 2・Y・L層	
	5	D 2・Y・L層 > B層	
	6	D 2・Y・L層 > B層	
	7	B層主体	D 2・Y・L層が少量埋まる
	8	D 2・Y・L・S層 > B層	
	9	D 2・Y・S層主体	
	10	D 2・Y・S層主体	
	11	D 2・Y・S層 > B層	
	12	D 2・Y・S層 > B層	
	13	D 2・Y・S層主体	
	14	D 2・Y・L層主体	D 2・Y・L層が少量埋まる
	15	D 2・Y・L層主体	
	16	D 2・Y・L・S層主体	D 2・Y・L層が埋まる
	17	D 2・Y・L・S層主体	B層とD 1層が埋まる
	18	D 1層主体	含有するD 2・Y・S層は少量である
	19	D 1層主体	D 2・Y・L層が埋まる
	20	B層主体	
	21	W層主体	
	22	D 1層主体	D 1層が埋まる

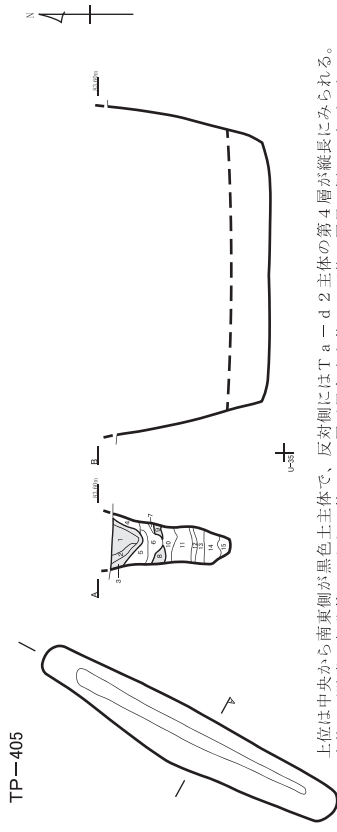
図187 上幌内5遺跡 TP-401・TP-402・TP-403・TP-404





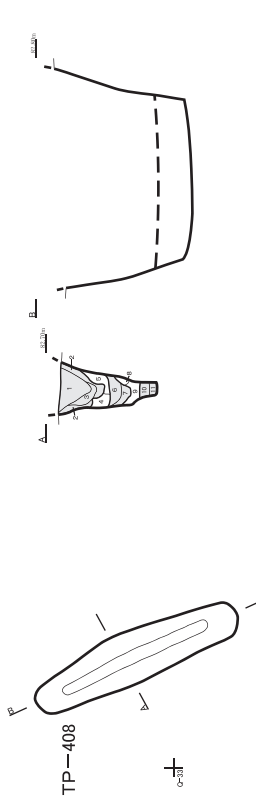
最上位は黒色土主体の第1・2層がみられ、直下の第3層の層界は中央へ急角度に傾斜し、このくぼみは両壁隙の中段の第4・5・6・7層が形づくる。  
短軸方向の両壁は上位がゆるやかに開き、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-407	1	白層主体	
	2	白層 > D2・L層	D2・L層が少量混入する
	3	D2・L・S層 > 白層	D2・L・S層が少量混入する
	4	D2・L・S層主体	含有するD2・S層は傾斜である
	5	D2・Y・L・S層主体	含有するD2・S層は傾斜である
	6	D2・Y・L層主体	含有するD2・S層は傾斜である
	7	D2・Y・L・S層主体	
	8	D2・Y・L・S層主体	D1層が少量混入する
	9	D2・S層主体	
	10	D2・Y・L層主体	
	11	D2・L・S層主体	D1層が少量混入する



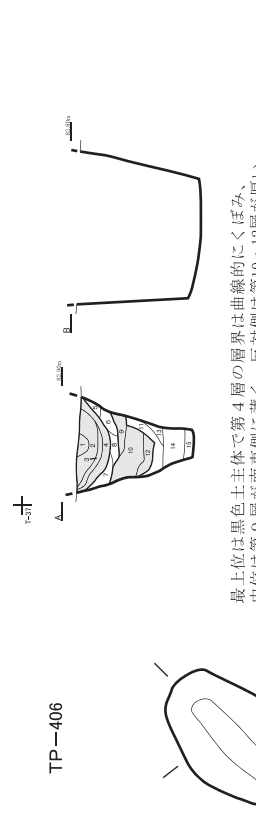
上位は中央から南東側が黒色土主体で、反対側にはT a-d 2主体の第4層が縦長にみられる。中段は両壁隙に部分的にみられる第8・9層が黒色土主体で、下位の層界は概して水平である。壁は立ち上がった下位で開口し、そこからはあまり開かず上位へ至り、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-405	1	白層主体	
	2	白層 > D2・L層	D2・Y・L・S層が少量混入する
	3	白層 > D2・L層	D2・Y・L・S層が少量混入する
	4	D2・L・S層	
	5	D2・L・S層 > 白層	D2・Y・L・S層が少量混入する
	6	D2・Y・L・S層主体	含有するD2・S層は少量である
	7	D2・Y・L・S層主体	砂層が少量混入する
	8	白層 > D2・L層	砂層が少量混入する
	9	白層 > D2・L層	含有するD2・S層は少量である
	10	D2・Y・L・S層主体	含有するD2・S層は少量である
	11	D2・Y・L・S層主体	D1層が少量混入する
	12	W6B層主体	
	13	W6B層主体	砂層が少量混入する
	14	W6B層主体	
	15	D2・L・S層主体	



覆土は黒色土主体とT a-d 2主体の層が交互にみられ、上位は中央へ傾斜し、下位は水平堆積である。下位で幅広くなる短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

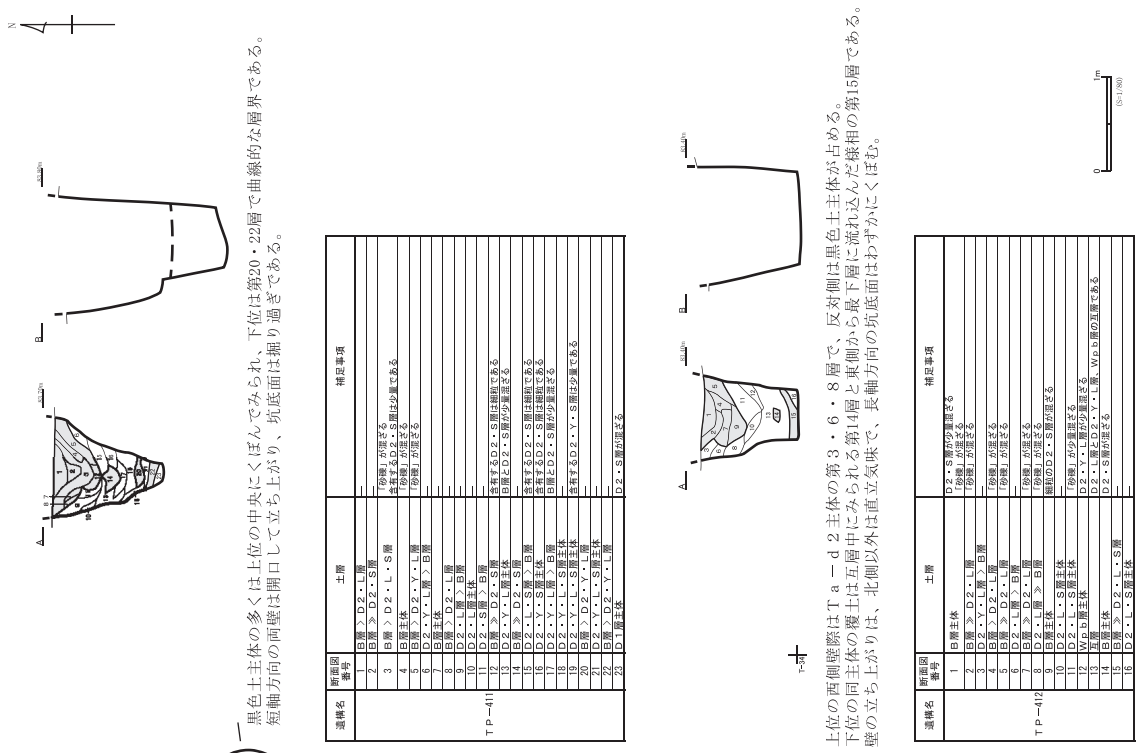
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-408	1	白層主体	
	2	白層 > D2・Y・L層	
	3	白層 > D2・Y・L層	
	4	白層 > D2・Y・L層	含有するD2・Y・S層は傾斜である
	5	D2・Y・L層主体	
	6	白層 > D2・Y・S層	含有するD2・Y・S層は傾斜である
	7	白層 > Y・L層	白層が混入する
	8	D2・Y・L層主体	
	9	D2・Y・L層 > 白層	
	10	白層 > D2・Y・L・S層	D1層が少量混入する
	11	白層主体	D2・L・S層が少量混入する



最上位は黒色土主体で第4層の層界は曲線的にくぼみ、中段は第9層が南東側に薄く、反対側は第10・12層が厚い。下位はT a-d 1主体の第14層が水平堆積する。短軸方向の両壁はゆるやかに開口し、長軸方向の坑底面は曲線的にくぼむ。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-406	1	白層主体	
	2	白層 > D2・L層	D2・S層が少量混入する
	3	白層主体	
	4	白層 > D2・L層	D2・S層が少量混入する
	5	白層 > D2・L層	D2・S層が少量混入する
	6	D2・Y・L層主体	D2・S層が少量混入する
	7	D2・L・S層 > 白層	含有するD2・S層は傾斜である
	8	D2・Y・L層主体	含有するD2・L・S層は少量である
	9	白層 > D2・L・S層	含有するD2・L・S層は少量である
	10	白層 > D2・L・S層	含有するD2・L・S層は少量である
	11	白層 > D2・L・S層	含有するD2・L・S層は少量である
	12	白層 > D2・L・S層	含有するD2・L・S層は少量である
	13	D2・S層主体	
	14	D2・L層主体	
	15	D2・L・S層主体	D1層が少量混入する

図188 上幌内5遺跡 TP-405・TP-406・TP-407・TP-408



黒色土主体の多くは上位の中央にくぼんでみられ、下位は第20・22層で曲線的な層界である。短軸方向の両壁は開口して立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

最上位は黒色土主体の第1層で、中位はT a - d 2 主体、最下層はT a - d 1 主体の覆土で、短軸方向の両壁は西側の上位が広がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-411	1	白濁 > D2・L層	
	2	白濁 > D2・S層	
	3	白濁 > D2・L・S層	砂層が埋まる
	4	白濁 > D2・L・S層	砂層が埋まる
	5	白濁 > D2・L・S層	砂層が埋まる
	6	D2・Y・L層 > 白濁	
	7	白濁主体	
	8	白濁 > D2・L層	
	9	白濁 > D2・L層	
	10	D2・L層主体	
	11	D2・S層 > 白濁	
	12	D2・Y・L層主体	白濁とD2・S層が少量埋まる
	13	D2・Y・L層主体	白濁とD2・S層が少量埋まる
	14	白濁 > D2・S層	
	15	D2・L・S層 > 白濁	埋まる
	16	D2・L・S層 > 白濁	埋まる
TP-412	1	D2・Y・L層 > 白濁	
	2	D2・Y・L層 > 白濁	
	3	D2・Y・L層 > 白濁	
	4	白濁 > D2・L層	
	5	白濁 > D2・L層	
	6	白濁 > D2・L層	
	7	白濁 > D2・L層	
	8	D2・L層 > 白濁	
	9	D2・L層 > 白濁	
	10	D2・L・S層主体	
TP-410	1	D2・L層主体	
	2	D2・L層主体	
	3	D2・L層主体	
	4	D2・L層主体	
	5	D2・L層主体	

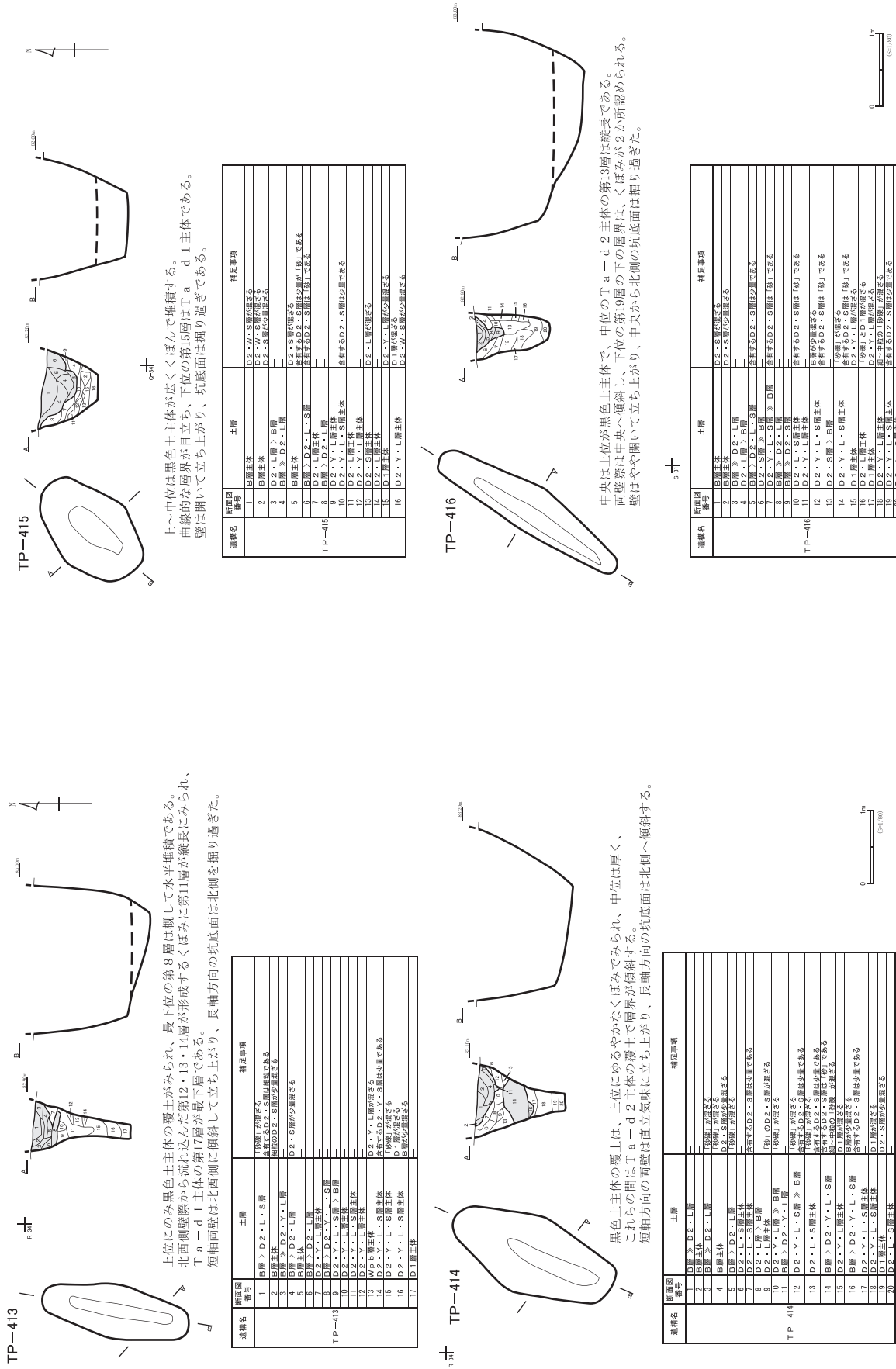
遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-409	1	白濁 > D2・S層	
	2	D2・L層 > 白濁	
	3	D2・L層 > 白濁	
	4	D2・Y・L層主体	
	5	D2・Y・L層主体	
	6	D2・L層主体	
	7	D2・L層主体	
TP-410	1	白濁主体	
	2	D2・Y・L層主体	
	3	D2・Y・L層主体	
	4	D2・Y・L層主体	
	5	D2・Y・L層主体	
	6	D2・Y・L層主体	
	7	D2・Y・L層主体	
	8	D2・Y・L層主体	
	9	D2・Y・L層主体	
	10	D2・Y・L層主体	
	11	D2・Y・L層主体	
	12	D2・Y・L層主体	
	13	D2・L層主体	
	14	D2・L層主体	
	15	D2・Y・L層	
	16	D2・Y・L層主体	

黒色土主体の覆土は最上位の第1・2層が南東から中央にみられ、直下の第4層と中位の第8層は柱穴・杭穴の存在が想定される。層界は上位は中央へ急角度に傾斜し、下位はゆるやかな傾斜する。短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、長軸方向の坑底面は北東側へ傾斜する。

上位の西側壁際はT a - d 2 主体の第3・6・8層で、反対側は黒色土主体が占める。下位の同主体の覆土は五層中にみられる第14層と東側から最下層に流れ込んだ縁相の第15層である。壁の立ち上がりは、北側以外は直立気味で、長軸方向の坑底面はわずかにくぼむ。

黒色土主体の覆土は最上位の第1・2層が南東から中央にみられ、直下の第4層と中位の第8層は柱穴・杭穴の存在が想定される。層界は上位は中央へ急角度に傾斜し、下位はゆるやかな傾斜する。短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、長軸方向の坑底面は北東側へ傾斜する。

図189 上幌内5遺跡 TP-409・TP-410・TP-411・TP-412



上～中位は黒色土主体が広くくぼんで堆積する。曲線的な層界が自立ちり、下位の第15層はT a - d 1 主体である。壁は開いて立ち上がり、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-415	1	白層主体	D2・W・S層が堆積する
	2	白層主体	D2・W・S層が堆積する
	3	D2・L層	D2・L層が少量堆積する
	4	白層 > D2・L層	
	5	白層主体	堆積が定まる
	6	白層 > D2・L・S層	堆積が定まる
	7	D2・L層主体	堆積が定まる
	8	D2・L・S層主体	堆積が定まる
	9	D2・V・L・S層主体	堆積が定まる
	10	D2・V・L・S層主体	堆積が定まる
	11	D2・V・L・S層主体	堆積が定まる
	12	D2・V・L・S層主体	堆積が定まる
	13	D2・L層が堆積する	
	14	D2・V・L・S層主体	D2・V・L・S層が少量堆積する
	15	D2・L層が堆積する	
	16	D2・V・L・S層主体	D2・W・S層が少量堆積する

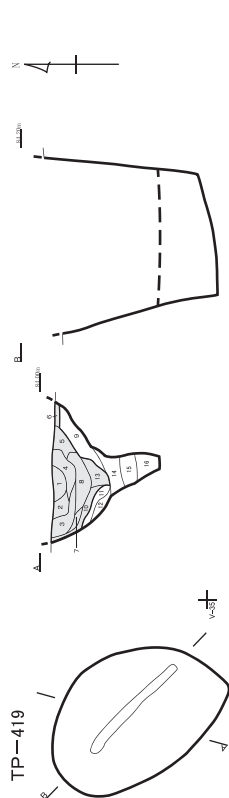
上位のみ黒色土主体の覆土がみられ、最下位の第8層は概して水平堆積である。北西側壁際から流れ込んだ第12・13・14層が縦長にみられ、T a - d 1 主体の第17層が最下層である。短軸面壁は北西側に傾斜して立ち上がり、長軸方向の坑底面は北側を掘り過ぎた。

遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-413	1	白層 > D2・L・S層	1物埋りが堆積する
	2	白層主体	1物埋りが堆積する
	3	白層 > D2・L層	堆積が定まる
	4	白層 > D2・L層	D2・S層が少量堆積する
	5	白層 > D2・L層	D2・S層が少量堆積する
	6	白層 > D2・L層	
	7	D2・V・L・S層主体	
	8	D2・V・L・S層主体	
	9	D2・V・L・S層主体	
	10	D2・V・L・S層主体	
	11	D2・V・L・S層主体	
	12	D2・V・L・S層主体	
	13	W層が堆積する	D2・V・L・S層が堆積する
	14	D2・V・L・S層主体	堆積が定まる
	15	D2・V・L・S層主体	D2・V・L・S層が少量堆積する
	16	D2・V・L・S層主体	D2・V・L・S層が少量堆積する
	17	D2・L層主体	白層が少量堆積する

黒色土主体の覆土は、上位にゆるやかにくぼみでみられ、中位は厚く、これらの間はT a - d 2 主体の覆土で層界が傾斜する。短軸方向の両壁は直立気味に立ち上がり、長軸方向の坑底面は北側へ傾斜する。

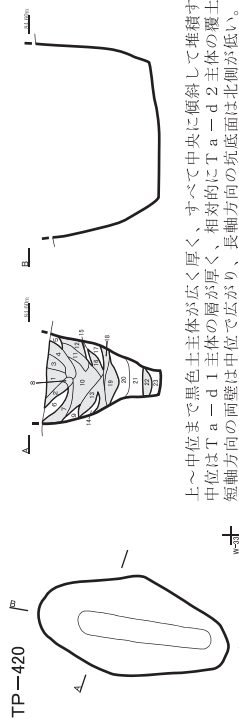
遺構名	断面図番号	土層	補足事項
TP-414	1	白層 > D2・L層	
	2	白層主体	
	3	白層主体	1物埋りが堆積する
	4	白層主体	1物埋りが堆積する
	5	白層主体	D2・S層が少量堆積する
	6	D2・L・S層主体	1物埋りが堆積する
	7	D2・L・S層主体	堆積が定まる
	8	D2・L層主体	堆積が定まる
	9	D2・L層主体	堆積が定まる
	10	D2・V・L・S層主体	1物埋りが堆積する
	11	白層 > D2・V・L層	1物埋りが堆積する
	12	D2・V・L・S層 > 白層	堆積が定まる
	13	D2・L・S層主体	堆積が定まる
	14	白層 > D2・V・L・S層	堆積が定まる
	15	D2・V・L・S層主体	堆積が定まる
	16	白層 > D2・V・L・S層	白層が少量堆積する
	17	D2・V・L・S層主体	堆積が定まる
	18	D2・V・L・S層主体	D2・V・L・S層が少量堆積する
	19	D2・L層主体	D2・L層が少量堆積する
	20	D2・L・S層主体	

図190 上幌内5遺跡 TP-413・TP-414・TP-415・TP-416



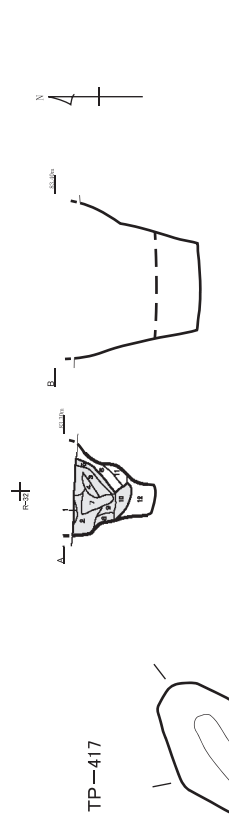
黒色土主体は上～中位に広く厚いが、北側の第6層は薄く、直下にT a - d 2 主体の覆土が斜めに堆積する。短軸の断面形状は左右非対称で中～下位は南側に傾き、坑底面は掘り過ぎである。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-419	1	B層 > D2・L層	D2・S層が浅くなる
	2	B層 > D2・L層	
	3	B層 > D2・L層	
	4	B層 > D2・L・S層	砂層が厚くなる
	5	B層 > D2・L・S層	D2・W/S層が浅くなる
	6	B層 > D2・L・S層	D2・W/S層が浅くなる
	7	B層 > D2・L層	D2・W/S層が浅くなる
	8	B層 > D2・L・S層 > B層	D2・W/S層が少量重なる
	9	D2・Y・L・S層 > B層	
	10	B層 > D2・Y・L層	
	11	D2・Y・L層 > B層	
	12	D2・Y・L層 > B層	
	13	B層 > D2・Y・L層	砂層が厚くなる
	14	D2・Y・L層 > B層	砂層が厚くなる
	15	D2・Y・L・S層 > B層	D2・S層が少量重なる
	16	D2・Y・L層 > B層	



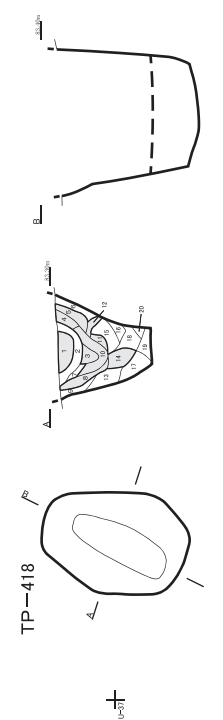
上～中位まで黒色土主体が広く厚く、すべて中央に傾斜して堆積する。中位はT a - d 1 主体の層が厚く、相対的にT a - d 2 主体の覆土が少ない。短軸方向の両壁は中位で広がり、長軸方向の坑底面は北側が低い。

遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-420	1	B層 > D2・L層	D2・W/S層が厚く傾斜する
	2	B層 > D2・L・S層	D2・W/S層が浅くなる
	3	B層 > D2・L・S層	砂層が厚くなる
	4	B層 > D2・L・S層	砂層が厚くなる
	5	D2・L層 > B層	D2・W/S層が少量重なる
	6	D2・L層 > B層	D2・W/S層が少量重なる
	7	D2・L層 > B層	D2・W/S層が少量重なる
	8	B層 > D2・L層	D2・S層が少量重なる
	9	D2・Y・L・S層 > B層	砂層が厚くなる
	10	B層 > D2・Y・L・S層	砂層が厚くなる
	11	B層 > D2・S層	砂層が厚くなる
	12	B層 > D2・S層	D2・W/S層が浅くなる
	13	B層 > D2・S層	D2・W/S層が浅くなる
	14	W/S層 > B層	D2・W/S層が浅くなる
	15	D2・Y・L層 > B層	D2・W/S層が浅くなる
	16	D2・Y・L層 > B層	D2・W/S層が浅くなる
	17	D1層 > B層	D2・W/S層が浅くなる
	18	B層 > D2・L・S層	D2・S層が少量重なる
	19	B層 > D2・Y・L層	D2・S層が少量重なる
	20	D1層 > B層	D2・S層が少量重なる
	21	B層 > D2・L層	D2・S層が少量重なる
	22	B層 > D2・L層	D2・S層が少量重なる
	23	D2・L・S層 > B層	



上～中位まで黒色土主体で、T a - d 2 主体の覆土は北側壁際に流れ込んだ第6・11層と、最下層の第12層である。短軸方向の両壁は屈曲があり、坑底面は掘り過ぎである。

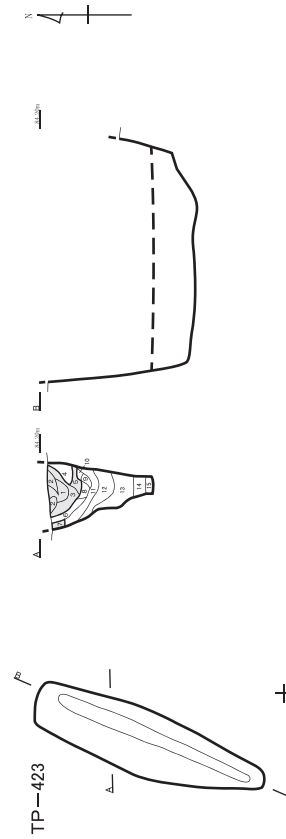
遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-417	1	B層 > D2・L層	
	2	B層 > D2・L層	D2・L層が傾斜して重なる
	3	B層 > D2・L層	D2・S層が少量重なる
	4	B層 > D2・L層	D2・S層が少量重なる
	5	B層 > D2・L層	D2・S層が少量重なる
	6	D2・L層 > B層	
	7	B層 > D2・L・S層	D2・S層が少量重なる
	8	B層 > D2・L・S層	D2・S層が少量重なる
	9	B層 > D2・L層	
	10	B層 > D2・L層	
	11	D2・Y・L層 > B層	
	12	D2・Y・L層 > B層	D2・Y・L層が少量重なる



上～中位まで黒色土主体が多いが、第1層の直下にT a - d 2 主体の第2層が堆積する。中～下位の層界は曲線的で傾斜する。短軸方向の壁はゆるやかで、坑底面は掘り過ぎである。

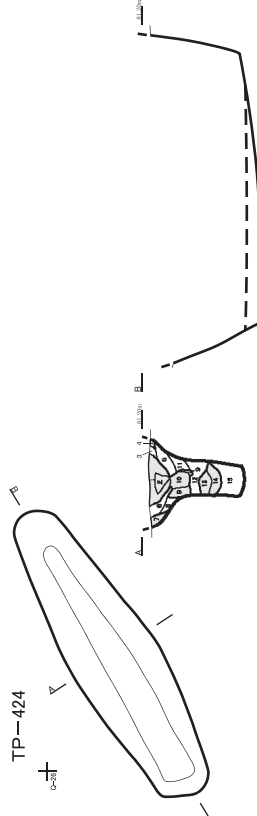
遺構名	断面図番号	土層	補注事項
TP-418	1	B層 > D2・L層	D2・S層が浅くなる
	2	D2・L層 > B層	
	3	B層 > D2・L・S層	D2・S層が少量重なる
	4	B層 > D2・L・S層	D2・S層が少量重なる
	5	B層 > D2・Y・L層	D2・S層が少量重なる
	6	D2・Y・L層 > B層	
	7	B層 > D2・L層	
	8	B層 > D2・L層	
	9	D2・L・S層 > B層	
	10	B層 > D2・L層	
	11	B層 > D2・Y・L層	
	12	B層 > D2・Y・L層	
	13	B層 > D2・Y・L層	
	14	B層 > D2・L・S層	D2・S層が少量重なる
	15	D2・Y・L層 > B層	D2・S層が少量重なる
	16	D2・L層 > B層	D2・S層が少量重なる
	17	D2・L・S層 > B層	D2・S層が少量重なる
	18	D2・L層 > B層	D2・S層が少量重なる
	19	D2・L層 > B層	D2・S層が少量重なる
	20	D2・L・S層 > B層	

図191 上幌内5遺跡 TP-417・TP-418・TP-419・TP-420



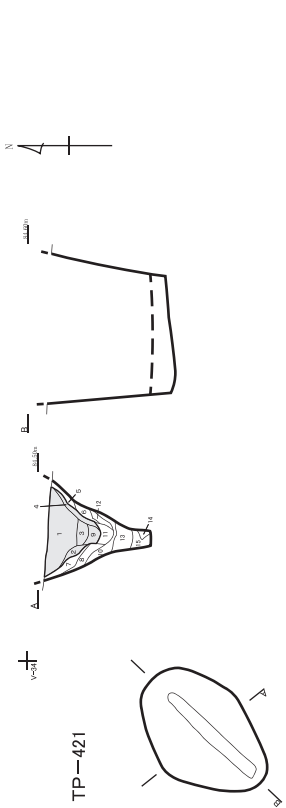
TP-423

断面図 番号	土層	構内事項
1	白層主体	
2	白層 > D2・L・S層	D2・W・S層が埋まる
3	白層主体	
4	白層 > D2・L層	
5	白層 > D2・L層	D2・W・S層が埋まる
6	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
7	D2・L・S層 > 白層	白層が埋まる
8	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
9	D2・L・S層 > 白層	白層が埋まる
10	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
11	D2・L・S層主体	白層が埋まる
12	D1層主体	白層が埋まる
13	D1層主体	白層が埋まる
14	D2・L・S層主体	D2・W・S層が埋まる
15	D2・Y・L層 > 白層	D2・S層が埋まる



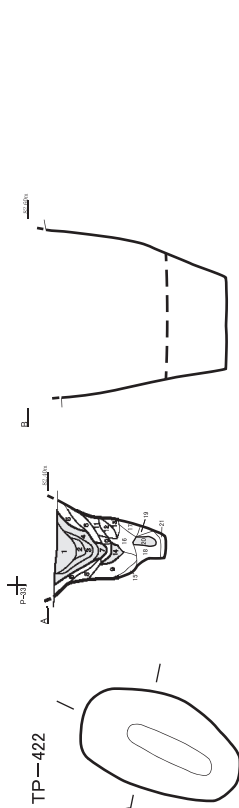
TP-424

断面図 番号	土層	構内事項
1	白層主体	
2	白層 > D2・L・S層	D2・W・S層が埋まる
3	白層主体	
4	白層 > D2・L層	
5	白層 > D2・L層	D2・W・S層が埋まる
6	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
7	D2・L・S層 > 白層	白層が埋まる
8	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
9	D2・L・S層主体	白層が埋まる
10	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
11	D2・L・S層主体	白層が埋まる
12	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
13	白層 > D2・L・S層	D2・W・S層が埋まる
14	白層主体	
15	D2・Y・L層 > 白層	D2・S層が埋まる



TP-421

断面図 番号	土層	構内事項
1	白層主体	
2	白層 > D2・L・S層	D2・W・S層が埋まる
3	白層主体	
4	白層 > D2・L層	
5	白層 > D2・L層	D2・W・S層が埋まる
6	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
7	D2・L・S層 > 白層	白層が埋まる
8	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
9	D2・L・S層 > 白層	白層が埋まる
10	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
11	D2・L・S層主体	白層が埋まる
12	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
13	D2・L・S層主体	白層が埋まる
14	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
15	D2・L・S層主体	白層が埋まる



TP-422

断面図 番号	土層	構内事項
1	白層主体	
2	白層 > D2・L・S層	D2・W・S層が埋まる
3	白層主体	
4	白層 > D2・L層	
5	白層 > D2・L層	D2・W・S層が埋まる
6	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
7	D2・L・S層 > 白層	白層が埋まる
8	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
9	D2・L・S層 > 白層	白層が埋まる
10	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
11	D2・L・S層主体	白層が埋まる
12	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
13	D2・L・S層主体	白層が埋まる
14	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
15	D2・L・S層主体	白層が埋まる
16	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
17	D2・L・S層主体	白層が埋まる
18	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
19	D2・L・S層主体	白層が埋まる
20	D2・Y・L層 > 白層	白層が埋まる
21	D2・L・S層主体	白層が埋まる

図192 上幌内5遺跡 TP-421・TP-422・TP-423・TP-424

表58 上幌内5遺跡 竪穴住居跡一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)				付属遺構	出土遺物			重複関係		備考	
					確認面		床面・坑底面			最大深	土器	剥片石器	礫石器 レキ	切る		切られる
					長径	短径	長径	短径								
H-1	80	32	b・c・d-44・45・46区	楕円形	7.60	5.16	7.30	4.40	0.54	段・1 土坑:1 柱穴・杭穴:3	I群 石楯・ナイフ フレイク	磨製石斧 砥石 台石・石皿 U・Rレキ レキ	TP-17・TP-18 と重複	—	不明	

表59 上幌内5遺跡 竪穴住居跡付属遺構一覧表

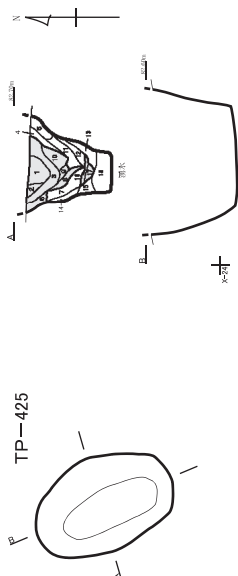
遺構	付属遺構名	種別	図	図版	形態		規模 (m)				出土遺物			備考	
					平面	断面	確認面		底面・坑底面		最大深	土器	剥片石器		礫石器
							長径	短径	長径	短径					
H-1	—	段	80	—	不整な楕円形	—	2.80	1.54	2.52	1.18	(0.12)	—	—	—	
	hD-1	土坑		32	楕円形	—	0.76	0.46	0.64	0.36	0.06	—	—	砥石 U・Rレキ	
	hD-2	—		32	円形	丸	—	0.28	—	0.20	0.20	—	—	—	
	hD-3	柱穴・杭穴		32	円形	隅丸	—	0.14	—	—	0.08	—	—	—	
	hD-4	—		—	円形	隅丸	—	0.24	—	0.08 / 0.10	0.06	—	—	—	

表60 上幌内5遺跡 土坑一覧表

遺構名	図	図版	地区		グリッド	平面形態	規模 (m)				付属遺構	出土遺物			備考	
			大区分	小区分			確認面		底面・坑底面			最大深	土器	剥片石器		礫石器等
							長径	短径	長径	短径						
P-1	81	33	L	1地区	a-37区	楕円形	1.23	0.76	0.76	0.45	0.24	—	—	—	—	
P-2	81	33	L	3地区	k-54区	楕円形	1.23	0.67	0.63	0.22	0.52	—	—	—	—	
P-3	82	33	L	3地区	j・k-53区	楕円形	1.84	1.53	1.00	0.42	0.84	—	IV群	—	台石・石皿 U・Rレキ	
P-4	82	33	L	3地区	i-53区	楕円形	1.11	0.95	0.90	0.56	0.28	—	—	—	台石・石皿 U・Rレキ レキ	
P-5	83	34	L	3地区	i-53区	楕円形	1.06	0.66	0.70	0.15	0.32	—	—	—	—	
P-6	83	34	L	3地区	h-54区	楕円形	1.63	1.38	1.23	1.07	0.34	—	—	つまみ付きナイフ フレイク	磨製石斧 U・Rレキ レキ	
P-7	84	34	L	3地区	g-53区	楕円形	1.63	1.41	1.34	1.06	0.34	—	—	フレイク	台石・石皿 レキ	
P-8	84	34	L	3地区	d-43区	楕円形	1.80	(0.37)	1.56	(0.28)	0.36	—	—	—	—	

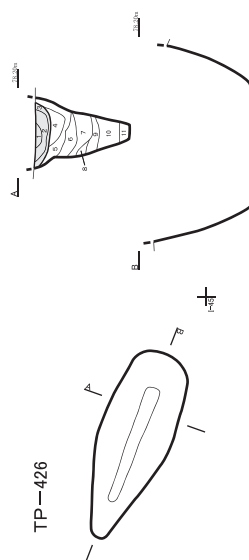
表61 上幌内5遺跡 SP一覧表

遺構名	図	図版	地区		グリッド	坑底面形態	確認面長径	規模 (m)		特徴	出土遺物	備考
			大区分	小区分				坑底面長径	深さ			
SP-1	85	34	L	3地区	i-55区	円形	平	0.12	0.04	0.20	斜め	—



最上位は中央から西側に黒色土主体が中央にくぼんでみられ、東側からはT a-d 2主体が流れ込んだ様相である。層界から水平堆積の礫土はない。短軸方向の両壁は屈曲がみられ曲線的で、長軸方向の坑底面は北側へ傾斜する。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-425	2	B層主体	D2・S層が埋まる。
	3	B層主体	D2・W・S層が埋まる。
	4	D2・Y・L・S層	D2・W・S層が埋まる。
	5	D2・Y・L・S層	D2・W・S層が埋まる。
	6	D2・Y・L・S層	D2・W・S層が埋まる。
	7	D2・Y・L・S層	D2・W・S層が埋まる。
	8	B層主体	D2・S層が埋まる。
	9	B層主体	D2・S層が埋まる。
	10	B層主体	D2・S層が埋まる。
	11	D2・L層	D2・S層が埋まる。
	12	D2・L層	D2・S層が埋まる。
	13	D2・L層	D2・S層が埋まる。
	14	D2・S層主体	D2・S層が埋まる。
	15	D2・S層主体	D2・S層が埋まる。
	16	D2・Y・L・S層	D2・S層が埋まる。
	17	B層主体	D2・S層が埋まる。
	18	D2・S層主体	D2・S層が埋まる。



上位は黒色土主体が浅く、中～下位は曲線的にくぼむ層界にT a-d 2主体の礫土がみられ、最下層は水平堆積である。壁はいずれも曲線的で、長軸方向の坑底面は中央が曲線的にくぼむ。

遺構名	断面図番号	土層	補記事項
TP-426	2	B層主体	D2・W・S層が埋まる。
	3	B層主体	D2・W・S層が埋まる。
	4	D2・Y・L・S層	D2・W・S層が埋まる。
	5	D2・Y・L・S層	D2・W・S層が埋まる。
	6	D2・Y・L・S層	D2・W・S層が埋まる。
	7	D2・Y・L・S層	D2・W・S層が埋まる。
	8	D2・Y・L・S層	D2・W・S層が埋まる。
	9	D2・Y・L・S層	D2・W・S層が埋まる。
	10	D2・Y・L・S層	D2・W・S層が埋まる。
	11	D2・Y・L・S層	D2・W・S層が埋まる。

図193 上幌内5遺跡 TP-425・TP-426















## VIII章 上幌内5遺跡 V層の遺構・包含層の出土遺物

### 1. 概要

本遺跡のV層の遺構・包含層出土遺物をまとめて記載する。ほとんどが遺構確認調査であったので、包含層出土の遺物は少なく、土器は8点、石器377等点、合計385点出土した。

#### 包含層出土点数表(表67~69)

土器はV層出土が2点、I層・F層(風倒木痕)出土が6点で、I・III・IV群である。剥片石器は、約95%が黒曜石のフレイクで、石鏃5点、スクレイパー2点、U・Rフレイク2点、石核1点が出土した。礫石器・石製品・レキは84%がレキである。多い順に台石・石皿16点、砥石6点、たたき石3点、すり石3点、磨製石斧2点、石製品1点で、過半数以上がF層出土である。

#### 出土分布図(図194~198)

I群土器はe-50区、III群土器はU-52区、c-46区、h-54区、IV群土器はd-56区から4点出土した。石鏃が出土したグリッドは4か所で、U・RフレイクはS-33・35区、石核はV-53区の出土である。磨製石斧はR-33区、たたき石はL-3地区、すり石は2か所、砥石は4か所のグリッドから出土した。台石・石皿は強いていえば南側に多い。

### 2. 土器

#### (1) 破片土器(図199 表70 図版106)

##### 遺構出土(1~9)

1はH-1出土で、RL縄線文と縄文が施される。2・3はP-3出土で、2は節の形状からLRの別原体による施文と判断され、3は底部近くで内面が剥離する。4はTP-27出土で撚りの異なる原体の羽状縄文がみられる。5はTP-26出土で絡条体圧痕文が施される。6はTP-40出土、7はTP-50出土、8はTP-54出土で、結束第1種羽状縄文がみられる。9はTP-81出土、10はTP-311出土で、斜行縄文がみられる。

1・5はI群b類、2~4・9・10はIV群a類、6~8はIII群b類と考えられる。

##### 包含層出土(11~15)

11は突起を有し、貼付帯上に貝殻腹縁文が縦位に施される。I群a類と考えられる。12は口唇部が内面に顕著に張り出し、外面は貼付帯と撚り戻し原体による縄文がみられる。13は撚紐により施文された貼付帯とRL縄文がみられる。14はLR縄文と半截竹管状工具による刺突文が施され、III群b類と判断される。15は底部近くで、LR縄文が浅く観察され、IV群a類と考えられる。

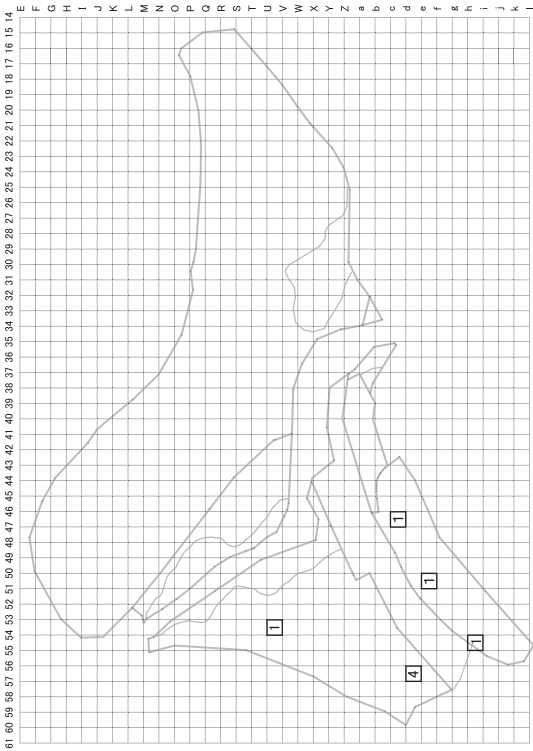
### 3. 石器等

#### (1) 遺構出土の石器(図200~205 表71 図版106~109)

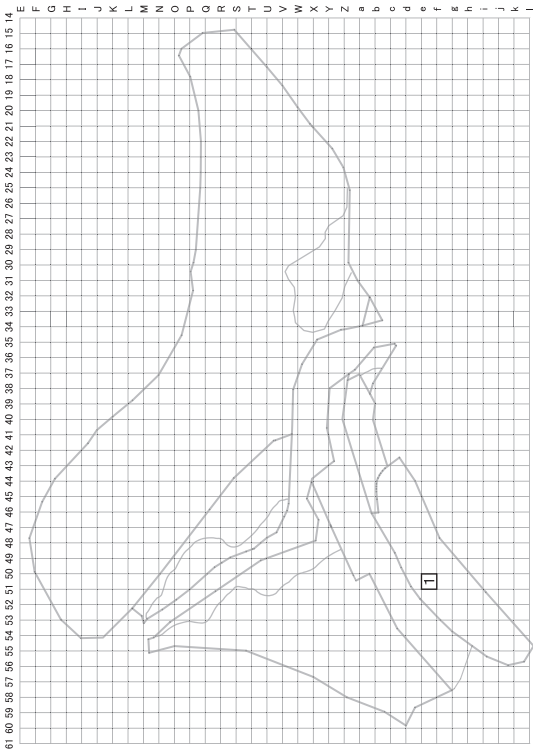
##### 剥片石器(1~13)

1~3はH-1出土の石鏃で、1は腹面右側縁部の一部、2は先端部を破損する。3は周縁のみ加工が施される。4はP-6出土のつまみ付きナイフで、上部の作出は両面調整である。5はTP-8出土で非対称である。6は直線距離で4.5m離れたTP-33・36出土が接合し、表面は透明な結晶が集中する。7は表面に原礫面を残し、右側縁に加工らしき痕跡がみられる。8はTP-72出土で、背

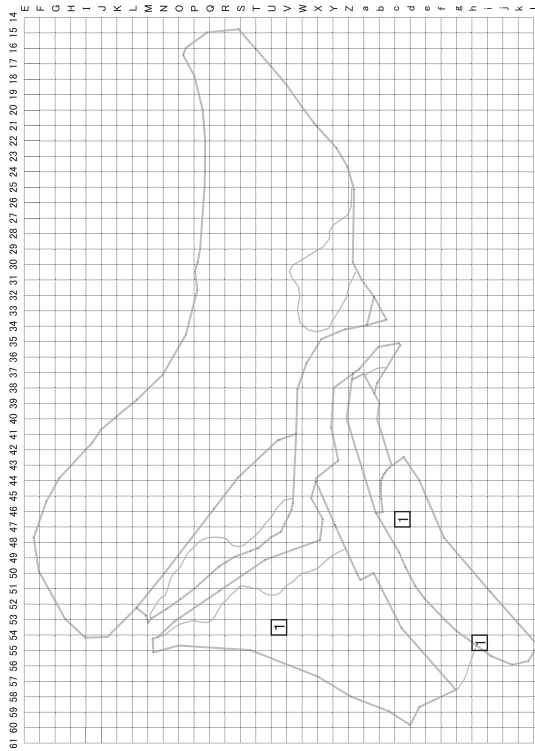
土器 総点数



I 群土器



皿 群土器



IV 群土器

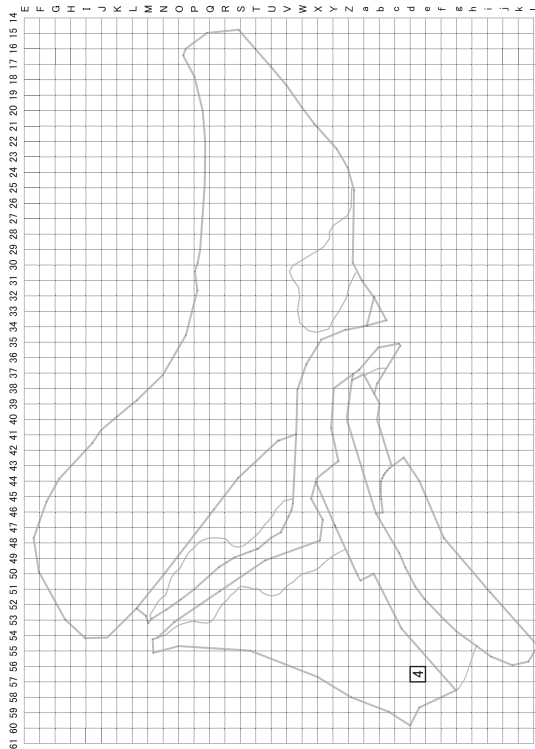
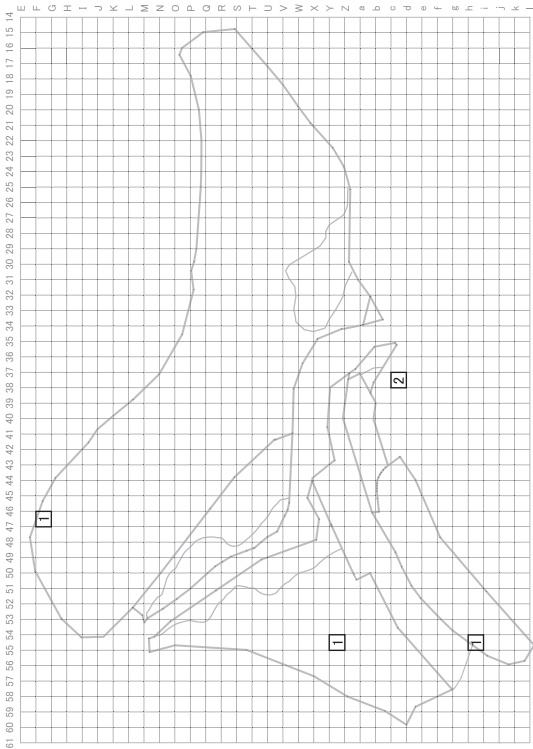
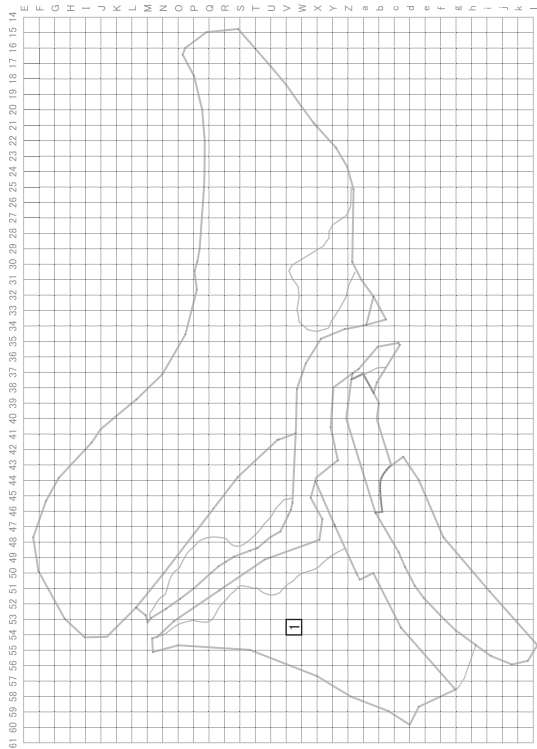


図194 上幌内 5 遺跡 遺物出土分布図(1)

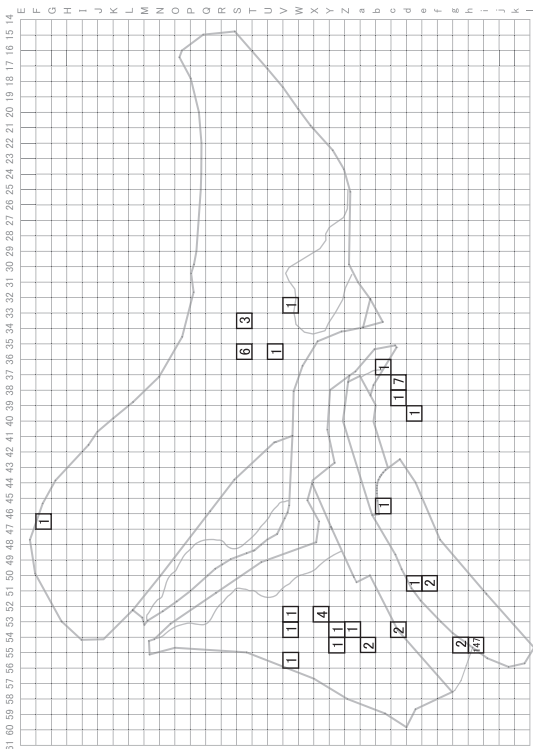
石鏃



石核



剥片石器 総点数



U・Rフレイク

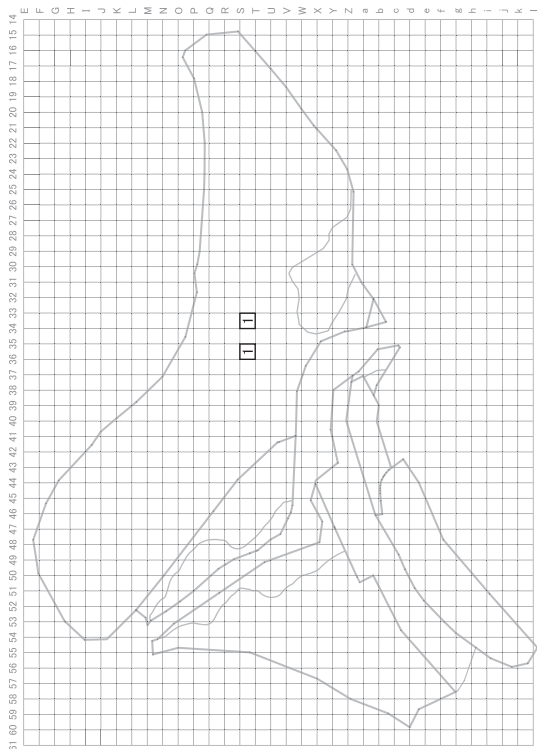
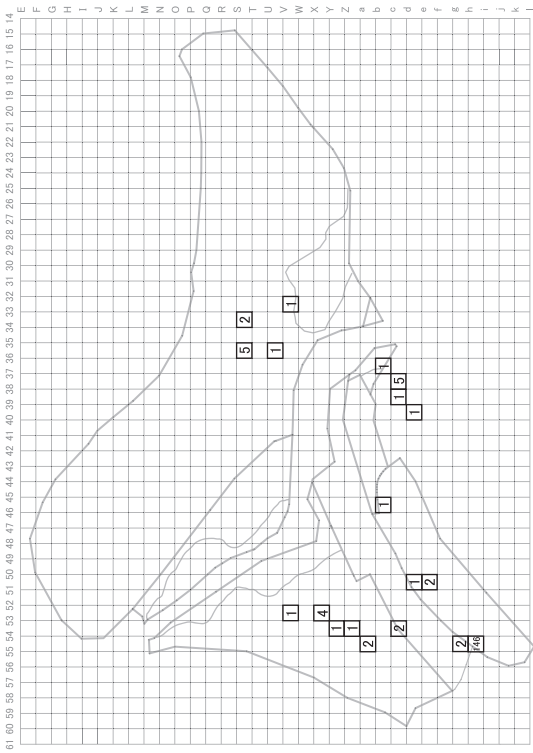
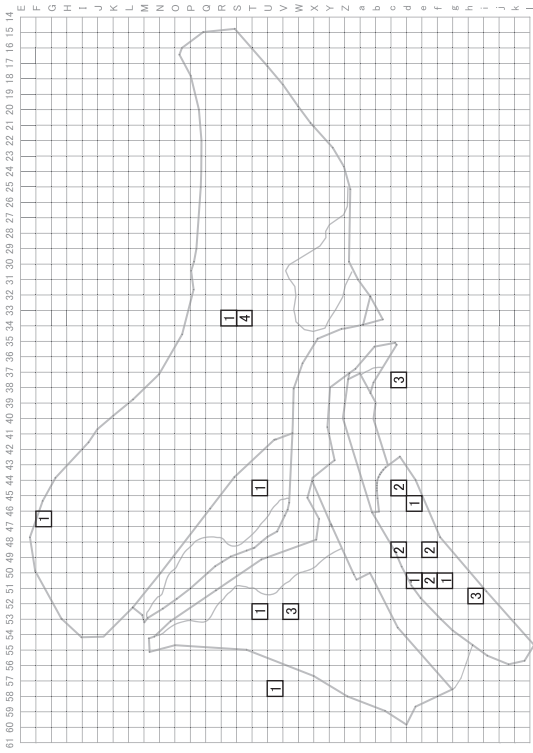


図195 上幌内5遺跡 遺物出土分布図(2)

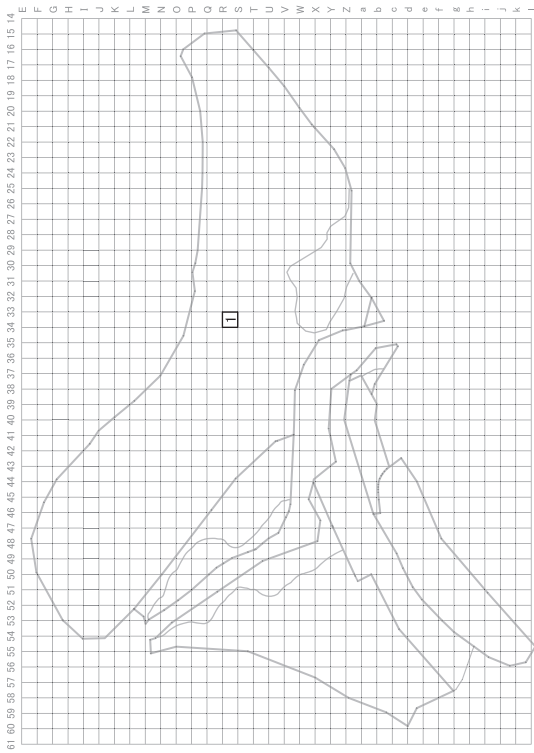
フレイク



礫石器 総点数



磨製石斧



たたき石

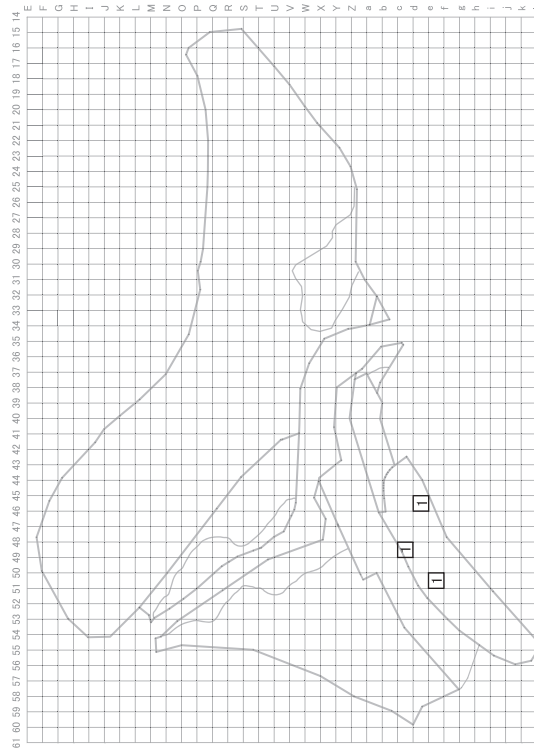
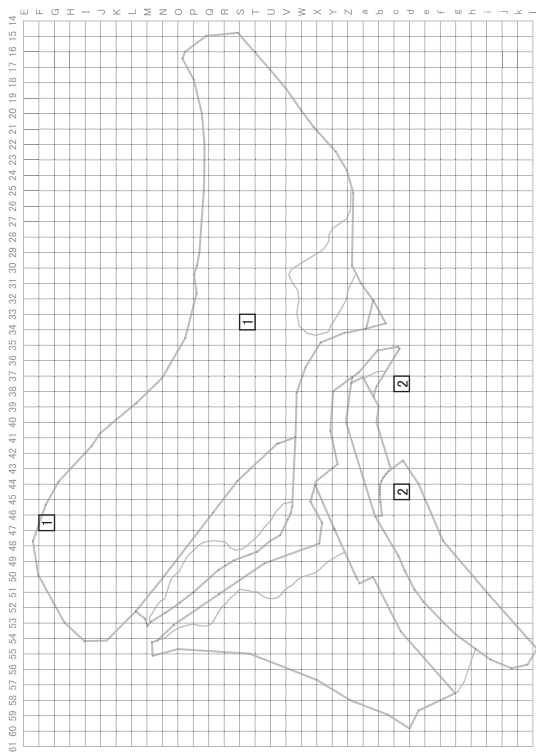


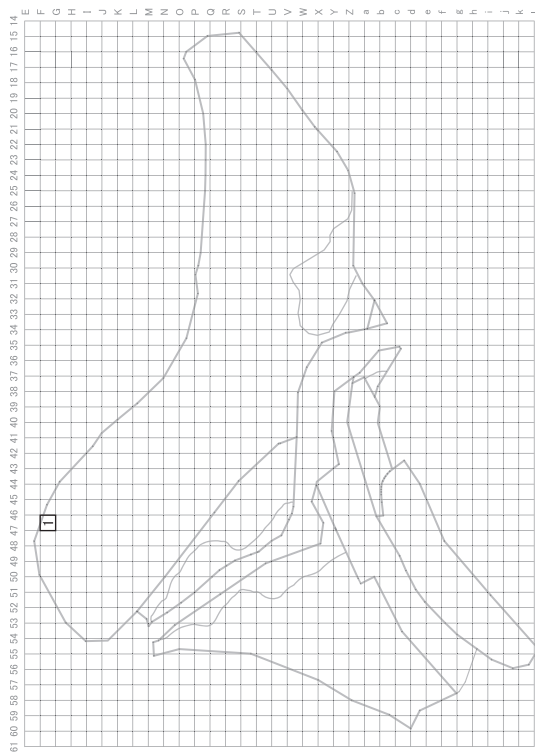
図196 上幌内5遺跡 遺物出土分布図(3)



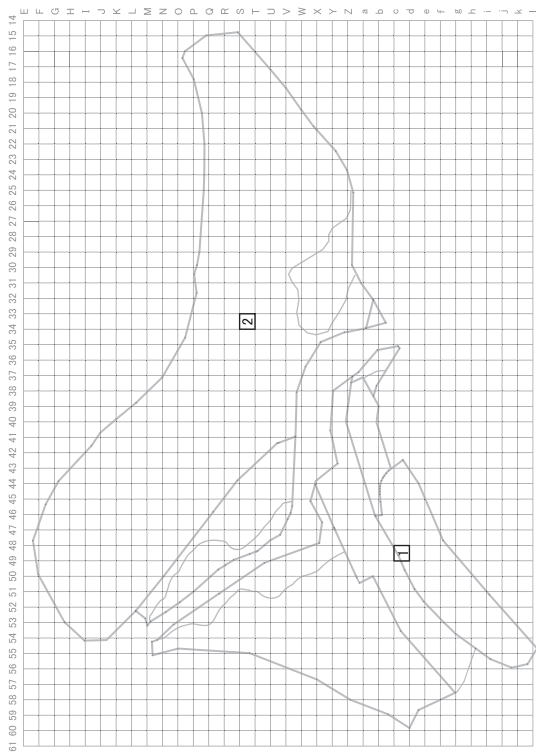
砥石



石製品



すり石



台石・石皿

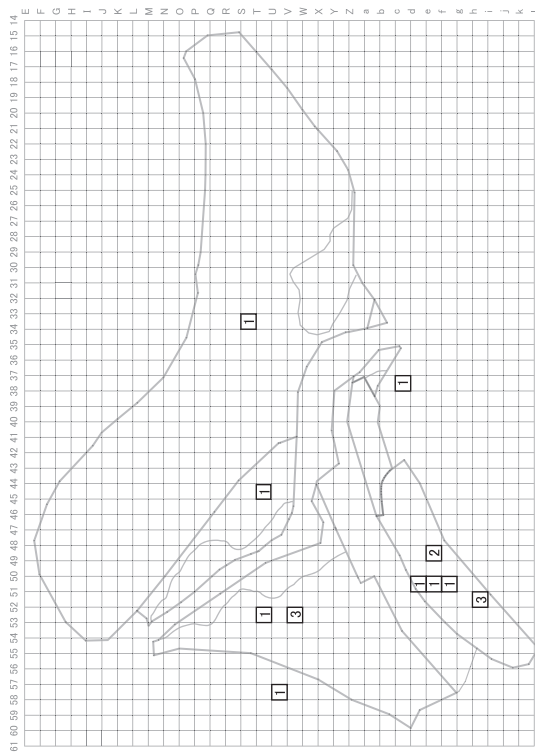


図197 上幌内5遺跡 遺物出土分布図(4)

U・Rレキ レキ 総点数



U・Rレキ



レキ



図198 上幌内5遺跡 遺物出土分布図(5)

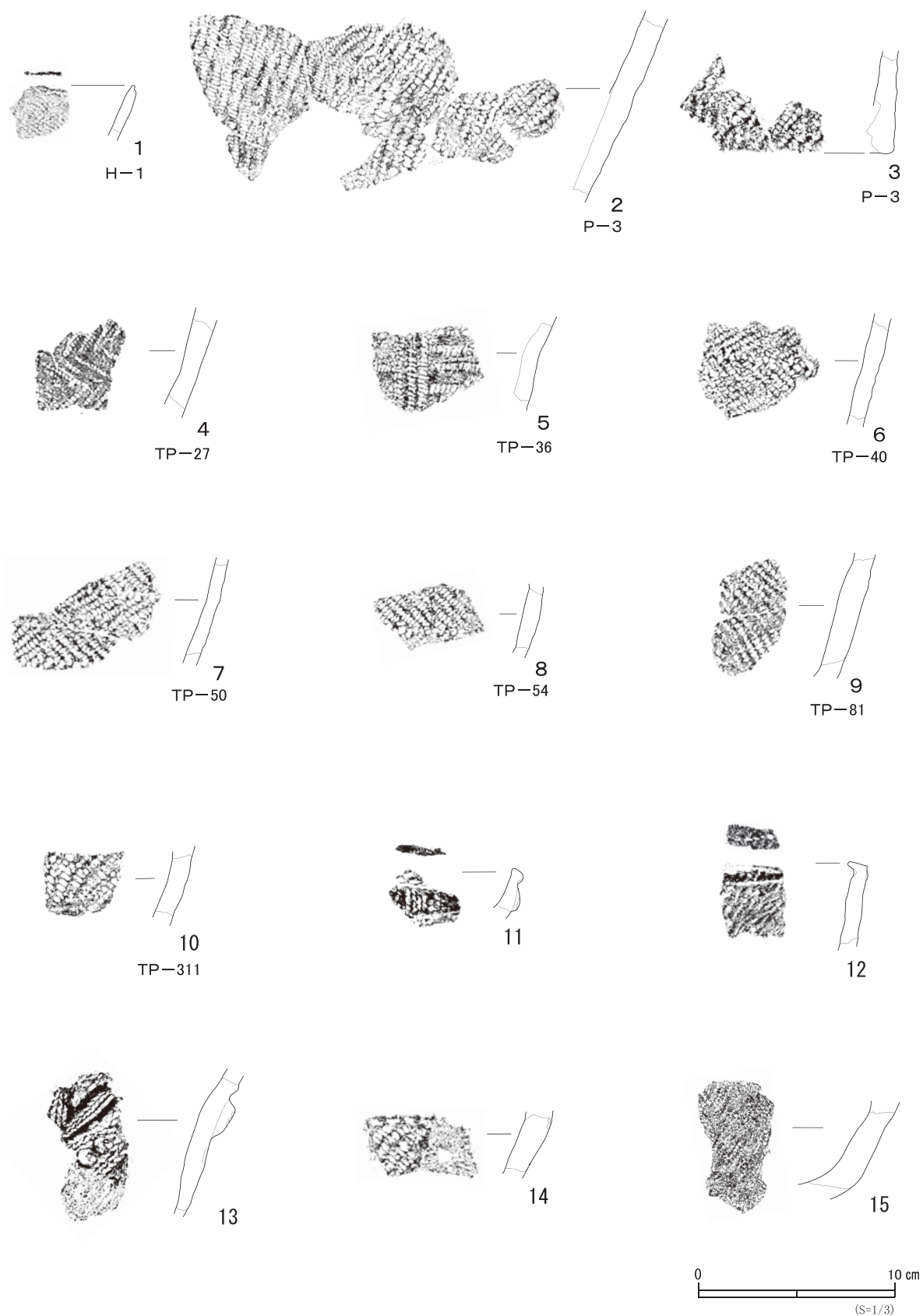


図199 上幌内5遺跡 遺構・包含層出土の破片土器

面の中央部分に高まりを残す。9はTP-74出土で原礫面と剥離面がみられる。10はTP-108出土で、基部のみで石鏃かもしれない。11はTP-238出土で、薄手で二等辺三角形である。12はTP-263出土で、基部のみである。13はTP-311出土で、腹面は槌状剥離が目立つ。

#### 礫石器(14~38)

##### H出土

14はやや粗粒の砂岩の砥石で、15は台石・石皿で左側を破損する。

##### P出土

16はP-4出土で使用面は明瞭にくぼみ、17は加工・使用痕と判断できる部分はみられない。18は中央に曲線的にくぼむ使用痕がみられ、19は表面全体にすり痕、中央にたたき痕がみられる。

##### TP出土

20はTP-36出土で、接合した表面に使用痕がみられる。21はTP-54出土で、表面と右側面にたたき痕がみられる。22はTP-59出土で、概して直方体の礫岩を用いている。23・24はTP-61出土である。23は全体にすり痕、部分的にたたき痕がみられ、24は厚みのある石材で、曲線的にくぼむ使用痕がみられる。25はTP-64出土で、下端面は直線化した使用痕があり、敲打による加工がある。26はTP-66出土で、棒状の礫を素材とし表面と下端面にたたき痕が観察される。27はTP-80出土で、下端に平滑なすり面と表面に敲打による加工がみられ、形状は似ないが北海道式石冠とも考えられる。28はTP-106出土、29はTP-108出土で、すり痕とたたき痕がみられる。30はTP-136出土で、表裏両面に使用痕が観察される。31~34はTP-143出土で、31のたたき石は下端面に使用痕がみられ、32は使用により直線化したと思われる三つの辺がある。33のすり石は、使用面が素材の軸に対し傾斜する。34は厚みのある中粒の砂岩を素材とする。35~37はTP-266出土で、35は表面の下側にたたき痕がみられ、36・37は扁平な楕円礫を素材とするすり石である。38は磨製石斧の刃部である。

#### (2) 包含層出土の石器(図206 表71 図版109)

##### 剥片石器(1~6)

1~4は黒曜石の石鏃である。1は基部を破損し、2は腹面の中央から基部側に剥離面を残す。3は先端部側を破損し、4の両側縁はやや曲線的である。5は両面調整で、背面右側縁部の大きな剥離面はざらつきがあり、被熱と考えられる。6は灰白色のチャートで剥離面が複数みられる。

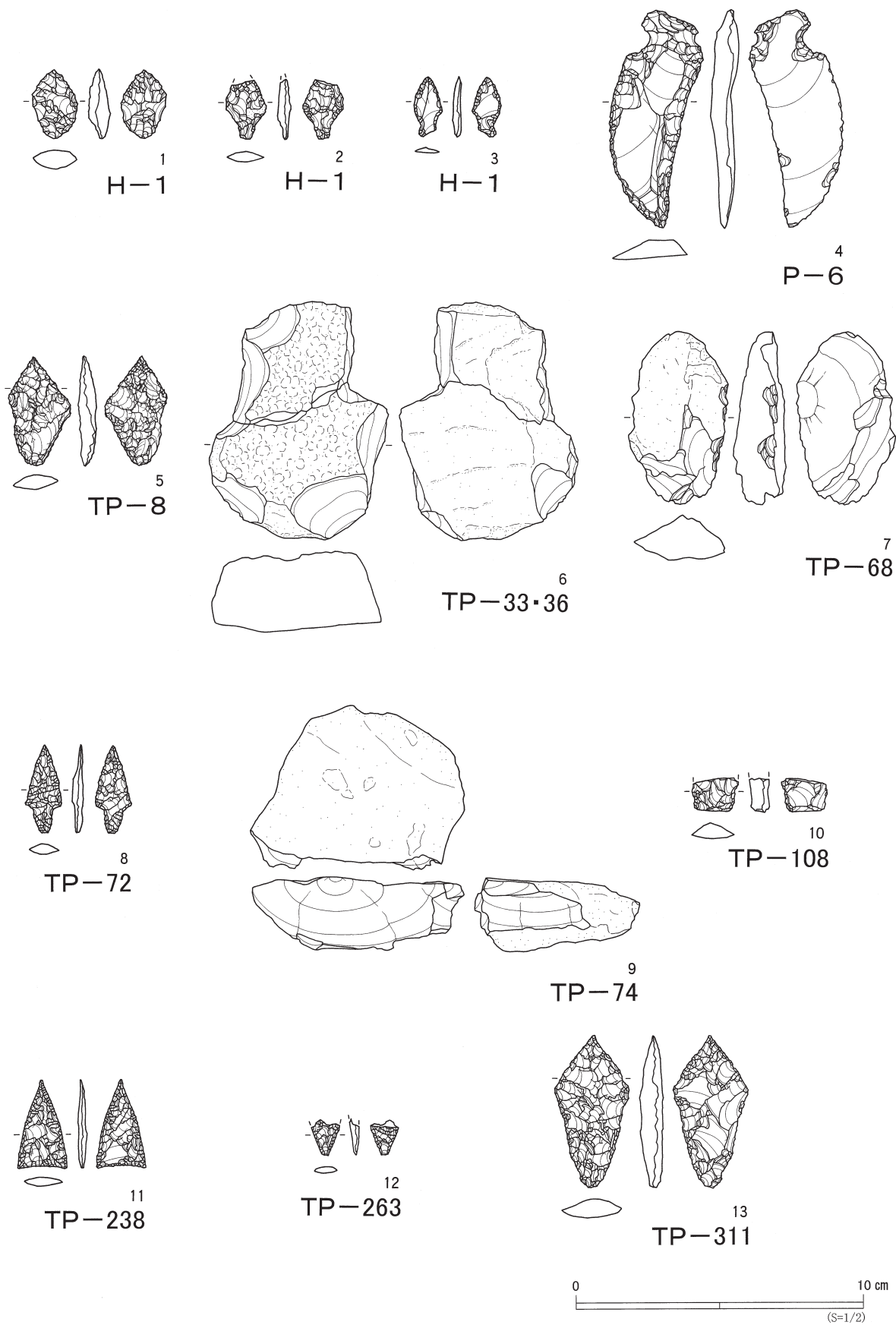


図200 上幌内5遺跡 遺構出土の剥片石器

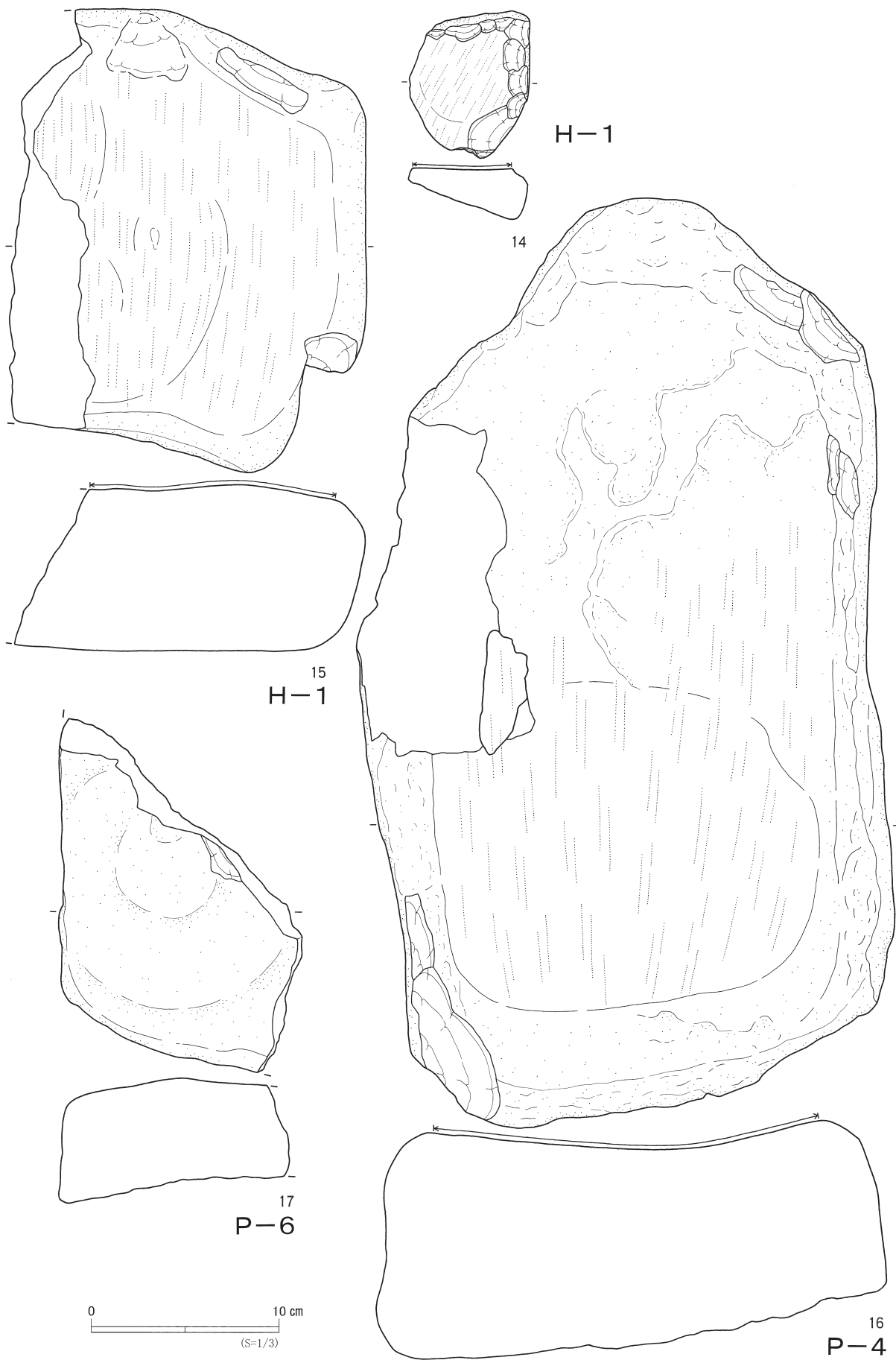


図201 上幌内5遺跡 遺構出土の礫石器(1)

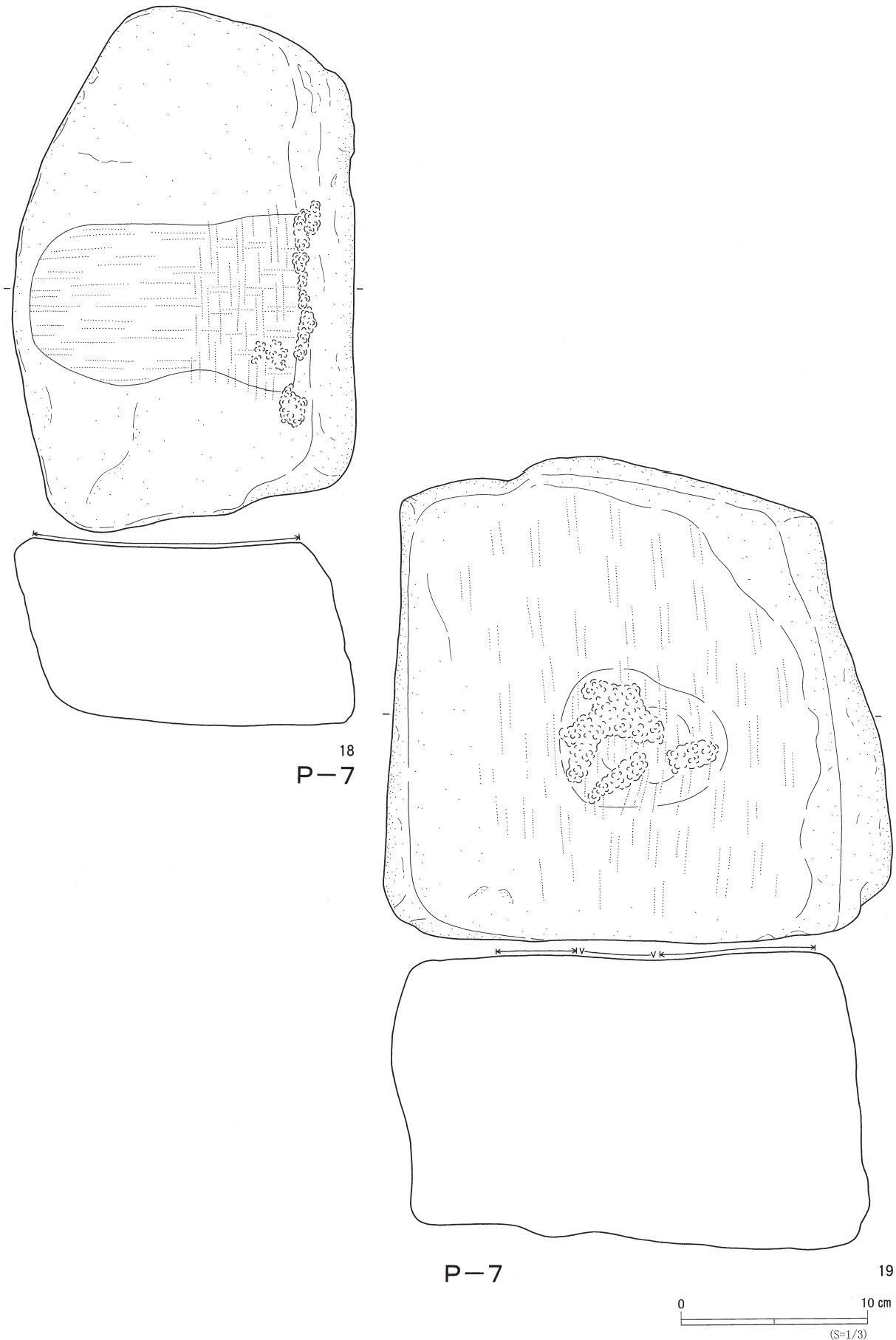


図202 上幌内5遺跡 遺構出土の礫石器(2)

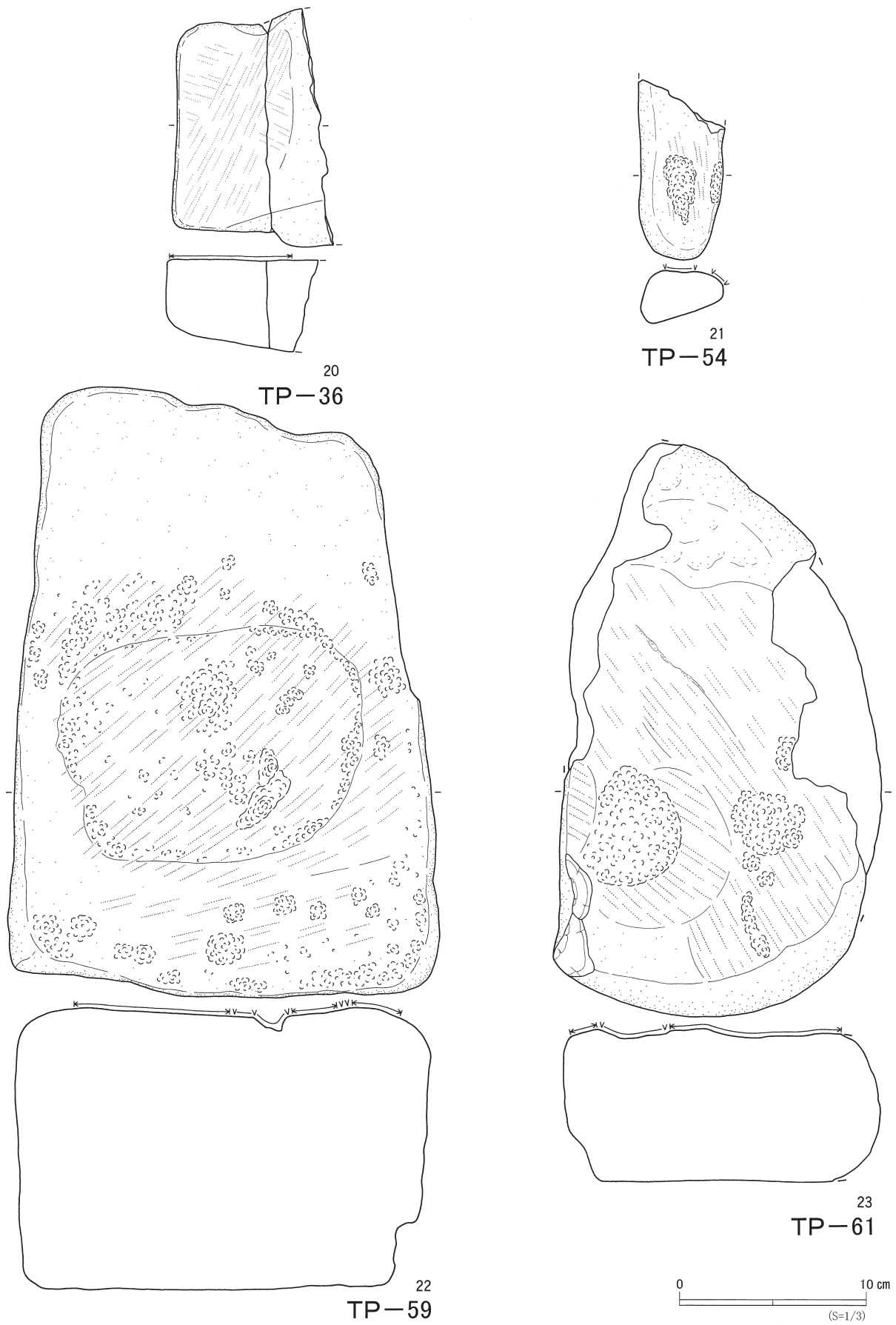


図203 上幌内5遺跡 遺構出土の礫石器(3)



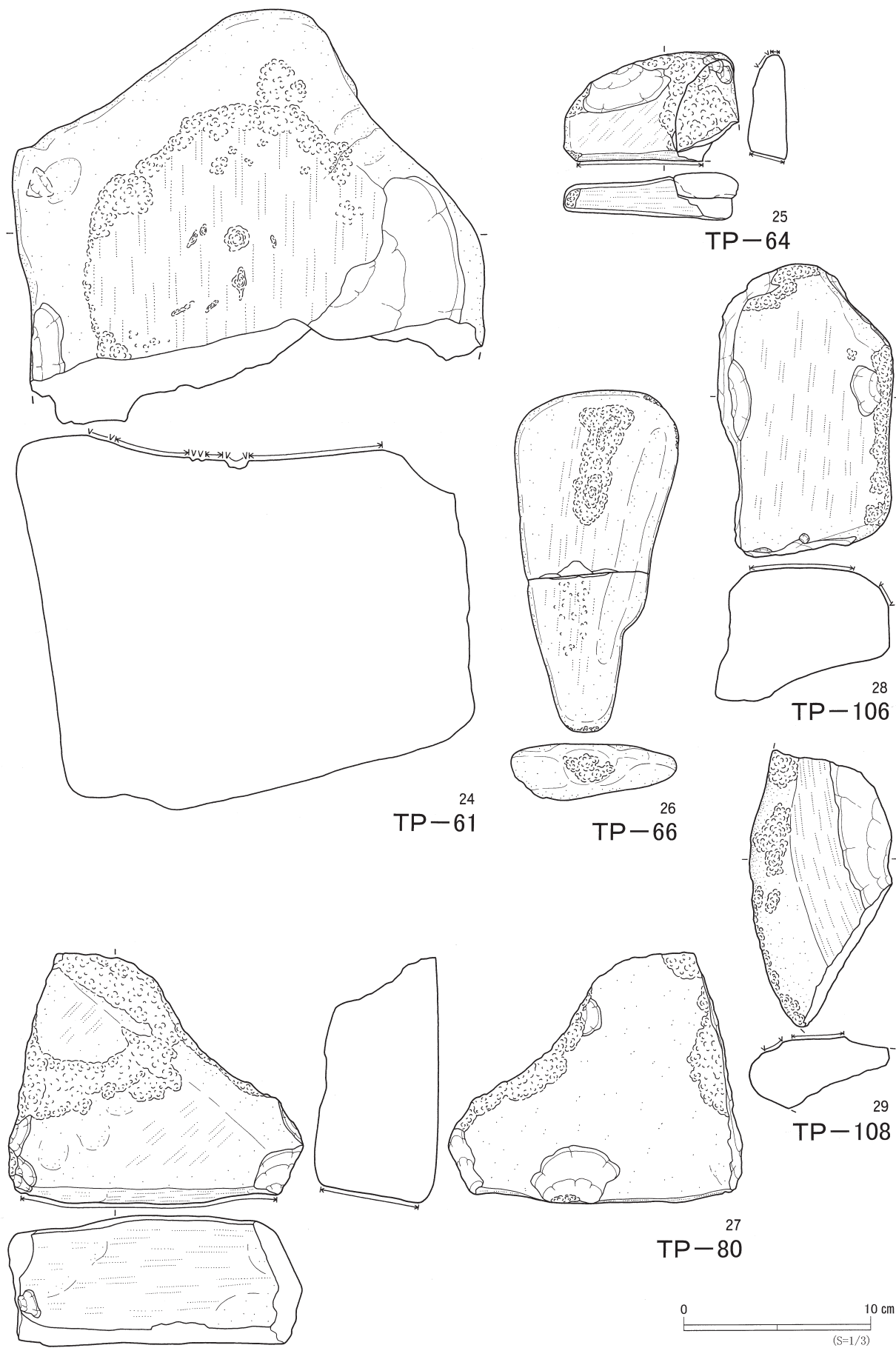


図204 上幌内5遺跡 遺構出土の礫石器(4)

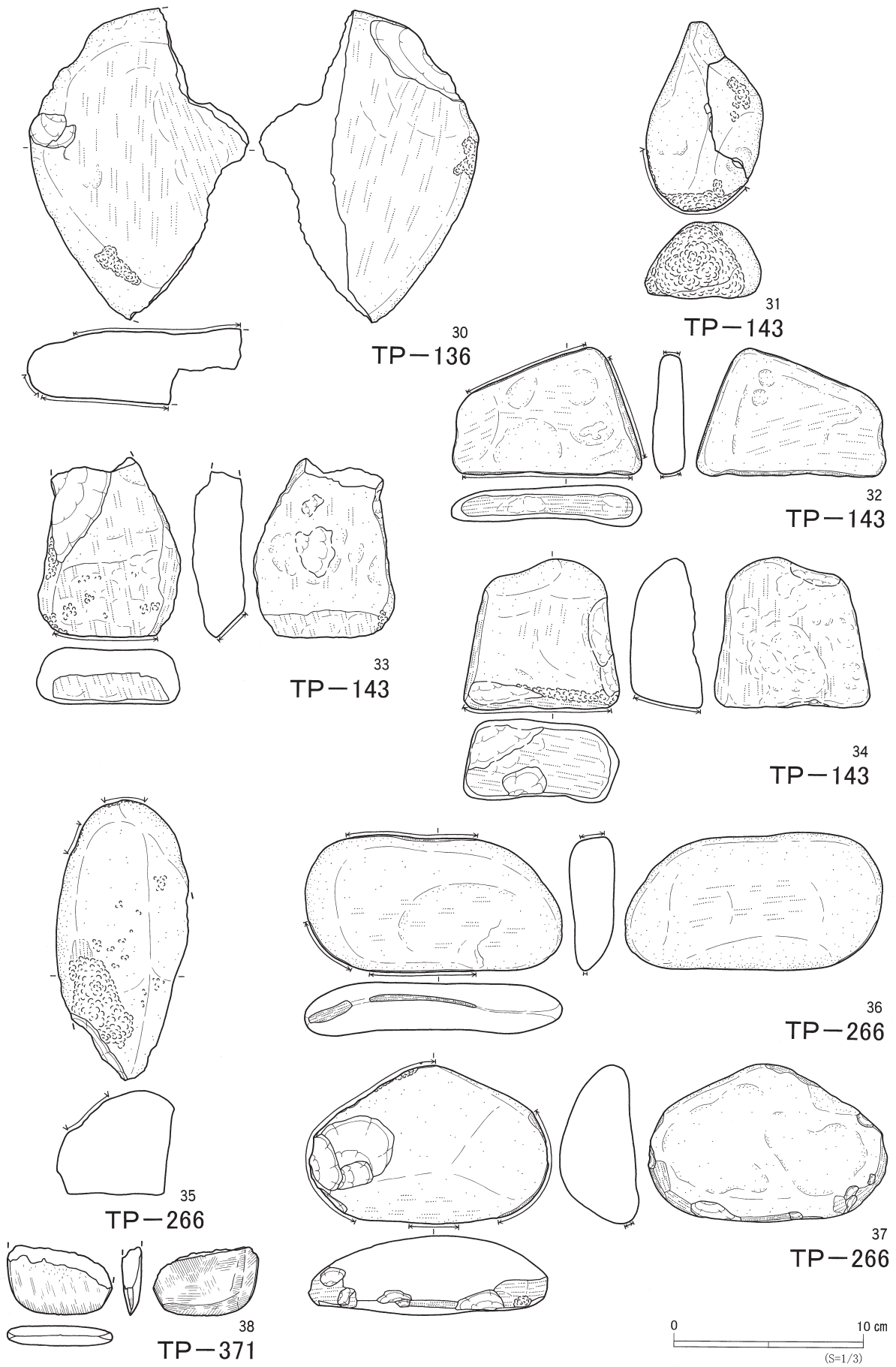


図205 上幌内5遺跡 遺構出土の礫石器(5)

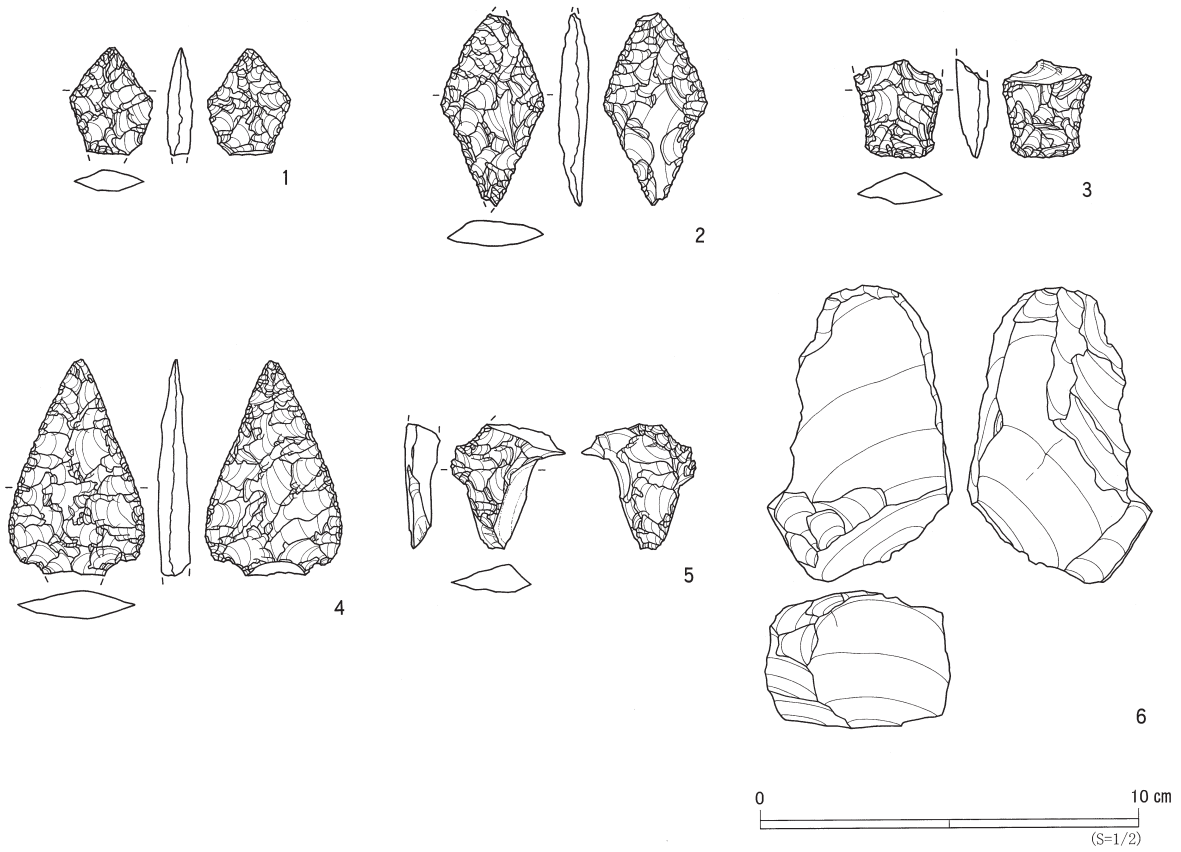


図206 上幌内5遺跡 包含層出土の石器





表66 上幌内5遺跡 遺構出土礫石器・石製品・レキ点数表(1)

遺構名	器種名・分類 / 層位 / 残存状態			H-1		付属遺構	P-3		P-4		P-6		P-7		TP-18		小計
				覆土B層	覆土YB層		床面	覆土B層	覆土2層	覆土B層	覆土BY層	覆土B層	覆土BY層	覆土BY層	覆土BY層		
				被熱等	小計		小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計			
磨製石斧	完形	—	—														0
	準完形	—	—														0
	半形	—	—														0
	片	綠色泥岩	—	1							7	41			2		51
たたき石	完形	砂岩	—														0
	準完形	砂岩	—														0
	半形	砂岩	—														0
	片	—	—														0
すり石	完形	砂岩	—														0
		凝灰岩	被熱														0
	準完形	—	—														0
	半形	—	—														0
砥石	完形	—	—														0
	準完形	—	—														0
	半形	—	—														0
	片	砂岩	—	1													1
台石・石皿	完形	礫岩	—														0
	準完形	砂岩	—														0
	半形	砂岩	—			3											3
	片	礫岩	—														0
合計					8				4								67
U・Rレキ	完形	凝灰岩	—														2
		砂岩	—														0
	片	凝灰岩	被熱	1						17							1
		礫岩	—														0
レキ	完形	凝灰岩	—							1	1						3
		砂岩	—														0
	片	凝灰岩	被熱	1							2						3
		砂岩	—							3			11				0
合計					16				20				8				60
合計					24				24				12				127

遺構名	器種名・分類 / 層位 / 残存状態			TP-19		TP-22		TP-23		TP-27		TP-31		TP-32		TP-36		小計
				覆土BY層	小計	覆土BY層	小計	覆土B層	覆土BY層	覆土B層	覆土BY層	覆土B層	覆土BY層	覆土BY層	覆土BY層			
				被熱等	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計			
磨製石斧	完形	—	—															0
	準完形	—	—															0
	半形	—	—															0
	片	綠色泥岩	—	1														1
たたき石	完形	砂岩	—															0
	準完形	砂岩	—															0
	半形	砂岩	—															0
	片	—	—															0
すり石	完形	砂岩	—															0
		凝灰岩	被熱															0
	準完形	—	—															0
	半形	—	—															0
砥石	完形	—	—															0
	準完形	—	—															0
	半形	—	—															0
	片	砂岩	—															0
台石・石皿	完形	礫岩	—															0
	準完形	砂岩	—															0
	半形	砂岩	—															0
	片	礫岩	—															0
合計					1											2		3
U・Rレキ	完形	凝灰岩	—															0
		砂岩	—															0
	片	凝灰岩	被熱	0												2		2
		礫岩	—															0
レキ	完形	凝灰岩	—															0
		砂岩	—															0
	片	凝灰岩	被熱	1														0
		砂岩	—															1
合計					7					5			1			8		48
合計					2					5			2			10		51

表66 上幌内5遺跡 遺構出土礫石器・石製品・レキ点数表(2)

遺構名				TP-37	TP-39	TP-40	TP-41	TP-49	TP-50	TP-52	小計
器種名・分類 / 層位		覆土 B層	覆土 BY層	覆土 B層	覆土 B層	覆土 BY層	覆土 B層	覆土 B層	覆土 B層	覆土 B層	
器種	残存状態	岩石	被熱等	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計
磨製石斧	完形	—	—								0
	準完形	—	—								0
	半形	—	—								0
	片	緑色泥岩	—								0
たたき石	完形	砂岩	—								0
	準完形	砂岩	—								0
	半形	砂岩	—								0
	片	—	—								0
すり石	完形	砂岩	被熱								0
		凝灰岩	被熱								0
	準完形	—	—								0
	半形	—	—								0
	片	砂岩	—								0
砥石	完形	—	—								0
	準完形	—	—								0
	半形	—	—								0
	片	砂岩	凝灰岩	被熱						1	1
台石・石皿	完形	礫岩	—								0
	準完形	砂岩	—								0
	半形	砂岩	—						1	2	1
	片	礫岩	—							137	138
合計				0	0	0	0	0	2	138	140
U・Rレキ	完形	凝灰岩	—								0
		砂岩	—								0
	片	凝灰岩	被熱	3	1	0	0	0	4	0	8
		礫岩	—								8
レキ	完形	凝灰岩	—								0
		砂岩	—								0
	片	凝灰岩	被熱	0	0	1	1	27	1	0	29
		砂岩	—				2	23			25
合計				3	1	1	27	1	4	0	37
合計				3	1	1	27	1	6	138	177

遺構名				TP-54	TP-59	TP-60	TP-61	TP-62	TP-63	TP-64	TP-66	小計
器種名・分類 / 層位		覆土 B層	覆土 BY層	覆土 B層	覆土 B層	覆土 B層	覆土 B層	覆土 B層	覆土 B層	覆土 B層	覆土 B層	
器種	残存状態	岩石	被熱等	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	
磨製石斧	完形	—	—									
	準完形	—	—								0	
	半形	—	—								0	
	片	緑色泥岩	—								0	
たたき石	完形	砂岩	—								0	
	準完形	砂岩	—								0	
	半形	砂岩	—	1	1	0	0	0	0	2	2	
	片	—	—								0	
すり石	完形	砂岩	被熱								0	
		凝灰岩	被熱							2	0	
	準完形	—	—								0	
	半形	—	—						2		2	
	片	砂岩	—								2	
砥石	完形	—	—								0	
	準完形	—	—								0	
	半形	—	—		0	0	0	0	0	0	0	
	片	砂岩	凝灰岩	被熱							0	
台石・石皿	完形	礫岩	—		1						1	
		砂岩	—				1				2	
	準完形	砂岩	—			1					1	
		砂岩	—		0	1	0	4	0	0	5	
片	礫岩	—				1				1		
合計				1	1	0	4	0	0	2	2	10
U・Rレキ	完形	凝灰岩	—									
		砂岩	—								1	
	片	凝灰岩	被熱	30	1	2	52	0	2	5	0	
		礫岩	—				1				91	
レキ	完形	凝灰岩	—								0	
		砂岩	—								1	
	片	凝灰岩	被熱	0	0	0	2	1	0	1	4	
		砂岩	—					1			6	
合計				30	1	2	54	1	2	5	4	99
合計				31	2	2	58	1	2	7	6	109

表66 上幌内5遺跡 遺構出土礫石器・石製品・レキ点数表(3)

遺構名				TP-74	TP-80	TP-81	TP-99	TP-106	TP-108	TP-136	TP-143	TP-144	小計		小計
器種	残存状態	岩石	被熱等	覆土B層	小計	覆土B層	小計	覆土B層	小計	覆土B層	小計	覆土B層	小計	覆土B層	
磨製石斧	完形	—	—												0
	準完形	—	—												0
	半形	—	—		0		0		0		0		0		0
	片	緑色泥岩	—												0
たたき石	完形	砂岩	—								2				2
	準完形	砂岩	—		0		0		0						0
	半形	砂岩	—									2			0
	片	—	—												0
すり石	完形	砂岩	—			1						1			2
		凝灰岩	被熱									1			0
	準完形	—	—		0		1		0		0		3		3
		—	—												0
		—	—												0
片	砂岩	—									1			1	
砥石	完形	—	—												0
	準完形	—	—		0		0		0		0				0
	半形	—	—												0
	片	砂岩	—												0
台石・石皿	完形	礫岩	—				1								0
	準完形	砂岩	—		0										1
	半形	砂岩	—			7		3		1		1		1	0
	片	礫岩	—												0
合計				0	2	7	3	1	1	1	1	5	0	13	20
U・Rレキ	完形	凝灰岩	—								1				1
		砂岩	—								1			1	
	片	凝灰岩	被熱		1		1		0		6		0		7
		礫岩	—								6				15
レキ	完形	凝灰岩	—												0
		砂岩	—												0
	片	凝灰岩	被熱		0		0		0		0		0		0
		砂岩	被熱												0
合計				1	1	0	0	0	6	0	2	7	7	17	
合計				1	3	7	3	1	7	1	7	7	7	37	

遺構名				TP-225	TP-266	TP-342	TP-357	TP-371	TP-384	TP-395	小計		合計	
器種	残存状態	岩石	被熱等	覆土B層	覆土B層	覆土BY層	覆土B層	覆土B層	覆土Y層	覆土B層	小計	小計	小計	小計
磨製石斧	完形	—	—											0
	準完形	—	—											0
	半形	—	—		0		0		1		0		1	2
	片	緑色泥岩	—							1				53
たたき石	完形	砂岩	—											2
	準完形	砂岩	—		1		1		0					1
	半形	砂岩	—											3
	片	—	—											0
すり石	完形	砂岩	被熱			1								2
		凝灰岩	被熱											1
	準完形	—	—		0		2		0		0		2	5
		—	—											0
		—	—											0
片	砂岩	—											5	
砥石	完形	—	—											0
	準完形	—	—		0		0							0
	半形	—	—			0				4		4		0
	片	砂岩	被熱										4	7
台石・石皿	完形	礫岩	—											1
	準完形	砂岩	—		0		0		0					2
	半形	砂岩	—			0		0						5
	片	礫岩	—											154
合計				0	3	0	0	1	4	1	9	14	249	
U・Rレキ	完形	凝灰岩	—											3
		砂岩	—		2									4
	片	凝灰岩	被熱		1		10		2		1		0	3
		礫岩	被熱											2
レキ	完形	凝灰岩	—											5
		砂岩	—											1
	片	凝灰岩	被熱		0		0		0		0		0	5
		砂岩	被熱											54
合計				1	10	2	1	0	0	0	14	275		
合計				1	13	2	1	1	4	1	23	524		



表67 上幌内5遺跡  
包含層出土土器点数表

遺物種別 / 層位		V層		その他 (I層・F層)		合計	
時期	部位	残存状態					
I群	複数部位						0
	口縁部	良好				0	
		剥離				0	
		磨耗	0		0	0	0
		小破片				0	
	底部	良好				0	
		剥離				0	
		磨耗	0		0	0	0
		小破片				0	
	胴部	良好		1		1	
		剥離				0	
		磨耗	0		1	0	1
		小破片				0	
	不明	良好				0	
		剥離				0	
		磨耗	0		0	0	0
		小破片				0	
	小計			0	1		1
	複数部位						0
	口縁部	良好	1			1	
剥離					0		
磨耗			1		0	1	
小破片					0		
底部	良好				0		
	剥離				0		
	磨耗	0		0	0	0	
	小破片				0		
胴部	良好	1		1	2		
	剥離				0		
	磨耗		1		0	2	
	小破片				0		
不明	良好				0		
	剥離				0		
	磨耗	0		0	0	0	
	小破片				0		
小計			2	1		3	
複数部位						0	
口縁部	良好				0		
	剥離				0		
	磨耗	0		0	0	0	
	小破片				0		
底部	良好				0		
	剥離				0		
	磨耗	0		0	0	0	
	小破片				0		
胴部	良好		4		4		
	剥離				0		
	磨耗	0		4	0	4	
	小破片				0		
不明	良好				0		
	剥離				0		
	磨耗	0		0	0	0	
	小破片				0		
小計			0	4		4	
合計			2	6		8	

表68 上幌内5遺跡  
包含層出土剥片石器点数表

器種名・分類 / 層位		V層		I層		F層		合計	
器種	残存状態	岩石	被熱等						
石鏃	完形	黒曜石	—	2			1		1
	準完形	—	—	1	3		2		2
	半形	—	—	1			1	2	2
スクレイパー	片	—	—						0
	完形	—	—						0
	準完形	—	—		0	2		0	0
U・Rフレイク	完形	黒曜石	—	1					1
	準完形	—	—			1			1
	片	黒曜石	—						1
フレイク	完形	黒曜石	—	2	2				2
	準完形	—	—	165		9		11	185
	被熱	—	—	2	167		9	12	2
蛇紋岩	完形	—	—					1	1
	準完形	—	—						1
石核	チャート	—	—		0	1	1		0
合計				172		12		14	198

表69 上幌内5遺跡  
包含層出土礫石器・石製品・レキ点数表

器種名・分類 / 層位		V層		I層		F層		合計	
器種	残存状態	岩石	被熱等						
磨製石斧	完形	—	—						0
	準完形	緑色泥岩	—	1	1	1		0	1
	半形	—	—						0
	片	緑色泥岩	—		1				1
たたき石	完形	—	—						0
	準完形	凝灰岩	—	1					1
	半形	—	—		2	0		1	0
	片	凝灰岩	—				1		1
すり石	完形	安山岩	—	1					1
	準完形	凝灰岩	—	2					2
	半形	—	—						0
	片	—	—						0
砥石	完形	凝灰岩	—	1					1
	準完形	—	—		2				0
	半形	—	—			2			0
	片	砂岩	—	1		2		2	5
台石・石皿	完形	礫岩	—	1				1	1
	準完形	砂岩	—	2		1		1	4
	半形	砂岩	—		10				1
	片	凝灰岩	—			2		1	2
石製品	完形	砂岩	—						1
	準完形	砂岩	—						0
	半形	砂岩	—						0
	片	砂岩	—						2
合計				17		4		7	28
U・Rレキ	完形	凝灰岩	—				1		1
	片	砂岩	—	1					1
	完形	凝灰岩	—	4			4		8
	被熱	—	—	1					1
	片	礫岩	—	6	64		2	77	10
	砂岩	—	—	49		3		66	118
	被熱	—	—	2				4	6
レキ	完形	—	—		1				1
	片	砂岩	—			1	1	3	3
合計				65		6		80	151
合計				82		10		87	179

表70 上幌内5遺跡 遺構・包含層出土破片土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(土器型式)	
						小計	合計						
胎土(混和材)					文様・調整			色調		使用の痕跡			
繊維		粒径		種類	外面		内面	(部位)	外面		内面	外面	内面
199	1	106	H-1	床面	—	1	口縁部?	4.7	深鉢	I群b類?	全体的に磨耗		
	無	細粒	鉱物主体		RL縄文 燃糸文? RL縄文?	?	(口唇部) ?	黄褐色 (10YR8/6)	—	炭化物付着	—		
199	2	106	P-3	覆土B層	—	8	胴部	185.6	深鉢	IV群a類	内面一部剥離		
	無	細粒	岩石・鉱物 ともにあり		LR縄文 (別原体)	ナデ	—	(赤色化)	褐色 (7.5YR7/6)	赤色化 明赤褐色 (5YR5/6)	黒色化 炭化物付着		
199	3	106	P-3	覆土B層	—	3	底部	17.0	深鉢	IV群a類	内面大部分剥離		
	少量?	細粒	岩石・鉱物 ともにあり (白色岩片)		LR縄文	ナデ?	(底外面) —	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	—		
199	4	106	TP-27	覆土BY層	—	1	胴部	30.6	深鉢	IV群a類	—		
	中量	中～細粒	鉱物主体 (石英)		LR・RL 羽状縄文	ナデ	—	褐色 (7.5YR6/4)	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	黒色化	黒色化 炭化物付着		
199	5	106	TP-36	覆土B層	—	1	胴部	22.3	深鉢	I群b類	東銅路Ⅲ式 内面剥離		
	中量	細粒	鉱物主体		絡条体圧痕文 (R石巻原体) 半截竹管刺突文	—	—	(黒褐色)	—	黒色化 炭化物付着	—		
199	6	106	TP-40	覆土BY層	—	1	胴部	33.7	深鉢	Ⅲ群b類	—		
	少～中量	粗粒	岩石主体 (円礫状の泥岩・ 白色岩片)		LR・RL 結束第1種 羽状縄文	ミガキ (沈線文状の 調整痕)	—	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	(黒褐色)	—	黒色化 炭化物付着		
199	7	106	TP-50	覆土B層	—	2	胴部	26.4	深鉢	Ⅲ群b類	8と同一個体		
	微量	細粒	鉱物主体?		LR・RL 結束第1種 羽状縄文	ミガキ	—	にぶい褐色 (7.5YR7/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	黒色化		
199	8	106	TP-54	覆土B層	—	1	胴部	15.3	深鉢	Ⅲ群b類	7と同一個体		
	微量	細粒	鉱物主体?		LR・RL 結束第1種 羽状縄文	ミガキ	—	にぶい褐色 (7.5YR7/4)	(黒褐色)	—	黒色化 炭化物付着		
199	9	106	TP-81	覆土B層	—	2	胴部	27.1	深鉢	IV群a類	—		
	中量	中～粗粒	鉱物主体 (長石)		RL縄文	ナデ	—	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	浅黄色 (2.5Y7/3)	黒色化?	—		
199	10	106	TP-311	覆土B層	—	1	胴部	17.5	深鉢	IV群a類	—		
	中量	細粒	鉱物主体		LR縄文 ナデ	ナデ	—	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	(黒褐色)	黒色化	黒色化 炭化物付着		
199	11	106	U-53区	V層	—	1	口縁部 (突起部)	6.4	深鉢	I群a類	外面一部 磨耗・剥離		
	少量	中粒	岩石主体 (亜円礫状)		貼付帯 刺突文(貝殻?)	ミガキ	(貼付帯) 貝殻腹縁文 (口唇部) ミガキ?	褐色 (7.5YR6/6)	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	黒色化		
199	12	106	e-50区	F層	—	1	口縁部	14.8	深鉢	IV群a類	補修孔1か所		
	少～中量	中粒	岩石・鉱物 ともにあり (亜円礫状)		貼付帯 LL?縄文	ナデ	(口唇部) L縄文・縄文 (貼付帯) LL?縄文	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	(黒褐色)	—	黒色化 炭化物付着		
199	13	106	h-54区	V層	—	1	胴部	31.3	深鉢	Ⅲ群b類	—		
	少量	中粒	岩石・鉱物 ともにあり (亜円礫状)		貼付帯 RL縄文 縄端圧痕文	ミガキ	(貼付) 矢羽根状の 燃紐圧痕文	(黒褐色)	明黄褐色 (10YR6/6)	黒色化 炭化物付着	黒色化		
199	14	106	c-46区	F層	—	1	胴部	29.7	深鉢	Ⅲ群b類	外面一部剥離		
	多量	細粒	鉱物主体 (石英多量)		LR縄文 半截竹管刺突文	ミガキ	—	(黒褐色)	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	黒色化		
199	15	106	d-56区	F層	—	1	胴部	42.5	深鉢	IV群a類	外面磨耗		
	中～多量	中粒	岩石・鉱物 ともにあり (亜円礫状 粗粒の凝灰岩)		LR縄文	ナデ	—	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	(褐灰色)	—	黒色化		

表71 上幌内5遺跡 遺構・包含層出土石器等観察表

図	掲載 番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存 状態	特徴 観察事項	備考
							長さ	幅	厚さ		岩石名	特徴			
200	1	106	H-1	床面	—	石鏃	2.4	1.6	0.8	2.2	黒曜石	—	完形	破損?	
	2	106	H-1	覆土BY層	—	石鏃	(2.1)	1.4	0.5	1.0	黒曜石	—	完形	先端部破損 原礫面	
	3	106	H-1	覆土BY層	—	石鏃	2.1	1.0	0.3	0.4	黒曜石	—	半形	—	
	4	106	P-6	覆土BY層	—	つまみ付きナイフ	7.6	3.3	1.0	14.4	頁岩	灰黄褐色 10YR4/2	完形	—	
	5	106	TP-8	覆土1層	—	石鏃	3.8	2.2	0.6	3.5	黒曜石	小球果あり	完形	破損した面を 再加工?	
	6	106	TP-33	覆土B層	—	石核	8.3	6.2	2.8	191.8	チャート	石英結晶部分 (灰白色)	—	破損	遺構間で接合
	TP-36	覆土B層													
	7	106	TP-68	覆土B層	—	スクレイパー	6.0	3.5	1.8	30.2	チャート	石英結晶部分 (灰白色)	—	破損	
	8	106	TP-72	覆土B層	—	石鏃	3.1	1.3	0.4	0.9	黒曜石	—	完形	—	
	9	106	TP-74	覆土B層	—	石核	2.6	7.4	5.7	110.5	チャート	石英結晶部分 (灰白色)	—	—	
	10	106	TP-108	覆土B層	—	石槍・ナイフ	(1.2)	1.6	0.7	1.3	黒曜石	—	片	破損 基部の一部のみ残存	
	11	106	TP-238	覆土B層	—	石鏃	3.1	1.7	0.3	1.1	黒曜石	—	完形	—	
	12	106	TP-263	覆土BY層	—	石鏃	(1.2)	1.0	0.4	0.2	黒曜石	—	片	破損 基部のみ残存	
13	106	TP-311	覆土B層	—	石槍・ナイフ	5.3	2.6	0.8	8.5	黒曜石	—	完形	—		
201	14	107	H-1	覆土BY層	—	砥石	7.8	6.4	2.6	131.8	砂岩	粗粒 にぶい黄橙色 10YR7/4	片	すり痕	
	15	107	H-1	床面	—	台石・石皿	24.6	18.9	8.8	6,200	砂岩	細粒 にぶい黄橙色 10YR7/2	半形	破損 すり痕	
	16	107	P-4	覆土BY層	—	台石・石皿	49.1	28.5	12.9	22,400	砂岩	にぶい黄橙色 10YR7/2	完形	すり痕	
	17	107	P-6	覆土BY層	—	レキ	(18.8)	(12.9)	6.6	1,700	砂岩	にぶい黄橙色 10YR6/3	片	破損	
202	18	107	P-7	覆土BY層	—	台石・石皿	28.1	18.3	11.2	8,600	砂岩	黄灰色 2.5Y6/1	完形	すり痕 たたき痕	
	19	108	P-7	覆土BY層	—	台石・石皿	26.0	27.1	15.9	20,800	砂岩	黄灰色 2.5Y6/1	完形	すり痕 たたき痕	
203	20	108	TP-36	覆土BY層	—	台石・石皿 (すり石)	12.7	(8.7)	5.0	600	砂岩	細～中粒 灰黄色 2.5Y6/2	片	破損 すり痕	2点接合
	21	108	TP-54	覆土B層	—	たたき石	(9.6)	4.7	2.8	150	砂岩	褐灰色 10YR6/1	半形	破損 たたき痕	
	22	108	TP-59	覆土B層	—	台石・石皿	32.6	23.0	15.1	20,600	礫岩	(褐灰色)	完形	すり痕 たたき痕	
	23	108	TP-61	覆土B層	—	台石・石皿	30.6	17.5	11.5	6,600	砂岩	にぶい黄色 2.5Y6/3	完形	破損 すり痕 たたき痕	
204	24	108	TP-61	覆土B層	—	台石・石皿	(22.1)	25.1	19.9	11,000	砂岩	黄灰色 2.5Y6/1	半形	破損 すり痕 たたき痕	
	25	109	TP-64	覆土B層	—	すり石	5.9	9.3	2.6	143	砂岩	灰黄色 2.5Y7/2	片	破損 敲打痕 すり痕	2点接合
	26	109	TP-66	覆土B層	—	たたき石	18.2	8.7	3.0	500	砂岩	灰黄色 2.5Y6/2	完形	破損 たたき痕 すり痕?	2点接合
	27	109	TP-80	覆土	—	すり石	13.3	15.7	7.0	1,680	砂岩	灰黄色 2.5Y6/2	完形	敲打痕 すり痕	持ち手部分を作出 北海道式石冠
	28	109	TP-106	覆土B層	—	台石・石皿	15.6	9.3	7.1	1,460	砂岩	微粒 灰黄色(2.5Y6/2)	片	破損 すり痕 たたき痕	
	29	109	TP-108	覆土B層	—	台石・石皿	(14.8)	(7.6)	4.1	410	砂岩	粗粒 (褐灰色)	片	破損 たたき痕 すり痕	
	30	109	TP-136	覆土B層	—	台石・石皿	16.4	(11.5)	5.2	700	砂岩	粗粒 硬質 (褐灰色)	片	破損 すり痕 たたき痕	
205	31	109	TP-143	覆土B層	—	たたき石	10.0	6.1	4.0	237.5	砂岩	(褐灰色)	完形	たたき痕	2点接合
	32	109	TP-143	覆土B層	—	すり石	6.7	10.0	2.2	154.8	凝灰岩	(褐灰色)	完形	すり痕	全体に平滑な面
	33	109	TP-143	覆土B層	—	すり石	(9.4)	7.5	2.9	253.3	砂岩	中粒 (褐灰色)	片	破損 すり痕	
	34	109	TP-143	覆土B層	—	すり石	7.9	8.2	4.3	350	砂岩	中粒 やや硬質 (褐灰色)	完形	すり痕	
	35	109	TP-266	覆土B層	—	たたき石	(14.7)	7.0	5.5	580	砂岩	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	準完形	たたき痕	
	36	109	TP-266	覆土BY層	—	すり石	7.2	13.5	2.8	350	砂岩	細粒	完形	すり痕	被熱(赤色化)
	37	109	TP-266	覆土BY層	—	すり石	8.3	12.6	4.2	440	凝灰岩	細粒	完形	すり痕 剥落痕	被熱(赤色化)
	38	109	TP-371	覆土B層	—	磨製石斧	(3.6)	5.5	1.0	28.5	片岩	(明緑灰色)	片	破損 研磨痕 刃部のみ残存	黒色化?
206	1	109	Y-54区	V層	—	石鏃	(2.9)	2.2	0.7	3.6	黒曜石	—	準完形	破損	
	2	109	c-37区	F層	—	石鏃	(5.7)	2.8	0.8	7.7	黒曜石	—	完形	先端部破損	
	3	109	h-54区	V層	—	石鏃	(2.6)	2.4	0.9	4.1	黒曜石	—	半形	破損 基部のみ残存	
	4	109	F-46区	V層	—	石鏃	(5.7)	3.6	0.9	12.5	黒曜石	—	準完形	基部破損	
	5	109	—	I層	—	スクレイパー	(3.3)	3.0	1.0	4.9	黒曜石	—	半形	破損	被熱?
	6	109	V-53区	I層	—	石核	7.8	4.9	3.6	152.7	チャート	石英結晶部分 (灰白色) 上端部に凝灰岩	—	割れ	

## IX章 まとめ

### 1. 自然科学的分析結果について

#### (1) 上幌内4・5遺跡 放射性炭素年代測定結果について

これらについて、標準偏差の百分率が高いものを表72にまとめた。竪穴住居跡は上幌内4遺跡のH-1が縄文時代後期初頭、H-2が同中期中葉～後葉で、上幌内5遺跡のH-1はこれらよりも古い縄文時代中期前葉～中葉頃と考えられ、概して両遺跡の主たる時期と同じである。上幌内4遺跡のⅢ層の遺構は大きく二つの時期に分けられ、前半期は、焼土UF-1が13世紀の中頃～後半、US-2は14世紀代である。後半期は炭化物集中UC-1が16～17世紀、UC-2は15～17世紀でやや年代幅がある。この測定結果を受け、炭化物集中はともに遺構でなく、西暦1667年の樽前b軽石降下に伴う可能性が考えられる。アイヌ文化期の遺跡では、明確な時期を判断できる遺物が出土しないため、放射性炭素年代測定が有効である。

#### (2) 上幌内4遺跡 炭化種実同定結果について

焼土UF-1から採取した土壌の一部はフローテーションを行い、植物遺存体を回収した。同定できたものはイネ科、タデ属、タデ属サナエタデ節、アカザ属である。現場の調査では、焼土の色調が不明瞭であったため、炭化した自然遺物の出土をもって焼土であるとの確証を得たいとの目的もあったが、炭化したものは確認できなかった。これらは当時(13世紀中頃～後半)の周囲の自然環境を表すと理解され、これらすべては樹木の少なく日当たりの良い生育環境であることから、伐採など人間活動の影響があったことを示している。

#### (3) 上幌内4遺跡 鉄製品の保存処理と材質分析の結果について

Ⅲ層から出土した鉄製品のうち、図23に掲載の3：棒状品、4：鉤状品、5：刀子の各種別について実施した。破壊分析であるため、破損しているものを選び出した。

いずれも外観は錆が目立つが、内部には金属鉄が残存する。組織観察では、3は微細で強度と靱性を持たせたもの、4は介在物が層状にみられ、折り返し鍛錬されたもので、硬度観察では、5が予想より硬質であった。EPMA分析では、3と5は砂鉄を原料とすることが判明し、4はこれが認められなかった。

### 2. 上幌内4遺跡の調査

#### (1) Ⅲ層の調査

平成28(2016)年度のみ調査した。中世～近世アイヌ文化期で、放射性炭素年代測定結果では、最古は13世紀代、最新は17世紀代で時期に幅があり、すべての遺構・遺物の帰属を確定させることはできない。小柱穴SP-1・2は平成27(2015)年度にTP-13の調査時に確認し、Ⅲ層の遺構と判断した。周囲に同様な柱穴はみられず、平地住居跡の可能性は低いと考えられる。焼土UF-1はカワシンジュガイと植物遺存体が出土し、礫集中US-1・2は斜面に広がり、丸みを帯び楕円形で厚みのある、いわゆる「棒状礫」が多数出土した。炭化物集中UC-1・2は出土状況や測定結果から、樽前b降下軽石に関わる自然のものである可能性も考えられる。鉄製品は斜面から小刀、刀子、棒状品、鉤状品が出土した。台地平坦部にも当該時期の遺跡が広がっていたと考えられる。

## (2) V層の調査

竪穴住居跡は地床炉をもち、台地平坦部に位置するH-1は縄文時代中期末葉～後期初頭で、縄文中期末葉のH-2は台地の南西端に位置する。Tピットは多くみられ、確認面が円形で坑底面が楕円形、かつ複数の柱穴・杭穴をもつものはTP-6・17・20・31で、20以外は台地縁部や斜面に位置する。TP-31は斜面の下にh-1とした掘り上げ土がみられた。多くのTピットは北東側～南西側方向に並ぶと解され、台地の北側の縁部と平行に位置する。遺物集中は、土器集中は各時期のものが多くみられ、フレイク集中は2か所である。

本遺跡出土の復原土器も含めて整理する。

### 早期後半 I群b類 東釧路IV式：PS-3A・3B、4、6、R-25区、K-23区

調査区の南側のPS-3A、3B、4、R-25区と北側の斜面のPS-6とK-23区の二つの地点が認められ、深鉢と浅鉢が出土した。

### 前期後半 II群b類 静内中野式：PS-7 植苗式：R-24区

静内中野式は調査区北東側の斜面出土で、一次整理ではIV群と誤認した。植苗式は調査区南側のR-24区出土の小型の深鉢がある。貼付帯はみられないが、口唇部の断面形態、繊維を含む胎土、内面の縄文等から、これに分類した。

### 中期前半 III群a類 円筒土器上層a式：PS-1

調査区南側で、本型式の復原土器は厚真町内では初の出土である。胎土、内面調整、整然とした施文から、搬入品と推測される。

### 中期後半 III群b類 柏木川式：PS-5 北筒式：S-1

柏木川式は調査区北側の斜面で出土し、半截竹管状工具による施文で、器形は萩ヶ岡式に類似する。北筒式は調査区北側の斜面で、円形刺突文がめぐり、曲線的な器形と結束する縄文から中期と判断した。

### 後期前葉 IV群a類 余市式

：PS-5A・5B、H-1、H-1・PS-5、TP-21、TP-26 タブコブ式：TP-29

PS-5は北側の斜面で、H-1は調査区中央付近の平坦部である。H-1・PS-5はH-1床面直上の出土の20点とPS-5の3点が接合し、遺構間の距離は約15mである。TP-21・26・29は覆土から出土した破片が、周囲の包含層と接合した。これらは、調査区の中央から北東側部分である。特徴は貼付帯が複数みられるもの、円形刺突文、無文部分があり縄線文が施されるものがある。また、土器集中PS-5ではIII群b類とIV群a類が出土している。斜面に位置し遺物が二次的に移動している可能性があり、土器集中の範囲の定め方にもよるが、これらの土器の時期に近いことを示唆しているのかもしれない。

### 後期中葉：IV群b類 手稲式：PS-2

調査区の南側の沢に面する平坦部で出土した。同時期の土器はこれ以外にはみられなかった。

石器は各器種がみられた。剥片石器は黒曜石製が多く、頁岩製は石槍・ナイフとつまみ付きナイフに限られる。チャートと分類した「透明の石英質」のものはU・Rフレイク、石核、フレイク、原石にみられ、特定の石器の器種に仕上げられたものはない。礫石器は、磨製石斧の多くは緑色泥岩が用いられ、残存状態「片」が多い。たたき石は、比較的厚みのある石材の周縁等に使用痕がみられるものと、扁平な石材を用い平坦で広い面に2か所の敲打痕がみられるものがある。後者は、持ち手部として加工した「すり石」との指摘(北埋調報325)があったが、本遺跡の調査では結論には至らなかった。すり石は、自然礫の形状を大きく加工することなく、全体や一部に平滑な使用痕があるもの、扁平打製石器とこれに類似するもの、北海道式石冠がある。砥石は使用による結果で様々な形状がある

が、石材は、粗粒の砂岩から軟質で粒径の細かい凝灰岩を用いたものがみられ、使用痕は、断面が凹状の曲線的なくぼみで広い砥面のもの、溝あるいは線状で明瞭な段差を有する痕のものがある。台石・石皿では図76-70、77-73のような大型で重いものがあり、これらは地面に固定され使用されたと考えられる。

礫石器は、礫の自然面と使用による平滑な面の区別が困難なものが多く、かつ脆弱な堆積岩のものは破片と化し本来の形状を想像できない遺物も多く、分類に悩むものが多かった。

### 3. 上幌内5遺跡の調査

#### (1) Tピット以外の遺構・遺物

竪穴住居跡は大型の楕円形で、L-3地区の北東側に位置する。床面からI群b類が出土し、放射性炭素年代測定の結果は縄文時代中期の前半である。付属遺構hp-1が先端部ピットの様な軸上の土坑と解すると、後者と判断される。土坑は、P-1のみがL-1地区で、P-2~7はL-3地区の南西側に位置する。L-3地区の中央とL-5地区の南西側部分は遺構が全くみられない。

土器はI群、III群、IV群があり、図199-11のU-53区出土の土器は貝殻腹縁文が施され、I群a類と考えられる。剥片石器は、石鏃、石槍・ナイフ、つまみ付きナイフ、U・Rフレイク、フレイク、石核で、つまみ付きナイフが頁岩、石核がチャートで、これら以外はすべて黒曜石である。礫石器は、磨製石斧、たたき石、すり石、砥石、台石・石皿、石製品、U・Rレキ、レキが出土し、砂岩と凝灰岩が多い。また、溝状のTP-33と楕円形のTP-36出土のチャートが接合した(図200-6)。両遺構の平面形態は異なるが、遺物が接合したことから、さほど時間差がなく、形状の異なるTピットが同時に利用された可能性が想定される。

#### (2) Tピット

多くみつかりと予想したTピットの数、あらかじめ把握し計画的に調査を進めるために、表土除去が完了した時点で、Tピットと考えられる場所に通し番号を付し、426まで数えた。調査の結果、①：単独のTピット、②：単独番号で複数と判明したTピット、③：複数番号で単独と判明したTピット、④：土坑と判断したもの、⑤：遺構でないものに分けられ、これらを整理し表73にまとめた。すなわち、②は方角またはアルファベット大文字を末尾に付し、③は[角形括弧]で数字をくくった。④は「T」の字を、⑤は「TP-」を(丸括弧)でくくり、本文は斜字体とした。整理後のTピットの総数は421基で、土坑は6基である。

また、効率的な調査や統一的な記述のために、表74に示すように覆土の表記を統一した。

Tピットが構築される遺跡の自然層位は、概していうと上位の黒色土層、下位の地山はTa-d2のスコリア(礫)またはローム(土)層で、主たる覆土はこれらが混ざり合う相対的な量で分けられる。スコリアは非常に脆弱で観察のために手にすると土壌化しているので、ロームとの違いは土層断面の状態、礫の形状を保っているか否かで判断した。また、Ta-d2層の色調が黄色または白色を呈する部分もみられ、これは地下水の影響による還元作用の変色と考えた。地山であるTa-d2層は多くが水成二次堆積と考えられ、これらの中に部分的な薄層がみられ、これらが掘り上げられ、覆土として遺構内にみられたものが、灰白色(W層)または黄色粘土(YCL層)や青灰色の砂礫層のTa-d1層(D1層)等である。

Tピットの分布の概要を述べる。左岸はL-2の全体、L-3地区北東側、L-5地区の中央から東側にやや集中し、周囲には遺構が位置しない部分がある。L-4地区の南側部分はまばらにみられ、中央付近は長軸方向を南北とする溝状のものが集中する。北側へとさらにまばらになり、さらにみら

れなくなる。無名の沢(イタリイカ)近くのR-2地区は少なく、細長いものが多い。R-3地区の北側部分は、東西または北東から南西方向を長軸とする溝状が目立つ、同地区の中央部分は南西から北東側の範囲に多く、その周囲は散在的である。東側部分は、南側が少なく、みられない範囲が認められ、溝状の長軸方向は比して様々である。

(末光)

表72 放射性炭素年代測定結果一覧表

試料名	調査年度	遺跡名	遺構	付属遺構	層位	遺物番号	遺物種別	乾燥重量(g)	1標準偏差 暦年較正年代(68.2%)			2標準偏差 暦年較正年代(95.4%)			世紀・時代
									4299 calBP	4236 calBP	(41.4%)	4409 calBP	4226 calBP	(85.5%)	
KH4-1	平成27(2015)年度	上幌内4遺跡	竪穴住居跡 H-1	—	覆土B層	炭1	炭化物	0.1	4299 calBP	4236 calBP	(41.4%)	4409 calBP	4226 calBP	(85.5%)	縄文時代後期初頭
KH4-2	平成27(2015)年度	上幌内4遺跡	竪穴住居跡 H-2	炭化物集中 hc-1	床面	—	炭化物	0.5	4709 calBP	4614 calBP	(46.8%)	4772 calBP	4578 calBP	(76.9%)	縄文時代中期中葉～後葉
KH5-1	平成27(2015)年度	上幌内5遺跡	竪穴住居跡 H-1	—	床面	2	炭化物	0.3	5281 calBP	5214 calBP	(30.8%)	5292 calBP	5044 calBP	(95.4%)	縄文時代中期前葉～中葉
KH4-3	平成28(2016)年度	上幌内4遺跡	焼土 UF-1	—	Ⅲ層	(1)	貝	2.3	1262 calAD	1277 calAD	(68.2%)	1245 calAD	1284 calAD	(94.7%)	13世紀中頃～後半(中世アイヌ文化期)
KH4-4	平成28(2016)年度	上幌内4遺跡	礫集中 US-2	—	Ⅲ層	38	炭化物	0.7	1341 calAD	1362 calAD	(28.6%)	1300 calAD	1369 calAD	(74.7%)	14世紀初頭～末葉(中世アイヌ文化期)
									1309 calAD	1329 calAD	(26.9%)				
KH4-5	平成28(2016)年度	上幌内4遺跡	炭化物集中 UC-1	—	Ⅲ層	—	炭化物	0.2	1634 calAD	1654 calAD	(47.6%)	1626 calAD	1664 calAD	(55.5%)	17世紀前半～中頃(近世アイヌ文化期) 16世紀中頃～後半(中世アイヌ文化期)
									1529 calAD	1543 calAD	(20.6%)				
KH4-6	平成28(2016)年度	上幌内4遺跡	炭化物集中 UC-2	—	Ⅲ層	—	炭化物	2.7	1539 calAD	1595 calAD	(44.8%)	1492 calAD	1603 calAD	(76.5%)	15世紀末～17世紀初頭(中～近世アイヌ文化期)

表73 上幌内5遺跡 Tピット 数整理表

遺構種別 / 地区・調査年度	L地区						R地区				合計
	L-1地区	L-2地区	L-3地区	L-4地区	L-2・5地区	L-5・F4J地区	R-1地区	R-2地区	R-2・3地区	R-3地区	
	平成27(2015)年度	平成25(2013)年度	平成27(2015)年度	平成27(2015)年度	平成25・28(2013・2016)年度	平成28(2016)年度	平成27(2015)年度	平成27(2015)年度	平成27・28(2015・2016)年度	平成28(2016)年度	
①: 単独番号で単独のTピット	数	12	5	72	1	23		8	1	291	413
遺構番号				TP-10~74 76~88 95 101	TP-5	TP-105 :L-4地区 平成28年度調査 TP-106~121 124~129		TP-91~94 96・98 100・102	TP-90	TP-130~140 142~274 276~278 279~309 311~337 339~380 382~426	
②: 単独番号で複数と判明したTピット	表記 ⇒ 枝記号を末尾に付す	数		2						5	7
遺構番号				TP-89西 TP-89東						TP-278A TP-278B TP-381A TP-381B TP-381C	
③: 複数番号で単独と判明したTピット	表記 ⇒ [角形かっこ]くくり	数				1					1
遺構番号						TP-[122・123]					
④: 土坑と判断したもの	表記 ⇒ (T)を丸かっこくくり 本文を斜字体	数			1			3		2	6
遺構番号				(T)P-75			(T)P-97 (T)P-99 (T)P-103		(T)P-141 (T)P-310		
⑤: 遺構でないもの	表記 ⇒ (TP-)を丸かっこくくり 本文を斜字体	数								2	2
遺構番号										(TP-)275 =高野木根 (TP-)338 =浅い自然のくぼみ	
Tピット 総数	小地区 合計	0	12	5	74	25	0	8	297	421	
	地区 合計				116			305			
	平成25(2013)年度 合計		12							12	
	平成27(2015)年度 合計				79			8		87	
	平成28(2016)年度 合計					25			297	322	
遺跡 合計						421					

・複数年度で調査したTP-5・90は新しい調査年度で集計した。L-4地区に位置し、平成28(2016)年度に調査したTP-105はこの年度で集計した。

表74 上幌内5遺跡 Tピット 覆土表記

色調と構成物からみた分層		報告書での表記	備考	原因での表記
見た目の色調				
黒色土主体		B層主体	黒色土 = V層	B層
黒色土に混ざる Ta-d2の量	少量 ↑	B層>>D2・α層		BBY層
		B層>D2・α層		BY層
	↓	D2・α>B層		YB層
	多量	D2・α>>B層		YYB層
橙色または黄色(Ta-d2)主体		D2・α層主体		Y層

α:主たる構成物の記号 L:ローム S:スコリア

覆土の主たる構成物による区分		報告書での表記	備考
覆土の主たる構成物			
橙色または黄色土主体		D2・L層	主に地山の水成二次堆積層起源
橙色または黄色礫(スコリア)主体		D2・S層	主に地山の水成二次堆積層起源
橙色または黄色礫混じり土(スコリア混じり土)主体		D2・L・S層	主に地山の水成二次堆積層起源

\*土(ローム:L)か礫(スコリア:S)の区別は、礫が岩石の形状を留めていても脆いため、観察時にくだけるので、両者は概ね同じと考えた。

Ta-d2スコリアの色調による区分		報告書での表記	備考
見た目の色調			
一般的な色調のもの(橙色)		D2・L層 / D2・S層	—
黄色		D2・Y・L層 / D2・Y・S層	還元が進んだと解釈した層
白色		— / D2・W・S層	さらに還元が進んだと解釈した層

その他の区分		報告書での表記	備考
見た目の色調			
灰白色粘土主体の層		W層	灰白色粘土(湧水の底面)
灰白色粘土に黒色土が混じる層	灰白色粘土が少ない	BW層	黒色土(V層)が多い
	灰白色粘土が多い	WB層	黒色土(V層)が少ない
黄色粘土主体の層		YCL層	黄色粘土(湧水の底面)
青灰色の砂礫主体 Ta-d1		D1層	Ta-d1 スコリア
β層に白色岩片が混ざる		β+Wpb層	白色岩片:凝灰岩(シルト岩)
白色の砂礫主体の層		Wpb層	

- ・スコリアの形状は、円礫、亜円礫が多いが、一部、亜角礫のものもある。
- ・灰白色粘土・黄色粘土は、地山の水成二次堆積物の一部と考えられる。
- ・白色の岩片は凝灰岩(シルト岩)で、この地域の山間部にみられる。円磨度から水成二次堆積と考えられる。

## 「砂礫」

- ・円礫形状で、上記に該当しない岩石(火山噴出物や凝灰岩以外)を主として構成される砂礫層 自然層位では地山の水成堆積物層中に薄層でみられる。
- ・土性の「砂」は、この「砂礫」の粒径が小さなものを示す。

## 互層

- ・薄層が多数重なってみられる範囲

## 量

- ・その覆土中に占める混在物の量を判断し、多量・少量、微量と記し、中量の場合は表記しない。
- ・量の目安は、多量:30%、中量:20%、少量:10%、微量:10%未満である。

粒度区分	
右記の表による	採用した粒度区分
	「粘土」
	「シルト」
2mm	「砂」
20mm	礫 細粒
40mm	礫 中粒
	礫 粗粒

現場で使用した名称の改称	
原因での表記	報告書での表記
細礫	「砂礫」
中礫	中粒の「砂礫」
Yスコ	粗粒のスコリア
小スコ	中粒のスコリア
小粒	細粒のスコリア
Yつぶ	さらに細粒のスコリア
白つぶ	細粒の灰白色のスコリア
粒砂	砂程度のスコリア

## その他

- ・具体的に、補足する



# 付 篇

自然科学的手法による分析

## 1. 平成27(2015)年度 上幌内 4 遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

上幌内 4 遺跡は、北海道勇払郡厚真町幌内368-1ほか(北緯42° 46′ 57.51″、東経142° 00′ 19.06″)に所在する。測定対象試料は、竪穴住居跡から出土した炭化物 2 点である (表 1)。試料が出土した遺構は樽前 c テフラ (約2000年前降下) 下位の黒色土層で検出された。

### 2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

### 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常 1 mol/ℓ (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 4 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置 (NEC社製) を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 5 算出方法

- (1) δ<sup>13</sup>Cは、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代は δ<sup>13</sup>Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下 1 桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差 (±1σ) は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。

pMCが小さい ( $^{14}\text{C}$ が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 ( $^{14}\text{C}$ の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の $^{14}\text{C}$ 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の $^{14}\text{C}$ 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma=68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma=95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が $^{14}\text{C}$ 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない $^{14}\text{C}$ 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を使い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

## 6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料の $^{14}\text{C}$ 年代は、KH4-1が $3860 \pm 30\text{yrBP}$ 、KH4-2が $4140 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、KH4-1が縄文時代後期初頭頃、KH4-2が縄文時代中期中葉から後葉頃に相当する (小林編2008)。テフラとの上下関係に整合的な結果である。

試料の炭素含有率はいずれも60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-152824	KH4-1	竪穴住居跡H-1 覆土B	炭化物	AAA	$-28.74 \pm 0.31$	$3,860 \pm 30$	$61.85 \pm 0.20$
IAAA-152825	KH4-2	竪穴住居跡H-2hc-1 床面	炭化物	AAA	$-27.18 \pm 0.37$	$4,140 \pm 30$	$59.70 \pm 0.20$

[#7801]

表2 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC (%)			
IAAA-152824	3,920 $\pm$ 30	61.37 $\pm$ 0.20	3,859 $\pm$ 26	4401calBP-4369calBP(13.0%) 4354calBP-4327calBP(13.7%) 4299calBP-4236calBP(41.4%)	4409calBP-4226calBP(85.5%) 4202calBP-4177calBP( 7.2%) 4171calBP-4159calBP( 2.7%)
IAAA-152825	4,180 $\pm$ 30	59.43 $\pm$ 0.19	4,144 $\pm$ 26	4813calBP-4784calBP(14.8%) 4766calBP-4755calBP( 5.2%) 4709calBP-4614calBP(46.8%) 4592calBP-4589calBP( 1.4%)	4822calBP-4779calBP(18.5%) 4772calBP-4578calBP(76.9%)

[参考値]

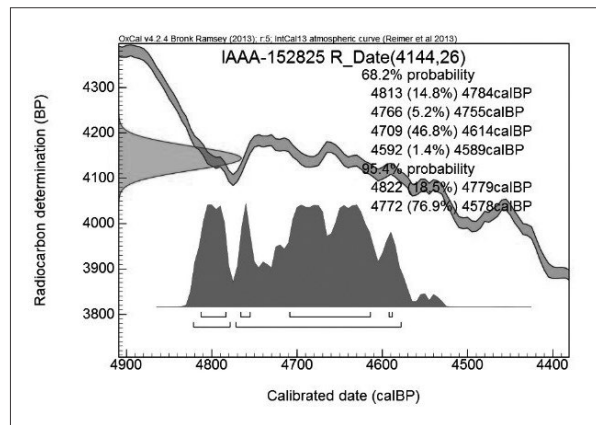
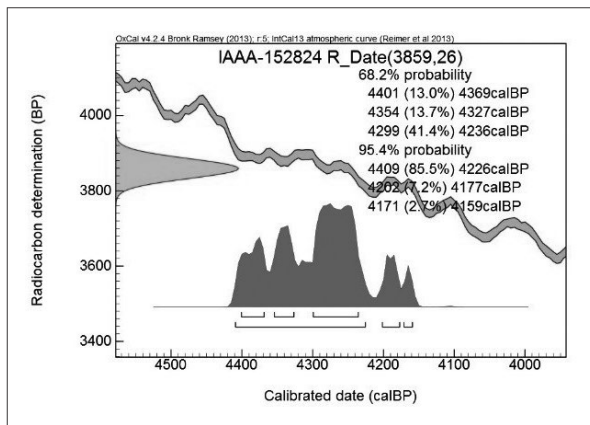
文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363



[図版] 暦年較正年代グラフ (参考)

(平成28(2016)年3月23日 受領 内容点検 愛場)

## 2. 平成27(2015)年度 上幌内5遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

上幌内5遺跡は、北海道勇払郡厚真町幌内351-1ほか(北緯42° 47′ 09.24″、東経142° 00′ 48.05″)に所在する。測定対象試料は、竪穴住居跡から出土した炭化物1点である(表1)。この竪穴住居跡は樽前d火山噴出物層(8~9千年前降下、町田・新井2011)を掘り込んで構築されている。

### 2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

### 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/ℓ(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 4 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 5 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差( $\pm 1\sigma$ )は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。

pMCが小さい ( $^{14}\text{C}$ が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 ( $^{14}\text{C}$ の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の $^{14}\text{C}$ 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の $^{14}\text{C}$ 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma=68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma=95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が $^{14}\text{C}$ 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない $^{14}\text{C}$ 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を使い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

## 6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料KH5-1の $^{14}\text{C}$ 年代は $4490 \pm 30\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は縄文時代中期前葉から中葉頃に相当する (小林編2008)、テフラとの上下関係に整合的な結果である。

試料の炭素含有率は60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (%) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-152826	KH5-1	竪穴住居跡H-1 床面	炭化物	AaA	$-25.26 \pm 0.60$	$4,490 \pm 30$	$57.16 \pm 0.21$

[#7802]

表2 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC (%)			
IAAA-152826	4,500 $\pm$ 30	57.13 $\pm$ 0.19	4,493 $\pm$ 28	5281calBP-5214calBP(30.8%) 5191calBP-5163calBP(13.2%) 5135calBP-5105calBP(13.7%) 5076calBP-5053calBP(10.5%)	5292calBP-5044calBP (95.4%)

[参考値]

## 文献

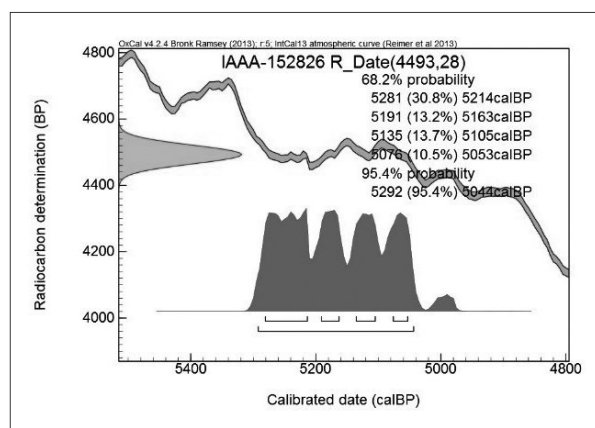
Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

町田洋, 新井房夫 2011 新編火山灰アトラス [日本列島とその周辺] (第2刷), 東京大学出版会

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363



[図版] 暦年較正年代グラフ (参考)

(平成28(2016)年3月23日 受領 内容点検 愛場)

### 3. 平成28(2016)年度 上幌内 4 遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

#### 1 測定対象試料

上幌内 4 遺跡は、北海道勇払郡厚真町幌内368-1ほか(北緯42° 46′ 57.51″、東経142° 00′ 19.06″)に所在し、厚真川上流左岸の緩斜面(標高約72~73m)に立地する。測定対象試料は、Ⅲ層中で検出された焼土の周囲から出土した貝殻(カワシンジュガイ)、礫集中、炭化物集中から出土した炭化物の合計4点である(表1)。

Ⅲ層は、樽前b火山灰(西暦1667年降下)直下の黒色土層である。試料の時期は、いずれもアイヌ文化期(13~17世紀)と推定されている。

#### 2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

#### 3 化学処理工程

##### (1) 炭化物の化学処理

- 1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- 2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- 3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。
- 4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

##### (2) 貝殻の化学処理

- 1) メス・ピンセットを使い付着物を取り除き、超純水に浸し、超音波洗浄を行う。
  - 2) 試料の表面を塩酸で約30%溶かし、汚染された可能性のある部分を除去する(Edg)。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。なお、試料が特に少量の場合、塩酸の処理を行わない場合がある(Non)。
  - 3) 試料中の炭酸カルシウム(CaCO<sub>3</sub>)を分解し、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。
- 以下、(1) 4)以降と同じ。

#### 4 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx



II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

## 5 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の $^{13}\text{C}$ 濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2)  $^{14}\text{C}$ 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 $^{14}\text{C}$ 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2、3に示した。 $^{14}\text{C}$ 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 $^{14}\text{C}$ 年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の $^{14}\text{C}$ 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の $^{14}\text{C}$ 濃度の割合である。pMCが小さい ( $^{14}\text{C}$ が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 ( $^{14}\text{C}$ の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2、3に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の $^{14}\text{C}$ 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の $^{14}\text{C}$ 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が $^{14}\text{C}$ 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない $^{14}\text{C}$ 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2、3、図版1、2に示した。なお、暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BP」または「cal BC/AD」という単位で表され、ここでは前者を表2、図版1、3に、後者を表3、図版2、4に示した。

## 6 測定結果

測定結果を表1～3、図版1～4に示す。較正年代は、cal BPとcal BC/ADの2通りで算出したが、以下の説明ではcal BC/ADの値で記載し (表3、図版2、4)、cal BPの値は図表のみ提示した (表2、図版1、3)。試料の $^{14}\text{C}$ 年代は、KH4-3が $750 \pm 20\text{yrBP}$ 、KH4-4が $600 \pm 20\text{yrBP}$ 、KH4-5が $280 \pm 20\text{yrBP}$ 、KH4-6が $320 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、KH4-3が1262～1277cal ADの範囲、KH4-4が1309～1396cal ADの間に3つの範囲、KH4-5が1529～1654cal ADの間に2つの範囲、KH4-6が1517～1635cal ADの間に3つの範囲で示され、いずれも推定される年代の範囲内である。

試料の状態を炭素含有率から確認すると、炭化物試料の炭素含有率は、すべて70%を超える十分な値である。また、貝殻試料の炭素含有率 (試料が100%炭酸カルシウムであると見なした場合) は90%以上の適正な値である。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360  
 Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887  
 Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of <sup>14</sup>C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果 (δ<sup>13</sup>C補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ <sup>13</sup> C (‰) (AMS)	δ <sup>13</sup> C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-162237	KH4-3	焼土 UF-1 Ⅲ層	貝殻 (カワシ ンジュガイ)	Edg	1.01±0.27	750±20	91.07±0.21
IAAA-162238	KH4-4	礫集中 US-2 Ⅲ層	炭化物	AAA	-27.00±0.35	600±20	92.77±0.22
IAAA-162239	KH4-5	炭化物集中 UC-1 Ⅲ層	炭化物	AAA	-26.50±0.43	280±20	96.61±0.23
IAAA-162240	KH4-6	炭化物集中 UC-2 Ⅲ層	炭化物	AAA	-23.68±0.34	320±20	96.04±0.23

[#8399]

表2 放射性炭素年代測定結果 (δ<sup>13</sup>C未補正值、暦年較正用<sup>14</sup>C年代、較正年代cal BP)

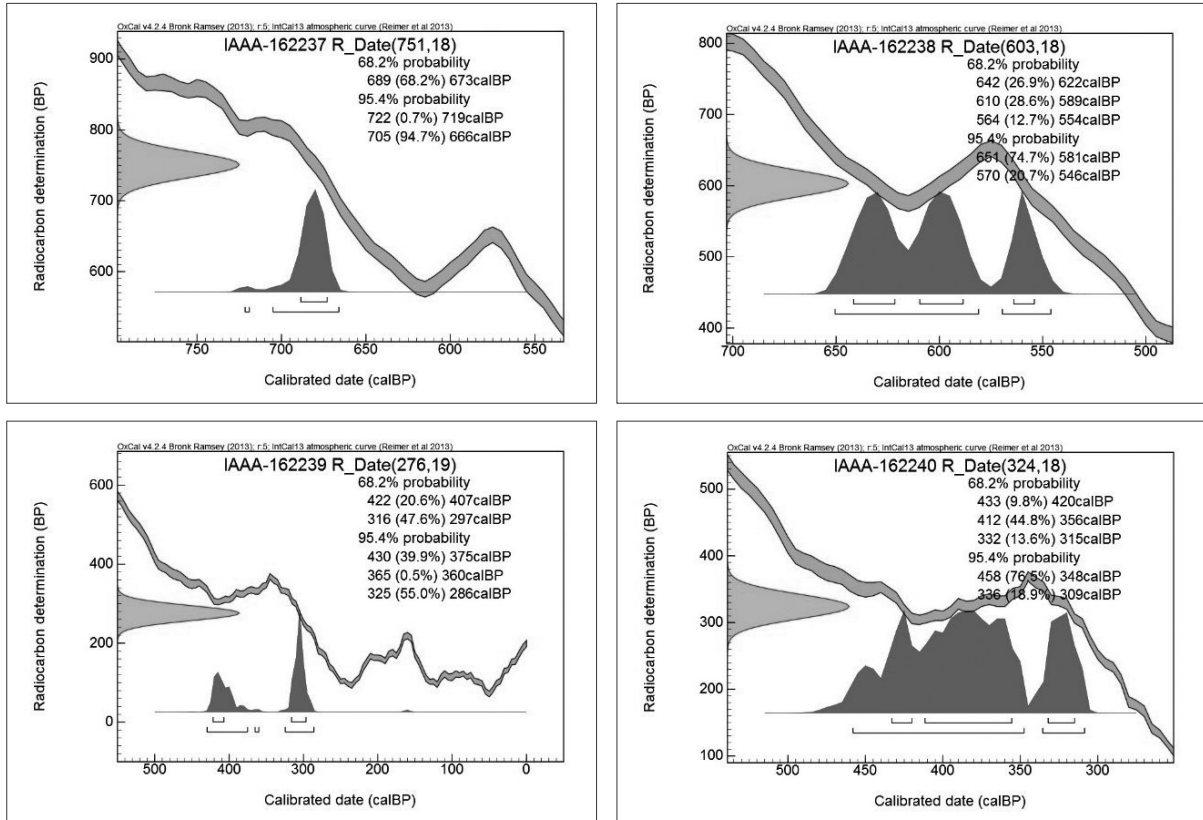
測定番号	δ <sup>13</sup> C補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC (%)			
IAAA-162237	330±20	95.98±0.21	751±18	689calBP-673calBP(68.2%)	722calBP-719calBP(0.7%) 705calBP-666calBP(94.7%)
IAAA-162238	640±20	92.39±0.21	603±18	642calBP-622calBP(26.9%) 610calBP-589calBP(28.6%) 564calBP-554calBP(12.7%)	651calBP-581calBP(74.7%) 570calBP-546calBP(20.7%)
IAAA-162239	300±20	96.31±0.22	276±19	422calBP-407calBP(20.6%) 316calBP-297calBP(47.6%)	430calBP-375calBP(39.9%) 365calBP-360calBP(0.5%) 325calBP-286calBP(55.0%)
IAAA-162240	300±20	96.30±0.22	324±18	433calBP-420calBP(9.8%) 412calBP-356calBP(44.8%) 332calBP-315calBP(13.6%)	458calBP-348calBP(76.5%) 336calBP-309calBP(18.9%)

[参考値]

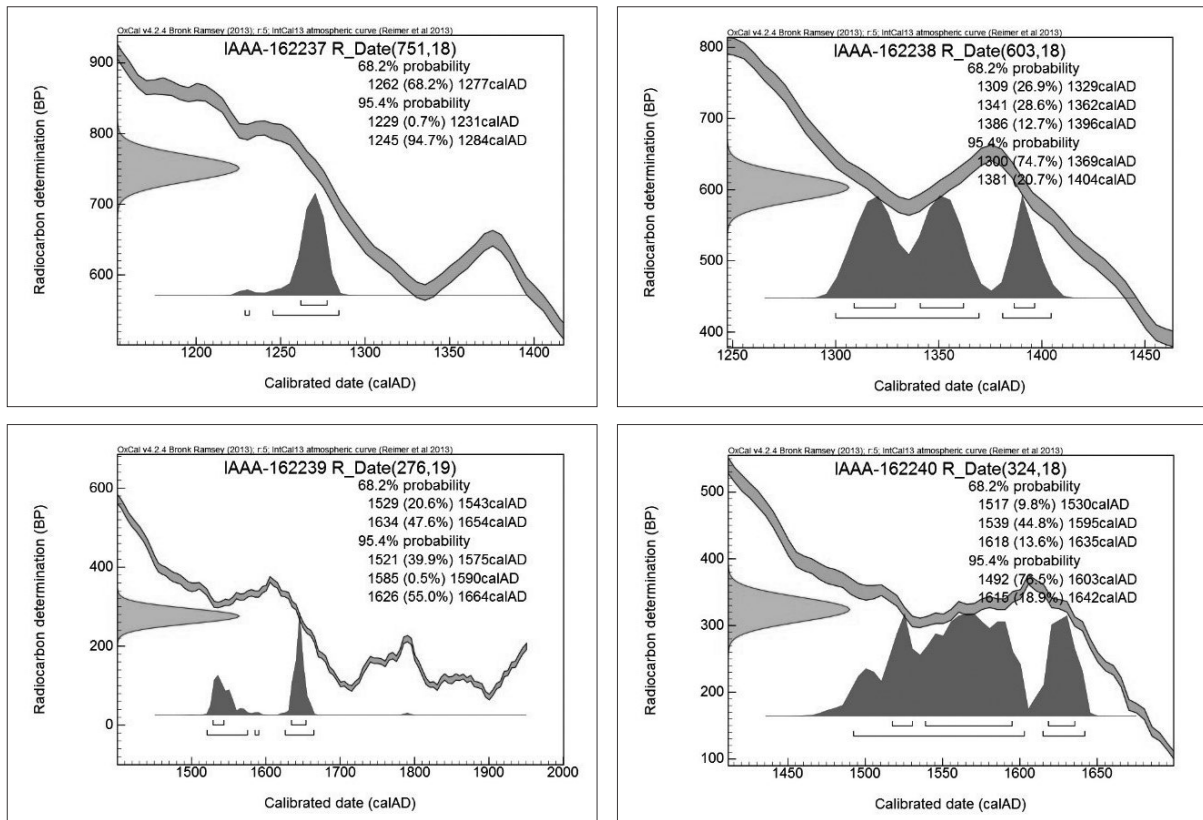
表3 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代、較正年代cal BC/AD)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC (%)			
IAAA-162237	330 $\pm$ 20	95.98 $\pm$ 0.21	751 $\pm$ 18	1262calAD-1277calAD(68.2%)	1229calAD-1231calAD(0.7%) 1245calAD-1284calAD(94.7%)
IAAA-162238	640 $\pm$ 20	92.39 $\pm$ 0.21	603 $\pm$ 18	1309calAD-1329calAD(26.9%) 1341calAD-1362calAD(28.6%) 1386calAD-1396calAD(12.7%)	1300calAD-1369calAD(74.7%) 1381calAD-1404calAD(20.7%)
IAAA-162239	300 $\pm$ 20	96.31 $\pm$ 0.22	276 $\pm$ 19	1529calAD-1543calAD(20.6%) 1634calAD-1654calAD(47.6%)	1521calAD-1575calAD(39.9%) 1585calAD-1590calAD(0.5%) 1626calAD-1664calAD(55.0%)
IAAA-162240	300 $\pm$ 20	96.30 $\pm$ 0.22	324 $\pm$ 18	1517calAD-1530calAD(9.8%) 1539calAD-1595calAD(44.8%) 1618calAD-1635calAD(13.6%)	1492calAD-1603calAD(76.5%) 1615calAD-1642calAD(18.9%)

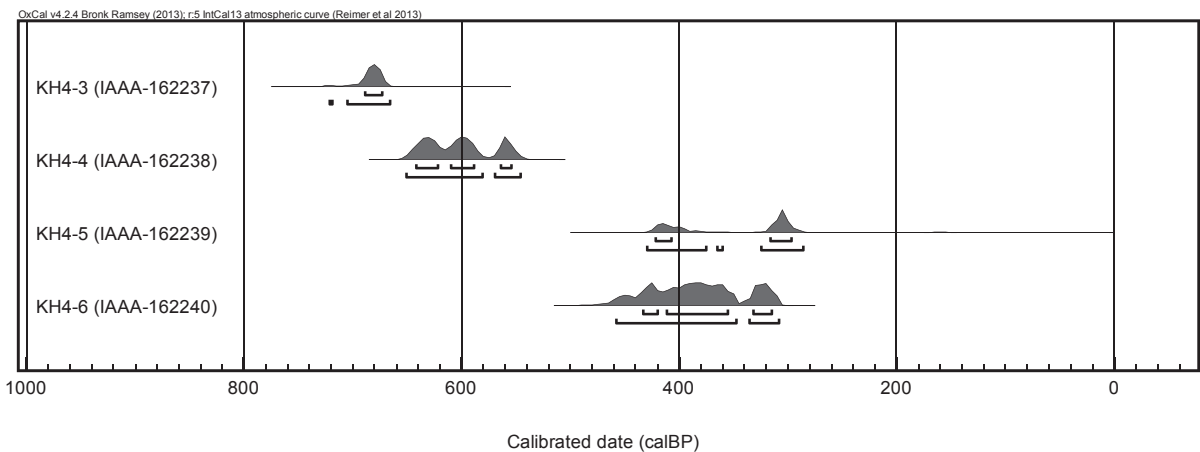
[参考値]



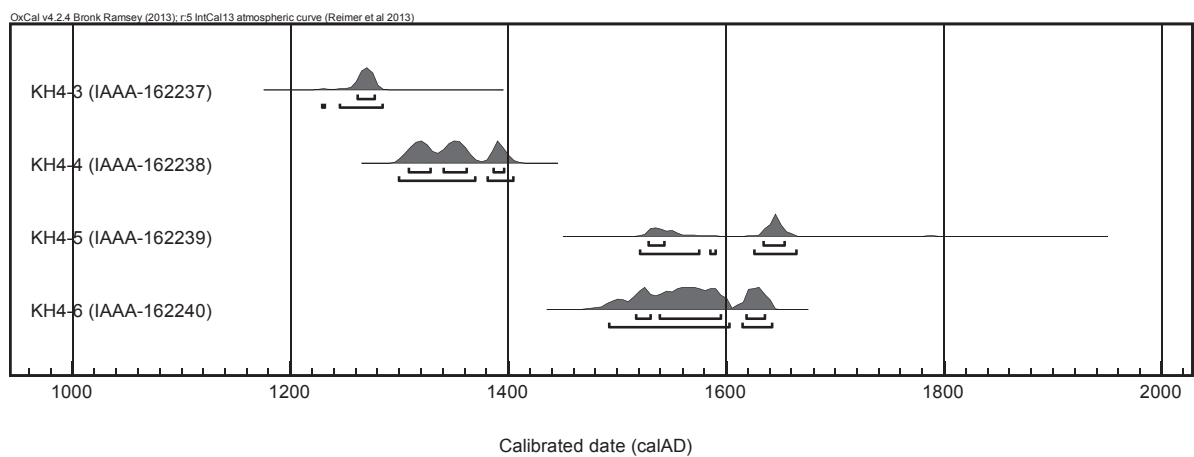
[図版 1] 暦年較正年代グラフ (cal BP、参考)



[図版 2] 暦年較正年代グラフ (cal BC/AD、参考)



[図版 3] 暦年較正年代グラフ (マルチプロット図、cal BP、参考)



[図版 4] 暦年較正年代グラフ (マルチプロット図、cal BC/AD、参考)

(平成29(2017)年3月24日 受領 内容点検 未光)

## 4. 平成28(2016)年度 上幌内4遺跡における種実同定

株式会社パレオ・ラボ

### 1. はじめに

厚真町に所在する上幌内4遺跡は、厚真川の左岸に位置する。ここから出土した種実を同定し、当時の植生と植物利用について検討する。

### 2. 試料と方法

試料は、アイヌ文化期とされる焼土(UF-1)Ⅲ層より水洗選別、篩分けされたものである。試料番号1-(1)浮遊物0.425mm、試料番号1-(2)浮遊物2.0mm、試料番号1-(3)残渣1.41mm、の計3点である。

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

### 3. 結果

#### (1) 分類群

草本4分類群が同定された。学名、和名および粒数を表1に示し、主要な分類群の写真を図版に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載する。

#### 〔草本〕

イネ科 Gramineae 穎

穎は灰褐色～茶褐色で楕円形を呈す。腹面はやや平らで背面は丸い。表面は滑らかである。

タデ属 *Polygonum* 果実 タデ科

黒褐色で卵形を呈す。表面にはやや光沢があり、断面は三角形である。

タデ属サナエタデ節 *Polygonum* sect. *Persicaria* 果実(破片) タデ科

黒褐色で頂端が尖る広卵形を呈す。表面は滑らかで光沢があり、断面は扁平で中央がややくぼむ。

アカザ属 *Chenopodium* 種子 アカザ科

黒色で光沢があり円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝が走る。

#### (2) 種実群集の特徴

1) 試料番号1-(1)浮遊物0.425mm

草本種実のイネ科穎2、タデ属1、タデ属サナエタデ節2、アカザ属1が同定された。

2) 試料番号1-(2)浮遊物2.0mm

種実を検出されなかった。

3) 試料番号1-(3)残渣1.41mm

種実を検出されなかった。

### 4. 考察とまとめ

上幌内4遺跡の焼土(UF-1)Ⅲ層より出土した種実では、未炭化の草本種実、イネ科穎、タデ属、タデ属サナエタデ節、アカザ属が同定された。イネ科とタデ属には湿潤な環境、乾燥した環境に生育

する双方が含まれるが、タデ属サナエタデ節を除くタデ属は概して乾燥した環境に生育するものが多い。タデ属サナエタデ節は水生植物であり、湿地や流路際などに生育する。アカザ属は乾燥した集落域や路傍や畑などの人間活動の活発な干渉地に生育し、畑作雑草でもある。

以上から、焼土（UF-1）Ⅲ層に含まれていた種実類は、未炭化であり周囲の草本を反映していると考えられる。数量は少ないが、人為干渉のある環境に生育する草本ばかりで、周囲には樹木が少なく日当たりの良い環境であったとみなされる。タデ属サナエタデ節の湿潤を好む草本とアカザ属の乾燥を好む草本が近接して生育し、湿潤な環境と乾燥した環境が隣接した起伏のある環境が推定される。

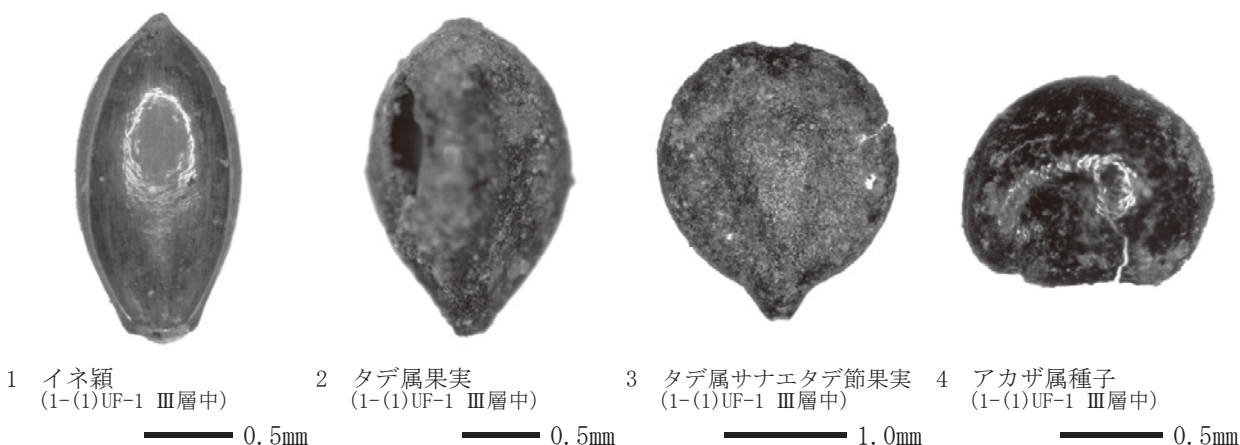
表 1 上幌内 4 遺跡における種実同定結果

試料番号	対象試料	遺構名	層位	分類群		部位	個数	備考	時期
				学名	和名				
1-(1)	浮遊物 0.425mmメッシュ	UF-1	Ⅲ層中	Gramineae	イネ科	穎	2	未炭化	アイヌ文化期
				<i>Polygonum</i>	タデ属	果実	1		
				<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	果実(破片)	2		
				<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	1		
1-(2)	浮遊物 2.0mmメッシュ	UF-1	Ⅲ層中						
1-(3)	残渣 1.41mmメッシュ	UF-1	Ⅲ層中						

### 参考文献

- 笠原安夫（1985）日本雑草図説，養賢堂，494p.  
 笠原安夫（1988）作物および田畑雑草種類．弥生文化の研究第2巻生業，雄山閣 出版，p. 131-139.  
 南木睦彦（1992）低湿地遺跡の種実．月刊考古学ジャーナルNo. 355，ニューサイエンス社，p. 18-22.  
 南木睦彦（1993）葉・果実・種子．日本第四紀学会編，第四紀試料分析法，東京大学出版会，p. 276-283.

### 上幌内 4 遺跡の種実



(平成29(2017)年3月24日 受領 内容点検 末光)

## 5. 平成29(2017)年度 厚真町上幌内 4 遺跡の金属製品の材質分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

上幌内 4 遺跡は勇払郡厚真町に所在する。発掘調査ではアイヌ文化期と推定される小刀、刀子、鉤状・棒状などの金属製品が出土している。これら金属製品の材質や製作技術を検討する目的から、材質分析を行った。

### 1. 試料

本分析調査では、棒状品（遺物番号 3）、鉤状品（遺物番号 4）、刀子（遺物番号 5）の 3 点について調査を実施した。表 1 に試料の詳細と、調査項目を示す。

表 1 分析試料と調査項目

遺物番号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	計測値		調査項目				
					大きさ(mm)	重量(g)	金属探知器反応	マクロ組織	顕微鏡組織	ビッカース断面硬度	EPMA
3	上幌内4	M-25区 Ⅲ層	棒状品	アイヌ文化期	(5.8) × 10 × 8	5.0	L (●)	○	○	○	○
4	上幌内4	M-26区 Ⅲ層	鉤状品		(48) × 37 × 7	13.8	L (●)	○	○	○	○
5	上幌内4	M-25区 Ⅲ層	刀子		(65) × 12 × 3	5.6	L (●)	○	○	○	○

### 2. 分析方法

#### (1) 外観観察

鉄製品の外観的な特徴を記載した。

#### (2) マクロ組織

試料を端部から切り出した後、断面をエメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3 $\mu$ mと1 $\mu$ mで順を追って研磨し、断面の全体像を撮影した。

#### (3) 顕微鏡組織

光学顕微鏡を用いて、鉄製品の金属組織および非金属介在物を観察後、写真を撮影した。金属組織観察には、3%ナイトル（硝酸アルコール液）を腐食（Etching）に用いた。

#### (4) ビッカース断面硬度

ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行った。試料は顕微鏡用を併用し、荷重50~200gfで測定した。ビッカース硬さは測定箇所には圧子（136°の頂角をもったダイヤモンド）を押し込んだ時の荷重と、それにより残された窪み（圧痕）の対角線長さから求めた表面積から算出される。

#### (5) EPMA調査

EPMA（日本電子製株 JXA-8230）を用いて、鉄製品中の非金属介在物の組成を調査した。測定条件は以下の通りである。加速電圧：15kV、照射電流（分析電流）：2.00E-8A。

### 3. 結果

#### 遺物番号 3 棒状鉄製品

(1) 外観観察：錆化に伴い両端が欠損した棒状の鉄製品（5.0g）である。上端部横断面は約7mm×



2mmとやや幅広く薄手の長方形、下端部横断面は約2.5mm角のやや歪な方形を呈する。全体が茶褐色の錆で覆われており、表面には錆膨れが複数生じている。ただし、広い範囲で金属探知器反応があるため、内部には金属鉄が残存すると考えられる。

(2) **マクロ組織**：図版1-①に示す。下端部横断面を調査した。写真右側のやや歪な環状の灰色部は鉄器表面に生じた錆膨れである。左側が鉄器断面で、錆化に伴い左下角部が欠損している。また内部には金属鉄が残存する。

(3) **顕微鏡組織**：図版1-②③に示す。金属鉄部は3%ナイトルで腐食したところ、微細なフェライト (Ferrite:  $\alpha$ 鉄)・パーライト (Pearlite) 組織が確認された。パーライトの面積率から炭素含有率は0.3~0.5%程度の亜共析鋼 ( $C < 0.77\%$ ) と推定される。近代以前の鉄器としては、非常に微細な組織であった。この特徴から、製品に強度と靱性を持たせるために、比較的低い温度 (850°C前後) で鍛打加工した可能性が考えられる。

また内部には微細な淡茶褐色多角形結晶が点在する。これらの結晶は色調と形状から、ウルボスピネル (Ulvöspinel:  $2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$ ) など、製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) に由来する非金属介在物と推定される。組成については、EPMA調査の項で詳述する。

(4) **ビッカース断面硬度**：図版1-②の金属鉄部の硬度を測定した。硬度値は163~242Hvであった。炭素含有量が低めの芯部 (②の中央寄りと下側) が比較的軟らかく、炭素量が高い表層 (②の上側から左側) はやや硬質の値となっている。

(5) **EPMA調査**：図版1-④に鉄中非金属介在物の反射電子像 (COMP) を示す。中央の結晶は図版1-③右下の淡茶褐色多角形結晶の拡大で、定量分析値は45.2%FeO-18.0%Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-15.0%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-11.7%TiO<sub>2</sub>-8.2%V<sub>2</sub>O<sub>3</sub> (分析点1) であった。クロム鉄鉱 (Chromite:  $\text{FeO}\cdot\text{Cr}_2\text{O}_3$ )、ヘルシナイト (Hercynite:  $\text{FeO}\cdot\text{Al}_2\text{O}_3$ )、ウルボスピネル (Ulvöspinel:  $2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$ ) などを主な端成分とする、スピネル (Spinel) 類の化合物と推定される。

さらにもう1箇所、図版1-⑤に鉄中非金属介在物の反射電子像 (COMP) を示す。不定形暗灰色部の定量分析値は42.7%FeO-39.3%SiO<sub>2</sub>-9.8%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-1.6%CaO-1.6%K<sub>2</sub>O-2.3%P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> (分析点2) であった。素地は非晶質硅酸塩で、非常に微細なファヤライト (Fayalite:  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ) が晶出しているため、両者を反映した値となったと考えられる。また微細な茶褐色多角形結晶の定量分析値は60.5%FeO-7.1%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-2.5%V<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-25.0%TiO<sub>2</sub> (分析点3) であった。ウルボスピネル (Ulvöspinel:  $2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$ ) とヘルシナイト (Hercynite:  $\text{FeO}\cdot\text{Al}_2\text{O}_3$ ) を主な端成分とする固溶体と推定される。

#### 遺物番号4 鉤状鉄製品

(1) **外観観察**：鉤状の鉄製品 (13.8g) である。外観写真左側は錆化による破面で、横断面はやや歪な楕円状である。一方、外観写真右側端部は鋭く尖っている。また表面全体は茶褐色の錆で覆われており、錆膨れも複数生じている。ただし広い範囲で金属探知器反応があるため、内部に金属鉄が残存すると考えられる。

(2) **マクロ組織**：図版2-①に示す。外観写真の端部横断面を調査した。①の下側はやや直線的な輪郭線であるが、全体はやや歪な楕円状を呈する。内側には金属鉄が残存する。鉄中には熱間での鍛打に伴い展伸した非金属介在物が多数層状に分布しており、折り返し鍛錬された鍛造製品と判断される。また金属鉄部を3%ナイトルで腐食したところ、帯状の白色領域と灰色領域が確認された。部位により炭素量にばらつきがあることを示している。

(3) **顕微鏡組織**：図版2-②~⑤に示す。②は①の上側表層の拡大である。②の上半部は炭素量が

最も低く、ほとんど炭素を含まないフェライト単相に近い組織であった。フェライトは再結晶して粗大化しており、かつ加工に伴い変形している。一方、②の下半部はフェライト・パーライト組織であった。黒色のパーライトの面積率から炭素含有率は0.4%前後と推定される。

また④⑤は①の右下表層部の拡大である。フェライト結晶には加工による変形がみられ、パーライトは不全球状セメントイト (Cementite:  $\text{Fe}_3\text{C}$ ) 化している。この特徴から、当鉄器の最終的な熱間鍛造加工温度は、パーライト組織が分解する700°C前後であったと推察される。

(4) **ビッカース断面硬度**：図版2-②④の金属鉄部の硬さを測定した。硬度値は167~254Hvであった。上述のように、②の上側表層が最も炭素量は低いが、フェライト結晶が加工によって変形しているため、内側の垂共析組織部分 (④の上側)の方が軟質であった。これに対して、炭素量が高い下面表層部は最も硬質であった。

(5) **EPMA調査**：図版2-⑥および⑦に鉄中非金属介在物の反射電子像 (COMP) を示す。白色粒状結晶の定量分析値は96.7%FeO (分析点4)、95.5%FeO (分析点6)であった。ともにウスタイト (Wustite:  $\text{FeO}$ ) と推定される。また淡灰色結晶の定量分析値は66.7%FeO-1.0%CaO-27.5%SiO<sub>2</sub>-1.8%P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> (分析点5)であった。ファヤライト (Fayalite:  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ) と推定される。

これらの介在物は主に鉄酸化物 (FeO) と粘土溶融物 (SiO<sub>2</sub>主成分) からなる。熱間加工時の鉄器の酸化防止剤、または鍛接剤に用いられた粘土汁が、赤熱状態の鉄器表面と反応して生じたものと推定される。棒状鉄製品のような、製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) に由来する非金属介在物は確認されなかった。

## 遺物番号5 刀子

(1) **外観観察**：非常に薄手の刀子の刃部破片 (5.6g) と推定される。全体が強く湾曲している。切先と柄側は欠損している。表面は錆に覆われるが金属探知器反応があり、内部には金属鉄が残存すると考えられる。

(2) **マクロ組織**：図版3-①に示す。切先側の横断面を調査した。全体に錆化しているが、棟と刃部先端に若干金属鉄 (明白色部) が残存する。

(3) **顕微鏡組織**：図版3-②③に示す。②は棟側、③は刃部先端の金属鉄部の拡大である。ほとんど炭素を含まないフェライト単相の組織であった。

(4) **ビッカース断面硬度**：図版3-②の金属鉄部の硬さを測定した。硬度値は158Hvと組織から予想されるよりやや硬質であった。周囲は錆化が進んでいるため、その影響を受けた可能性が考えられる。

(5) **EPMA調査**：図版3-④および⑤に鉄中非金属介在物の反射電子像 (COMP) を示す。淡茶褐色多角形結晶の定量分析値は64.9%FeO-6.2%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-3.4%V<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-22.5%TiO<sub>2</sub> (分析点7) 64.3%FeO-6.0%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-3.8%V<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-22.4%TiO<sub>2</sub> (分析点9)であった。ウルボスピネル (Ulvöspinel:  $2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$ ) と推定される。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) に由来する非金属介在物である。また淡灰色柱状結晶の定量分析値は65.0%FeO-24.6%SiO<sub>2</sub> (分析点8)、65.1%FeO-24.4%SiO<sub>2</sub> (分析点10)であった。ファヤライト (Fayalite:  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ) と推定される。

棒状鉄製品 (KAH-1) と同様に、当鉄器中にも製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) に由来する非金属介在物 [鉄チタン酸化物: ウルボスピネル (Ulvöspinel:  $2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$ )] が確認された。

#### 4. まとめ

上幌内4遺跡から出土した鉄製品3点を調査した結果、以下の点が明らかとなった。

鉄製品中の非金属介在物を調査した結果、2点(遺物番号3、5)から、製鉄原料の砂鉄に由来する鉄チタン酸化物の結晶が確認された。これらは砂鉄を製錬して生産された鉄が鍛冶原料であったことを示すものである。このため本州で生産された鉄素材を入手していた可能性が考えられる。

なお棒状鉄製品(遺物番号3)の非金属介在物中には、チタン(Ti)、バナジウム(V)に加え、高い割合でクロム(Cr)を含む化合物(図版1-④中央の多角形結晶)が確認された。クロムは蛇紋岩、斑レイ岩などの超苦鉄質岩に特徴的な元素であり(井澤, 2005)、苦鉄質岩が分布する流域の河川または海岸で採取された砂鉄が始発原料であったと推察される。

鉄製品3点は、いずれも熱間で鍛打成形された鍛造品であった。

棒状鉄製品(遺物番号3)は、フェライト・パーライト組織が確認された。パーライトの割合から、炭素含有量が0.3~0.5%程度の鋼と推定される。組織は非常に微細であり、製品に強度と靱性を持たせるため、比較的低い温度(850℃前後)で鍛打加工された可能性が考えられる。

鉤状鉄製品(遺物番号4)は低炭素域と高炭素域が不規則な帯状に分布している。折り返し鍛錬後、鉤状に鍛打成形されたものと考えられる。最も炭素量の低い部分はほとんど炭素を含まないフェライト単相の組織、高い部分は炭素含有量が0.4%前後の鋼と推測される。また表層部のフェライト結晶には加工による変形がみられ、パーライトは不全球状セメント化している。このため最終的な加工温度は、パーライト組織が分解する700℃前後であったと推察される。

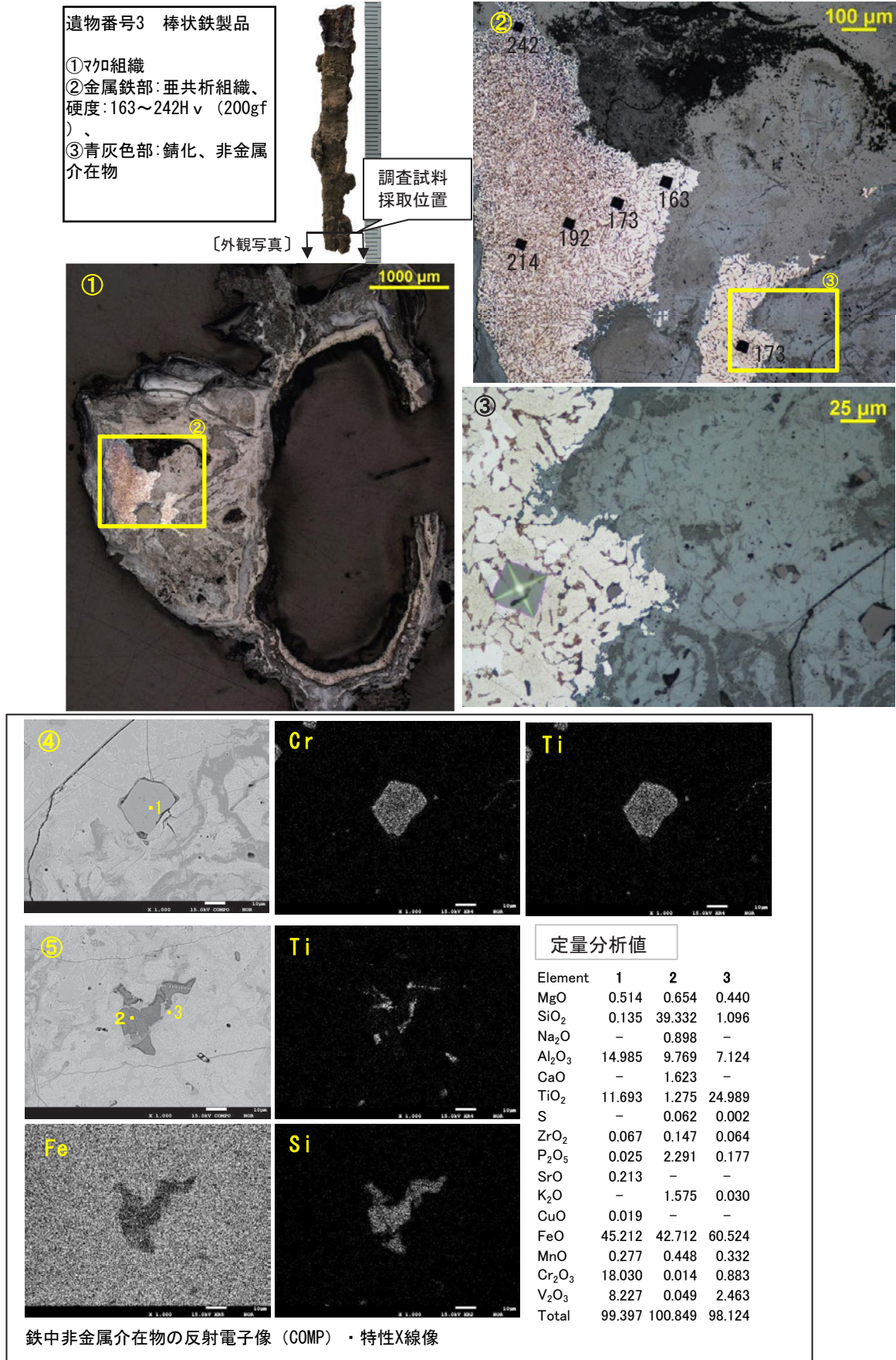
刀子(遺物番号5)の残存金属鉄部は、棟側・刃先ともほとんど炭素を含まないフェライト単相の組織であった。全体が軟鉄の薄刃刃物であり、乾燥した木材等の硬い対象物の切削ができる製品ではない。実用品であれば、柔らかいものを薄く切るような用途で作られた可能性が考えられる。

#### 引用文献

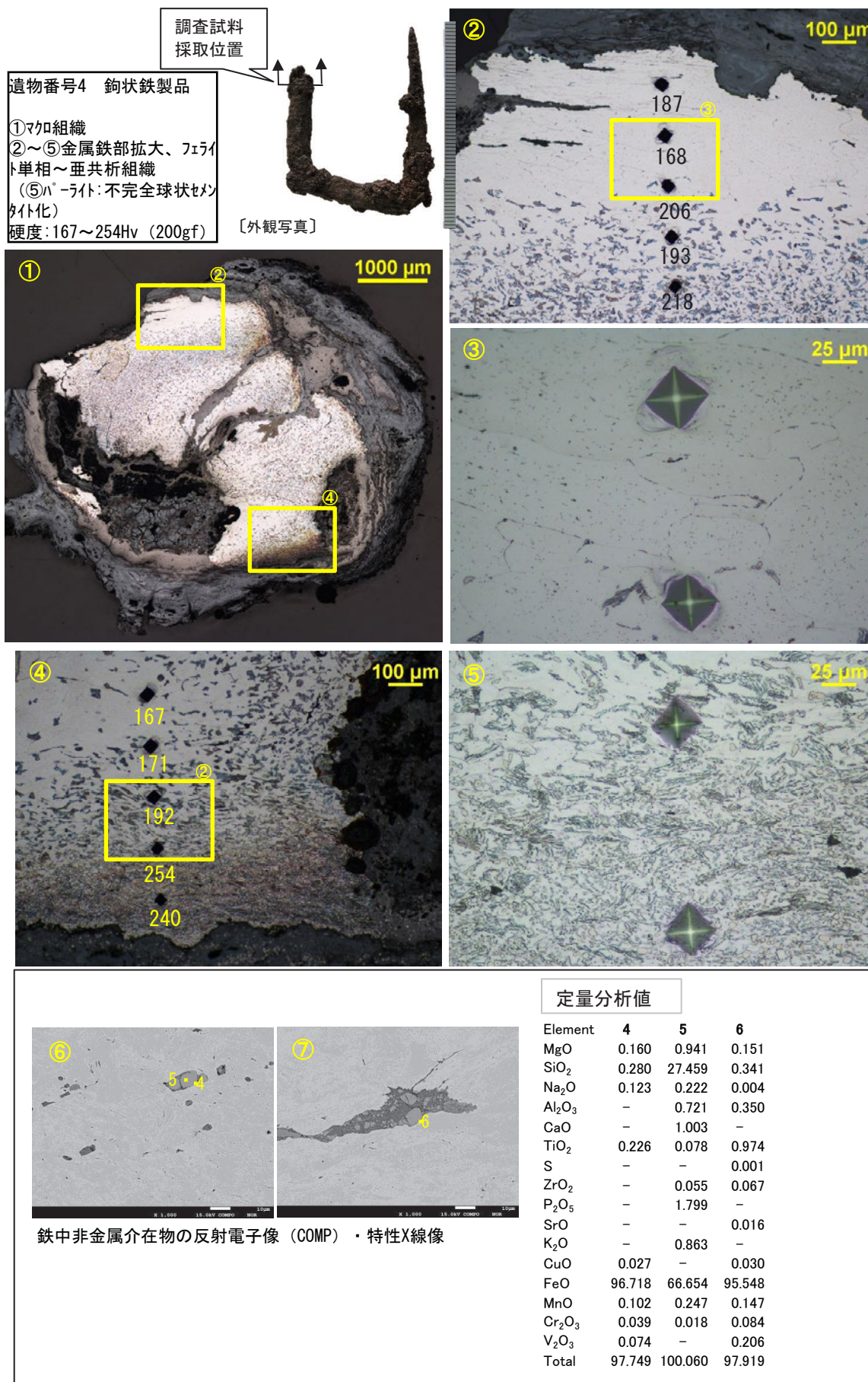
井澤英二, 2005, 日本の古代製鉄で使用された鉱石, ふえらむVol.10 No.5

(平成29(2017)年度10月27日 受領 内容点検 末光)

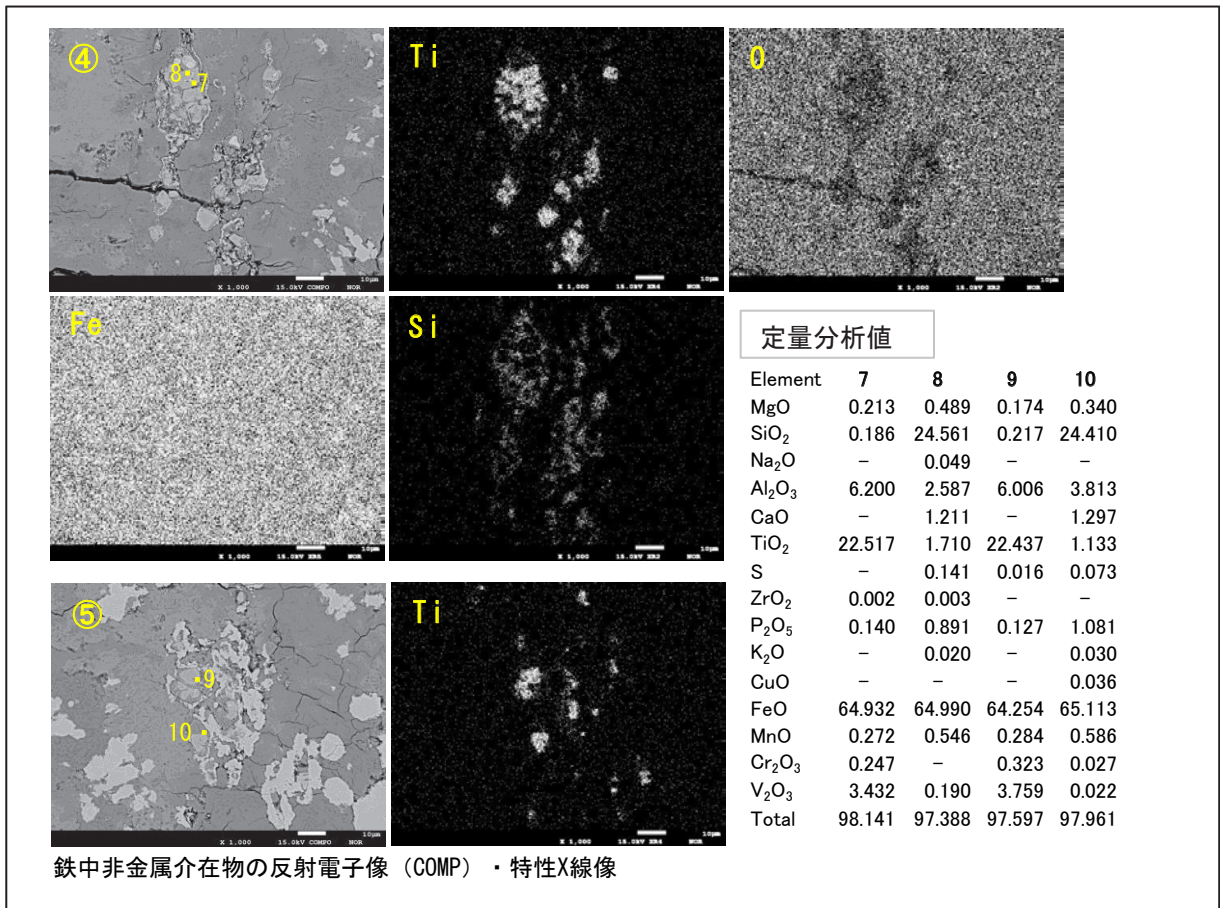
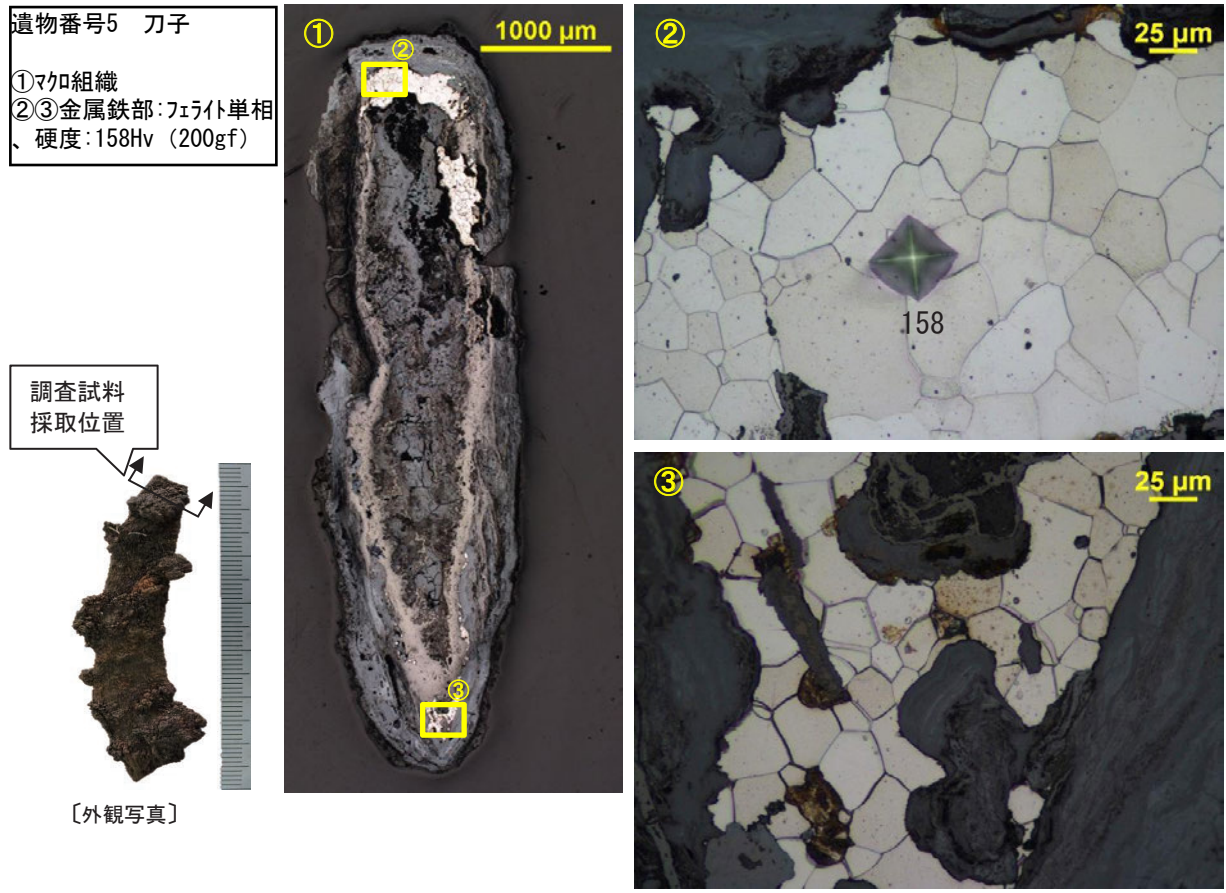
図版 1. 棒状鉄製品（遺物番号 3）の顕微鏡組織・EPMA調査結果



図版2. 鉤状鉄製品（遺物番号4）の顕微鏡組織・EPMA調査結果



図版3. 刀子（遺物番号5）の顕微鏡組織・EPMA調査結果



# 写真図版



平成27(2015)年度調査区Ⅴ層上面の状況(北東から)



平成28(2016)年度調査区Ⅲ層上面の状況(東から)



平成27(2015)年度 基本土層(南東から)



馬の骨出土状況(L・M-21・22区)(南西から)



平成27(2015)年度調査区完掘状況(北東から)

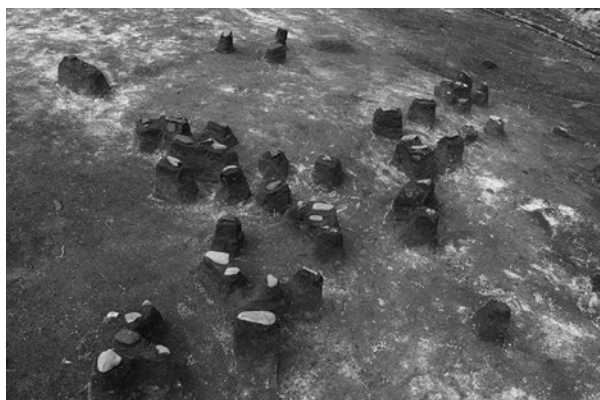




SP-1 土層断面(北東から)



UF-1 (北東から)



US-1 (東から)



US-2 (南西から)



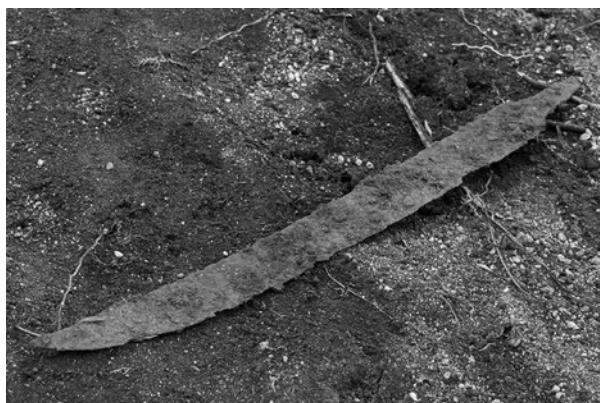
UC-1 (北東から)



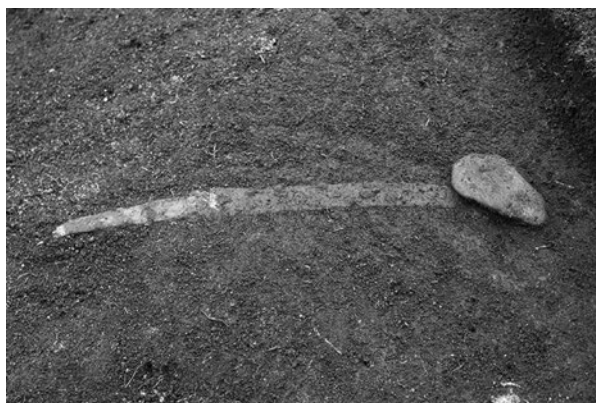
UC-2 (南から)



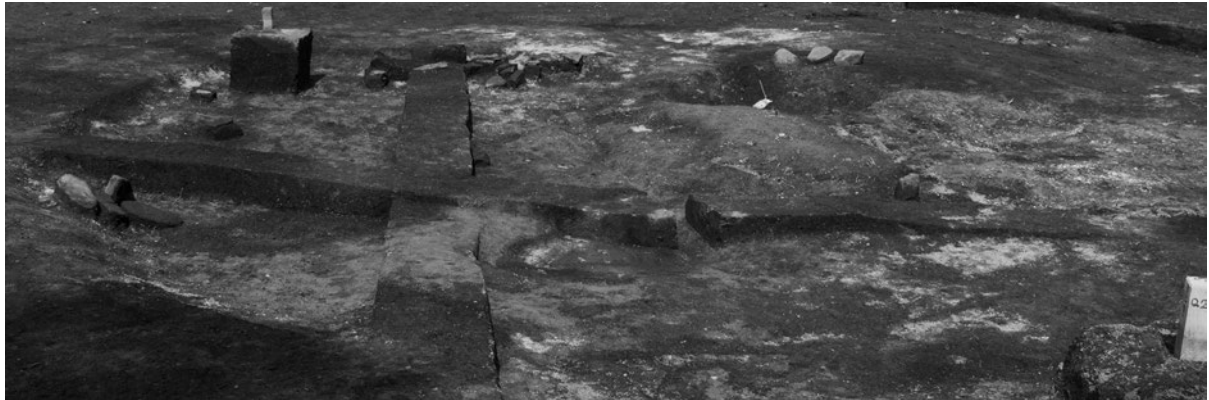
M-25区 鈎状品出土状況(北西から)



N-26区 小刀出土状況(北から)



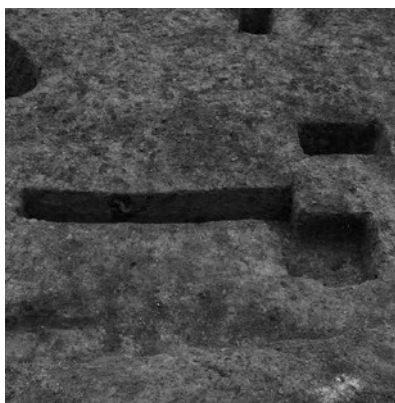
N-26区 刀子出土状況(西から)



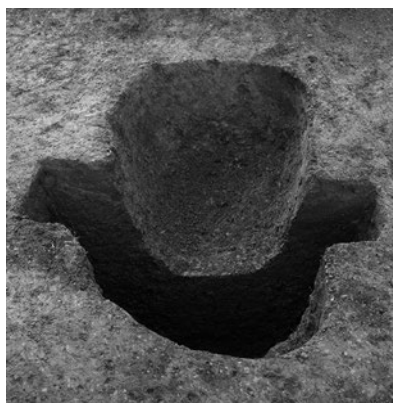
H-1 土層断面(南西から)



H-1 遺物出土状況(北から)



H-1 · hf-1 土層断面(東から)



H-1 · hp-1 完掘状況(東から)



H-1 · ph-1(右) · 2(左) 土層断面(北東から)



H-2 土層断面(北東から)



H-2 遺物出土状況(北東から)



H-2 · h f - 1 土層断面(北東から)



H-2 完掘状況(北東から)



P-1 土層断面(南東から)



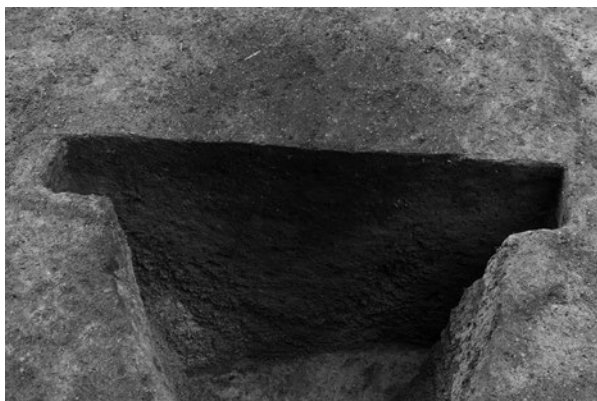
P-1 完掘状況(南東から)



TP-1 土層断面(南から)



TP-3 土層断面(南から)



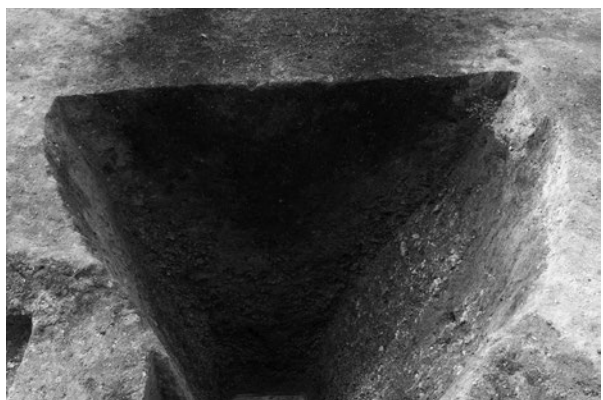
TP-5 土層断面(南東から)



TP-6 土層断面(北東から)



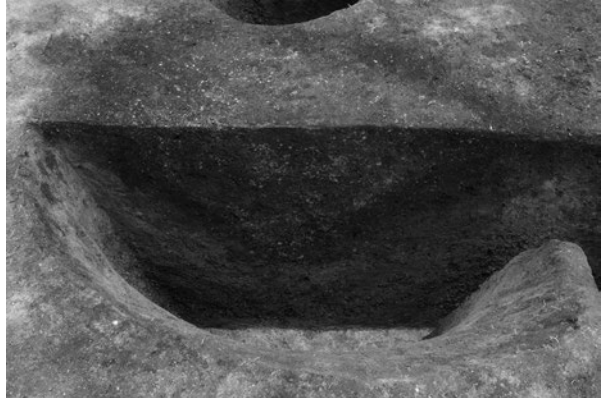
TP-7 土層断面(北東から)



TP-11 土層断面(東から)



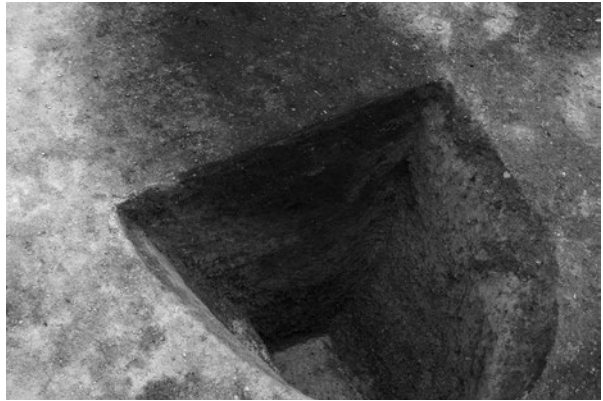
TP-12(右)・13(左)土層断面(南東から)



TP-14土層断面(南東から)



TP-15土層断面(南東から)



TP-16土層断面(南東から)



TP-17土層断面(東から)



TP-18土層断面(南東から)



TP-19土層断面(南東から)



TP-20土層断面(南から)



TP-21土層断面(南東から)



TP-22土層断面(南東から)



TP-25土層断面(南から)



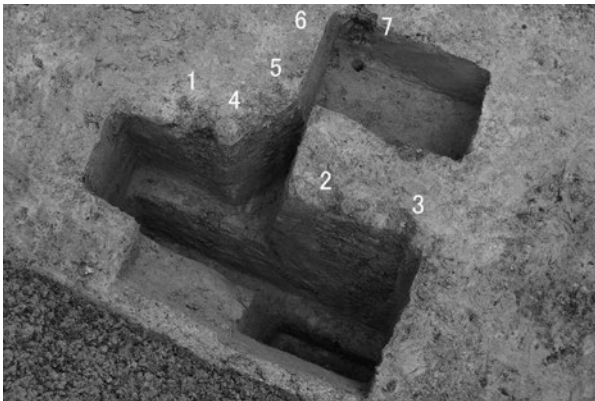
TP-28土層断面(南東から)



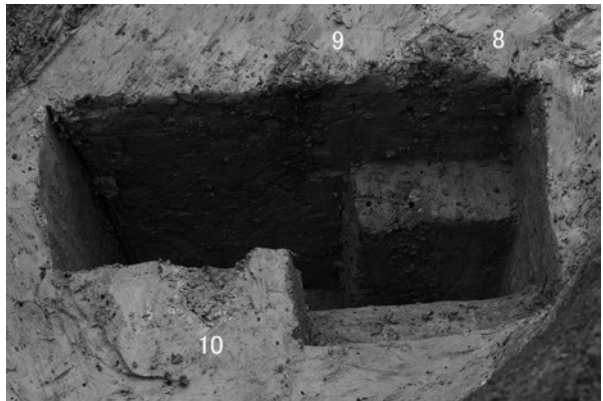
TP-30土層断面(東から)



TP-31土層断面(北から)



TP-6・sp-1~7(北東から)



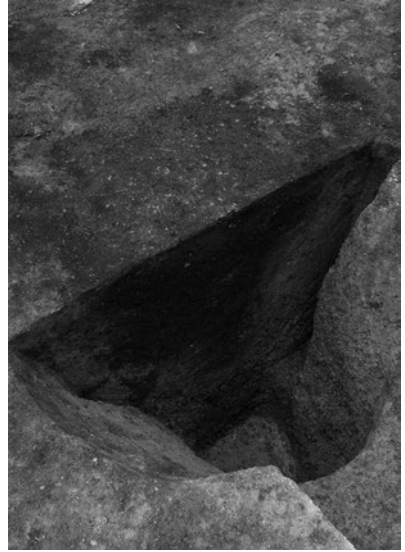
TP-20・sp-8~10(南東から)



TP-2 土層断面(北東から)



TP-4 土層断面(東から)



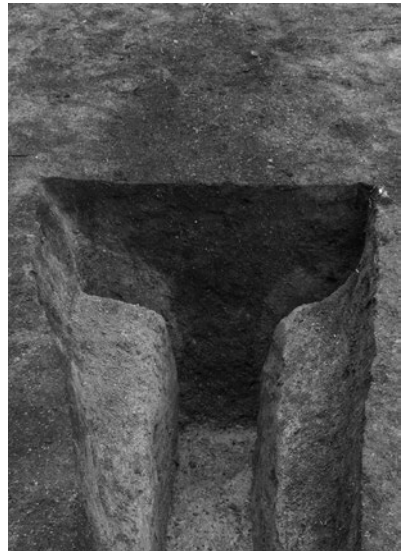
TP-8 土層断面(北東から)



TP-9 土層断面(東から)



TP-10 土層断面(北西から)



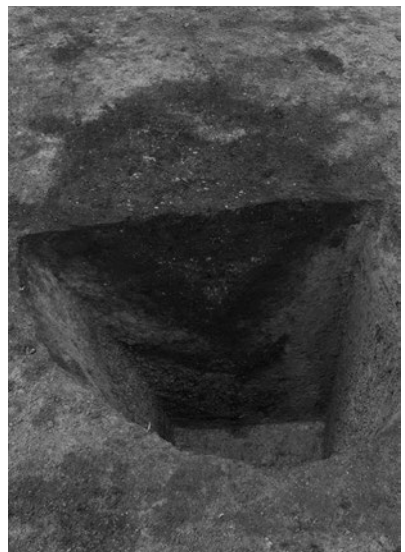
TP-23 土層断面(東から)



TP-24 土層断面(南から)



TP-26 土層断面(南東から)



TP-27 土層断面(南東から)



TP-29土層断面(南東から)



TP-1完掘状況(南から)



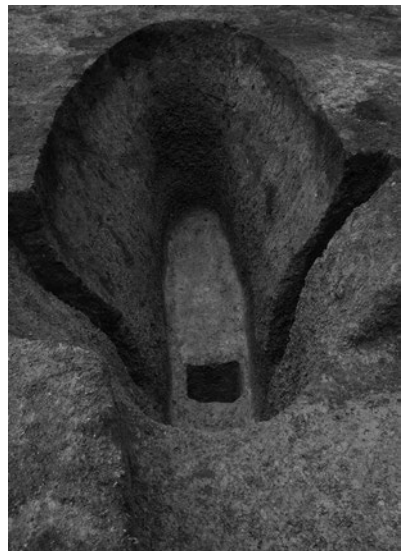
TP-2完掘状況(北東から)



TP-3完掘状況(南から)



TP-4完掘状況(南東から)



TP-8完掘状況(北西から)



TP-9完掘状況(東から)



TP-10完掘状況(北西から)



TP-11完掘状況(南東から)





TP-5 完掘状況(南東から)



TP-6 完掘状況(南から)



TP-7 完掘状況(南東から)



TP-12(右)・13(左) 完掘状況(南東から)



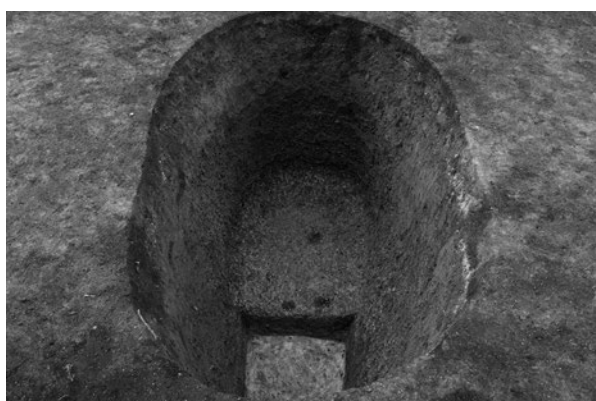
TP-14(左前)・15(右)・16(左奥) 完掘状況(南東から)



TP-17 完掘状況(東から)



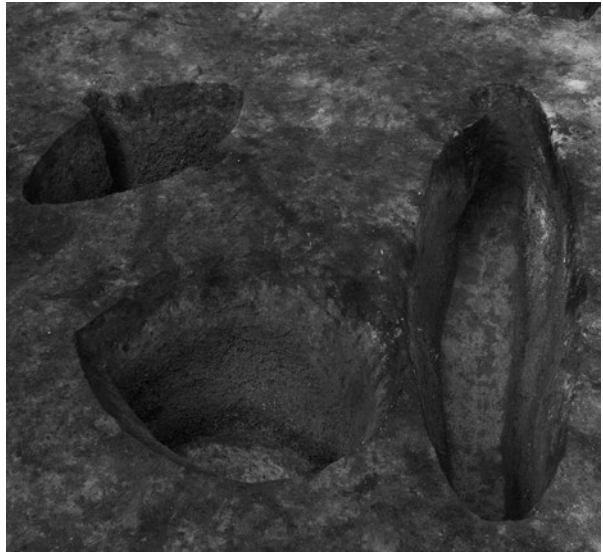
TP-18 完掘状況(南東から)



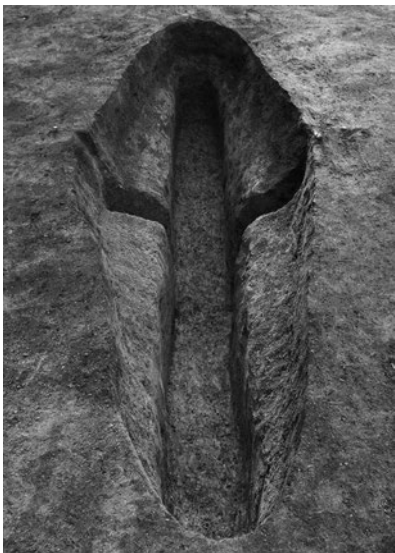
TP-19 完掘状況(南東から)



TP-20完掘状況(南から)



TP-18(左)・21(中)・22(右)完掘状況(東から)



TP-23完掘状況(東から)



TP-24完掘状況(南から)



TP-25完掘状況(南から)



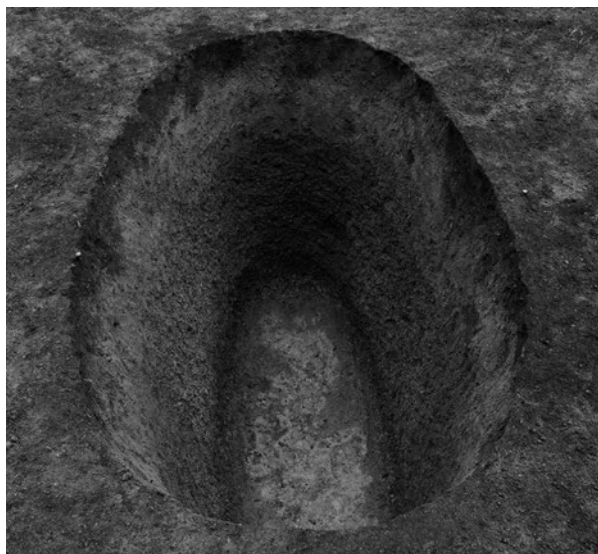
TP-26完掘状況(南東から)



TP-27完掘状況(北西から)



TP-28完掘状況(北西から)



TP-29完掘状況(北西から)



TP-30完掘状況(北西から)



TP-31完掘状況(北東から)



TP-31・h-1(北西から)



F-1土層断面(南西から)



PS-1(北から)



P S - 2 (北西から)



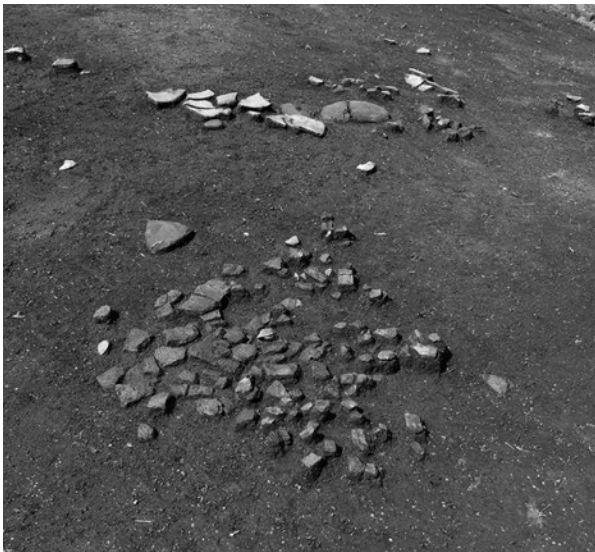
P S - 3 A (東から)



P S - 3 B (北西から)



P S - 4 (北西から)



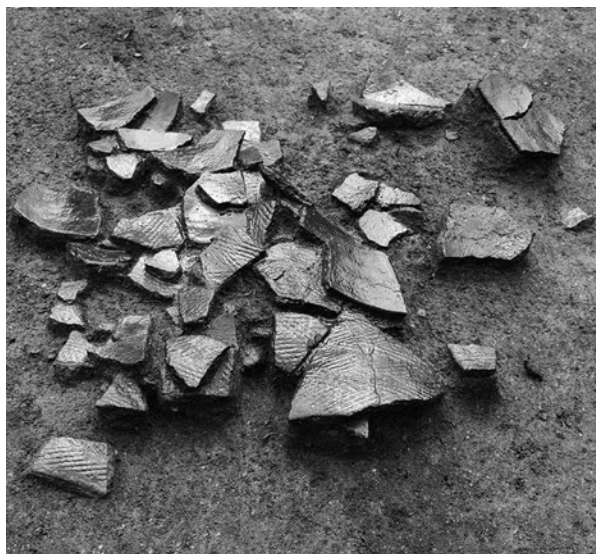
P S - 5 (北東から)



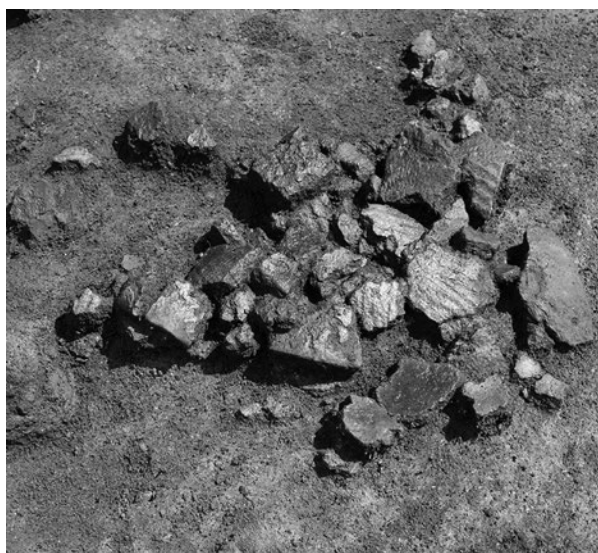
P S - 5 A (北から)



P S - 5 B (北西から)



P S - 6 (北東から)



P S - 7 (南西から)



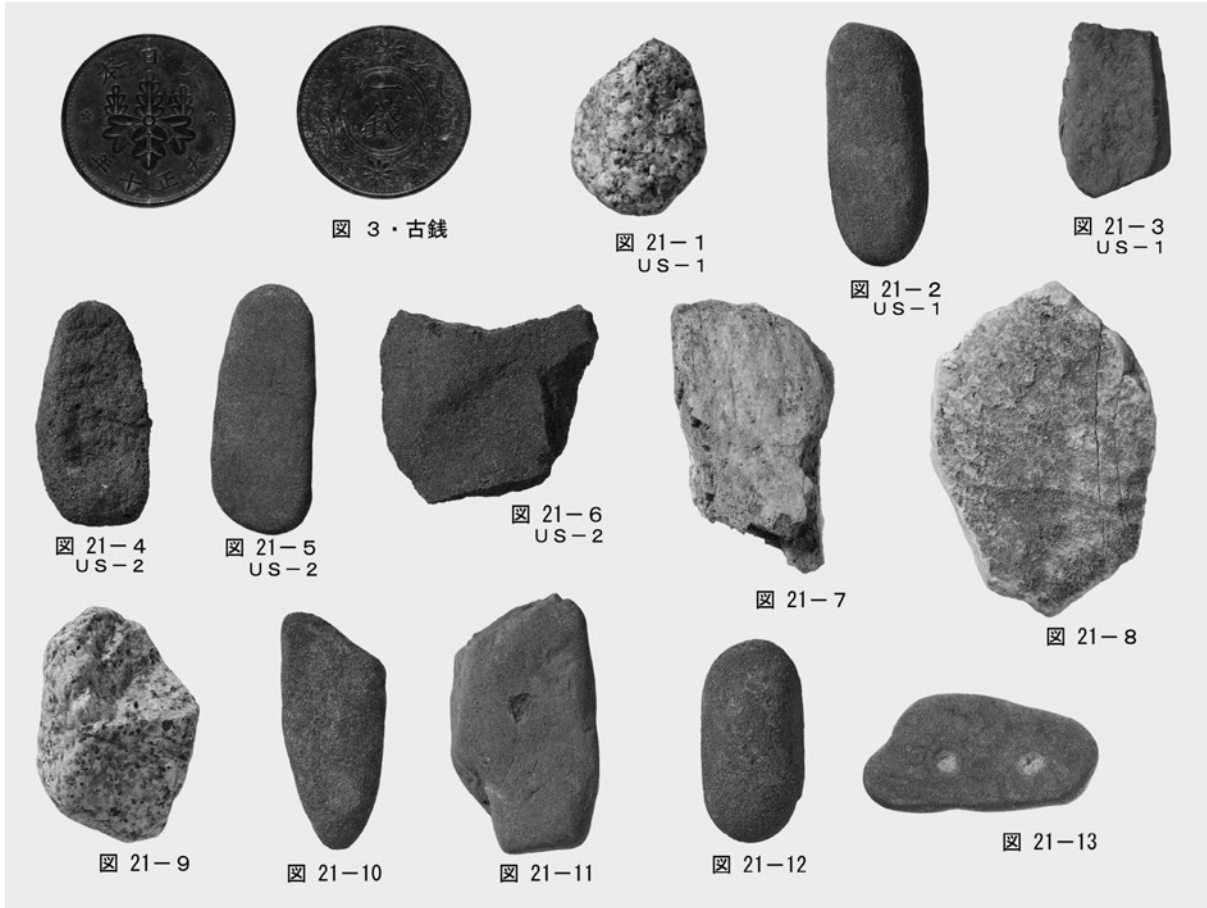
F C - 1 (東から)



S - 1 (北東から)



S - 1 土器出土状況 (南東から)



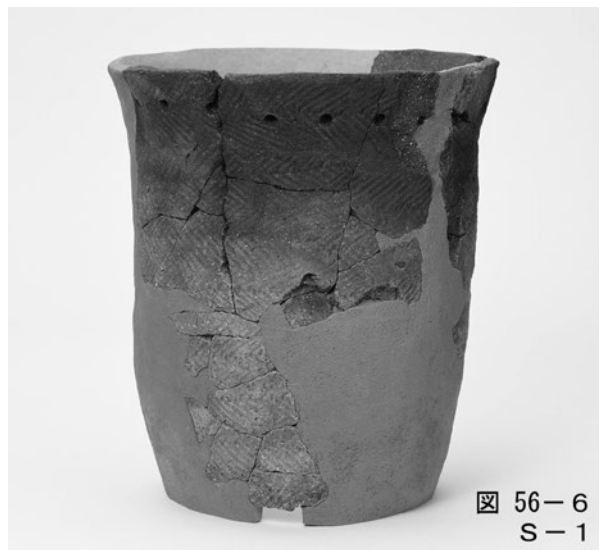
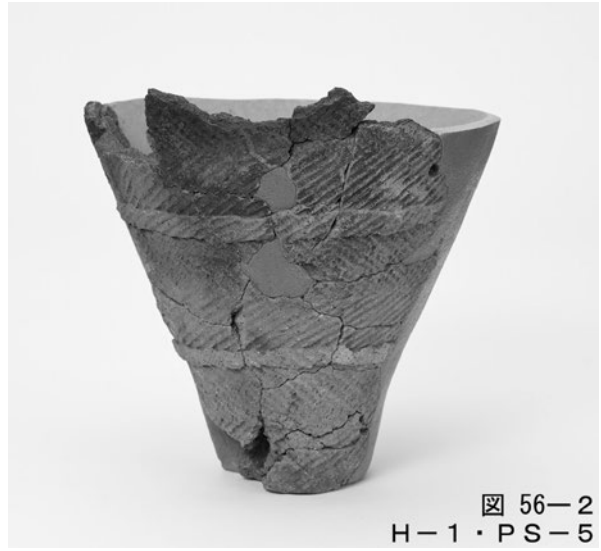
I・Ⅲ層出土遺物



US-1・2出土のレキ

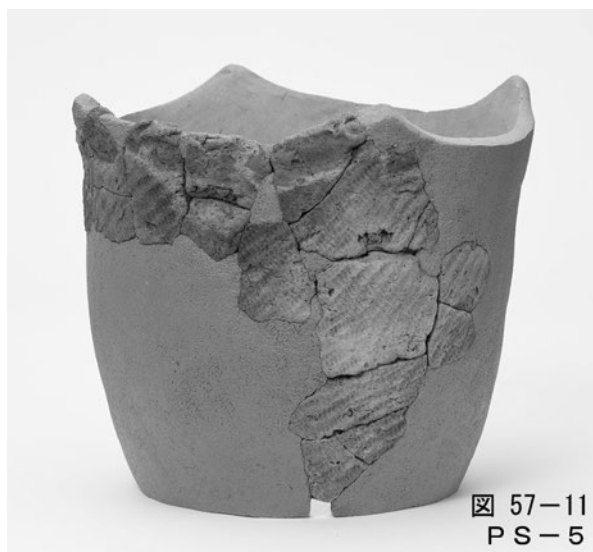
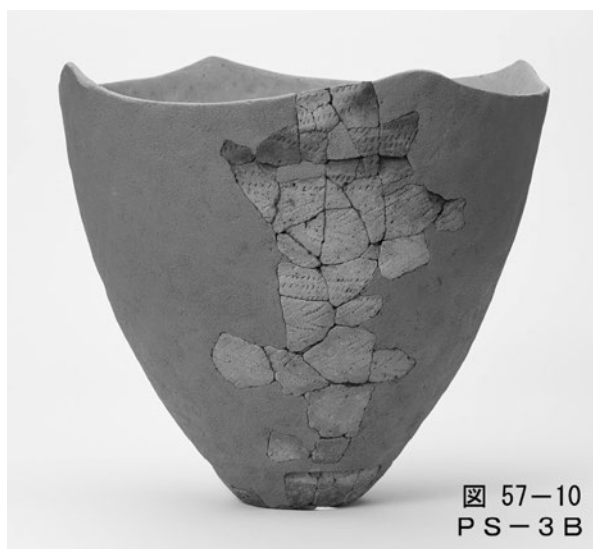


鉄製品

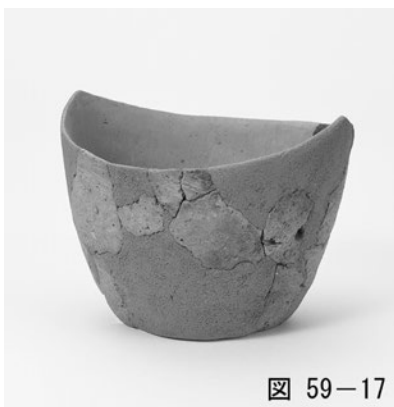
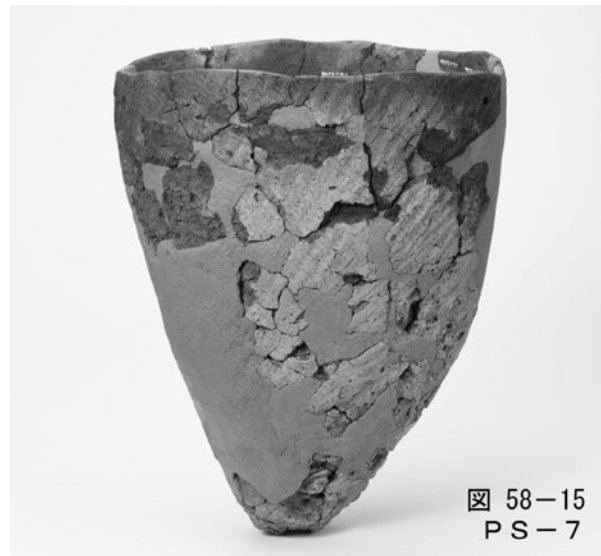
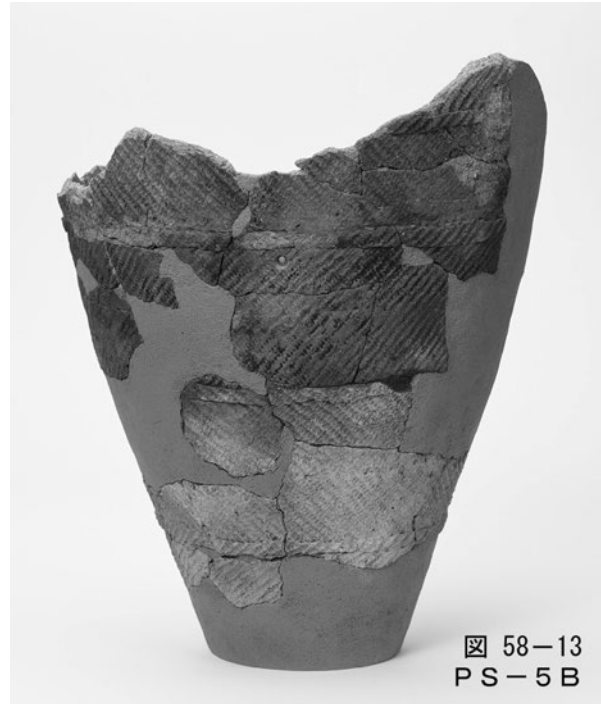


上幌内4遺跡 復原土器(1)





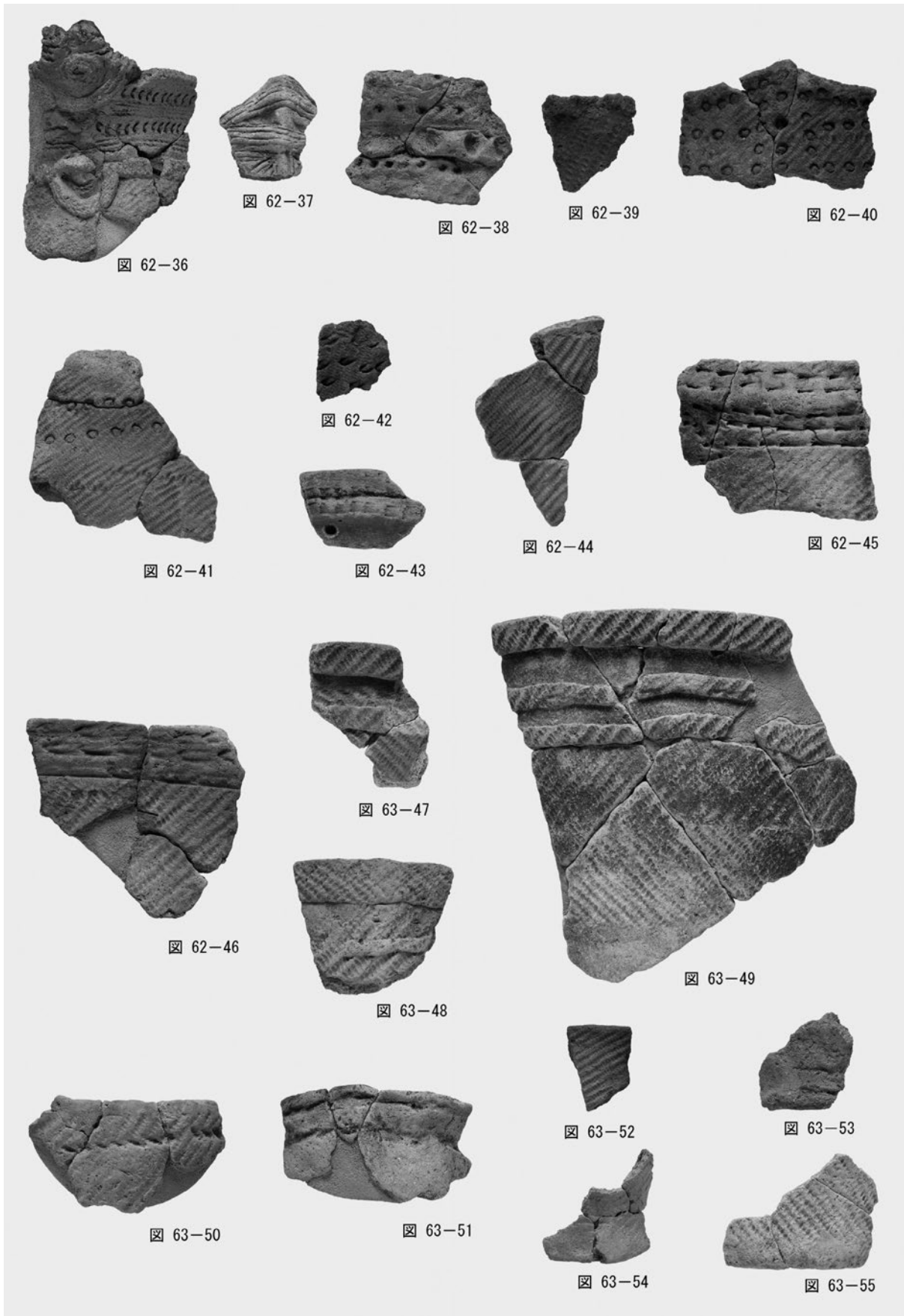
上幌内4遺跡 復原土器(2)



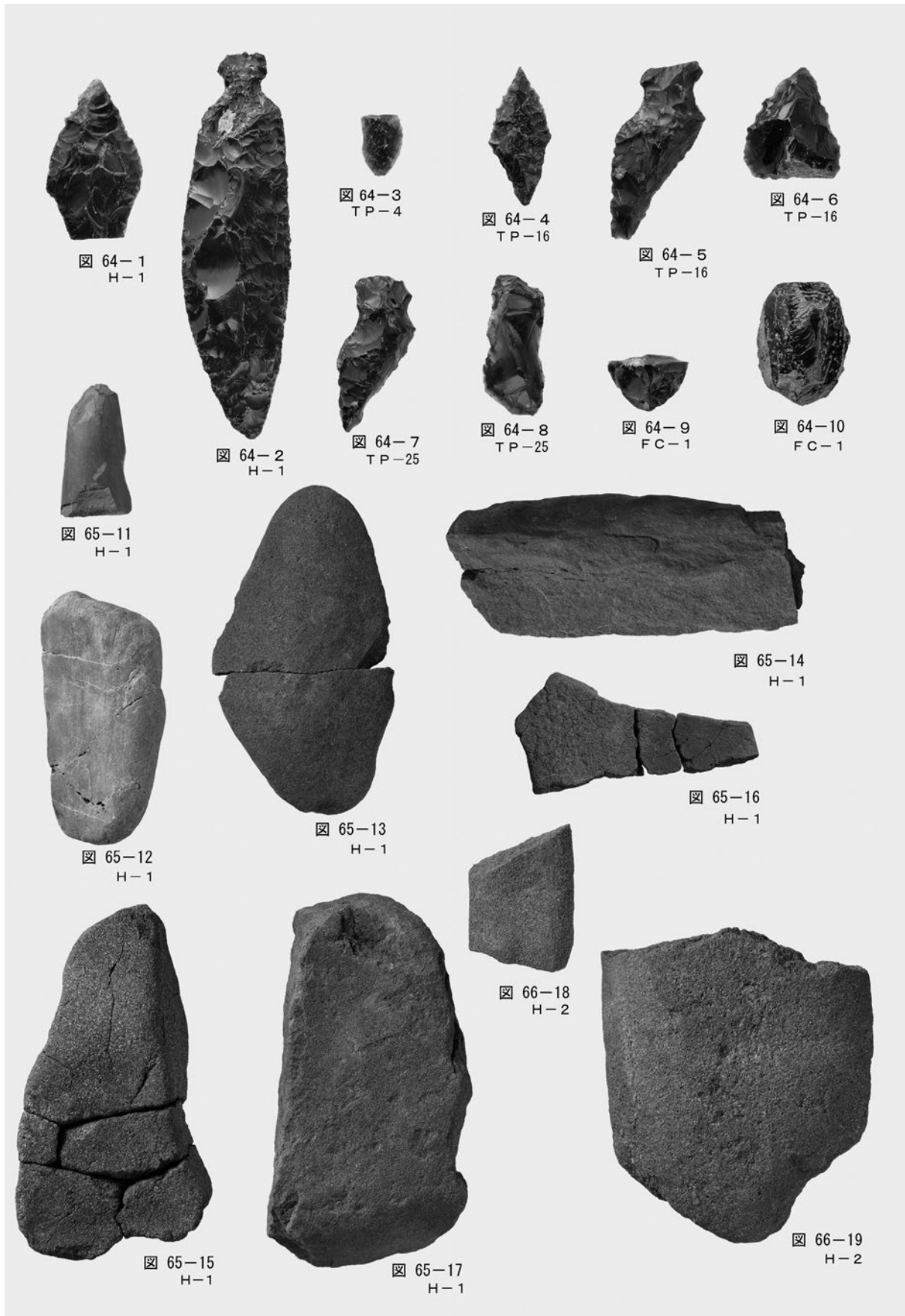
上幌内4遺跡 復原土器(3)



上幌内4遺跡 破片土器 (1)



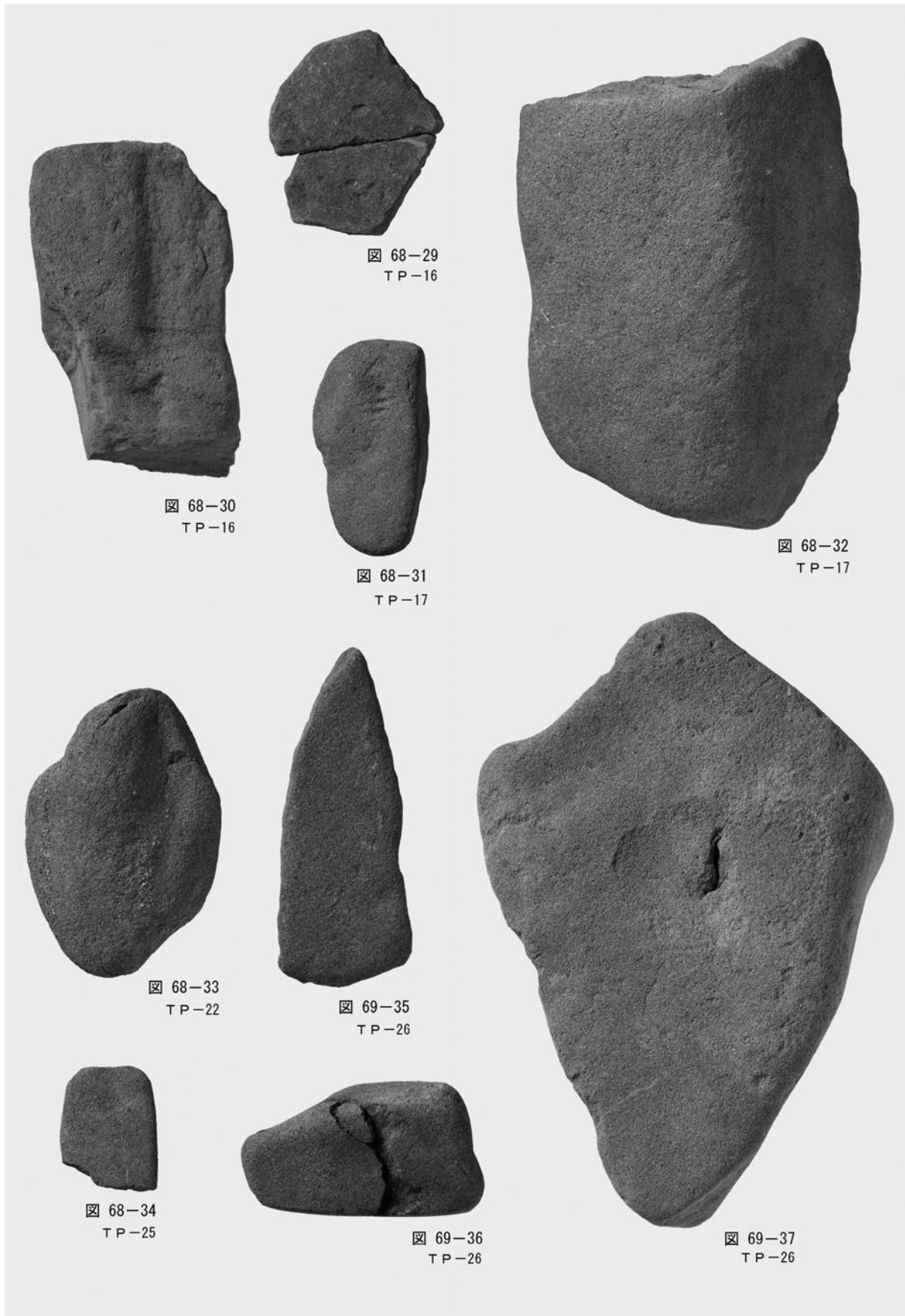
上幌内4遺跡 破片土器(2)



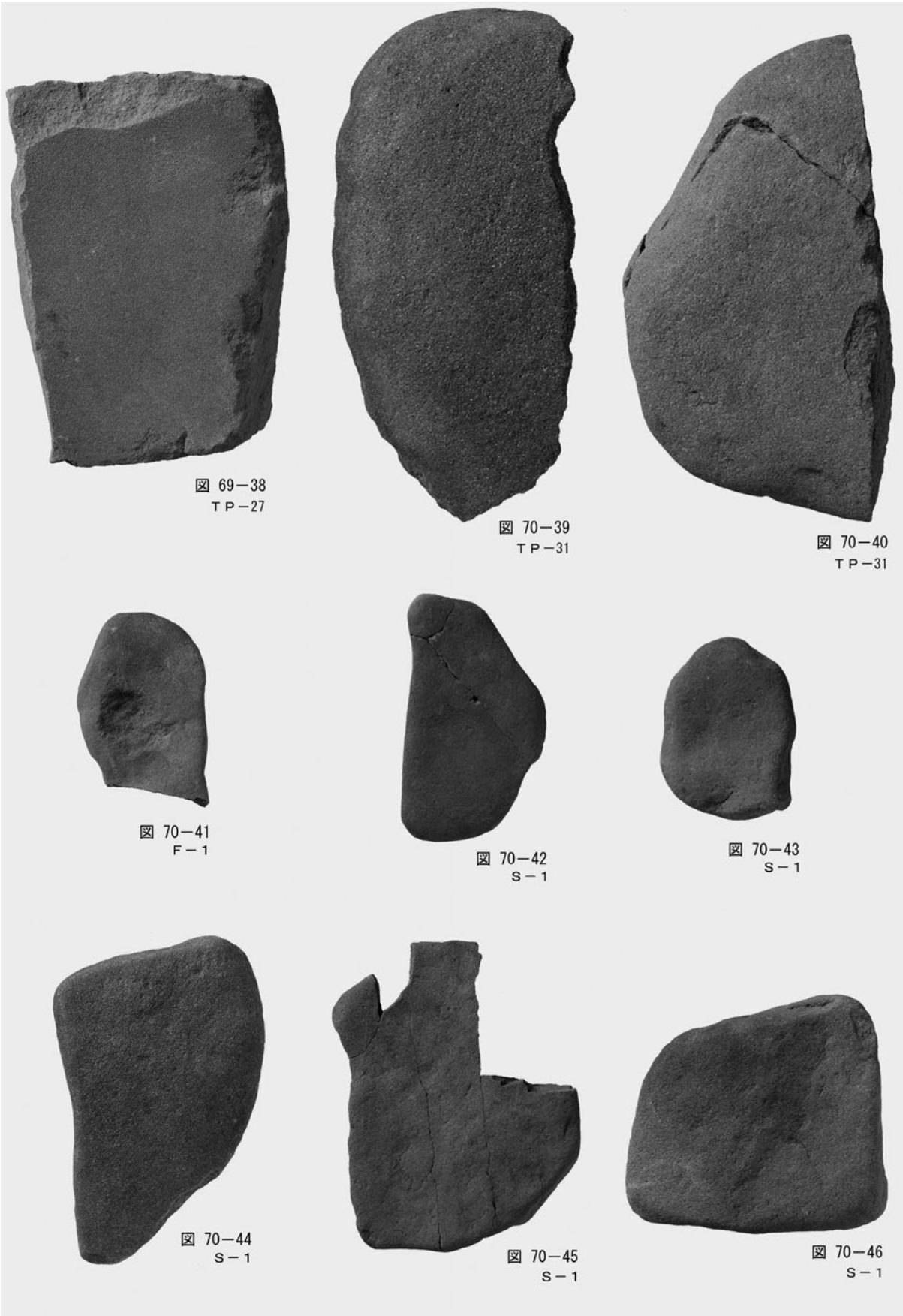
上幌内4遺跡 石器等 (1)



上幌内4遺跡 石器等 (2)

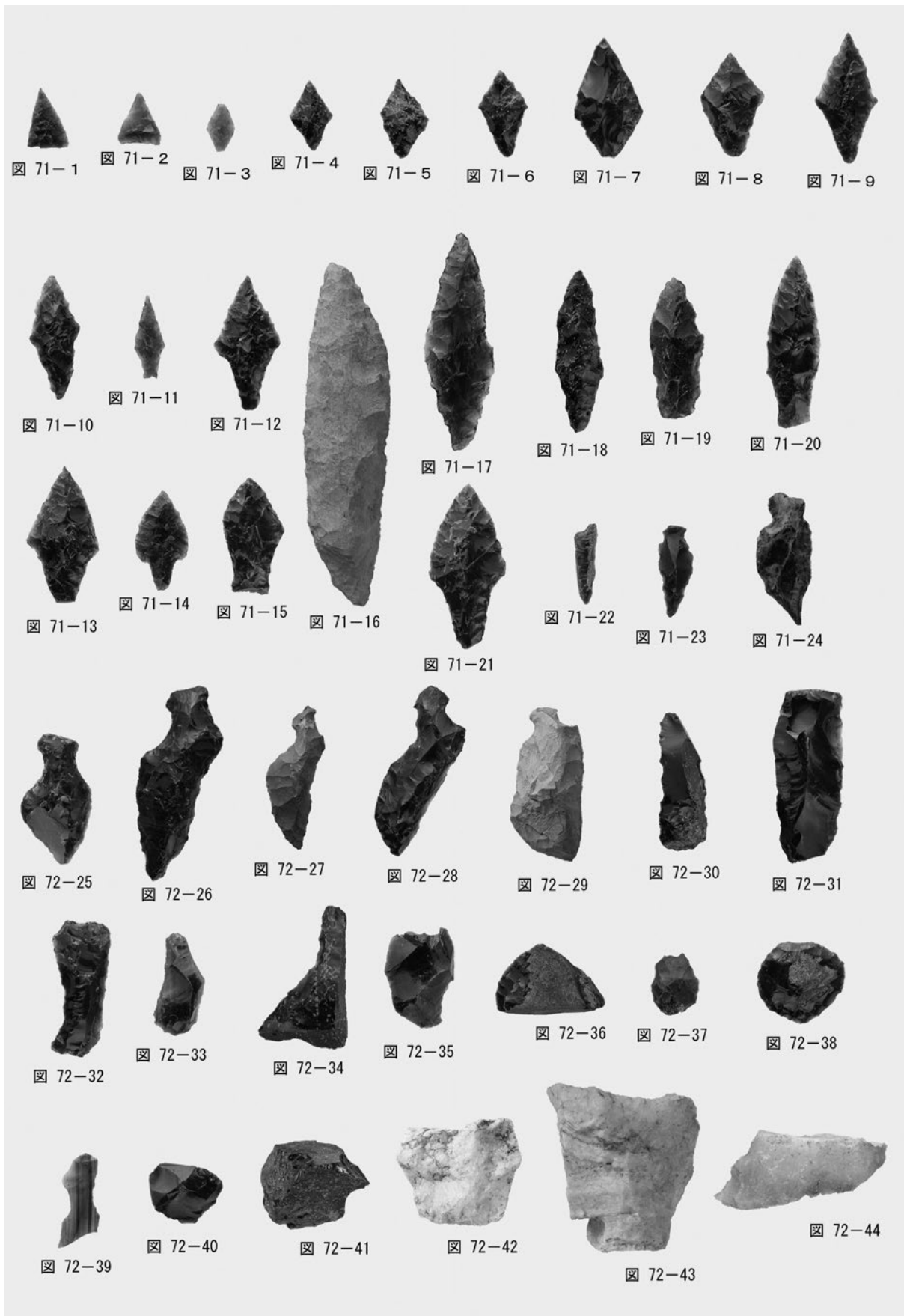


上幌内4遺跡 石器等 (3)

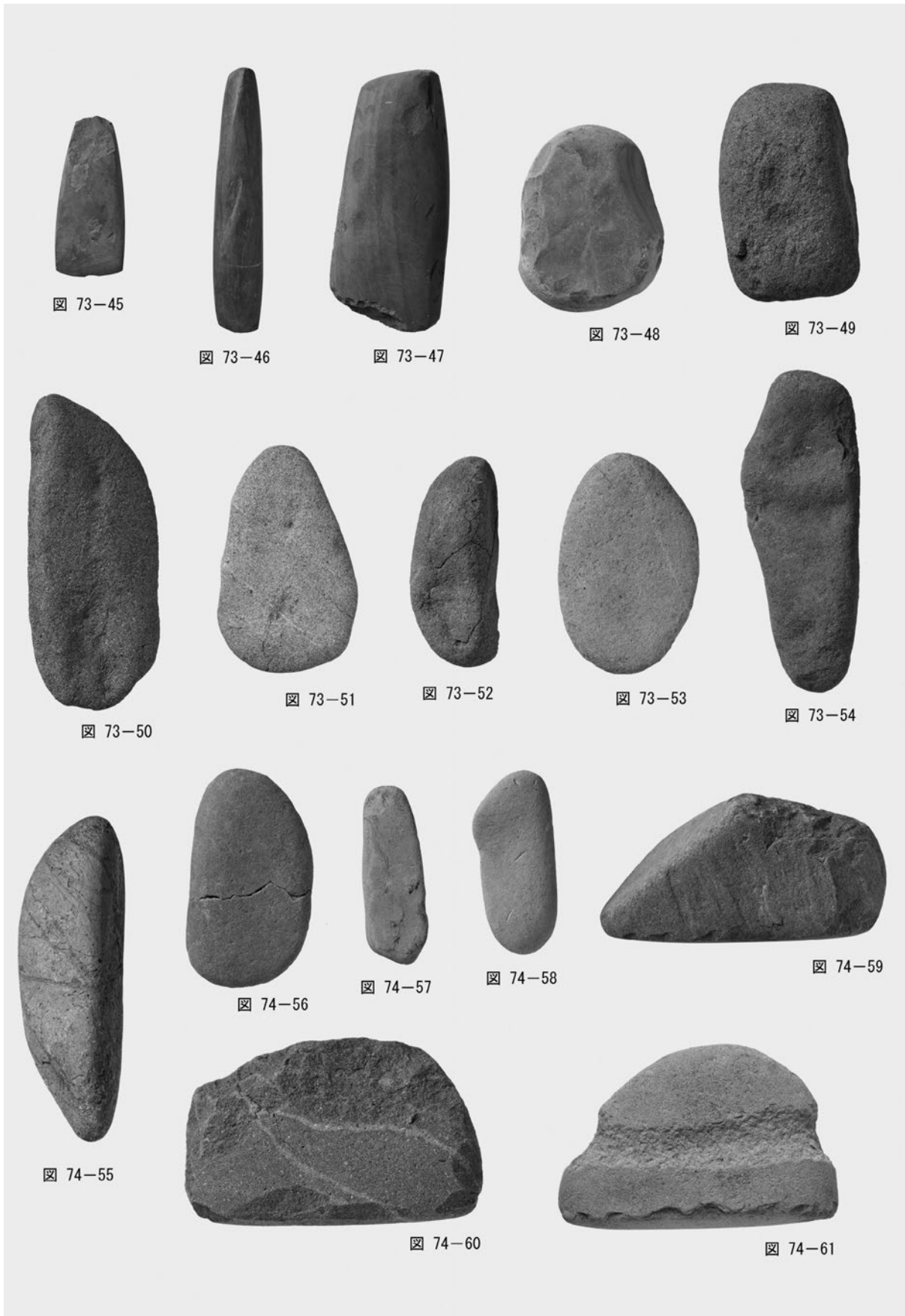


上幌内4遺跡 石器等 (4)

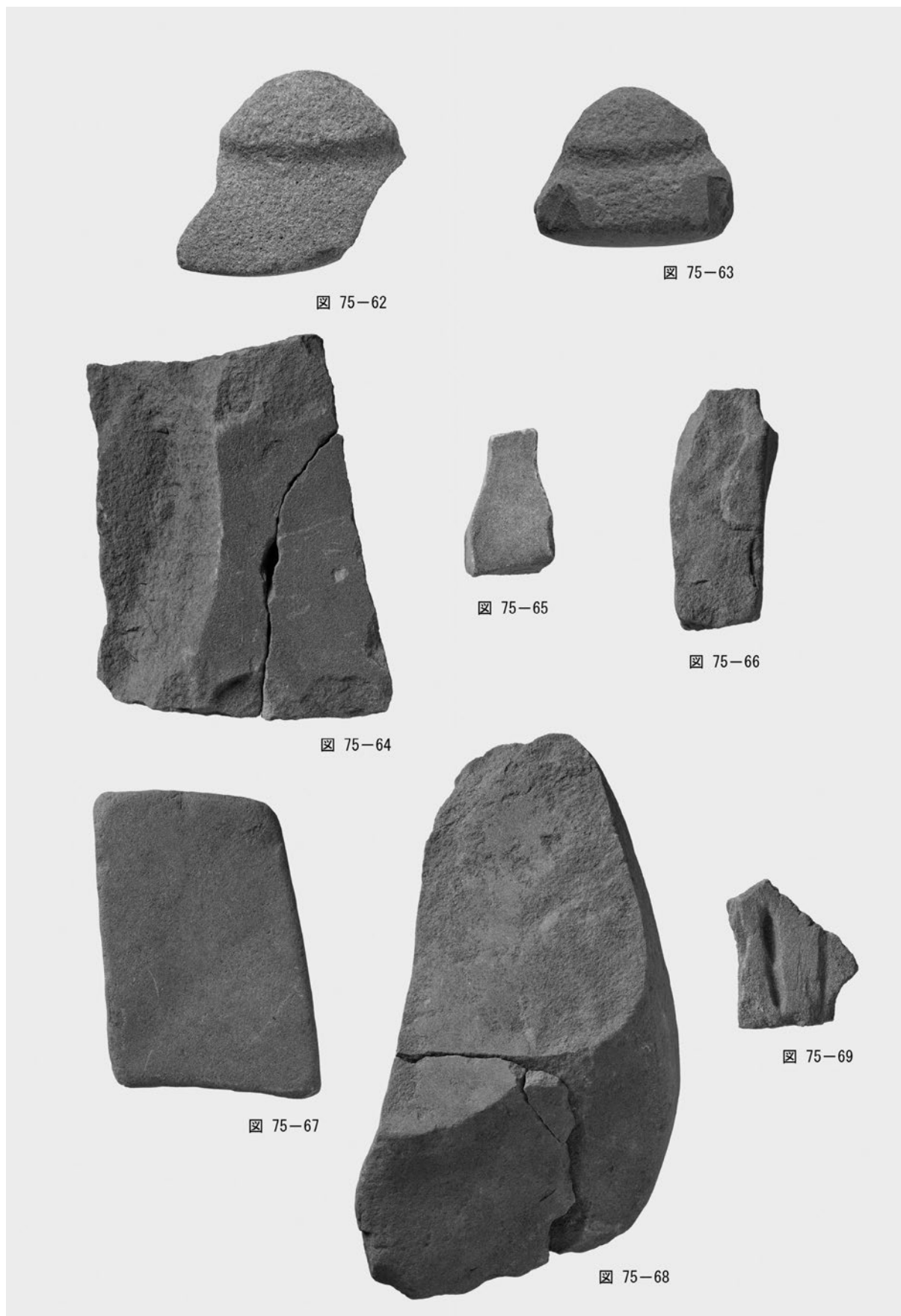




上幌内4遺跡 石器等 (5)



上幌内4遺跡 石器等 (6)



上幌内4遺跡 石器等 (7)



图 76-70



图 76-71

上幌内4遺跡 石器等 (8)

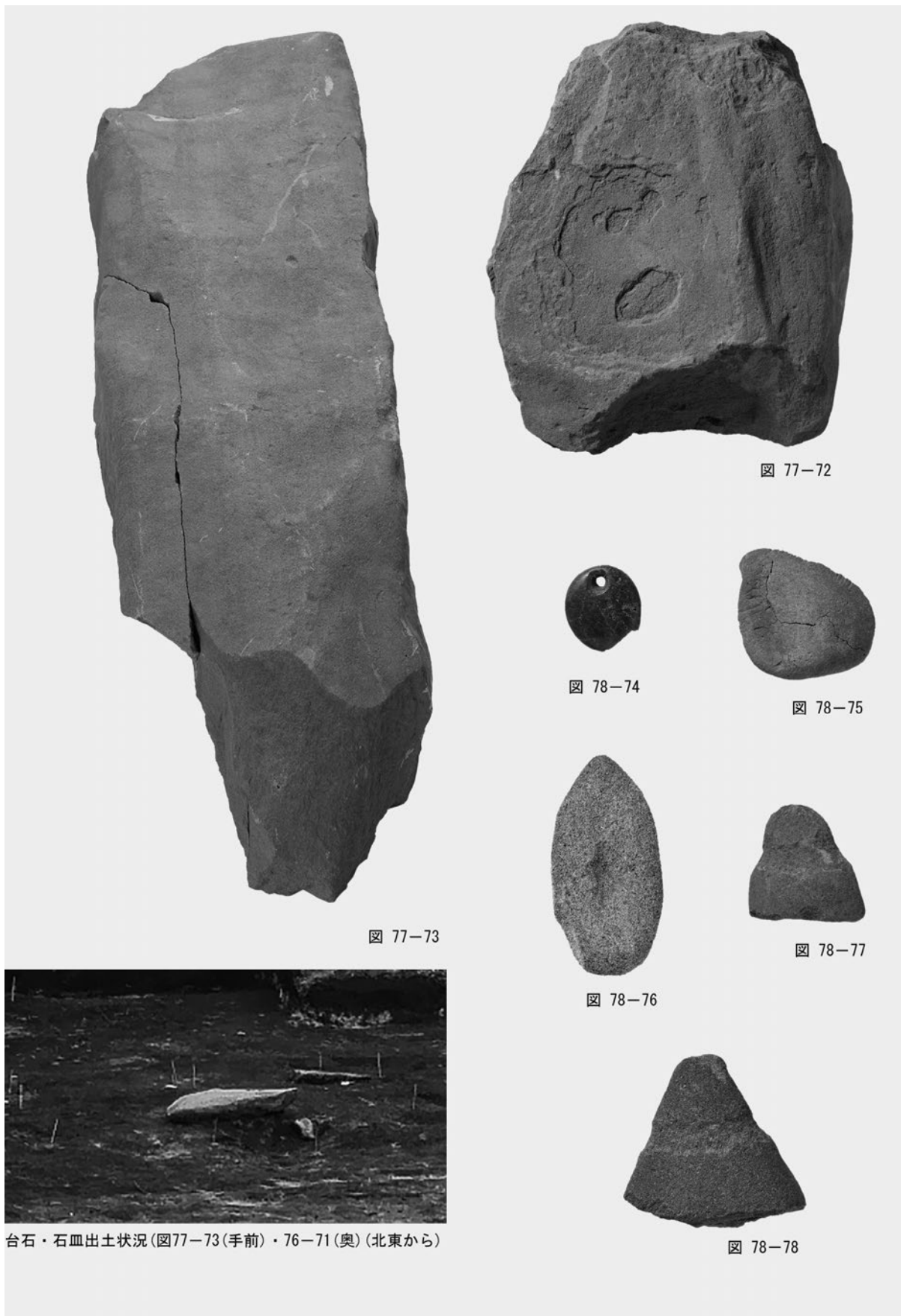


図 77-72

図 78-74

図 78-75

図 77-73

図 78-77

図 78-76

台石・石皿出土状況(図77-73(手前)・76-71(奥)(北東から)

図 78-78



平成25(2013)年度 L-2 地区完掘状況(西から)



平成27(2015)年度 L-4 地区調査風景 1(南西から)



平成27(2015)年度 L-4 地区調査風景 2(東から)



平成27(2015)年度 R-2 地区調査風景(西から)



平成28(2016)年度 R-3 地区東側部分調査風景(西から)



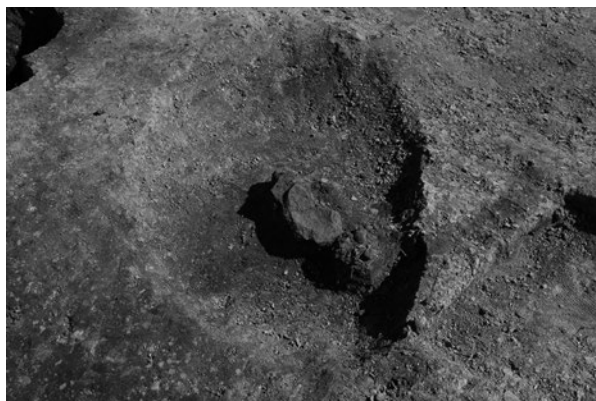
基本土層(北西から)



平成28(2016)年度 R-3 地区北西側部分調査風景(南東から)



H-1 土層断面(南から)



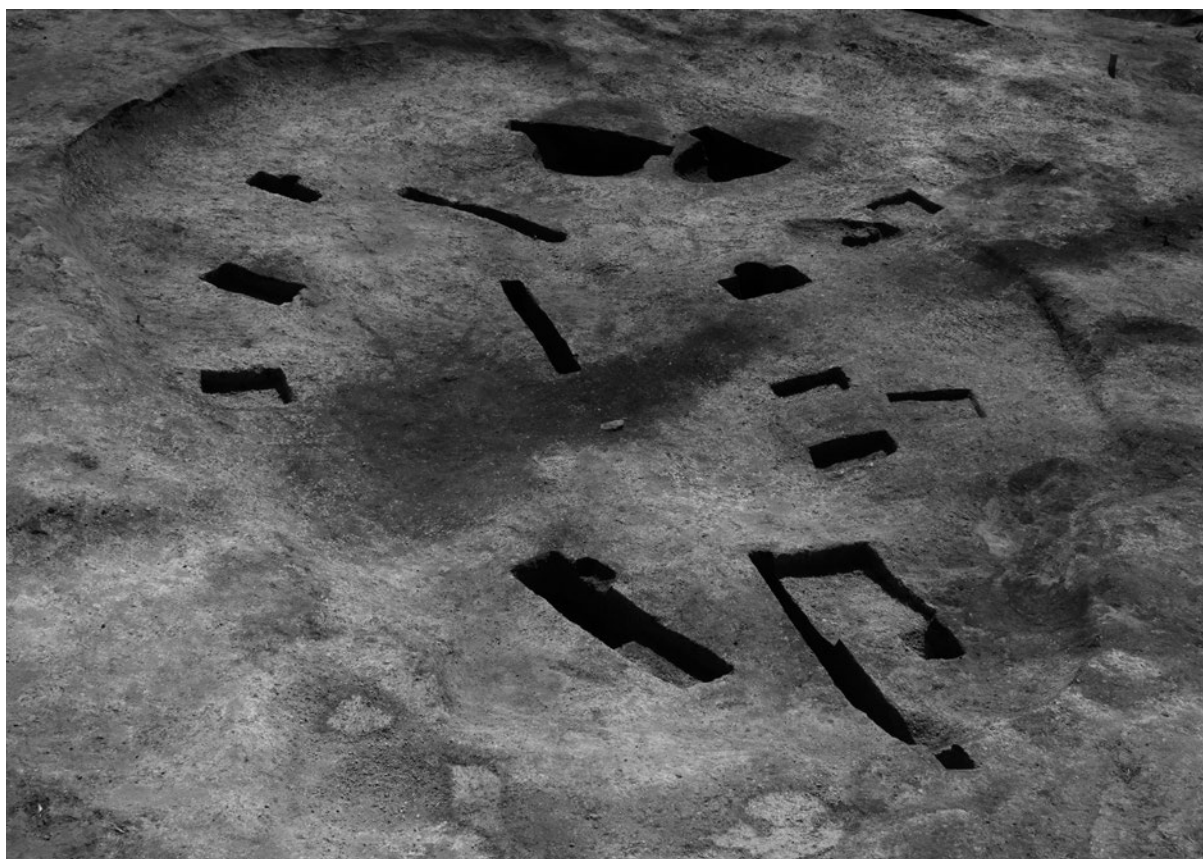
H-1・hp-1 完掘状況(北から)



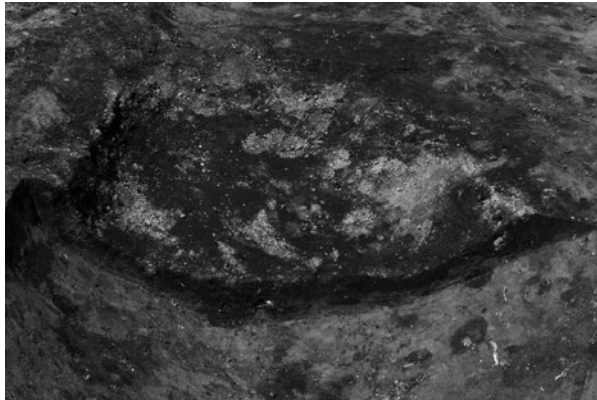
H-1・hp-2 土層断面(北東から)



H-1・hp-3 完掘状況(東から)



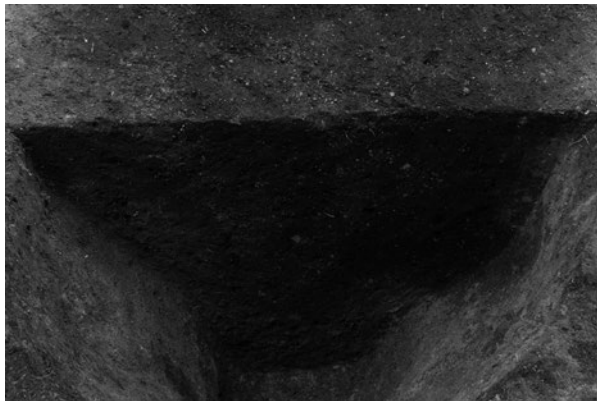
H-1 完掘状況(北東から)



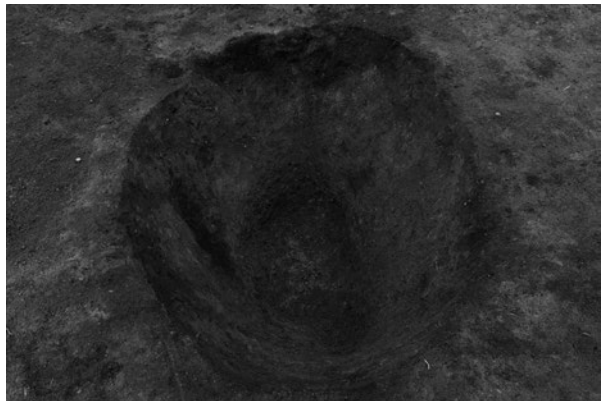
P - 1 土層断面(東から)



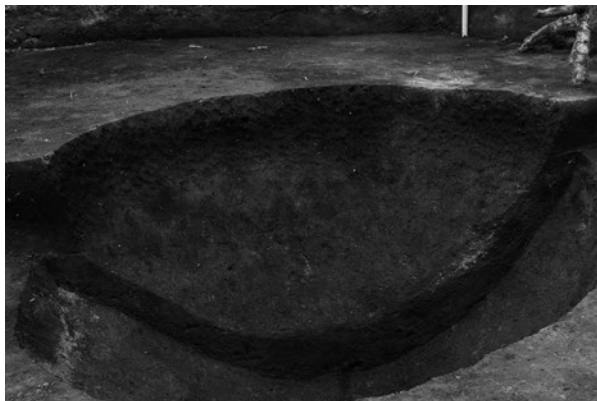
P - 1 完掘状況(北西から)



P - 2 土層断面(南から)



P - 2 完掘状況(北から)



P - 3 土層断面(北西から)



P - 3 完掘状況(北から)



P - 4 土層断面(東から)



P - 4 完掘状況(東から)





P-5 土層断面(南から)



P-5 完掘状況(南から)



P-6 土層断面(南東から)



P-6 完掘状況(北東から)



P-7 土層断面(南東から)



P-7 遺物出土状況(南西から)



P-8 完掘状況(南東から)



SP-1 土層断面(南東から)



SP-1 完掘状況(南東から)



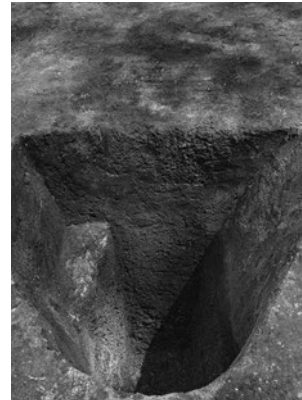
TP-1 土層断面(北東から)



TP-2 土層断面(北から)



TP-3 土層断面(北から)



TP-4 土層断面(南西から)



TP-5 土層断面(南から)



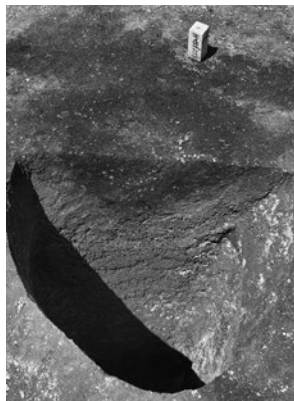
TP-6 土層断面(北東から)



TP-8 土層断面(北西から)



TP-7 土層断面(西から)



TP-9 土層断面(南東から)



TP-10 土層断面(南から)



TP-11 土層断面(東から)



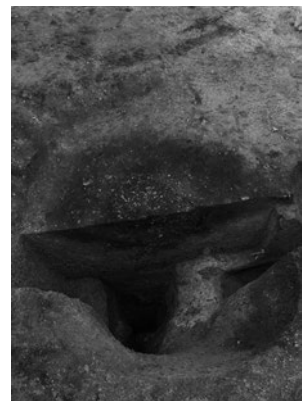
TP-12 土層断面(西から)



TP-13 土層断面(南西から)



TP-14 土層断面(東から)



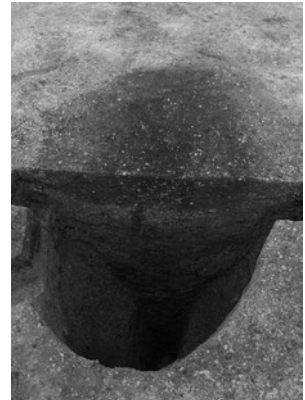
TP-16 土層断面(南東から)



TP-15土層断面(南東から)



TP-17土層断面(東から)



TP-18土層断面(東から)



TP-19土層断面(南西から)



TP-20土層断面(南から)



TP-23土層断面(南東から)



TP-21土層断面(南東から)



TP-22土層断面(東から)



TP-24土層断面(南東から)



TP-25土層断面(南東から)



TP-28土層断面(東から)



TP-26土層断面(南東から)



TP-27土層断面(北東から)



TP-29土層断面(南から)



TP-30土層断面(南東から)



TP-31土層断面(南から)



TP-32土層断面(南東から)



TP-33土層断面(南東から)



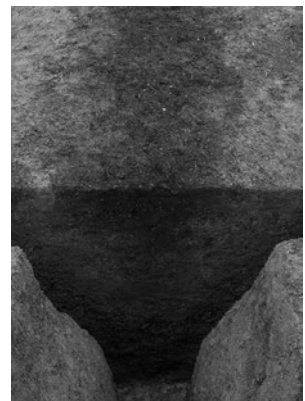
TP-34土層断面(南東から)



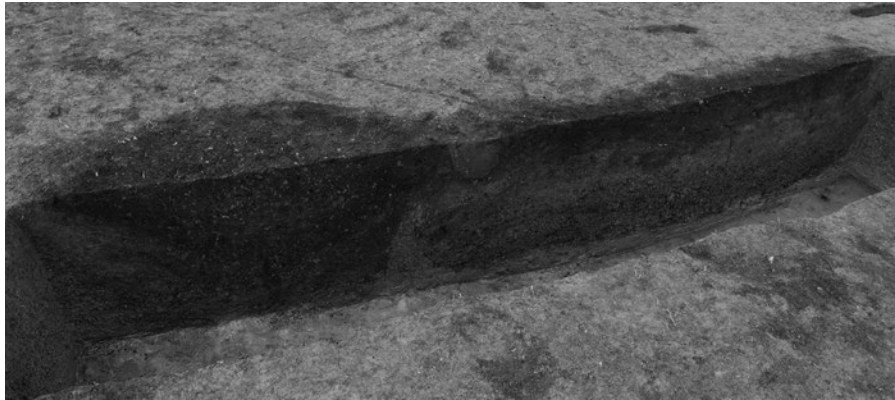
TP-35土層断面(南から)



TP-37土層断面(南から)



TP-40土層断面(東から)



TP-38(左)・TP-39(右)土層断面(北から)



TP-41土層断面(南東から)



TP-42土層断面(南東から)



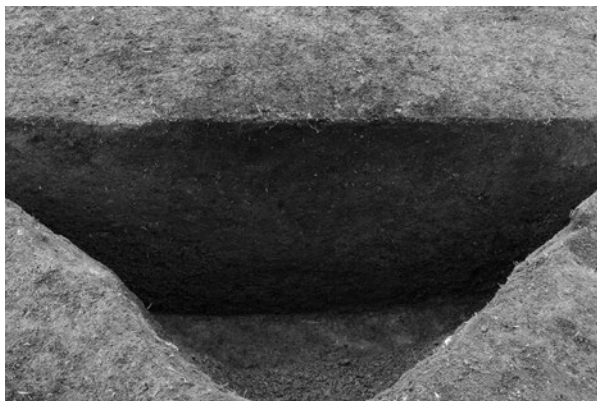
TP-43土層断面(北東から)



TP-44土層断面(南から)



TP-45土層断面(南から)



TP-46土層断面(南東から)



TP-47土層断面(南から)



TP-48土層断面(南から)



TP-49土層断面(北東から)



TP-50土層断面(南から)



TP-51土層断面(南から)



TP-52土層断面(南東から)



TP-53土層断面(南東から)



TP-54土層断面(南東から)



TP-55土層断面(南東から)



TP-56土層断面(南東から)



TP-57土層断面(南から)



TP-58土層断面(南東から)



TP-59土層断面(南東から)



TP-60土層断面(南から)



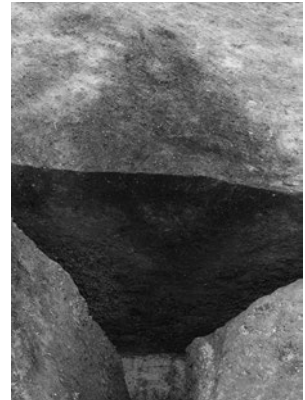
TP-61土層断面(南から)



TP-62土層断面(南から)



TP-63(左)・TP-64(右)土層断面(南東から)



TP-65土層断面(南西から)



TP-66土層断面(南東から)



TP-67土層断面(南から)



TP-68土層断面(南東から)



TP-72土層断面(南東から)



TP-69土層断面(南東から)



TP-70土層断面(南西から)



TP-71土層断面(南から)



TP-73(右)・TP-74(左)土層断面(南から)



(T) P-75土層断面(南から)



T P-76土層断面(南東から)



T P-77土層断面(東から)



T P-78土層断面(東から)



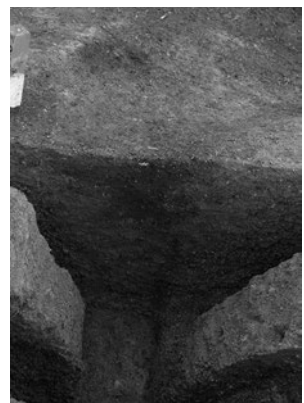
T P-79土層断面(南西から)



T P-80土層断面(東から)



T P-81土層断面(東から)



T P-82土層断面(南から)



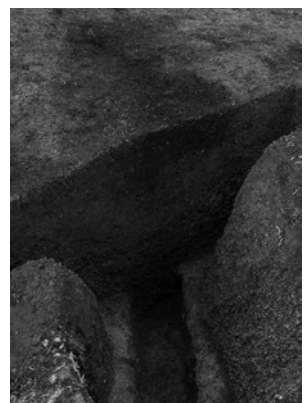
T P-83土層断面(東から)



T P-84土層断面(南から)



T P-85土層断面(南から)



T P-86土層断面(東から)





TP-87土層断面(南東から)



TP-88土層断面(東から)



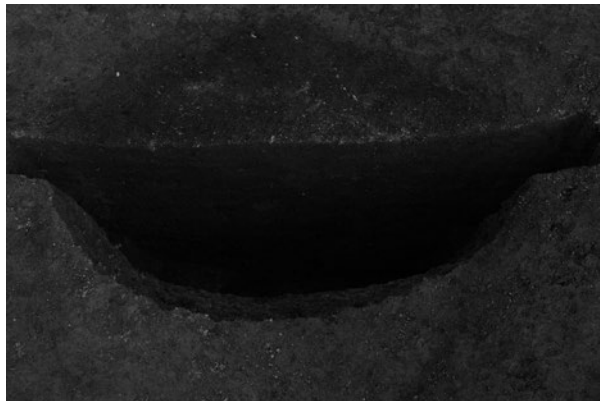
TP-89土層断面(東から)



TP-91土層断面(南から)



TP-90土層断面(南西から)



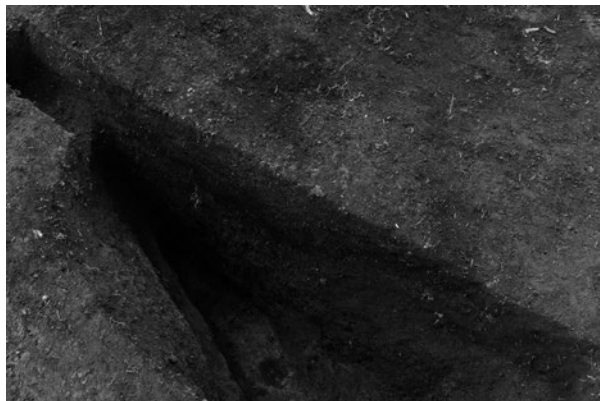
TP-92土層断面(南から)



TP-93土層断面(東から)



TP-94土層断面(南東から)



TP-95土層断面(南東から)



TP-96土層断面(南から)



(T)P-97土層断面(南東から)



TP-98土層断面(北東から)



(T)P-99土層断面(南東から)



TP-100土層断面(南から)



TP-102土層断面(南から)



TP-101土層断面(北東から)



(T)P-103土層断面(南から)



TP-104土層断面(北から)



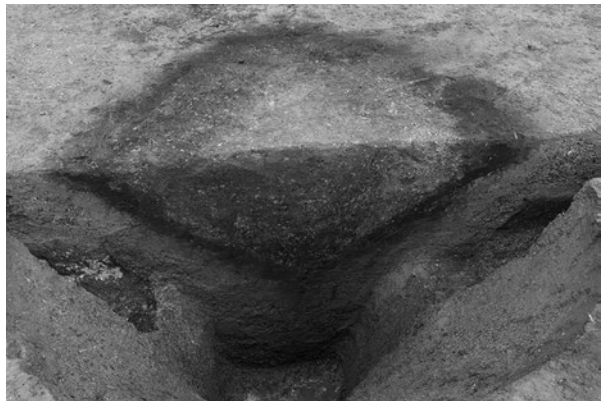
TP-105土層断面(南西から)



TP-107土層断面(南西から)



TP-106土層断面(南東から)



TP-108土層断面(南東から)



TP-109土層断面(南西から)



TP-110土層断面(南西から)



TP-111土層断面(南西から)



TP-112土層断面(南西から)



TP-113土層断面(南から)



TP-114土層断面(南から)



TP-115土層断面(西から)



TP-116土層断面(南から)



TP-117土層断面(南東から)



TP-118土層断面(南西から)



TP-120土層断面(西から)



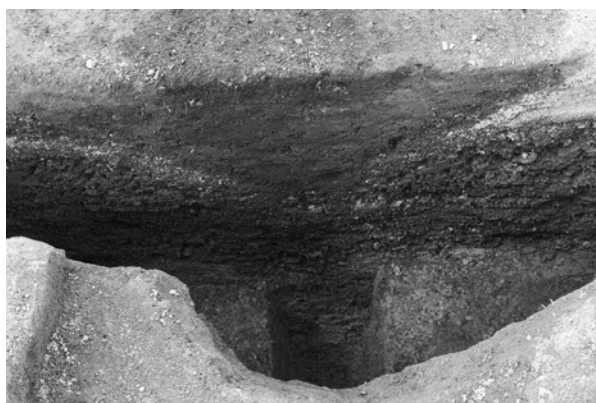
TP-119土層断面(南から)



TP-121土層断面(北から)



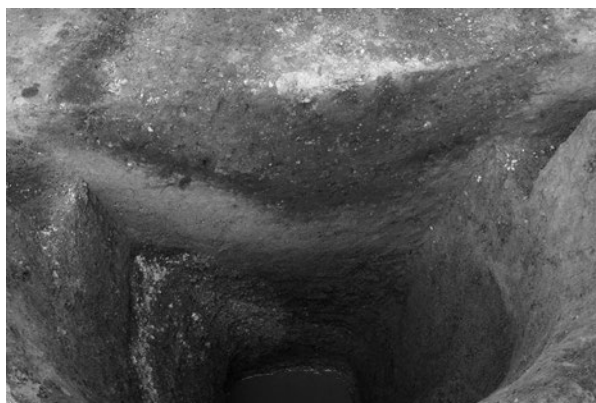
TP-[122・123]土層断面(南から)



TP-124土層断面(南西から)



TP-125土層断面(南西から)



TP-126土層断面(西から)



TP-127土層断面(南東から)



TP-128土層断面(西から)



TP-134土層断面(南東から)



TP-129土層断面(南から)



TP-130土層断面(南から)



TP-131土層断面(南東から)



TP-132土層断面(南から)



TP-133土層断面(南から)



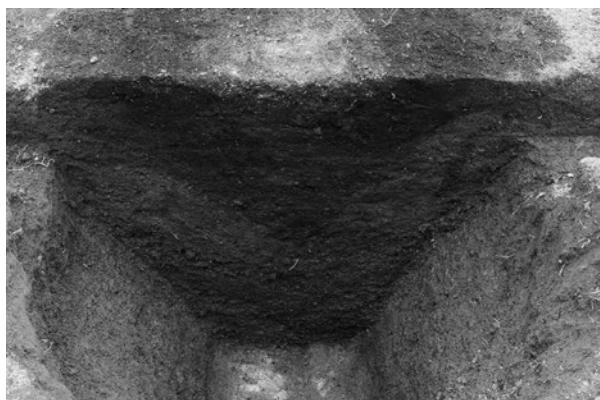
TP-135土層断面(東から)



TP-136土層断面(南東から)



TP-137土層断面(南東から)



TP-138土層断面(東から)



TP-139土層断面(北から)



TP-140土層断面(南東から)



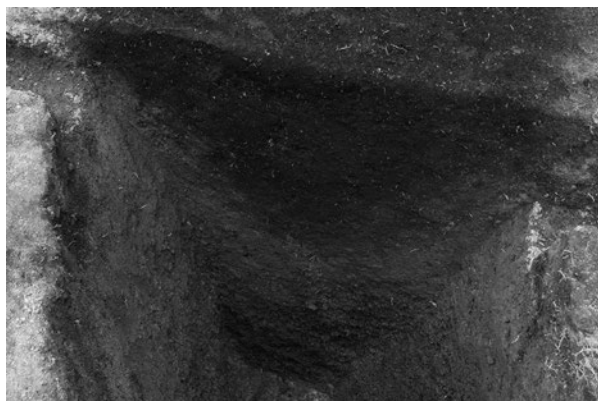
(T)P-141土層断面(東から) TP-142土層断面(南西から)



TP-143土層断面(南から)



TP-144土層断面(南から)



TP-145土層断面(南から)



TP-146土層断面(南から)



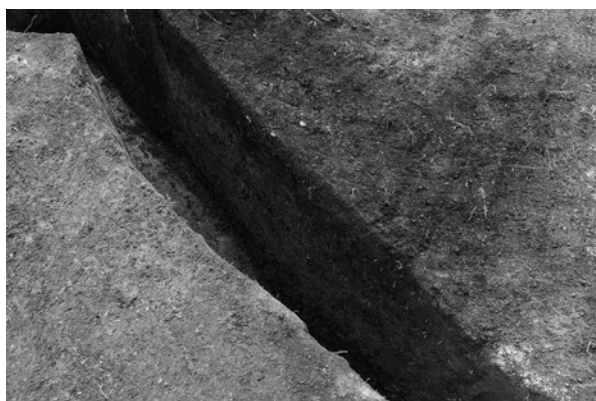
TP-147土層断面(南東から)



TP-148土層断面(南東から)



TP-149土層断面(南東から)



TP-150土層断面(南東から)



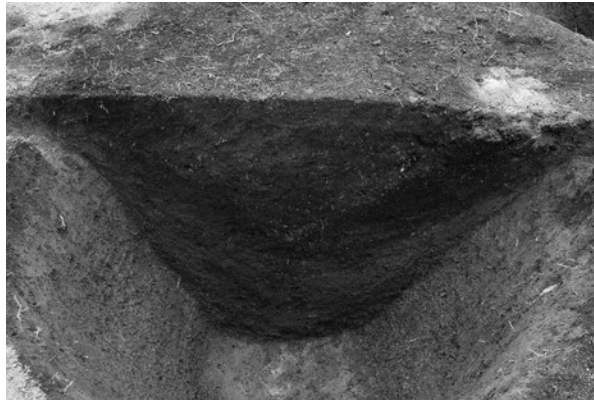
TP-151土層断面(南東から)



TP-152土層断面(南東から)



TP-153土層断面(南から)



TP-154土層断面(南東から)



TP-156土層断面(南東から)



TP-155土層断面(南東から)



TP-157土層断面(南から)



TP-158土層断面(南から)



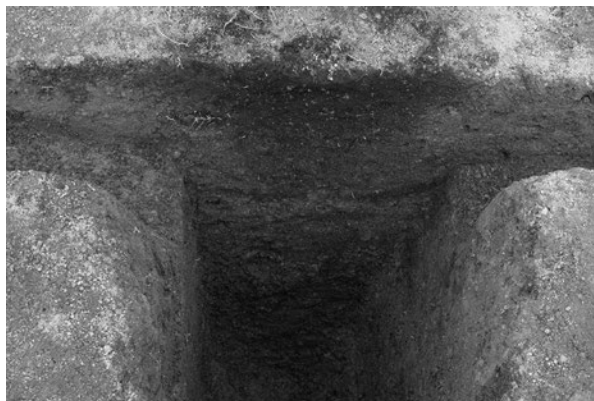
TP-159土層断面(南東から)



TP-160土層断面(北東から)



TP-161土層断面(南東から)



TP-162土層断面(南東から)



TP-164土層断面(東から)





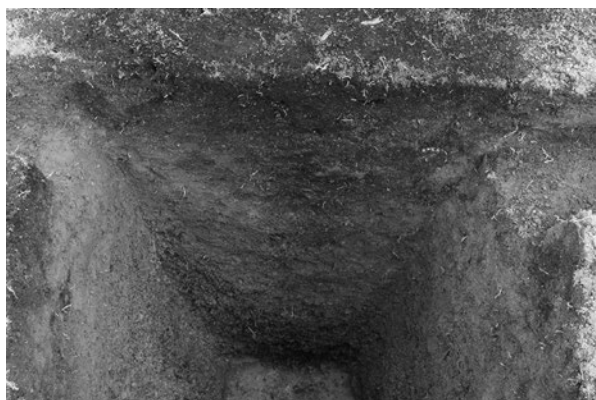
TP-163土層断面(東から)



TP-165土層断面(北西から)



TP-166土層断面(南から)



TP-167土層断面(南から)



TP-168土層断面(南から)



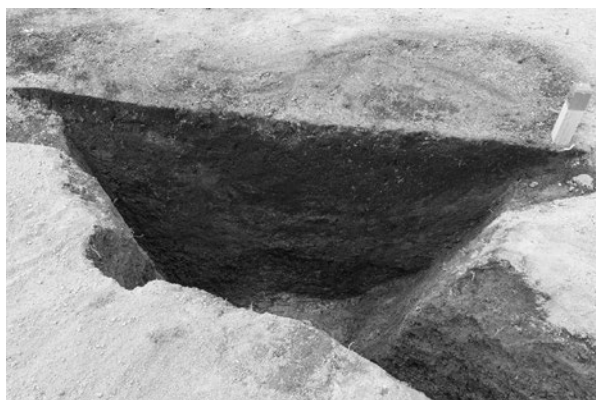
TP-169土層断面(南東から)



TP-171土層断面(南東から)



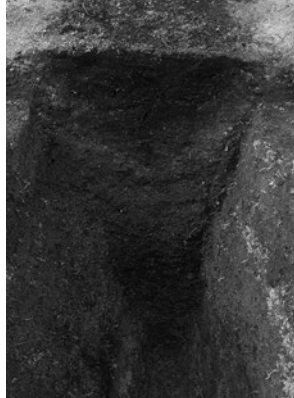
TP-170土層断面(南から)



TP-172(左)・TP-173(右)土層断面(南東から)



TP-174土層断面(南東から)



TP-175土層断面(南東から)



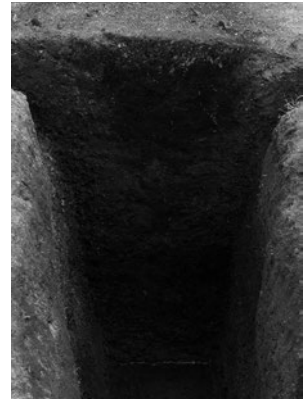
TP-176土層断面(南から)



TP-177土層断面(南から)



TP-178土層断面(南東から)



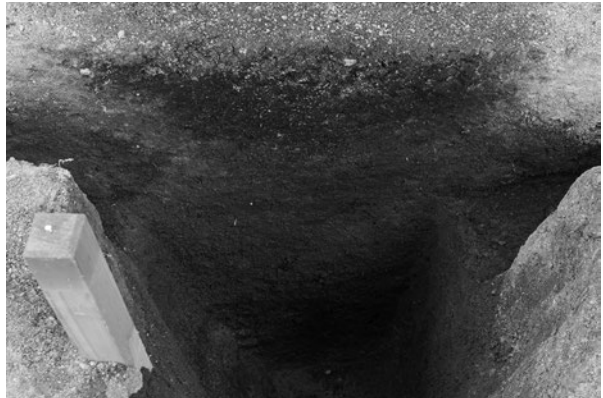
TP-179土層断面(南西から)



TP-180土層断面(南東から)



TP-181土層断面(南東から)



TP-182土層断面(南東から)



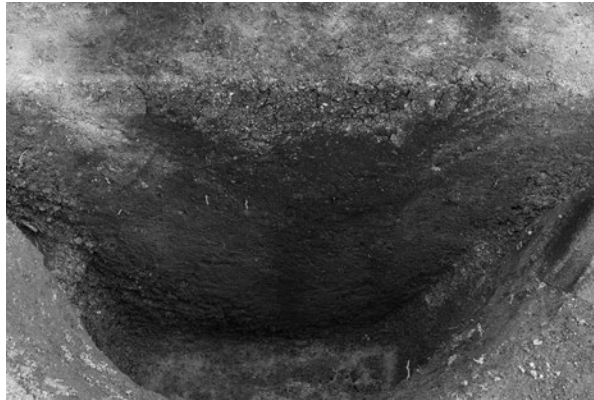
TP-183土層断面(南西から)



TP-184土層断面(南東から)



TP-185土層断面(南から)



TP-186土層断面(南西から)



TP-188土層断面(東から)



TP-187土層断面(東から)



TP-189土層断面(南西から)



TP-190土層断面(西から)



TP-191土層断面(西から)



TP-192土層断面(南から)



TP-193土層断面(南西から)



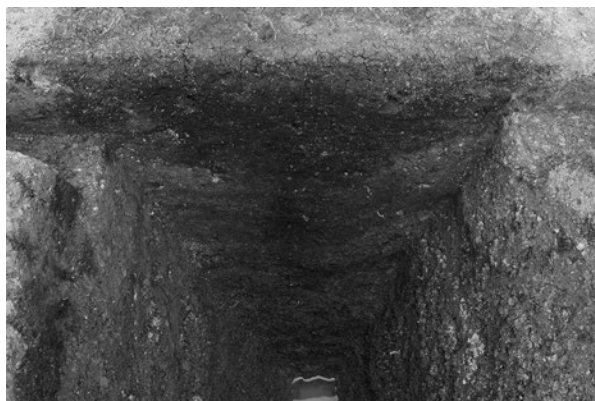
TP-194土層断面(南東から)



TP-195土層断面(南から)



TP-196土層断面(東から)



TP-197土層断面(南東から)



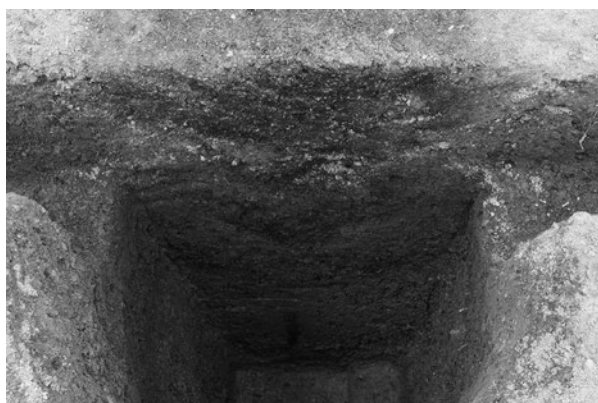
TP-201土層断面(東から)



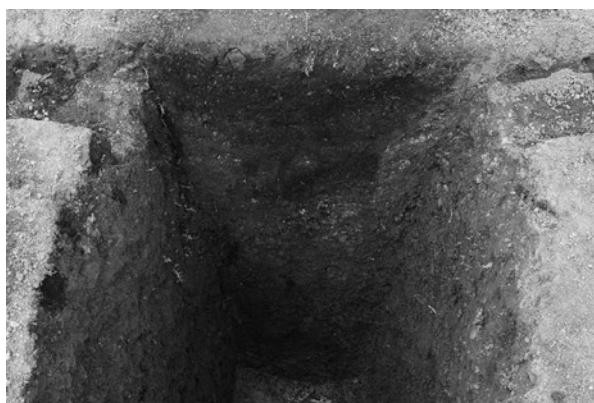
TP-198土層断面(南から)



TP-199土層断面(南から)



TP-200土層断面(東から)



TP-202土層断面(南東から)



TP-203土層断面(南西から)



TP-204土層断面(南西から)



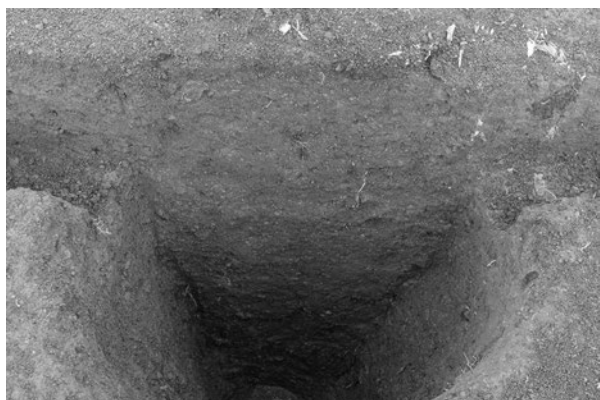
TP-205土層断面(南東から)



TP-206土層断面(南から)



TP-207土層断面(南東から)



TP-208土層断面(南東から)



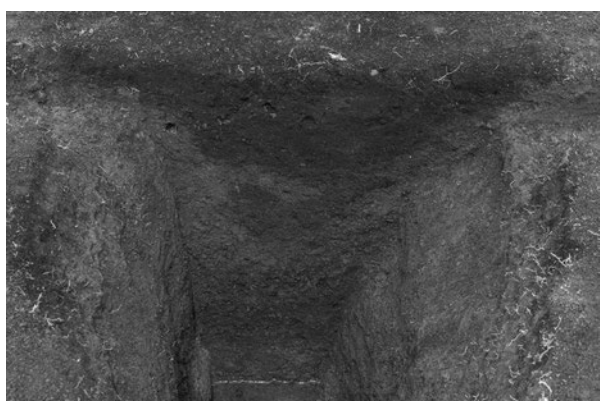
TP-209土層断面(南から)



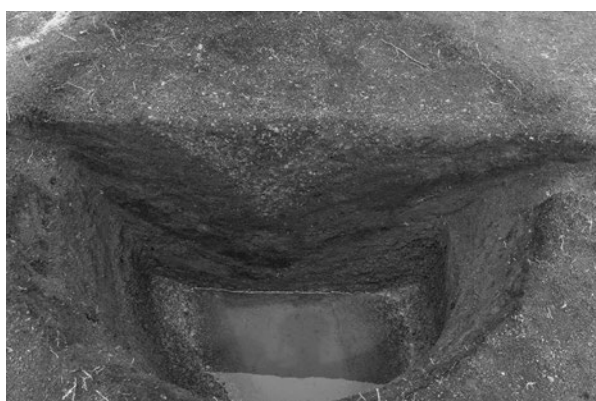
TP-210土層断面(南から)



TP-211土層断面(南から)



TP-212土層断面(南から)



TP-213土層断面(南から)



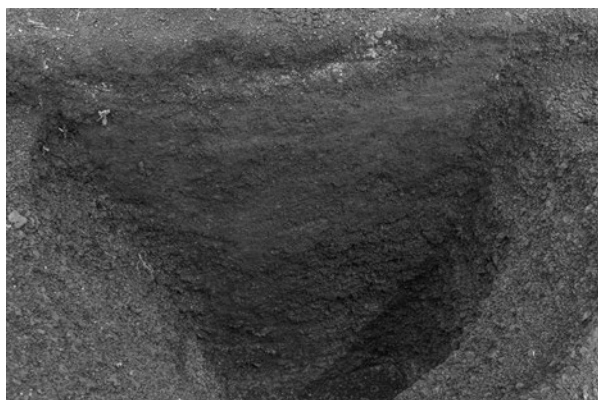
TP-214土層断面(南西から)



TP-215土層断面(南から)



TP-218土層断面(南から)



TP-216土層断面(南から)



TP-217土層断面(南から)



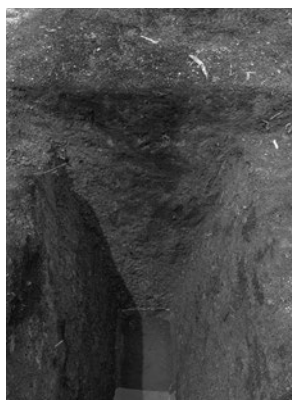
TP-219土層断面(南西から)



TP-220土層断面(南から)



TP-221土層断面(南東から)



TP-222土層断面(南東から)



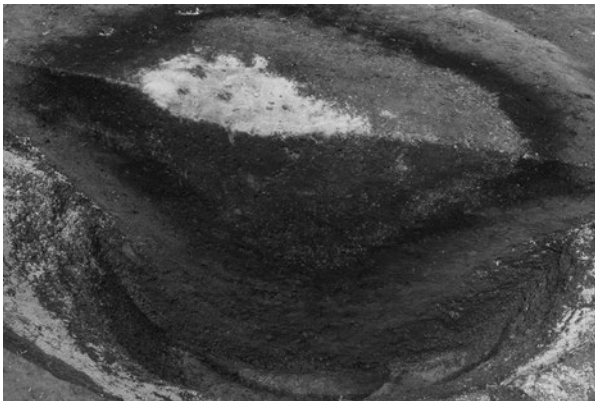
TP-224土層断面(西から)



TP-223土層断面(南から)



TP-225土層断面(南から)



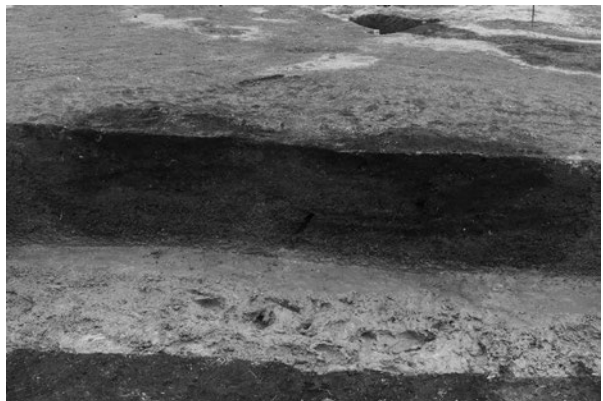
TP-226土層断面(南西から)



TP-227土層断面(南から)



TP-228土層断面(南から)



TP-229(左)・TP-230(右)土層断面(東から)



TP-231(左)・TP-232(右)土層断面(西から)



TP-233土層断面(南西から)



TP-234土層断面(南西から)



TP-235土層断面(南西から)



TP-236土層断面(南から)



TP-237土層断面(南から)



TP-238土層断面(南西から)



TP-239土層断面(南東から)



TP-240土層断面(南から)

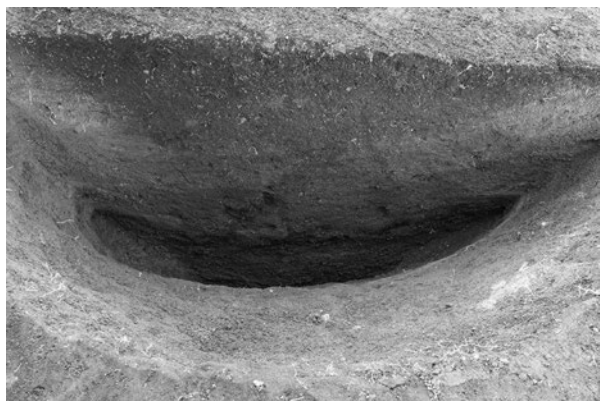


TP-241土層断面(西から)



TP-242土層断面(南から)





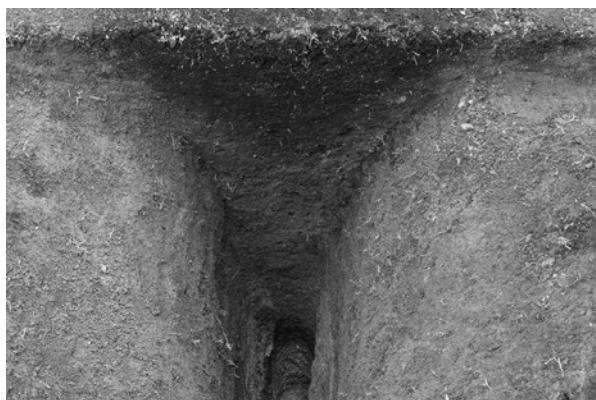
TP-243土層断面(東から)



TP-244土層断面(南東から)



TP-245土層断面(南から)



TP-246土層断面(南から)



TP-247土層断面(南西から)



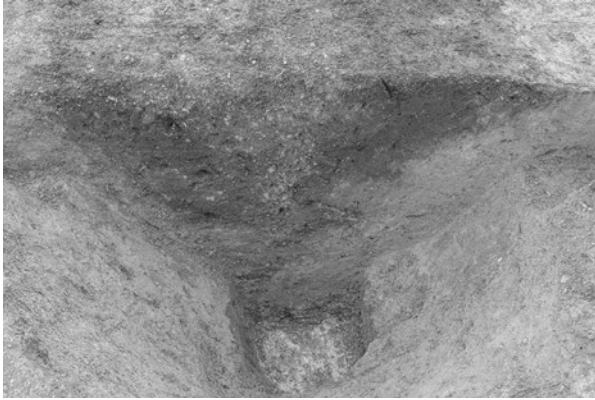
TP-248土層断面(南から)



TP-249土層断面(南から)



TP-250土層断面(南から)



TP-251土層断面(南東から)



TP-252土層断面(南西から)



TP-253土層断面(南東から)



TP-254土層断面(南から)



TP-255土層断面(南東から)



TP-256土層断面(西から)



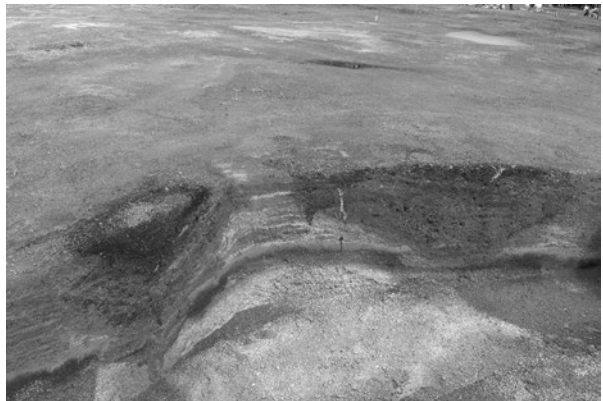
TP-257土層断面(南西から)



TP-259土層断面(南東から)



TP-258土層断面(南から)



TP-260(左)・TP-261(右)土層断面(南東から)



TP-262土層断面(南西から)



TP-263土層断面(南西から)



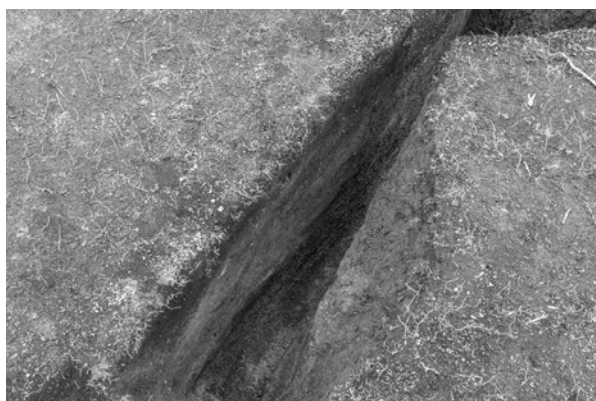
TP-264土層断面(南から)



TP-265土層断面(南から)



TP-266土層断面(南東から)



TP-268土層断面(南西から)



TP-269土層断面(南東から)



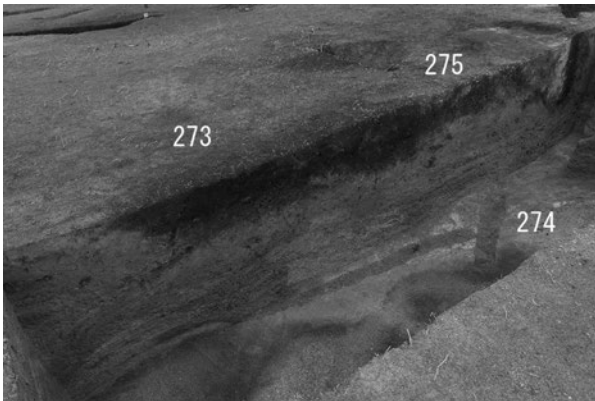
TP-270土層断面(北東から)



TP-271土層断面(南西から)



TP-272土層断面(南西から)



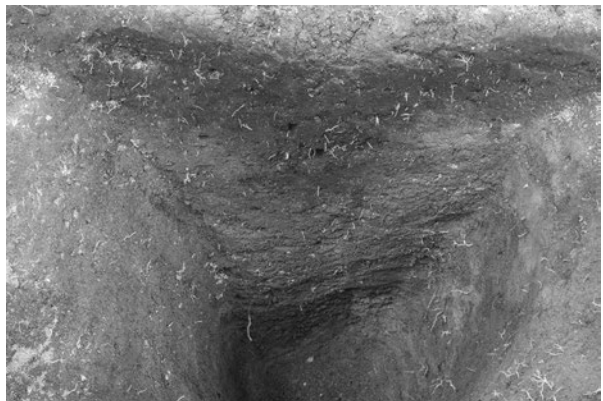
TP-273(左)・(TP-)275(右)土層断面 TP-274(右手前)確認状況(北西から)



TP-276土層断面(南西から)



TP-277土層断面(西から)



TP-278土層断面(南西から)



TP-279土層断面(西から)



TP-280土層断面(西から) TP-284土層断面(南西から)



TP-281土層断面(南から)



TP-282土層断面(西から)



TP-283土層断面(東から)



TP-285土層断面(東から)



TP-286土層断面(南西から)



TP-287土層断面(東から)



TP-288土層断面(西から)



TP-289土層断面(西から)



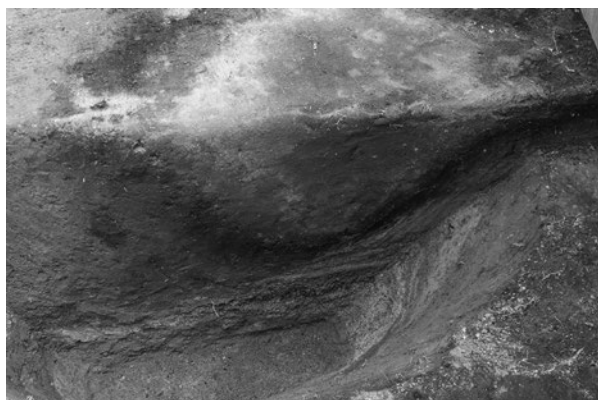
TP-290土層断面(南から)



TP-291土層断面(西から)



TP-292土層断面(南西から)



TP-293土層断面(南西から)



TP-294土層断面(南西から)



TP-295土層断面(南西から)



TP-296土層断面(北西から)



TP-297土層断面(南東から)



TP-298土層断面(西から)



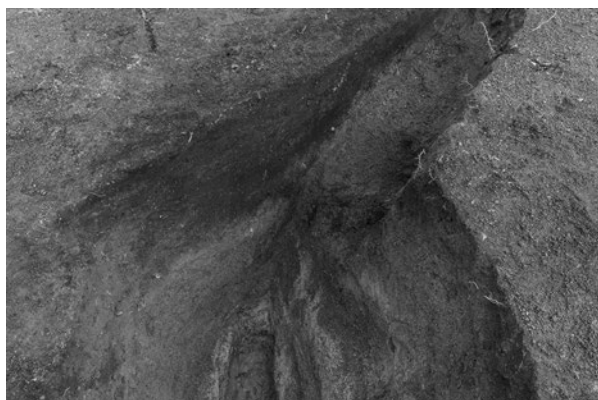
TP-299土層断面(南西から)



TP-300土層断面(南西から)



TP-301土層断面(南西から)



TP-302土層断面(南から)



TP-303土層断面(東から)



TP-304土層断面(東から)



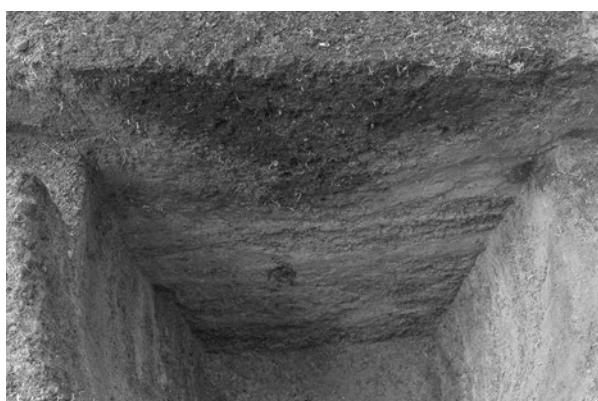
TP-305土層断面(西から)



TP-306土層断面(西から)



TP-312土層断面(南から)



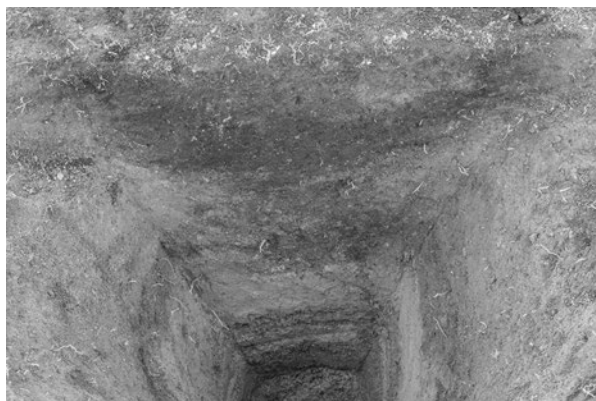
TP-307土層断面(南東から)



TP-308土層断面(南東から)



TP-309(左)・(T)P-310(右)土層断面(南から)



TP-311土層断面(南東から)



TP-313土層断面(西から)



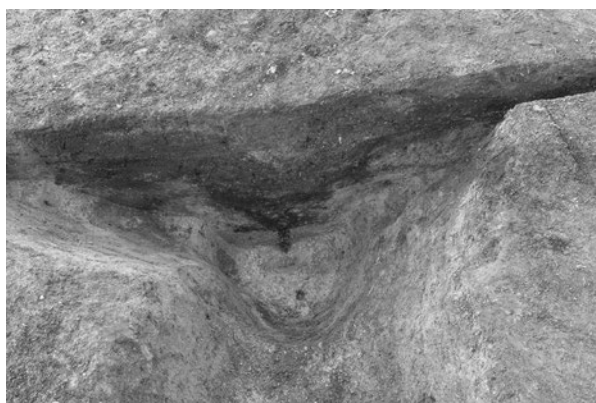
TP-314土層断面(西から)



TP-317土層断面(西から)



TP-315土層断面(南東から)



TP-316土層断面(南東から)



TP-318土層断面(西から)



TP-319土層断面(東から)



TP-320土層断面(東から)

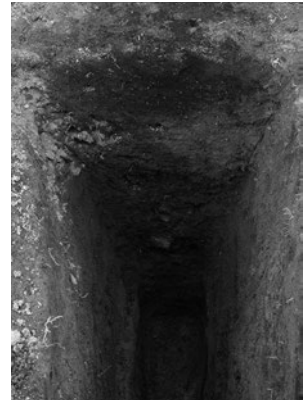




TP-321(左)・TP-322(右)土層断面(南東から)



TP-323土層断面(西から)



TP-324土層断面(南西から)



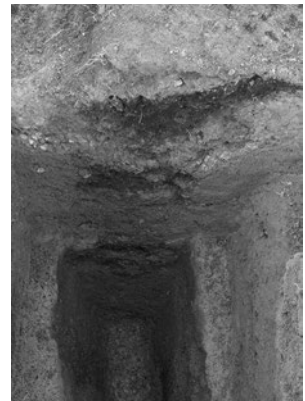
TP-325土層断面(南西から)



TP-326土層断面(南西から)



TP-327土層断面(西から)



TP-328土層断面(南西から)



TP-329土層断面(東から)



TP-330土層断面(東から)



TP-331土層断面(南東から)



TP-332土層断面(南から)



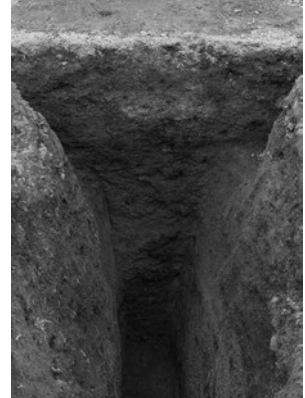
TP-333土層断面(東から)



TP-334土層断面(南から)



TP-335土層断面(南東から)



TP-336土層断面(東から)



TP-337土層断面(北東から)



(TP-)338土層断面(東から)



TP-339土層断面(北東から)



TP-341土層断面(西から)



TP-340土層断面(南から)



TP-342土層断面(南西から)



TP-343土層断面(東から)



TP-344土層断面(南西から)



TP-345土層断面(東から)



TP-346土層断面(南から)



TP-347土層断面(北東から)



TP-348(左)・TP-349(右)土層断面(南西から)



TP-352土層断面(東から)



TP-350土層断面(南から)



TP-351土層断面(北東から)



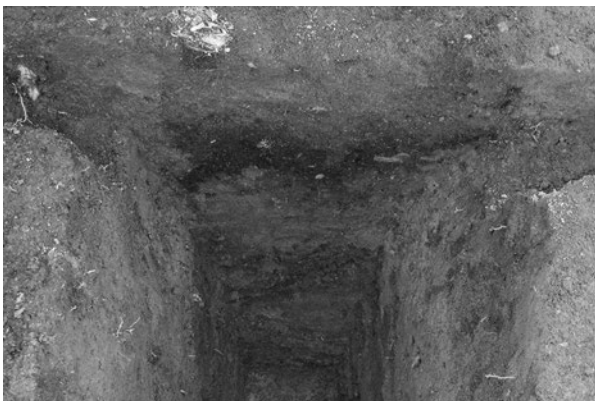
TP-353土層断面(北から)



TP-354土層断面(南西から)



TP-360土層断面(北から)



TP-355土層断面(北東から)



TP-356土層断面(南東から)



TP-357土層断面(北から)



TP-358土層断面(北東から)



TP-359土層断面(北東から)



TP-361土層断面(東から)



TP-362土層断面(北東から)



TP-363土層断面(東から)



TP-364土層断面(東から)



TP-365土層断面(東から)



TP-366土層断面(南東から)



TP-367土層断面(北東から)



TP-368土層断面(北東から)



TP-369土層断面(南東から)



TP-370(左)・TP-371(右)土層断面(南東から)



TP-372土層断面(南から)



TP-373土層断面(南から)



TP-374土層断面(北東から)



TP-378土層断面(南から)



TP-375土層断面(北東から)



TP-376土層断面(東から)



TP-377土層断面(南東から)



TP-379土層断面(北東から)



TP-380土層断面(南から)



TP-381土層断面(南東から)



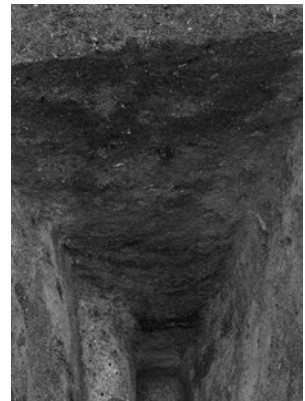
TP-382土層断面(南西から)



TP-383土層断面(南から)



TP-384土層断面(北から)



TP-385土層断面(南から)



TP-386土層断面(南東から)



TP-387土層断面(南から)



TP-388土層断面(南東から)



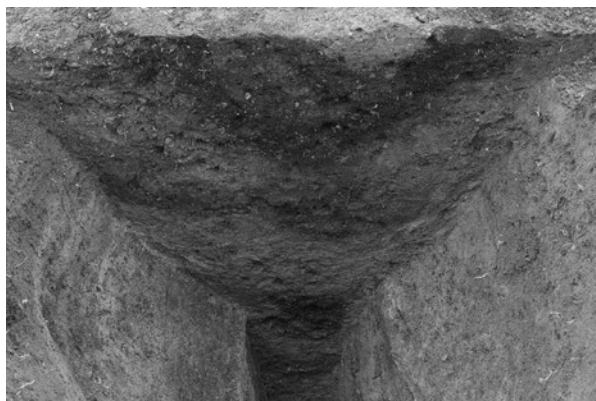
TP-389土層断面(南東から)



TP-390土層断面(南東から)



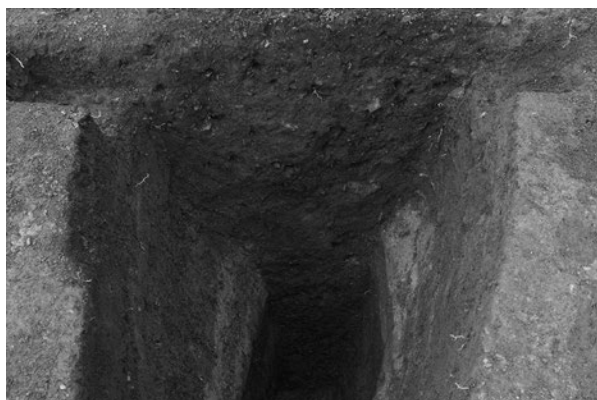
TP-391土層断面(北から)



TP-392土層断面(南東から)



TP-393土層断面(南東から)



TP-394土層断面(南西から)



TP-397土層断面(南東から)



TP-395土層断面(南東から)



TP-396土層断面(南東から)



TP-398土層断面(北から)



TP-399土層断面(南東から)



TP-400土層断面(南から)



TP-401土層断面(南から)



TP-402土層断面(北東から)



TP-403土層断面(南から)



TP-404土層断面(南から)



TP-405土層断面(北東から)



TP-407土層断面(南から)



TP-406土層断面(北東から)



TP-408土層断面(南東から)



TP-409土層断面(北から)



TP-410土層断面(北東から)



TP-411土層断面(東から)



TP-413土層断面(北から)





TP-412土層断面(南から)



TP-414土層断面(北東から)



TP-415土層断面(南西から)



TP-416土層断面(北東から) TP-423土層断面(南から)



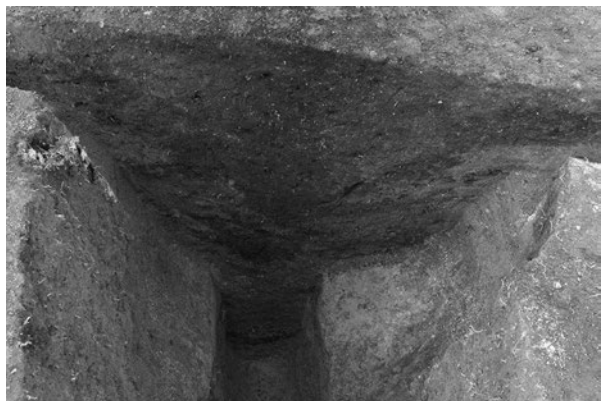
TP-417土層断面(北東から)



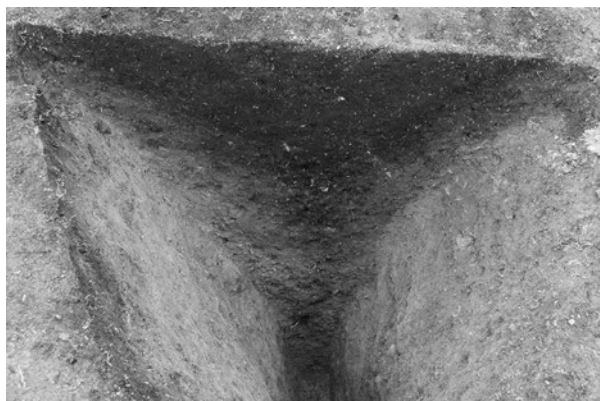
TP-418土層断面(南西から)



TP-419土層断面(東から)



TP-420土層断面(南から)



TP-421土層断面(北東から)



TP-422土層断面(南から)



TP-424土層断面(南西から)



TP-425土層断面(南から)



TP-426土層断面(北西から)



平成28(2016)年度 R-3地区北～東側部分調査風景(西から)



TP-1完掘状況(北東から)



TP-2完掘状況(北から)



TP-3完掘状況(北から)



TP-4完掘状況(北東から)



TP-5完掘状況  
(平成25(2013)年度)(南西から)



TP-7完掘状況(東から)



TP-8完掘状況(南西から)



TP-9完掘状況(南東から)



TP-10完掘状況(南西から)



TP-11完掘状況(西から)



TP-12完掘状況(西から)



TP-13完掘状況(北東から)



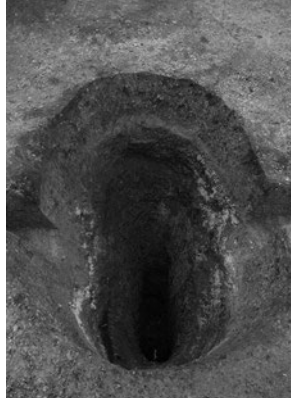
TP-14完掘状況(西から)



TP-15完掘状況(南から)



TP-16完掘状況(南東から)



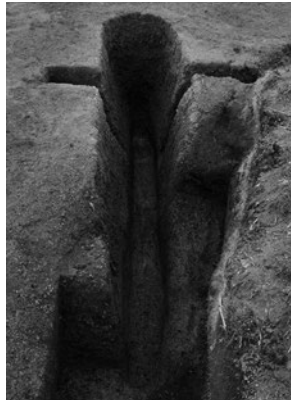
TP-17完掘状況(東から)



TP-19完掘状況(南から)



TP-18完掘状況(南東から)



TP-20完掘状況(北から)



TP-21完掘状況(南東から)



TP-22完掘状況(南東から)



TP-23完掘状況(南東から)



TP-24完掘状況(北西から)



TP-25完掘状況(南東から)



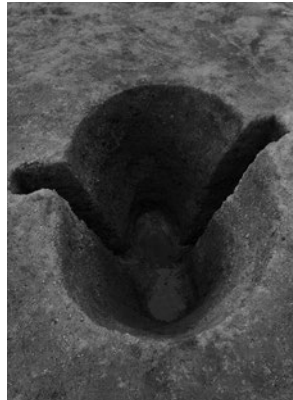
TP-26完掘状況(北西から)



TP-27完掘状況(東から)



TP-28完掘状況(西から)



TP-29完掘状況(北から)



TP-30完掘状況(北西から)



TP-31完掘状況(北から)



TP-32完掘状況(北西から)



TP-33完掘状況(北西から)



TP-34完掘状況(南東から)



TP-35完掘状況(北から)



TP-36完掘状況(北から)



TP-37完掘状況(北から)



TP-38(奥)・TP-39(手前)  
完掘状況(北西から)



TP-40完掘状況(西から)



TP-41完掘状況(北西から)



TP-42完掘状況(南東から)



TP-43完掘状況(北から)



TP-44完掘状況(北から)



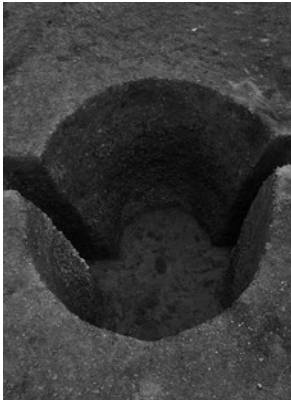
TP-47完掘状況(北から)



TP-45完掘状況(北から)



TP-46完掘状況(北西から)



TP-48完掘状況(北から)



TP-49完掘状況(南西から)



TP-50完掘状況(北から)



TP-51完掘状況(南東から)



TP-52完掘状況(南東から)



TP-53完掘状況(北西から)



TP-54完掘状況(北西から)



TP-55完掘状況(北西から)



TP-56完掘状況(南から)



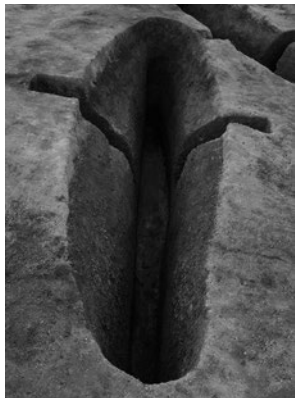
TP-57完掘状況(北から)



TP-58完掘状況(南から)



TP-59完掘状況(北西から)



TP-60完掘状況(北から)



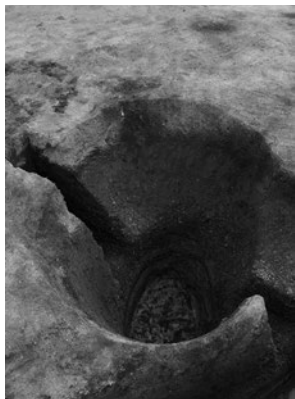
TP-61完掘状況(北西から)



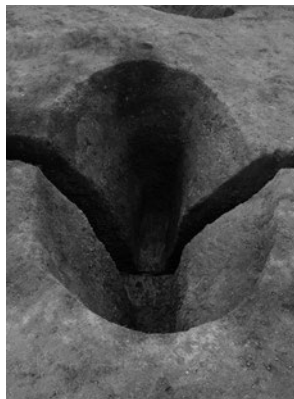
TP-62完掘状況(北から)



TP-63完掘状況(北西から)



TP-64完掘状況(西から)



TP-65完掘状況(北東から)



TP-66完掘状況(南東から)



TP-67完掘状況(北から)



TP-68完掘状況(北東から)



TP-69完掘状況(北西から)



TP-70完掘状況(南から)



T P - 71完掘状況(北から)



T P - 72完掘状況(北西から)



T P - 73完掘状況(北から)



T P - 74完掘状況(北西から)



(T) P - 75完掘状況(北から)



T P - 76(左奥)・T P - 101(右手前)完掘状況(北から)



T P - 77完掘状況(東から)



T P - 78完掘状況(東から)



T P - 79完掘状況(北東から)



T P - 80完掘状況(西から)



T P - 81完掘状況(南東から)



T P - 82完掘状況(北から)





TP-83完掘状況(東から)



TP-84完掘状況(北から)



TP-85完掘状況(北から)



TP-86完掘状況(東から)



TP-87完掘状況(南東から)



TP-88完掘状況(東から)



TP-89完掘状況(東から)



TP-90完掘状況  
(平成28(2016)年度)(南西から)



TP-91完掘状況(南東から)



TP-92完掘状況(東から)



TP-93完掘状況(東から)



TP-94完掘状況(北西から)



TP-95完掘状況(北東から)



TP-96完掘状況(南から)



(TP-97(左)・TP-103(右)完掘状況(西から)



TP-98完掘状況(北西から)



(T)P-99完掘状況(西から)



TP-100完掘状況(北から)



TP-102完掘状況(北から)



TP-104完掘状況(南から)



TP-105完掘状況(北東から)



TP-107完掘状況(北東から)



TP-106完掘状況(北西から)



TP-108完掘状況(北西から)



TP-109完掘状況(北東から)



TP-110完掘状況(北から)



TP-111完掘状況(北東から)



TP-112完掘状況(北東から)



TP-113完掘状況(北から)



TP-114完掘状況(北から)



TP-115完掘状況(東から)



TP-116完掘状況(南から)



TP-117完掘状況(北西から)



TP-118完掘状況(北から)



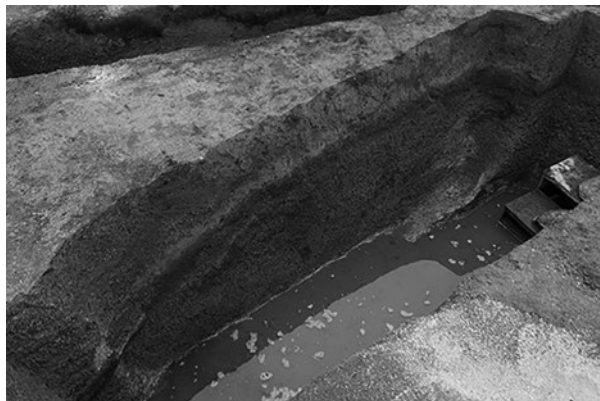
TP-119完掘状況(北から)



TP-120完掘状況(東から)



TP-121完掘状況(北から)



TP-[122・123]完掘状況(南西から)



TP-124完掘状況(南西から)



TP-125完掘状況(北東から)



TP-126完掘状況(東から)



TP-127完掘状況(北西から)



TP-128完掘状況(東から)



TP-129完掘状況(北から)



TP-130完掘状況(西から)



TP-131完掘状況(北西から)



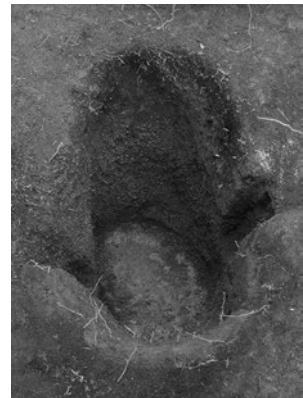
TP-132完掘状況(北西から)



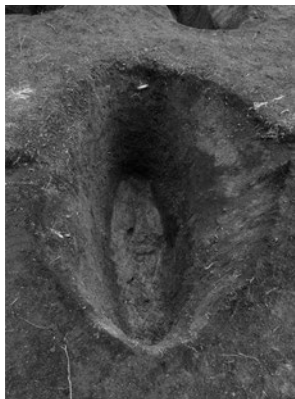
TP-133完掘状況(北西から)



TP-134完掘状況(北西から)



TP-135完掘状況(西から)



TP-136完掘状況(北西から)



TP-137完掘状況(北西から)



TP-138完掘状況(西から)



TP-139完掘状況(南から)



TP-140完掘状況(北西から)



(T)P-141完掘状況(東から)



TP-142完掘状況(北東から)



TP-143完掘状況(南東から)



TP-144完掘状況(東から)



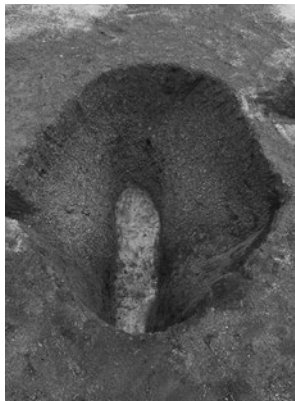
TP-145完掘状況(北から)



TP-146完掘状況(南から)



TP-147完掘状況(北西から)



TP-148完掘状況(北西から)



TP-149完掘状況(南東から)



TP-150完掘状況(南西から)



TP-151完掘状況(北西から)



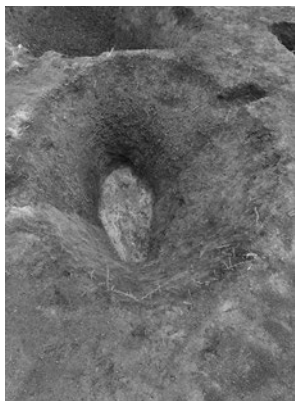
TP-152完掘状況(北西から)



TP-153完掘状況(北から)



TP-154完掘状況(南東から)



TP-155完掘状況(北から)



TP-156完掘状況(北西から)



TP-157完掘状況(北から)



TP-158完掘状況(北から)



TP-159完掘状況(北西から)



TP-160完掘状況(北東から)



TP-161完掘状況(北西から)



TP-162完掘状況(南東から)



TP-163完掘状況(北西から)



TP-164完掘状況(北から)



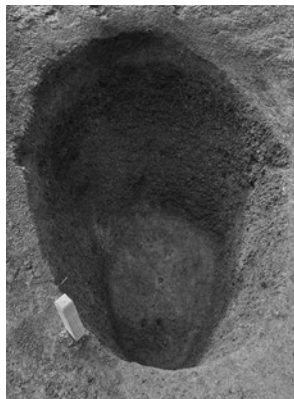
TP-165完掘状況(北から)



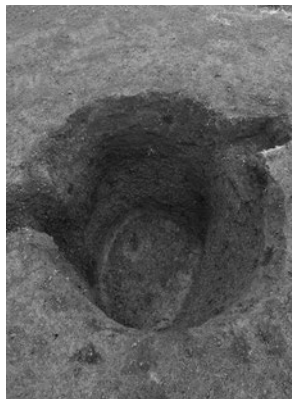
TP-166完掘状況(北から)



TP-167完掘状況(北から)



TP-168完掘状況(北から)



TP-169完掘状況(北西から)



TP-170完掘状況(北から)



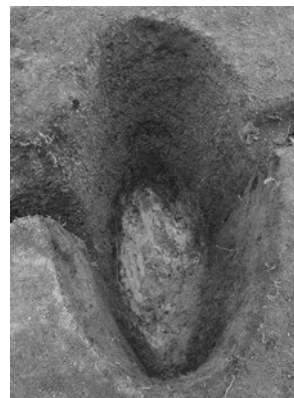
TP-171完掘状況(北西から)



TP-172完掘状況(北東から)



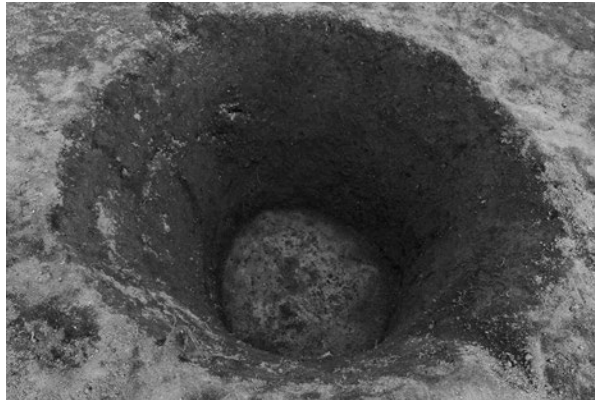
TP-173完掘状況(北から)



TP-174完掘状況(北西から)



TP-175完掘状況(北西から)



TP-176完掘状況(北西から)



TP-177完掘状況(北から)



TP-178完掘状況(北東から)



TP-179完掘状況(北東から)



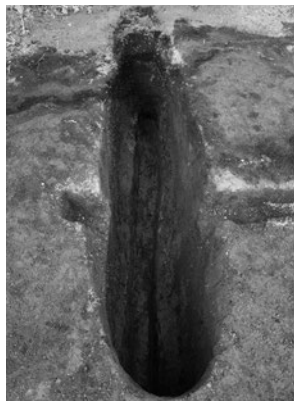
TP-180完掘状況(北西から)



TP-181完掘状況(北西から)



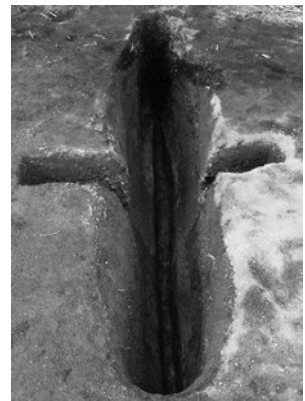
TP-182完掘状況(北西から)



TP-183完掘状況(南西から)



TP-184完掘状況(北西から)



TP-185完掘状況(南から)



TP-186完掘状況(北東から)



TP-187完掘状況(南から)



TP-188完掘状況(南東から)



TP-189完掘状況(北西から)



TP-190完掘状況(東から)



TP-191完掘状況(東から)



TP-192完掘状況(北から)



TP-193完掘状況(北東から)



TP-194完掘状況(南東から)



TP-195完掘状況(北から)



TP-196完掘状況(東から)



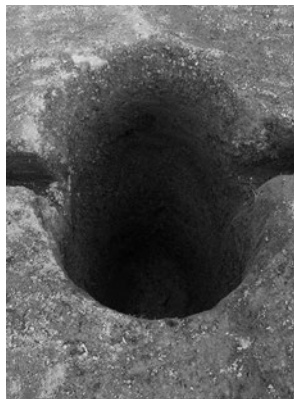
TP-197完掘状況(北西から)



TP-198完掘状況(北から)



TP-199完掘状況(北から)



TP-200完掘状況(西から)



TP-201完掘状況(西から)



TP-202完掘状況(北西から)



TP-203完掘状況(南西から)

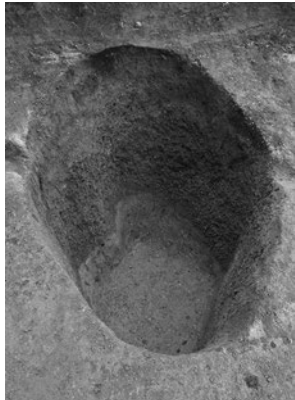


TP-204完掘状況(北東から)



TP-205完掘状況(南東から)





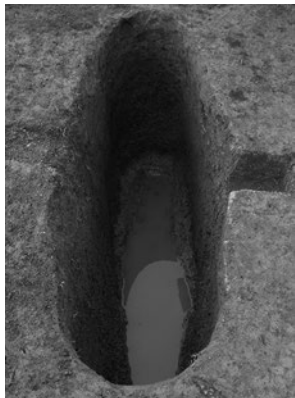
TP-206完掘状況(北から)



TP-208完掘状況(北西から)



TP-209完掘状況(北から)



TP-210完掘状況(北から)



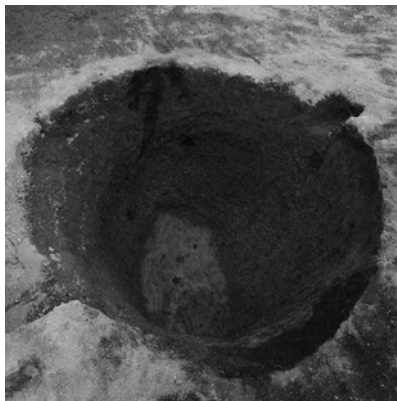
TP-211完掘状況(北から)



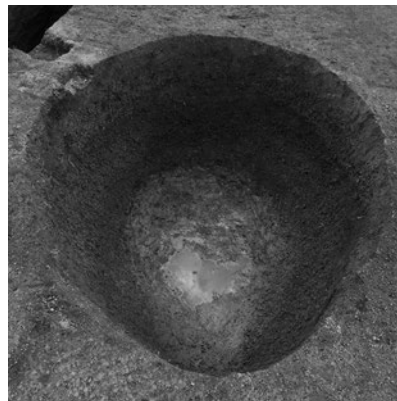
TP-212完掘状況(北から)



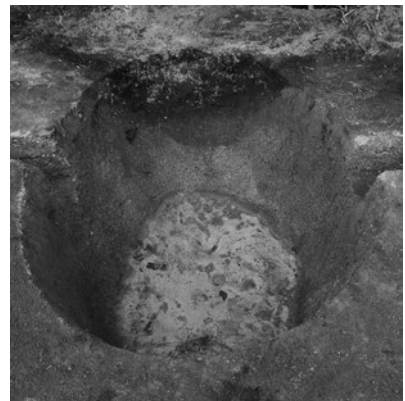
TP-214完掘状況(北東から)



TP-207完掘状況(北から)



TP-213完掘状況(北西から)



TP-215完掘状況(南から)



TP-216完掘状況(北東から)



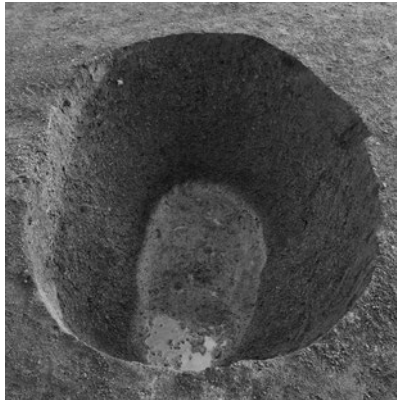
TP-217完掘状況(北から)



TP-218完掘状況(北から)



TP-219完掘状況(北東から)



TP-220完掘状況(北から)



TP-221完掘状況(北から)



TP-225完掘状況(北から)



TP-222完掘状況(北西から)



TP-223完掘状況(北から)



TP-224完掘状況(東から)



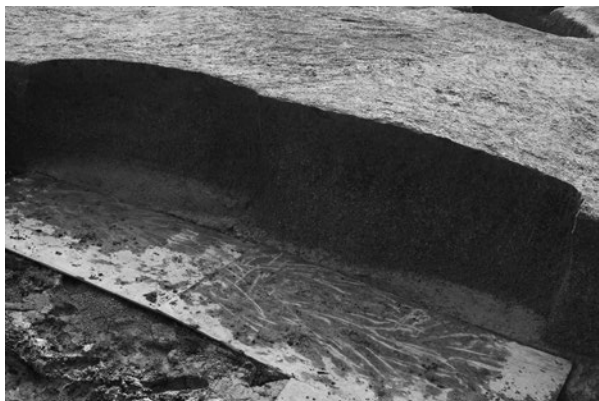
TP-228完掘状況(北から)



TP-226完掘状況(南東から)



TP-227完掘状況(北西から)



TP-229(左)・TP-230(右)完掘状況(東から)



TP-231(左)・TP-232(右)完掘状況(西から)



TP-233完掘状況(南東から)



TP-234完掘状況(北東から)



TP-235完掘状況(北東から)



TP-237完掘状況(南西から)



TP-236完掘状況(東から)



TP-238完掘状況(北東から)



TP-239完掘状況(北西から)



TP-240完掘状況(北から)



TP-241完掘状況(北東から)



TP-242完掘状況(東から)



TP-243完掘状況(北東から)



TP-244完掘状況(北西から)



TP-245完掘状況(北から)



TP-246完掘状況(北から)



TP-247(横方向)・TP-268  
(右縦方向)完掘状況(東から)



TP-248完掘状況(北から)



TP-249完掘状況(南から)



TP-250完掘状況(北から)



TP-251完掘状況(北西から)



TP-252完掘状況(北東から)



TP-253完掘状況(北から)



TP-254完掘状況(北から)



TP-255完掘状況(北東から)



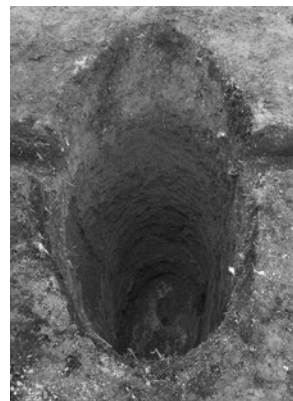
TP-256完掘状況(東から)



TP-257完掘状況(北東から)



TP-258完掘状況(北から)



TP-259完掘状況(南東から)



TP-261完掘状況(北東から)



TP-260完掘状況(東から)



TP-262完掘状況(北東から)



TP-263完掘状況(北東から)



TP-264完掘状況(北から)



TP-265完掘状況(北から)



TP-267完掘状況(北東から)



TP-266完掘状況(南東から)



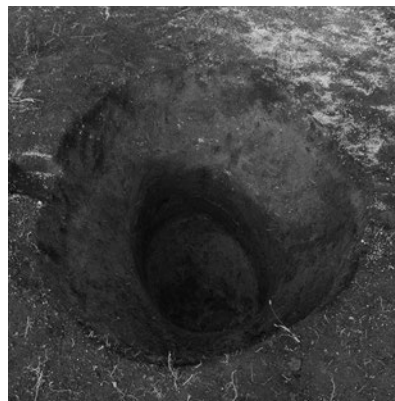
TP-270完掘状況(北東から)



TP-273完掘状況(北から)



TP-269完掘状況(北から)



TP-271完掘状況(北東から)



TP-272完掘状況(北東から)



TP-274完掘状況(北西から)



(TP-)275完掘状況(北から)



TP-276完掘状況(南西から)



TP-277完掘状況(東から)



TP-278完掘状況(北東から)



TP-279完掘状況(東から)



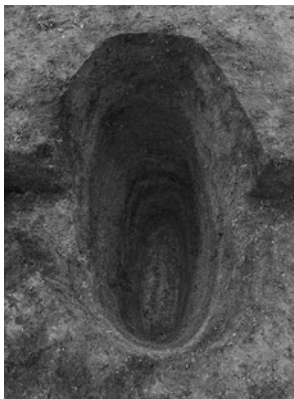
TP-280完掘状況(東から)



TP-281完掘状況(南から)



TP-282完掘状況(東から)



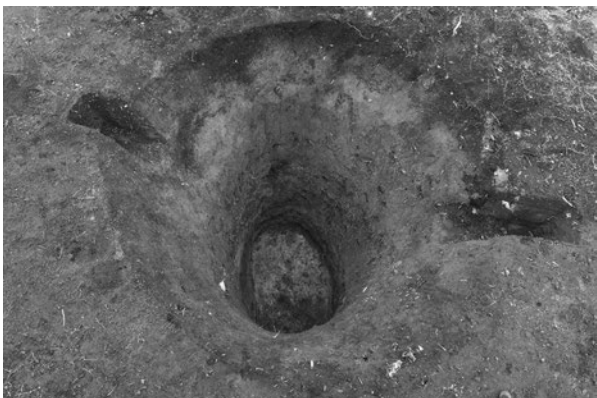
TP-283完掘状況(東から)



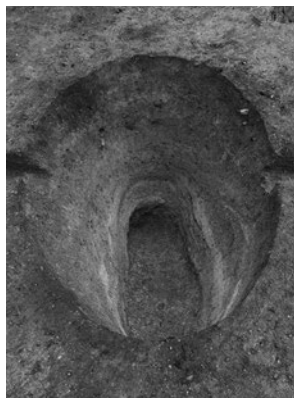
TP-284完掘状況(南西から)



TP-286完掘状況(北東から)



TP-285完掘状況(東から)



TP-287完掘状況(西から)



TP-288完掘状況(東から)



TP-289完掘状況(西から)



TP-290完掘状況(北から)



TP-291完掘状況(東から)



TP-292完掘状況(南東から)



TP-293完掘状況(南西から)



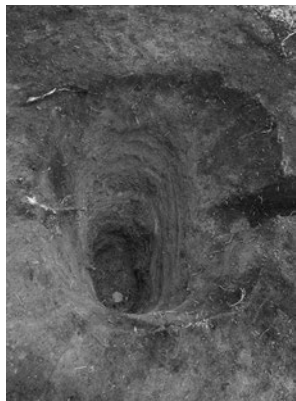
TP-294完掘状況(北東から)



TP-295完掘状況(南西から)



TP-296完掘状況(南東から)



TP-297完掘状況(南東から)



TP-298完掘状況(西から)



TP-299完掘状況(北東から)



TP-300完掘状況(南西から)



TP-301完掘状況(南西から)



TP-302完掘状況(北東から)



TP-303完掘状況(東から)



TP-304完掘状況(西から)



TP-305完掘状況(西から)



TP-306完掘状況(東から)



TP-307完掘状況(南東から)



TP-308完掘状況(南東から)



TP-309(縦方向)・(T)P-310(手前横方向)完掘状況(北東から)



TP-311完掘状況(北西から)



TP-312完掘状況(北から)



TP-313完掘状況(東から)



TP-314完掘状況(北から)



TP-315完掘状況(南東から)



TP-316完掘状況(北西から)



TP-317完掘状況(東から)



TP-318完掘状況(東から)



TP-319完掘状況(西から)





TP-320完掘状況(南東から)



TP-321(左)・TP-322(右)完掘状況(南から)



TP-323完掘状況(西から)



TP-324完掘状況(北東から)



TP-325完掘状況(北東から)



TP-326完掘状況(北東から)



TP-327完掘状況(西から)



TP-328完掘状況(南西から)



TP-329完掘状況(西から)



TP-330完掘状況(東から)



TP-331完掘状況(西から)



TP-332完掘状況(北東から)



TP-333完掘状況(東から)



TP-335完掘状況(南東から)



TP-334完掘状況(南から)



TP-336完掘状況(西から)



TP-337完掘状況(南西から)



(TP-)338完掘状況(東から)



TP-339完掘状況(北東から)



TP-340完掘状況(南から)



TP-341完掘状況(西から)



TP-342完掘状況(北東から)



TP-343完掘状況(東から)



TP-344完掘状況(南西から)



TP-345完掘状況(西から)



TP-346完掘状況(南から)



TP-347完掘状況(南西から)



TP-348(手前)・TP-349(奥)  
完掘状況(西から)



TP-350完掘状況(南から)



TP-351完掘状況(南西から)



TP-352完掘状況(東から)



TP-353完掘状況(北から)



TP-354完掘状況(北東から)



TP-355完掘状況(北東から)



TP-356完掘状況(北西から)



TP-357完掘状況(北から)



TP-358完掘状況(南西から)



TP-359完掘状況(北東から)



TP-360完掘状況(北から)



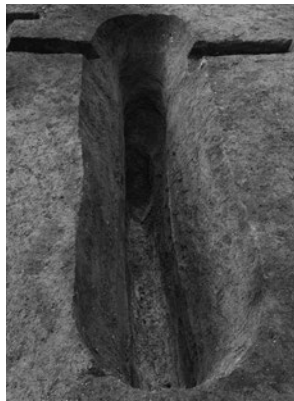
TP-361完掘状況(西から)



TP-362完掘状況(北東から)



TP-363完掘状況(東から)



TP-364完掘状況(東から)



TP-365完掘状況(東から)



TP-366完掘状況(南東から)



TP-367完掘状況(北東から)



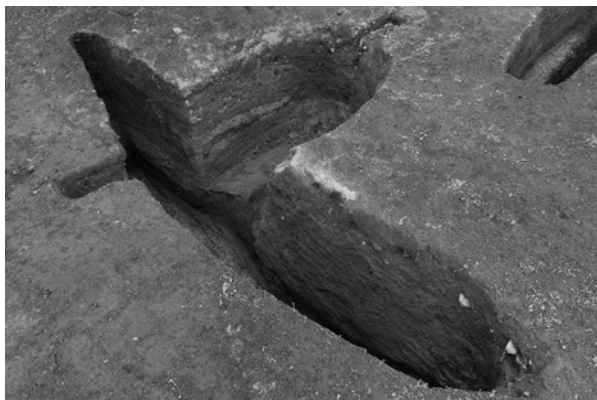
TP-368完掘状況(北東から)



TP-369完掘状況(南東から)



TP-372完掘状況(北から)



TP-370(左奥~右手前)・TP-371(右)完掘状況(南から)



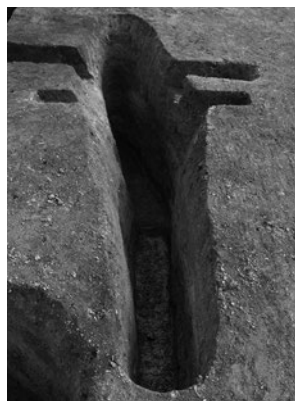
TP-373完掘状況(北から)



TP-374完掘状況(北東から)



TP-375完掘状況(南西から)



TP-376完掘状況(西から)



TP-377完掘状況(北西から)



TP-378完掘状況(南から)



TP-379完掘状況(南西から)



TP-380完掘状況(北から)



TP-383完掘状況(北から)



TP-381A・B・C完掘状況(南から)



TP-382完掘状況(南西から)



TP-388完掘状況(北西から)



TP-384完掘状況(南から)



TP-385完掘状況(北から)



TP-386完掘状況(北西から)



TP-387完掘状況(北から)



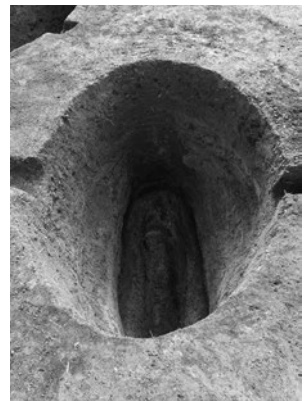
TP-389完掘状況(北西から)



TP-390完掘状況(北西から)



TP-391完掘状況(北東から)



TP-392完掘状況(北西から)



TP-393完掘状況(南東から)



TP-394完掘状況(南西から)



TP-395完掘状況(南東から)



TP-396完掘状況(北西から)



TP-397完掘状況(南東から)



TP-398完掘状況(南から)



TP-399完掘状況(南から)



TP-400完掘状況(北から)



TP-401完掘状況(北から)



TP-402完掘状況(北東から)



TP-403完掘状況(南から)



TP-404完掘状況(南から)



TP-405完掘状況(北東から)



TP-406完掘状況(南西から)



TP-407完掘状況(南から)



TP-408完掘状況(北西から)



TP-409完掘状況(北から)



TP-410完掘状況(南西から)



TP-411完掘状況(東から)



TP-412完掘状況(南から)



TP-413完掘状況(北から)



TP-414完掘状況(南西から)



TP-415完掘状況(北東から)



TP-416完掘状況(南西から)



TP-417完掘状況(南西から)



TP-418完掘状況(北東から)



TP-419完掘状況(北西から)



TP-420完掘状況(南から)



TP-421完掘状況(北東から)



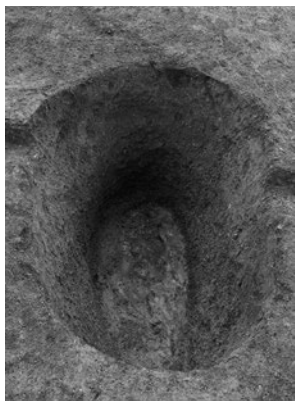
TP-422完掘状況(北から)



TP-423完掘状況(北から)



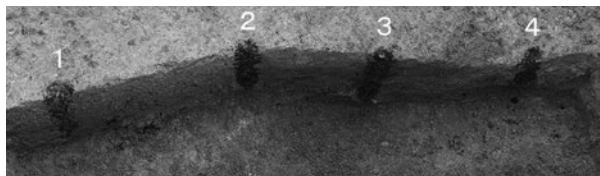
TP-424完掘状況(北東から)



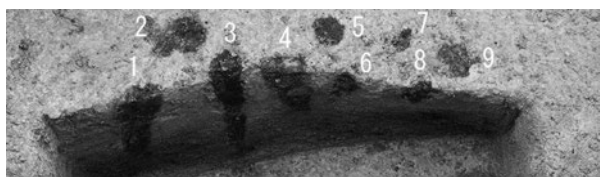
TP-425完掘状況(北から)



TP-426完掘状況(北西から)



TP-316・sp-1~4(北東から)



TP-388・sp-1~9(東から)

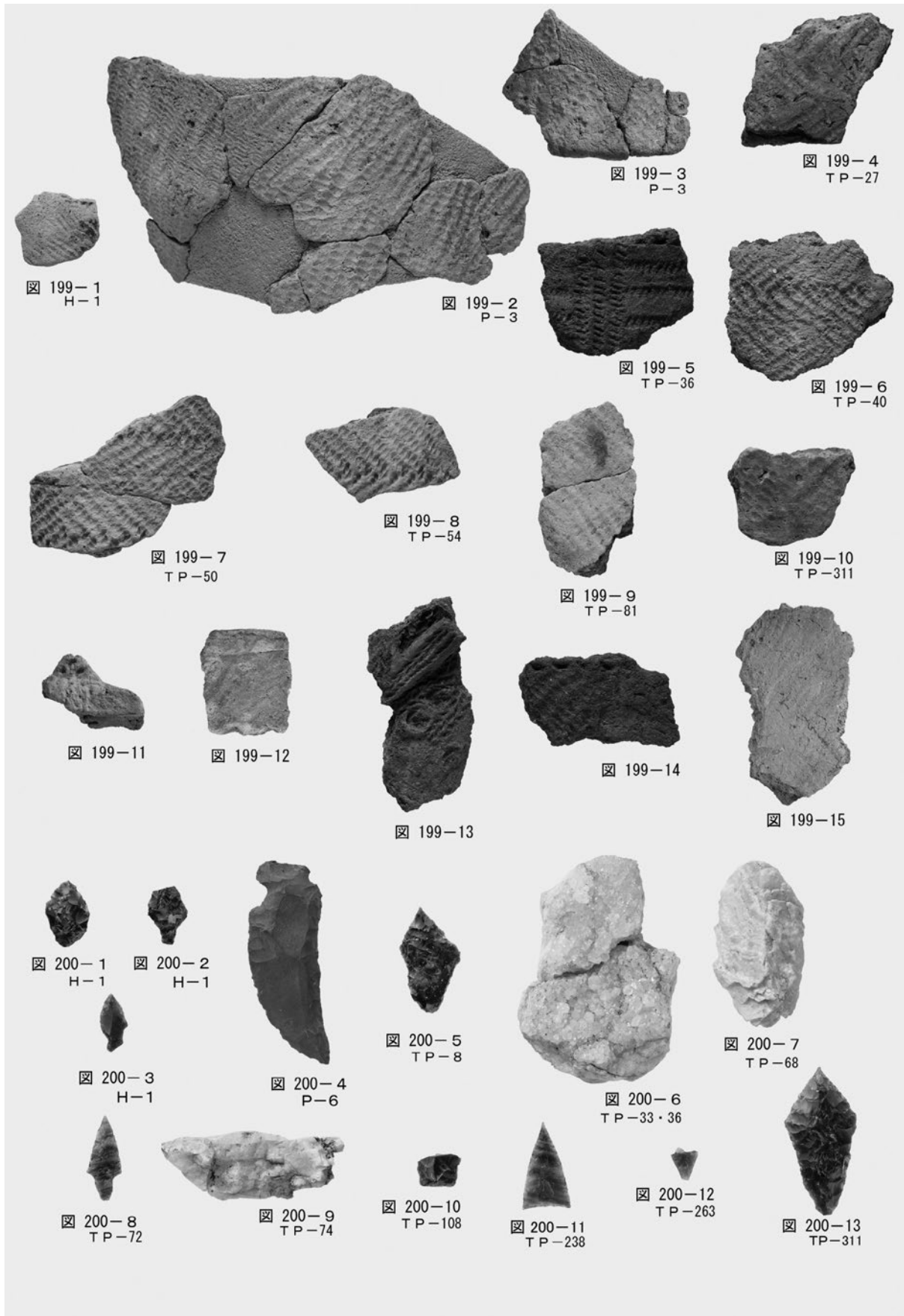


平成27(2015)年度 Tピット完掘状況 L-4地区(南東から)

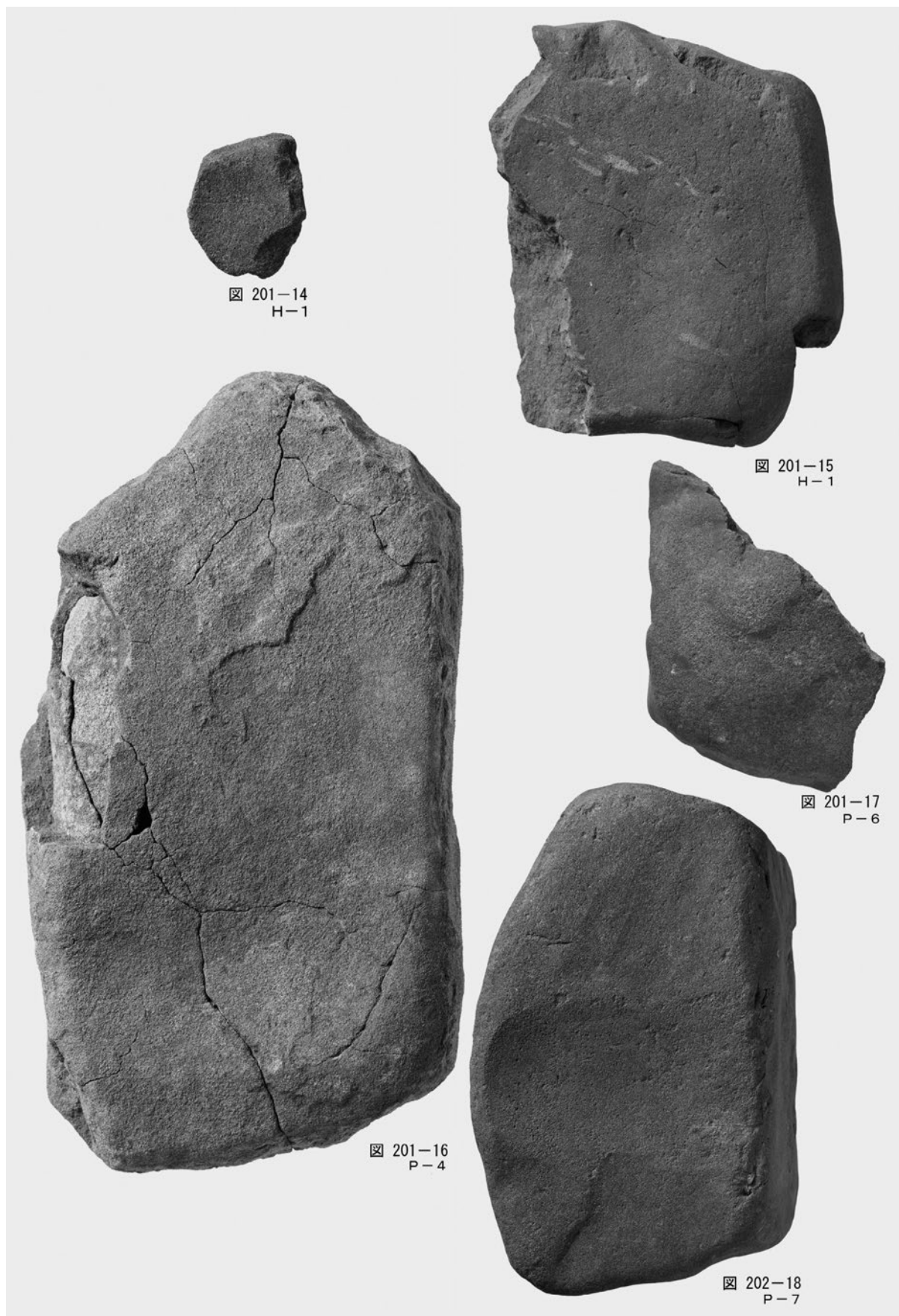


平成28(2016)年度 Tピット完掘状況 R-3地区東側部分(南東から)

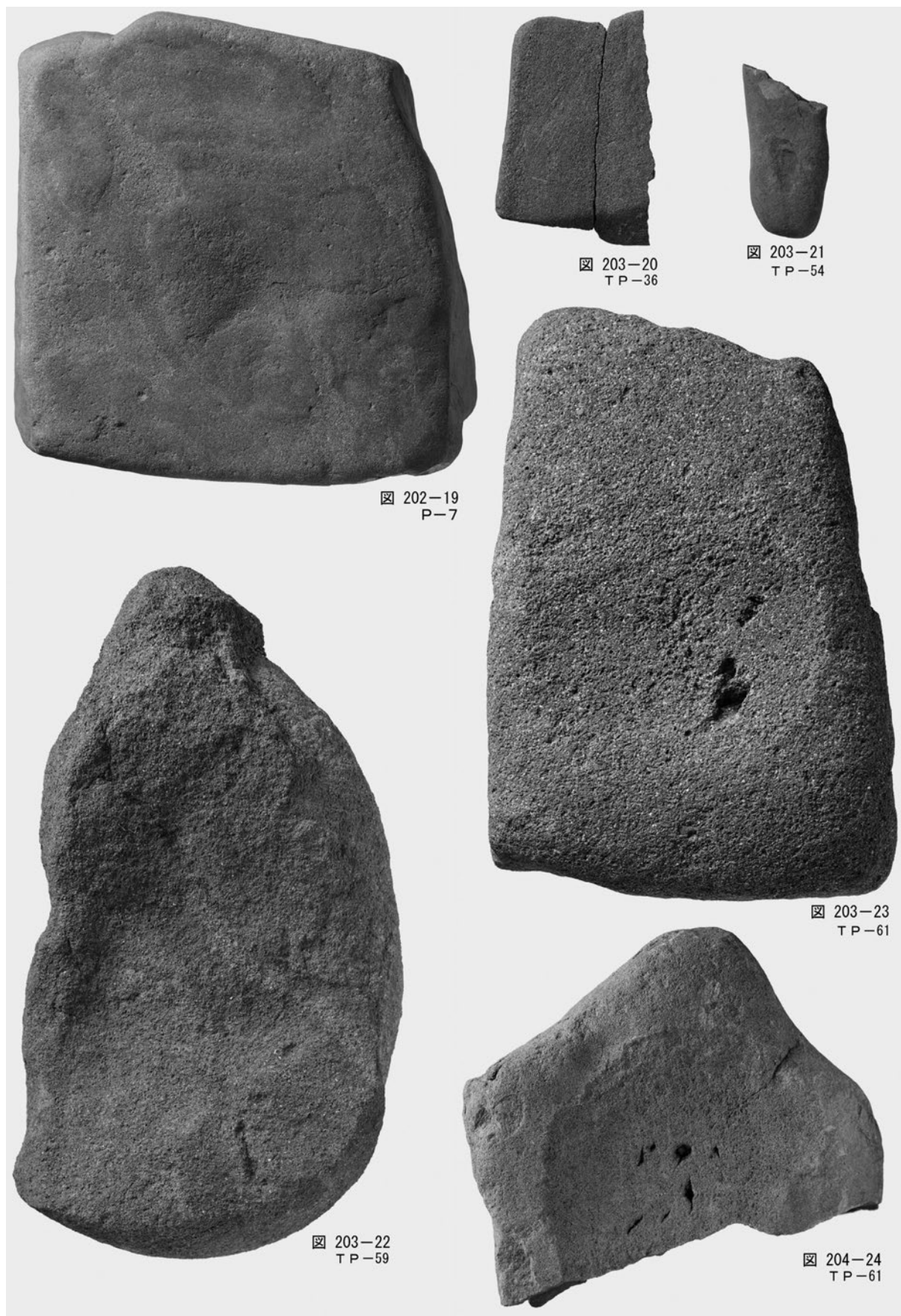




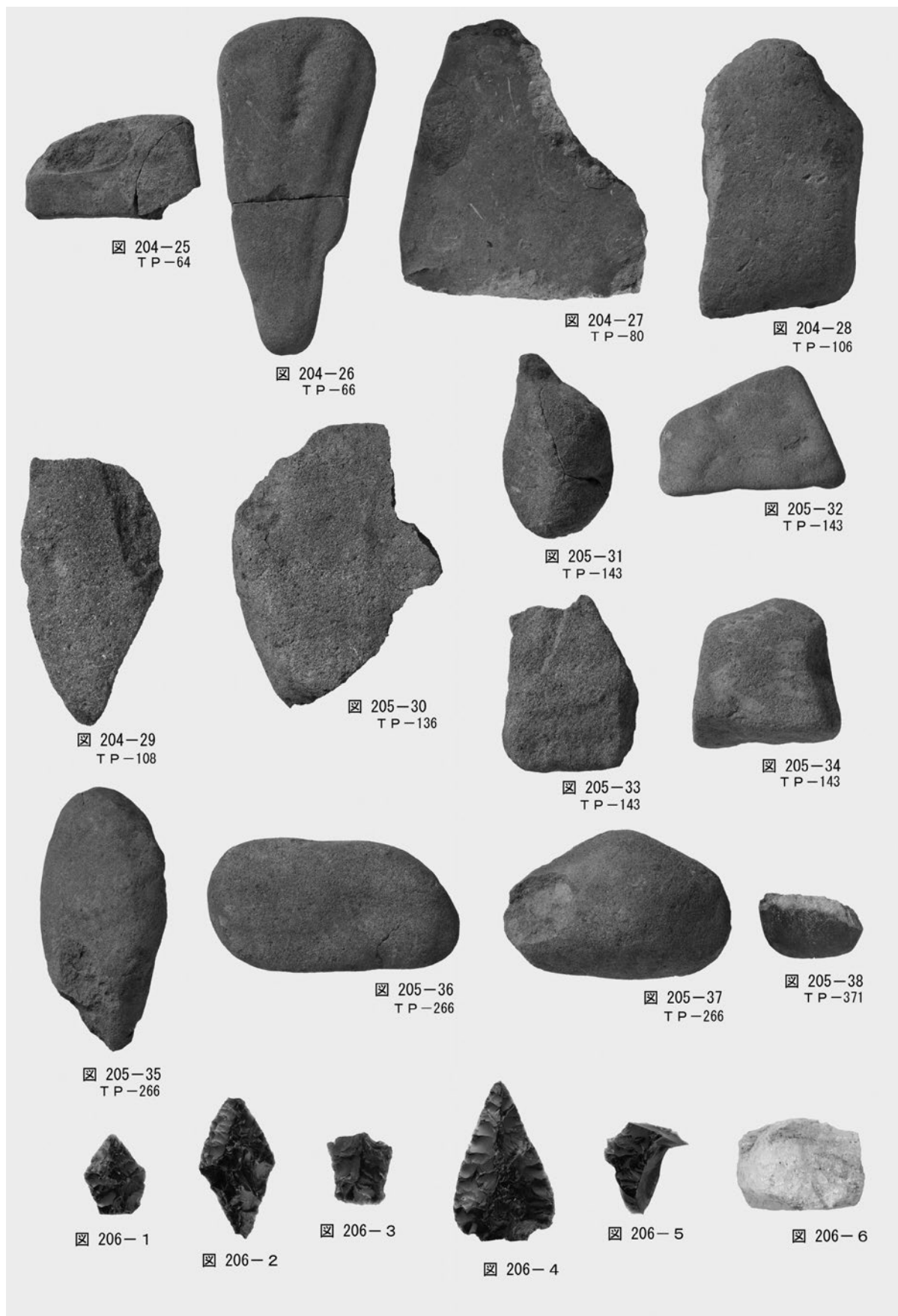
上幌内5遺跡 破片土器・遺構出土の剥片石器



上幌内5遺跡 礫石器(1)



上幌内5遺跡 礫石器(2)



上幌内5遺跡 礫石器(3)・包含層出土の剥片石器

# 引用参考文献

## 論文・書籍等

- 池田実・亀井喜久太郎 1976 『厚真の旧地名を尋ねて』  
池田実・亀井喜久太郎 1978 『続 厚真の旧地名を尋ねて』  
小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社  
松浦武四郎 秋葉実 解説 高倉新一郎校訂  
1985 「戊午 東部 安都麻志 全」『戊午 東西蝦夷山川地理取調日誌 中』北海道出版企画センター

## 団体組織刊行物

- 厚真町 1986 『厚真町史』  
厚真町 1998 『増補 厚真町史』  
厚真シンポジウム実行委員会・厚真町教育委員会 2015  
『厚真シンポジウム 遺跡が語るアイヌ文化の成立 -11～14世紀の北海道と本州島』  
厚真町幌内自治会 1997 『開基百年 幌内のあゆみ』  
厚真村 1956 『厚真村史』  
厚真村教育委員会・厚真村郷土研究会 1956 『厚真村古代史 -村内に所在する先住民族の遺跡-』  
ベドロジスト懇談会 1984 『土壌調査ハンドブック』博友社  
北海道考古学会 2013 『2013年度 北海道考古学会 遺跡調査報告会資料集』  
北海道考古学会 2014 『2014年度 北海道考古学会 遺跡調査報告会資料集』  
北海道考古学会 2015 『2015年度 北海道考古学会 遺跡調査報告会資料集』  
北海道考古学会 2016 『2016年度 北海道考古学会 遺跡調査報告会資料集』

## 埋蔵文化財発掘調査報告書

### 厚真町教育委員会

#### 厚幌ダム建設事業

- 厚真町教育委員会 2004 『厚幌1遺跡』-厚幌ダム建設に係わる一般道道切替工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書  
厚真町教育委員会 2006 『厚真町 上幌内モイ遺跡(1)』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1  
厚真町教育委員会 2007 『厚真町 上幌内モイ遺跡(2)』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2  
厚真町教育委員会 2009 『厚真町 上幌内モイ遺跡(3)』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3  
厚真町教育委員会 2011 『オニキシベ2遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4  
厚真町教育委員会 2013 『フチャラセナイチャシ跡・フチャラセナイ遺跡』  
厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5  
厚真町教育委員会 2013 『オニキシベ5遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6  
厚真町教育委員会 2014 『厚幌1遺跡(3)』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書7  
厚真町教育委員会 2014 『オニキシベ4遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書8  
厚真町教育委員会 2014 『フチャラセナイ遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書9  
厚真町教育委員会 2014 『オニキシベ6遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書10  
厚真町教育委員会 2014 『ショロマ3遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書11  
厚真町教育委員会 2015 『ショロマ1遺跡(1)』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書12  
厚真町教育委員会 2015 『ショロマ2遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書13  
厚真町教育委員会 2016 『上幌内1遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書14  
厚真町教育委員会 2017 『上幌内2遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書15  
厚真町教育委員会 2017 『一里沢遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書16

## 国営土地改良事業勇払東部(二期)地区 厚幌導水管事業

- 厚真町教育委員会 2009 『ニタツナイ遺跡(1)』  
国営土地改良事業勇払東部(二期)地区 厚幌導水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1

- 厚真町教育委員会 2010 『厚幌1遺跡(2) 幌内7遺跡』  
 国営土地改良事業勇払東部(二期)地区 厚幌導水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2
- 厚真町教育委員会 2010 『幌内5遺跡(1) 富里2遺跡 ニタツプナイ遺跡(2)』  
 国営土地改良事業勇払東部(二期)地区 厚幌導水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3

### その他の事業

- 厚真町教育委員会 2002 『鯉沼2遺跡』 鯉沼農地造成工事・土砂採取工事用地内 埋蔵文化財工事立会報告書
- 厚真町教育委員会 2002 『豊川1遺跡』 ノーザンファームトレーニングコース(坂路馬場) 造成工事立会報告書
- 厚真町教育委員会 2013 『ワイカルマイ遺跡』  
 道道上幌内早来停車場線特改1種工事(道州)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

### その他の市町村

- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター  
 1998 『美沢東遺跡群』 道道静川美沢線道路改良工事に伴う美沢東4・5・6遺跡発掘調査報告書

### (財)・(公財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報)

- (財) 北海道埋蔵文化財センター 2003 『厚真町 浜厚真3遺跡』 北埋調報186
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 2005 『千歳市 オルイカ2遺跡(2)』 北埋調報221
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 2007 『千歳市 祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡』 北埋調報238
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 2007 『占冠村 占冠原野1遺跡』 北埋調報239
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 2010 『千歳市 アンカリトー7遺跡・アンカリトー9遺跡』 北埋調報268
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2013 『千歳市 祝梅川上田遺跡(2)』 北埋調報300
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2014 『千歳市 梅川4遺跡(3)』 北埋調報306
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2015 『厚真町 朝日遺跡』  
 道道早来停車場線埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報313
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2017 『厚真町 オコッコ1遺跡(1)』  
 厚真川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報338

### 厚幌ダム建設事業

- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2015 『厚真町 オニキシベ1遺跡』 北埋調報318
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2015 『厚真町 イクバンドユクチセ2遺跡』 北埋調報319
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2016 『厚真町 ショロマ4遺跡』 北埋調報322
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2016 『厚真町 イクバンドユクチセ3遺跡』 北埋調報325
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2017 『厚真町 上幌内3遺跡』 北埋調報335

### 国営土地改良事業勇払東部(二期)地区 厚幌導水管事業

- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2016 『厚真町 富里3遺跡』 北埋調報326
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2017 『厚真町 厚幌1遺跡・幌内6遺跡・幌内7遺跡』 北埋調報336

### (財)・(公財) 北海道埋蔵文化財センター刊行物

- (財) 北海道埋蔵文化財センター 1994 『遺跡が語る北海道の歴史』 15周年記念誌
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 2004 『遺跡が語る北海道の歴史』 25周年記念誌
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2013 『調査年報25 平成24年度』
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2014 『調査年報26 平成25年度』
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2015 『調査年報27 平成26年度』
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2016 『調査年報28 平成27年度』
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2017 『調査年報29 平成28年度』
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2018 『調査年報30 平成29年度』

# 報告書抄録

ふりがな	あつまちょう かみほろない4いせき かみほろない5いせき							
書名	厚真町 上幌内4遺跡 上幌内5遺跡							
副書名	厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 (北埋調報)							
シリーズ番号	第345集							
編著者名	愛場和人・末光正卓・奥山さとみ							
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL011-386-3231							
発行年月日	西暦2018年3月26日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみほろない4 上幌内4 いせき 遺跡	ほっかいどう 北海道 ゆうふつくん 勇払郡 あつまちょう 厚真町 あざほろない 字幌内 368-1ほか	1581	J-13 -124	N-22杭		20141001 ～ 20141030 20150512 ～ 20151030 20160512 ～ 20161028	平成26年度：900㎡ 平成27年度：907㎡ 平成28年度：300㎡ 全調査面積：1,207㎡	厚幌ダム建設 事業に伴う 事前調査
かみほろない5 上幌内5 いせき 遺跡	ほっかいどう 北海道 ゆうふつくん 勇払郡 あつまちょう 厚真町 あざほろない 字幌内 357-1・350ほか	1581	J-13 -125	L地区 V-50杭		20130513 ～ 21030809 20150512 ～ 20151030 20160512 ～ 20161028	平成25年度：300㎡ 平成27年度：5,012㎡ 平成28年度：9,550㎡ 全調査面積：14,862㎡	厚幌ダム建設 事業に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
かみほろない4 上幌内4 遺跡	集落跡	アイヌ文化期 縄文時代中期・後期		焼土・礫集中 竪穴住居跡 土坑 Tピット		小刀・刀子・鈎状品・礫 土器・石器		縄文時代中期 円筒土器上層a式 深鉢 縄文時代後期 手稲式 注口土器
要約	<p>上幌内4遺跡は、石狩低地帯の南東側、厚真川の上流部に位置する。山間部を流れる厚真川の左岸、標高71～73mの段丘上と北西側の斜面に立地する。平成26(2014)・平成27(2015)年度は台地平坦部を、平成28年(2016)度は斜面部を調査した。本書は三年度分の報告である。</p> <p>遺跡の時期は、縄文時代中期後半～後期前半が主体で、斜面部ではアイヌ文化期も確認した。</p> <p>アイヌ文化期は、柱穴・杭穴と焼土・礫集中等がみつき、小刀、刀子等の鉄製品が出土した。</p> <p>縄文時代は、竪穴住居跡・土坑・Tピット・土器集中・フレイク集中等を調査した。竪穴住居跡は楕円形で遺物は少ない。Tピットは概して溝状と楕円形があり、重複や近接する。土器集中は縄文時代早期、前期、中期、後期で、これ以外の遺構の多くは縄文時代中期後半～後期初頭である。</p> <p>縄文時代の遺物は、土器は後期が最も多く、ついで早期、中期である。後原個体では中期の円筒土器上層式と後期の手稲式と注口土器は厚真町内では初の出土である。</p> <p>剥片石器は、石鏃、石槍・ナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパーがあり、礫石器は、磨製石斧、たたき石、すり石、北海道式石冠、砥石、台石・石皿等がある。</p>							
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
かみほろない5 上幌内5 遺跡	集落跡 狩猟の場	縄文時代中期・後期		竪穴住居跡 土坑 小土坑 Tピット		土器・石器		多数のTピット
要約	<p>上幌内5遺跡は、石狩低地帯の南東側、厚真川の上流部に位置する。山間部を流れる厚真川の左岸、標高83～85mの高位の段丘に立地する。遺跡の中央に無名の沢(「イタルイカ」)が流れ、これの左岸をL地区、右岸をR地区とした。平成25(2013)・26(2014)の両年度で概ねL地区を、平成28(2016)年度には、R地区の広い範囲と、道道上幌内停車場線の下部分を調査した。本書は三年度分の報告である。</p> <p>遺構は竪穴住居跡1軒、土坑8基、小土坑1基を調査し、調査区全域から400基をこえるTピットみつかった。これらの時期は縄文時代と考えられ、溝状と楕円形または円形がある。これらは局所的に密集しているところも認められ、重複や近接もあり、切り合いがみられる。</p> <p>遺物は少なく、土器は中期・後期が多い。剥片石器は、石鏃、石槍・ナイフ、つまみ付きナイフ、スクレイパーがあり、礫石器は、磨製石斧、たたき石、すり石、砥石、台石・石皿等がある。厚真川上流に立地する遺跡は、山体を構成する堆積岩を石材とする礫石器やレキが多く出土する遺跡が多いが、本遺跡は比して点数が少ない。</p>							





(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第345集

**厚真町**  
**上幌内4遺跡 上幌内5遺跡**

－ 厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 －

平成30(2018)年3月26日

**編集・発行**

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター  
〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1  
TEL 011(386)3231 FAX 011(386)3238  
[URL] <http://www.domaibun.or.jp/>  
[E-mail] [mail@domaibun.or.jp](mailto:mail@domaibun.or.jp)

**印刷**

株式会社 総北海  
〒078-8272 北海道旭川市工業団地2条1丁目1-23  
TEL 0166(36)5556 FAX 0166(36)5657  
[URL] <http://www.sohokkai.co.jp>  
[E-mail] [info@sohokkai.co.jp](mailto:info@sohokkai.co.jp)